

第150図 第218号住居跡出土遺物実測・拓影図(3)

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム中ブロック少量

遺物 炉の南東部から南西部にかけて遺物が集中的に出土している。床面出土の遺物はなく、すべて覆土中からの出土である。4, 11, 16, 19は炉の南東部から、1は南東壁寄り、5は南壁寄り、3は炉の南東部と南西壁寄りの2か所から、2, 14, 15は南西壁寄りから出土している。他に20の土器片錘, 21の石鏃も覆土中から出土している。

第218号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第148図 1	鉢形土器	A [39.5]	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。内面及び口縁部外面横ナデ。肩部に隆線で楕円の区画文を描き、区画内には単節縄文LRが施文されている。胴部は区画文の連結部から2本沈線区画の磨消帯を垂下させ、磨消帯間には同縄文が施文されている。縄文及び沈線とも器面への食い込みは浅く、作りも粗雑である。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P145 30% 南東部覆土 (加曾利EⅢ)
	縄文土器	B (26.4)			
2	鉢形土器	A [30.2]	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は外傾して直線的に立ち上がる。僅かに波状を描く口縁で、内・外面とも丁寧な横ナデで調整されている。肩部には、沈線、隆線で楕円形及び半円形の区画文を描き、区画内には単節縄文RLが横位回転で施文され、胴部には縦位回転の縄文が施文されている。	砂粒・雲母 橙色 普通	P146 10% 南西部覆土 (加曾利EⅢ)
	縄文土器	B (14.1)			
3	深鉢形土器	A [33.0]	胴上部から口縁部にかけての破片。口縁部は内彎する。縦位回転の単節縄文RLを地文とし、口縁部には棒状施文具による刺突文が2段に巡らされている。胴部には沈線区画の磨消帯及び蛇行沈線が垂下されている。	砂粒 橙色 普通	P147 5% 南部覆土 (加曾利EⅢ)
	縄文土器	B (9.7)			
4	鉢形土器	A [33.4]	口縁部片。口縁部は内彎する。内・外面磨きが施されている。口縁部下に浅い沈線が巡らされている。土器焼成後、口縁部に孔が施されるが貫通はしていない。	砂粒・バミス 橙色 普通	P149 5% 南東部覆土
	縄文土器	B (10.1)			
第149図 5	深鉢形土器	B (13.8)	底部から胴下半部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。内面及び断面に輪積痕が見られる。内面煤付着、外面は無文である。	砂粒・雲母 橙色 普通	P148 10% 南部覆土 (加曾利E)
	縄文土器	C [7.4]			

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第150図20	土器片錘	5.2	5.8	1.8	54.2	100	表面に隆帯 条線	DP39 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)		
第150図21	石 鉢	2.9	1.6	0.6	2.1	硬質頁岩	Q78 凹其無茎鉢 覆土

第149～150図6～19は縄文土器片の拓影図である。6～13は口縁部片で、8、10、11は波状口縁、9には口縁部に無文帯が見られ、いずれも沈線と隆線、あるいは沈線のみで口縁部に楕円形や曲線的な区画文を施し、区画内は縄文が施文されている。10、11、13、14は胴部に沈線区画の磨消帯が直線的に垂下し、磨消帯間には縄文が施文されている。15、16、19は胴部片で、同様に縄文地文の上に沈線区画の磨消帯が垂下している。17は胴上部から口縁部にかけての破片で、口縁部との境の沈線以下胴部には撚糸文が施文されている。18は胴部片で、縦方向の条線文が施されている。

所見 本跡は、壁の立ち上がりが部分的にしかとらえられなかったため、土層の立ち上がり及び床質から規模及び平面形を推定した。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第231号住居跡（第151図）

位置 調査区の東部、C17f3区。

重複関係 本跡は、南側部分が第1097号土坑と、中央部西側部分から北側部分で第1096号、1112号土坑と重複している。第1096号、1112号土坑より本跡の方が新しいが、第1097号土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径7.57m、短径5.01mの楕円形である。

長径方向 N-44°-E

壁 壁高15～35cmで、東側はほぼ垂直に、南側から西側にかけては外傾して立ち上がる。北側部分の立ち上がりはとらえられなかった。

床 北側の床がやや高く、南側に向かいやや傾斜している。中央部を中心として僅かに踏み固められた面が見られる。

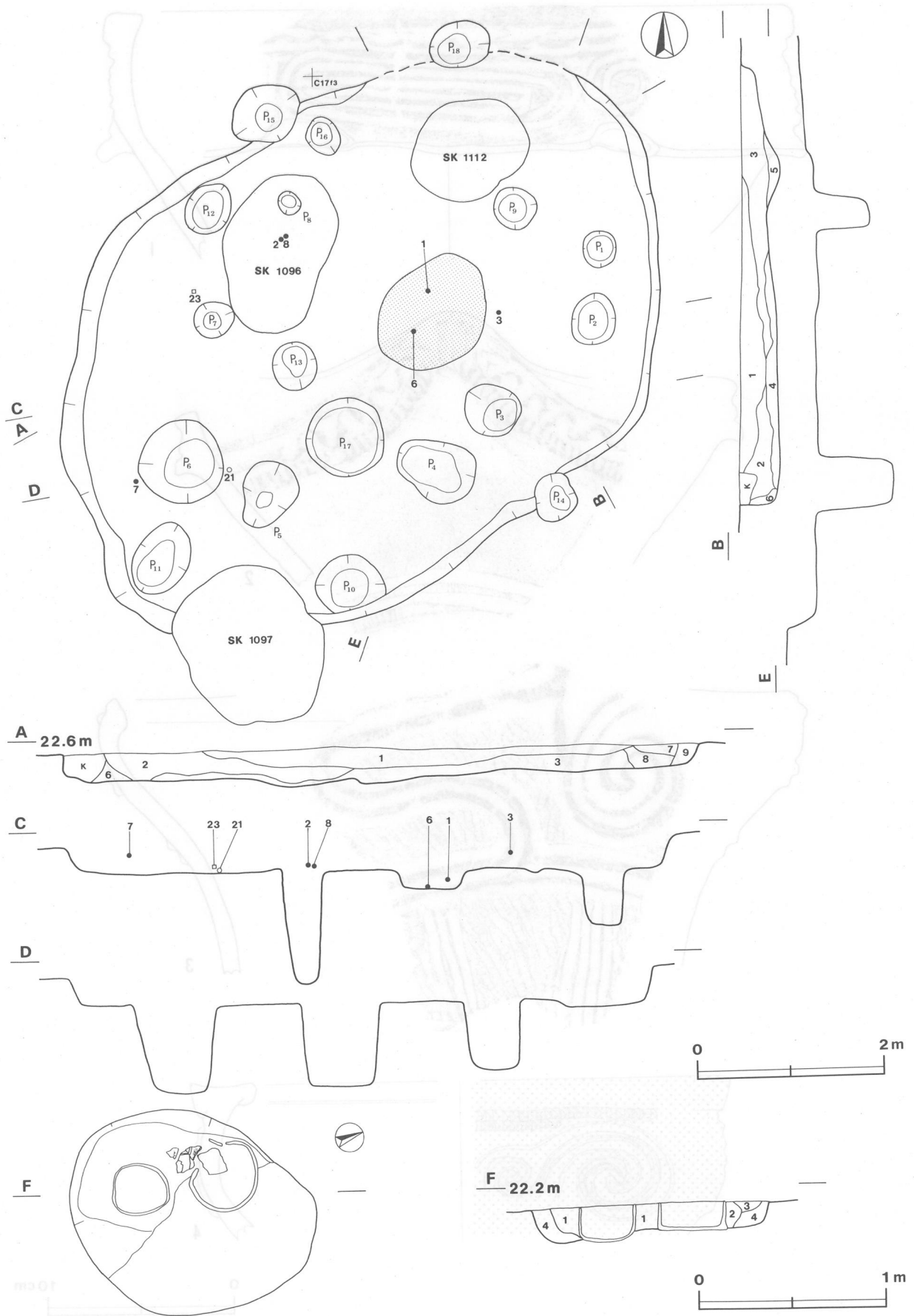
ピット 18か所。P₁～P₉は炉を囲むように位置している。それぞれの規模は、径39～90cm、深さ59～97cmとばらつきが見られ、形態も円形あるいは楕円形のピットで規格性はないが、位置関係からこれらのピットは支柱穴あるいは補助柱穴の可能性もある。また、P₁₀～P₁₂、P₁₆も同様の可能性が考えられるが、性格を明言することは困難である。P₁₅、P₁₈は後世の掘り込みと思われる。また、中央部のP₁₃、P₁₇は性格不明である。

炉 中央部やや北東寄りに付設されている。長径135cm、短径110cmの楕円形で、やや西側に土器を2か所設置した土器埋設炉である。炉の覆土に焼土はあまり含まれていないが、炉床は火熱を受け、赤く焼けて硬化している。

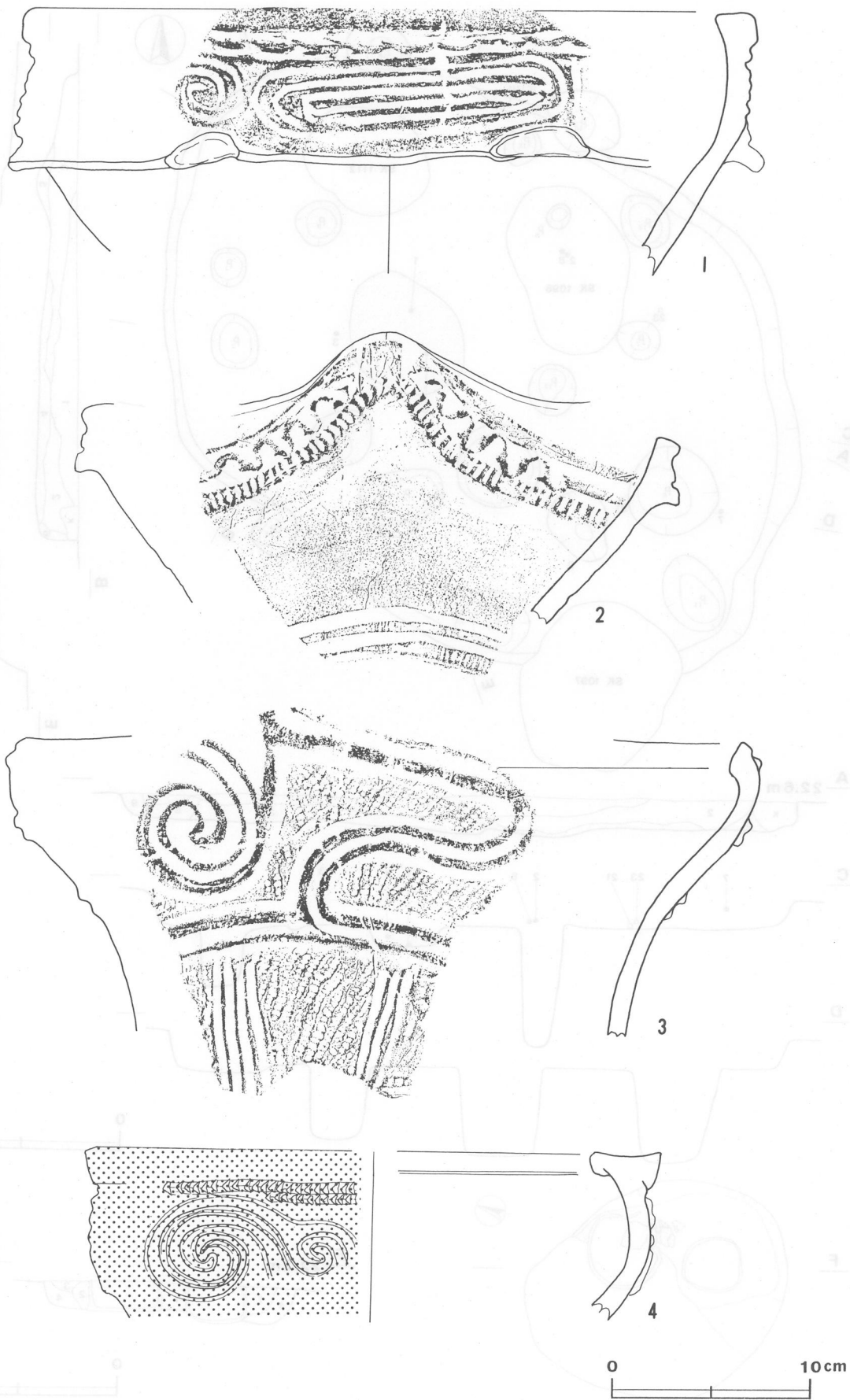
炉土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 赤褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

覆土 9層からなる。北西壁際の土層7～9は人為堆積であるが、他は2～6の褐色土が堆積した後、1の暗褐色土が覆った自然堆積である。

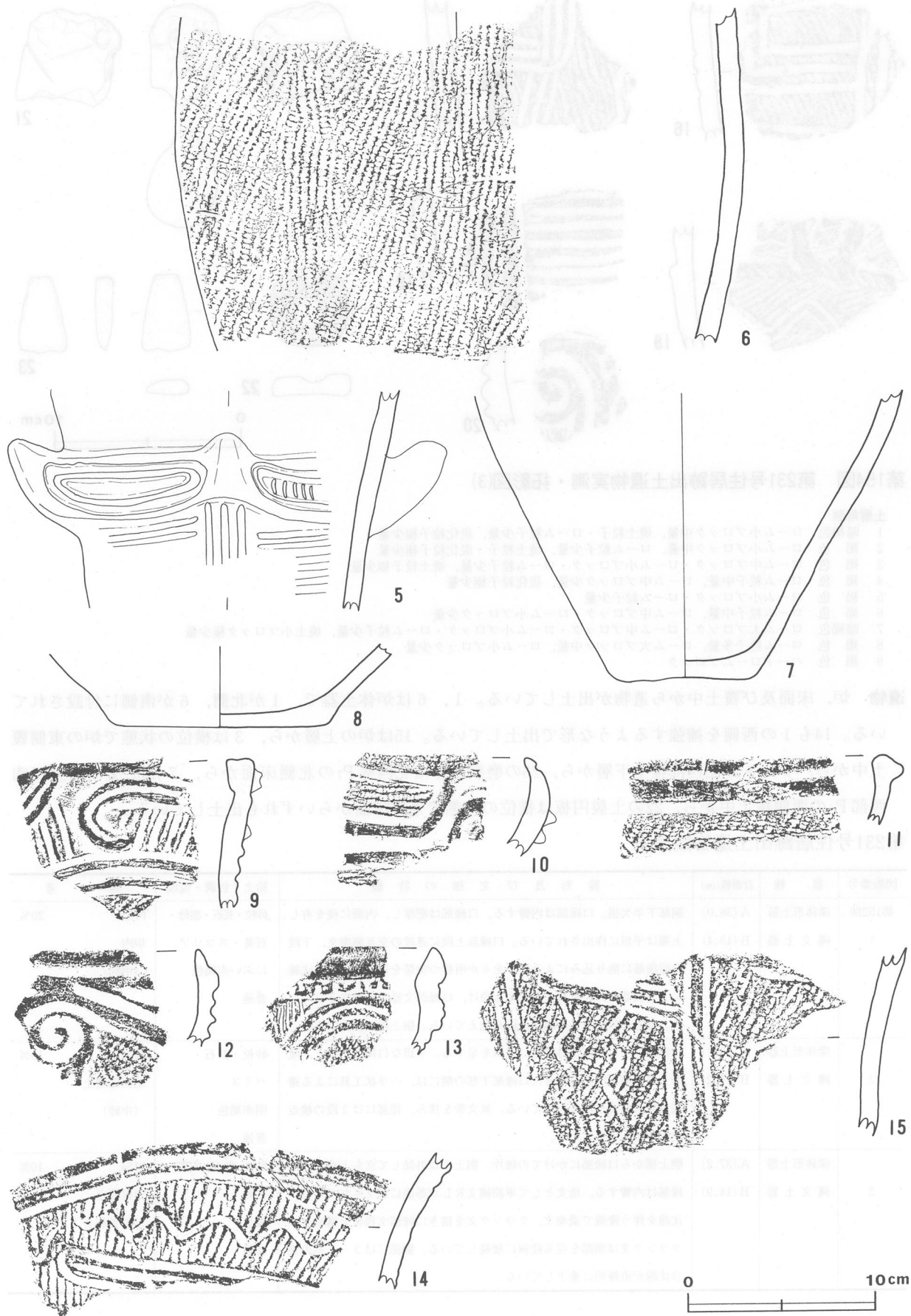


第151図 第231号住居跡実測図

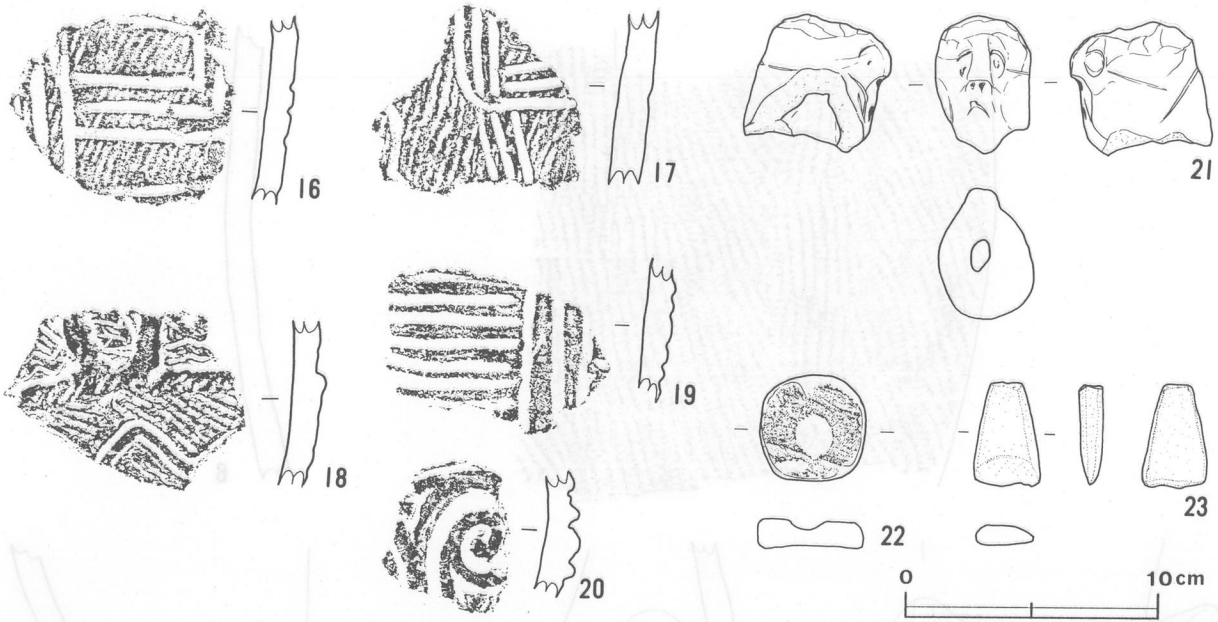


第152图 第231号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)

图版实器器土器ES集 图152



第153图 第231号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)



第154図 第231号住居跡出土遺物実測・拓影図(3)

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ハードロームブロック

遺物 炉, 床面及び覆土中から遺物が出土している。1, 6は炉体土器で, 1が北側, 6が南側に付設されている。14も1の西側を補強するような形で出土している。15は炉の上層から, 3は横位の状態で炉の東側覆土中から, 2, 8は北西部覆土下層から, 23の磨製石斧は北西部P₇の北側床面から, 7は正位の状態で南西部P₆の西側覆土中から, 22の土製円板は横位の状態で東側床面からいずれも出土している。

第231号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 1	深鉢形土器	A [36.0]	胴部下半欠損。口縁部は内彎する。口縁部は肥厚し, 内面に稜を有し, 上端は平坦に作出されている。口縁部上段に連続の交互刺突文, 下段の屈曲部に削り込みによる凹みを6か所持つ突帯を巡らせ, 間に沈線による渦巻文, 長方形の枠状文を設け, 口縁部文様帯が構成されている。長方形の枠内には横走沈線を加えている。胴上部は無文である。	砂粒・長石・雲母・石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P152 20% 炉内 (中峠)
	縄文土器	B (13.4)			
2	深鉢形土器	A [30.2]	口縁部片。口縁部は外傾し, 波状を呈する。平坦な口縁部上端と, 隆帯上に連続刻文を巡らせた口縁部下部の間には, ヘラ状工具による連続交互刺突文が加えられている。無文帯を挟み, 頭部には2段の横走沈線が巡らされている。	砂粒・長石・パミス 明赤褐色 普通	P153 10% 北西部覆土 (中峠)
	縄文土器	B (14.2)			
3	深鉢形土器	A [37.2]	胴上部から口縁部にかけての破片。胴上半は外傾して立ち上がり, 口縁部は内彎する。地文として単節縄文RLが器面に施文されている。沈線を伴う隆線で渦巻文, クランク文を描き口縁部文様帯を構成し, クランク文は頭部を巡る隆線に接続している。胴部には3~4本の集合沈線が直線的に垂下している。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P154 10% 東部覆土 (加曾利E I)
	縄文土器	B (14.9)			

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 4	鉢形土器	A (29.2)	口縁部片。口縁部は内彎している。幅広の口縁部上端及び口縁部内・外面は偏平に作出され、磨きが施されている。口縁部直下に「く」状の連続刺突文を2段に巡らせ、以下隆線で連続する渦巻文が描かれている。口縁部から胴部外面は赤彩されている。	砂粒・雲母	P155 5% 覆土 (加曾利E I)
	縄文土器	B (8.6)		明赤褐色 普通	
第153図 5	深鉢形土器	B (9.1)	胴上部片。口縁部と胴部との交換部に角状の突起を4単位有すると思われ、突起間は2重の隆線で偏平な長楕円の杵状文が描かれている。区画内は無文か、あるいは縦刺突状の短沈線が施されている。以下、胴部には突起下から3本沈線を直線的に垂下させ、隙間には横走沈線が何段にも描かれている。	砂粒	P157 10% 南東部覆土 (加曾利E I)
	縄文土器			にぶい赤褐色 普通	
6	深鉢形土器	B (18.0)	胴部片。やや膨らみを持つ胴部で、単節縄文LRが縦位回転で施文されている。	砂粒・長石・石英・スコリア	P156 20% 炉内 (加曾利E I)
	縄文土器			橙色 普通	
7	深鉢形土器	B (15.5) C 7.8	底部から胴下部にかけての破片。底部は削り出しにより上げ底気味で、胴部は外傾して開く。無文である。	砂粒・雲母・長石・スコリア	P158 25% 南西部覆土 (加曾利E)
	縄文土器			橙色 普通	
8	鉢形土器	B (4.5) C 11.7	底部片。平底で、やや大形の底部。胴部は外傾して開く。胴下部外面及び内面は磨きが施されている。	砂粒・長石・雲母・石英	P159 10% 北西部覆土 (加曾利E)
	縄文土器			黒褐色 普通	

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第154図21	顔面土製品	5.5	5.2	3.8	(94.7)	?	人間の顔面を模した中空の土製品。土偶あるいは把手の可能性が考えられるが、首以下が欠損しているため詳細は不明である。鼻は鷲鼻で、口は「へ」の字状に表現されている。	DP40 P。床面 砂粒・長石 にぶい橙色 (中期か)
22	土製円板	4.2	4.3	1.2	27.6	100	無文 表面に未貫通孔	DP41 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第154図23	磨製石斧	4.1	2.6	1.0	(14.3)	砂岩	Q80 定角式 刃部一部欠損 北西部床面

第153～154図9～20は縄文土器片の拓影図である。中期加曾利E I式の土器が主体であるが、中峠式、加曾利E II式の手法が見られるものもある。9～13は口縁部片で、9は口縁部上端が平坦で、中央に沈線に沿わせた隆線で曲線的な文様を表現し、隙間に縦の短沈線が施されている。頸部に巡る2段の隆線以下には縄文が見られる。10は口縁部が内彎し、隆線で区画文を施し、区画内及び胴部に縄文が施文されている。11は口唇部上端と外面に沈線、以下縄文施文で、縄文を切る沈線が見られる。12は隆線で渦巻文、区画文を描き、区画内に縄文を施文し、口唇部外面に沈線が見られる。13は口縁部無文帯の下に交互刺突文、以下は沈線に間に加飾した隆帯で曲線的区画文を施し、区画内及び隆帯上に縄文、区画外は縦の沈線が施されている。14は炉体土器で、胴上部の破片、撚糸文地文で上位に2本の横走沈線、以下に波状沈線、斜行沈線と施文されている。上部の沈線の上は欠損しているが、破損部は丁寧に擦り切れ二次加工の痕跡が見られる。15～19は胴部片で、15は単節縄文RLを地文にし、垂下する波状沈線と直線的に垂下あるいは斜行する3本の平行沈線が施文されている。16、17も地文の縄文を切る3本平行沈線がクランク状に施されている。大木8b式の影響が見られる。18は横に巡る隆線に上部からの隆線が接続し、隙間に浅い沈線を施文、隆線及び下部に縄文が施文され、下部には半截竹管による波状沈線が縄文地文の上に描かれている。19は3本の平行沈線を垂下させて縦区切りし、間に横沈線を充填させている。20は口縁部の破片と思われ、隆線による渦巻文が見られる。

所見 本跡からは、縄文時代中期加曾利E I式期を中心として前後の時期の遺物も出土している。時期は、炉体土器及び主体となる遺物から縄文時代中期加曾利E I式期の初頭と思われる。

第232号住居跡（第155図）

位置 調査区の東部，C17h1区。

重複関係 本跡の中央部東側部分は第1044号，1067号土坑に，西側部分は第237号，239号住居跡に掘り込まれている。また，本跡の中央部南側部分で第1046号，1045号土坑と，北西側部分で第1153号土坑と重複しているが，本跡の方が新しい。

規模と平面形 壁の立ち上がりは部分的にしかとらえられなかったが，長径〔7.62〕m，短径〔5.90〕mの楕円形と推定される。

長径方向〔N-8°-E〕

壁 東側から南側にかけて部分的に残っており，壁高8~10cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。僅かに踏み固められた面が見られる。

ピット 22か所。P₁~P₉は長径34~73cm，短径25~61cmの円形あるいは楕円形で，深さ36~98cm。規模にばらつきはあるが，壁際に沿って巡る壁柱穴と思われる。また，P₁₃（径42cmの円形で，深さ49cm），P₁₄（長径45cm，短径36cmの楕円形で，深さ65cm）は位置的に壁際に寄り過ぎているが，柱穴の可能性も考えられる。炉の中央にあるP₂₂は，土層より判断して，本跡より古いピットである。他は性格不明である。

炉 やや北寄りに付設されている。長径100cm，短径85cmの卵形で，南側に土器を埋め込んだ土器埋設炉である。炉床はそれほど赤くはないが，僅かに硬化している。

炉土層解説

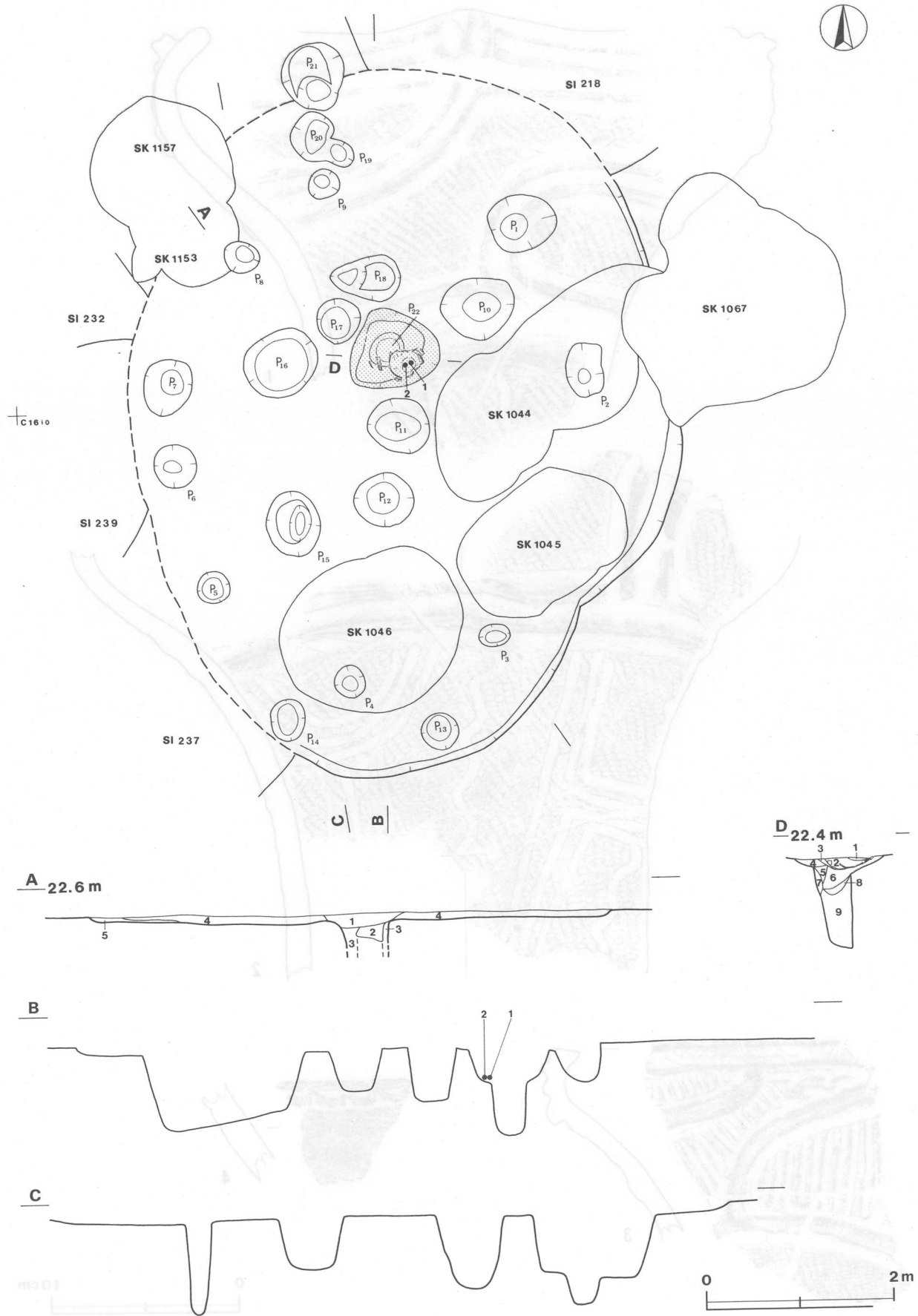
- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量，焼土中ブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子極少量
- 6 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム中ブロック少量，炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量

覆土 本跡の上部は削平され，覆土の厚さは10cmほどしかなかった。土層1~3はP₁₂の土層で，後世からの掘り込みである。本跡は4・5の2層からなっており，覆土が薄いため断定はできないが，5が堆積した後，4が流れ込んだ自然堆積と思われる。

土層解説

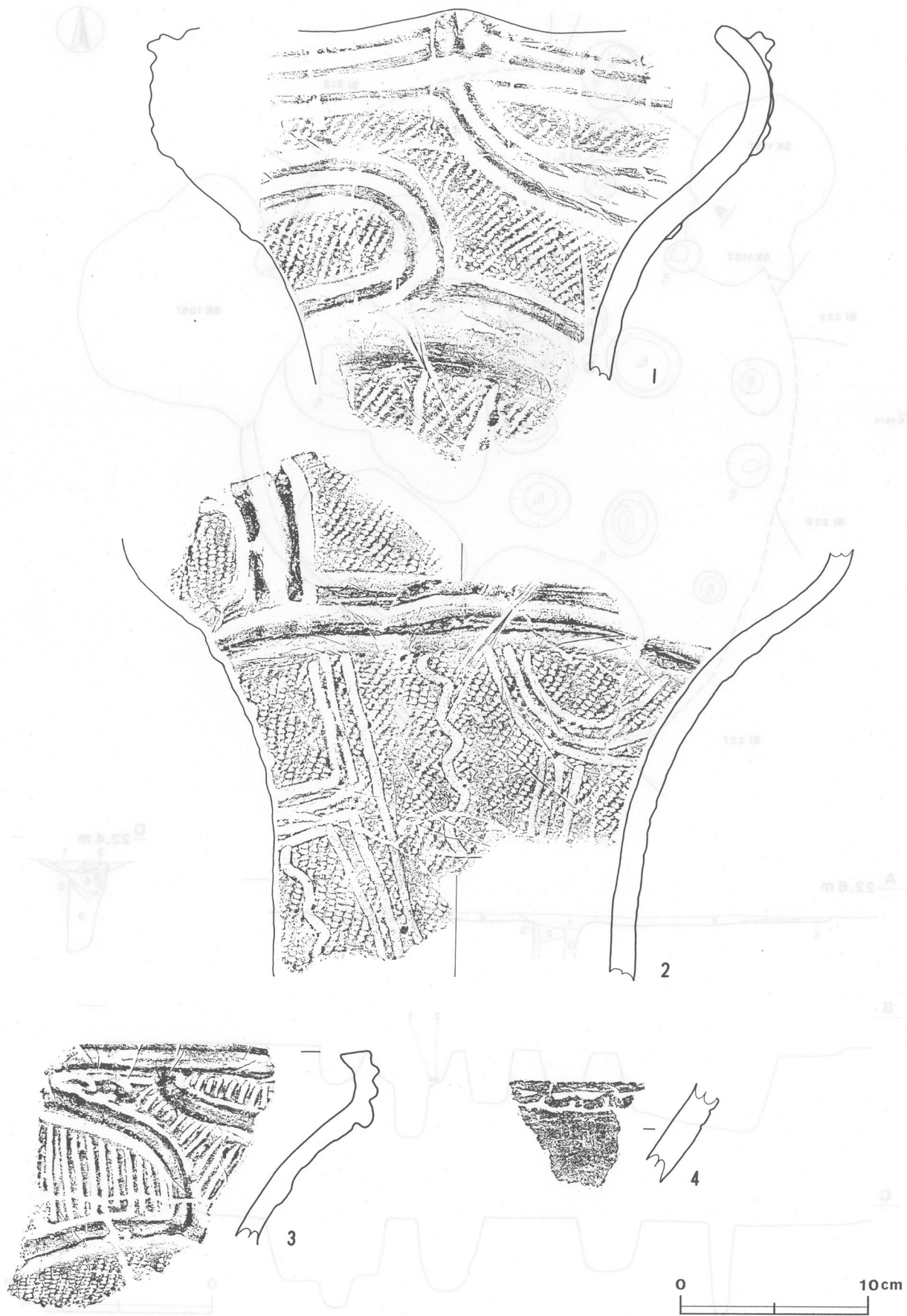
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子極少量

遺物 炉，床面及び覆土中から遺物が出土している。1，2は炉体土器で，胴部から口縁部の破片を重ねるようにして使用している。3は南東壁際床面からの出土である。



第155图 第232号住居跡実測図

图例表・顺天树墓出土物器台号332第 图331第



第156图 第232号住居跡出土遺物実測・拓影図

图版实物编号S65集 图231集

第232号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第156図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (32.0) B (14.1)	胴上部から口縁部にかけての破片。頸部で外傾した後、内彎して口縁部に至る。内面は磨きが施されている。口唇部外面に、中央に沈線が走る隆帯を巡らせており、隆帯には縦の押捺を加えた突起が加えられている。隆帯下と頸部に隆線を巡らせ、上下の隆線はクランク状の2本の隆線で接続し、口縁部文様帯が構成されている。磨り消しの無文帯を挟み、胴部には垂下する沈線が描かれている。地文として、縦位回転の単節縄文RLが施文されている。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P160 25% 炉内 (加曾利E I)
2	深鉢形土器 縄文土器	B (23.2)	胴上部から口縁部下半にかけての破片。胴部は直立気味に立ち上がり、頸部で外傾した後、内彎気味に口縁部に至る。単節縄文RLが縦位回転で施文され、地文としている。頸部に偏平で幅広の2本の隆線が走り、口縁部文様帯と胴部文様帯が分離されている。胴部文様帯には沈線を伴う縦の2本隆線が描かれ、頸部の隆線と接続している。胴部には、蛇行して垂下する単沈線、3本1組で直線的に垂下したり折れ曲がる、あるいは弧を描く沈線が描かれそれぞれ接続している。	砂粒・雲母・長石・スコリア 暗赤褐色 普通	P161 40% 炉内 (加曾利E I)

第156図3、4は縄文土器片の拓影図である。3は胴上部から口縁部にかけての破片で、頸部に巡る隆帯で口縁部文様帯と胴部文様帯を分離している。口縁部文様帯は、口縁部と頸部の隆線が曲線的隆線で結ばれ、隆線に沿い沈線、隙間にも直線的な沈線が施され、口唇部下には連続刺突の「コ」字状文も部分的に見られる。胴部には縄文が施文されている。4も交互刺突文が施されているが、無文である。

所見 本跡の西側から北側にかけての規模と平面形は、柱穴の配列及び床質からの推定である。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利E I式期である。

第233号住居跡 (第157図)

位置 調査区の東部、C17f1区。

重複関係 本跡は、南側部分を第218号住居跡に、北東側部分を第1134号土坑に掘り込まれている。南西側部分は第1146号土坑を掘り込んでいる。また、中央部で第1083号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 重複が激しく、明確な壁の立ち上がりはとらえられなかったが、長径[6.00]m、短径[5.50]mの楕円形と推定される。

長径方向 [N-43°-E]

壁 東壁が部分的に残っており、壁高37cmほどで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。踏み固められた面は見られない。

ピット 11か所。P₁は長径39cm、短径29cmの卵形で、深さ48cm、P₂は長径60cm、短径49cmの楕円形で、深さ88cmの二段掘り込みのピット、P₃は径29cmほどの不整形で、深さ56cmの二段掘り込みのピット、P₄は長径54cm、短径43cmの卵形で、深さ49cmの二段掘り込みのピット、P₅は長径31cm、短径29cmの不整形で、深さ47cm、P₆は長径51cm、短径45cmの楕円形で、深さ96cm、P₇は長径48cm、短径42cmの楕円形で、深さ89cm。これらは、規模や形態にばらつきが見られるが、壁際に沿って巡る柱穴の可能性が考えられる。しかし、東



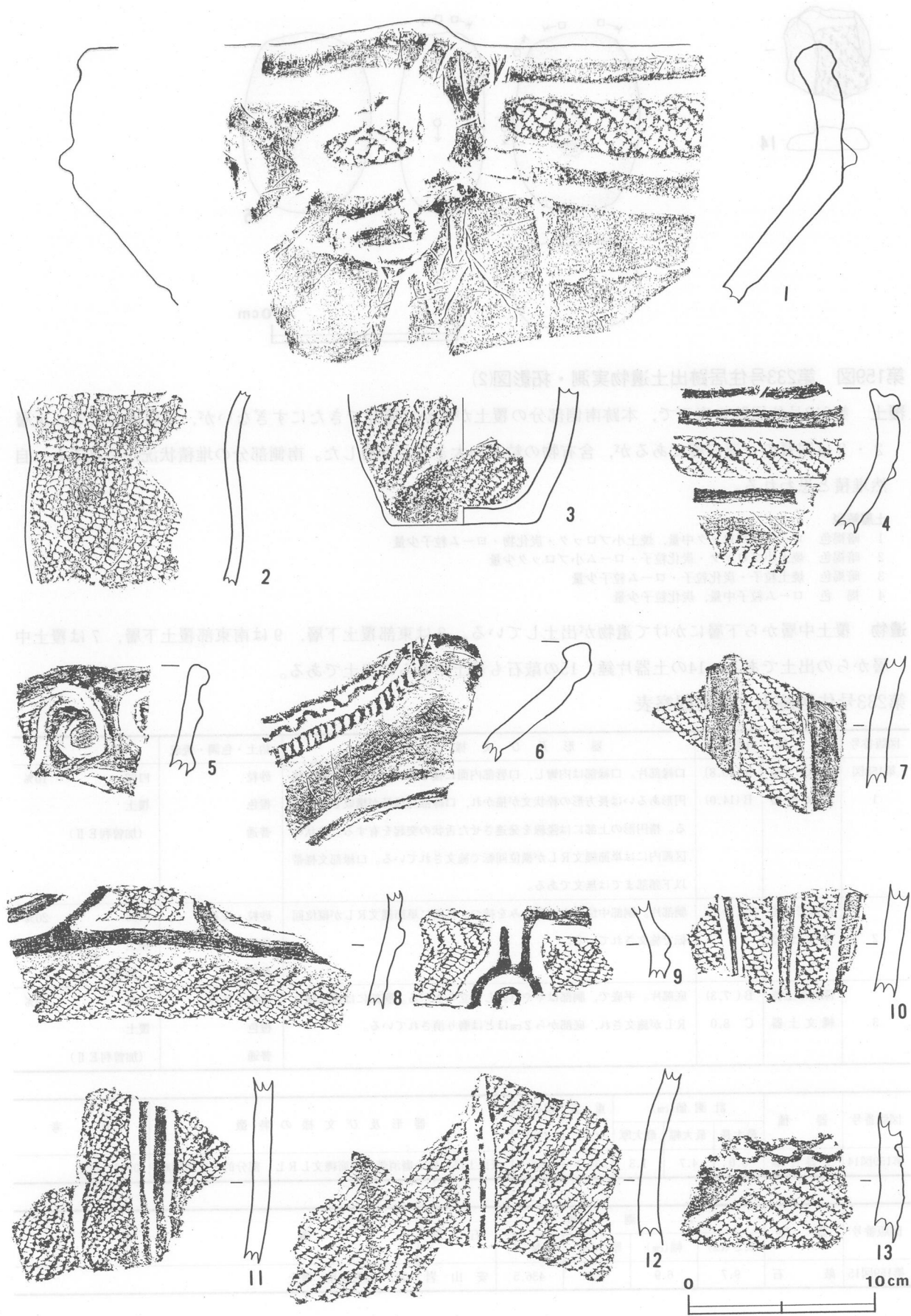
第157図 第233号住居跡実測図

側でピットが確認されてないため、断定は難しい。P₈（長径53cm，短径42cmの楕円形で，深さ42cm），P₁₀（長径49cm，短径36cmの楕円形で，深さ48cm）は，炉を挟んで相対して位置する。P₉は長径36cm，短径30cmの不定形で，深さ28cmと浅いが，位置的に見るとP₁～P₇と同性格の可能性も考えられる。P₁₁は性格不明である。

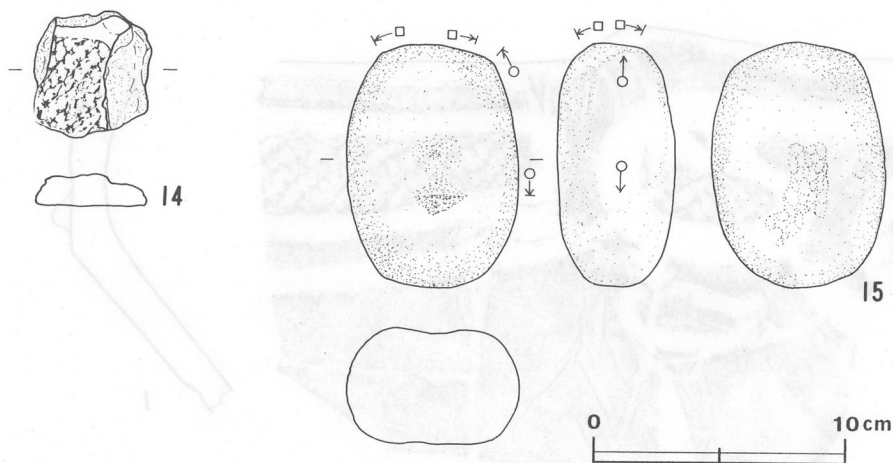
炉 ほぼ中央に付設されていると思われる。径66cmの円形で，床を34cmほどボール状に掘りくぼめた地床炉で，比較的中層に焼土を多く含む。炉床は硬化しているが赤くはない。

炉土層解説

- | | |
|--------|------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量，焼土中ブロック極少量 |
| 2 暗赤褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック極少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量，焼土小ブロック極少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土中ブロック極少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子極少量 |
| 7 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック極少量 |
| 8 暗褐色 | 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 9 暗褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化物極少量 |



第158图 第233号住居跡出土遺物実測・拓影图(1)



第159図 第233号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

覆土 第218号住居跡の床下で、本跡南側部分の覆土が僅かに確認できたにすぎないが、4層からなる。土層2・3は同質の一連の層であるが、含有物の粒子の大きさで分層した。南側部分の堆積状況から見ると、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

遺物 覆土中層から下層にかけて遺物が出土している。8は東部覆土下層, 9は南東部覆土下層, 7は覆土中層からの出土である。14の土器片錘, 15の敲石も覆土中からの出土である。

第233号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第158図 1	深鉢形土器	A (40.8)	口縁部片。口縁部は内彎し, 口唇部内面に稜を持つ。沈線, 隆線で楕円形あるいは長方形の枠状文が描かれ, 口縁部文様帯が構成されている。楕円形の上部には隆線を発達させた舌状の突起を有する。枠状の区画内には単節縄文RLが横位回転で施文されている。口縁部文様帯以下頸部までは無文である。	砂粒 橙色 普通	P162 10% 覆土 (加曾利E II)
	縄文土器	B (14.0)			
2	深鉢形土器	B (10.5)	胴部片。胴部中位にやや膨らみを持つ。外面に単節縄文RLが縦位回転で施文されている。	砂粒・長石 橙色 普通	P163 20% 覆土 (加曾利E II)
	縄文土器				
3	深鉢形土器	B (7.3)	底部片。平底で, 胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部には単節縄文RLが施文され, 底部から2cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石 橙色 普通	P164 20% 覆土 (加曾利E II)
	縄文土器	C 8.0			

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徵	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第159図14	土器片錘	5.0	4.7	1.3	34.1	100	表面上部に狭い磨消帯 複節縄文LRL 部分的に文様剝離	DP42 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第159図15	敲石	9.7	6.9	4.6	436.5	安山岩	Q81 磨石兼用 覆土

第158図4～13は縄文土器片の拓影図である。4～6は口縁部片で、4は上下の隆線で口縁部文様帯を区画し、区画内及び胴部に単節縄文RLを施文し、口唇部上端に沈線が施されている。5は僅かに波状を呈し、沈線、隆線で渦巻文、区画文を描いている。6も波状口縁の波頂部で、口唇部上端沈線内に交互刺突文、外面には連続の刻みが施され外面無文、頸部に沈線が巡る。8は胴部から口縁部にかけての破片で、単節縄文RLを地文にし、隆線で区画文が施されている。7、9～13は胴部片で、9は沈線を沿わせた直線的隆線が円形文で接続し、地文は単節縄文RLが羽状構成で施文されている。7、10、11は縄文地文の上に沈線区画の磨消帯が垂下しており、7はやや幅広、11は3本沈線で単沈線も見られる。12も縄文地文の上に平行沈線が垂下しているが、沈線間に磨り消しは施されていない。13は沈線の間の交互連続刺突による鎖状の文様が見られる。これらの土器は中期加曽利EⅡ式に比定されるものが多いが、7には加曽利EⅢ式、12には加曽利EⅠ式の手法が見られ、6、13は中峠式～加曽利EⅠ式初期の範疇であると思われる。

所見 本跡の規模及び平面形は、土層、床質及び柱穴の配列からの推定である。縄文時代中期加曽利EⅡ式期を中心に前後の時期の遺物も出土しているが、主体となる遺物から縄文時代中期加曽利EⅡ式期が本跡の時期と思われる。

第234号住居跡（第160図）

位置 調査区の北東部、C17d₂区。

重複関係 本跡は、中央部北側が第1135号土坑に、東側部分が第1149号土坑に、南側部分が第1119号、1140号土坑に掘り込まれている。また、東側部分で第1142号、1148号土坑と重複しているが、本跡の方が新しい。

規模と平面形 北側部分が確認できなかったが、長径[6.24]m、短径[5.50]mの楕円形と推定される。

長径方向 [N-83°-E]

壁 南側から西側にかけて立ち上がり確認されている。壁高14～30cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦であるが、南西側から北東側にかけて僅かに傾斜している。やや踏み固められている。

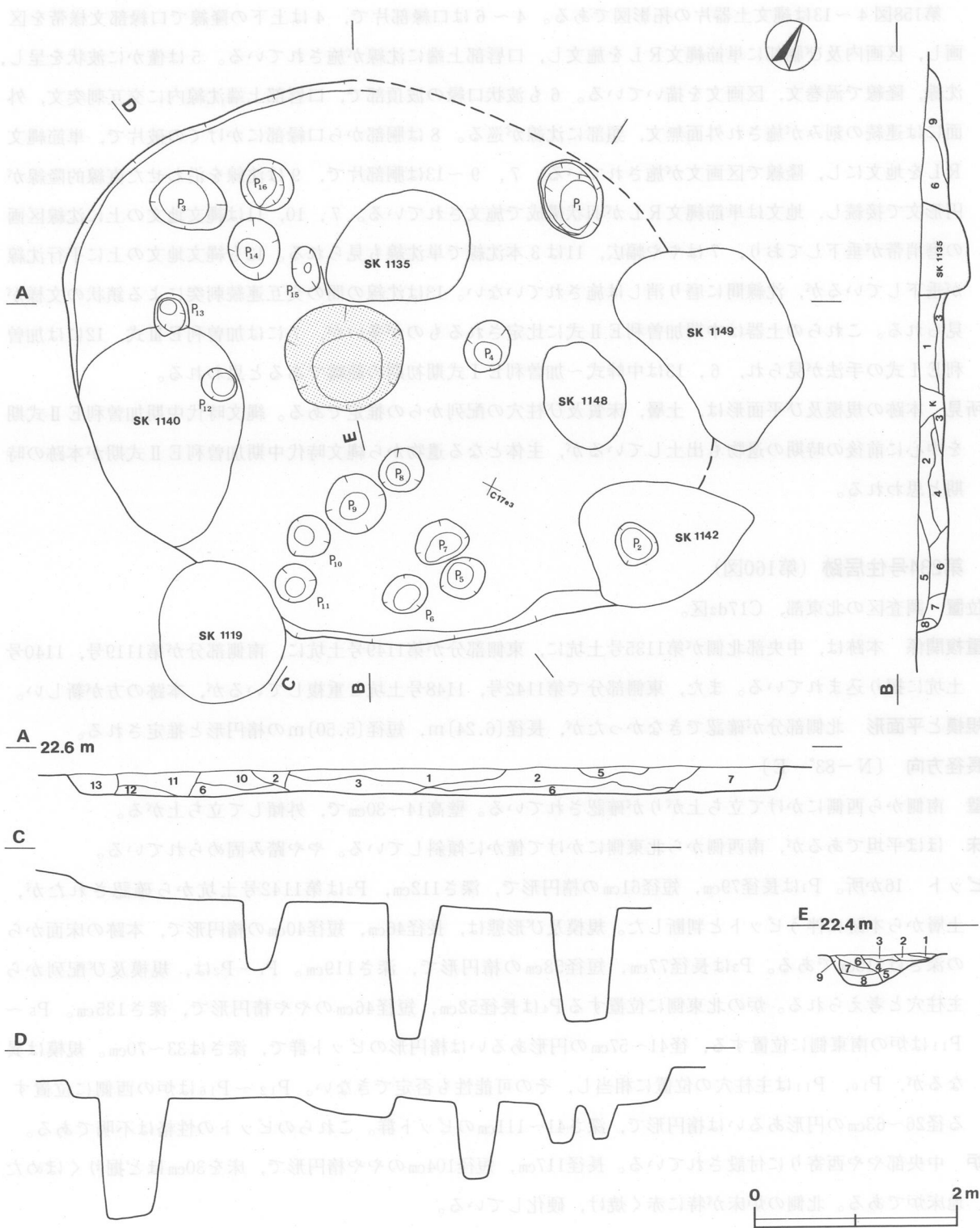
ピット 16か所。P₁は長径79cm、短径61cmの楕円形で、深さ112cm、P₂は第1142号土坑から確認されたが、土層から本跡に伴うピットと判断した。規模及び形態は、長径46cm、短径40cmの楕円形で、本跡の床面からの深さは115cmである。P₃は長径77cm、短径58cmの楕円形で、深さ119cm。P₁～P₂は、規模及び配列から支柱穴と考えられる。炉の北東側に位置するP₄は長径52cm、短径46cmのやや楕円形で、深さ135cm。P₅～P₁₁は炉の南東側に位置する、径41～57cmの円形あるいは楕円形のピット群で、深さは33～70cm。規模は異なるが、P₁₀、P₁₁は支柱穴の位置に相当し、その可能性も否定できない。P₁₂～P₁₆は炉の西側に位置する径26～63cmの円形あるいは楕円形で、深さ41～111cmのピット群。これらのピットの性格は不明である。

炉 中央部やや西寄りに付設されている。長径117cm、短径104cmのやや楕円形で、床を30cmほど掘りくぼめた地床炉である。北側の炉床が特に赤く焼け、硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子極少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量、炭化粒子極少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 6 極暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子極少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子極少量
- 8 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子極少量
- 9 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子極少量

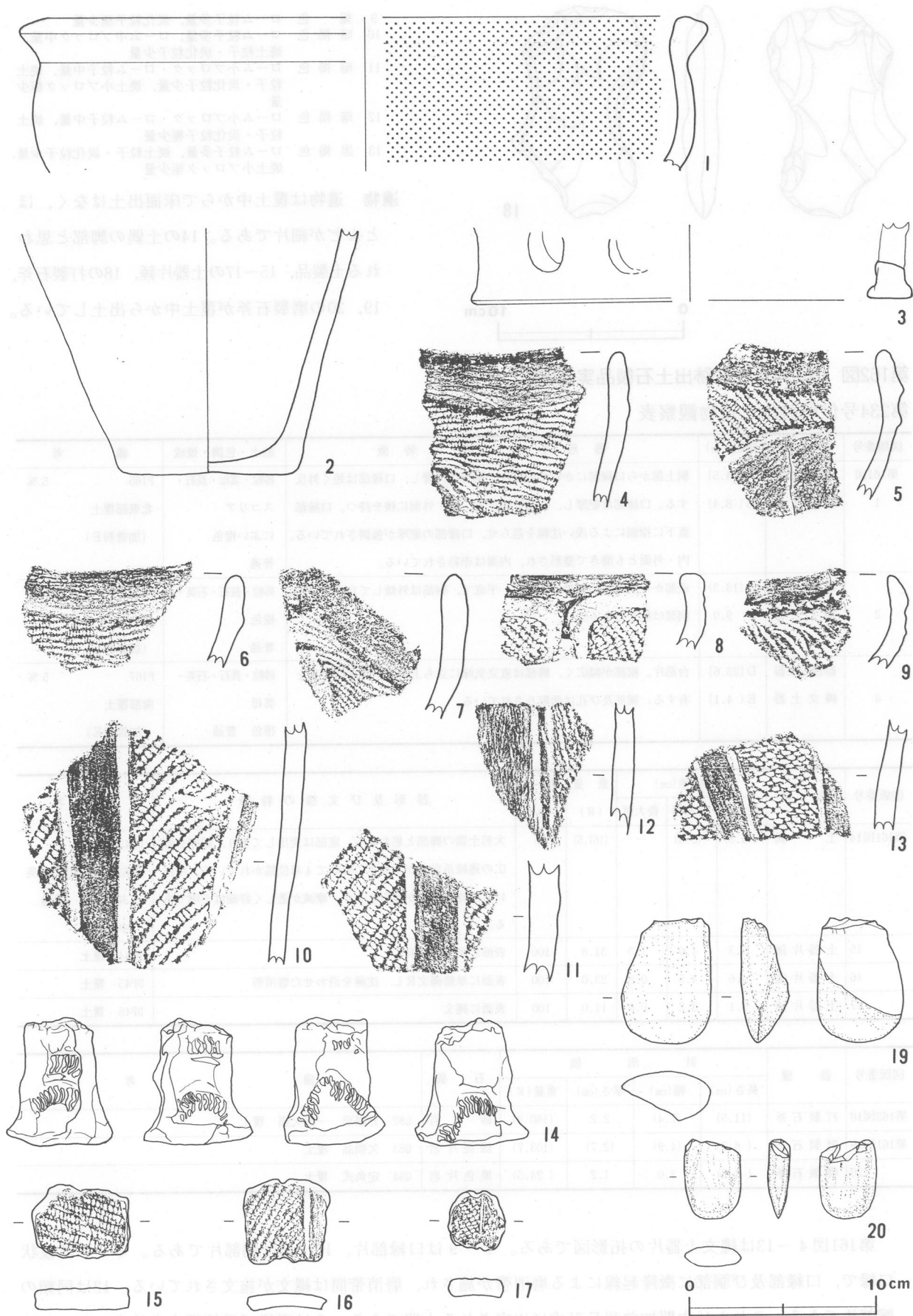
覆土 13層からなる。覆土はローム小ブロック、ローム粒子を含む暗褐色土が主体となり、不自然で複雑に分層される人為堆積である。土層3は炉上層の覆土である。



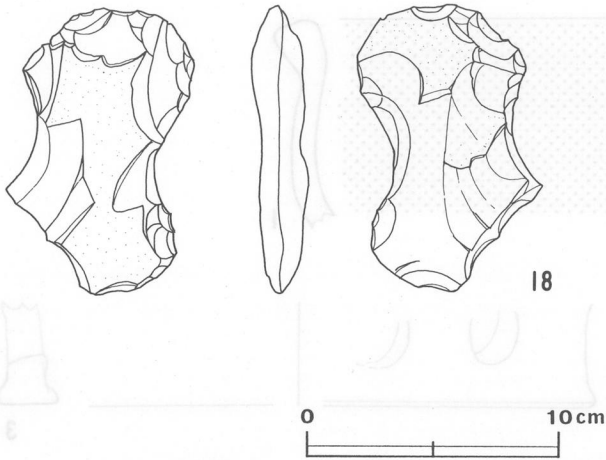
第160図 第234号住居跡実測図

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子・ローム小ブロック中量, 焼土中ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量



第161図 第234号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)



- 9 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 10 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 13 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量

遺物 遺物は覆土中から床面出土はなく、ほとんどが細片である。14の土偶の脚部と思われる土製品, 15~17の土器片錘, 18の打製石斧, 19, 20の磨製石斧が覆土中から出土している。

第162図 第234号住居跡出土石製品実測図(2)

第234号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第161図 1	浅鉢形土器	A (34.5)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は短く外反する。口縁部は肥厚し、上端は偏平で、内・外面に稜を持つ。口縁部直下に指頭による浅い沈線を巡らせ、口縁部の肥厚が強調されている。内・外面とも磨きで整形され、内面は赤彩されている。	砂粒・雲母・長石・スコリア	P165 5% 北東部覆土 (加曾利E)
	縄文土器	B (8.4)		にぶい橙色 普通	
2	深鉢形土器	B (13.3)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。胴部は無文である。	砂粒・長石・石英・橙色	P166 15% 覆土 (加曾利E)
	縄文土器	C 9.0		普通	
3	器台形土器	D [23.6]	台部片。裾部が幅広く、脚部は直立気味に立ち上がり、数単位の孔を有する。裾部及び孔は面取りされている。	砂粒・長石・石英・雲母	P167 5% 南部覆土 (加曾利E)
	縄文土器	E (4.1)		橙色 普通	

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第161図14	土偶	(6.8)	(5.6)	—	(161.5)	15	大形土偶の脚部と思われる。底部は突出しており、周囲を幅広い連続爪形文が下向きの弧状で4単位描かれている。中位にも同様の文様が見られるが、摩滅が著しく詳細は不明である。	DP43 覆土 砂粒・長石・雲母・石英 にぶい褐色 普通 (中期)
15	土器片錘	5.3	4.0	1.3	31.8	100	表面に単節縄文RL	DP44 覆土
16	土器片錘	4.6	4.5	0.8	23.0	100	表面に単節縄文RL 沈線を沿わせた磨消帯	DP45 覆土
17	土器片錘	3.1	3.2	0.9	11.0	100	表面に縄文	DP46 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第162図18	打製石斧	(11.5)	(7.4)	2.2	(160.9)	砂岩	Q82 分銅形 一部欠損 覆土
第161図19	磨製石斧	(6.7)	(4.9)	(2.7)	(103.7)	緑泥片岩	Q83 欠損品 覆土
20	磨製石斧	(4.3)	3.0	1.2	(24.5)	黒色片岩	Q84 定角式 覆土

第161図4~13は縄文土器片の拓影図である。4~9は口縁部片, 10~13は胴部片である。4~7は波状口縁で、口縁部及び胴部に微隆起線による磨消帯が施され、磨消帯間は縄文が施文されている。12は同類の胴部片である。これらは中期加曾利E IV式に比定される土器である。8は平縁で単節縄文を地文にし、口縁部から微隆起線が胴部に垂下し、微隆起線の両側は磨り消されている。9は波状口縁で、口縁部無文帯の下

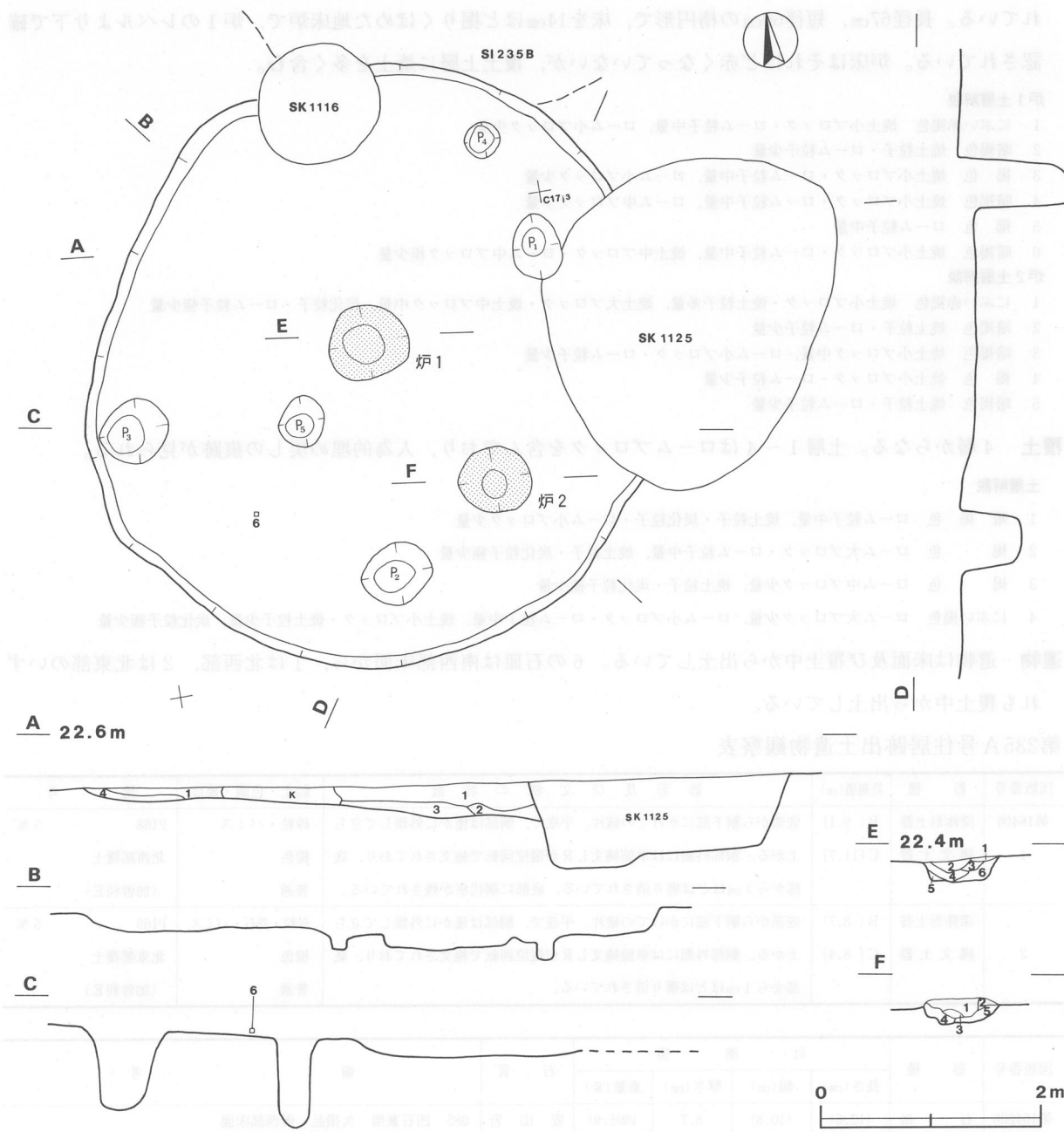
端に刺突文が連続されている。2点とも中期加曽利EⅢ～Ⅳ式期の範疇と思われる。10, 11, 13は地文の単節縄文の上に幅広の沈線区画の磨消帯が直線的に垂下している。

所見 本跡は、北側の壁の立ち上がりが確認できなかったため、北側部分は残存している壁及び床質からの推定である。覆土中から中期加曽利EⅢ～Ⅳ式期までの遺物が出土しているが、時期は主体となる遺物から縄文時代中期加曽利EⅣ式期と思われる。

第235A号住居跡（第163図）

位置 調査区の東部，C17j₂区。

重複関係 本跡は、北側部分が第1116号土坑に、東側部分が第1125号土坑に掘り込まれている。北側部分で第235B号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。



第163図 第235A号住居跡実測図

規模と平面形 長径5.40m, 短径5.15mの円形をしている。

壁 北側と東側の壁が部分的に土坑によって掘り込まれているが、壁高8~20cmで、外傾して立ち上がる。

床 起伏があり、東側部分が西側部分より10~15cm低くなっている。南東側部分に踏み固められた痕跡が見られる。

ピット 5か所。P₁は長径61cm, 短径42cmの楕円形で、深さ83cm, P₂は長径65cm, 短径57cmの楕円形で、深さ51cm, P₃は長径66cm, 短径57cmの楕円形で、深さ71cm。これらのピットは、規模及び配列から支柱穴と思われる。P₄は径34cmの円形、深さ22cmで、補助柱穴と思われる。P₅は炉1の南西に近接しており、長径47cm, 短径36cmの楕円形、深さ60cmで、性格は不明である。

炉 2か所。炉1は、ほぼ中央に付設されている。長径74cm, 短径67cmのやや楕円形をしており、床を20cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱で赤く焼け、硬くなっている。炉2は南東壁寄りに付設されている。長径67cm, 短径60cmの楕円形で、床を14cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉1のレベルより下で確認されている。炉床はそれほど赤くなっていないが、覆土上層に焼土を多く含む。

炉1 土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 3 褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土中ブロック・ローム中ブロック極少量

炉2 土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 焼土大ブロック・焼土中ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子極少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量

覆土 4層からなる。土層1~4はロームブロックを含んでおり、人為的埋め戻しの痕跡が見られる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 4 にぶい褐色 ローム大ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子極少量

遺物 遺物は床面及び覆土中から出土している。6の石皿は南西部床面から、1は北西部、2は北東部のいずれも覆土中から出土している。

第235A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第164図 1	深鉢形土器	B(9.1)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は僅かに外傾して立ち上がる。胴部外面には単節縄文LRが縦位回転で施文されており、底部から1cmほどは磨り消されている。底部に網代痕が残されている。	砂粒・バミス	P168 5% 北西部覆土 (加曾利E)
	縄文土器	C(11.7)		橙色 普通	
2	深鉢形土器	B(8.7)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は僅かに外傾して立ち上がる。胴部外面には単節縄文LRが縦位回転で施文されており、底部から1cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石・バミス	P169 5% 北東部覆土 (加曾利E)
	縄文土器	C(8.4)		橙色 普通	

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第164図6	石皿	(12.6)	(10.8)	8.7	(691.9)	安山岩	Q85 凹石兼用 欠損品 南西部床面



第164図 第235A号住居跡出土遺物実測・拓影図

第164図3～5は縄文土器片の拓影図である。3は口縁部片で、口縁部下に横走沈線、以下に沈線区画を施し、区画内は複節縄文RLRが施文されている。4は単節縄文RLRが地文で、指頭により沈線を沿わせた隆起線で文様が描かれている。5は橋状把手を有する胴部片で、単節縄文が施文されている。

本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第235B号住居跡（第165図）

位置 調査区の東部、C17i3区。

重複関係 本跡は、中央部で第1122号土坑と、北側部分で第1121号、1151号及び1152号土坑と、南側部分で第235A号住居跡と、西側部分で第1126号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径5.34m、短径(4.75)mの楕円形と推定される。

長径方向 N-48°-E

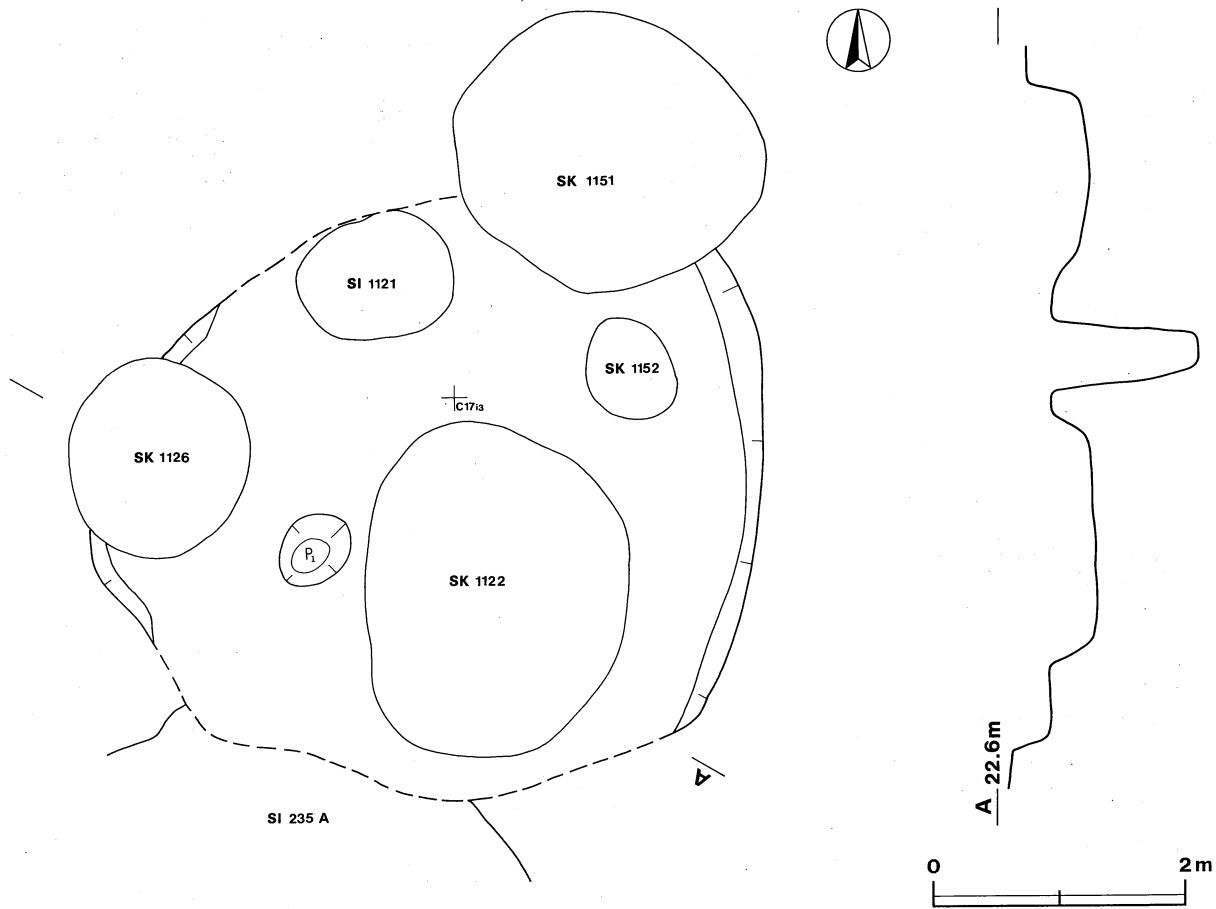
壁 東壁と西壁が残存している。壁高30cmほどで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。特に踏み固められた面は見られない。

ピット 中央部西寄りに1か所。長径64cm、短径54cmの楕円形で、深さは120cmである。

遺物 本跡から遺物は出土していない。

所見 本跡は第235A号住居跡の掘り込みの段階で確認された。遺物は出土しておらず、時期を含め炉や覆土の堆積状況等詳細は不明である。



第165図 第235B号住居跡実測図

第236号住居跡（第166図）

位置 調査区の中央部やや南東寄り，D16a7区。

重複関係 本跡は，東側部分を第1065号土坑に掘り込まれている。また，北側部分で第951号土坑と重複しているが，本跡の方が新しい。

規模と平面形 上部削平のため，壁の立ち上がりを確認できなかったが，長径[5.84]m，短径[4.42]mの楕円形と推定される。

長径方向 [N-72°-W]

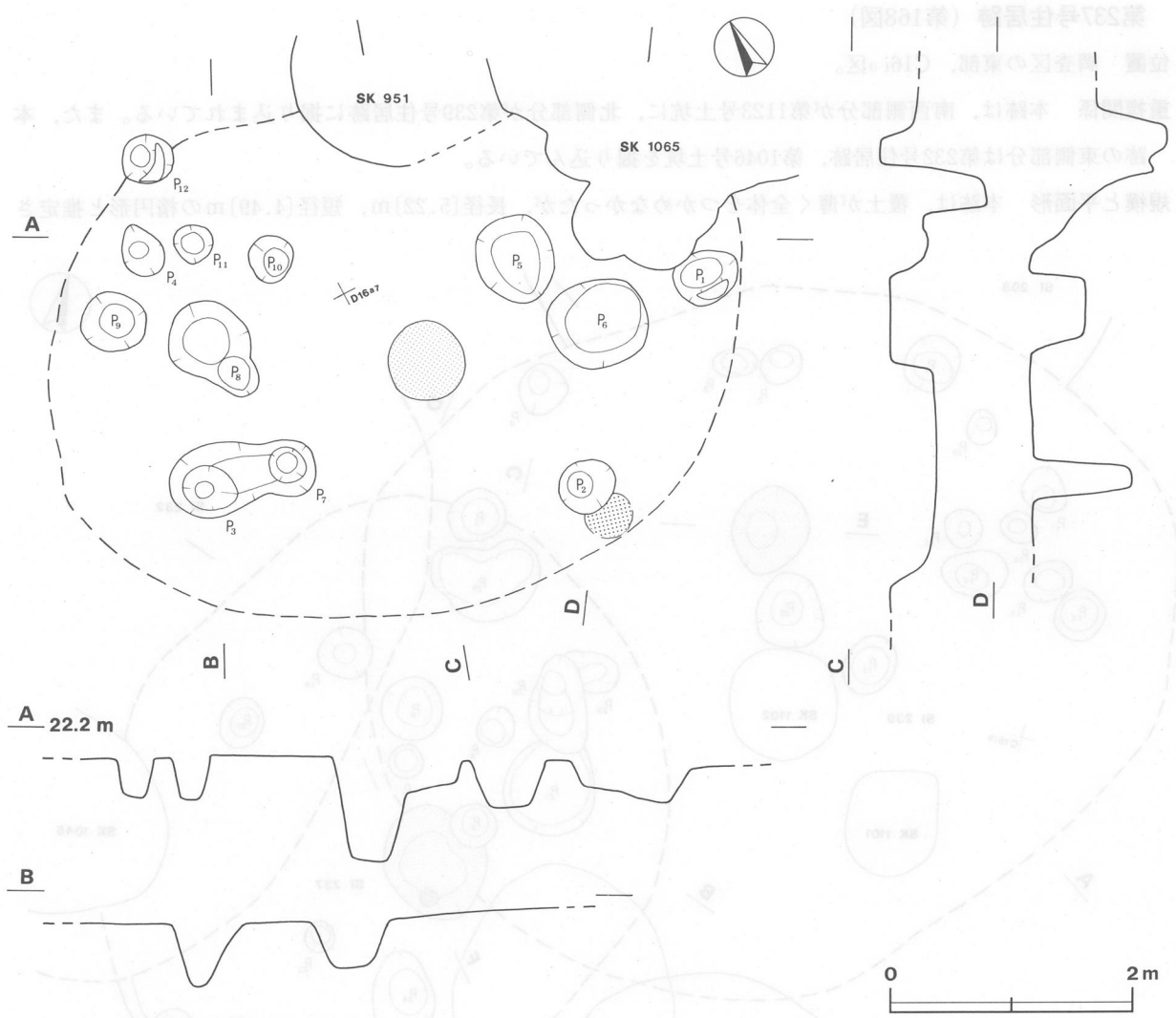
床 平坦である。踏み固められた面は見られない。

ピット 12か所。P₁は長径55cm，短径45cmの楕円形で，深さ26cm，P₂は長径49cm，短径45cmの卵形で，深さ84cm，P₃は長径46cm，短径35cmの楕円形で，深さ55cm，P₄は長径45cm，短径34cmの卵形で，深さ35cm。これらは，規模にばらつきはあるが，配列から主柱穴と思われる。他は性格不明である。

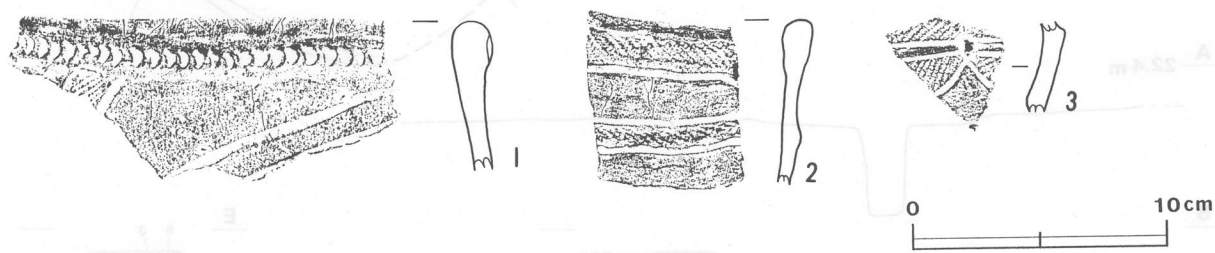
炉 中央部やや南東寄りに付設されている。径64cmほどの円形で，覆土はなく，硬化した炉床のみ確認された。南東隅に，径40cmほどの円形の焼土の広がりが見られるが，炉ではない。

遺物 出土遺物は極少量で，ほとんどが細片である。

第167図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は粗製土器の口縁部片で，口縁部肥厚面に粘土紐を貼り付けて爪形の刻文帯を施し，以下に斜行平行文を沈線で施文，部分的に縄文が施されている。2も口縁部片で，沈線区画の縄文帯が口縁部以下2段見られ，縄文帯間は磨り消されている。3は胴部片で，沈線区画の



第166図 第236号住居跡実測図



第167図 第236号住居跡出土遺物実測・拓影図

微隆起線の上に小突起が付けられ、胴部下に施された上向き弧状の沈線が突起で連結している。突起の上部及び下部の沈線区画内は縄文が施文されている。

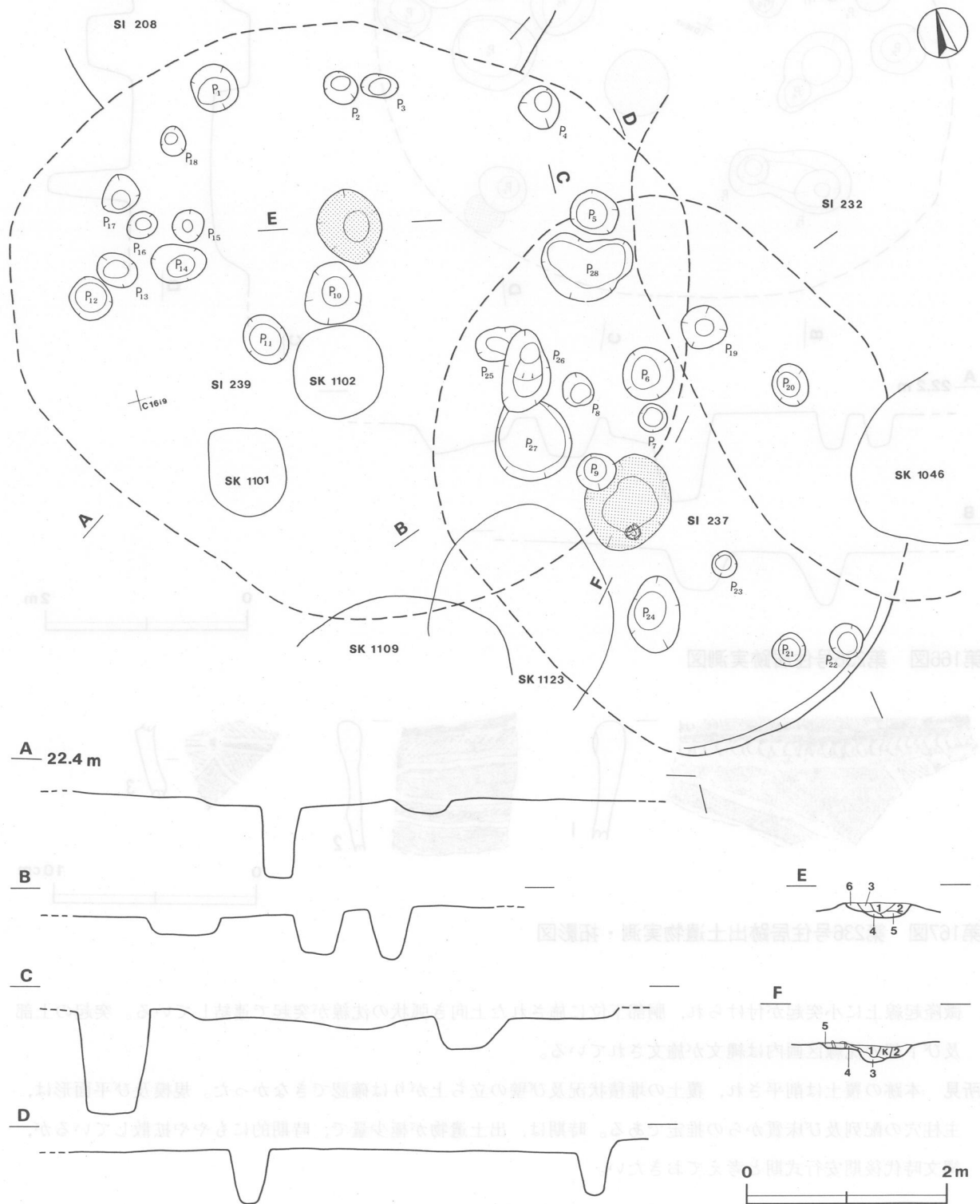
所見 本跡の覆土は削平され、覆土の堆積状況及び壁の立ち上がりは確認できなかった。規模及び平面形は、主柱穴の配列及び床質からの推定である。時期は、出土遺物が極少量で、時的にもやや拡散しているが、縄文時代後期安行式期と考えておきたい。

第237号住居跡（第168図）

位置 調査区の東部，C16i o区。

重複関係 本跡は，南西側部分が第1123号土坑に，北側部分が第239号住居跡に掘り込まれている。また，本跡の東側部分は第232号住居跡，第1046号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 本跡は，覆土が薄く全体をつかめなかったが，長径[5.22]m，短径[4.49]mの楕円形と推定さ



第168図 第237・239号住居跡実測図

れる。

長径方向 [N-35°-W]

壁 南壁が一部残存しており、壁高10cmほどで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。特に踏み固められた面は見られない。

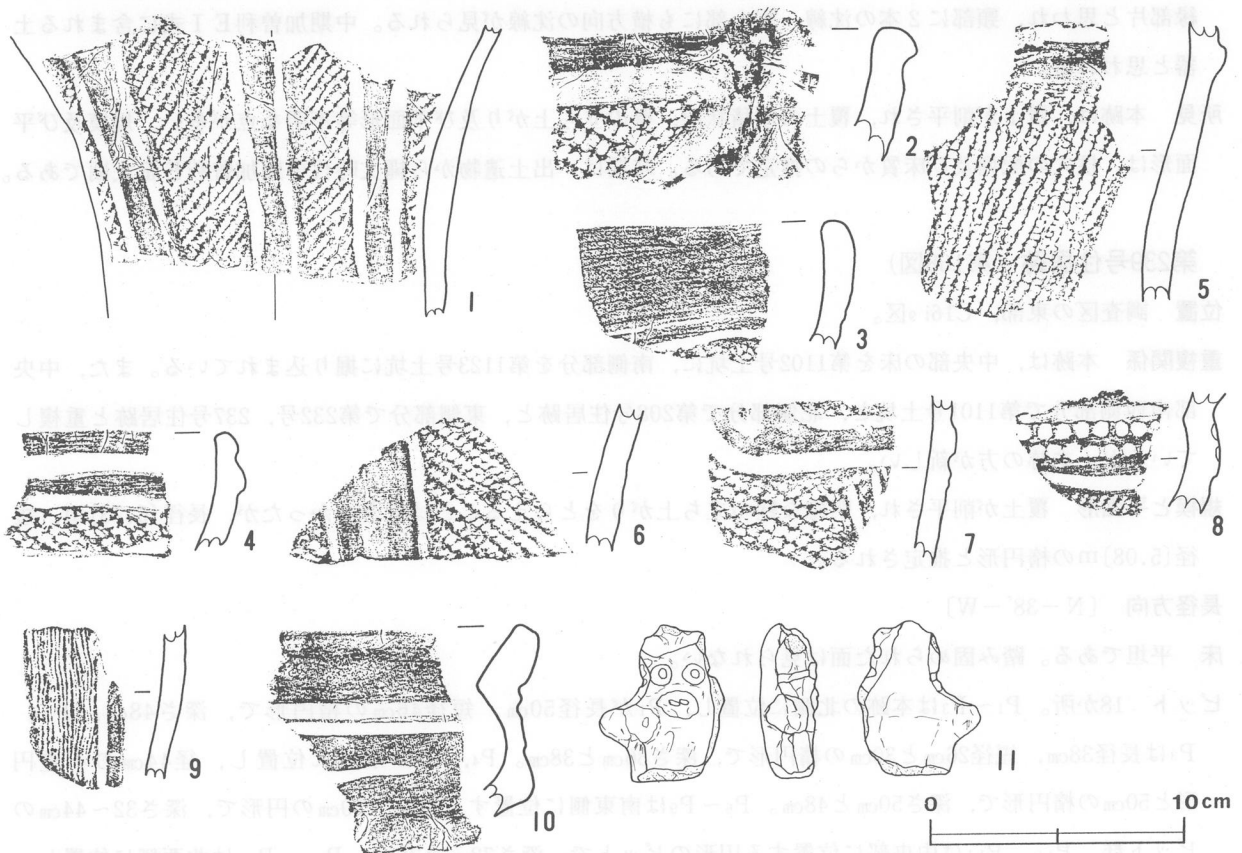
ピット 10か所。P₁₉は径45cmほどの円形で、深さ55cm、P₂₀は長径42cm、短径35cmの楕円形で、深さ48cm、P₂₁は径35cmの円形で、深さ30cm、P₂₄は長径78cm、短径53cmの卵形で、深さ36cm、P₂₅は長径[46]cm、短径33cmの楕円形で、深さ32cm。これらは、規模にばらつきが見られるものの配列から支柱穴の可能性が考えられる。しかし、位置的に見ると、P₂₁ではなくP₂₂(径35cmの円形で、深さ45cm)が、同様にP₂₅ではなくP₂₆(長径67cm、短径48cmの楕円形で、深さ50cm)が支柱穴とも考えられる。P₂₃、P₂₇、P₂₉は性格不明である。なお、平面図中、P₅~P₉は第239号住居跡のピットと思われる。

炉 中央部やや西寄りに付設されていると思われる。長径96cm、短径79cmの不整楕円形で、床を16cmほど掘りくぼめ、炉の南側に土器を付設した土器埋設炉である。炉の北側は第239号住居跡のP₇によって掘り抜かれている。炉土層1に焼土を比較的多く含むが、他の層は焼土が少なく、炉床もそれほど焼けてない。

炉土層解説

- 1 明赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物 出土遺物は1以外は細片が多く、器形の判別できるものは少ない。1は炉体土器である。11の土偶は流れ込みである。



第169図 第237号住居跡出土遺物実測・拓影図

第237号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第169図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(11.6)	胴部片。胴部中位までは直立気味に立ち上がり、上部は緩やかな曲線を描き外傾する。縦位回転の単節縄文LRを地文とし、沈線区画の磨消帯が直線的に垂下している。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P170 25% 炉内 (加曾利EⅢ)

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第169図11	土 偶	(6.2)	(4.9)	(1.3)	(52.3)	40	下半身及び胴部左側欠損。平板状で、目、口及び乳房は粘土貼り付けで突起状を呈している。耳にも加飾されたと思われるが、欠損しているため不明である。	DP47 覆土 砂粒・長石 橙色 普通 (晩期)

第169図2～10は縄文土器片の拓影図である。2～4は口縁部片で、2は沈線による区画文が施され、区画内は縄文施文、区画の接点部の口縁部には小突起を有し、小突起から区画に沿い隆線が垂下している。3は口縁部無文帯下に横走沈線、以下胴部は縄文が施されている。4は沈線を沿わせた隆線で区画文を描き、区画内に複節縄文LR Lが施文されている。5は胴部から頸部にかけての破片と思われる。隆線以下に単節縄文R Lが施文されている。6は単節縄文L Rが地文で、幅の広い沈線区画の磨消帯が垂下している。7も胴部から頸部にかけての破片と思われ、上部に沈線の区画文、胴部に複節縄文L R Lと垂下する沈線が見られる。8は沈線区画内に棒状工具による円形刺突文が2段巡らされ、以下に単節縄文R Lが施文されている。9は胴部片で、櫛歯状工具による縦方向の条線文を地文にし、沈線区画の磨消帯が垂下している。これらの土器は、中期加曾利EⅡ式に近いものも見られるが、加曾利EⅢ式の範疇と思われる。10は浅鉢形土器の口縁部片と思われ、頸部に2本の沈線、胴上部にも横方向の沈線が見られる。中期加曾利EⅠ式に含まれる土器と思われる。

所見 本跡は、覆土が削平され、覆土の堆積状況、壁の立ち上がり及び平面形等不明な点が多い。規模及び平面形は、柱穴の配列及び床質からの推定である。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第239号住居跡 (第168図)

位置 調査区の東部、C16i₉区。

重複関係 本跡は、中央部の床を第1102号土坑に、南側部分を第1123号土坑に掘り込まれている。また、中央部南西側部分で第1101号土坑と、北側部分で第208号住居跡と、東側部分で第232号、237号住居跡と重複しているが、本跡の方が新しい。

規模と平面形 覆土が削平され、明確な壁の立ち上りをとらえることはできなかったが、長径[5.73]m、短径[5.08]mの楕円形と推定される。

長径方向 [N-38°-W]

床 平坦である。踏み固められた面は見られない。

ピット 18か所。P₁～P₃は本跡の北側に位置し、P₁が長径50cm、短径46cmの楕円形で、深さ48cm。P₂、P₃は長径38cm、短径26cmと30cmの楕円形で、深さ36cmと38cm。P₄、P₅は東側に位置し、径44cmの不整形と50cmの楕円形で、深さ50cmと48cm。P₆～P₉は南東側に位置する径30～50cmの円形で、深さ32～44cmのピット群。P₁₀、P₁₁は中央部に位置する円形のピットで、深さ72cmと76cm。P₁₂～P₁₈は北西側に位置し、長径32～55cmの円形あるいは楕円形で、深さ25～85cmのピット群。これらのピットの内、P₁、P₄、P₅、

P₆, P₉が壁の内側を巡る, 深さが42~50cmの主柱穴と仮定すると, 位置的にP₆, P₇のいずれかも主柱穴になる。また, 北西側でもP₁₃, P₁₇も深さが46cmと36cmで, 主柱穴の可能性が考えられる。しかし, 南西側でピットが確認されず, 各ピットの覆土の色も大差無く, 判断は難しい。

炉 中央部やや北寄りに付設されていると思われる。長径77cm, 短径75cmの不整円形で, 床を16cmほど掘りくぼめた地床炉である。覆土は焼土を多量含み, 炉床は赤く焼け, 硬くなっている。

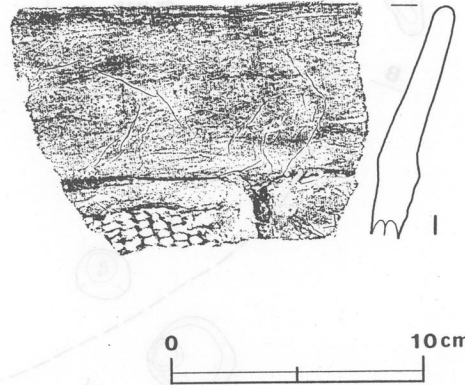
炉土層解説

- 1 赤 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子多量, 焼土中ブロック中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子・ローム粒子多量, 焼土中ブロック極少量
- 3 暗 赤 褐色 焼土粒子多量, 焼土中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 4 暗 赤 褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 5 暗 赤 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 6 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子極少量

遺物 少量の土器片が出土しているが, 細片がほとんどである。

第170図1は縄文土器口縁部片の拓影図である。口縁部幅広の無文帯で, 胴部との境に微隆起線が巡り, 胴部に垂下する微隆起線が接続する。地文は単節縄文LRである。

所見 本跡は, 上部が削平されているため, 覆土の堆積状況や壁の立ち上がりがとらえられず, 炉を中心とした床質及びピット群の配列から規模及び平面形を推定した。時期は出土遺物が少量のため断定はできないが, 縄文時代中期加曾利EⅢ~Ⅳ式期の範疇と思われる。



第170図 第239号住居跡出土遺物実測・拓影図

第238号住居跡 (第171図)

位置 調査区の北東部, C17c₂区。

重複関係 本跡は, 西側部分の床が第1128号土坑に掘り抜かれている。

規模と平面形 壁の立ち上がりがとらえられなかったが, 長径[5.73]m, 短径[5.08]mの楕円形と推定される。

長径方向 [N-55°-W]

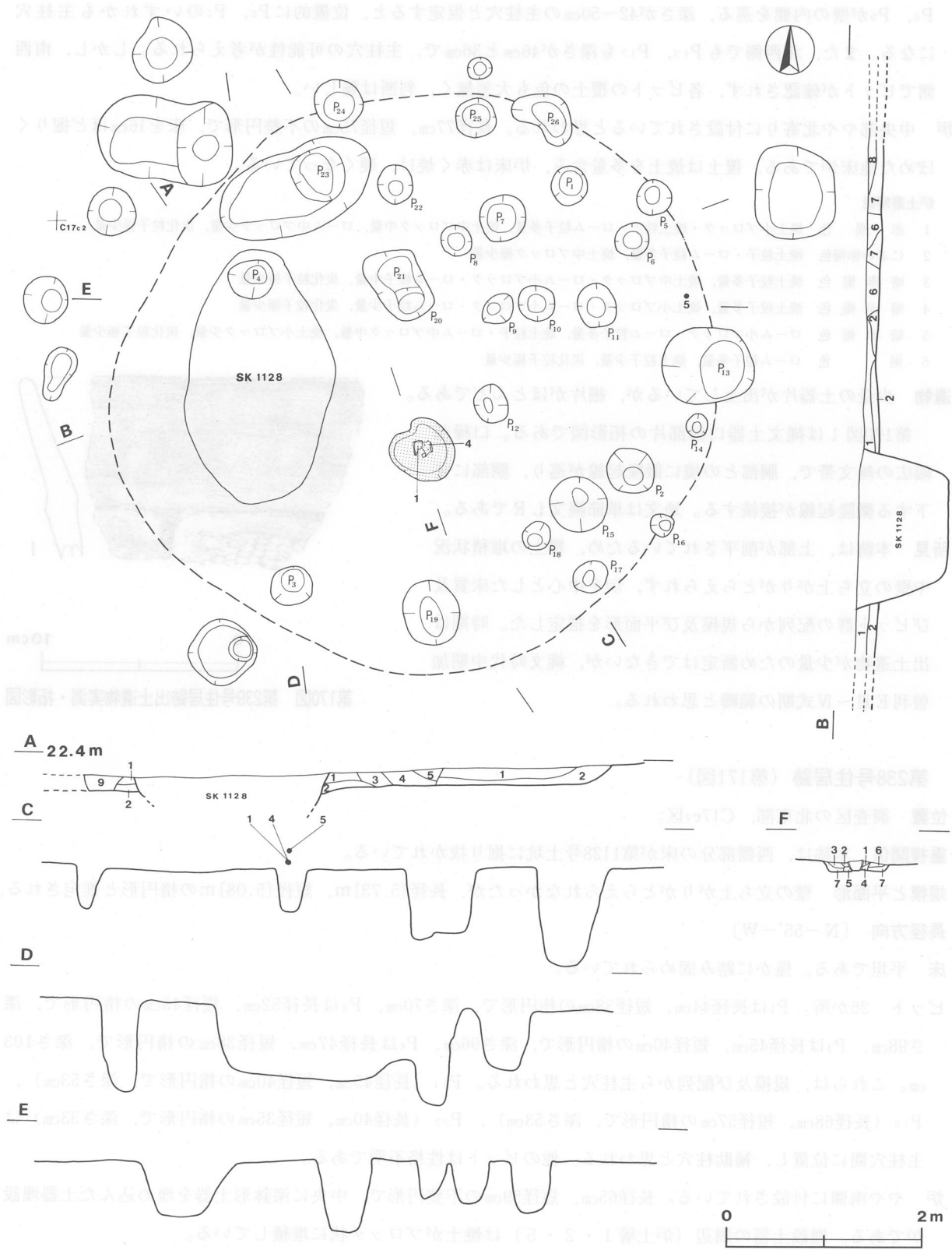
床 平坦である。僅かに踏み固められている。

ピット 26か所。P₁は長径44cm, 短径38cmの楕円形で, 深さ70cm, P₂は長径52cm, 短径45cmの楕円形で, 深さ98cm, P₃は長径45cm, 短径40cmの楕円形で, 深さ96cm, P₄は長径47cm, 短径38cmの楕円形で, 深さ103cm。これらは, 規模及び配列から主柱穴と思われる。P₁₁(長径45cm, 短径40cmの楕円形で, 深さ53cm), P₁₉(長径68cm, 短径57cmの楕円形で, 深さ53cm), P₂₂(長径40cm, 短径35cmの楕円形で, 深さ33cm)は主柱穴間に位置し, 補助柱穴と思われる。他のピットは性格不明である。

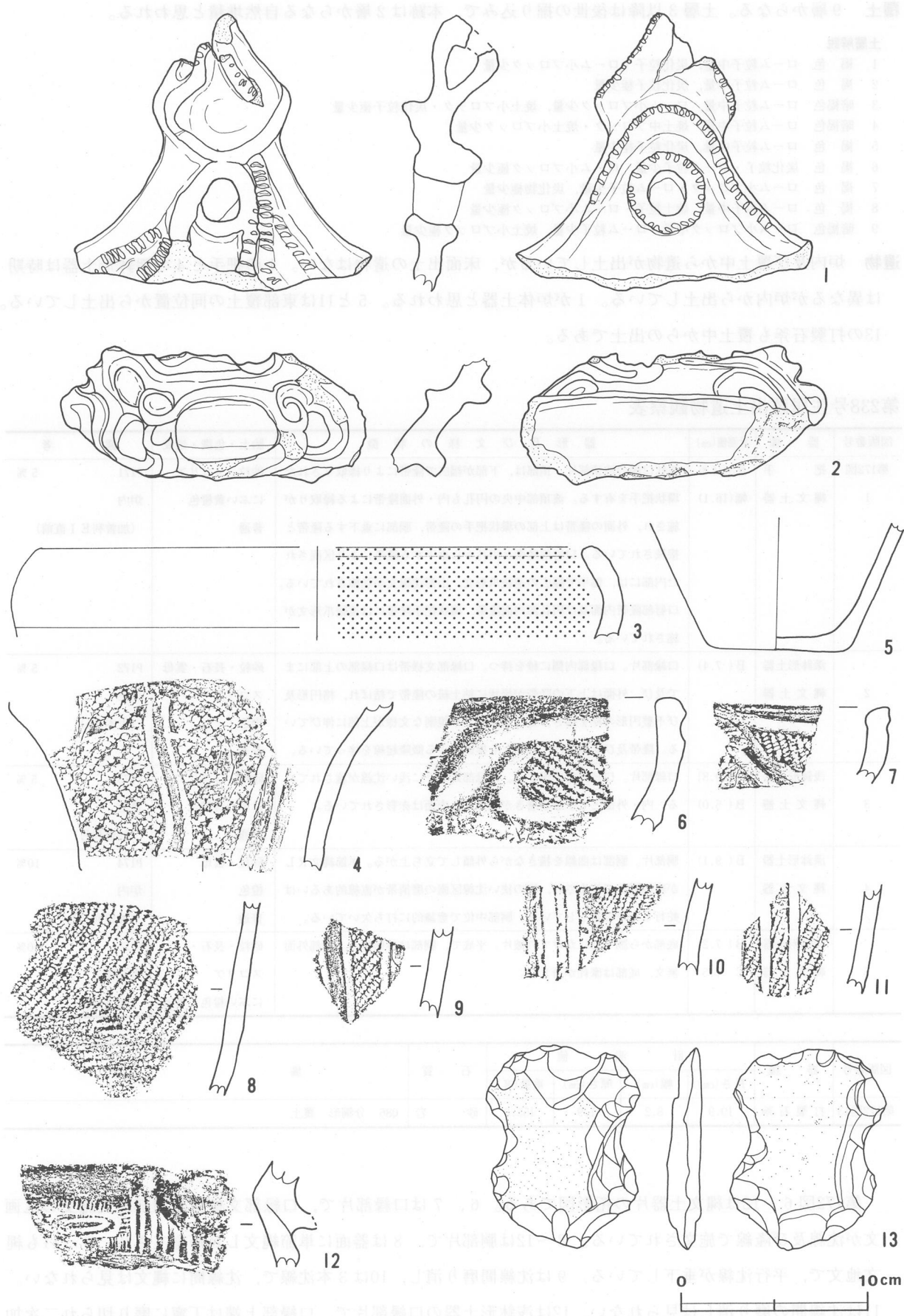
炉 やや南側に付設されている。長径65cm, 短径59cmの不整円形で, 中央に深鉢形土器を埋め込んだ土器埋設炉である。埋設土器の周辺(炉土層1・2・5)は焼土がブロック状に堆積している。

炉土層解説

- 1 暗 赤 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子多量, 焼土中ブロック中量, 炭化粒子極少量
- 2 暗 赤 褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 3 極 暗 褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 4 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 5 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 6 暗 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子極少量
- 7 暗 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子極少量



第171図 第238号住居跡実測図



第172図 第238号住居跡出土遺物実測・拓影図

覆土 9層からなる。土層3以降は後世の掘り込みで、本跡は2層からなる自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 6 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック極少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量

遺物 炉内及び覆土中から遺物が出土しているが、床面出土の遺物はない。1の把手と4の深鉢形土器は時期は異なるが炉内から出土している。1が炉体土器と思われる。5と11は東部覆土の同位置から出土している。13の打製石斧も覆土中からの出土である。

第238号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第172図 1	把手 縄文土器	長さ(14.8) 幅(16.1)	波状口縁の波頂部片。頂部は、下部が幅広く隆帯により縁取りされた環状把手を有する。波頂部中央の円孔も内・外面隆帯による縁取りが施され、外面の隆帯は上部の環状把手の隆帯、胴部に垂下する隆帯と接続されている。口唇部隆帯と円孔から垂下する隆帯により区画された内部には、偏平で幅広い連続爪形文、山形沈線文が加飾されている。口唇部隆帯内面及び円孔部内面隆帯、環状把手隆帯には連続爪形文が施されている。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P171 5% 炉内 (加曾利E I直前)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(7.4)	口縁部片。口縁部内側に稜を持つ。口縁部文様帯は口縁部の上部にまで及び、外面は上下の隆帯が橋状に粘土紐の隆帯で結ばれ、楕円形及び不整形の枠を描き、更に曲線的で不規則な文様が上部に伸びている。隆帯及び文様は内・外面とも指頭による微隆起線を伴っている。	砂粒・長石・雲母 スコリア 橙色 普通	P172 5% 覆土 (大木8a)
3	浅鉢形土器 縄文土器	A(29.8) B(5.0)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部外面下に浅い沈線が施されている。内・外面とも丁寧な磨きが施され、内面は赤彩されている。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P173 5% 覆土 (加曾利E)
4	深鉢形土器 縄文土器	B(9.1)	胴部片。胴部は曲線を描きながら外傾して立ち上がる。単節縄文LRが縦位回転で施文され、幅の狭い沈線区画の磨消帯が直線のあるいは蛇行しながら垂下している。胴部中位で意識的に打ち欠いている。	砂粒・雲母 橙色 普通	P174 10% 炉内 (加曾利E II)
5	深鉢形土器 縄文土器	B(7.2) C 7.5	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾する。胴部外面無文、底部は摩耗が著しい。	砂粒・長石・ スコリア にぶい橙色 普通	P175 10% 東部覆土 (加曾利E)

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第172図13	打製石斧	10.9	8.2	1.9	155.6	砂岩	Q86 分銅形 覆土

第172図6～12は縄文土器片の拓影図である。6, 7は口縁部片で、口縁部文様帯に内部縄文施文の区画文が沈線及び隆線で施文されている。8～12は胴部片で、8は器面に単節縄文LRが施文され、9～11も縄文地文で、平行沈線が垂下している。9は沈線間磨り消し、10は3本沈線で、沈線間に縄文は見られない。11は沈線間の磨り消しは見られない。12は浅鉢形土器の口縁部片で、口縁部上端は丁寧に磨り切られ二次加工をしていると思われ、以下は楕円形や直線及び条線状の文様を太さの異なる沈線で描いている。外面に突

起を有するが、破損しているため形状は不明である。12は勝坂式の影響を受けた中期加曾利 E I 式初期のものと思われ、1と同様に他の出土土器より古手である。

所見 覆土と壁の判断が困難で立ち上がりがとらえられず、規模及び平面形は主柱穴の配列及び床質からの推定である。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利 E II 式期である。

表2 前田村遺跡D区住居跡一覽表

住居跡 番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m) (長径×短径)	壁高 (cm)	床面	主柱穴	ピット	炉	覆土	出土遺物	備考 ※重複関係(新→旧)
95	C15c ₆	[N-67°-W]	[楕円形]	[6.55]×5.32	7-14	平坦	8	3	1	自然	縄文土器	SK-292→本跡→SK-253・257, 埋設土器
96	C15a ₇		[楕円形]	[6.64]×4.70	25-26	平坦	3	2	1	自然	縄文土器	SK-255・259→本跡→SI-97, SK-293不明
97	C15a ₈					平坦		2	1	自然	縄文土器	SI-96, SK-293→本跡
98	C15e ₄	[N-47°-E]	[楕円形]	[7.52]×6.93		平坦		2	1		縄文土器, 土製円板, 打製石斧, 磨製石斧, 磨石, 骨角器(垂飾)	SK-824→本跡→SI-182, SK-297・747-750・839
99	C15g ₆	[N-51°-E]	[楕円形]	5.97×[5.08]	8-10	平坦	4		1		縄文土器, 土製円板, 石鏃, 磨石	SI-117→本跡→SI-183, SK-802・803 埋設土器
100	C15g ₇	[N-85°-E]	楕円形	6.29×5.52	5-12	平坦	1		1		縄文土器, 石鏃, 凹石	SK-291→本跡→SI-183, SK-801・850 土器埋設炉
101	C15g ₉	[N-44°-W]	[楕円形]	[6.68]×5.92		平坦	5	1 2	1		縄文土器, 土偶, 石棒, 磨石, 獸骨	SK-290・767→本跡→SI-187, SK-766・771・780・782・786・791・792・866
102	C15i ₈		[円形]	[6.54]×6.37		平坦	6	1 3	1		縄文土器, 異形土製品, 磨石, 骨角器(角針), 獸骨, 人骨	本跡→SK-772-775・1085, SI-230A不明 焼土痕(2か所)
103	C15i ₅	[N-73°-W]	[楕円形]	[5.17]×4.30		平坦	[4]		1		縄文土器, 磨製石斧, 獸骨	本跡→SI-115・189, SK-754・755・857, SK-808不明
104	D15c ₄		[円形]	7.68×[7.40]	5-7	平坦	4	3	1		縄文土器	SK-294-296→本跡
105	D15a ₅	[N-80°-W]	[楕円形]	[6.30]×5.04	8-13	平坦	7	4	1	自然	縄文土器, 打製石斧, 磨製石斧	本跡→SI-191・194, SK-743・809・840・846
106A	C16f ₃			[4.11]×[1.77]	33-38	平坦				自然	縄文土器, 耳栓, 土製円板, 磨石, 獸骨	本跡→SI-206・207, SI-106B・204不明
106B	C16e ₃	[N-36°-E]	[楕円形]	[7.43]×5.72	8-16	やや凸凹	4	3 0	1	人為	縄文土器, 土製円板, 石鏃, 磨石	SI-106A・111, SK-880-882・933→本跡→SI-204・206・207・211
107	C16g ₅	[N-45°-E]	[楕円形]	[8.33]×6.52		平坦	4	2 2	1	人為	縄文土器, 土偶, 土製円板, 石棒, 打製石斧, 磨製石斧, 磨石, 獸骨	本跡→SI-212, SK-938, SK-325不明
108	C16i ₃		円形	7.80×7.55	10-15	平坦	5	8	1	自然	縄文土器, 土偶, 耳飾, 土製円板, 石棒, 磨石, 敲石, 浮子, 獸骨	本跡→SI-110・202・204, SK-845・864・871 SI-109不明, 焼土痕(1か所)
109	C16i ₂	[N-53°-W]	[楕円形]	[3.70]×2.95	20-30	平坦	2	1		人為	縄文土器, 土偶, 土製円板, 獸骨	本跡→SI-202, SK-837・845・883, SI-108・110不明, 焼土痕(3か所)
110	C16g ₂	[N-47°-W]	[楕円形]	[7.32]×6.50		やや凸凹		1		人為	縄文土器, 土偶, 獸骨	SI-108→本跡→SI-186・202・204, SK-837・853・870・871・875・883, SI-109不明
111	C16f ₂			東西径6.40	24-44	平坦				人為	縄文土器, 耳栓, 耳飾, 磨石, 獸骨	本跡→SI-204, SK-875・932, SI-106B・110・211不明
115	C15i ₆	[N-25°-E]	楕円形	6.37×5.62	27-45	平坦	4	3	1	人為	縄文土器, 磨製石斧, 磨石, 敲石, 獸骨	本跡→SI-103・189・194・230A・230B, SK-768・807・808・816
116A	C15g ₀					平坦					縄文土器	SI-116B→本跡→SI-187, SK-782・874
116B	C15g ₁					ほぼ平坦			1		縄文土器, 磨製石斧, 敲石	本跡→SI-116A・186・187, SK-827・841・842・851・858・884・888・944
117	C15h ₅	[N-58°-W]	[楕円形]	[8.54]×6.73	16	凸凹		5	1	自然	縄文土器, 土偶, 耳飾, 土器片鏃, 土製円板, 石剣, 磨石, 獸骨	SK-755・808・1093→本跡→SI-99・189・230A・230B, SK-1086・1089・1094・1095
137	C16c ₇	[N-44°-E]	楕円形	6.38×5.53	12-17	平坦	5	1 8	2	自然	縄文土器, 磨製石斧, 石	SK-502・504→本跡→SK-503, 土器片鏃・炉
168	C15e ₅	[N-50°-W]	楕円形	5.16×3.48	8-12	平坦		2		自然	縄文土器	SK-724-727・758・759→本跡, SI-196不明
169	C15c ₄	[N-52°-W]	[楕円形]	[7.50]×6.04	11	平坦	5	8	1	自然	縄文土器, 石	SK-724→本跡→SK-717・723, 土器片石鏃・炉
170	C15e ₂		[円形]	[4.56]×4.55	4-13	平坦	4			自然	縄文土器	本跡→SI-171・173
171	C15e ₂	[N-33°-E]	楕円形	3.87×3.14	17-22	平坦		3		人為	縄文土器	SI-170→本跡→SI-173
172	C15g ₁		[不整円形]	[4.85]×4.40	10	平坦	3		1	自然	縄文土器, 獸骨	本跡→SI-175, SK-734A・820・821・852 焼土痕(1か所)

住居跡 番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模(m) (長径×短径)	壁 高 (cm)	床面	主柱穴	ピット	炉	覆土	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
173	C15e ₂	[N-68'-E]	[楕円形]	[5.08×4.60]	4	ほぼ平坦	3	3	1	自然		SI-170-171, SK-730→本跡
174	C15h ₁				4	平坦		2			縄文土器	SI-175→本跡→SI-188, SK-787・813・826不明
175	C15h ₁	[N-75'-W]	[楕円形]	[4.75×4.00]	10	平坦	3	2	1	人為	縄文土器, 垂飾, 獣骨	SI-172→本跡→SI-174
176	C15h ₃			東西径4.75	4~6	平坦	[2]	2		自然	縄文土器, 磨石, 獣骨	SI-181→本跡
178	C15j ₂		[円形]	[6.58×6.40]		平坦	6	4	1	自然	縄文土器	SK-738・739・741・795・814・829→本跡, SI-179不明, 焼土痕(1か所), 壁際人為堆積
179	D15a ₁		[円形]	[7.85]×7.52	17~23	平坦	4	7	2	人為	縄文土器, 土偶, 土製円板, 石皿, 獣骨, 貝	SK-796・804→本跡, SI-178不明
180	C15e ₅			南北径3.50	24	平坦		1		人為	縄文土器	SI-98・182, SK-713→本跡
181	C15g ₃	N-13'-E	[楕円形]	[6.08]×4.62	4~6	平坦	4	5	1	自然	縄文土器, 磨石, 石, 獣骨	本跡→SI-176, SK-735, SI-197不明 石囲い土器埋設炉
182	C15e ₆	[N-7'-E]	[楕円形]	[5.21×4.40]	10	平坦	6	1 2	1	自然	縄文土器, 土製円板, 獣骨	SI-98, SK-749・824→本跡→SI-180
183	C15g ₇	N-40'-W	扇形	6.88×5.50	4~20	平坦	6	2	1	人為	縄文土器, 獣骨	SI-100, SK-802・803・811・850→本跡→SK-801 土器埋設炉
185	D15b ₂			径 [5.50]	16	平坦		2	1	人為	縄文土器	SK-834・835→本跡
186	C16g ₁		[円形]	6.00×[5.50]	16	平坦	4	1 3	1	自然	縄文土器, 磨石, 獣骨	SI-110・116B, SK-827・888→本跡→SI-201, SK-841・842・858・884・889
187	C15f ₉	N-30'-E	楕円形	5.44×4.62	13	平坦	9	3		自然	縄文土器, 獣骨	SI-101・116A・116B, SK-874・944→本跡→SK-782・786・866, 焼土痕(2か所), 埋設土器
188	C15i ₁		[円形]	[4.00]×3.95	10~20	平坦		3	1	自然	縄文土器	SI-174, SK-810・828→本跡, 土器埋設炉
189	C15j ₆	N-19'-E	[楕円形]	[7.38]×5.92	4~24	平坦	7	2	1	自然	縄文土器, 獣骨	SI-103・115・230A, SK-807・808・857→本跡 SI-230B不明
190	C15h ₇	N-16'-E	不整形台形	3.72×3.03	10~15	平坦		9		人為	縄文土器, 土製円板, 獣骨, 人骨	本跡→SI-230A, SK-805
191	D15a ₄		円形	3.03×3.03	42	凸凹	[1]	1		人為	縄文土器, 獣骨	SI-105→本跡→SK-809, 南側に張り出し部
192	C15c ₈	N-18'-E	[楕円形]	5.08×[4.15]	8~22	ほぼ平坦	8	5		自然	縄文土器	SI-193, SK-830→本跡→SK-831・836
193	C15d ₈	[N-11'-E]	[楕円形]	[4.92×4.45]	10~15	ほぼ平坦	3	7		自然	縄文土器	本跡→SI-192, SK-806・830・831・836, 焼土痕(1か所)
194	D15a ₅				12	凸凹		3			縄文土器	SI-105・189, SK-816→本跡
195	C16a ₁		[円形]	5.21×[5.07]	8~22	平坦	5	2	1		縄文土器	本跡→SK-817, 土器埋設炉
196	C15e ₅		[不整形円形]	[4.10×3.96]		平坦	[4]	1	1		縄文土器	SK-714・759→本跡, SI-168・197不明 土器埋設炉
197	C15f ₄	[N-83'-E]	[楕円形]	[7.60×6.20]		平坦	1 2	.3	1			SK-822→本跡 SI-196, SK-728・729・735・823不明
199	C16f ₈	N-9'-E	楕円形	6.80×6.06	7~15	平坦	5	9	1	自然	縄文土器, 磨製石斧, 石皿, 敲石	SK-957・1052・1127→本跡→SK-942・958・960, SI-200不明, 土器埋設炉, 焼土痕(2か所)
200	C16f ₉	N-15'-E	[楕円形]	7.52×[5.84]	14~20	平坦	4	1 0	1	人為	縄文土器, 石	SK-955・1070・1099・1100・1111→本跡→SK-954・1071, SI-199不明, 土器片石囲い炉
201	C16h ₁					平坦		5			縄文土器	SI-186→本跡
202	C16i ₂	[N-3'-W]	[楕円形]	[8.60×7.05]	5~8	平坦	8	4 1	1	人為	縄文土器, 石, 獣骨	SI-108~110, SK-845・853・878・879→本跡→SK-837, SK-871・883不明, 石囲い炉
203	C16d ₂		円形	7.42×7.20	20~25	平坦	7	5	1	人為	縄文土器, 磨製石斧	SK-825・838・849・854・863→本跡, 土器埋設炉
204	C16g ₃	[N-31'-W]	[楕円形]	[7.08×6.40]	10	ほぼ平坦	5	1 9	1	人為	縄文土器, 耳飾り, 耳栓, 石皿, 磨石, 獣骨	SI-106A・106B・108・110・111→本跡→SI-207, SK-864・870・871・875・932・1053
205	C16c ₄	N-7'-W	扇形	7.54×6.05	20~24	平坦	6	1 1	1	自然	縄文土器, 土器片錘, 獣骨	SK-872・873・876・877・900→本跡, 土器埋設炉
206	C16f ₄	[N-12'-E]	[楕円形]	[6.95×6.22]		平坦	5	1 3	1		縄文土器, 獣骨	SI-106A・106B・207, SK-867・868・885・943→ 本跡→SK-931, 土器片囲い炉

住居跡 番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m) (長径×短径)	壁高 (cm)	床面	主柱穴	ピット	炉	覆土	出土遺物	備考 ※重複関係(新→旧)
207	C16f ₄	[N-70°-W]	[楕円形]	(7.38×6.40)		ほぼ 平坦	7	2 4	1	(人為)	縄文土器, 石皿, 凹石, 石, 獣骨	SI-106A・106B・204, SK-757・760・881・1062→ 本跡, SI-206不明, 石囲い炉, 焼土痕(1か 所)
208	C16g ₉	N-44°-W	不整形	4.83×4.52	28~41	ほぼ 平坦	4	8	1	自然	縄文土器	SI-239, SK-1068・1147→本跡→SI-210 SK-1092, 壁溝
210	C16g ₈	N-68°-E	[楕円形]	(4.45)×3.28	3~8	ほぼ 平坦				人為	縄文土器	SI-208, SK-940→本跡→SK-1061, 覆土上層 は自然堆積
211	C16e ₂		[円形]	(5.05×4.90)		平坦	4	8	1		縄文土器, 敲石	SI-106B・111→本跡→SK-933・937 SK-959不明
212	C16f ₆	[N-44°-W]	[楕円形]	(6.24×5.68)	10	平坦	4	1 2	1		縄文土器, 打製石斧	SI-107, SK-938・1050→本跡→SK-1051・1076
213	C16j ₈	N-16°-W	[楕円形]	5.64×(4.78)	25~40	平坦	3	7	1	自然	縄文土器, 独鈷石, 磨製石斧, 石 皿, 磨石, 石, 獣骨	SK-1066・1091・1154→本跡→SK-952・1079 土器片石囲い炉
215	C16i ₆	N-0°	[楕円形]	(4.59)×3.83	10	平坦	4	1	1	人為	縄文土器	SK-1055~1057・1075・1136→本跡→SK-1117
216	C16j ₅	N-77°-W	不整形	4.08×3.48	13~18	傾斜	4	2		人為	縄文土器	SK-1073・1074→本跡→SK-1080
217	C16d ₈	[N-36°-W]	[不整形]	(4.66×3.70)	6			5	[1]		縄文土器, 土製円板	SK-819・1058・1064→本跡→SI-219, SK-1059・ 1060, 埋設土器, 消失家屋か
218	C17g ₁	[N-2°-E]	[楕円形]	(5.61×4.76)	12~20	やや 凸凹		5	1	自然	縄文土器, 土器片錘, 石鏃, 獣骨	本跡→SI-232・233, SK-1098・1124・1146
219	C16d ₉			南北径(4.20)		平坦		8	1			SI-217→本跡, SK-1059・1063不明
230A	C15h ₇	[N-33°-E]	[楕円形]	(7.52×5.00)		平坦	6	8	1		縄文土器, 石皿	SI-190・230B, SK-805・1084・1085→本跡
230B	C15h ₆		[不整形]	(6.40×6.06)		平坦		1 2			縄文土器	SI-117, SK-1084・1086・1089・1093→本跡→ SI-189・230A, 焼土痕(1か所)
231	C17f ₃	N-44°-E	楕円形	7.57×5.01	15~35	やや 傾斜	9	8	1	自然	縄文土器, 顔面土製品, 土製円板 磨製石斧	本跡→SK-1096・1112, SK-1097不明 土器埋設炉
232	C17h ₁	[N-8°-E]	[楕円形]	(7.62×5.90)	8~10	ほぼ 平坦	9	1 3	1	自然	縄文土器	SI-237・239, SK-1044・1067→本跡→SK-1045・ 1046・1153, 土器埋設炉
233	C17f ₁	[N-43°-E]	[楕円形]	(6.00×5.50)	37	ほぼ 平坦	7	4	1	自然	縄文土器, 土器片錘, 敲石	SI-218, SK-1134→本跡→SK-1146 SK-1083不明
234	C17d ₂	[N-83°-E]	[楕円形]	(6.24×5.50)	14~30	ほぼ 平坦	3	1 3	1	人為	縄文土器, 土偶, 土器片錘, 打製 石斧, 磨製石斧	SK-1119・1135・1140・1149→本跡→SK-1142・ 1148
235A	C17j ₂		円形	5.40×5.15	8~20	凸凹	3	2	2	人為	縄文土器, 石皿	SK-1116・1125→本跡, SI-235B不明
235B	C17i ₃	N-48°-E	[楕円形]	5.34×(4.75)	30	ほぼ 平坦		1				SI-235A, SK-1121・1122・1126・1151・1152不明
236	D16a ₇	[N-72°-W]	[楕円形]	(5.84×4.42)		平坦	4	8	1		縄文土器	SK-1065→本跡→SK-951, 焼土痕(1か所)
237	C16i ₀	[N-35°-W]	[楕円形]	(5.22×4.49)	10	平坦	5	5	1		縄文土器, 土偶	SI-239, SK-1123→本跡→SI-232, SK-1046 土器埋設炉
238	C17c ₂	[N-55°-W]	[楕円形]	(5.73×5.08)		平坦	4	2 2		自然	縄文土器, 打製石斧	SK-1128→本跡, 土器埋設炉
239	C16i ₉	[N-38°-W]	[楕円形]	(5.73×5.08)			7	1 1	1		縄文土器	SK-1102・1123→本跡→SI-208・232・237, SK-1101

(2) 地下式墳

第1号地下式墳 [SK-715] (第173図)

位置 調査区の北西部, C15b₂区。

主軸方向 N-84°-E

竪坑 上面は, 長径2.2m, 短径2.1mの不整形形で, 深さは1.15~1.42m, 深さ0.5mほどに段差が見られる。

底面は, 長軸1.27m, 短軸0.82mの隅丸長方形で, 主室に向かって傾斜している。

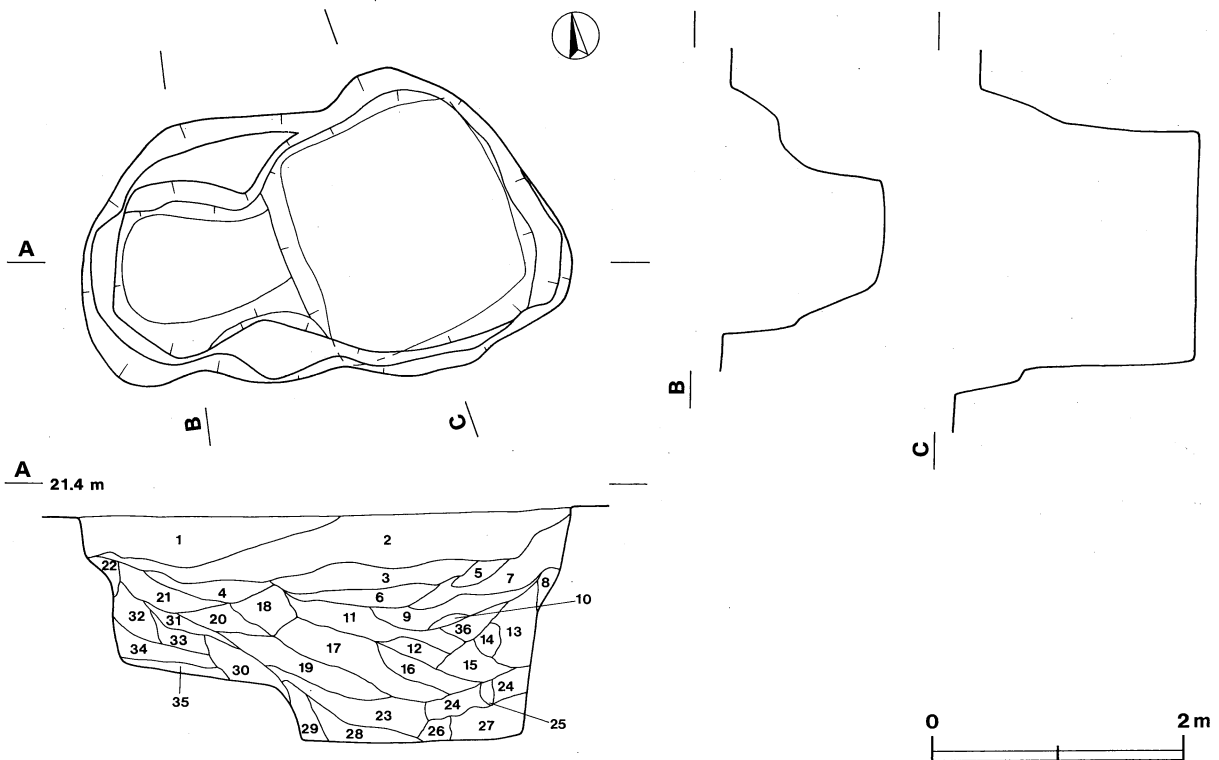
主室 底面は, 長軸1.79m, 短軸1.66mの長方形で, 平坦である。確認面から底面までの深さは, 1.81mである。

壁 竪坑はやや外傾し, 主室はほぼ垂直に立ち上がる。

覆土 36層からなる。土層1, 2は自然堆積, 土層10, 17, 26は天井部の崩落である。他はロームブロックを多量に含み, 竪坑から人為的に埋め戻したものと思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物極少量
- 2 黒色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化物少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 7 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化物極少量, 締まり極めて強い
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 締まり強い
- 11 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 12 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 13 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 14 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, 締まり極めて強い
- 15 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック少量
- 16 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 締まり極めて強い



第173図 第1号地下式墳 (SK-715) 実測図

- 17 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量, 粘性・締まり強い
- 18 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 炭化粒子極少量
- 19 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック中量
- 20 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 21 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 22 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 23 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 24 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 25 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック少量
- 26 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子多量, 締まり極めて強い
- 27 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 28 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック中量
- 29 暗褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 30 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 31 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
- 32 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 33 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 34 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 35 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量
- 36 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量

遺物 覆土上層から混入と思われる縄文土器片が少量出土している。

所見 時期を判断する遺物は出土していないが、遺構の形態から中世のものと思われる。

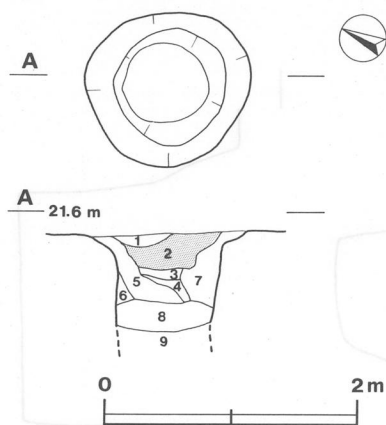
(3) 井戸

第1号井戸 [SK-339] (第174図)

位置 調査区の南部, D15f0区。

規模と形状 掘り方は, 上面が径1.15~1.30mの円形で, 確認面から20cmほどまでの僅かな間は傾斜を持つが, そこから下は円筒形である。深さ3.0mまで調査したが, 底面は確認できなかった。

覆土 9層までの確認に止まったが, 上層から下層まで粘土ブロックを含み, 人為堆積の様相を示している。土層2は粘土の充填層で, 埋め戻した後粘土で蓋をしたものと思われる。



土層解説

- 1 暗褐色 粘土中ブロック・粘土小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量, 硬化している
- 2 黄褐色 粘土充填, 炭化物少量
- 3 暗褐色 砂粒多量, 粘土中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 極暗褐色 粘土中ブロック・粘土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・ローム大ブロック極少量
- 6 極暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子極少量
- 7 暗褐色 粘土中ブロック・小ブロック・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 褐色 ローム土多量, 粘土小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 9 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック多量, 粘土中ブロック・粘土小ブロック斑状に中量, ローム大ブロック少量

第174図 第1号井戸実測図

遺物 覆土上層から混入と思われる縄文土器片が極少量出土している。

所見 時期を判断する遺物が出土していないため, 時期は不明である。

(4) 土坑

D区で調査された土坑は330基である。ほとんどの土坑が縄文時代中期以降で、遺跡の中央部を囲むように分布している。

ここでは次の観点から①～④に分類して記載した。

- ① 人骨が出土した墓壙及びそれに規模、長軸等類似するもの。
- ② 埋設土器が出土しているもの。
- ③ 袋状土坑、著しく深さのある円筒状土坑及び円形もしくは楕円形で、小ピットを持つ等形状に特徴のあるもの、完形に近い土器や獣骨が出土している等出土遺物に特徴のあるもの。
- ④ その他の土坑

①、②については遺構及び遺物の実測図とともに文章で記述し、③は遺構と遺物の実測図の掲載と、特に遺構についての説明を必要とするもの及び遺物の観察表、拓影図の解説について「第〇土坑」として記述した。

④については遺物の実測図、拓影図及び遺物観察表、拓影図の解説にとどめる。

なお、一覧表で、「土坑の分類」については以下を基準とした。

[平面形]	[壁 面]
A 円形系統	I 緩斜
B 楕円形系統	II 外傾
C 方形（長方形、隅丸、不整含む）系統	III ほぼ垂直
D 不定形	IV 内傾及び袋状
[規 模]	[深 さ]
a 長径100cm未満	1 50cm未満
b 長径100cm以上、200cm未満	2 50cm以上、100cm未満
c 長径200cm以上	3 100cm以上、150cm未満
	4 150cm以上

小ピットを持つものについては、一覧表「P」の欄に数を記入した。

時期については、土坑内の出土遺物で特に時期が集中して量的に多いもの及び底面出土の遺物から推定したが、多時期にわたり、しかも遺物の偏りが無い場合は「～」で記載した。出土遺物が少なく、推定困難なものについては空欄とした。

重複関係については備考欄に記載した。

① 墓壙

調査区の中央部で確認され、明確に墓壙と判断できるのは2基であった。他に人骨片が出土している土坑及び規模や形状、長軸方向が類似している土坑7基も含めたが、墓壙としての根拠には欠けている。また、胎児骨が出土している土坑1基も加えた。

第761号土坑（第185図）

位置 調査区の西部、C15h3区。

重複関係 本跡の西部は第763号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-23°-E

規模と平面形 長径1.36m, 短径[1.04]mの楕円形である。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 北部にピット状の掘り込みがあり, 凸凹である。

覆土 5層からなる。下層は自然堆積, 上層は骨片, 土器片を多量に含む混土貝層である

遺物 本跡の中央部, 覆土上層から中層にかけての混土貝層から縄文土器片が多量に出土している。土器片に混じり, 鹿の基節骨, 猪の中節骨等の獣骨, タニシ, ヤマトシジミ等の貝類が出土している。また, これらの獣骨片, 貝の他, 人の大腿骨, 中節骨等の人骨片も出土している。

第218図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片, 2, 3は胴部片で, いずれも微隆起線区画の磨消帯が見られ, 区画外は縄文が施文されている。中期加曽利EⅣ式に比定される土器である。

所見 本跡からは, 多量の縄文土器片, 獣骨片, 貝に混じり, 人骨片も出土している。人骨は覆土中層以上の混土貝層から他の遺物と一緒に出土しており, 埋葬の痕跡は見られない。時期は, 出土遺物から縄文時代中期加曽利EⅣ式期である。

第767号土坑 (第175図)

位置 調査区のやや北西部, C15g₈区。

重複関係 本跡の東部は第766号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-15°-W

規模と平面形 東側部分が重複のため明確に把握できなかったが, 長径0.82m, 短径 [0.54] mのやや楕円形である。

壁面 僅かに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 覆土中から縄文時代晩期安行Ⅲb式に比定される土器片と一緒に, 胎児骨1個体(付章参照)が出土している。

第176図1は鉢形土器口縁部片の拓影図である。口縁部は肥厚し, 上端に刻みを施した突起を有する。胴部には緩やかな弧状をあるいは入り組み状の沈線を描き, 部分的に縄文が施文されている。

所見 本跡は, 出土遺物から縄文時代晩期安行Ⅲb式期のもので, 胎児を埋葬した墓壇と思われる。

第785号土坑 (第175図)

位置 調査区のやや北西部, C15h₉区。

長径方向 N-75°-E

規模と平面形 長径0.83m, 短径0.57mの不整楕円形をしている。

壁面 僅かに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層からなる。土層4, 5の後, 焼土小ブロックを含む土層1～3を人為的に埋め戻したと思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
- 3 極暗褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量

遺物 覆土中から縄文時代中期の土器片が極少量出土している。土器片に混じり、人の頭蓋骨片が1点出土している。

所見 人骨片は覆土中からの出土であり量的にも少量だが、墓塚としての可能性も考えられる。時期は、細かい特定は困難だが、出土遺物から縄文時代中期と考えておきたい。

第786号土坑（第187図）

位置 調査区のやや北西部，C15g₉区。

長径方向 N-56°-W

規模と平面形 長径1.81m，短径1.59mの楕円形をしている。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 覆土中層から1や2，3の他，多量の縄文土器片や4，5の土製円板，鹿角の破片，猪の臼歯片等が出土している。また，土器片，獣骨片に混じり，人の臼歯も出土している。

第176図2，3は縄文土器片の拓影図である。2点とも中期加曾利E I式に比定される土器である。2は縄文地文で，口縁部及び口縁部文様帯を区画する沈線が施され，区画内に渦巻文が施文されている。3も口縁部片で，隆線で口縁部文様帯の区画文及び渦巻文を描き，区画内には縄文が施文されている。

所見 土器片及び獣骨片は一括投棄と思われる。人骨もこれらの遺物と一緒に出土しており，埋葬の痕跡は見られない。時期は，出土遺物から縄文時代中期加曾利E I～II式期の範疇と思われる。

第837号土坑（第175図）

位置 調査区の中央部，C16h₂区。

重複関係 本跡の上部は第202号住居跡に，北部は第853号土坑に掘り込まれている。

長軸方向 [N-31°-W]

規模と平面形 北側部分が第853号土坑と重複しているため平面形は不明だが，長軸の残存部分（1.27）m，短軸1.22m，南東側の形状から隅丸方形と推定される。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 6層からなり，土層1がロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック少量，ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量，小骨片少量含む
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物 覆土から縄文土器の細片が極少量出土している。また，底面の北部から臼歯及び中央やや南側より人骨が出土している。中央部の骨は風化が著しく，詳細は不明である。

所見 本跡は，出土遺物及び重複関係からの推定となるが，縄文時代中期加曾利E II式期の墓塚と思われる。

第841号土坑（第175図）

位置 調査区の中央部，C16g1区。

重複関係 本跡の上部は第186号住居跡に，北西部は第827号土坑に掘り込まれている。

長径方向 [N-41°-W]

規模と平面形 北西側部分が僅かに掘り込まれて部分的に不明であるが，長径（1.97）m，短径1.24mの楕円形である。

壁面 やや外傾して立ち上がる。

底面 ロームブロックで，凸凹である。

覆土 5層からなり，部分的にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，小骨片極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム中ブロック中量，ローム粒子少量

遺物 覆土中から縄文土器の細片が極少量出土している。底面の北西部から人の頭骨が，ほぼ中央部から大腿骨と下腿骨が並んで出土しており，屈葬と思われる（付章参照）。

所見 重複関係から，第187号住居跡が縄文時代中期加曾利EⅢ式期のものなので，本跡はそれ以前の墓塚である。

第842号土坑（第175図）

位置 調査区の中央部，C16g1区。

重複関係 本跡の上部は第186号住居跡に，北西部は第858号土坑に掘り込まれている。

長軸方向 N-36°-W

規模と平面形 北西側部分が掘り込まれているが，長軸は残存部分で（1.46）m，短軸1.05m，南東側の形状から平面形は隅丸長方形と推定される。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 4層からなる。部分的にロームブロックを含み，人為堆積と思われる。

土層解説

- 5 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物 覆土から縄文土器の細片が少量と骨片が出土している。

所見 本跡は，墓塚と断定する明確な根拠には欠けるが，長軸方向，規模が第837，841号土坑と類似している。時期は，判断する遺物が出土していないので重複関係からの推定となるが，第186号住居跡が縄文時代中期加曾利EⅢ式期のものなので，それ以前と考えられる。

第858号土坑（第175図）

位置 調査区の中央部，C16e1区。

重複関係 本跡の上部は第186号住居跡に掘り込まれている。南東側部分は第842号土坑を掘り込んでいる。

長軸方向 N-22°-W

規模と平面形 西側部分の壁面の立ち上がりが明確でないが，長軸1.85m，短軸[0.98]mの隅丸長方形と推定される。

壁面 僅かに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。南東部の凹みは，本跡を掘り込んでいる新しいピットである。

覆土 4層からなる。いずれも同質の一連の層であり，一気に埋め戻した人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 覆土から縄文土器の細片が極少量出土している。

所見 長軸方向，規模及び形状は第837，841号土坑と類似しているが，墓壙としての根拠は欠けている。時期を判断する遺物が出土していないので重複関係からの推定となるが，第186号住居跡が縄文時代中期加曾利EⅢ式期のものなので，それ以前と思われる。

第884号土坑（第175図）

位置 調査区の中央部，C15g0区。

重複関係 本跡の上部は第186号住居跡に，南東部は第827号土坑に掘り込まれている。また，本跡内のピットは本跡よりも新しい。北側部分で第889号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

長軸方向 N-22°-W

規模と平面形 北西側部分の立ち上がりがはっきりしないが，長軸[1.95]m，短軸1.14mのやや隅丸長方形をしている。

壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 僅かに起伏がある。

遺物 覆土から縄文土器の細片が極少量出土している。

所見 墓壙としての根拠には欠けるが，長軸方向，規模及び形状が第837，841号土坑と類似している。時期は遺物から判断できないが，重複関係からの推定で，第186号住居跡が縄文時代中期加曾利EⅢ式期のものなので，それ以前と思われる。

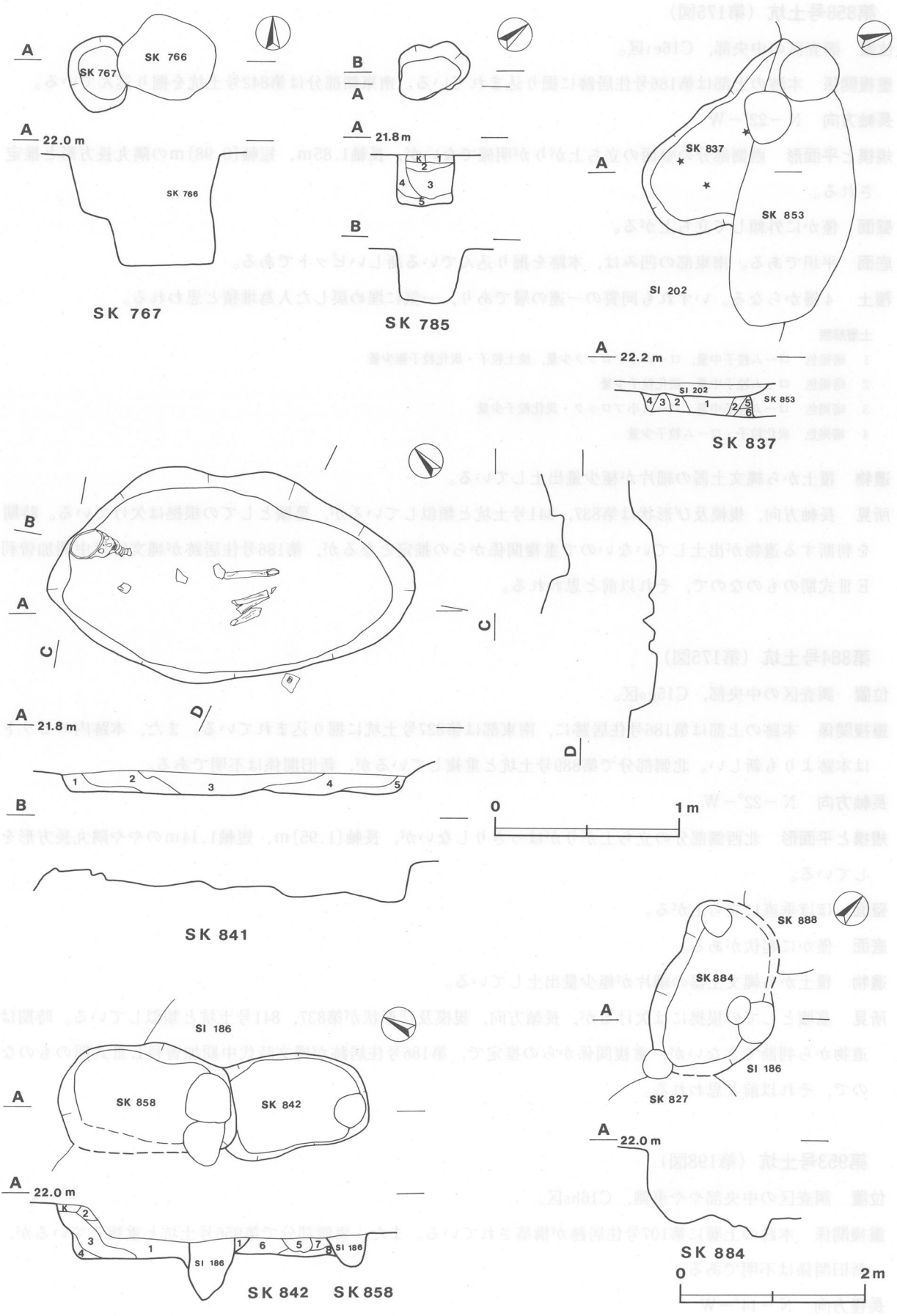
第953号土坑（第198図）

位置 調査区の中央部やや東側，C16h5区。

重複関係 本跡の上層に第107号住居跡が構築されている。また，東側部分で第956号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

長径方向 N-14°-W

規模と平面形 東側部分が重複のため不明であるが，長径1.80m，短径(1.15)mの楕円形と推定される。



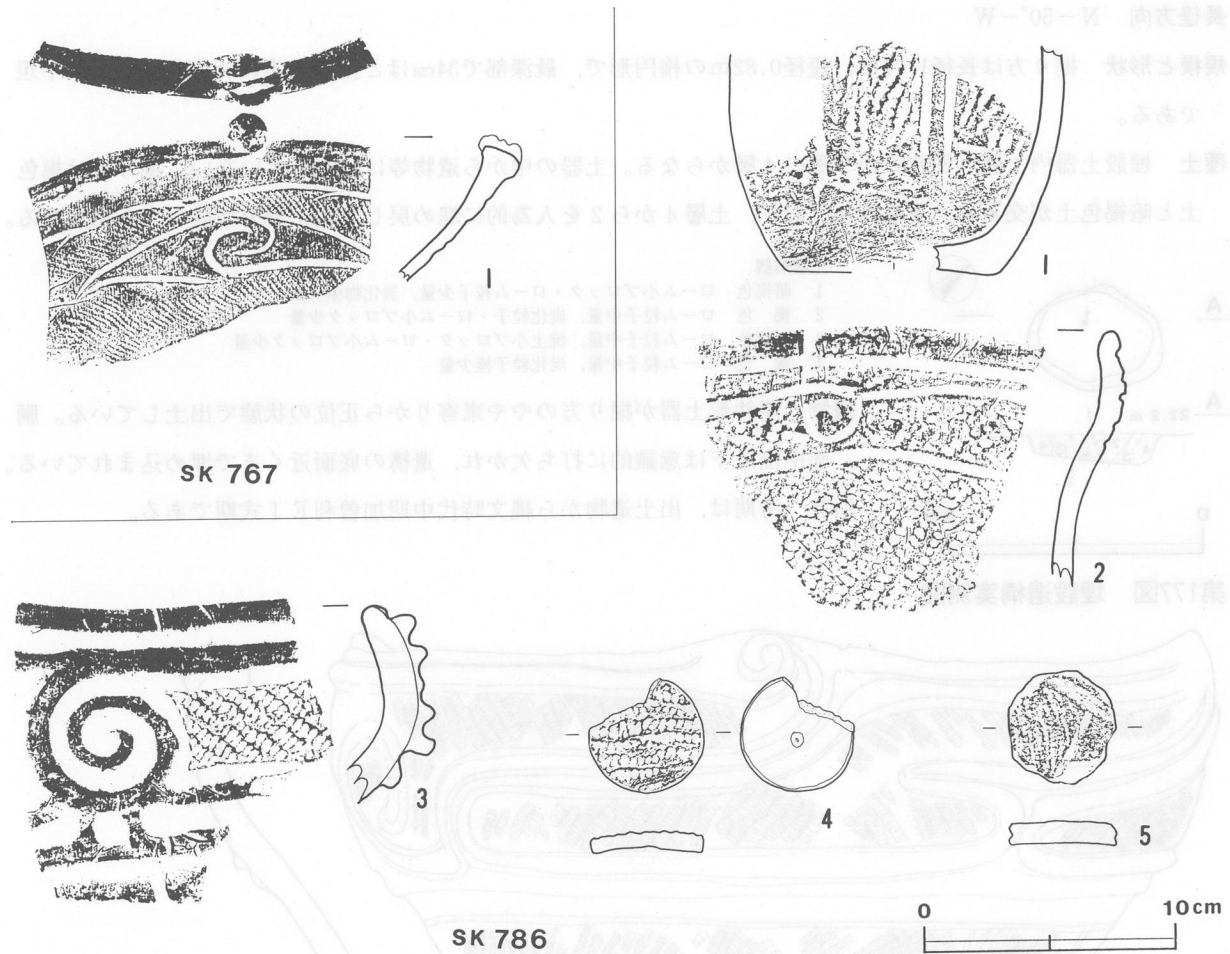
第175図 墓墳 (SK 767, 785, 837, 841, 842, 858, 884) 実測図

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 覆土中から中期加曾利E式期の縄文土器片が極少量出土している。土器片に混じり、人の頭蓋骨片も出土している。

所見 覆土中から人骨片が出土しており、墓塚の可能性が考えられる。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利E式期の範疇と思われる。



第176図 墓塚出土遺物実測・拓影図

第786号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考			
第176図 1	深鉢形土器	B(9.1)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は内彎しながら立ち上がる。胴部地文として単節縄文RLを縦回転で施し、幅の狭い沈線間磨消帯が垂下されている。底部から3cmほどは、文様が磨り消されている。	砂粒・バミス 灰褐色 普通	P226 覆土 (加曾利E II) 5%			
	縄文土器	C(8.5)						
図版番号	器種	計測値(cm)			重量	現存率	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚	(g)	(%)		
第176図4	土製円板	(4.5)	4.5	0.9	(18.3)	70	表面に単節縄文RL 裏面に未貫通孔 一部欠損	DP53 覆土
5	土製円板	4.4	4.4	1.0	22.0	100	表面に縄文及び磨消帯	DP54 覆土

② 埋設遺構

埋設遺構は調査区の東部で1基検出されている。

第1148号土坑 (第177図)

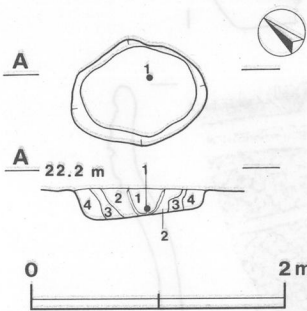
位置 調査区の東部, C17d区。

重複関係 本跡は, 第234号住居跡の床下から確認され, 本跡の方が古い。

長径方向 N-50°-W

規模と形状 掘り方は長径1.07m, 短径0.82mの楕円形で, 最深部で34cmほど掘り込まれている。底面は平坦である。

覆土 埋設土器内1層, 掘り方が3層の4層からなる。土器の中から遺物等は出土していない。掘り方は褐色土と暗褐色土が交互に土器を囲んでおり, 土層4から2を人為的に埋め戻した後土器を埋設したと思われる。

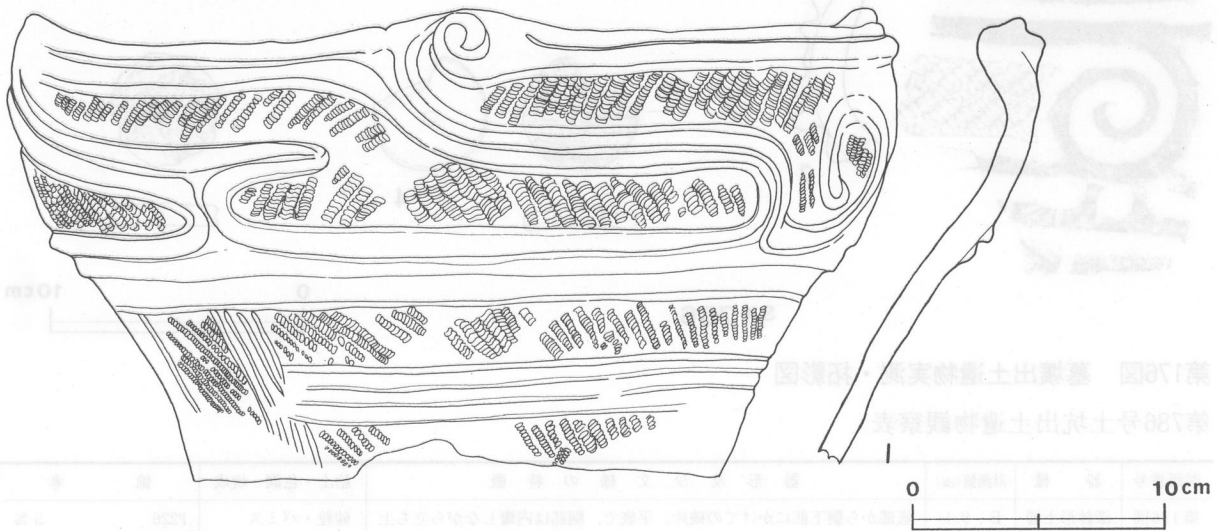


土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量

遺物 深鉢形土器が掘り方のやや東寄りから正位の状態出土している。胴部中位以下は意識的に打ち欠かれ, 遺構の底面近くまで埋め込まれている。
 所見 時期は, 出土遺物から縄文時代中期加曾利E I 式期である。

第177図 埋設遺構実測図



第178図 埋設遺構出土遺物実測図

第1148号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 33.4 B (18.4)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴上部は外傾して立ち上がり, 口縁部は内彎する。口縁部は僅かに波状を呈し, 波頂部には渦巻文が施文されている。頸部に巡る狭い無文帯で, 口縁部と胴部の文様帯が分離されている。口縁部文様帯は沈線を沿わせた隆線を上下に巡らせ, 区画内に沈線と隆線で渦巻文, クランク文を描き, 隙間に単節縄文R Lが施文されている。胴部文様帯は頸部下に巡る浅い沈線以下に展開され, 地文の縄文の上に3~4本の平行沈線が直線的に縦横に描かれている。	砂粒・雲母・石英・長石 にぶい橙色 普通	P358 埋設土器 (加曾利E I)

③ 形状及び出土遺物に特徴のある土坑

ここでは、平面形や断面形等形状に特徴の見られる土坑と完形に近い土器や獣骨等出土遺物に特徴のある土坑170基について、遺構実測図、遺物がある場合には遺物の実測図、拓影図を載せ、さらに解説を必要とするものについては文章で記述する。

第253号土坑（第179図）

本跡から遺物は出土していない。断面形が袋状をしていることから、縄文時代中期の土坑の可能性が考えられる。

第257号土坑（第179図）

覆土中から縄文土器が出土している。第211図1～4もすべて覆土中層からの出土である。

第211図2～4は縄文土器片の拓影図である。2は口縁部片で、隆線に沿う角押文が施文されている。3、4は胴部片で、隆線に沿って数本単位の平行沈線が胴部に施文され、4は隆線に沿って結節沈線文が2列施されている。いずれも地文はなく、中期阿玉台Ⅱ～Ⅲ式にかけての土器である。

第291号土坑（第179図）

深さ197cmの円筒状の土坑で、覆土中から多量の縄文土器、骨片及び貝が出土している。特に中層以下の8層、10層からはヤマトシジミの他にイシガイ、タニシ類、マツカサガイ等の貝がブロック状に出土しており、さらに上下の層からも出土している。貝粉に交じって猪、鹿等の獣骨片及び魚骨も出土している（付章参照）。土器は、4の台付鉢が底面から出土しており、他の土器も覆土中層以下から貝や獣骨に交じって出土している。本跡が本来の機能を終了して廃絶された後、廃棄遺物の投棄場所的性格を持ちながら埋没していったものと思われる。時期は、出土遺物から縄文時代晩期安行Ⅲa～Ⅲb式期前後である。

第212図6～16は縄文土器片の拓影図である。6、7は波状口縁部片で、波頂部に刻みを加飾した角状突起を有し、下に縦長貼瘤、胴上部に三叉文が彫刻されている。8は口唇部上端に横長突起、口縁部に縄文帯、胴上部には下向き弧線の区画内に縄文が施文されている。9は口唇部突起の内面に三叉文、胴上部にも玉抱き三叉文的文様が施文されている。10は僅かに波状を呈する口縁部片で、波頂部と波頂部下に突起を有し、胴部には入り組み文及び三叉文が施されている。11も口縁部片で、口唇部に小突起、頸部に凸凹の隆帯が付けられ、間に曲線の文様が沈線で施文されている。12は波状口縁部片で、波頂部に小突起を有し、口縁部には上向き弧線の区画内に縄文を施文し、頸部の沈線以下にも縄文が施文されている。13は口縁部以下2段の縄文帯の下に横長突起が貼り付けられている。これらは晩期安行Ⅲa～Ⅲb式に比定される土器である。14は粗製土器の口縁部片で、口唇部に巡る刻文帯に縦の刻文帯が接続しており、口唇部下に施文された斜行条線を縦の沈線が切っている。15も粗製土器の胴部片で、頸部に刻文帯が見られる。後期安行Ⅱ式～晩期安行Ⅲa式の範疇と思われる。16は内傾する胴上部片で、外面は研磨、赤彩され、2段の隆起帯刻文が施されている。後期末前後の時期と思われる。

第294号土坑（第180図）

深さ193cmの円筒状の土坑である。覆土中から縄文土器の細片が出土しているが、ほとんど上層からの出土である。第212図1～3は覆土上層から出土している。覆土中層以下の出土遺物は極少量である。出土遺物は中

期から晩期の土器が混在しており、時期は特定困難だが、縄文時代後期後葉から晩期前葉前後と考えておきたい。

第212図2, 3は縄文土器片の拓影図である。2は口縁部片で、口唇部に突起が付され、口縁部は沈線区画の縄文帯で、以下磨消帯を挟んで弧状沈線区画の縄文帯が見られる。3は口唇部突起片で、内・外面に刺突状の刻みが施されている。

第324号土坑（第179図）

本跡は断面が円筒状の土坑であるが、遺物が出土していないため時期及び性格は不明である。

第325号土坑（第179図）

規模に比較して覆土上層から下層にかけて一括投棄と思われる多量の土器が出土している。第213図4は底面から、6の注口土器の破片は覆土下層から横位の状態で出土している。14の石鏃も覆土中から出土している。また、猪や他の獣骨片も覆土中から出土している（付章参照）。本跡の底面は踏み締められ、ピット状の掘り込みが5か所壁際に見られる。そのうち3本は同様の規模で、ほぼ等間隔に位置している。遺構の性格は不明だが、時期は出土遺物から縄文時代後期安行式期と思われる。

第214図7～11は縄文土器片の拓影図である。すべて口縁部片で、7は口縁部と頸部に刻文帯が施され、器面に斜行条線が施されている。8は口縁部に2段の刻文帯が見られ、以下に縄文が充填され、9はやや下向き弧状の条線を浅い沈線が切っている。10, 11は口縁部以下3段の縄文帯が見られ、要所に貼瘤が付されている。10は波状口縁である。

第496号土坑（第180図）

深さ190cmの円筒状の土坑で、覆土中層の土層5から埋葬したと思われる犬の頭骨が出土している（付章参照）。他に中期加曾利EⅣ式～後期堀之内式までの土器の細片が極少量出土している。本跡の時期特定は遺物が少量のため困難であるが、縄文時代後期前葉と考えておきたい。

第503号土坑（第180図）

覆土中から縄文土器の破片が出土している。袋状土坑で、遺構の形態及び出土遺物から、時期は縄文時代中期中葉と思われる。

第214図3は縄文土器口縁部片の拓影図である。波状口縁で、爪形文を施した隆帯の区画文の内部に半截竹管による平行沈線、刺突文が施されている。中期勝坂Ⅱ～Ⅲ式の土器と思われる。

第504号土坑（第180図）

覆土中層から土器の細片が極少量出土している。遺物による時期判断は困難であるが、重複関係から縄文時代中期加曾利EⅢ式期以降が本跡の時期と思われる。

第716号土坑（第180図）

覆土中層以下から少量の土器片が出土している。第215図1は南壁際の底面から出土している。僅かに袋状を呈する土坑で、時期は出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期末～加曾利EⅠ式期初頭である。

第215図2は縄文土器片の拓影図である。頸部の破片と思われ、地文の縄文が磨り消され、上下に隆線が施されている。

第717号土坑（第181図）

覆土中から土器片及び獣の小骨片が極少量出土している。第215図1は西部覆土下層から出土した胴部片である。縄文地文の上に、隆線による区画を施し、区画内にペン先文と波状沈線が施されている。中期勝坂式の影響が見られる。遺構形態は楕円形で、西壁際に深さ117cmのピットが掘り込まれている。時期は、縄文時代中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期前後と思われる。

第721号土坑（第181図）

第215図1は覆土中から出土した縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、上端に円孔を有する突起を口唇部に有し、外面は縄文が施文されている。縄文時代後期堀之内1式に比定される土器である。

第722号土坑（第181図）

袋状土坑で、縄文土器の細片が覆土中から極少量出土している。時期は、遺構の形態から縄文時代中期と思われる。

第723号土坑（第181図）

袋状土坑で、覆土中層から縄文土器の細片が出土している。第215図1は縄文土器片の拓影図である。波状口縁で縄文地文、内部に沈線に沿わせた隆帯による区画内に小波状の沈線が施されている。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期である。

第728号土坑（第182図）

袋状土坑で、底面に小ピットを持つ。覆土中層から縄文時代中期阿玉台Ⅲ式～加曾利EⅠ式の土器片が出土しており、時期もこの範疇と思われる。

第729号土坑（第182図）

底面壁際に小ピットを2か所持つ。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅠ～Ⅱ式の土器片が出土しており、時期もこの前後と思われる。

第732号土坑（第181図）

袋状土坑で、底面ほぼ中央部に小ピットを持つ。底面及び覆土中から縄文時代中期阿玉台Ⅲ式期前後の土器が出土しており、時期も該すると思われる。第216図1は中央部やや南西側の底面から出土している。

第216図2は中期阿玉台Ⅲ式に比定される波状口縁の波頂部把手片の拓影図である。頂部に通孔が見られ、外面には隆帯による区画内にペン先文が施文されている。

第734A号土坑（第182図）

袋状土坑で、覆土中層から比較的多量の土器片が出土している。主体となる遺物が縄文時代中期阿玉台Ⅲ式

で、本跡の時期も該すると思われる。底面に見られる小ピット状の第760B号土坑は後世の掘り込みである。

第216図4は中期阿玉台式の範疇の浅鉢片の拓影図である。口縁部に連続押捺が見られ、内面は口縁部と胴部の境に段が見られる。

第734B号土坑（第182図）

ピット状の土坑で、底面から第216図1が出土しており、時期は縄文時代後期安行I式期である。

第736号土坑（第183図）

小ピットを3か所有する土坑で、そのうち1か所は中央部に位置している。中央部覆土下層から鹿の小骨片が出土している。覆土から縄文土器片が出土しているが、中期から後期のものが混在しており、時期は特定できない。

第738号土坑（第183図）

西部覆土中層に貝層が見られ、直下には灰が薄く堆積している。その北側覆土下層からは猪、鹿及び鳥等の骨片が出土している（付章参照）。遺物は中期加曾利EⅡ式～後期加曾利BⅠ式のものが混在しており、時期は特定困難である。

第739号土坑（第184図）

西部覆土下層から、縄文時代中期加曾利EⅣ式に比定される第217図1が正位の状態で出土しており、本跡の当該期と思われる。

第740号土坑（第184図）

本跡の底面で3か所のピットが確認されている。径16cm、深さ25cmの小ピットがほぼ中央部に位置している。南西壁際のやや大きなピットは後世の掘り込みと思われる。中央部覆土中層から第217図1が正位の状態で出土している。2も覆土中からの出土であるが、時期的に古く流れ込みと思われる。また覆土中から猪の小骨片も出土している（付章参照）。時期は、縄文時代中期加曾利EⅠ式期前後と思われる。

第217図2は縄文土器口縁部片の拓影図である。ペン先状の連続刺突文や沈線が沿う偏平な隆線を口縁部に貼り付け、隙間には条線状の集合沈線が見られる。隆線以下は無文である。中期阿玉台Ⅲ式の範疇の土器である。

第745号土坑（第184図）

覆土中から少量の遺物が出土している。第217図1、2は出土土器片の拓影図である。1は胴部片で、沈線区画の曲線的磨消帯が施文され、区画外には縄文が施文されている。後期称名寺1式に比定される土器である。2は浅鉢形土器の口縁部片で、口縁部の連続刻文の下に沈線区画の縄文帯が見られる。後期加曾利B2～3式に比定される土器である。1は覆土下層から、2は南西壁際覆土上層からの出土である。時期は、主体となる遺物から縄文時代後期初頭と考えておきたい。

第755号土坑（第184図）

覆土中から縄文時代の土器片が極少量出土している。第217図1は北西部覆土上層からの出土である。他の遺物は時期が拡散しており、時期は不明である。

第760号土坑（第185図）

本跡は、第207号住居跡の炉を掘り抜いているピット状の土坑で、第218図1の深鉢形土器と2の土製円板が覆土中から出土している。時期は、1が縄文時代後期綱取1式並行の土器なので、本跡の時期も該すると思われる。

第762号土坑（第185図）

第218図1は本跡から出土している縄文土器片の拓影図である。胴部片で、微隆起線区画の磨消帯が見られ、区画外は縄文が施文されている。本跡の覆土中層以上からは、猪の歯や骨片が土器に混じり出土している（付章参照）。また、2の珧状耳飾りも覆土中から出土している。上層は廃棄遺物が一括投棄されていると思われる。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅣ式期である。

第763号土坑（第185図）

本跡の北側覆土中層以上から土器片及び獣骨片が出土している（付章参照）。窪地を利用して投棄したものと思われる。時期は、第761号、762号土坑との重複関係から、縄文時代中期加曾利EⅣ式期以前である。

第764号土坑（第185図）

平面形は楕円形で、底面にピットを3か所有する。ピットはほぼ一直線に並び、径36～50cmの円形で、深さ69～98cm、壁際のピットが中央のピットに比較しやや深い。時期は、縄文時代中期加曾利EⅢ式期に比定される第218図1が西壁際覆土中から出土しており、該期であると思われる。

第766号土坑（第181図）

本跡の覆土中層から第219図1の底部片や2～4の把手、7の土製円板が出土している。この他多量の縄文土器片に混じって、鹿角、獣骨片及び貝が出土しており、これらの遺物は一括投棄と思われる（付章参照）。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅣ式期である。

第219図5、6は縄文土器片の拓影図である。2点とも口縁部片で、加曾利EⅣ式に比定される土器である。単節縄文RL地文で、口縁部及び胴部に微隆起線区画の磨消帯が施されている。

第768号土坑（第185図）

本跡の規模に比較して、覆土中層から下層にかけて多量の縄文土器片と第220図5の磨石が出土している。また、覆土中には小骨片も極少量であるが含まれている。時期は、出土遺物から縄文時代後期加曾利B2式期である。

第219～220図2～4は縄文土器片の拓影図である。2は粗製土器の口縁部片で、胴部に縄文を施文し、口縁部は指頭による押捺を加えた粘土紐が貼り付けられている。3は胴部片で、地文に縄文を施文し、沈線と押捺加飾の粘土紐がやや斜行気味に施文されている。4は鉢形土器の胴部片で、数本の平行な横走沈線を切る「()」

状の沈線が見られる。後期加曾利B 2式に比定される土器である。

第769号土坑（第185図）

覆土上層から中層にかけて多量の縄文土器片が出土しており、一括投棄と思われる。第220図1の台付土器台部、2の把手も覆土中から出土している。また、覆土上層には猪の骨片も含まれている（付章参照）。時期は、出土遺物から縄文時代後期掘之内式期である。

第773号土坑（第186図）

土層4、5から縄文土器片、第220図1の石錐、猪及び鹿等の獣骨片が出土している（付章参照）。出土遺物は、縄文時代中期から後期にかけてのものが出土しているが、主体となる遺物は中期であり、本跡の時期も該期と考えておきたい。

第775号土坑（第185図）

底面からピットが中央部に1か所（径50～65cm、深さ67cm）、西壁寄りに1か所（径75～80cm、深さ80cm）確認されている。縄文時代中期加曾利EⅢ式に比定される第220図1が西側のピットの上層から出土しており、本跡の時期もこの前後と思われる。

第776号土坑（第186図）

覆土中層から第220図1の有孔鏝付土器片と猪の骨片が出土している（付章参照）。出土遺物が極少量で、時期を判断するには困難であるが、1が縄文時代中期加曾利EⅣ式前後と考えられるので、本跡の時期もこの前後の可能性が考えられる。

第777・778・779号土坑（第186図）

3基とも出土遺物は極少量である。第777号土坑からは中期から後期の土器片が、第778号土坑からは中期の土器片、第779号土坑からは中期から後期の土器片が出土している。第220図1の耳飾りは第778号土坑の覆土上層からの出土で、遺構に伴わない可能性が強い。時期を判断する遺物が出土していないため時期不明だが、土層の切り合い関係から、第779号土坑は第777号土坑より新しい。

第781号土坑（第187図）

本跡は、深さ280cmの円筒状の土坑である。覆土中層から集中的に縄文時代晩期の土器が出土している。第221図1～3は同位置から出土しており、さらに約30cm下層から第222図8の注口土器が正位の状態出土している。他に鹿角、猪、兎、鳥、魚の骨片や貝も多量出土している（付章参照）。深さ160cm前後の覆土中には、投棄と思われる灰が径65cmほどの円形状の範囲で堆積しており、この直上からは40～50cmの厚さで炭化物、小骨片がやや多く出土している。底面からも骨片が出土している。この土坑が廃絶された後は、廃棄遺物の投棄場所的な性格を持ちながら、自然に埋没していったものと思われる。時期は、出土遺物から縄文時代晩期安行Ⅲa式期である。

第222図9～14は縄文土器片の拓影図である。9は浅鉢形土器の胴上部から口縁部にかけての破片で、口唇部に小突起、口縁部と胴部に充填の縄文帯が見られる。10、11は甕形土器の口縁部片で、口縁部の文様構成は

9と類似しているが、胴上部に見られる縄文帯の沈線区画が、10はやや斜行し、11は下の沈線が曲線を描いている。12、13は粗製土器の口縁部片で、12は口縁部と頸部に粘土紐貼り付けの刻文帯を巡らせ、口縁部刻文帯の下にはやや斜行する条線が施され、内部磨り消しの平行沈線が文様を切断している。13は口縁部に上向き弧状の条線が施されている。14は胴部片で、沈線区画の縄文帯が横あるいはやや斜めに施され、円形の貼瘤で接続している。これらは晩期安行Ⅲb式に比定される土器である。

第788号土坑（第188図）

北壁際覆土中層から第223図1の小形土器が出土している。第790号土坑との重複関係からみると本跡の方が新しく、縄文時代中期加曾利EⅢ式期以降の土坑であり、しかも出土遺物も中期加曾利EⅢ～Ⅳ式のものが多いため、1は流れ込みと思われる。

第789号土坑（第188図）

底面から5か所のピットが確認されている。北側のピットは深さが24cmで楕円形、西側のピットは深さが32cmで円形、南側のピットは大形で深さが53cmである。また、中央に2か所のピットがあるが、1か所は深さ25cm、もう1か所は深さが72cmである。覆土上層から中層にかけて多量の土器が出土しており、一括投棄と思われる。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第223図2～8は縄文土器片の拓影図で、8を除きすべて中期加曾利EⅢ式に比定される土器である。2～5は地文に単節縄文が施され、2は口縁部磨り消し、胴上部に波状平行沈線が施文されている。3は口縁部沈線区画で、胴部にも沈線区画の磨消帯が垂下されている。4は沈線、隆線で区画文及び渦巻文を描き、口縁部文様帯を構成している。5は口縁部に楕円形及び長方形の区画文を施し、胴部には沈線区画の磨消帯が垂下されている。6は捺糸文が地文で施され、口縁部に2段の列点文、胴上部に波状平行沈線を横走させ、区画内は磨り消されている。7は胴部片で、捺糸文が地文に施され、沈線による区画文が描かれ、区画間は磨り消されている。8は中期加曾利EⅠ式に比定される土器の口縁部片で、沈線を沿わせた隆線で口縁部文様帯を構成している。

第790号土坑（第188図）

本跡の西側部分は第788号土坑に掘り込まれている。西側にピット状の掘り込みが2か所確認されている。覆土中から縄文土器片、石皿に混じり獣骨の小片が出土している（付章参照）。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ～Ⅳ式期前後と思われる。

第223図1、2は縄文土器片の拓影図である。1は波状口縁で、口縁部無文帯、胴部との境に微隆起線が施され、舌状の突起が付されている。微隆起線以下は単節縄文が施されている。中期加曾利EⅣ式の範疇と思われる。2は胴部片で、地文の単節縄文を沈線区画の磨消帯が切断している。中期加曾利EⅢ式に比定される土器である。

第791・792・793号土坑（第188・189図）

3基の出土遺物の主体を占める時期は、第791号土坑が中期加曾利EⅢ式期、第792号土坑が中期加曾利EⅡ～Ⅲ式期、第793号土坑が中期加曾利EⅢ式期以降で後期も混入している。また、791、793号土坑からは獣骨片も出土している（付章参照）。しかし、いずれの土坑も遺物の出土量が少量で、時期を特定するまでは至ら

ない。土層の切り合いから、第792号土坑は第791号土坑より新しい。

第794号土坑（第189図）

北東壁寄りと南東壁寄りの底面からピットが2か所確認されている。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅡ式主体の土器片が出土している。また、西部覆土中層から第224図1の浮子が出土している。

第795号土坑（第189図）

本跡の南部底面近くからオスの猪の頭部が出土している（付章参照）。覆土中層から下層にかけて、縄文時代中期加曾利EⅢ～Ⅳ式にかけての遺物が少量出土している。

第796号土坑（第189図）

本跡の全面、覆土上層から下層にかけて縄文土器片と鹿、猪等の獣骨片が出土している（付章参照）。第224図1、2は覆土中層及び底面から出土している。遺物は破片が多く、一括投棄と思われる。時期は、出土遺物から縄文時代後期堀之内式期である。

第224図5は縄文土器片の拓影図である。波状を呈する口縁部片で、外面には単節縄文RLが粗く施文されている。後期堀之内式に比定される土器である。

第797号土坑（第189図）

覆土中から縄文土器片が出土しているが、縄文時代中期から後期のものが混在している。土器片に混じり、鹿の歯片が出土している（付章参照）。

第801号土坑（第190図）

袋状土坑で、底面から2か所の小ピットが確認されている。覆土中及び底面から縄文時代中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式にかけての土器が出土しており、本跡の該期と思われる。縄文土器に混じって、覆土中から狸、鹿及び鳥の骨片も出土している（付章参照）。

第807号土坑（第191図）

楕円形の土坑で、底面からピットが3か所確認されている。中央のピットは径22cmほどで、深さ60cm、南壁際と北西壁際のピットは、径は中央のピットよりも大形だが、深さは25～35cmと浅い。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅠ～Ⅱ式前後の土器片が少量出土しており、時期も前後の可能性が考えられる。土器片に混じり、猪の歯も出土している。

第808号土坑（第189図）

覆土中から第225図1の小形土器と2の波状口縁部片の2点が出土しているが、他に出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

第810号土坑（第191図）

本跡の底面から、径45～55cm、深さ24～38cmのピットが2か所確認されている。遺物は、覆土中から縄文時

代中期加曾利EⅡ式の範疇の遺物が出土しており、本跡の時期もこの前後と思われる。土器片に混じり、鹿、猪の骨片が出土している（付章参照）。

第814号土坑（第191図）

覆土中から、縄文時代中期加曾利EⅡ～Ⅲ式の土器片が出土している。東部覆土上層から、獣骨片が出土している。

第817号土坑（第192図）

袋状土坑で、第195号住居跡の床下から確認されている。中央部やや北側の底面からピットが確認されている。時期は、覆土中から縄文時代中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式の遺物が出土しており、遺構の形態からも該と思われる。

第225図1，2は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部隆帯区画内に爪形文、ペン先文、鋸歯状沈線及び横走沈線が施文され、隆帯上には縄文が施文されている。2も口縁部付近の破片と思われ、爪形文を施した隆帯が見られる。いずれも中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式にかけての土器である。

第820・821号土坑（第182図）

第820号土坑覆土中から縄文時代中期の遺物が極少量出土しているが、時期は特定できない。また、第821号土坑は袋状土坑で、北部底面から縄文時代中期阿玉台Ⅲ式に比定される第225図1が正位の状態で出土しており、遺構の形態からも該期と思われる。第820，821号土坑は中央に第734A号土坑を挟んでいるが、新旧関係は不明である。

第822号土坑（第192図）

第197号住居跡の床を掘り込んでいる小土坑で、底面から第225図2が口縁部を上にして斜位の状態で、並んで1の壺形土器が完形で横位の状態で出土している。これらの遺物は時期的に隔たりがあるが、土坑内に置かれたのは同時期と思われ、他に遺物は出土していないことから、本跡の時期は2の縄文時代後期安行Ⅱ式期が該期と思われる。

第823号土坑（第192図）

上面は長径1.16m，短径1.01mの不整楕円形だが、底径は62～70cmのやや楕円形で、深さは129cmである。底面から第226図1が、他に覆土中から縄文時代中期の遺物が極少量出土している。

第824号土坑（第192図）

第182号住居跡の床を掘り抜いているピット状の土坑で、覆土中から第226図1の浅鉢形土器が1点出土しているだけである。1が縄文時代後期安行Ⅰ式に比定されることから、本跡の時期と思われる。

第825号土坑（第192図）

径1.15m，深さ135cmの円筒状の土坑で、覆土中から縄文土器片に混じり、小型犬の下顎及び猪の骨片が出土している（付章参照）。土器は、縄文時代後期称名寺2～堀之内1式並行のものが出土しており、本跡の該

期と思われる。

第226図1～4は縄文土器片の拓影図である。いずれも口縁部片で、1は僅かに波状を呈し、波頂部内・外面に刺突文が施され、胴上部に連続刺突を加えた隆線を巡らせ口縁部と胴部を分離し、中央に沈線を加飾した楕円形の隆線で波頂部と胴部を結んでいる。2、3は波状口縁の波頂部に通孔を有する突起が付され、沈線及び刺突文で文様を構成している。2には列点文が見られる。4も波状口縁で、連続刺突文加飾の隆線が「十」字状に口縁部下で交差し、口縁部は無文帯、胴部は縄文が地文に施されている。いずれの土器も後期網取式の影響が強い。

第826号土坑（第184図）

袋状土坑で、底面及び覆土下層から遺物が出土している。第226図1は南西壁際底面から、2～4は北西部底面から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅲ式期である。

第226図2～4は縄文土器片の拓影図である。2は口縁部文様帯が爪形文を沿わせた隆帯で構成され、小波状沈線も見られる。3は波状口縁の波頂部で、隆帯の区画内に爪形文が施されている。4は胴部片で、横走る隆帯以下は半截竹管による平行沈線が縦方向に充填されている。

第827号土坑（第192図）

円形の土坑で、底面及び覆土中から縄文土器が出土している。底面の西部にピットが見られるが、第186号住居跡に伴うものである。時期は、出土遺物から縄文時代後期堀之内2式期前後である。

第828号土坑（第192図）

深さ84cmのピット状の土坑で、底面から第227図1が台裾部を上にした状態で出しており、他は細片が極少量出している。時期は、出土遺物から縄文時代後期安行Ⅰ式期である。

第830号土坑（第192図）

本跡は、第192号住居跡の床下から確認されている。覆土中から縄文土器片が出しており、第227図1も覆土中層から出している。遺物の時期は、縄文時代中期加曾利EⅢ式期～後期称名寺式期のものが混在しており、本跡の時期もこの範疇と思われるが特定は困難である。

第227図2、3は縄文土器片の拓影図である。2は口縁部文様帯を沈線と隆線の区画文で構成し、区画内は単節縄文が施され、胴部は地文の単節縄文を沈線区画の磨消帯が切っている。中期加曾利EⅢ式に比定される土器である。3は地文の単節縄文の上に微隆起線区画の磨消帯で曲線的文様が施されている。

第834号土坑（第190図）

底面にピットを4か所有する。中央部に位置するピットは径25cmの円形で、深さ30cm。壁際のピットは長径55～83cm、短径36～62cmの楕円形で、深さは、北側が81cm、東側が60cm、南西側が24cmである。覆土中から縄文土器片が出しており、第227図2、3は南西部覆土下層から出している。1は時期的に古く、流れ込みと思われる。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期前後と思われる。

第227図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は前期浮島Ⅱ～Ⅲ式の範疇の土器片で、口唇部に半截竹管による三角刺突文が施され、外面に波状貝殻文が施されている。2、3は中期加曾利EⅢ式に比定される土器

片で、2は口縁部に沈線及び隆線による渦巻文、胴部は沈線区画の磨消帯が垂下している。3は胴部片で、地文の単節縄文RLが沈線区画の磨消帯に切られている。

第838号土坑（第190図）

規模に比較して多量の遺物が覆土中から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と考えておきたい。

第228図1～2は縄文土器片の拓影図で、2点とも口縁部片である。1は数本単位の条線が胴部を垂下し、2は沈線で文様が描かれている。後期前葉段階の土器と思われる。

第845号土坑（第190図）

円筒状の土坑で、深さ124cm。第202号住居跡の床を掘り抜いている。覆土中から縄文土器片及び獣骨片1点が出土している。主体となる遺物は縄文時代後期安行Ⅰ式期で、本跡の該期と思われる。

第228図1～4は縄文土器片の拓影図で、いずれも口縁部片である。1は口縁部に縄文帯が施され、沈線以下は横方向の条線を切断する内部縄文施文の月状文が見られる。晩期安行Ⅲa式に比定される土器である。2～4は後期安行Ⅰ式に比定される土器で、2は口縁部と頸部に押捺を加えた粘土紐を貼り付け、器面には右下がりの斜行条線が施文されている。3は沈線区画の隆起帯縄文が多段に施され、縄文帯間を磨り消し、口縁部と2段目の縄文帯を結ぶ瘤が貼り付けられている。4は口縁部と胴部に刻文帯が2段に構成され、刻文帯間は矢羽状の細沈線が充填されている。2段目刻文帯には貼瘤が見られる。

第847号土坑（第190図）

覆土中から縄文土器片と小骨片が出土している（付章参照）。出土遺物は極少量で、縄文時代中期から後期にかけてのものが混在しているため、時期は特定困難である。

第852号土坑（第193図）

袋状土坑で、底面のやや南側に径30cm、深さ10cmの円形ピットが確認されている。覆土中層から下層にかけて遺物が出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ～加曾利EⅠ式期にかけてと思われる。

第229図5～6は縄文土器片の拓影図である。5は波状口縁の波頂部片で、外面に縦、横の沈線で地文の縄文の上に直線的な文様が描かれている。波頂部内面に見られる隆帯が、波頂部から垂下する際にねじりを加えて外面に出てくると思われる。中期加曾利EⅠ式の古手の段階と思われる。6も波状口縁で、波頂部外面に曲線の文様を隆帯で描き、隆帯に沿って爪形文が施されている。中期阿玉台Ⅳ式の範疇と思われる。

第854号土坑（第193図）

深さ120cmの円筒状の土坑で、壁は僅かに外傾する。縄文土器片に混じって鹿等の獣骨片が覆土中から出土している（付章参照）。遺物は、後期加曾利B式期から晩期安行Ⅲa式期にかけてのものが混在しており、時期は縄文時代後期の範疇と考えて置きたい。

第230図1, 2は縄文土器片の拓影図である。1は晩期安行Ⅲa式に比定される土器で、口縁部沈線以下のやや下向き弧状の条線が、月状文及び斜行平行沈線に切られている。2は後期加曾利BⅠ式に比定される鉢形土器で、口縁部内面に沈線、外面は押捺加飾の粘土紐が貼り付けられ、胴部には地文の縄文を切る4本単位の

細い斜行平行沈線が施文されている。

第859号土坑（第194図）

上面は径1.80～1.88mの円形で、深さ30cmほどの所で平坦面が出現し、またほぼ垂直に掘り込まれ、途中でオーバーハングして底面に至る。出土遺物も、第230図1の中期の土器と一緒に3の後期の土器も出土している。1は覆土下層からの出土である。本跡は、やや袋状の深い土坑の上に、径1.80～1.88m、深さ30cmほどの後世の遺構が構築されたと思われる。出土遺物から、やや袋状の古い土坑は縄文時代中期加曾利E I式期で、上の後世と思われる遺構はそれ以後と思われる。

第230図3は縄文土器片の拓影図である。浅鉢形土器の口縁部片で、数本単位の沈線で、口縁部は直線的、胴部は曲線的な文様が描かれている。

第871号土坑（第195図）

中央部底面近くから小骨片が出土している（付章参照）。覆土中から縄文時代中期加曾利E式期を主体とする遺物が極少量出土している。

第875号土坑（第195図）

本跡の底面からピットが2か所確認されており、1か所はほぼ中央に、他の1か所は北部に位置している。覆土中から縄文時代中期加曾利E I～E II式を主体とする遺物が出土しており、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第881号土坑（第195図）

ピット状の土坑で、覆土中から縄文土器片に混じって小骨片が出土している（付章参照）。第230図1、2は本跡出土の縄文土器片の拓影図である。1は後期安行I式に比定される粗製土器で、口縁部に爪形の刻文帯が2段施され、縦方向の条線が施文されている。2は後期加曾利B 1式に比定される土器で、入り組み状の区画文内部に縄文が施文されている。その他、後期堀之内式期～安行式期の遺物が混在しており、時期は縄文時代後期と考えておきたい。

第886号土坑（第196図）

底面にピット状の掘り込みが見られる。覆土中から極少量の縄文土器片に混じり、猪、鹿の骨片が出土している（付章参照）。出土遺物の時期は、縄文時代中期加曾利E IV式期～後期安行式期までのものが混在しており、量的にも少なく時期の特定は難しい。

第231図2、3は縄文土器片の拓影図である。2は口縁部上端と直下に刻みを施した突起を有し、器面には細い沈線で文様が描かれている。3は粗製土器の口縁部片で、斜行条線が施文され、口縁部以下沈線区画の刻文帯が2段に施されている。2点とも後期安行I式に比定される土器である。

第900号土坑（第194図）

第231図1は縄文土器片の拓影図である。胴上部から口縁部にかけての破片で、胴部に細い沈線で文様が描かれている。縄文時代後期堀之内式の範疇の土器と思われる。

第938号土坑（第196図）

ほぼ中央部に径25cmの円形で、深さ54cmのピットが確認されている。北側にもやや大形のピット2か所が確認されている。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅣ式期前後である。

第231図1は縄文土器片の拓影図である。口縁部は無文帯で、胴部との境の微隆起線以下には縄文が施文されている。中期加曾利EⅣ式に比定される土器である。

第943号土坑（第196図）

楕円形の土坑で、中央部やや西寄り、土層1の最下層から土層2の直上にかけて土器がまとまって出土しており、一括投棄と思われる。時期は、出土遺物から縄文時代後期安行Ⅱ式期である。

第231図4は縄文土器片の拓影図である。口縁部は隆起帯縄文で、口唇部に舌状の突起を有する。胴上部には沈線区画の刻文帯を2段巡らせ、要所にブタ鼻状貼瘤、胴部下半は僅かに斜行する条線が施文されている。後期安行Ⅱ式に比定される土器である。

第946号土坑（第196図）

楕円形の土坑で、覆土中層から縄文土器片が出土している。第231図1の底部片は西部覆土中層から横位の状態で出土している。時期は、主体となる遺物から縄文時代中期加曾利EⅠ～Ⅱ式期である。

第947号土坑（第197図）

覆土中から中期加曾利E式期～後期安行式期までの土器片及び猪の骨片と歯が出土している（付章参照）。主体となる遺物は後期の土器であるが、第949、950号土坑との重複で後期安行式期の土器が流れ込んでいる可能性が考えられるため、時期判断は困難である。縄文時代後期中葉と考えておきたい。

第231図1～3は縄文土器片の拓影図で、いずれも口縁部片である。1、3は後期加曾利B2式に比定される土器で、押捺を加えた粘土紐が貼り付けられ、1は2段構成、口唇部に小突起も見られる。いずれも縄文地文である。2は後期安行Ⅰ式に比定される土器で、口縁部に巡る粘土紐貼り付けの刻文帯以下は横方向の条線が施文されている。

第949号土坑（第197図）

深さ237cmの円筒状の土坑で、底面から猪の頭部と第232図1の深鉢形土器が破碎された状態で、また6の底部片も出土している。他の遺物も覆土中層から下層にかけて出土しており、土層2、7、8及び11には小骨片を含んでいる（付章参照）。土坑本来の機能終了後廃絶され、廃棄遺物の投棄場所的性格を持ちながら埋没していったものと思われる。後期安行Ⅰ式期の土器も混じっているが、第950号土坑と隣接しているための流れ込みと思われる。時期は、出土遺物から晩期安行Ⅲa式期である。

第233図9～12は縄文土器片の拓影図である。9は胴部片で、沈線区画の縄文帯以下に斜行条線が粗く施文されている。10も胴部片で、沈線区画の縄文帯に刺突を3個加えた貼瘤が見られる。11は中央の刺突状の円形

文を中心に三叉文が取り巻くように彫刻され、部分的に縄文が施文されている。これらは晩期安行Ⅲ a 式に比定される土器である。12は後期安行Ⅰ式に比定される土器で、沈線区画の隆起帯縄文が3段施され、縄文帯間は磨り消されている。

第950号土坑（第197図）

深さ161cmの円筒状の土坑で、覆土中から後期～晩期にかけての土器と獣骨片が1点出土している。第233図1は覆土上層から出土している。晩期の土器は第949号土坑と、後期中葉の土器は第947号土坑との関連が考えられ、本跡の時期は、主体となる遺物から縄文時代後期安行Ⅱ式期前後と思われる。

第233図2～8は縄文土器片の拓影図である。2, 3は後期安行Ⅱ式の粗製土器で、2は口縁部と胴上部に粘土紐貼り付けの隆起帯刻文を巡らせ、上部は下向き弧状の条線、下部は斜行条線が施文されている。3は沈線区画の三角刻文帯を上下に2段巡らせ、上部には下向き弧状の条線を月状文が切断しており、安行Ⅲ a 式の手法が見られる。4は晩期安行式の範疇の土器と思われ、プタ鼻状貼瘤が要所に付けられ、縄文帯が口縁部以下に施され、隙間は沈線区画で磨り消されている。5は3段の隆起帯縄文を貼瘤が結んでいる。後期安行Ⅰ式に比定される土器である。6, 7は後期加曾利B式の範疇の土器で、6は外面に沈線区画の縄文帯、7は外面に縄文施文で、2点とも内面は磨きが施されている。8は後期堀之内式に比定される土器の口縁部片で、口唇部上端に沈線が施され、刺突を加えた小突起を有する。胴部は縄文地文で、櫛歯状施文具による直線的あるいは波状の沈線が口縁部から垂下している。

第951号土坑（第197図）

西側から北側の壁際にかけてピットが3か所見られる。第1065号土坑との境のピットは後世のものである。覆土中から遺物が出土しており、第233図1は中央部やや北側の覆土上層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期～加曾利EⅠ式期前後と思われる。

第233図2は中期勝坂Ⅱ式に比定される胴部片で、縦方向の直線や「コ」の字を入り組ませたような文様を沈線で描き、区画内は部分的に爪形文が施文されている。

第952号土坑（第197図）

円形のピットで、規模に比較し多量の土器片が出土している。時期は、中期から後期の遺物が混在して出土しているが、第234図1が底面から出土していることや、主体を占める土器から縄文時代後期中葉から後葉の範疇と思われる。

第234図2～5は縄文土器片の拓影図である。2は波状口縁で、口縁部は指頭によるナデで無文、胴部には単節縄文が施文されている。後期加曾利B式の範疇と思われる。3も口縁部片で、沈線区画の隆起帯縄文が口縁部以下に2段施されている。後期安行Ⅰ式前後と思われる。5は胴部片で、「J」字状の区画文が見られ、区画内磨り消し、区画外は縄文が施文され、後期称名寺Ⅰ式に比定される土器である。4も胴部片で、縄文地文で両側磨り消しの微隆起線で文様が描かれている。中期加曾利EⅢ～Ⅳ式の範疇と思われる。

第954号土坑（第197図）

袋状土坑で、底面から3か所の小ピットが確認されている。時期は、遺構の形態及び覆土中の出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期～加曾利EⅠ式期にかけてと思われる。

第956号土坑（第198図）

ピットが5か所底面から確認されている。中央のピットは径43cmの円形で、深さ57cm、本跡に伴うと思われるが、他のピットは後世の掘り込みである。第234図1が南西部底面から出土しており、本跡の時期は縄文時代中期加曾利EⅡ式期である。

第957号土坑（第198図）

深さ164cmの円筒状の土坑で、覆土中から遺物が極少量出土している。すべて覆土上層からの出土で、中期から後期の土器が混在しており、時期は不明である。

第235図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は波状口縁部片で、胴部無文、口唇部に沈線が施され、波頂部付近で鉤の手状に曲線が描かれている。2は中期阿玉台I b式に比定される土器で、断面三角形の隆帯で口縁部に区画を設け、区画内に結節沈線文が施文され、ボタン状の貼り付けも見られる。3は中期勝坂Ⅱ式並行と思われる胴部片で、沈線を沿わせた連続爪形文で区画を施し、区画に沿って半截竹管による半円弧状の刺突文が見られる。地文に縄文が施文されている。

第960号土坑（第198図）

袋状土坑で、西壁際底面から第235図1の深鉢形土器が逆位の状態で出土している。他に覆土中層から下層にかけて縄文土器片が出土しており、3は南西部覆土中層からの出土である。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期である。

第236図4は縄文土器片の拓影図である。波状を呈する口縁部片で、隆帯による区画に沿って結節沈線文が2列施されている。中期阿玉台Ⅲ式の範疇の土器である。

第1044号土坑（第199図）

不定形の土坑で、覆土中から縄文土器片、土器の把手片や土製円板が出土し、これらに混じり獣骨片も出土している（付章参照）。後期の遺物が主体を占めるが、大きく後期加曾利B式期と後期安行式期に大別され、遺構の形態からも2基の重複の可能性が考えられる。

第236図3～5は縄文土器片の拓影図である。3は口縁部片で、沈線区画の隆起帯縄文が口縁部以下に2段施され、下部にはやや斜行する条線が施されている。4は胴部片で、縄文地文の上に並行沈線が斜格子状に施文されている。5も胴部片で、粘土紐貼り付けの刻文帯の上は条線文を切断する沈線区画の「」(「)状の磨消帯が見られ、刻文帯以下は条線文が施文されている。3、5は後期安行式、4は後期加曾利B式に比定される土器である。

第1045号土坑（第198図）

袋状土坑で、底面に深さ10cmほどの浅いピットを有する。覆土中から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期～加曾利EⅠ式期の土器片が出土しており、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第1046号土坑（第199図）

底面から2か所のピットが確認されている。覆土中から縄文時代中期中峠式期～加曾利EⅠ式期の土器片が出土している。第236図1の底部片は南東部覆土中層からの出土である。

第236図4, 5は縄文土器口縁部片の拓影図である。4は口縁部に隆帯が巡らされ、以下は波状文、連続「コ」字状文、渦巻文が施文されている。中期中峠式に比定される土器である。5は縄文地文で、隆線で口縁部文様帯に文様を施文している。中期加曽利E I式に比定される土器である。

第1047号土坑（第200図）

ピットが底面から4か所確認されている。中央のピットは長径53cm、短径46cmの楕円形で、深さ50cmである。壁際を回るピットは長径30～70cmの楕円形で、深さは22～62cmと規模にばらつきが見られる。覆土中から縄文土器片が出土しているが、中期加曽利E式期から後期のものが混在しており、量的には中期の遺物がやや多めだが時期の特定は困難である。

第237図2～5は縄文土器片の拓影図で、いずれも口縁部片である。3は角状突起を有する波状口縁部片で、突起下に通孔が見られ、口縁部に沿って縄文が見られる。後期安行I式に比定される土器である。4は後期堀之内式に比定されると思われる胴部片で、隆帯上及び沈線区画内に刻みが施されている。2は中期加曽利E I式に比定される口縁部片で、沈線を沿わせた隆線で区画文や渦巻文が描かれている。5は中期加曽利E III式に比定される土器で、複節縄文L R Lの地文を切って沈線区画の磨消帯が垂下している。

第1050号土坑（第199図）

覆土中から土器片が出土しており、第237図1は覆土中層からの出土である。量的に後期安行式期の土器が主体を占めるので、本跡の当該期と思われる。

第237図3, 4は縄文土器片の拓影図である。いずれも後期安行式に比定される粗製土器の口縁部片で、3は口縁部と頸部に刻文帯を2段施し、斜行条線文が施文されている。4は口縁部に押捺を加えた粘土紐貼り付けで、以下は緩やかな斜行条線文が施文されている。

第1051号土坑（第200図）

袋状土坑で、覆土中から縄文土器片が出土している。第238図1は中央部やや東寄りの覆土中層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期前後である。

第238図2は縄文土器胴部片の拓影図である。凸凹の隆帯を斜めに貼り付け、隆帯より上は縦沈線を充填し、隆帯以下は無文である。中期阿玉台Ⅲ式の範疇と思われる。

第1052号土坑（第199図）

第238図1は覆土中から出土した縄文土器片の拓影図である。口唇部上端に舌状の突起を有する口縁部片で、口縁部は縄文帯で横走沈線区画、胴部には「×」状の沈線が施され、磨り消し部分と充填縄文が交互に配されている。磨り消し部分には沈線の交差部分を通過する細かく蛇行する沈線が垂下している。晩期安行Ⅲ a式に比定される土器である。他には、縄文土器の細片が極少量出土しているだけで、断定はできないが、時期は縄文時代晩期前葉と考えておきたい。

第1056号土坑（第202図）

深さ243cmの円筒状の土坑で、覆土上層から下層にかけて遺物が出土している。多量の縄文土器片に混じり、猪の下顎骨、肩甲骨、脊椎や鹿の骨片及び魚骨も出土し、覆土下層（レベル20.6m前後10cmほど）には混土貝層が見られる（付章参照）。土坑廃絶後、廃棄遺物の投棄場所的性格を持ちながら埋没していったものと思われる。時期は、出土遺物から縄文時代晩期安行Ⅲ a 式期である。

第239図3～7は縄文土器片の拓影図である。3、4は口縁部片で、波状口縁波頂部突起下に縦長貼瘤、胴部には三叉文が彫刻され、口縁部は縄文帯、胴部は磨り消し部分と縄文施文部分が交互に配されている。5も波状口縁で、波底部に縦長貼瘤を付し、対応する胴部にもブタ鼻状貼瘤が付されている。口縁部縄文帯の下に磨り消し部分をおいて、2段構成の微隆起線刻文の間は縄文施文、ブタ鼻状貼瘤から派生する沈線が縄文を切断している。これらは晩期安行Ⅲ a 式に比定される土器である。6は胴部片で、上下の隆起帯刻文の下段にブタ鼻状貼瘤が見られ、下部は縄文が施文されている。後期安行Ⅱ式に比定される土器である。7は後期加曾利B 2式に比定される口縁部片で、口縁部外面は無文帯、内面に沈線が巡り沈線上に円形刺突文が見られる。外面は口縁部下の横走2本沈線以下は下向き弧状の沈線が施され、区画外は縄文が施文されている。

第1059号土坑（第203図）

袋状土坑で、底面に2か所のピットを有する。覆土中から縄文時代中期中葉の土器が出土しており、遺構の形態からも該期と思われる。

第239図2は縄文土器口縁部片の拓影図である。口縁部文様帯に「コ」字状文や結節沈線文が施され、胴部との境に施された刻文帯以下は縄文が施文されている。中期中峠式に比定される土器である。

第1060号土坑（第203図）

第240図1、2は本跡の覆土中から出土した縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、内部に刻文を施した沈線が2段巡らされている。2は胴部片で、横走沈線と鋸歯状沈線が交互に施文されている。縄文時代中期中葉の土器と思われる。

第1061号土坑（第203図）

袋状土坑で、縄文土器が少量出土している。第240図1は中央部やや西寄りの底面近くから横位の状態で出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期中峠式期である。

第1062号土坑（第203図）

円形の土坑で、第241図1と2の他は土器片が3点出土しているだけである。時期的に隔たりがあり、新しい2の縄文時代晩期前葉という可能性が考えられるが、1の深鉢形土器は覆土下層から出土しており、時期の特定は困難である。

第1063号土坑（第203図）

上面は不整円形だが、底面は長楕円形の袋状土坑で、覆土中から縄文土器に混じり第241図4の石棒が出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期前後である。

第241図2は縄文土器片の拓影図である。胴部片で、撚糸文が地文に施され、半截竹管による横走平行沈線

に沿い、半円弧状の刺突文が施されている。中期勝坂Ⅱ式に比定される土器である。

第1065号土坑（第204図）

底面中央部から深さ63cmの楕円形ピットが確認されている。壁際を掘り込んでいるピットも見られるが、後世の掘り込みと思われる。覆土中から後期の土器が出土しており、第242図4は西部覆土下層から出土している。また、中央部覆土下層から魚骨も出土している（付章参照）。時期は、主体となる遺物から縄文時代後期安行Ⅰ式期前後と思われる。

第242図4～6は縄文土器片の拓影図である。4、6は後期安行Ⅰ式に比定される土器である。4は口縁部片で、隆起帯縄文を口縁部以下に3段施し、口唇部の小突起以下に貼瘤を付し縄文帯が接続されている。6は粗製土器の胴部片で、縦の条線文が頸部に巡る三角刻文帯に切られている。5は加曽利B3式に比定される土器と思われる。口唇部の刻文以下胴部は斜行沈線が施されている。

第1066号土坑（第204図）

深さ137cmの円筒状の土坑で、土器片に混じり、貝粉及び猪等の獣骨片が覆土中から出土しており、鹿角の角鏃も出土している（付章参照）。土器は後期安行Ⅰ式期～晩期安行Ⅲb式期のものが混在しているが、縄文時代晩期安行Ⅲa式期前後が本跡の時期と思われる。

第243図5～8は縄文土器片の拓影図である。5、7は後期安行Ⅰ式に比定される土器である。5は粗製土器の口縁部片で、口縁部に巡る三角刻文帯以下は斜行条線が施され、横走沈線により文様が切断されている。7は胴部片で、くびれ部に沈線区画の縄文帯を施し、磨消部分を挟んで上部は下向き弧線、下部は上向き弧線が描かれ、区画内に縄文が施文されている。6は口縁部片で、口縁部上端と外面に刻みを施した突起が設けられ、外面の突起間は楕円形区画の磨り消し、区画文は沈線に沿わせた縄文帯で構成している。8は沈線区画の磨消帯を挟んで縄文が施文され、3単位の刺突を持つ貼瘤が上下1組で付されている。2点とも晩期安行Ⅲa式に比定される土器である。

第1067A・1067B号土坑（第204図）

第1067A号土坑は袋状土坑で、底面から3か所のピットが確認されている。覆土中から出土している極少量の縄文土器片に混じり、第243図1の浮子が出土している。時期を判断する遺物は出土していないが、遺構の形態から、時期は縄文時代中期と思われる。

第1067A号土坑の南側で、ピット状の第1067B号土坑が確認されている。縄文時代晩期安行Ⅲa式の第243図1が覆土中から出土している。

第1069号土坑（第205図）

ピットが北壁寄りの底面から4か所確認されている。出土遺物は、縄文時代中期から晩期までの土器が混在しているが、晩期の土器は第244図4の1点だけで、主体は中期加曽利EⅠ式期前後と後期堀之内式期である。第243図1は東部覆土上層からの出土で、時期判断の根拠としては弱いだが、縄文時代後期堀之内式期を本跡の該期と考えておきたい。

第244図5は縄文土器片の拓影図で、中期加曽利EⅠ式の範疇と思われる。隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内に縦沈線を施文し、胴部には曲線的文様が沈線で描かれている。

第1080号土坑（第200図）

3か所のピットが底面から確認されている。東壁際に1か所、中央部を挟んで南北に対峙するように2か所位置している。深さは12～19cmである。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曽利E I式期である。

第245図3、4は縄文土器片の拓影図である。3は波状口縁波頂部片で、波頂部下に渦巻文を施し、口縁部文様帯を刺突状の沈線で区画し、内部に縦の単沈線が充填されている。頸部は無文で、波頂部の渦巻文から頸部に沈線が垂下し、下部で曲線が描かれている。4は胴下部の破片で、撚糸文を地文にし、2本沈線が垂下している。いずれも中期加曽利E I式に比定される土器である。

第1085号土坑（第206図）

中央部にピットを1か所所有する。覆土中から中期主体の土器片に混じり、鹿角製のヘラが出土している（付章参照）。時期は、出土遺物から縄文時代中期後半と思われる。

第1090号土坑（第206図）

袋状土坑で、覆土中から縄文土器に混じり、鹿、猪の骨片が出土している（付章参照）。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期にかけてである。

第245図4～7は縄文土器片の拓影図である。4は口縁部文様帯を隆帯で区画し、区画内は隆帯と沈線によって文様が構成され、胴部は単節縄文が施文されている。5は鉢形土器の口縁部片と思われ、口縁部内面に稜が見られる。口縁部外面の隆帯は欠損しているが、胴部は単節縄文RL地文で細い4本の平行沈線が垂下している。6は胴部片で、縄文を地文にし、隆帯による区画に沿って爪形文が施されている。7は口縁部に隆帯を貼り付けて肥厚させ、以下は平行沈線で文様が描かれている。地文に縄文が施文されている。8は口唇部上端が押捺により凸凹に作出されている。いずれも中期阿玉台Ⅳ式前後の土器と思われる。

第1091号土坑（第207図）

深さ44cmの小土坑で、第1109号土坑を掘り込んでいる。覆土中から第246図1の異形台付土器、3の耳飾りの破片及び4の石鏃に混じり、猪の歯が出土しているが、他は極少量の土器片が出土しているだけである（付章参照）。時期は、出土遺物から縄文時代後期安行Ⅱ式期前後と思われる。

第246図2は縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、上に爪形文、下に三角刻文の刻文帯を2段巡らせ、口縁部下の沈線以下は下向き連弧文を沈線で描き、区画内に縄文が施文されている。後期安行Ⅰ式に比定される土器である。

第1092号土坑（第206図）

袋状土坑で、覆土中層から下層にかけて遺物が出土している。第246図1は北東部覆土下層と西部底面から、第247図4は北東部覆土下層から横位の状態で出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期である。

第247図5～7は縄文土器片の拓影図である。いずれも中期阿玉台Ⅳ式に比定される土器の口縁部である。5は地文の単節縄文が羽状に施文されており、外反する口縁部下に3本の沈線が見られ、下段は小波状を描く。胴上部にも波状を描くと思われる沈線が施文されている。6は無文で、胴上部に押捺を加えた凸凹の隆帯が貼り付けられ、隆帯と口唇部の間に櫛歯状の沈線が施文されている。7は単節縄文LRが部分的に縦の羽状構成

をとり施文されている。

第1099号土坑（第207図）

複数の土坑が重複しているため、出土遺物も縄文時代中期から後期までのものが混在している。第248図1は南部覆土中層から出土している。時期の判断は難しいが、縄文時代後期と考えておきたい。

第1104号土坑（第201図）

北壁際周囲に数か所のピットが見られるが、性格は不明である。覆土中から縄文時代中期中葉の遺物が少量出土している。

第1108号土坑（第201図）

深さ17cmのピットが西壁寄りの底面から確認されている。覆土上層から中層にかけて極少量の遺物が出土している。第248図1は東壁際覆土上層からの出土である。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利E I式期である。第248図1, 2は縄文土器片の拓影図である。1は胴部片で、地文に縄文が施されている。上部に隆線を巡らせ、以下は4本の平行沈線と蛇行沈線を垂下している。2は縄文地文で、隆線によるクランク文が口縁部文様帯として施文されている。

第1109号土坑（第207図）

袋状土坑で、東壁際からピットが確認されている。西側で第1091号土坑に掘り込まれ、東側で円筒状の深さ98cmの第1123号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。東部床面から石が数点出土しているが、本跡の出土遺物か第1123号土坑の出土遺物かは不明である。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中峠式期前後と思われる。第1123号土坑の出土遺物もほぼ同時期であり、該期と思われる。

第1110号土坑（第208図）

ピットが3か所底面から確認されている。覆土中から縄文土器片に混じり第249図2の土偶も出土しているが流れ込みと思われる。縄文時代中期加曾利E式期の遺物が出土しており、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第249図1は縄文土器片の拓影図である。波状口縁波頂部で、口唇部上端に交互刺突による連続「コ」字状文が見られ、胴部は単節縄文RLが施文されている。中期中峠式に比定される土器である。

第1111号土坑（第207図）

覆土中から土器片に混じり獣骨片が出土している（付章参照）。中期から後期の土器が混在しているため、時期の特定は困難だが、縄文時代後期と考えておきたい。

第249図2は縄文土器片の拓影図である。波状口縁で、口縁部内面に沈線が施され、口縁部外面磨き、要所で屈曲する沈線区画の磨消帯を帯状に施し、区画外は縄文が施されている。後期加曾利B2式に比定される土器である。

第1112号土坑（第207図）

本跡の覆土中から極少量の縄文時代中期中葉の土器片と第249図1の磨石が出土している。

第1114号土坑（第205図）

出土遺物は極少量で、覆土上層からの出土が多く、詳細は不明である。

第1117号土坑（第202図）

袋状土坑であるが、周囲の土坑に掘り込まれており形状が部分的に不明である。覆土中層から下層にかけて縄文土器片が出土している。第250図2, 3は西部底面, 1は東部覆土中層からの出土である。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中葉である。

第250図4は縄文土器片の拓影図である。胴部片で、刻文を加えた隆帯に沿って半截竹管による平行沈線が施され、隆帯間には半截竹管による鋸歯状文が垂下している。中期阿玉台Ⅲ式の範疇と思われる。

第1124号土坑（第208図）

袋状土坑で、覆土中層から遺物が出土している。第251図2はほぼ中央部の覆土中層, 1はやや北側の覆土中層から出土している。この他に猪の骨片も覆土中から出土している（付章参照）。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期である。

第1128号土坑（第208図）

本跡は、第238号住居跡の床を掘り抜いている楕円形の土坑で、北部に深さ16cmの小ピットが見られる。覆土中から遺物が少量出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅡ～Ⅲ式期にかけてと思われる。

第251図2は縄文土器片の拓影図で、波状口縁の波頂部片である。波頂部から胴部にかけて微隆起線によるモチーフが描かれ、隙間には縄文が見られる。

第1130号土坑（第208図）

袋状土坑で、ほぼ中央部底面から径38cm、深さ39cmの円形のピットが確認されている。北西壁際にも見られるが本跡に伴うかは疑問である。覆土中から縄文時代中期中峠式期～加曾利EⅠ式期にかけての土器が出土しており、本跡の該期と思われる。

第252図5～10は縄文土器片の拓影図である。5は波状口縁の波頂部で、口縁部に連続「コ」字状文と隆帯上の刻みが見られる。以下無文で、頸部には平行沈線が横走されている。6は同類の波底部片で、隆帯上に押捺が2か所加えられている。中期中峠式に比定される土器である。7～10は中期加曾利EⅠ式に比定される土器の口縁部片である。7は穿孔を有する突起が設けられ、沈線を沿わせた隆線で口縁部文様帯が構成されている。地文に縄文が施されている。8も縄文地文で、中央に沈線を加えた隆線で文様が描かれている。9も縄文地文で、口唇部外面に沈線を施し、隆線による口縁部文様帯の区画文が構成されている。10も施文方法は9と似ており、口縁部文様帯に曲線文、波状文が見られる。

第1131号土坑（第208図）

深さ119cmの円筒状の土坑で、第1130号土坑との重複関係は不明だが、本跡の方が若干新しい遺物が出土している。時期は、縄文時代中期加曾利EⅠ式期と考えておきたい。

第252図1, 2は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部沈線区画で連続刺突文が2段構成、胴部は撚糸文が地文で施されている。中期加曽利EⅡ～Ⅲ式の範疇と思われる。2は口唇部が外側に突出し、以下地文の縄文が鋸歯状沈線で切断されている。中期加曽利EⅠ式に比定される土器と思われる。

第1136号土坑（第202図）

第1072, 1117号土坑との重複で、北側部分から東側部分にかけて不明な所が部分的にある。第253図1が西部覆土下層から横位の状態で出土しており、時期は、縄文時代中期加曽利EⅠ式期前後かと思われる。

第1139号土坑（第209図）

本跡の北側部分から東側部分にかけては他の土坑との切り合いで形状が不明な部分がある。南部底面から2か所のピットが確認されている。覆土上層から下層にかけて遺物が出土しており、獣骨片も混じっている（付章参照）。第253図1は北部覆土上層から、2は北東部覆土下層からいずれも横位の状態で出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉である。

第1141号土坑（第201図）

ほぼ円形の土坑で、掘り込みも32cmと浅い。覆土中層から縄文土器が出土しており、第254図1は南東部覆土下層からの出土である。遺物の時期は、縄文時代中期加曽利EⅡ～Ⅲ式期のものが主体を占め、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第1143・1144・1145号土坑（第209・210図）

3基の重複関係は、第1143号土坑が最も古く、次に第1144号土坑で、第1145号土坑が最も新しい。第1143号土坑は浅い3か所のピットを有し、第254図1が横位の状態で南部覆土中層から出土している。縄文時代中期中葉の時期と思われる。

第1144号土坑は、中央から深さ55cmのピットが確認されている。第254図1は中央のピットの上層、覆土下層から出土している。遺物が時期的に混在しているが、縄文時代後期加曽利B式期と考えておきたい。

第1145号土坑は3基の中で最も新しく、主体となる遺物から縄文時代後期安行式期の可能性が考えられる。

第1146号土坑（第210図）

袋状土坑で、ピットが1か所底面から確認されている。時期判断の遺物は出土していないが、遺構の形態から縄文時代中期のものと思われる。第254図1はナイフ形石器で、流れ込みである。

第1151号土坑（第205図）

第1113, 1114号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。中央部の底面からピットが2か所確認されている。西壁際にもピットが2か所あるが本跡に伴うかどうかは疑わしい。覆土上層から中層にかけて遺物が出土しており、第254図1は南東壁際覆土上層からの出土である。時期は、出土遺物から縄文時代後期堀之内式期と思われる。

第1153号土坑（第210図）

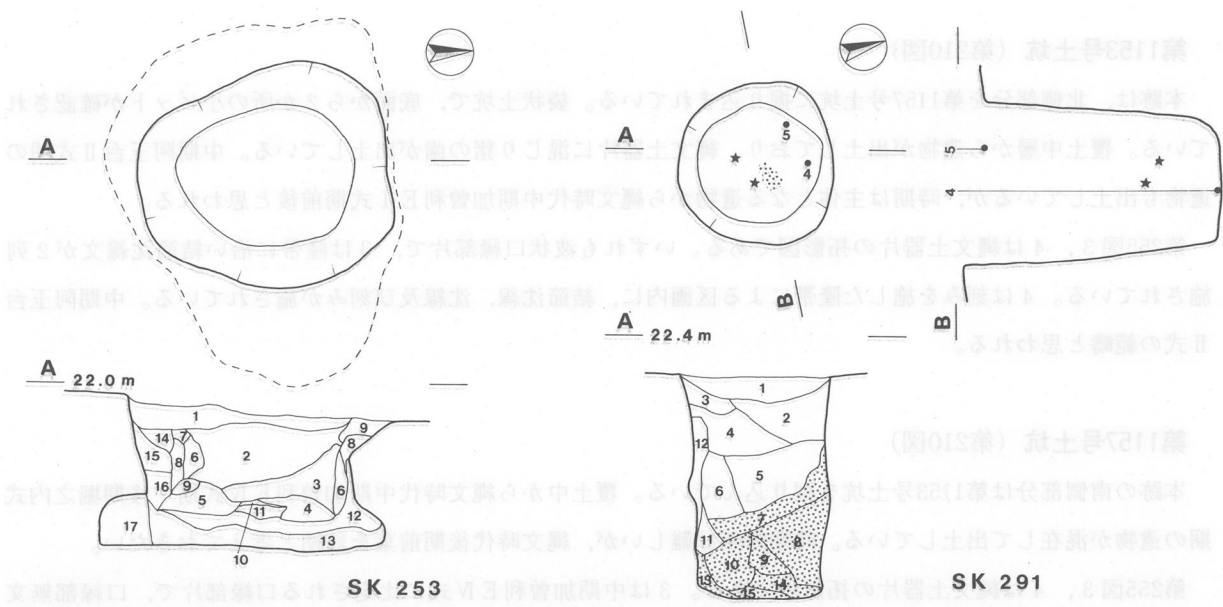
本跡は、北側部分を第1157号土坑に掘り込まれている。袋状土坑で、底面から2か所の小ピットが確認されている。覆土中層から遺物が出土しており、縄文土器片に混じり猪の歯が出土している。中期阿玉台Ⅱ式期の遺物も出土しているが、時期は主体となる遺物から縄文時代中期加曾利EⅠ式期前後と思われる。

第255図3、4は縄文土器片の拓影図である。いずれも波状口縁部片で、3は隆帯に沿い結節沈線文が2列施されている。4は刻みを施した隆帯による区画内に、結節沈線、沈線及び刻みが施されている。中期阿玉台Ⅱ式の範疇と思われる。

第1157号土坑（第210図）

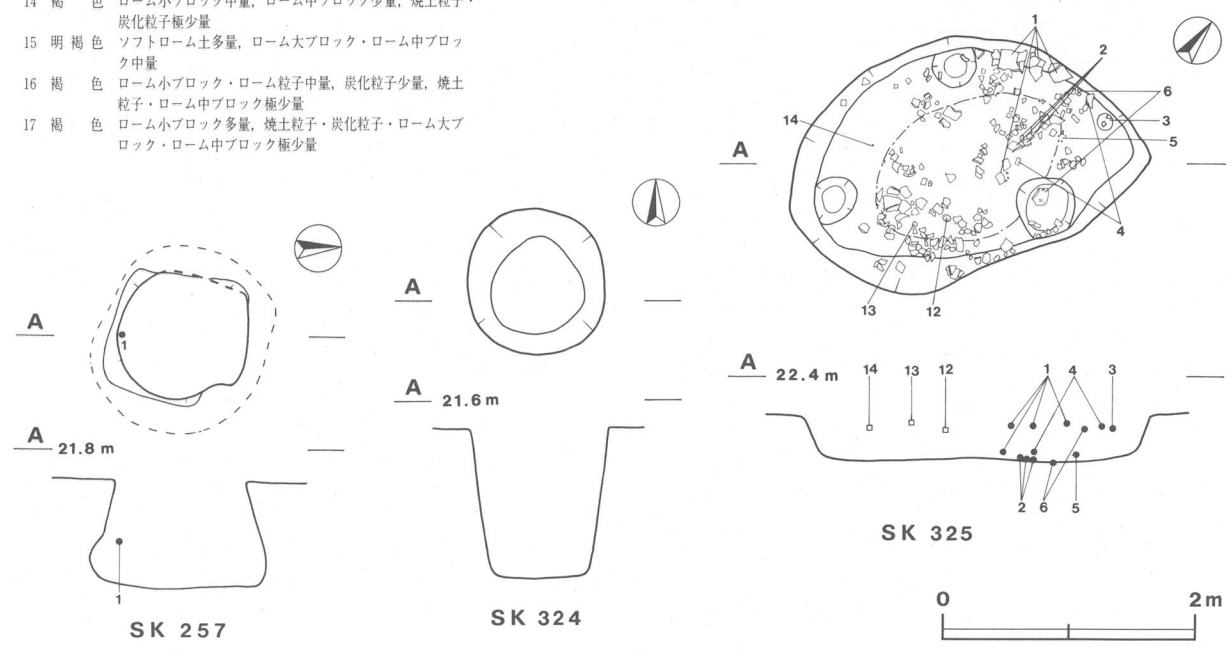
本跡の南側部分は第1153号土坑を掘り込んでいる。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅣ式期～後期堀之内式期の遺物が混在して出土している。時期判断は難しいが、縄文時代後期前葉を該期と考えておきたい。

第255図3、4は縄文土器片の拓影図である。3は中期加曾利EⅣ式に比定される口縁部片で、口縁部無文帯の下に微隆起線が巡り、舌状の突起が見られる。胴部は微隆起線区画の磨消帯が施され、区画外は縄文が施されている。4は後期堀之内式に比定される浅鉢形土器の口縁部片で、口縁部に小突起を有する。外面は無文で、口縁部内面に沈線区画の刻文帯が施されている。

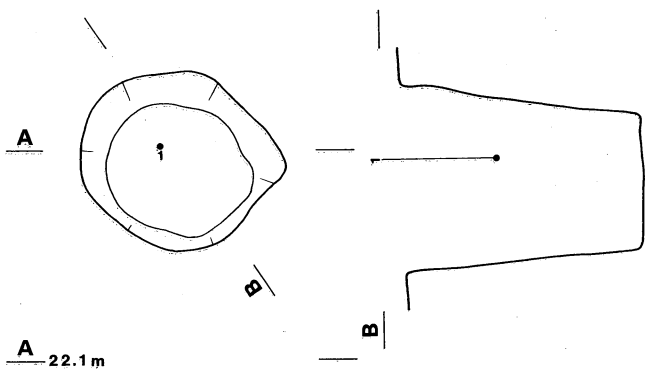


- 第253号土坑 土層解説**
- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
 - 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
 - 3 暗褐色 ローム小ブロック多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック少量, 焼土中ブロック極少量
 - 4 褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土粒子少量, 炭化物極少量
 - 5 暗赤褐色 焼土塊
 - 6 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
 - 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
 - 8 褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ソフトローム土少量, ローム中量極少量
 - 9 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
 - 10 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
 - 11 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量, ローム中ブロック極少量
 - 12 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
 - 13 褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
 - 14 褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
 - 15 明褐色 ソフトローム土多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック中量
 - 16 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック極少量
 - 17 褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック極少量

- 第291号土坑 土層解説**
- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック中量, 焼土大ブロック・焼土中ブロック・ローム中ブロック極少量
 - 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 小骨片含む
 - 3 褐色 炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
 - 4 褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック少量, ローム中量極少量
 - 5 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ソフトローム土少量, 小骨片・貝粉少量含む
 - 6 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子極少量, 小骨片含む
 - 7 黒褐色 炭化物・炭化粒子中量, 焼土粒子・焼土小ブロック・ローム小ブロック極少量, 骨片・貝粉少量含む
 - 8 黒褐色 炭化物・炭化粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量, 貝粉多量
 - 9 黒褐色 炭化物中量, ローム粒子少量, 焼土粒子極少量, 貝粉少量含む
 - 10 黒褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量, 貝粉中量, 小骨片含む
 - 11 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック中量, 貝粉少量含む
 - 12 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物少量, 焼土小ブロック極少量
 - 13 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化物中量, 貝粉少量含む
 - 14 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化物・炭化粒子中量, 焼土粒子極少量, 貝粉少量含む
 - 15 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子中量, ソフトローム土少量, 貝粉少量含む

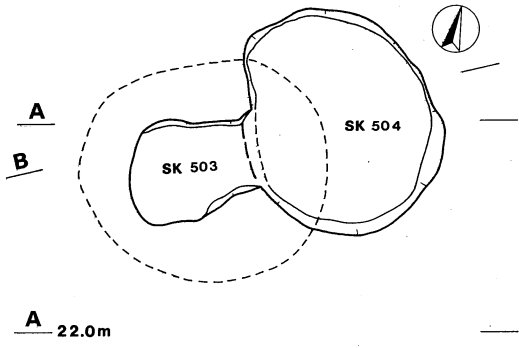


第179図 第253・257・291・324・325号土坑実測図



第294号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土中ブロック・ローム大ブロック・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック少量
- 4 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム大ブロック極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, 小骨片少量含む
- 6 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, 炭化物少量・ローム中ブロック極少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 10 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量

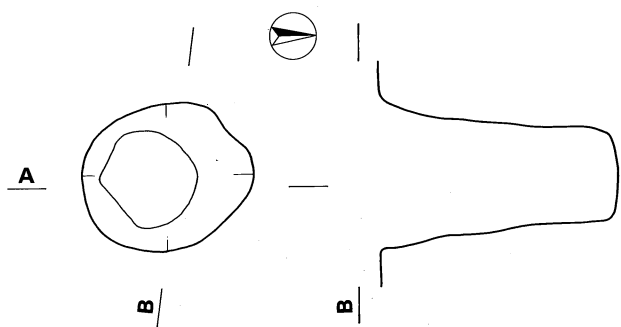


第503号土坑 土層解説

- 4 褐色 ローム粒子多量(天井部崩落土層)
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 黒褐色 炭化粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量

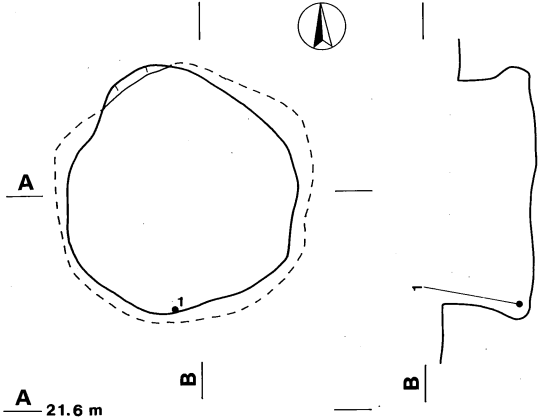
第504号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量



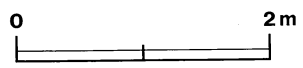
第496号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 7 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ロームブロック・ローム粒子多量

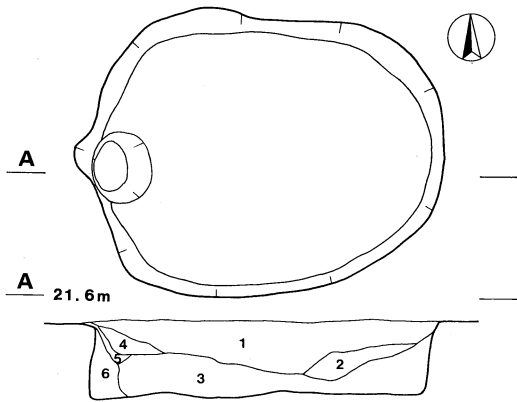


第716号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 9 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量



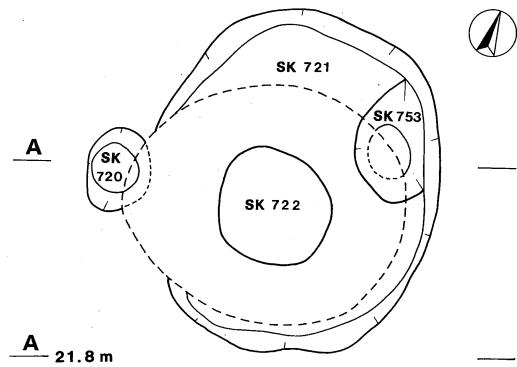
第180図 第294・496・503・504・716号土坑実測図



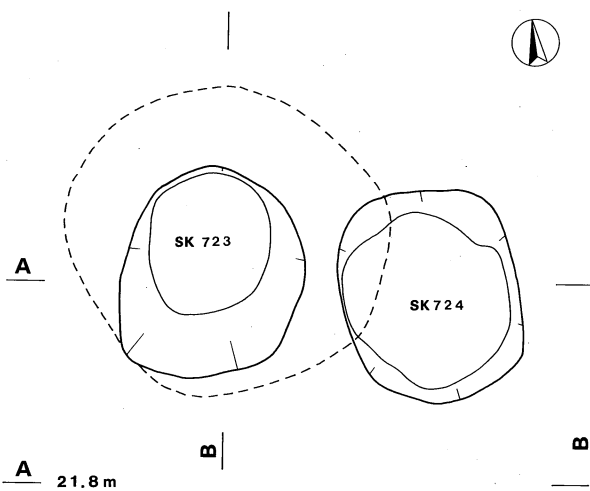
SK 717

第717号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化物・ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



SK 720・721・722・753



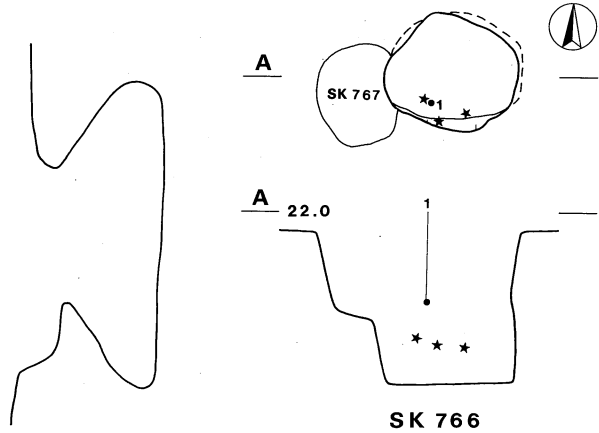
SK 723・724

第723号土坑 土層解説

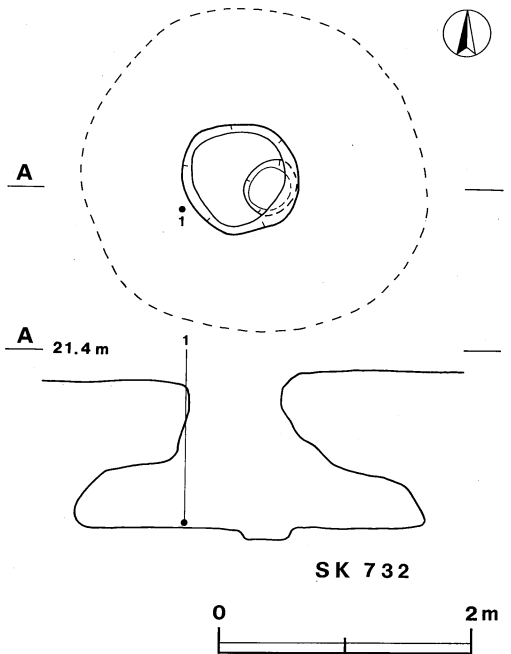
- 13 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 14 黒褐色 炭化粒子・ローム中ブロック少量, ローム粒子極少量
- 15 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 16 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 17 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量

第724号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 9 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量

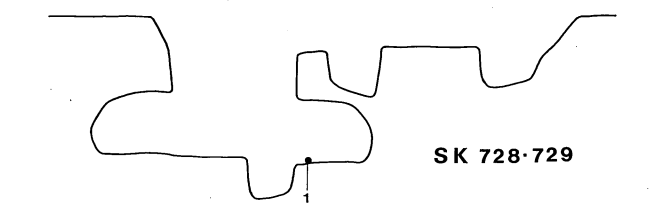
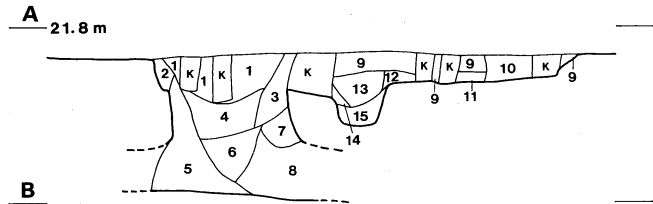
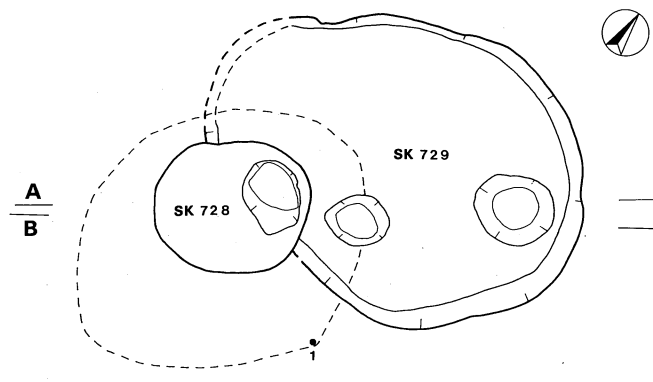


SK 766



SK 732

第181図 第717・720・721・722・723・724・732・753・766号土坑実測図

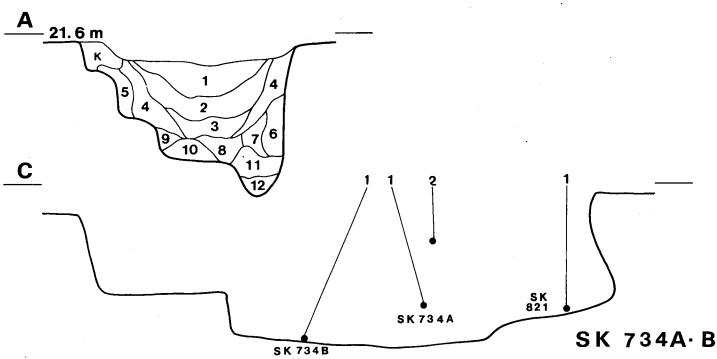
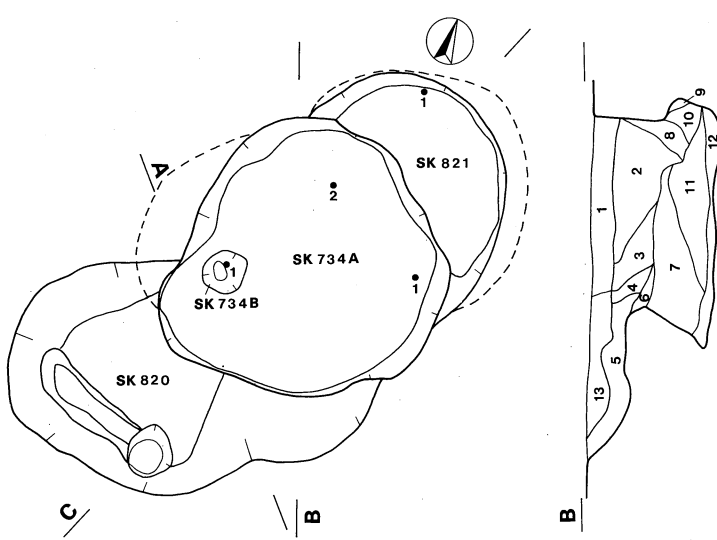


第728号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 2 褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第729号土坑 土層解説

- 9 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 12 暗褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 14 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
- 15 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土極少量



第820号土坑 土層解説

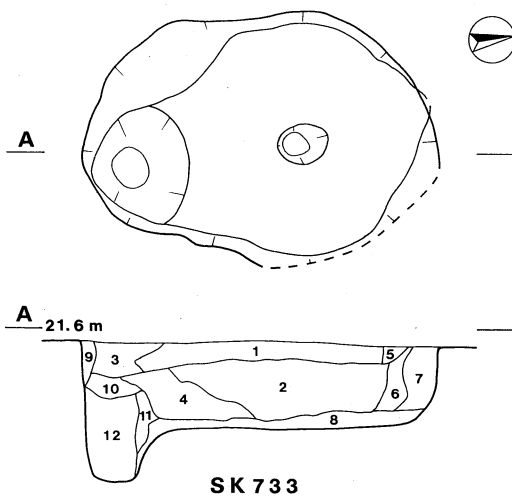
- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 7 褐色 ローム中ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 10 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 12 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量

第734号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック少量
- 4 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 6 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック中量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 10 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 13 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



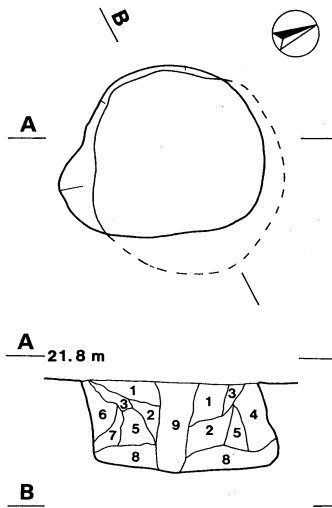
第182図 第728・729・734A・734B・820・821号土坑実測図



SK 733

第733号土坑 土層解説

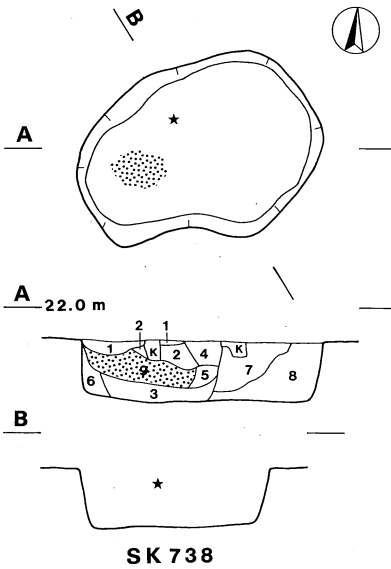
- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 4 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 6 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 9 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, 炭化粒子極少量
- 12 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量



SK 735

第735号土坑 土層解説

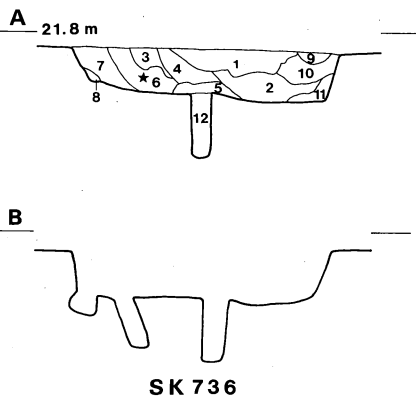
- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 9 暗褐色 炭化粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量



SK 738

第738号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック少量, ローム小ブロック極少量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 炭化物少量
- 9 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 貝片少量含む



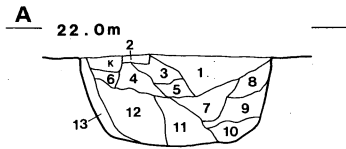
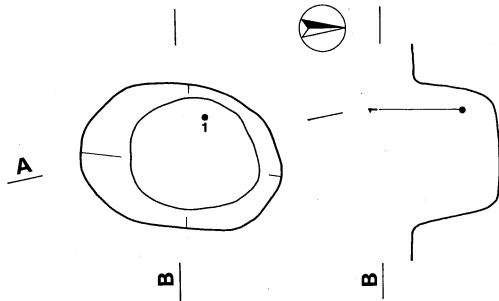
SK 736

第736号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 小骨片少量含む
- 7 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 9 褐色 焼土粒子・ローム中ブロック極少量
- 10 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 11 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量



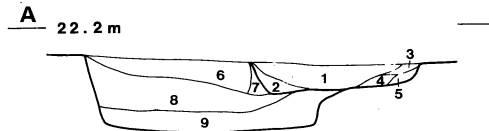
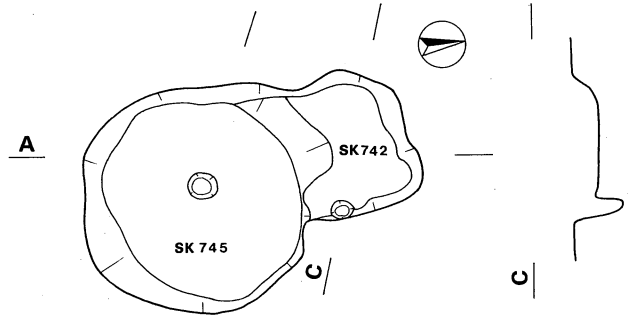
第183図 第733・735・736・738号土坑実測図



SK 739

第739号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 炭化物・炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム粒子極少量
- 9 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 12 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量



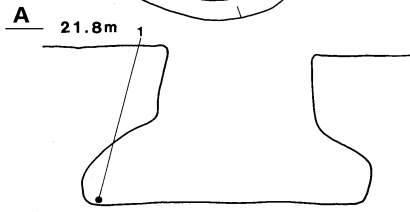
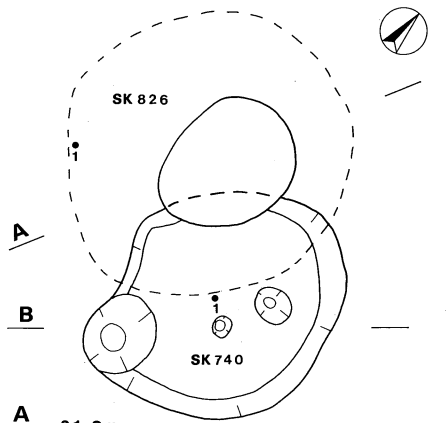
SK 742・745

第742号土坑 土層解説

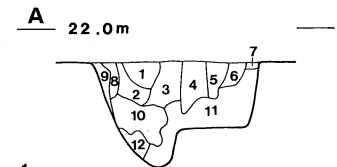
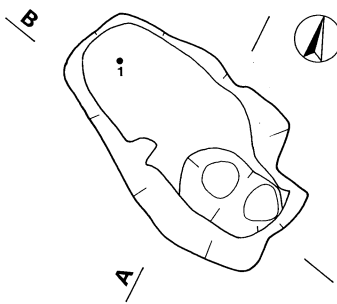
- 1 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量

第745号土坑 土層解説

- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量



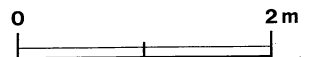
SK 740・826



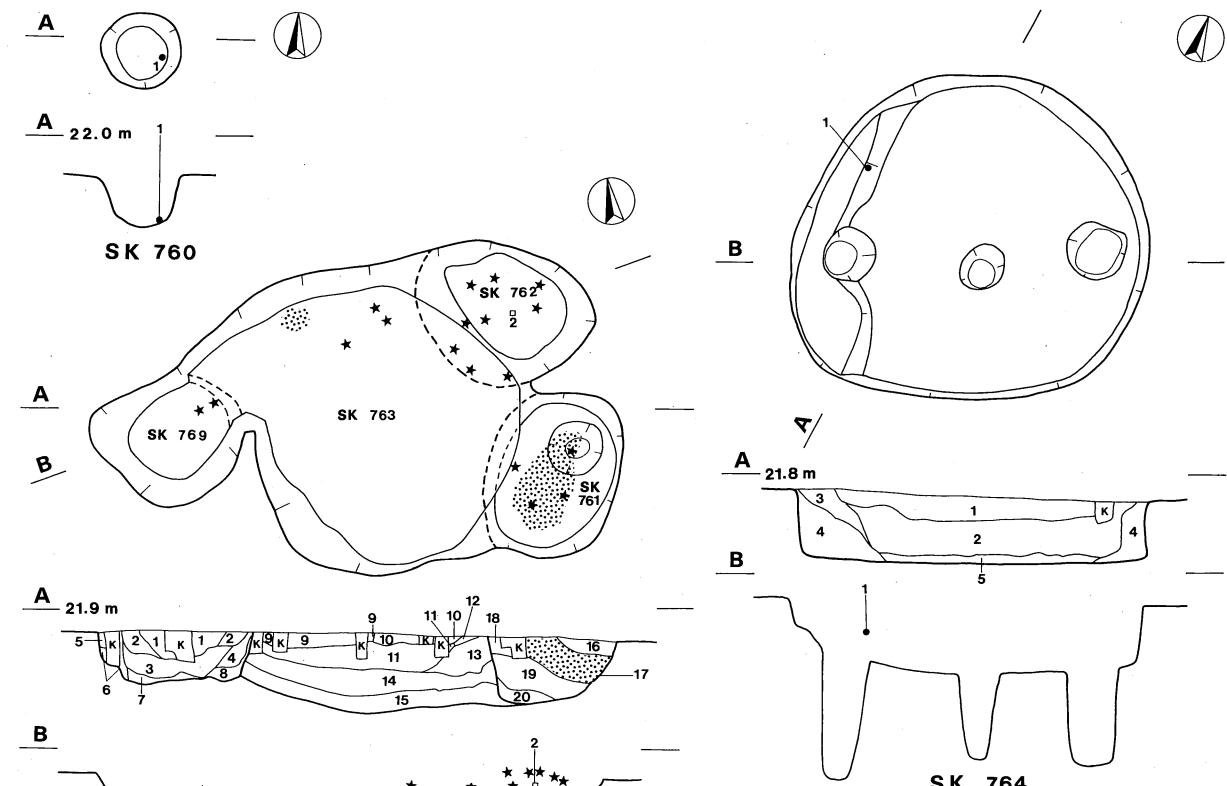
SK 755

第755号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 7 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物極少量小ブロック極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子多量, 炭化物少量, 焼土粒子極少量
- 12 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 炭化粒子極少量



第184図 第739・740・742・745・755・826号土坑実測図

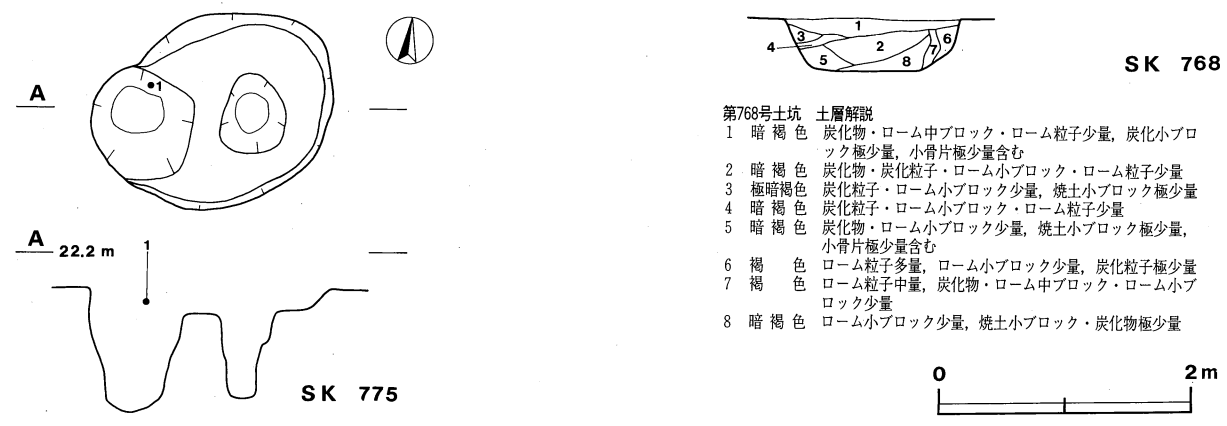


SK 761・762・763・769

- 第761号土坑 土層解説
- 16 黒褐色 炭化物・炭化粒子少量，貝片中量含む
 - 17 黒褐色 炭化粒子中量，ローム粒子少量，貝片少量含む
 - 18 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
 - 19 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
 - 20 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
- 第763号土坑 土層解説
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
 - 10 黒褐色 炭化粒子少量・炭化物・ローム小ブロック極少量
 - 11 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック極少量
 - 12 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子極少量
 - 13 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
 - 14 暗褐色 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
 - 15 暗褐色 ローム小ブロック中量，炭化粒子少量

- 第769号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量，ローム中ブロック極少量，小骨片少量含む
 - 2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化物極少量
 - 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量，炭化物極少量
 - 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量，小骨片少量含む
 - 5 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
 - 6 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子極少量
 - 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
 - 8 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

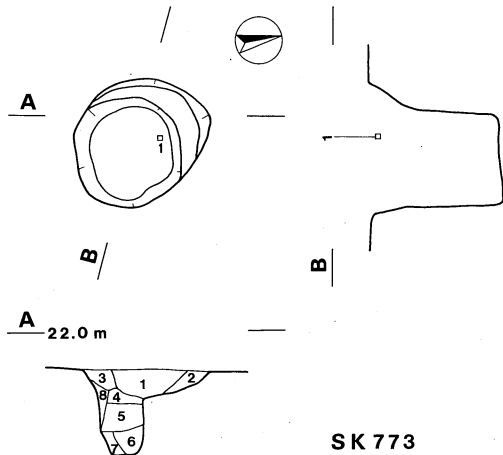
- 第764号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック極少量
 - 2 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム中ブロック少量
 - 4 褐色 ローム粒子中量，炭化物・ローム小ブロック少量
 - 5 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量



- 第768号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化小ブロック極少量，小骨片極少量含む
 - 2 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 3 極暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック極少量
 - 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 5 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック極少量，小骨片極少量含む
 - 6 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極少量
 - 7 褐色 ローム粒子中量，炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
 - 8 暗褐色 ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化物極少量



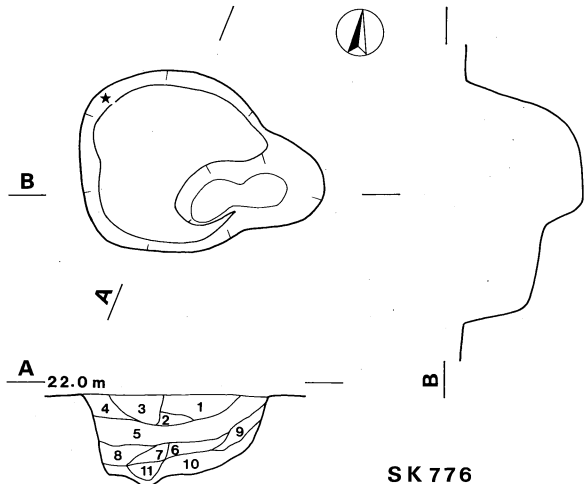
第185図 第760・761・762・763・764・768・769・775号土坑実測図



SK 773

第773号土坑 土層解説

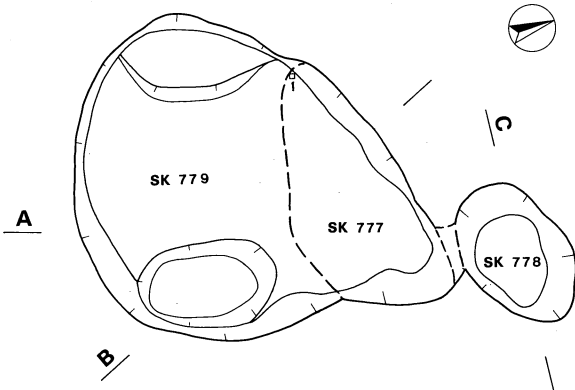
- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 少量小ブロック極少量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 小骨片極少量含む
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量



SK 776

第776号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化物・ローム中ブロック極少量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 9 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子極少量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 11 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量

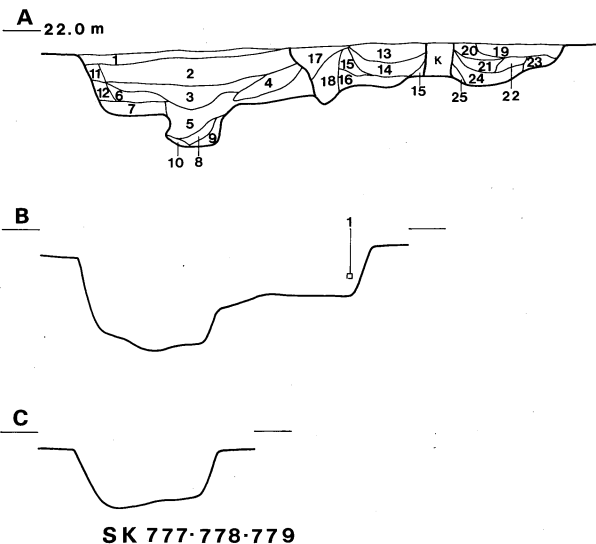


第777号土坑 土層解説

- 13 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 14 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 15 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化物少量
- 16 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 17 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 18 黒褐色 炭化粒子少量, ローム小ブロック少量

第778号土坑 土層解説

- 19 黒褐色 炭化粒子中量, ローム中ブロック少量
- 20 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 21 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 22 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 23 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 24 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 25 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量



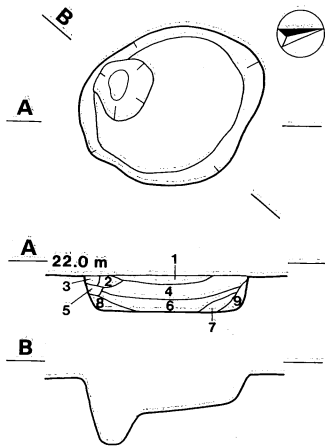
SK 777・778・779

第779号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 5 黒褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 10 暗褐色 炭化物少量, ローム中ブロック極少量
- 11 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
- 12 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック少量



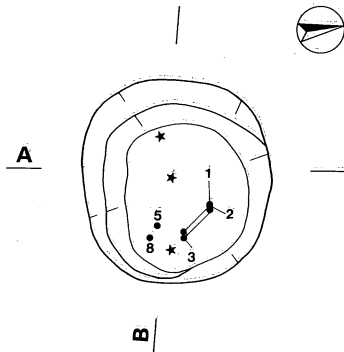
第186図 第773・776・777・778・779号土坑実測図



SK 780

第780号土坑 土層解説

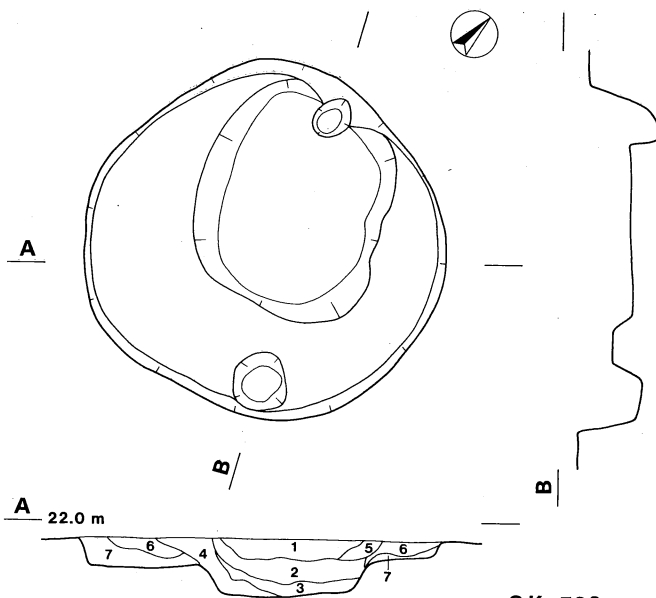
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量



SK 781

第781号土坑 土層解説

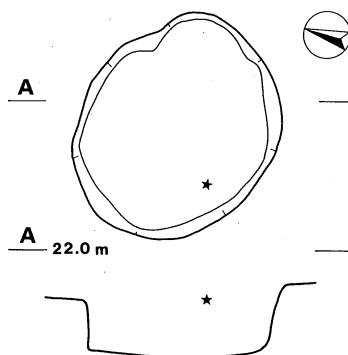
- 1 黒褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 小骨片極少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 小骨片極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 8 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量



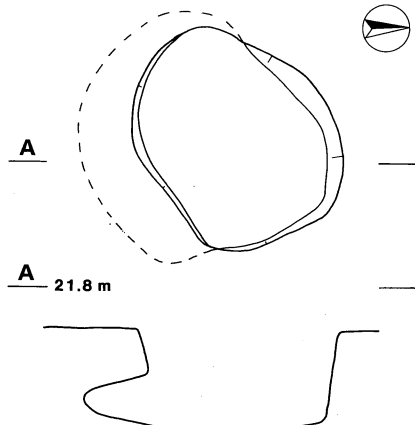
SK 783

第783号土坑 土層解説

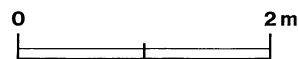
- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム粒子極少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量



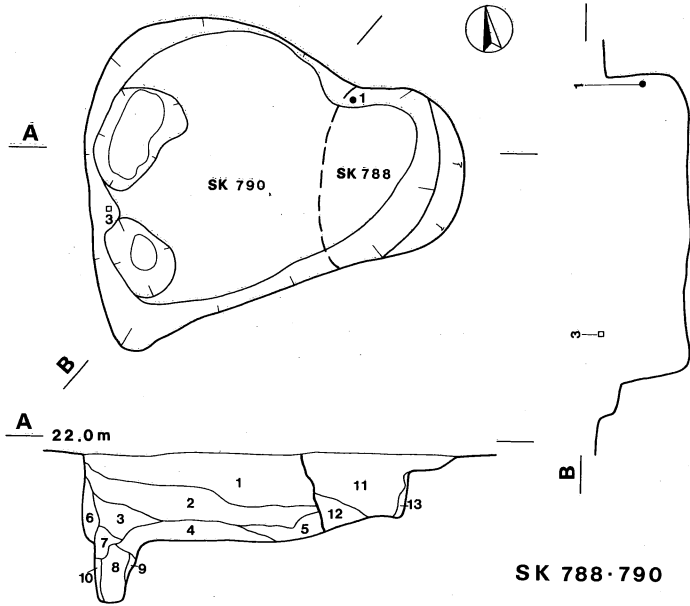
SK 786



SK 787



第187図 第780・781・783・786・787号土坑実測図



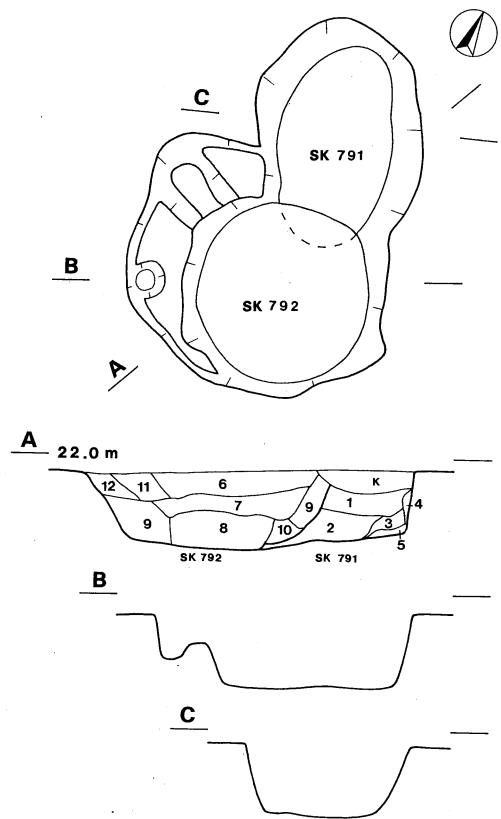
SK 788・790

第788号土坑 土層解説

- 11 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量, 小骨片極少量含む
- 12 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 13 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量

第790号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, 多量粒子極少量
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量



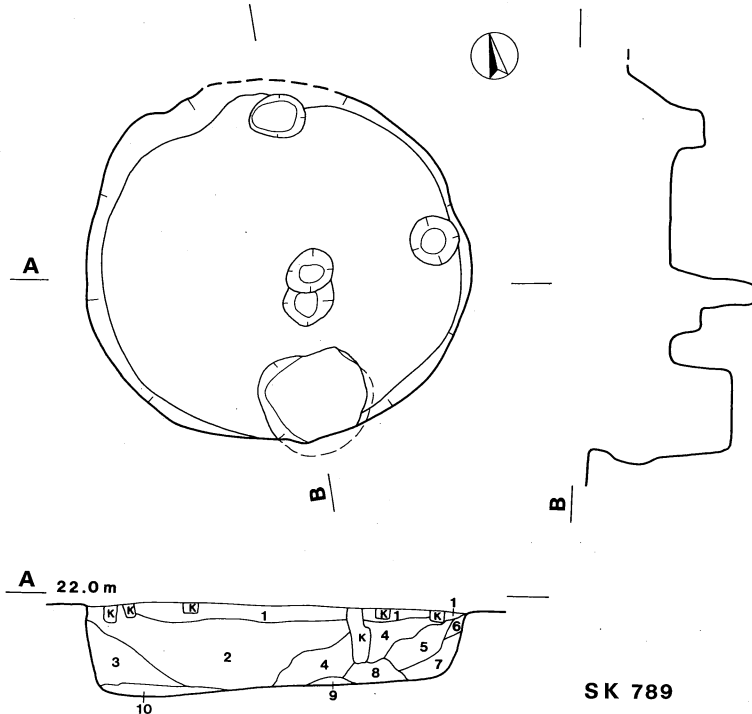
SK 791・792

第791号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム大ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 炭化物極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量

第792号土坑 土層解説

- 6 暗褐色 ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム大ブロック極少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物極少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック極少量
- 10 暗褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物極少量
- 12 極暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量



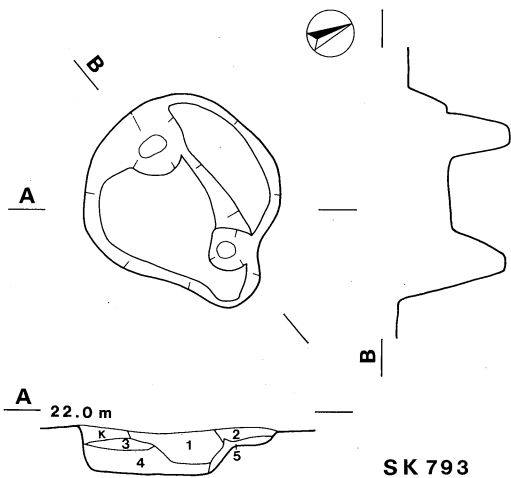
SK 789

第789号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム小ブロック多量
- 8 褐色 ローム粒子中量
- 9 褐色 ローム粒子中量
- 10 褐色 ローム粒子多量



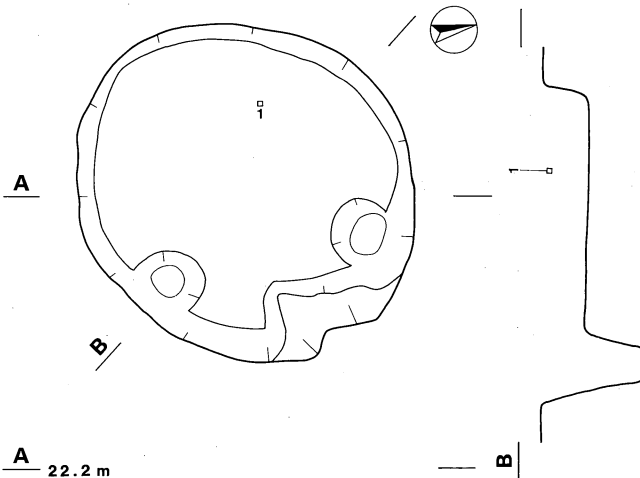
第188図 第788・789・790・791・792号土坑実測図



SK 793

第793号土坑 土層解説

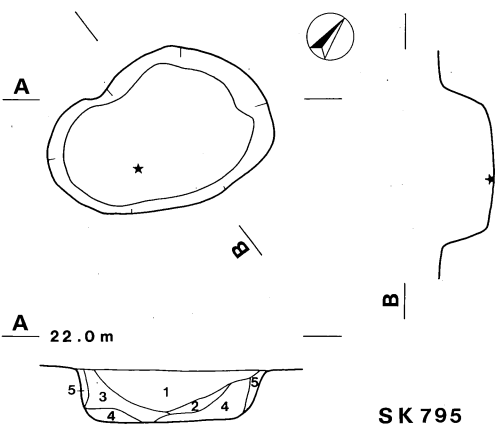
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土中ブロック・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子多量, 炭化粒子少量



SK 794

第794号土坑 土層解説

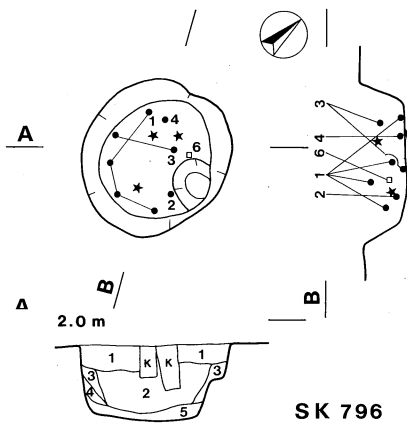
- 1 極暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物極少量, 小骨片極少量含む
- 2 極暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 小骨片極少量含む
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物極少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量



SK 795

第795号土坑 土層解説

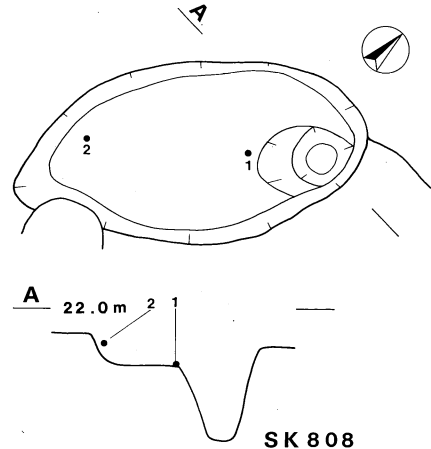
- 1 黒褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量



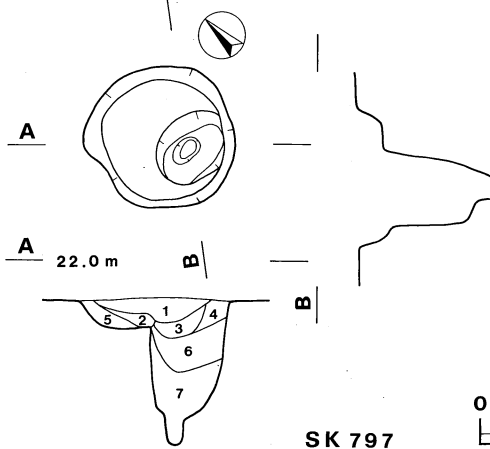
SK 796

第796号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 小骨片少量含む
- 2 極暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 小骨片極少量含む
- 3 極暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 5 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物極少量



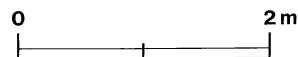
SK 808



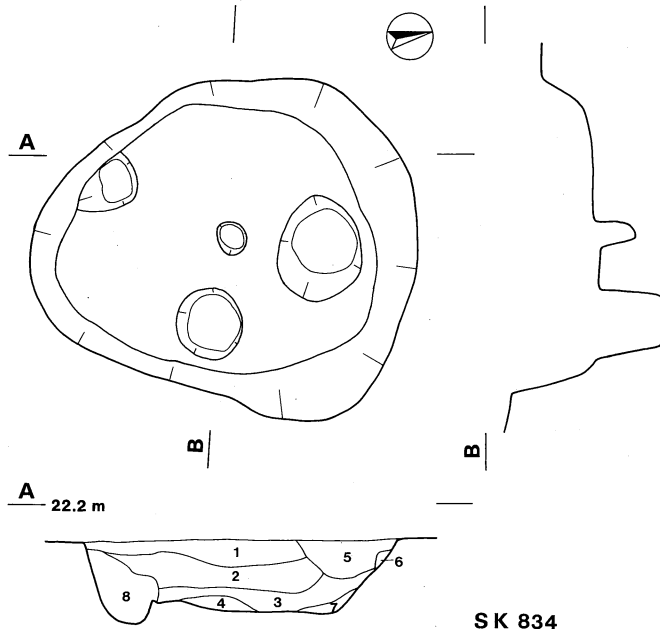
SK 797

第797号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, ローム中ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量



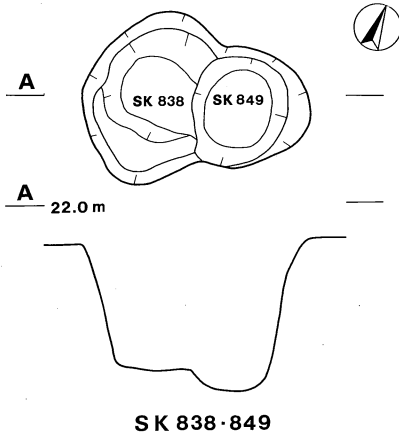
第189図 第793・794・795・796・797・808号土坑実測図



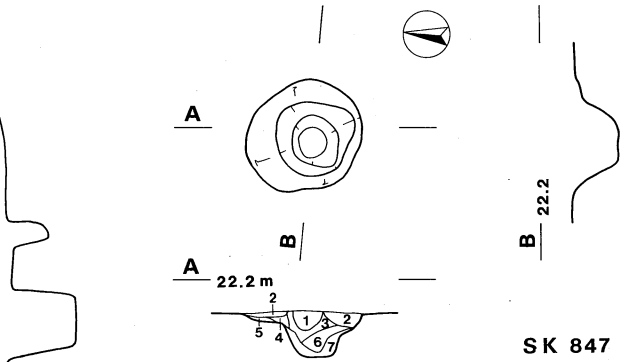
SK 834

第834号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 小骨片極少量含む
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム中ブロック少量, 炭化極少量
- 8 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量



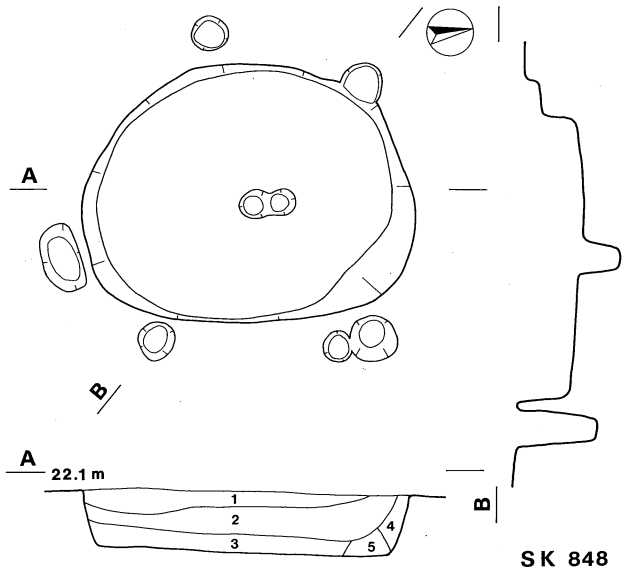
SK 838-849



SK 847

第847号土坑 土層解説

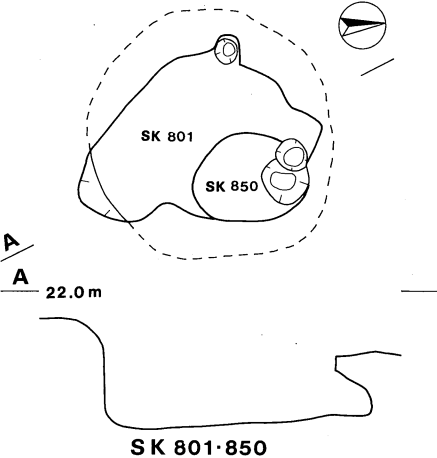
- 1 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量



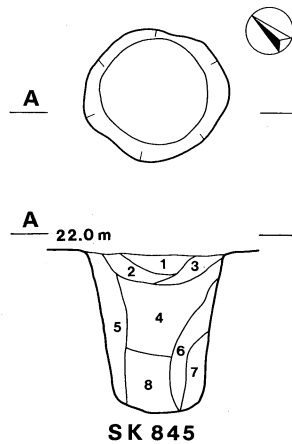
SK 848

第848号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量, 小骨片極少量含む
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム大ブロック極少量



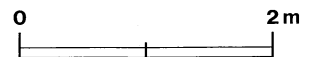
SK 801-850



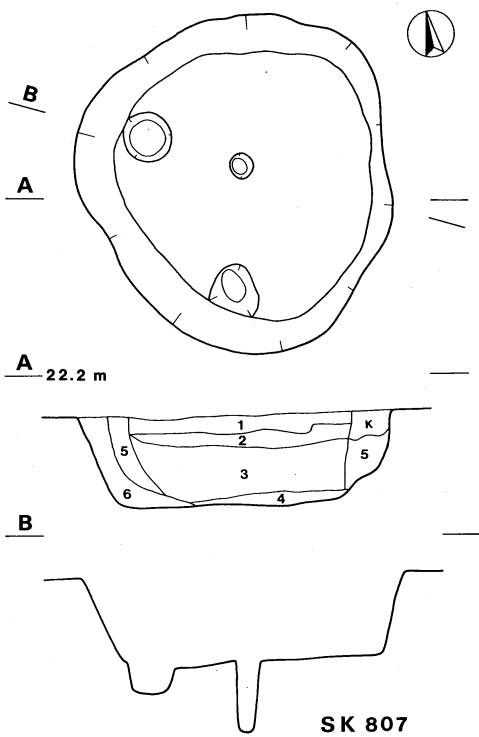
SK 845

第845号土坑 土層解説

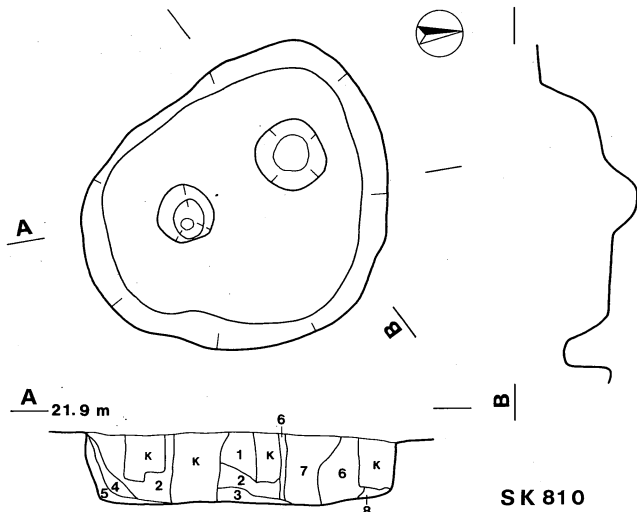
- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量, 小骨片少量含む
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・焼土小ブロック・ローム粒子少量, 小骨片極少量含む
- 4 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子極少量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子極少量, 小骨片少量含む
- 6 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 7 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量



第190図 第801・834・838・845・847・848・849・850号土坑実測図

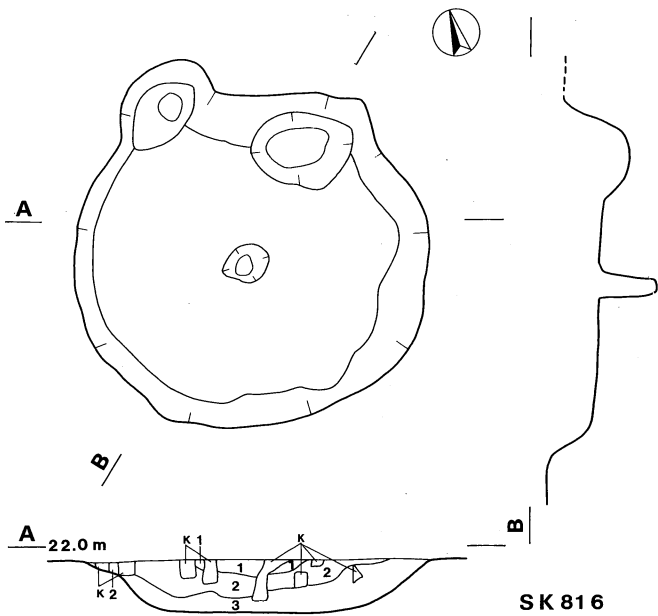
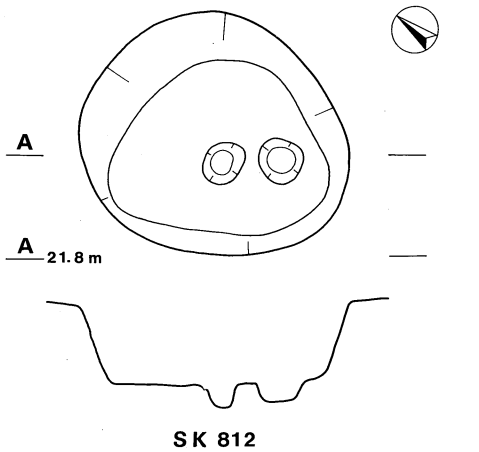


- 第807号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, 炭化物少量
 - 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
 - 4 褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
 - 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量



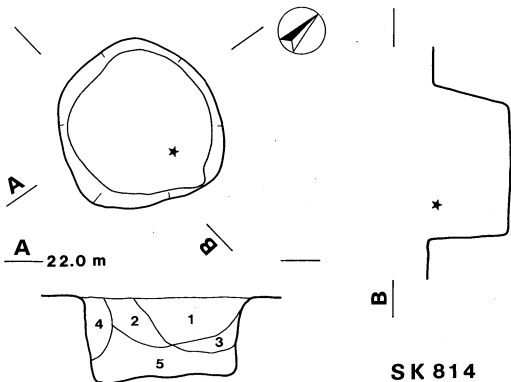
第810号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・ローム中ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 6 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, 炭化物極少量



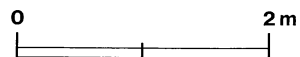
第816号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量

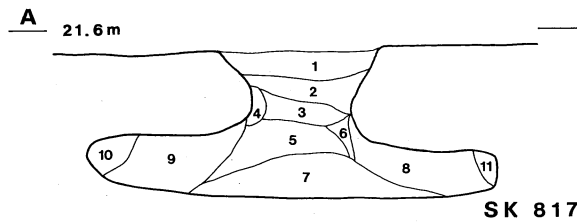
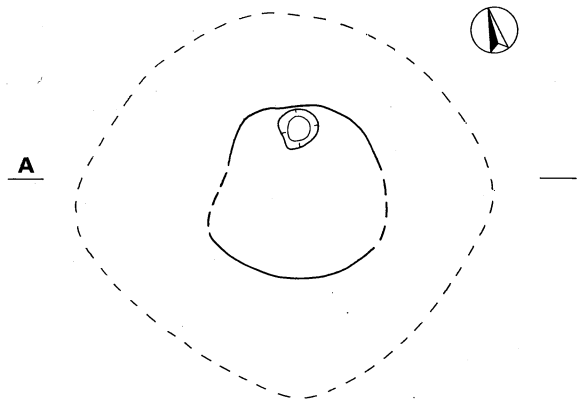


第814号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量



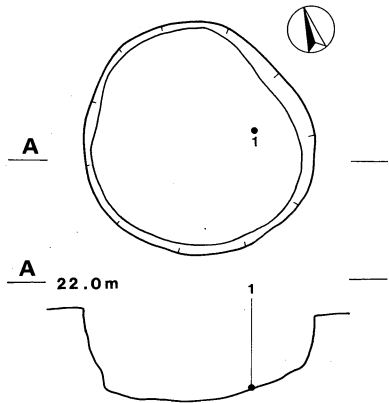
第191図 第807・810・812・814・816号土坑実測図



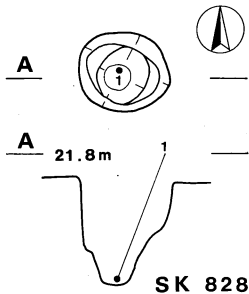
SK 817

第817号土坑 土層解説

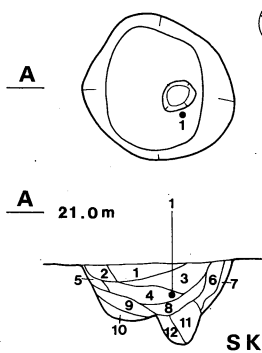
- 1 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック少量, 炭化物極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック極少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック少量, ローム小ブロック極少量
- 7 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 炭化物・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム大ブロック極少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量



SK 827



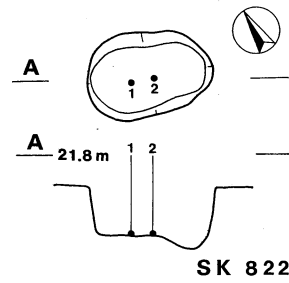
SK 828



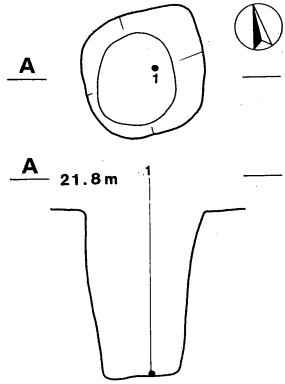
SK 830

第830号土坑 土層解説

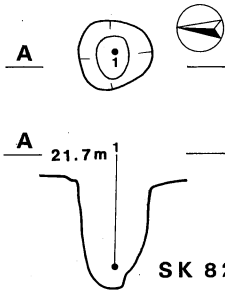
- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物極少量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック中量, 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土中ブロック極少量
- 5 黒褐色 炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 8 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 11 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



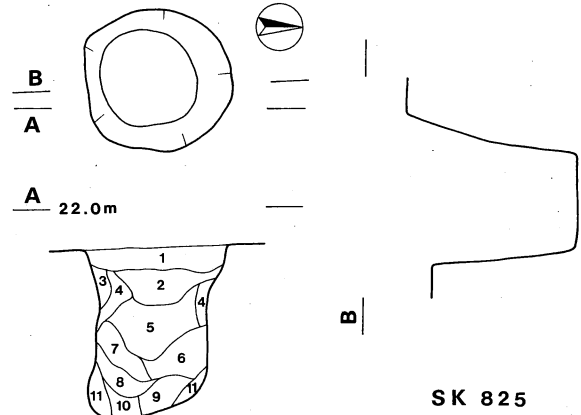
SK 822



SK 823



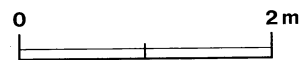
SK 824



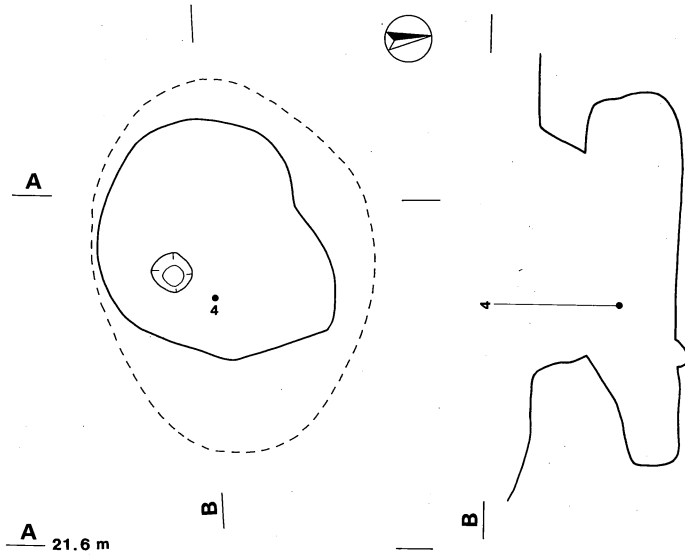
SK 825

第825号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 5 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量



第192図 第817・822・823・824・825・827・828・830号土坑実測図

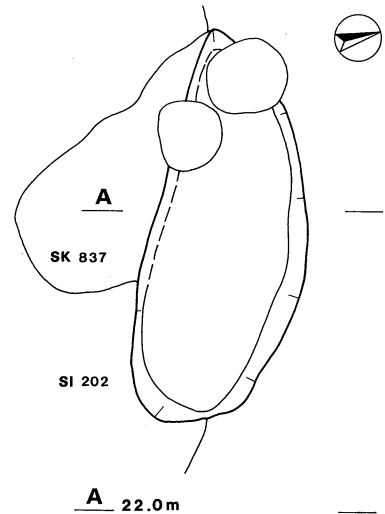


A 21.6 m

SK 852

第852号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子極少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 7 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック極少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 12 褐色 ローム中ブロック中量・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 13 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 14 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 15 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
- 16 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量

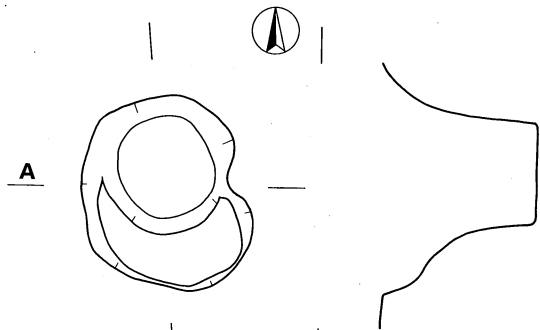


A 22.0 m

SK 853

第853号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物極少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子少量・ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量, ローム大ブロック極少量
- 5 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量



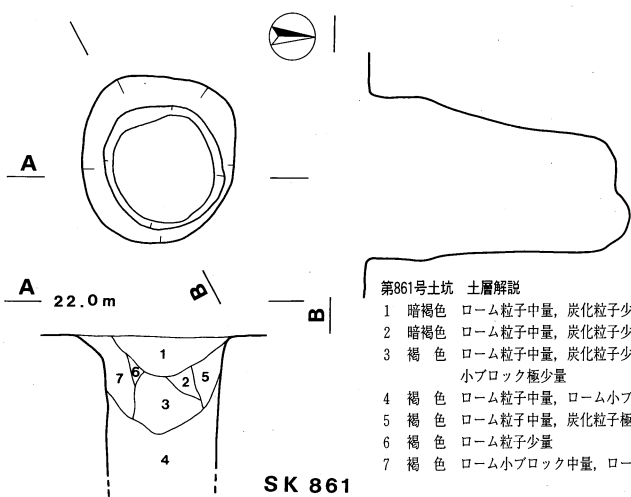
A 22.0 m

SK 854

第854号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量, 小骨片極少量含む
- 2 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量, 小骨片少量含む
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物極少量, 小骨片極少量含む
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

0 2m



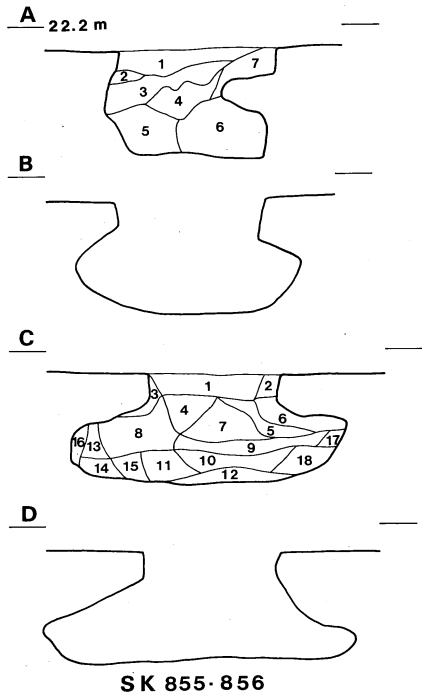
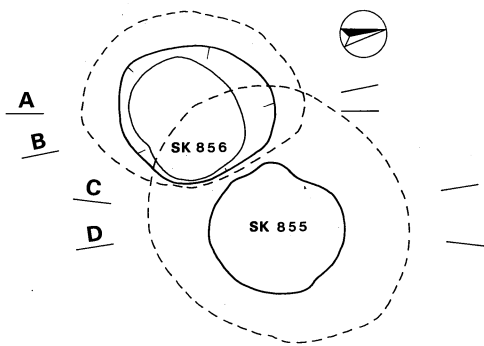
A 22.0 m

SK 861

第861号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 炭化物・ローム小ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

第193図 第852・853・854・861号土坑実測図

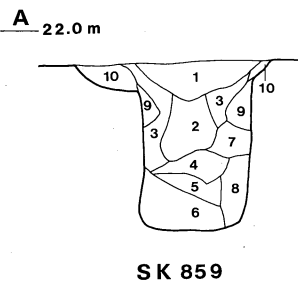
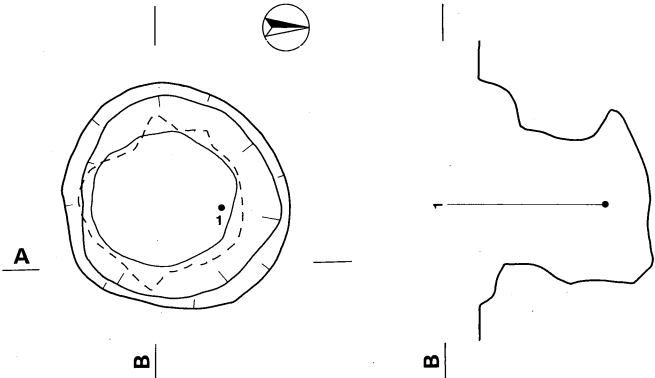


第856号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 5 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量

第869号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 にぶい褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子極少量
- 3 にぶい褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 明褐色 ローム小ブロック多量
- 5 褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 6 明褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 7 明褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック極少量
- 8 明褐色 ローム中ブロック中量
- 9 にぶい褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量
- 11 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 12 にぶい褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 13 褐色 ローム小ブロック中量
- 14 褐色 ローム小ブロック極少量

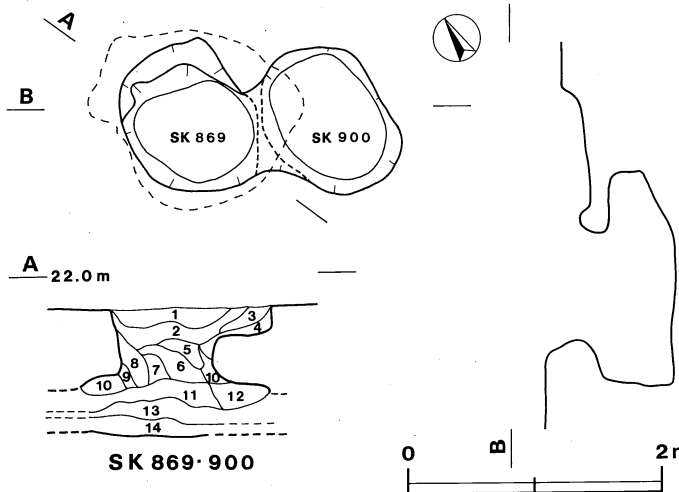


第859号土坑 土層解説

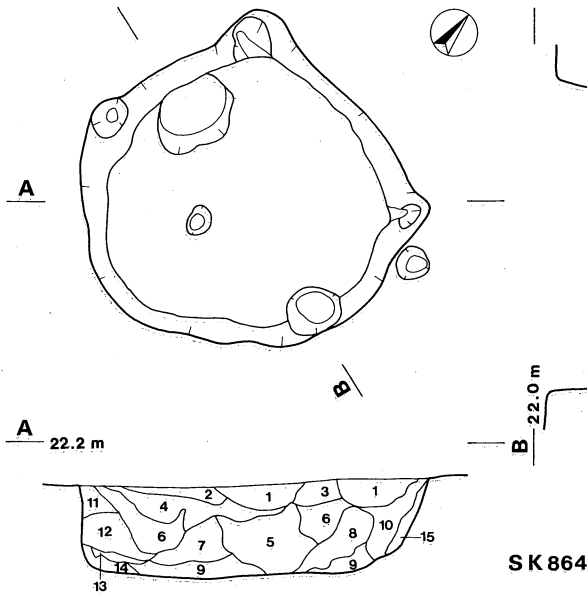
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 4 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子極少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック極少量
- 8 褐色 ローム粒子多量
- 9 褐色 ローム中ブロック多量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量

第855号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量, ローム大ブロック極少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 11 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 12 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 14 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 15 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 16 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 17 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 18 褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量



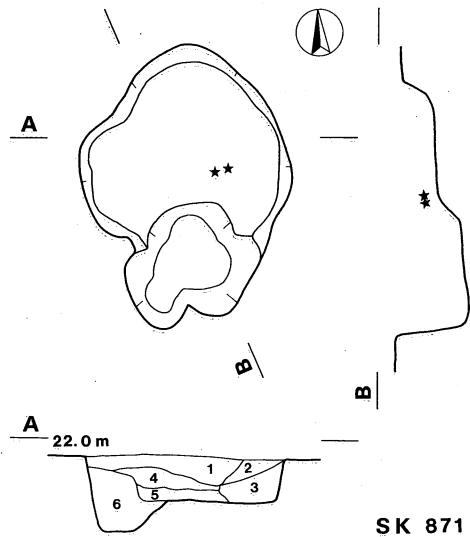
第194図 第855・856・859・869・900号土坑実測図



SK 864

第864号土坑 土層解説

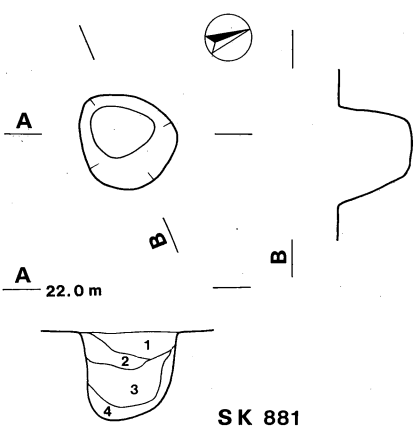
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子極少量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量, 炭化物・ローム粒子中量, 焼土粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量, 炭化物少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック極少量
- 10 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子多量, 炭化粒子中量
- 11 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 13 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量,
- 14 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 15 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量



SK 871

第871号土坑 土層解説

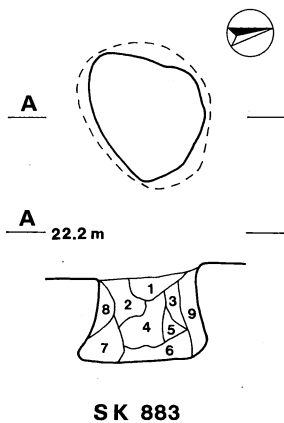
- 1 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 にぶい褐色 ローム中ブロック中量
- 4 明褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子極少量
- 5 にぶい褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 明褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック多量



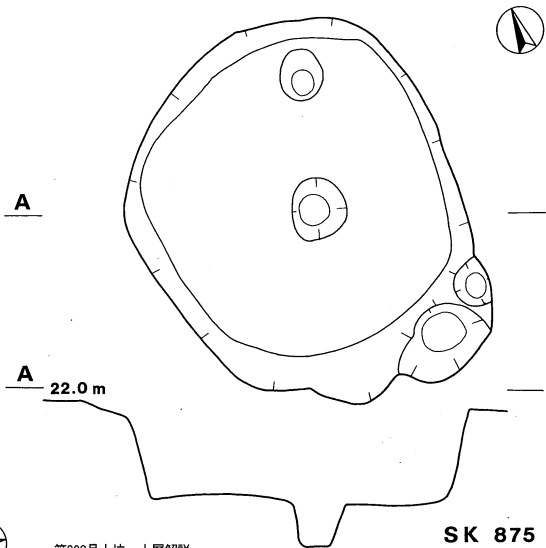
SK 881

第881号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子・炭化物少量, 焼土粒子極少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量



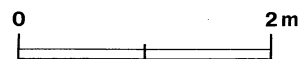
SK 883



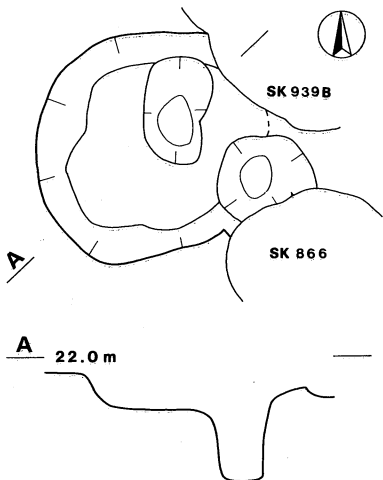
SK 875

第883号土坑 土層解説

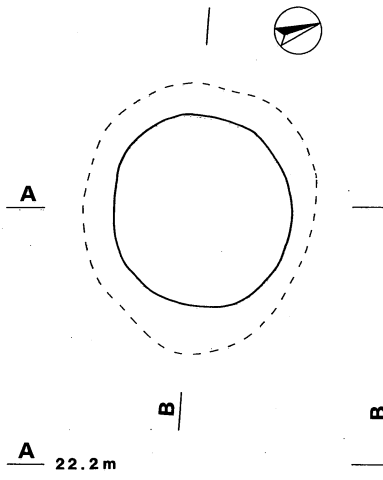
- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子・焼土粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック多量, 炭化粒子極少量
- 6 褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 8 にぶい褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 9 明褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ソフトローム土中量, 炭化粒子極少量



第195図 第864・871・875・881・883号土坑実測図



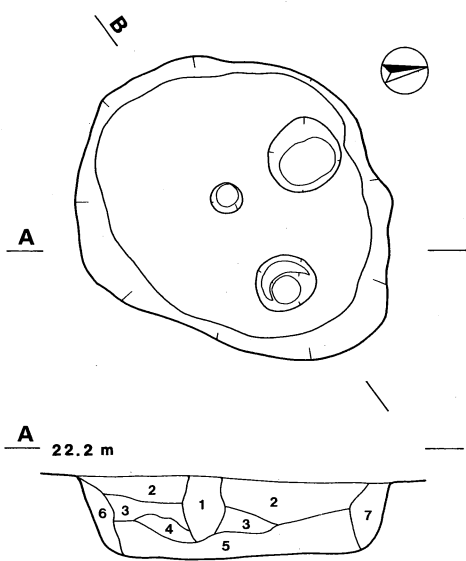
SK 886



SK 935

第935号土坑 土層解説

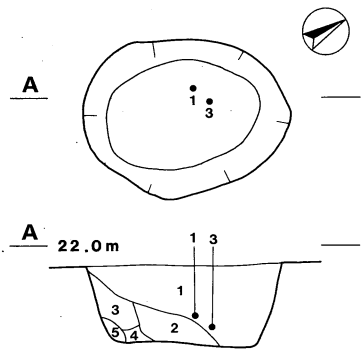
- 1 にぶい黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量



SK 938

第938号土坑 土層解説

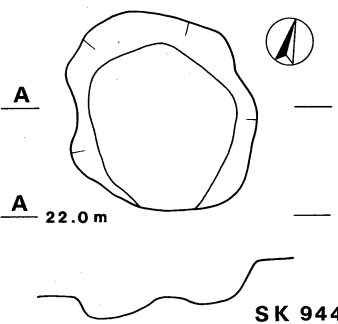
- 1 極暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム大ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム大ブロック少量
- 6 褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子極少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量



SK 943

第943号土坑 土層解説

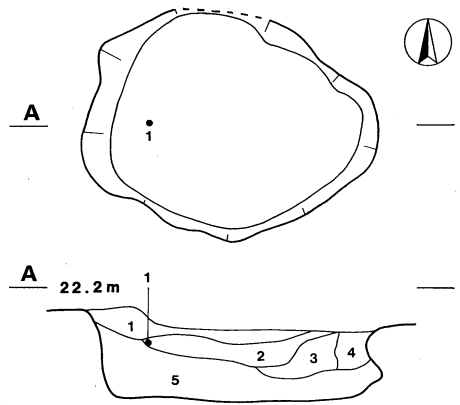
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 3 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量



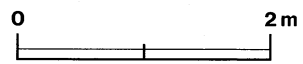
SK 944

第946号土坑 土層解説

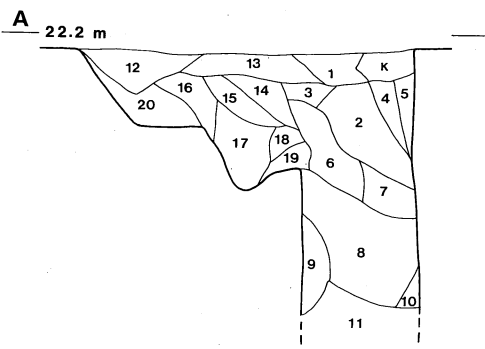
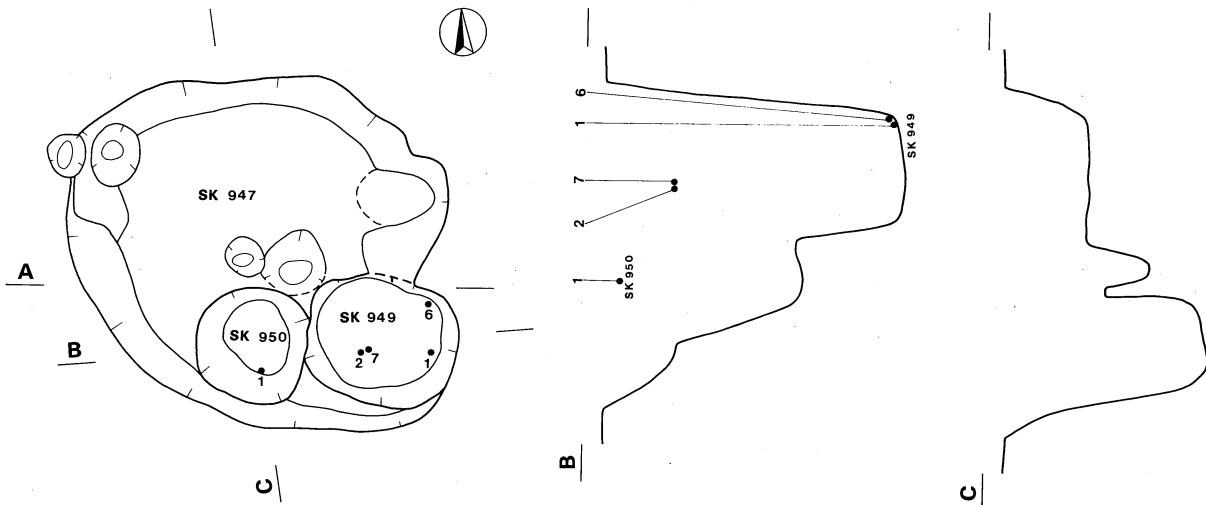
- 1 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化物少量, 炭化粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量



SK 946



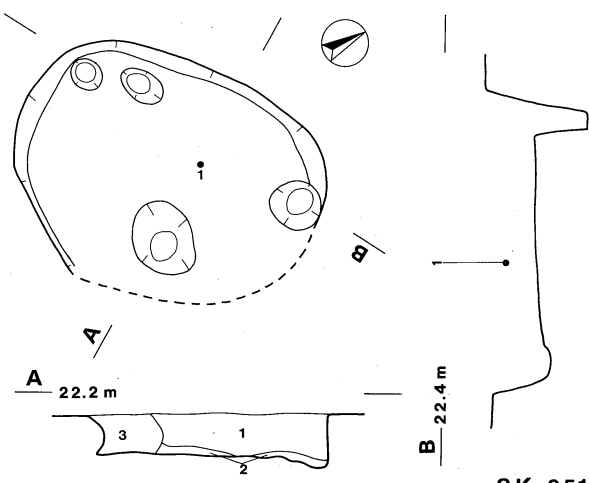
第196図 第886・935・938・943・944・946号土坑実測図



- 第949号土坑 土層解説**
- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量, 炭化物・炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
 - 2 褐色 炭化物・炭化粒子中量, 焼土粒子・ローム中ブロック極少量, 小骨片極少量含む
 - 3 褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子極少量
 - 4 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子極少量
 - 5 褐色 ローム粒子多量
 - 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化物・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子極少量
 - 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化物・炭化粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子極少量
小骨片極少量含む
 - 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子極少量, 小骨片極少量含む
 - 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
 - 10 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化物少量
 - 11 極暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子多量

SK 947-949-950

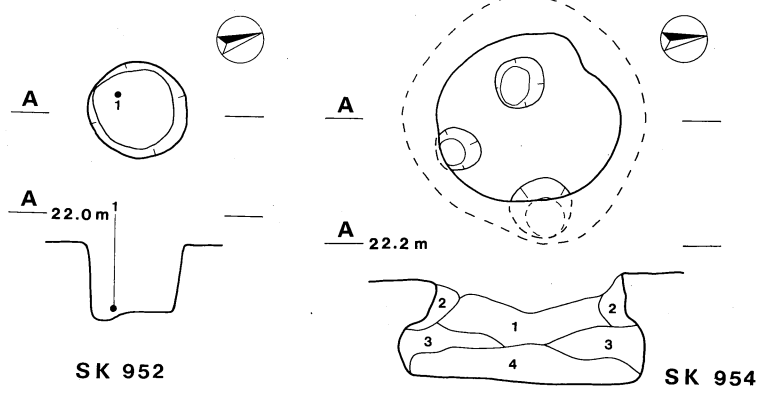
- 第950号土坑 土層解説**
- 12 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子極少量
 - 13 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化物・炭化粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
 - 14 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化物・炭化粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
 - 15 褐色 ローム小ブロック多量, 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック極少量
 - 16 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子極少量
 - 17 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化物・炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
 - 18 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
 - 19 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, 炭化物・炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
 - 20 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量



SK 951

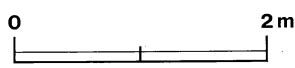
- 第951号土坑 土層解説**
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
 - 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
 - 3 黒褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 小骨片極少量含む

- 第954号土坑 土層解説**
- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 2 褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック極少量
 - 3 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
 - 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量

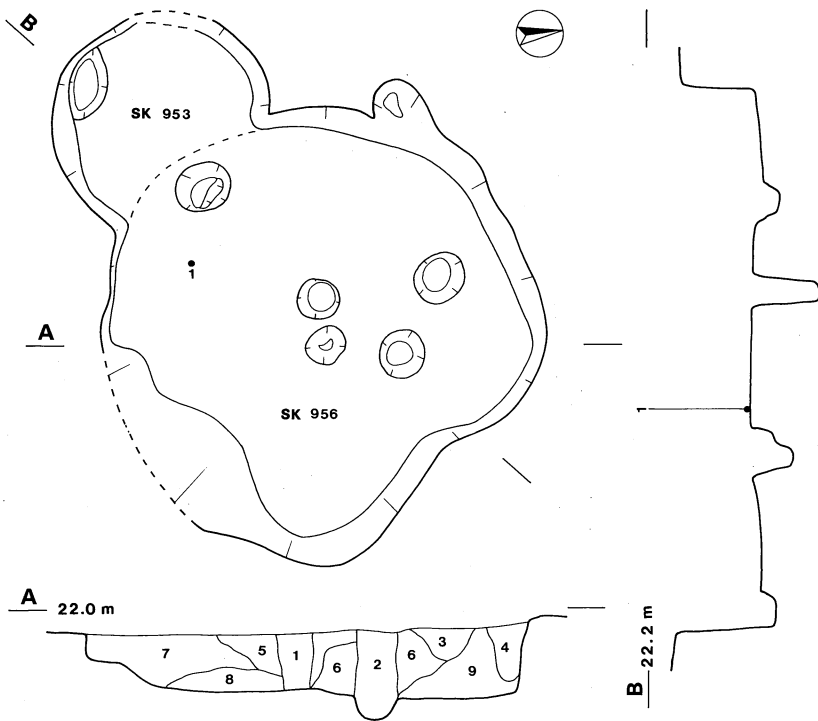


SK 952

SK 954



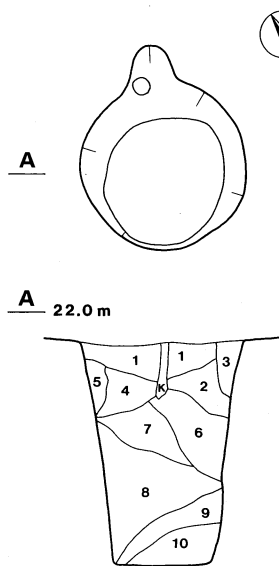
第197図 第947・949・950・951・952・954号土坑実測図



第956号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子極少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土小ブロック極少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量

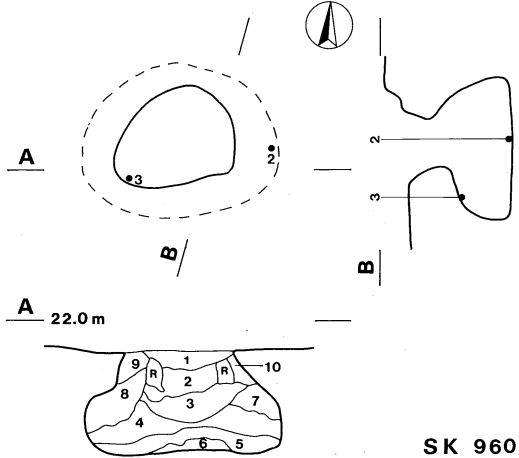
SK 953-956



第957号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量, 土層9沿いに灰がレンズ状に混入, 灰に炭化物含む
- 9 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 小骨片少量含む
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子極少量

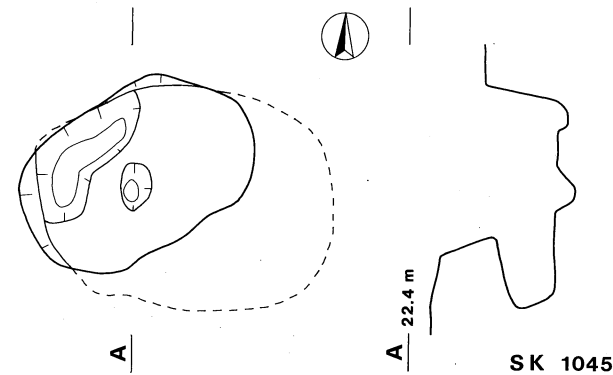
SK 957



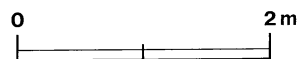
第960号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック多量, 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子・焼土粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック多量, 炭化粒子・焼土粒子極少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量

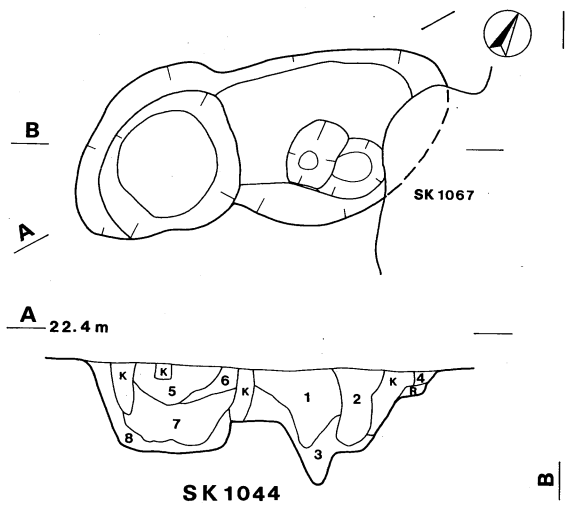
SK 960



SK 1045

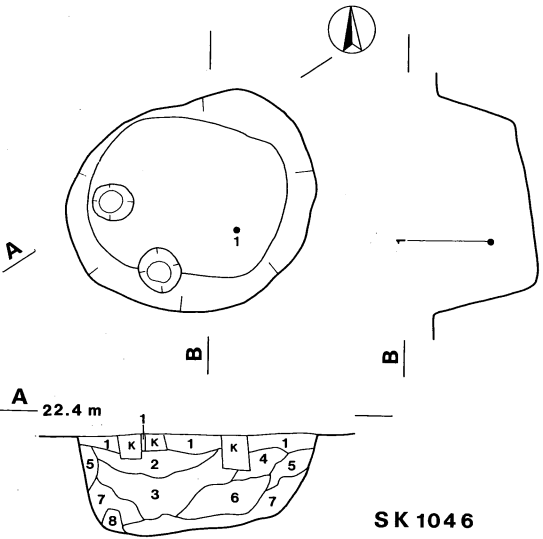


第198図 第953・956・957・960・1045号土坑実測図



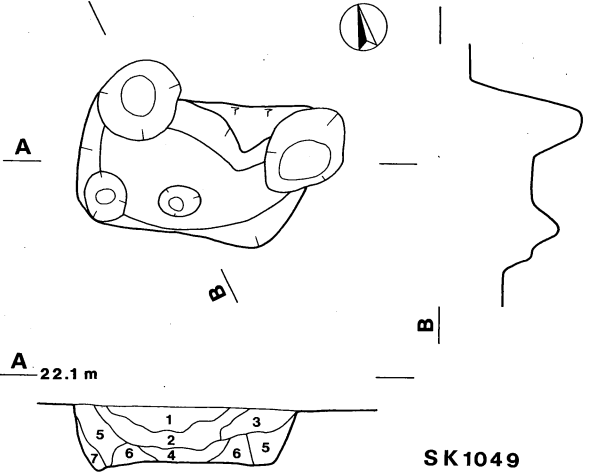
第1044号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量, ローム中ブロック極少量, 貝片少量含む
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量・焼土粒子極少量
- 8 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量



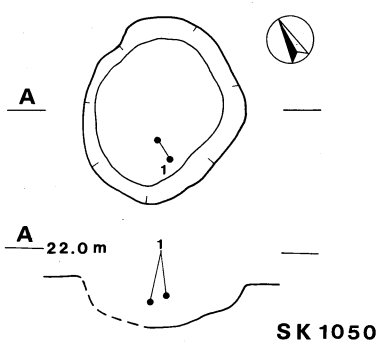
第1046号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子極少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量



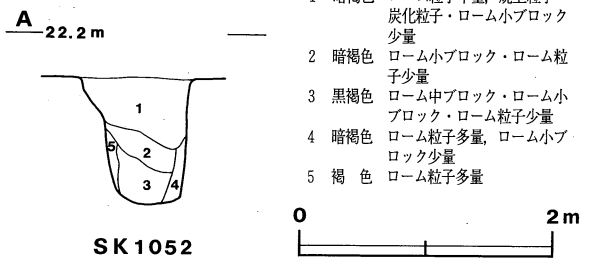
第1049号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, 小骨片極少量含む
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 小骨片極少量含む
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量

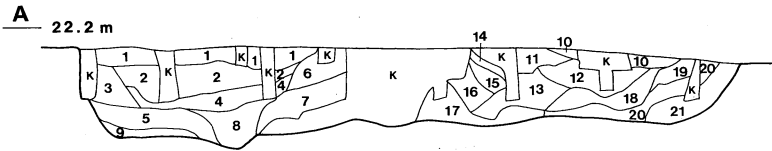
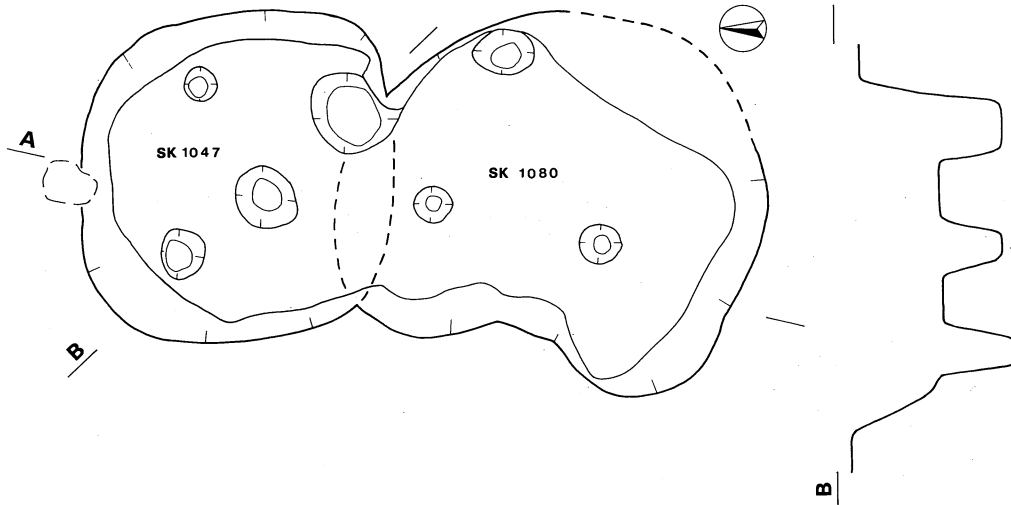


第1052号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量



第199図 第1044・1046・1049・1050・1052号土坑実測図



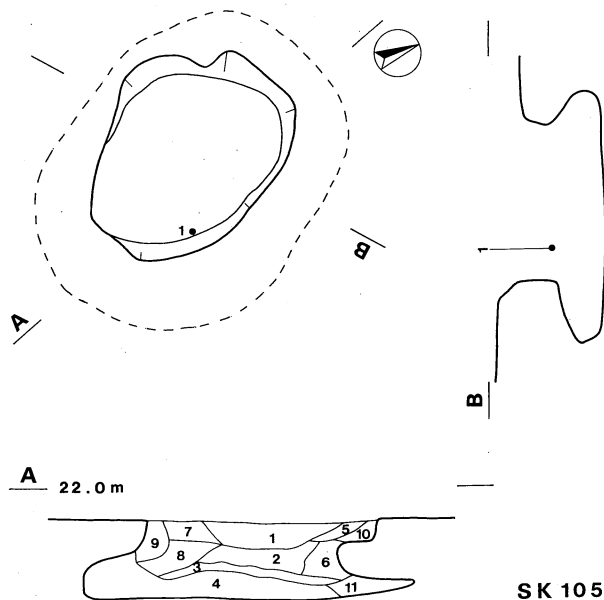
SK 1047・1080

第1047号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量, 小骨片極少量含む
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量, ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 炭化物極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, 小骨片極少量含む
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量

第1080号土坑 土層解説

- 10 黒褐色 黒色土粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 11 黒褐色 黒色土粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物極少量
- 14 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 15 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 16 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 17 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 18 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 19 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 20 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 21 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量



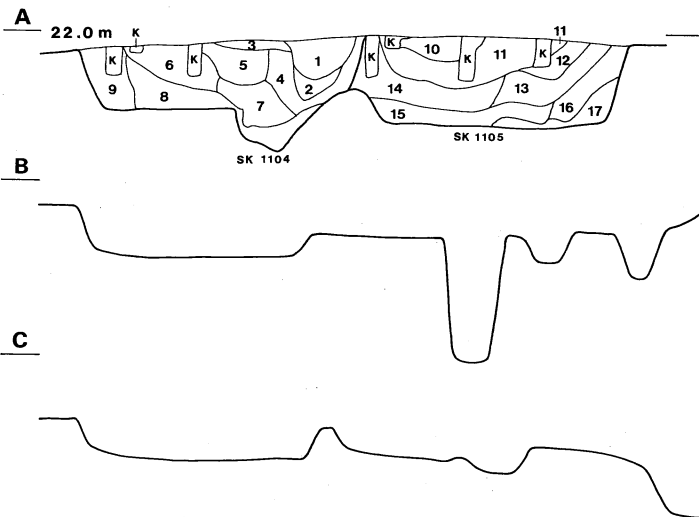
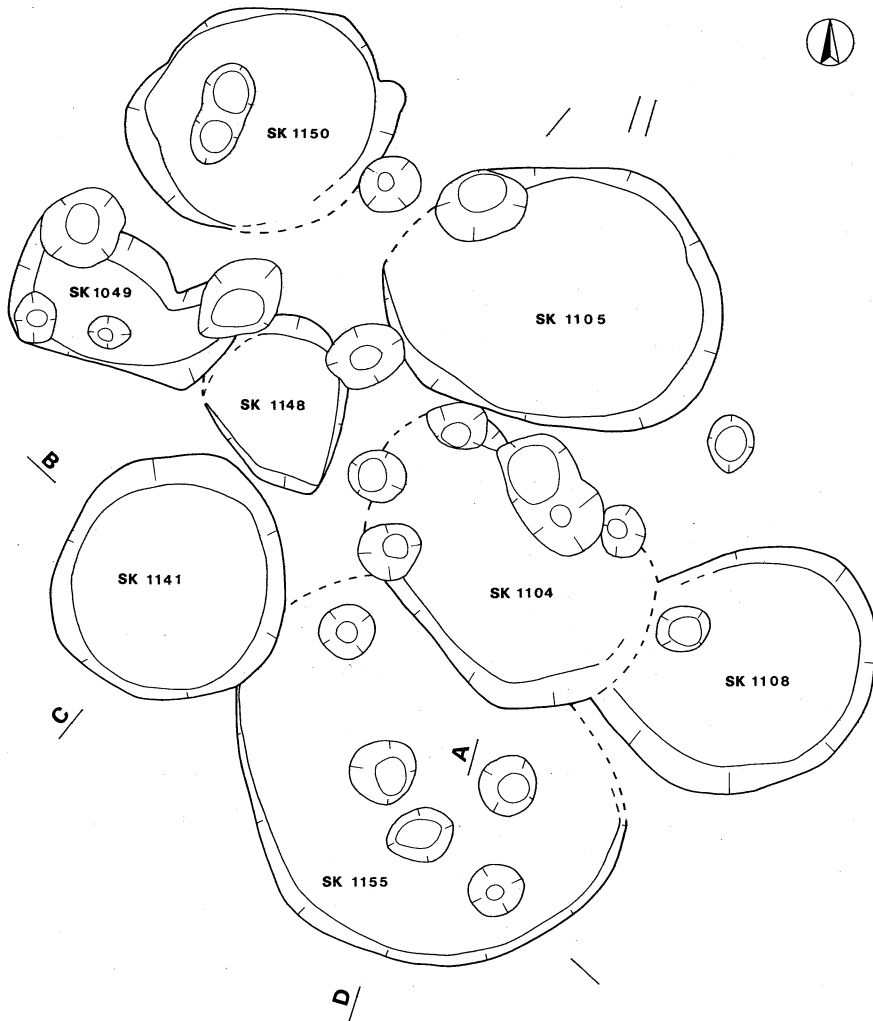
SK 1051

第1051号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 4 褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子極少量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量
- 11 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量



第200図 第1047・1051・1080号土坑実測図



第1104号土坑 土層解説

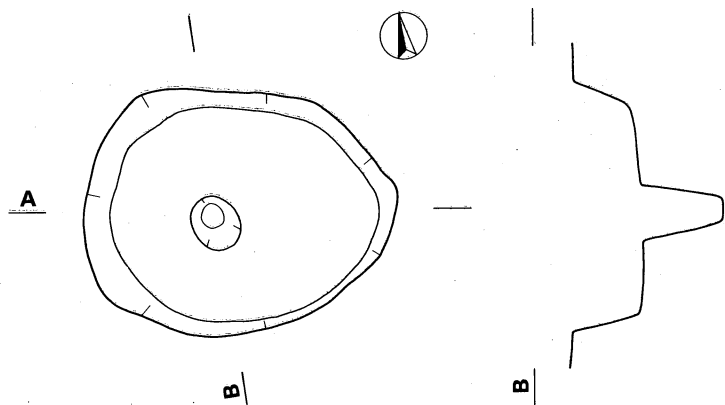
- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック極少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 7 暗褐色 炭化粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量

第1105号土坑 土層解説

- 10 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物極少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック少量
- 12 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 13 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 14 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 15 暗褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 16 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 17 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

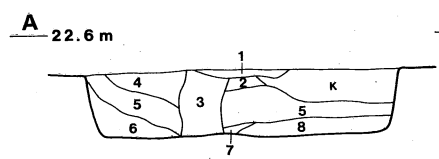


第201図 第1049・1104・1105・1108・1141・1148・1150・1155号土坑実測図



第1054号土坑 土層解説

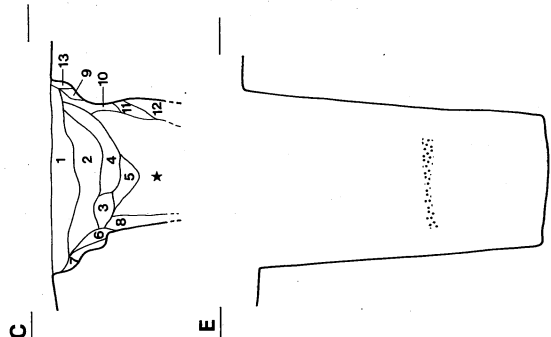
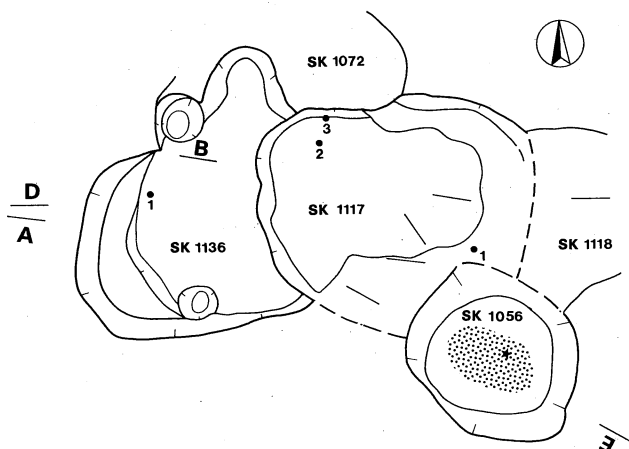
- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子・焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量



SK 1054

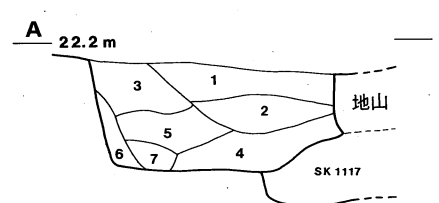
第1117号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 4 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量



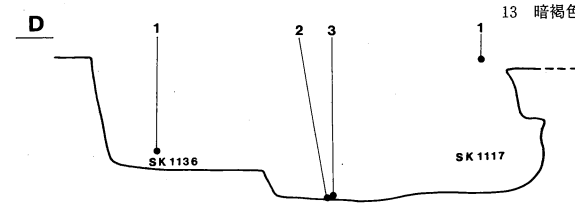
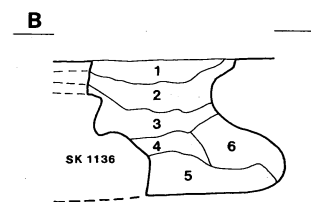
第1136号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, ローム粒子極少量

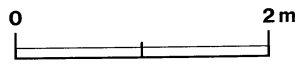


第1056号土坑 土層解説

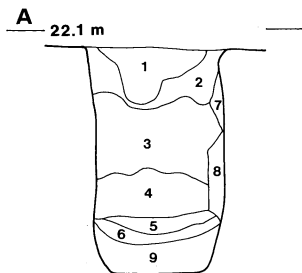
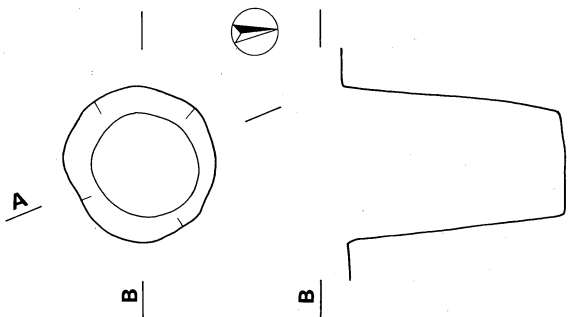
- 1 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化物・ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 小骨片少量含む
- 2 暗褐色 炭化物・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 小骨片少量含む
- 3 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 小骨片少量含む
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 11 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 12 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量



SK 1056・1117・1136



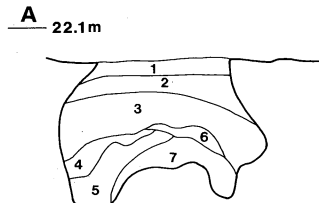
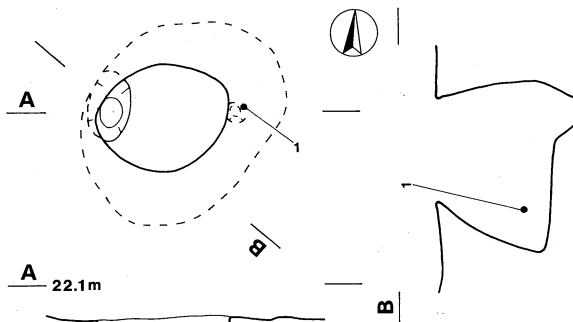
第202図 第1054・1056・1117・1136号土坑実測図



SK 1058

第1058号土坑 土層解説

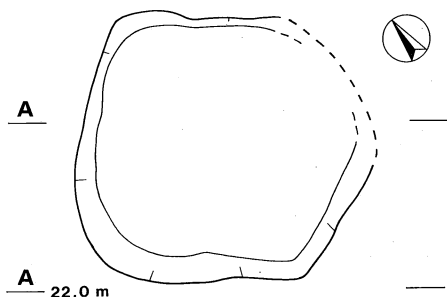
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子少量
- 5 極暗褐色 ローム小ブロック多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子・粘土少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 7 に近い褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 8 褐色 ローム小ブロック多量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量



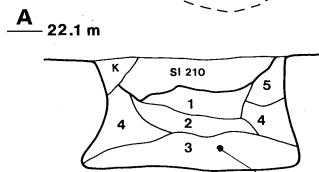
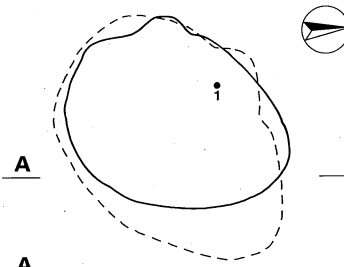
SK 1059

第1059号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量



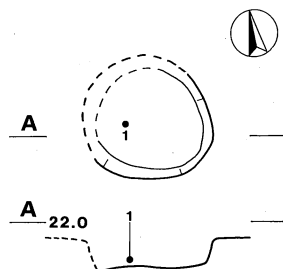
SK 1060



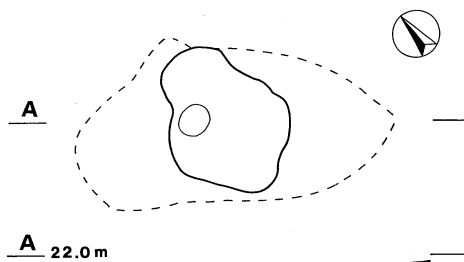
SK 1061

第1061号土坑 土層解説

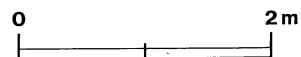
- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量



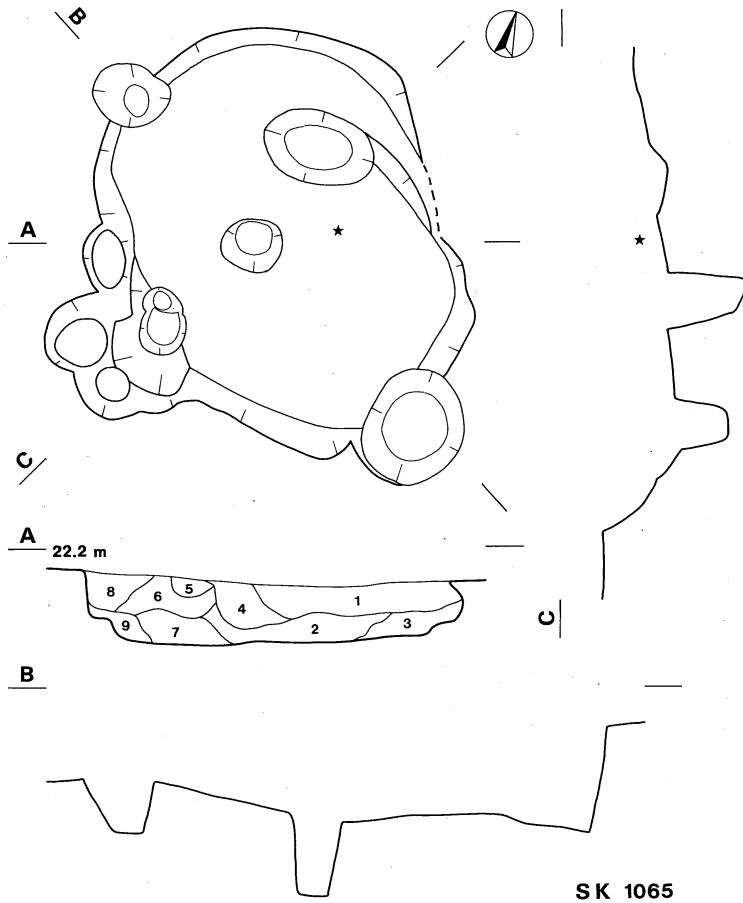
SK 1062



SK 1063

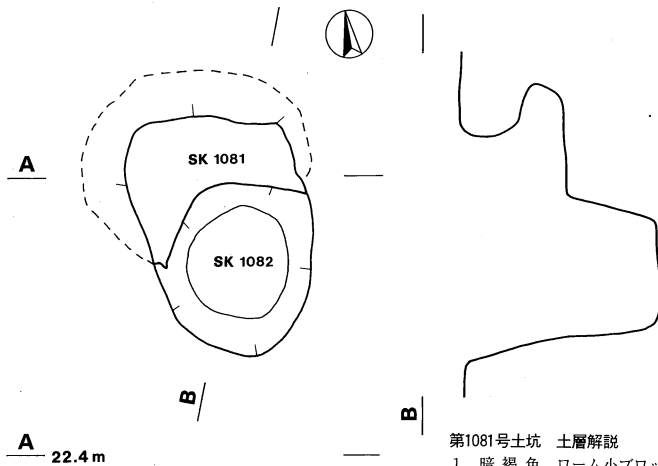
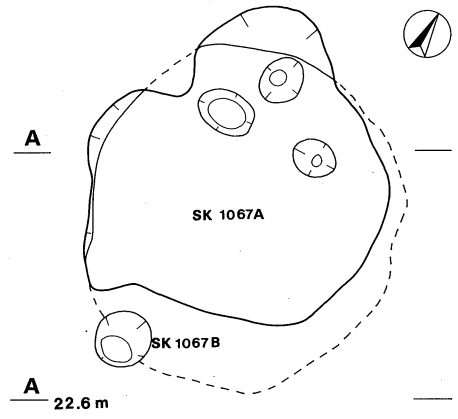


第203図 第1058・1059・1060・1061・1062・1063号土坑実測図



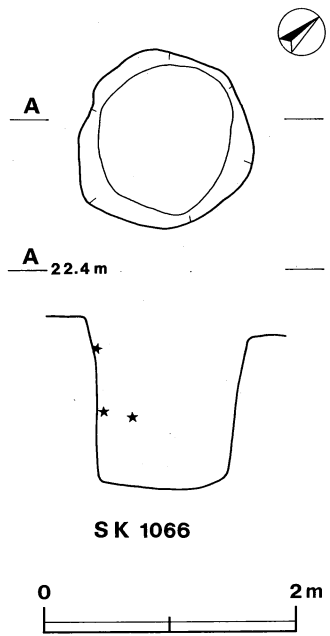
第1065号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 小骨片中量含む
- 5 暗褐色 黒色土粒子帯状に多量, ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量

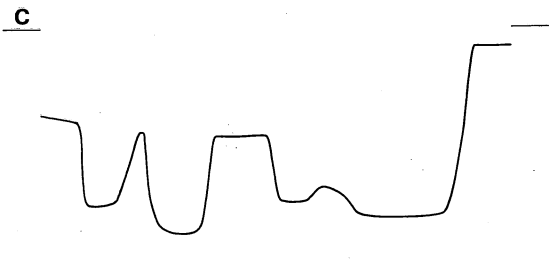
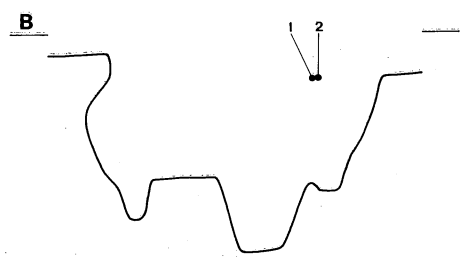
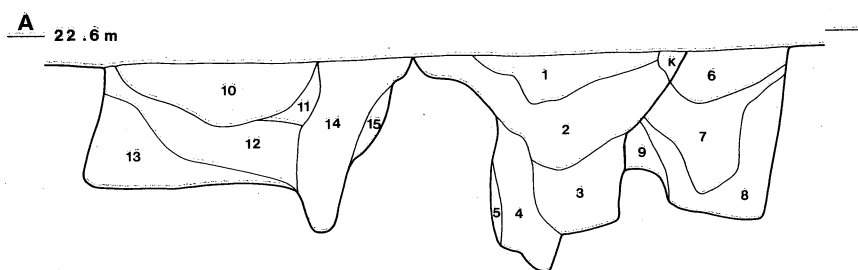
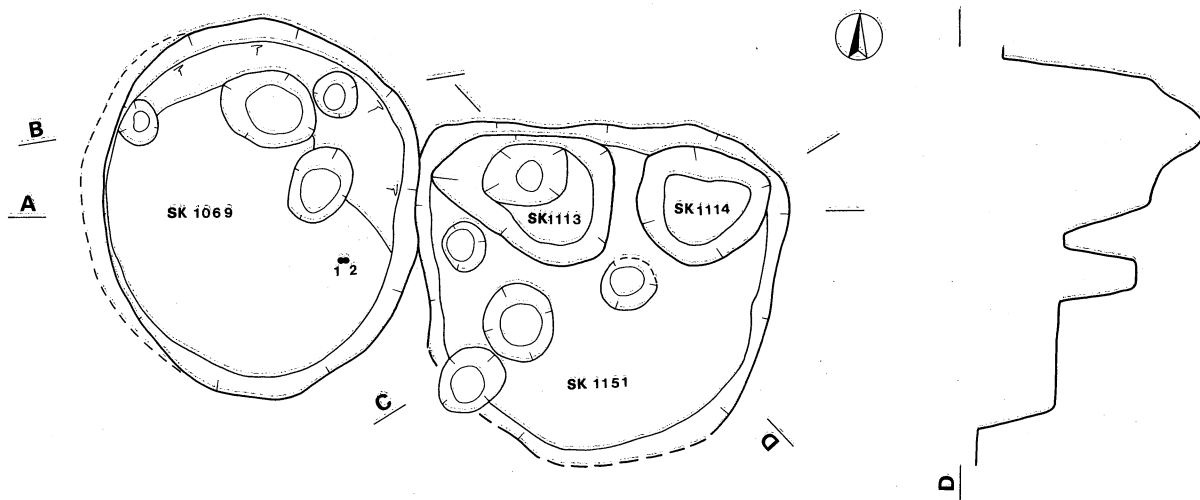


第1081号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量



第204図 第1065・1066・1067A・1067B・1081・1082号土坑実測図



第1069号土坑 土層解説

- 10 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 11 褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 12 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 13 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 14 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量, 小骨片極少量含む
- 15 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極少量

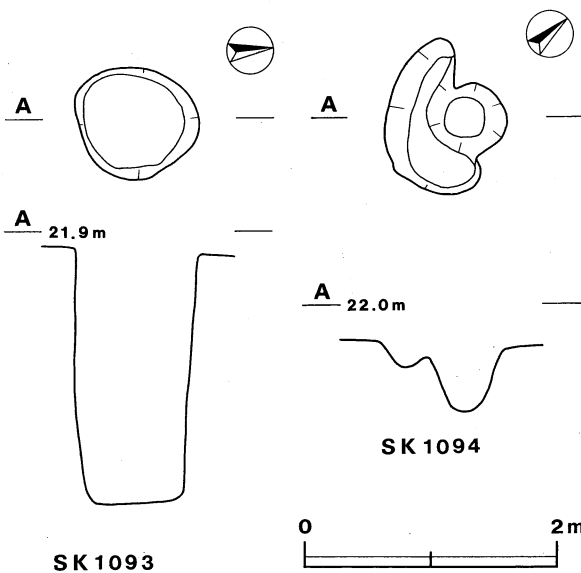
SK 1069-1113-1114-1151

第1113号土坑 土層解説

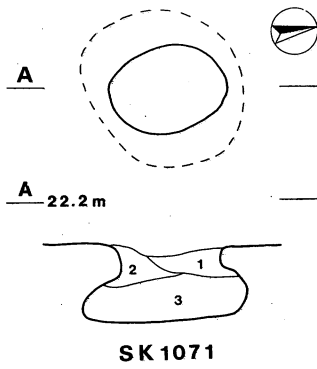
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量

第1114号土坑 土層解説

- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 9 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量

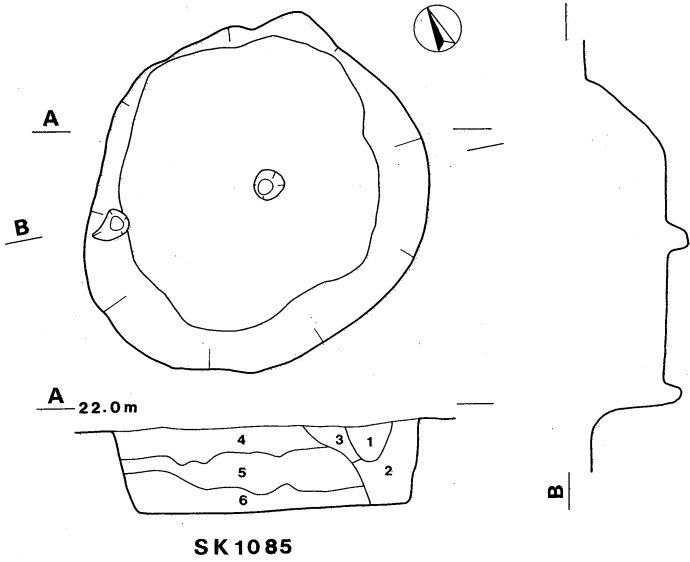


第205図 第1069・1093・1094・1113・1114・1151号土坑実測図



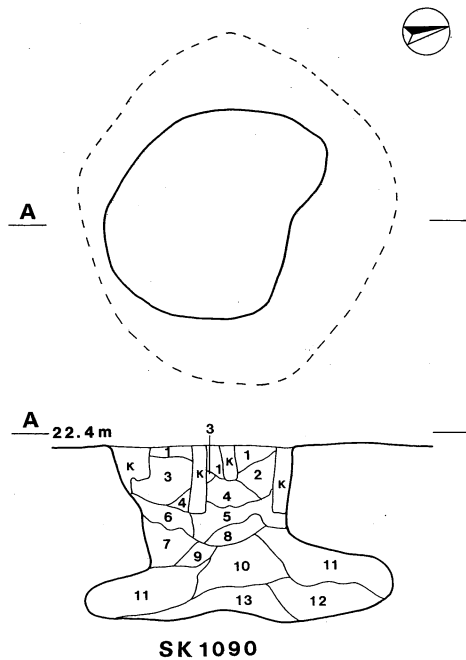
第1071号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量



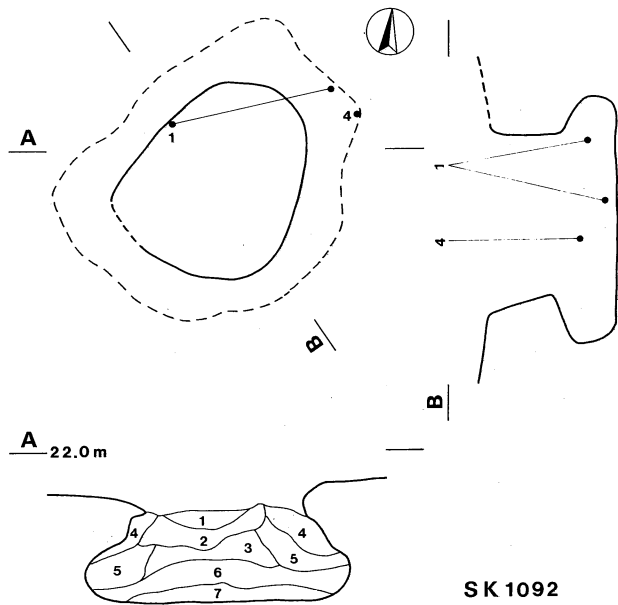
第1085号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量, 小骨片極少量含む
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 6 褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量



第1090号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, 小骨片極少量含む
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物極少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 7 暗褐色 ローム大ブロック中量, 炭化粒子少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 13 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

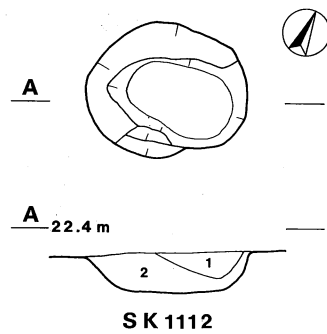
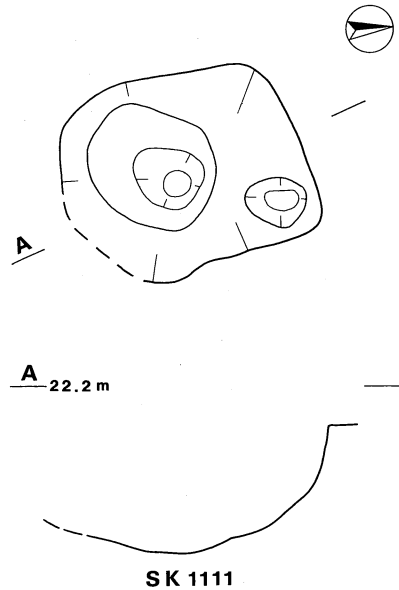
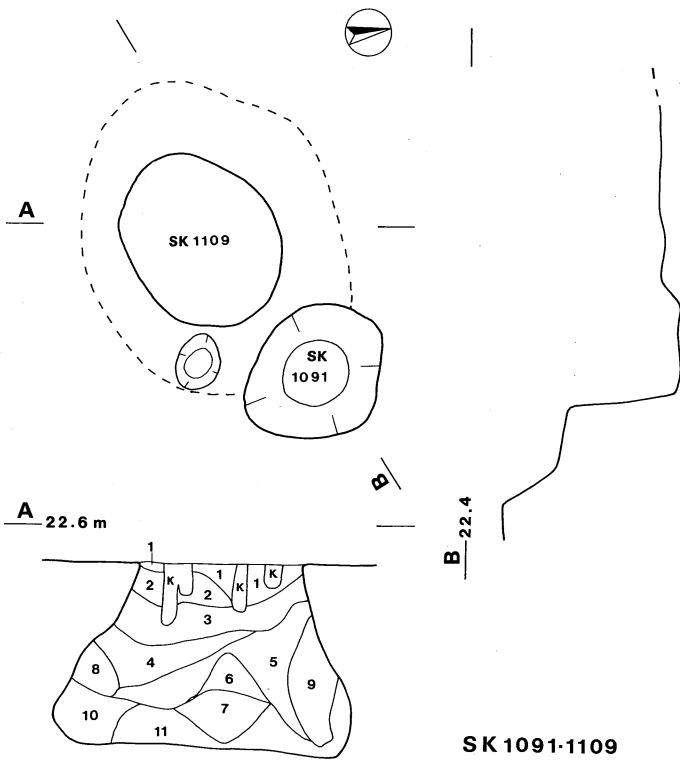
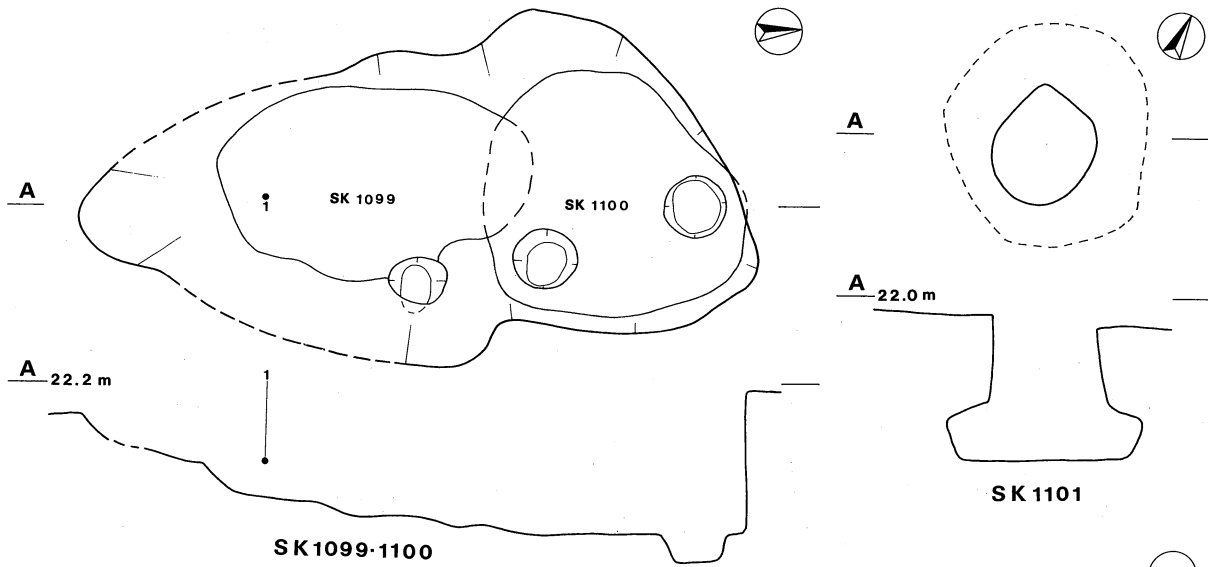


第1092号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック極少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 7 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



第206図 第1071・1085・1090・1092号土坑実測図

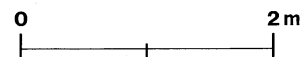


第1109号土坑 土層解説

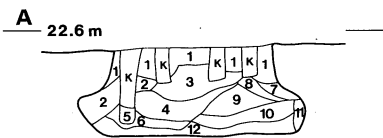
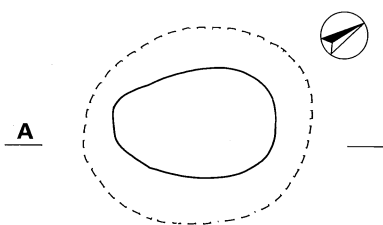
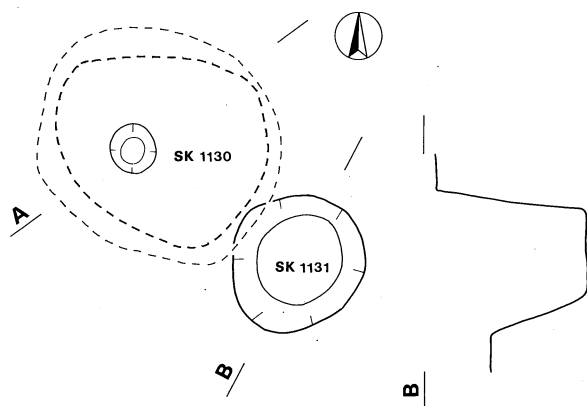
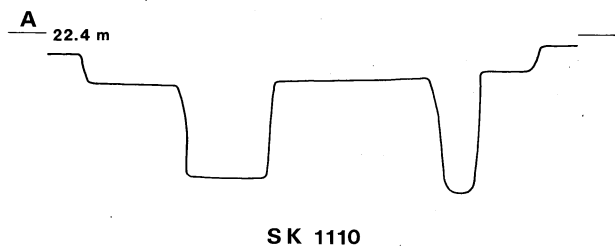
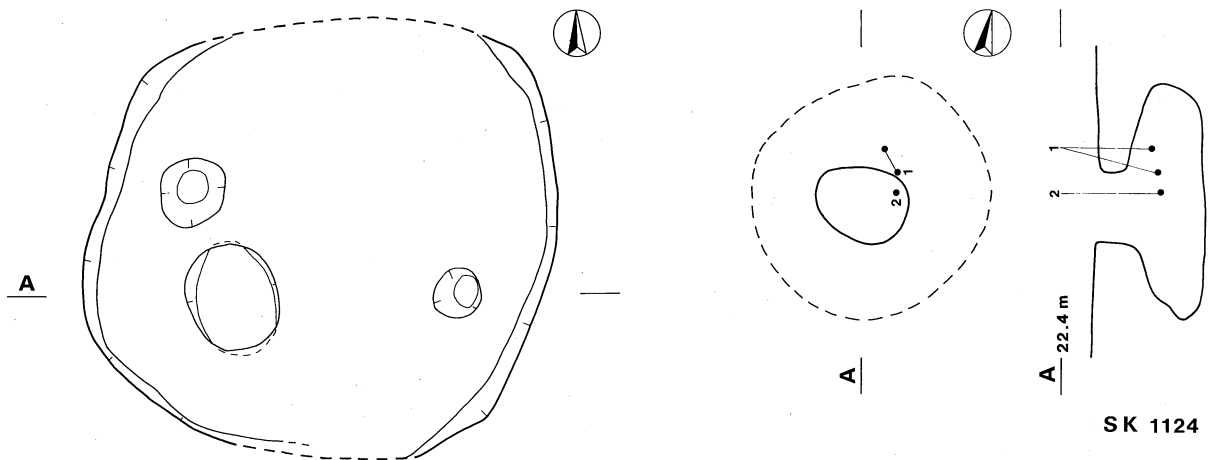
- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量，ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム中ブロック少量，焼土小ブロック極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子極少量

第1112号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量



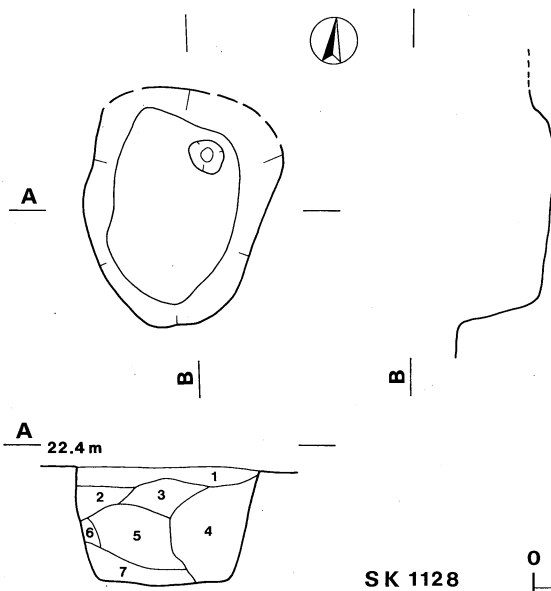
第207図 第1091・1099・1100・1101・1109・1111・1112号土坑実測図



SK 1138

第1138号土坑 土層解説

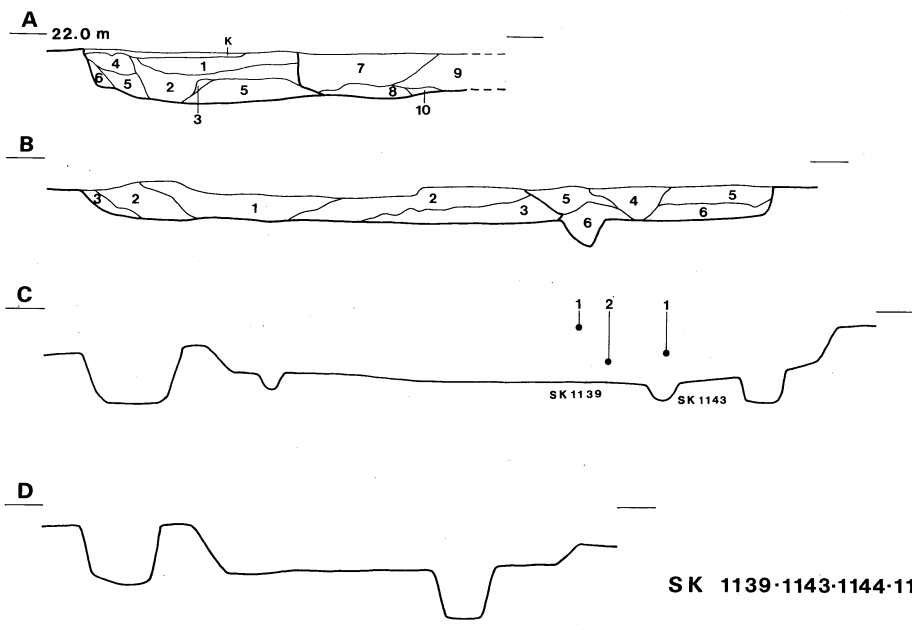
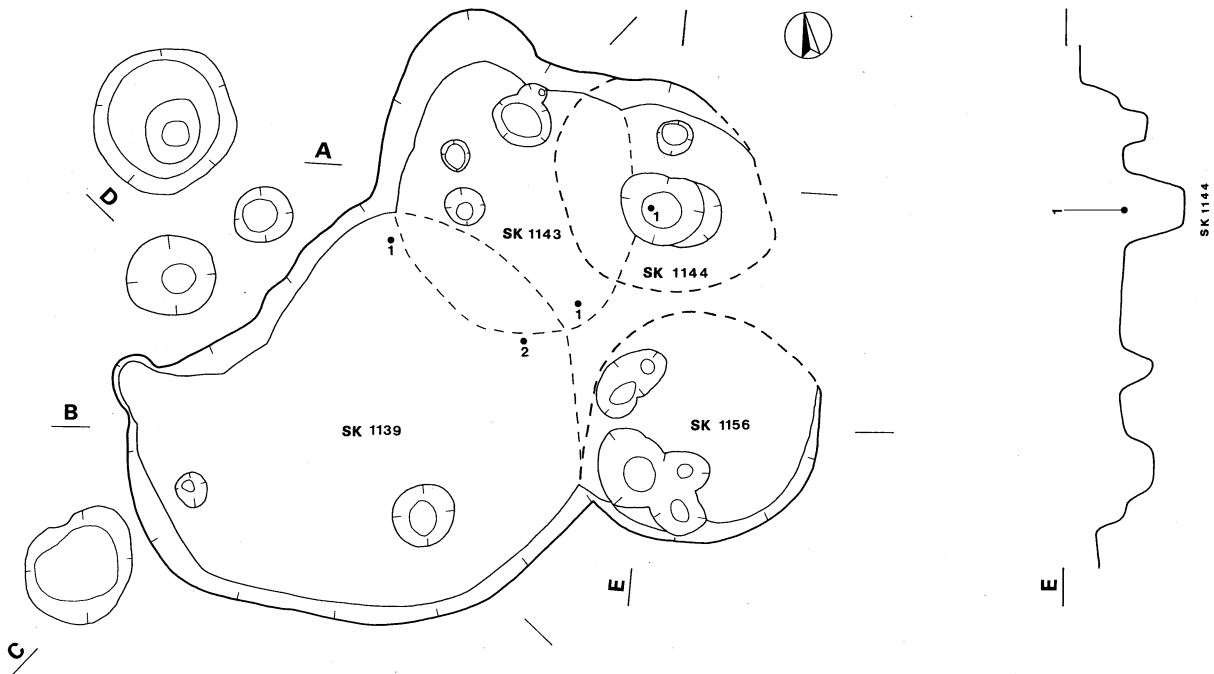
- 1 褐色 ローム大ブロック多量, ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック極少量
- 11 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 12 に近い褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量



第1128号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土小ブロック極少量
- 5 暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子多量, 炭化物極少量

第208図 第1110・1124・1128・1130・1131・1138号土坑実測図



SK 1139・1143・1144・1156

第1139号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化物極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第1143号土坑 土層解説

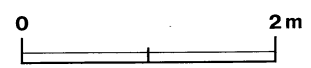
- 1 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量

第1144号土坑 土層解説

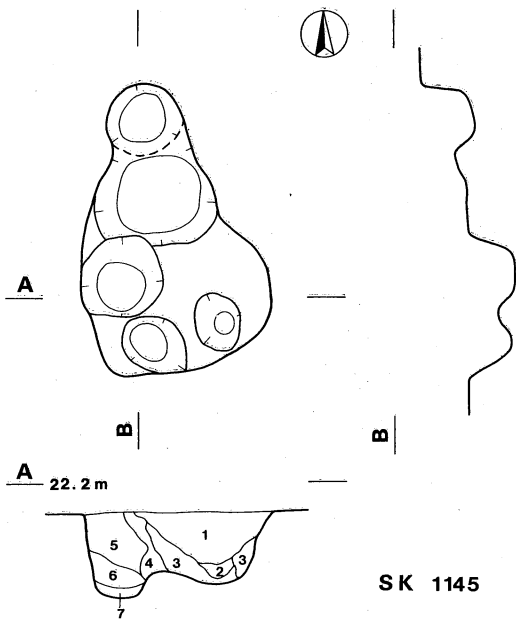
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 10 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

第1156号土坑 土層解説

- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化物極少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量

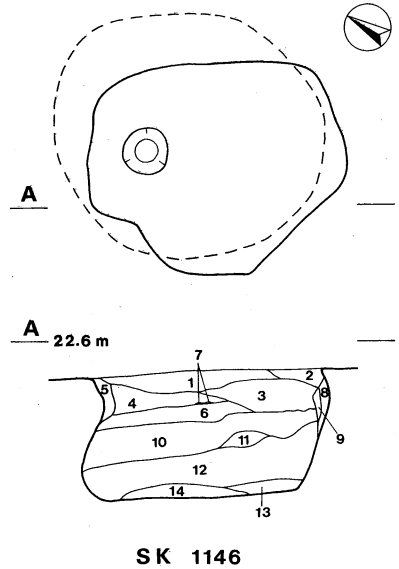


第209図 第1139・1143・1144・1156号土坑実測図



第1145号土坑 土層解説

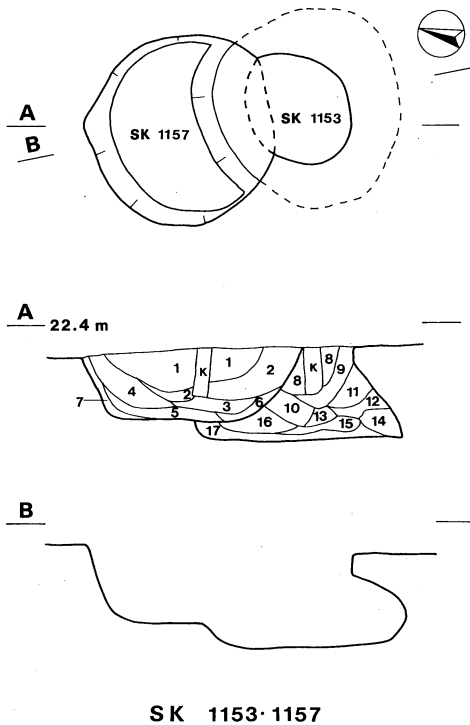
- 1 暗褐色 ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック極少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量



SK 1146

第1146号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 9 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 10 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 12 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 13 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 14 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量



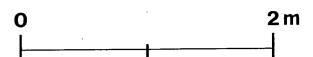
SK 1153・1157

第1153号土坑 土層解説

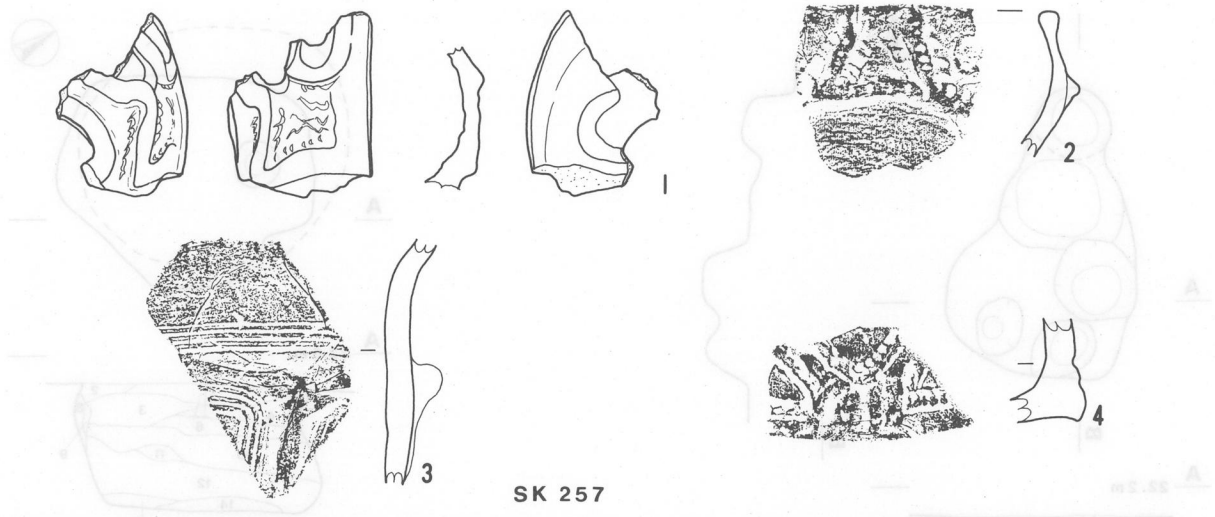
- 8 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
- 11 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 13 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 14 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 15 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 16 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 17 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量

第1157号土坑 土層解説

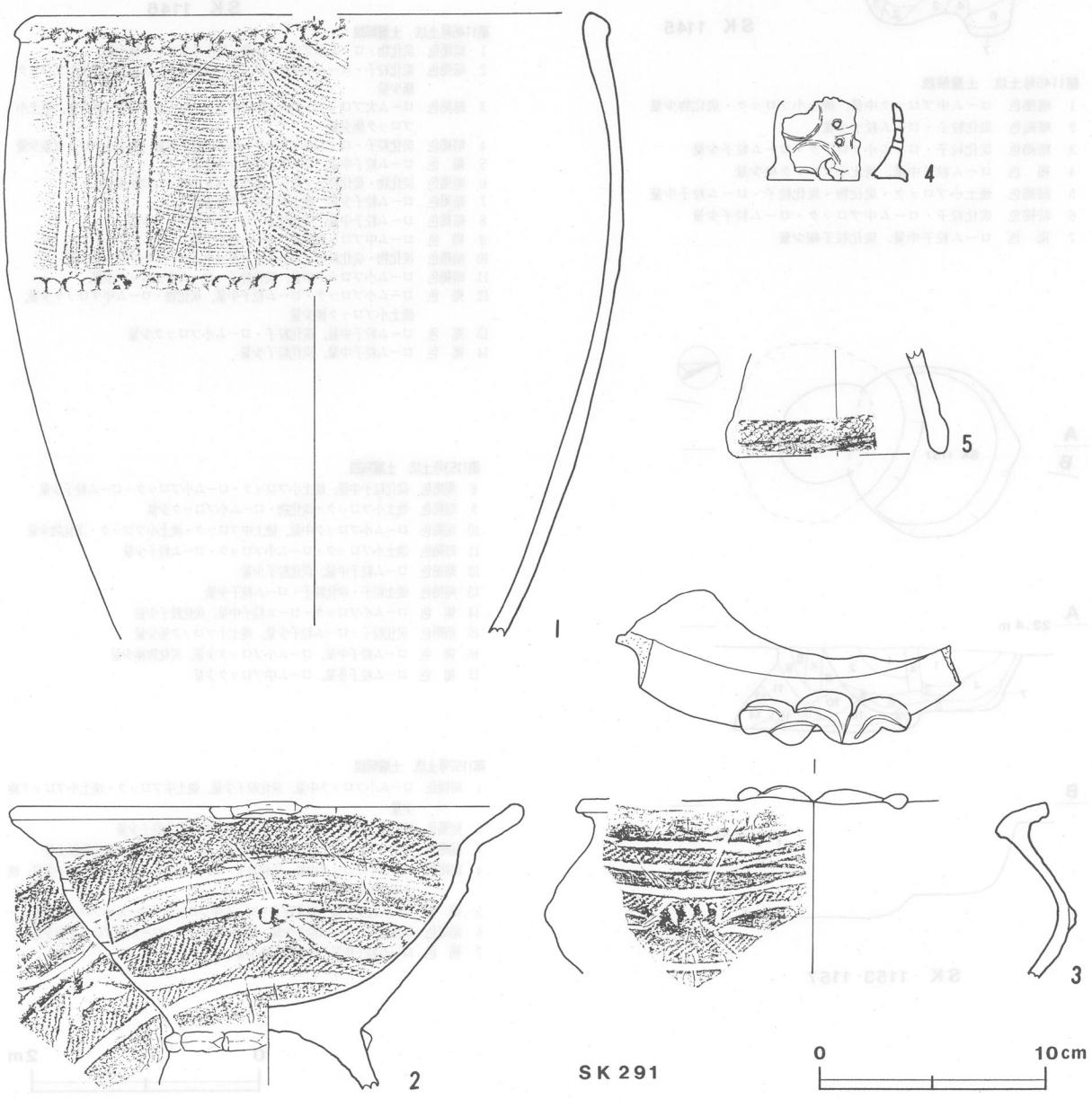
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量



第210図 第1145・1146・1153・1157号土坑実測図

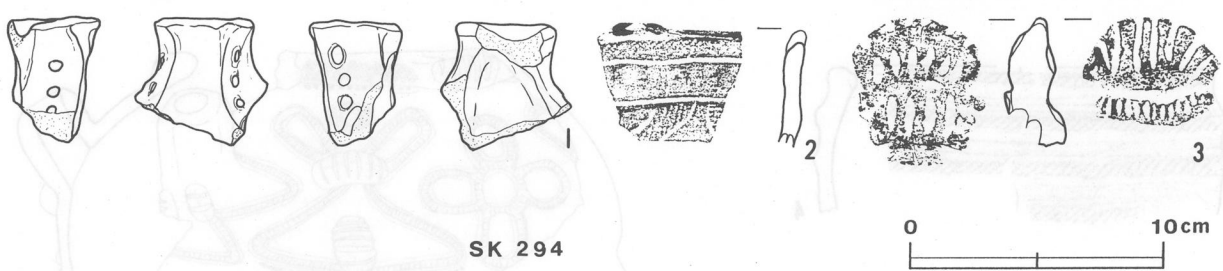
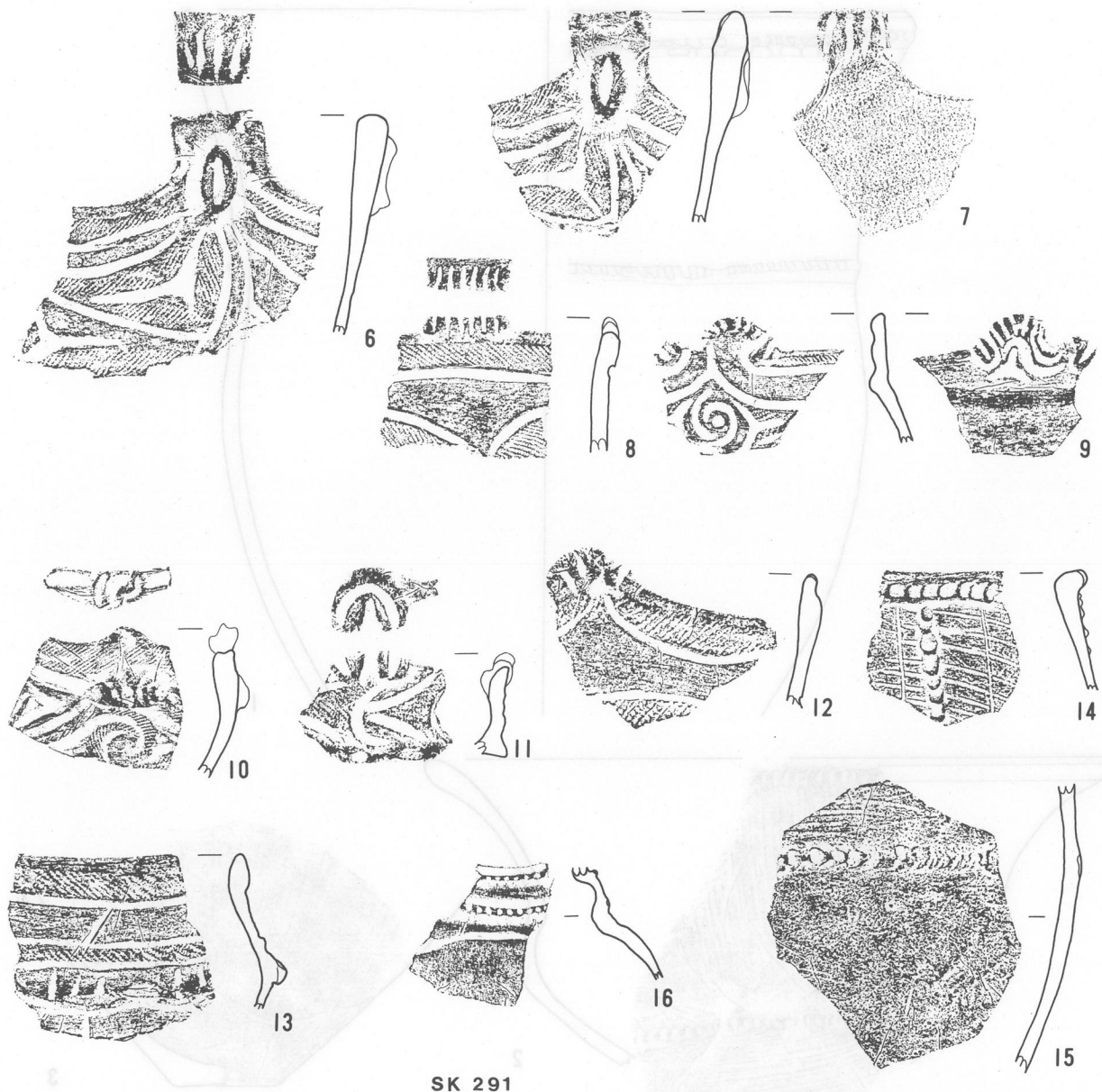


SK 257

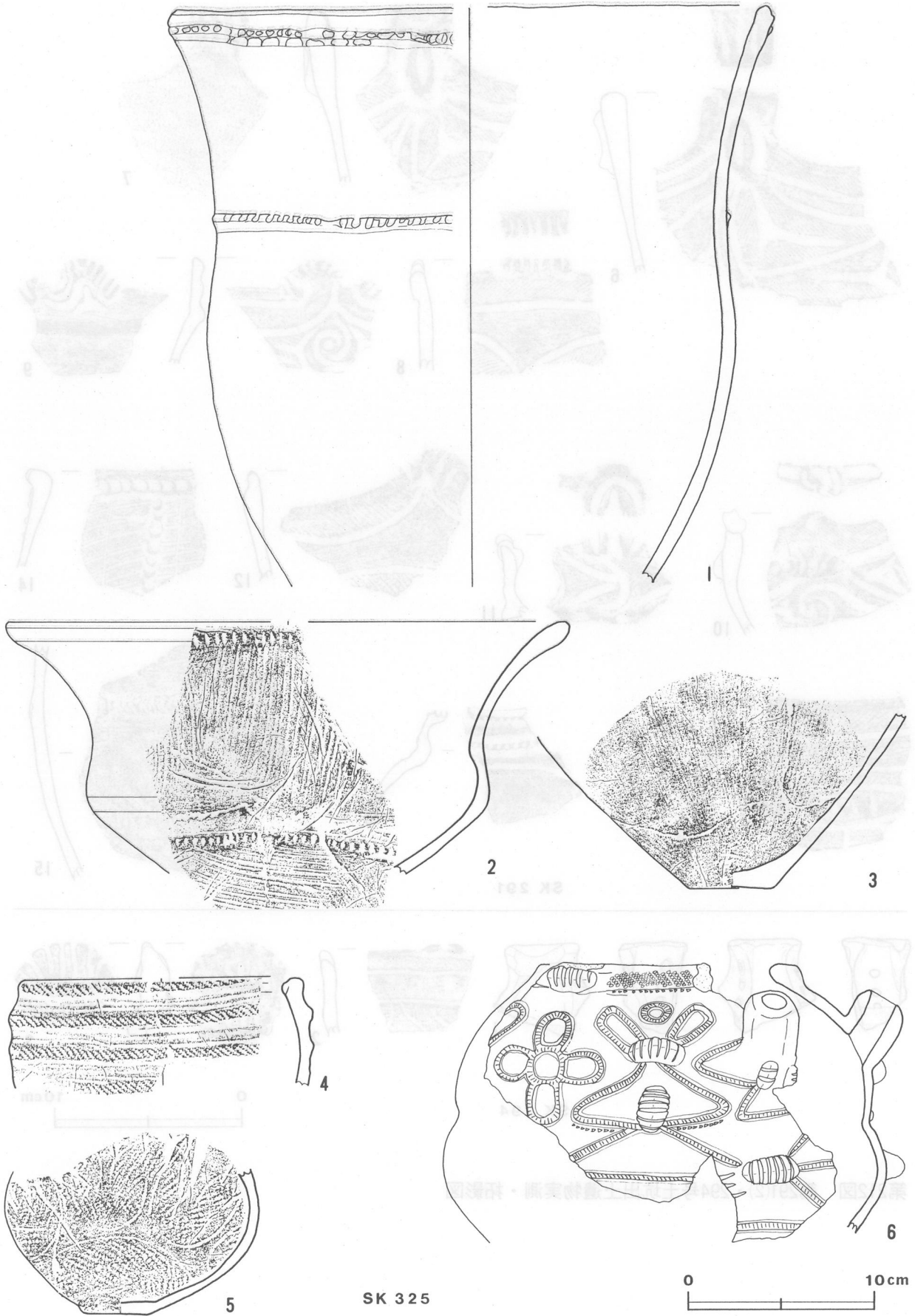


SK 291

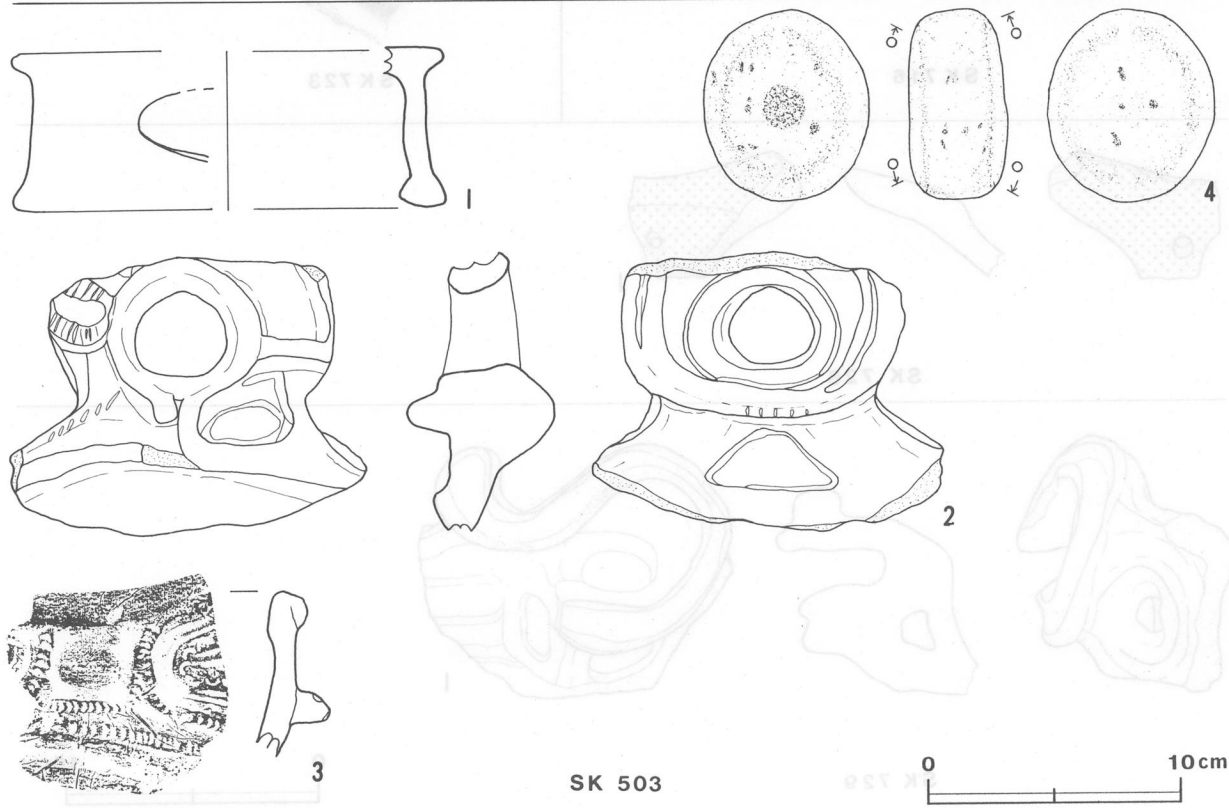
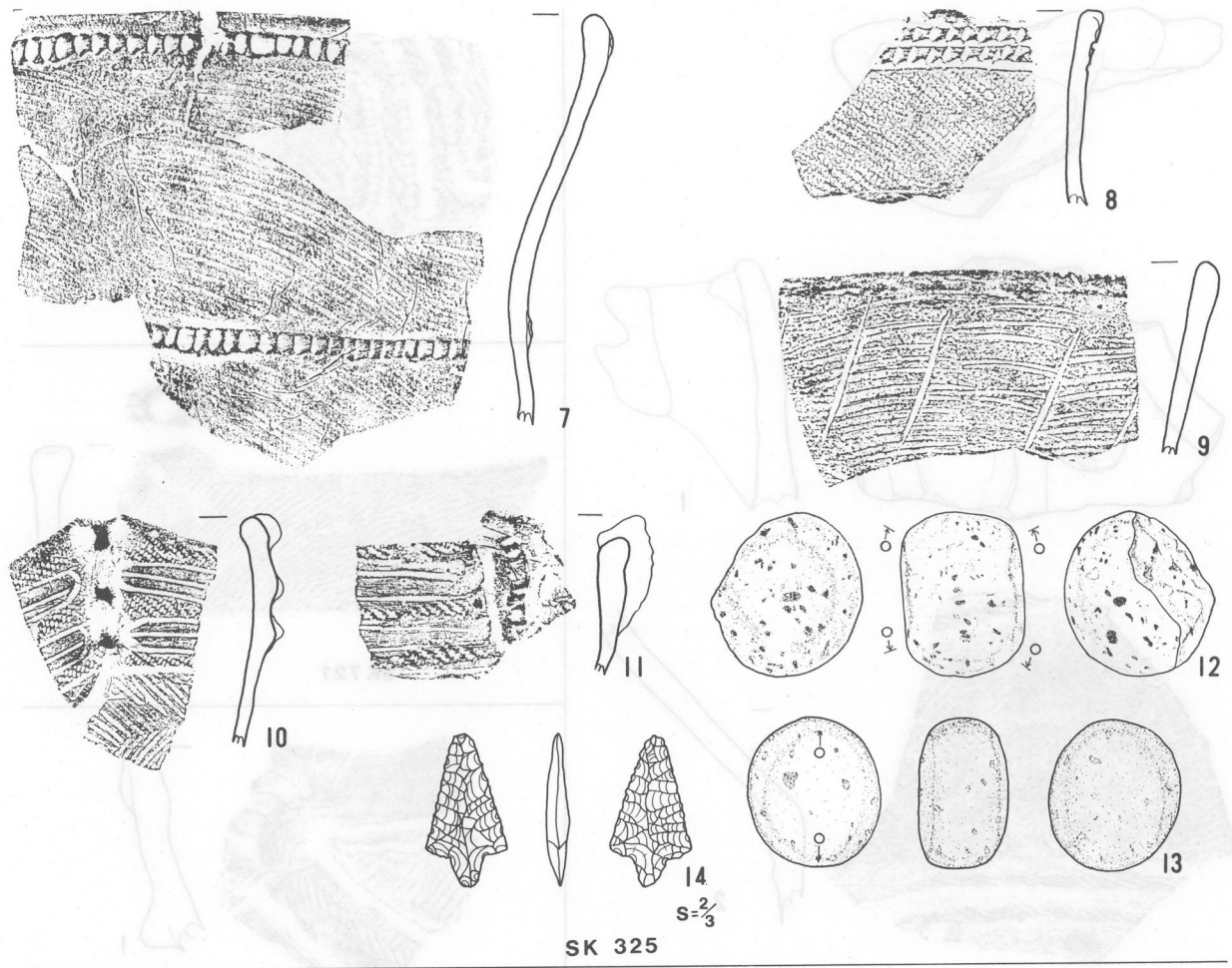
第211图 第257·291(1)号土坑出土遗物实测·拓影图



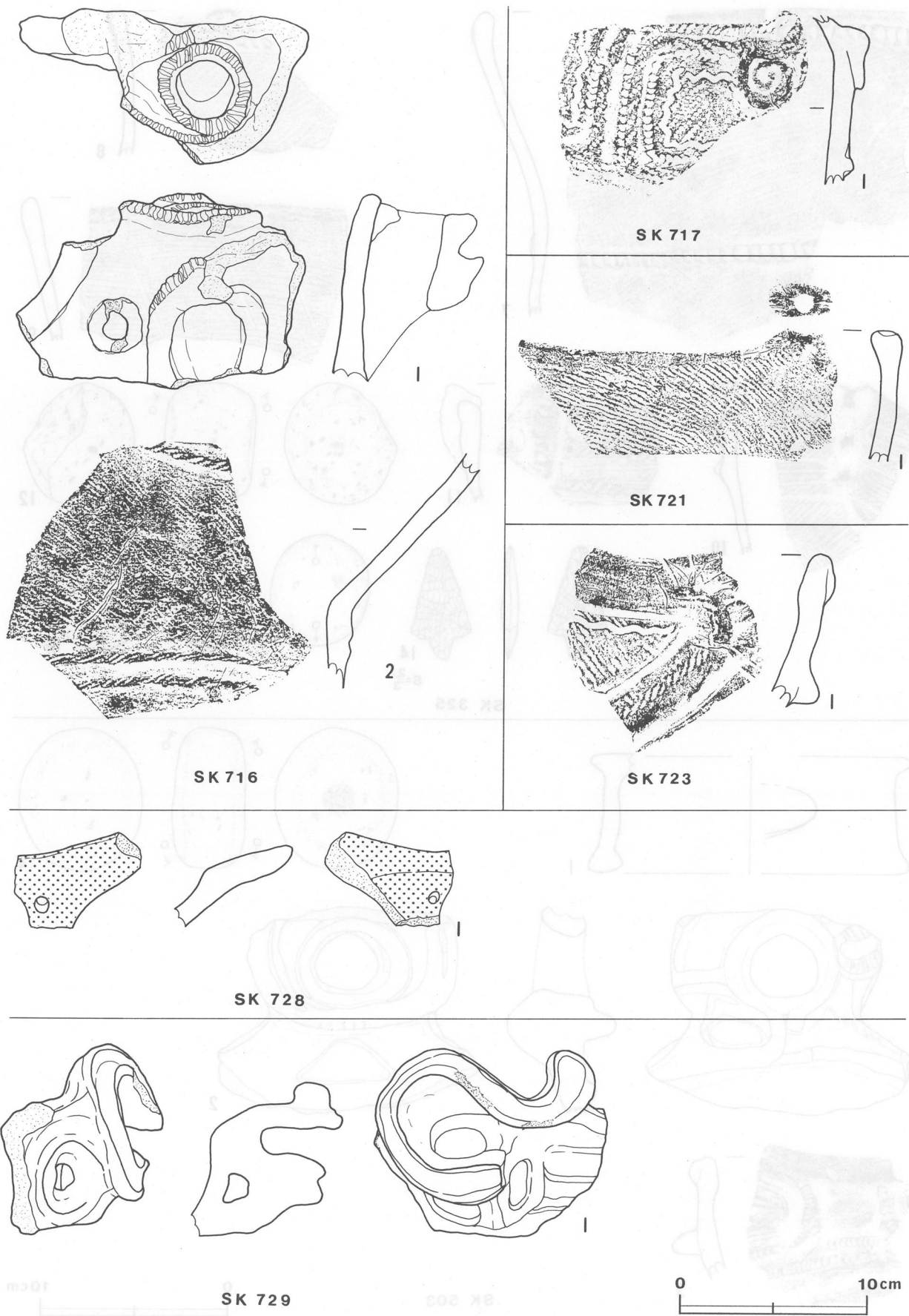
第212图 第291(2)・294号土坑出土遺物実測・拓影図



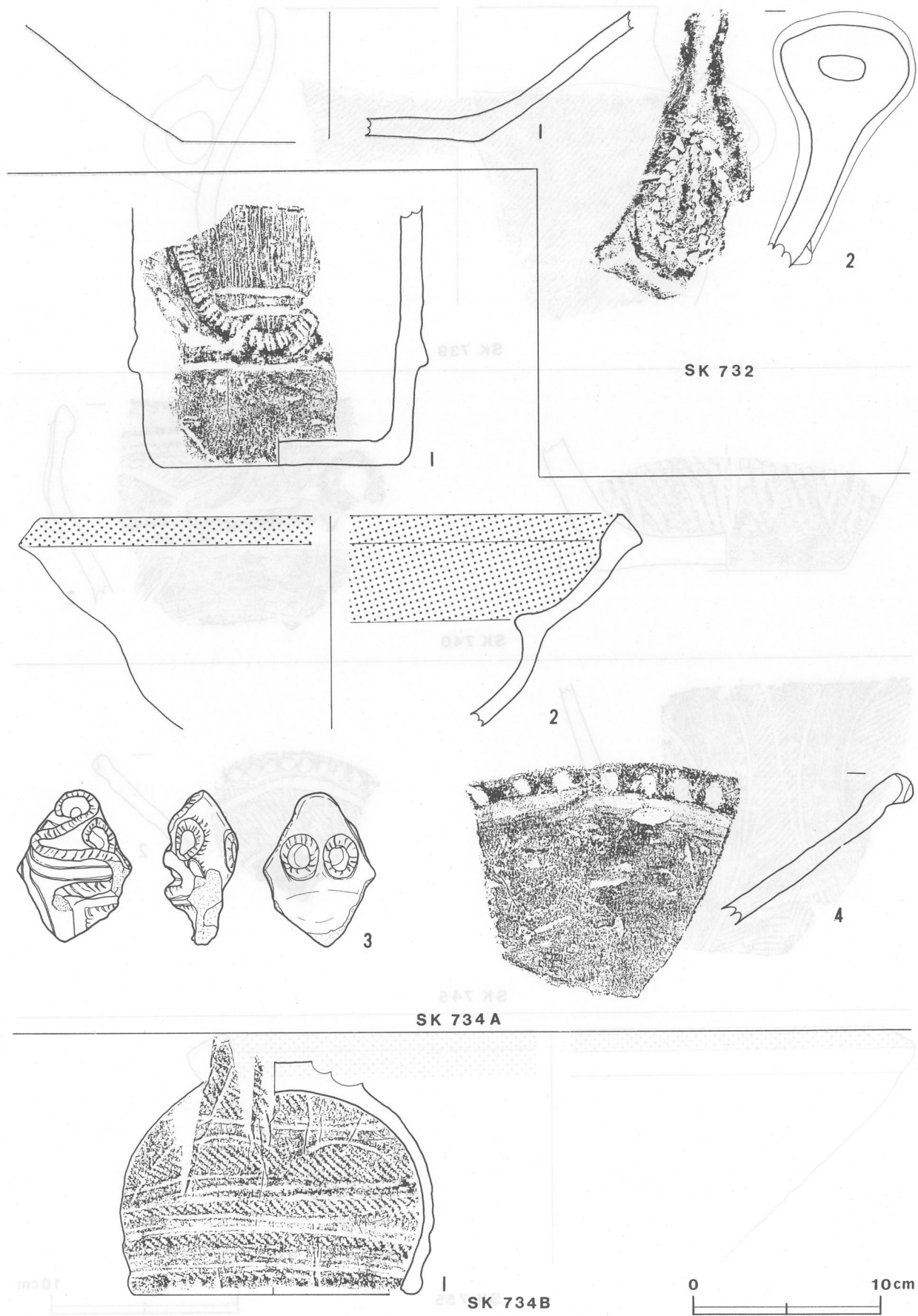
第213图 第325(1)号土坑出土遗物实测·拓影图



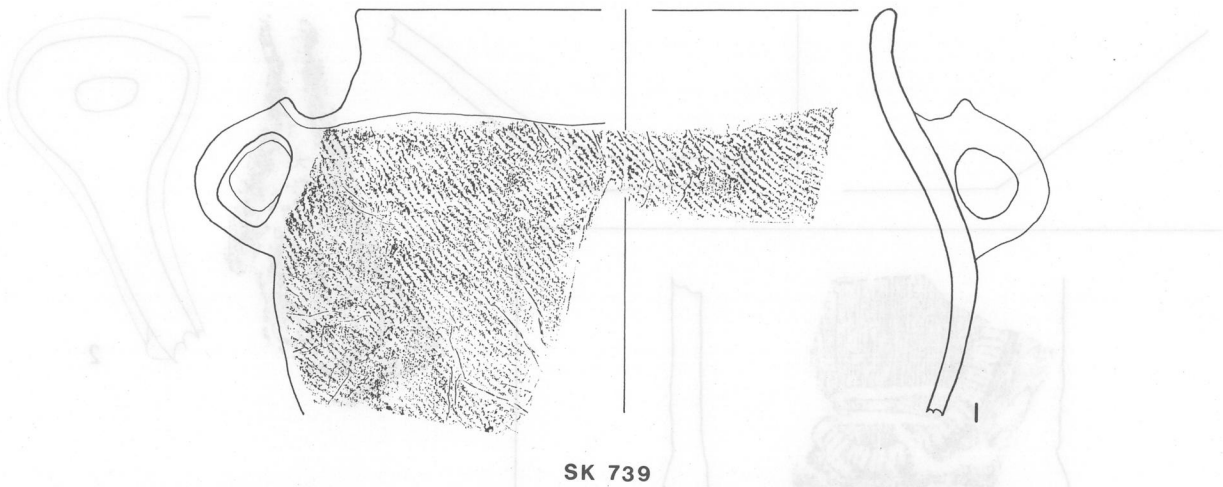
第214図 第325(2)・503号土坑出土遺物実測・拓影図



第215図 第716・717・721・723・728・729号土坑出土遺物実測・拓影図



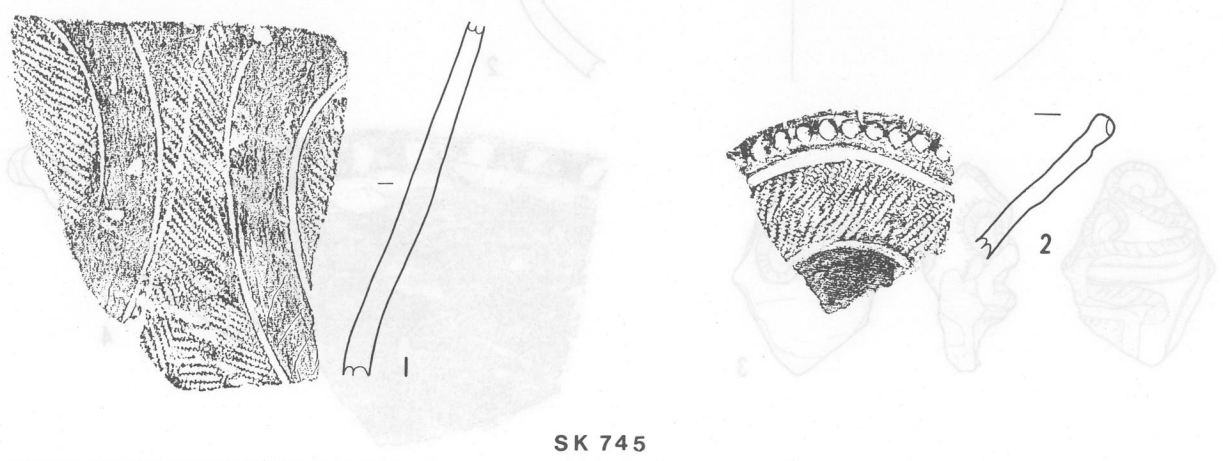
第216图 第732·734A·734B号土坑出土遺物実測·拓影图



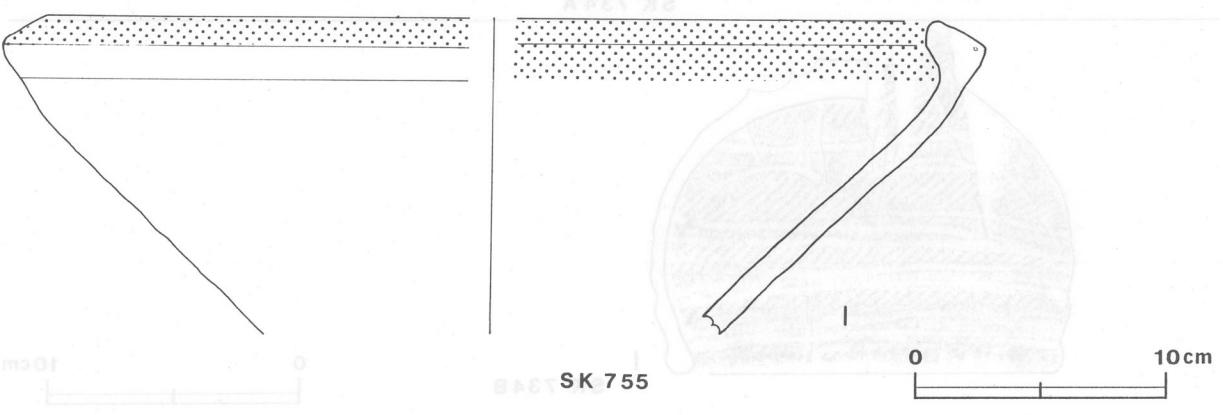
SK 739



SK 740



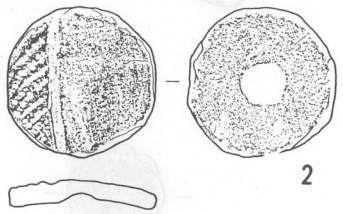
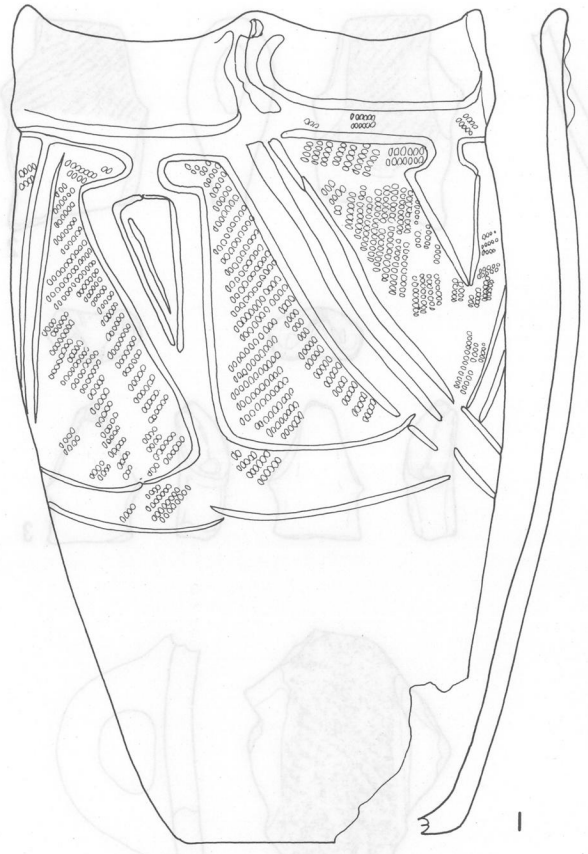
SK 745



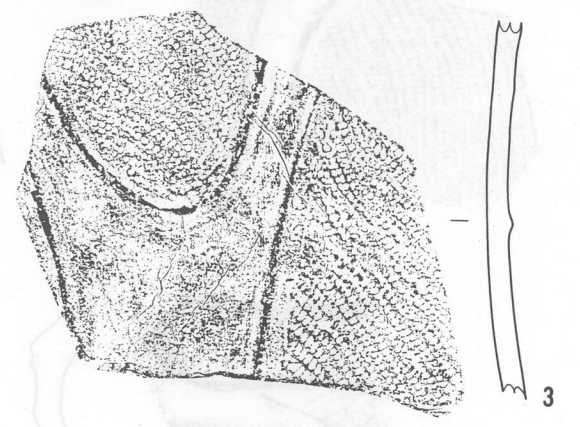
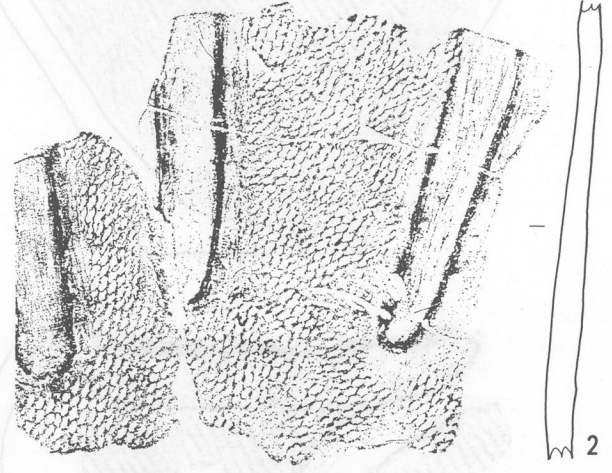
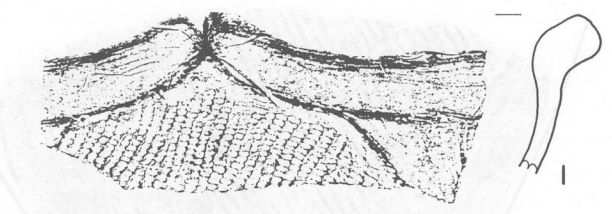
SK 755

0 10cm

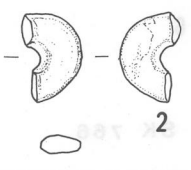
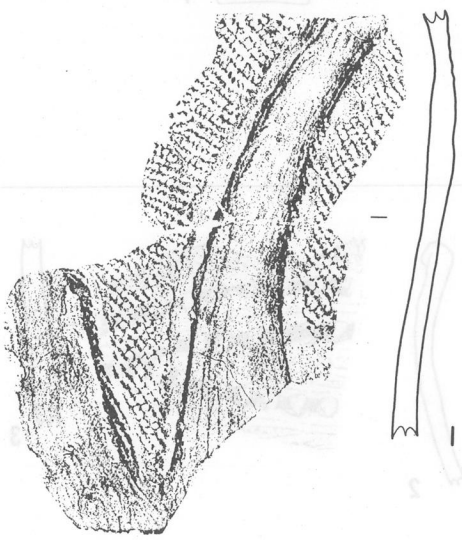
第217図 第739・740・745・755号土坑出土遺物実測・拓影図



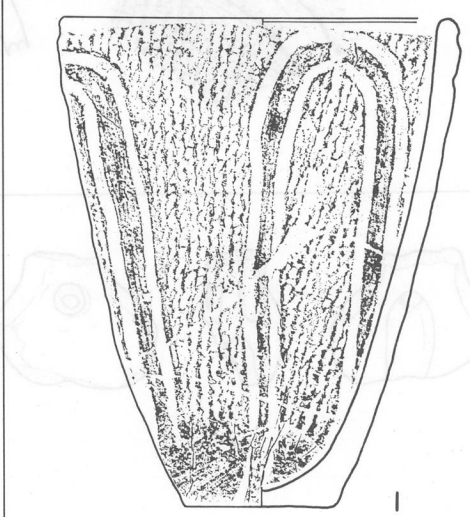
SK 760



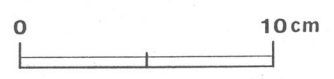
SK 761



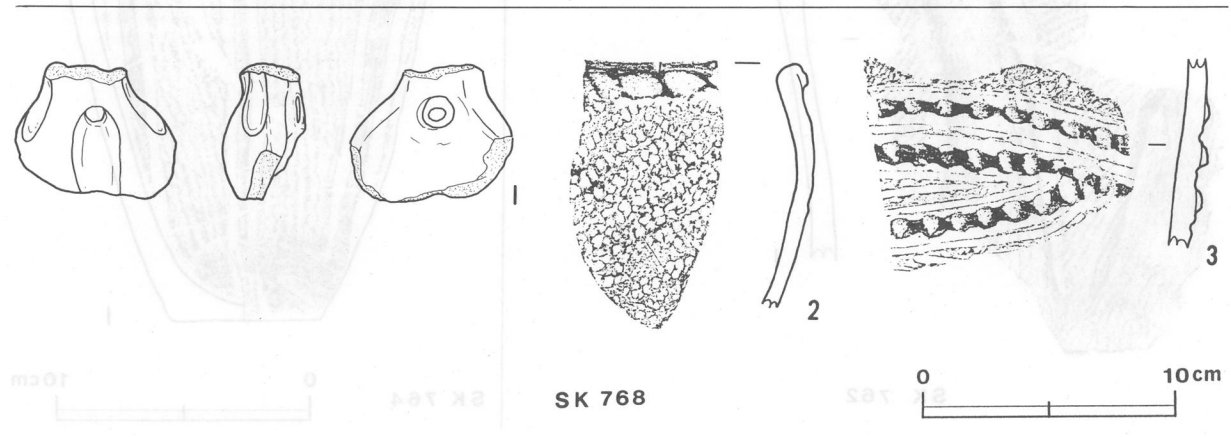
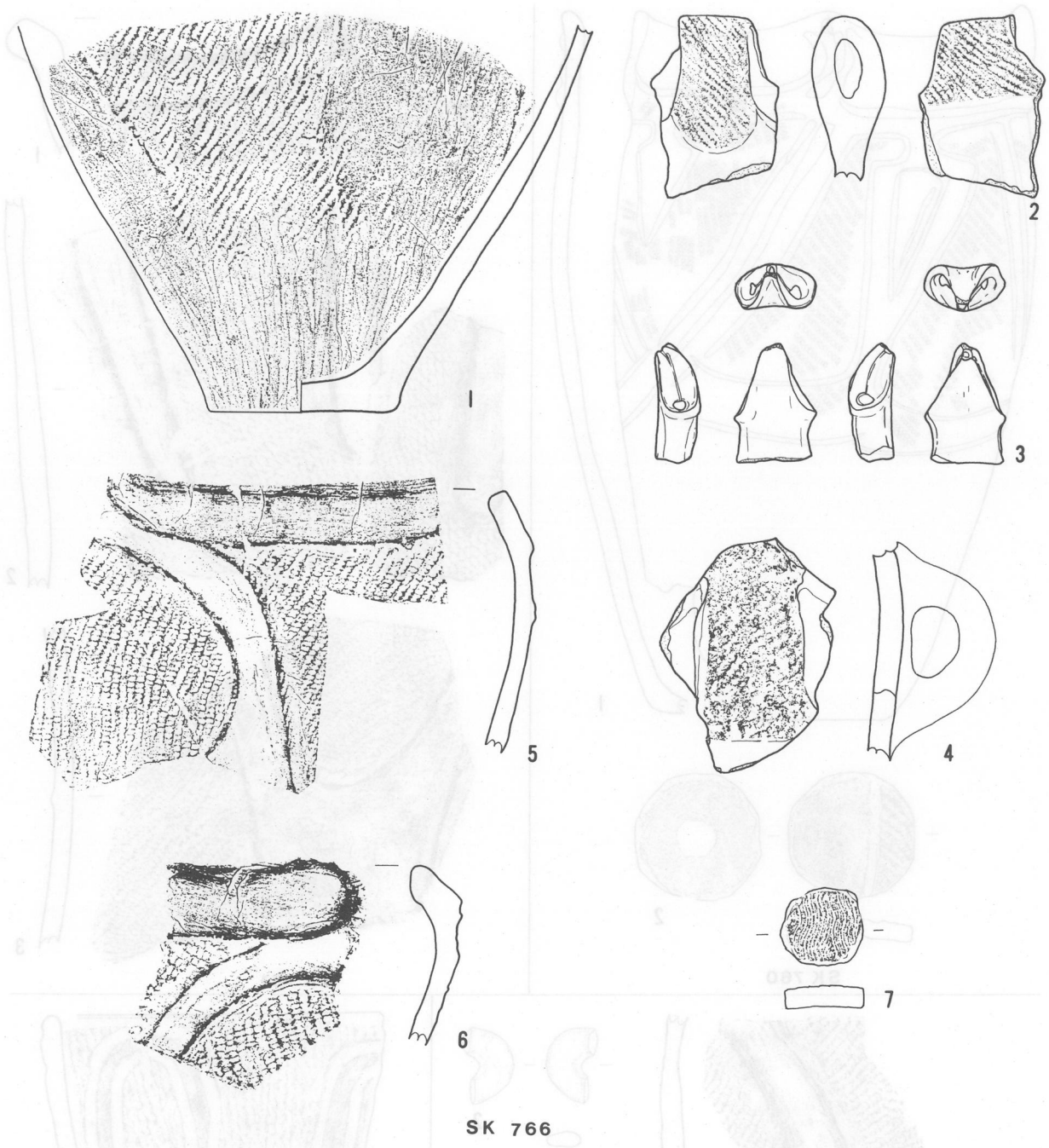
SK 762



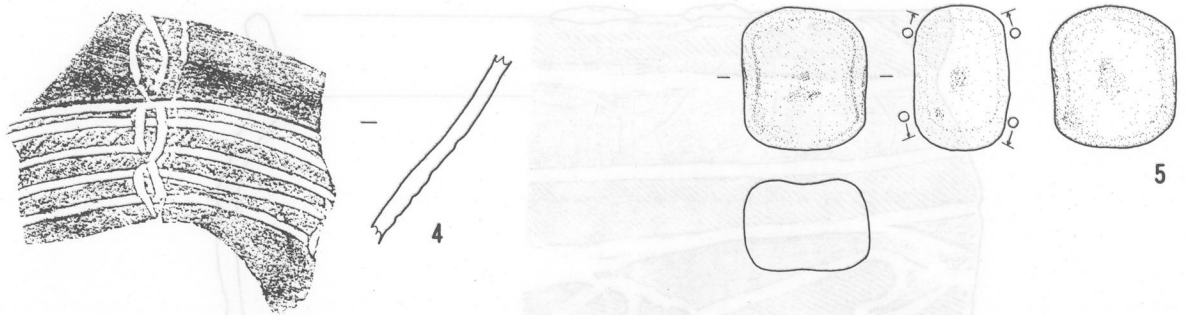
SK 764



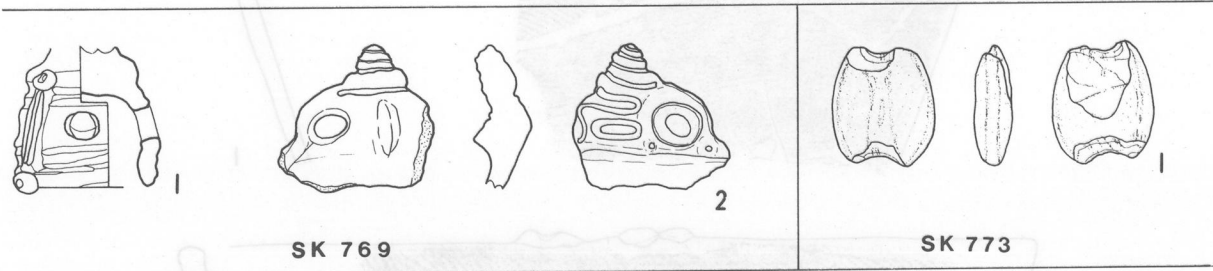
第218図 第760・761・762・764号土坑出土遺物実測・拓影図



第219図 第766・768(1)号土坑出土遺物実測・拓影図

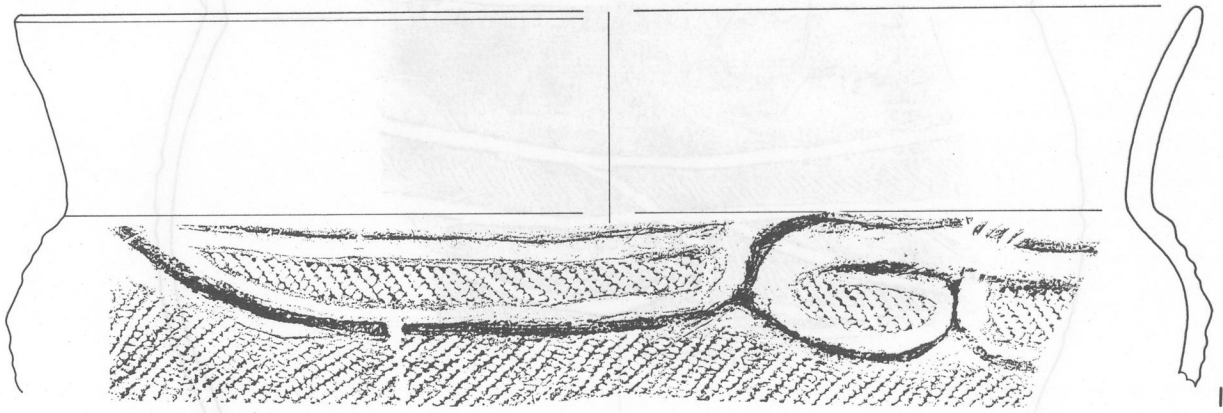


SK 768

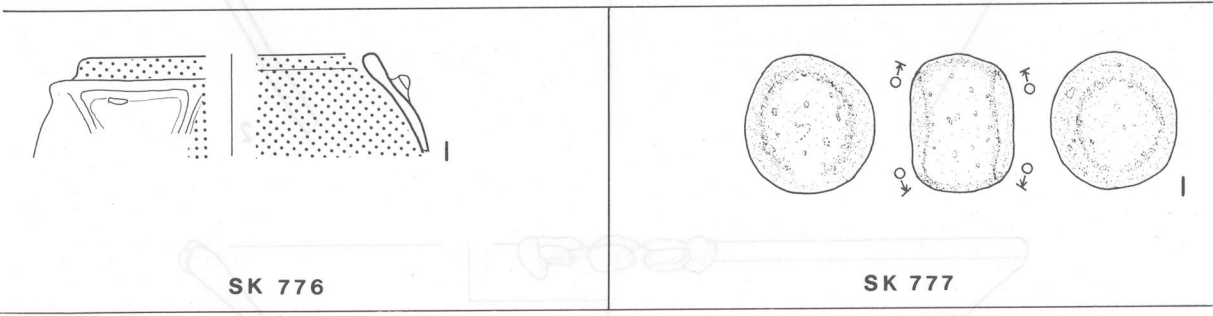


SK 769

SK 773



SK 775

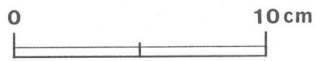


SK 776

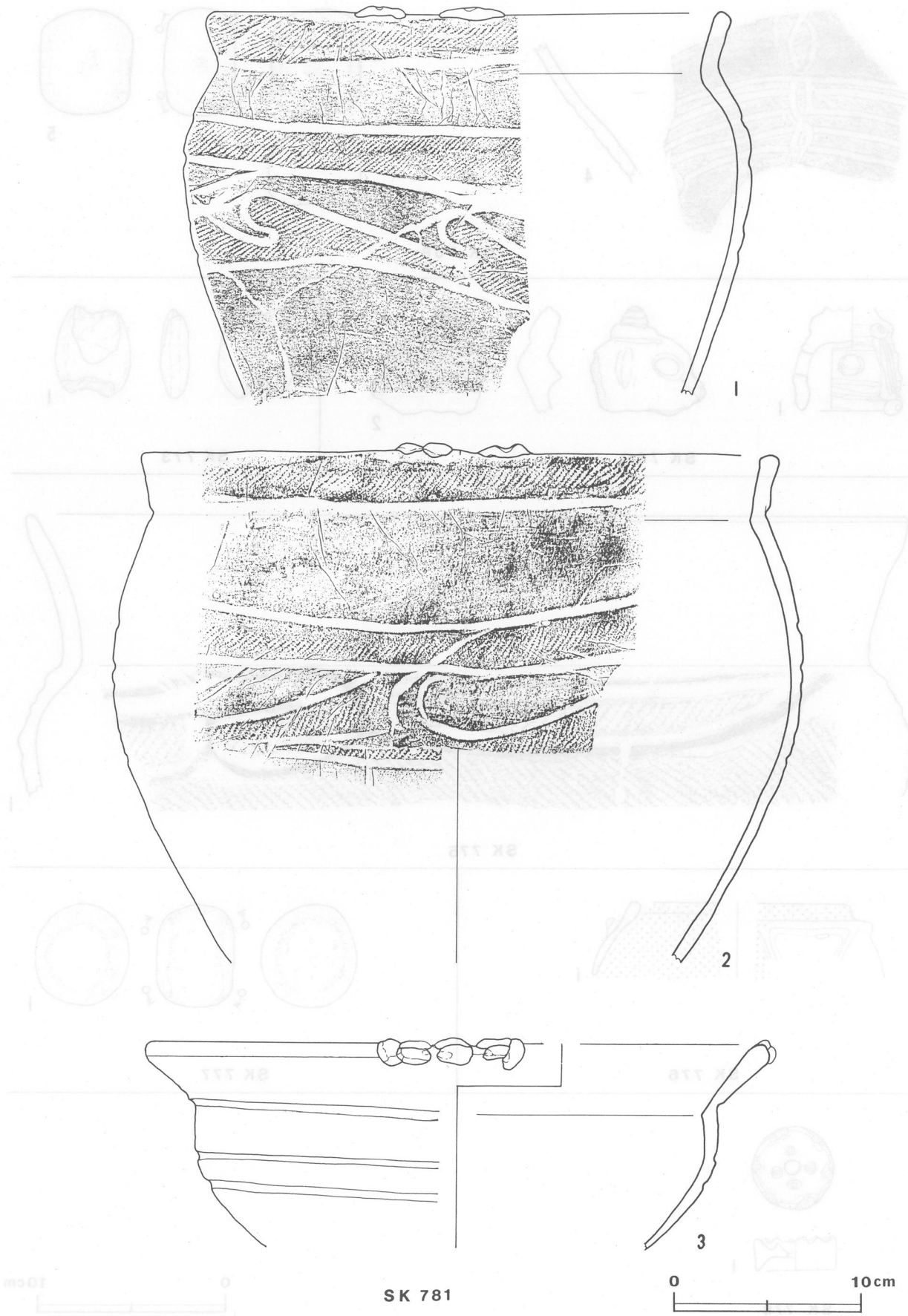
SK 777



SK 778



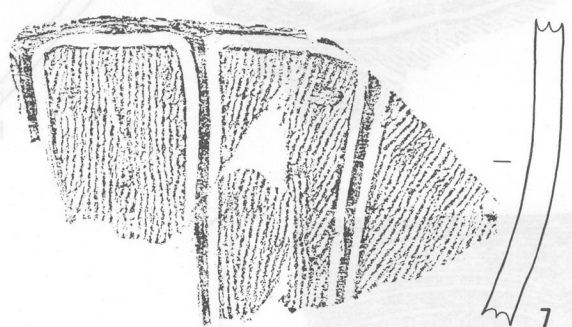
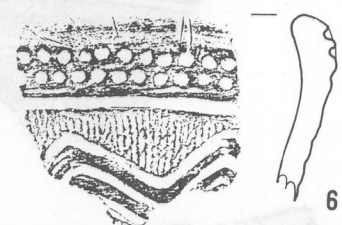
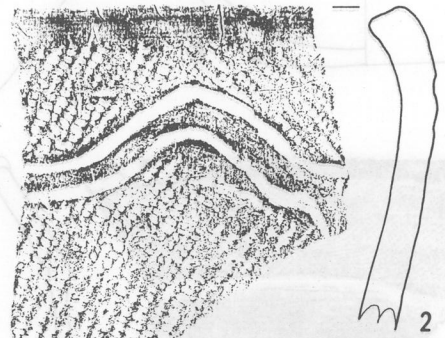
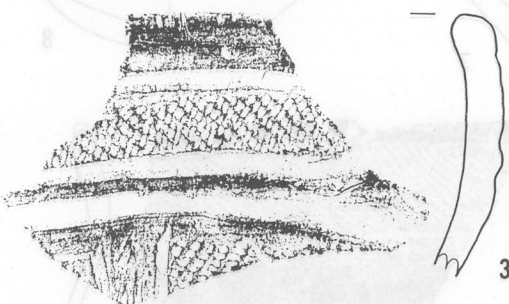
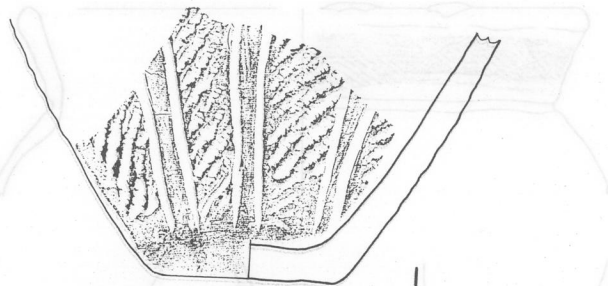
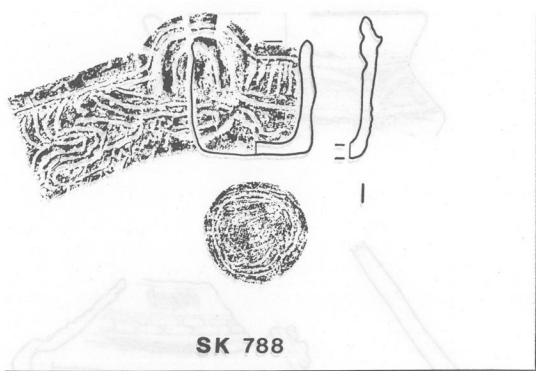
第220图 第768(2)·769·773·775·776·777·778号土坑出土遺物実測・拓影图



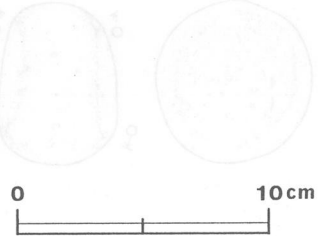
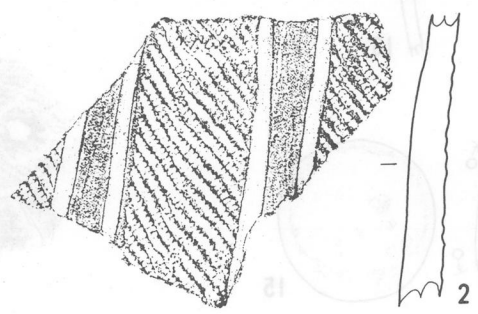
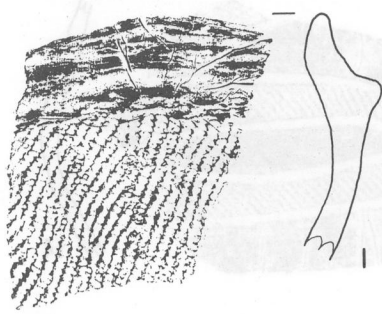
第221图 第781号土坑出土遺物実測・拓影图(1)



第222图 第781号土坑出土遺物実測・拓影图(2)

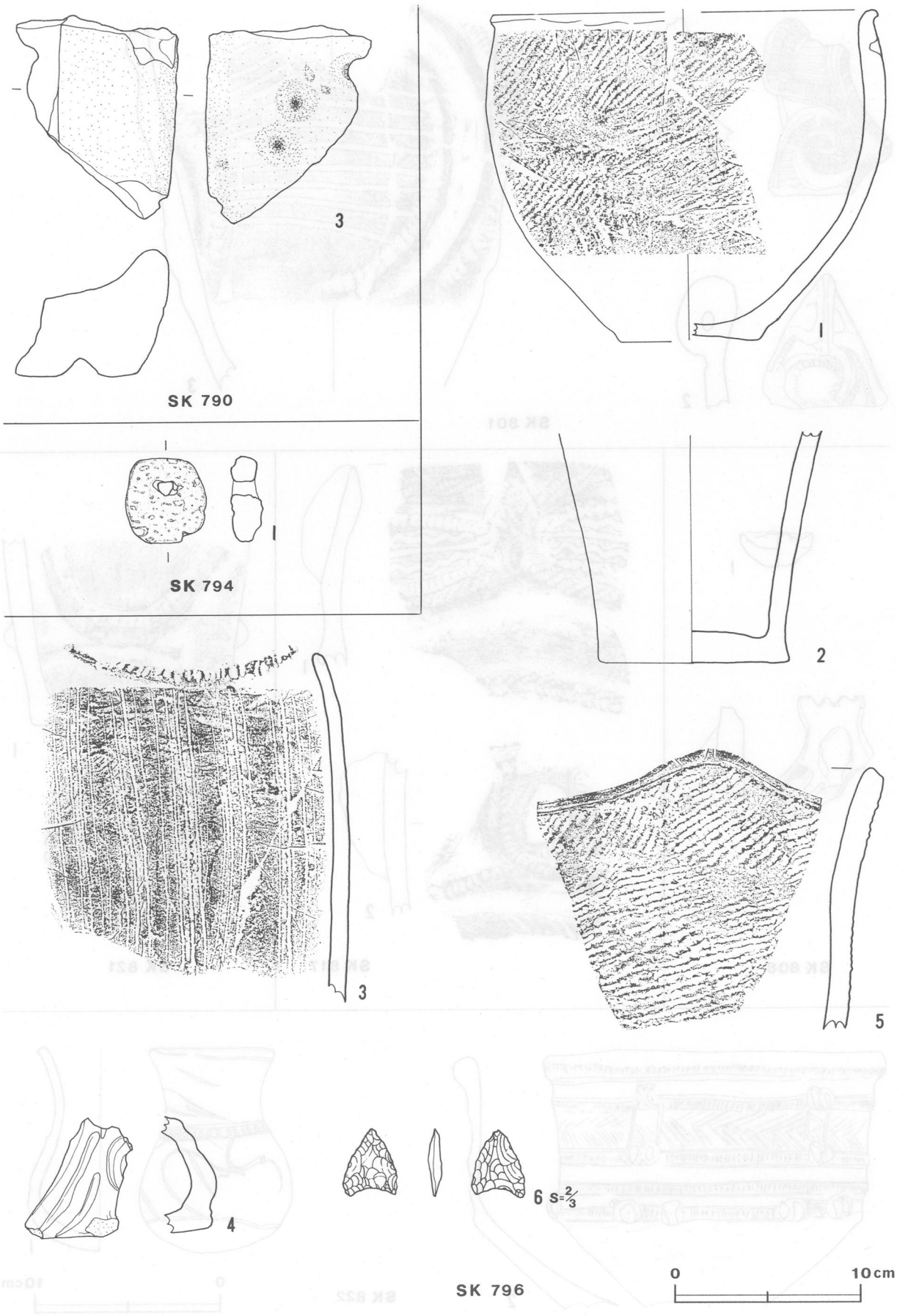


SK 789

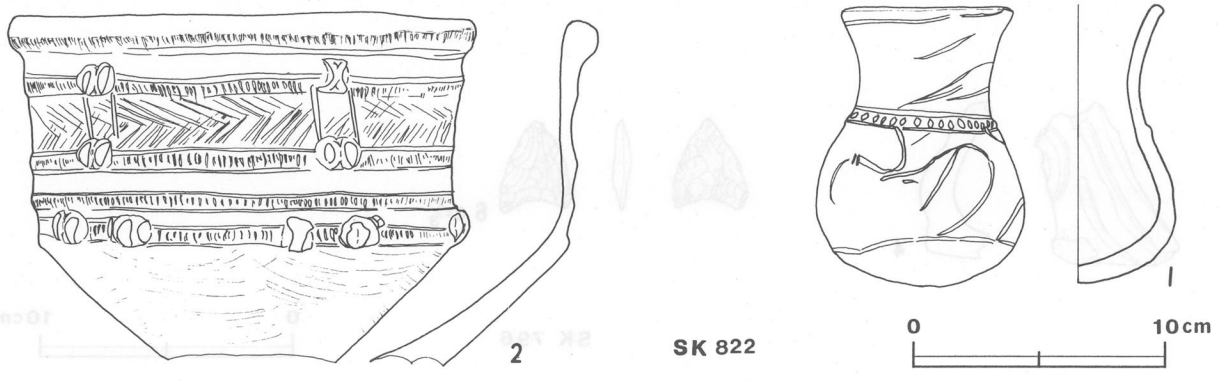
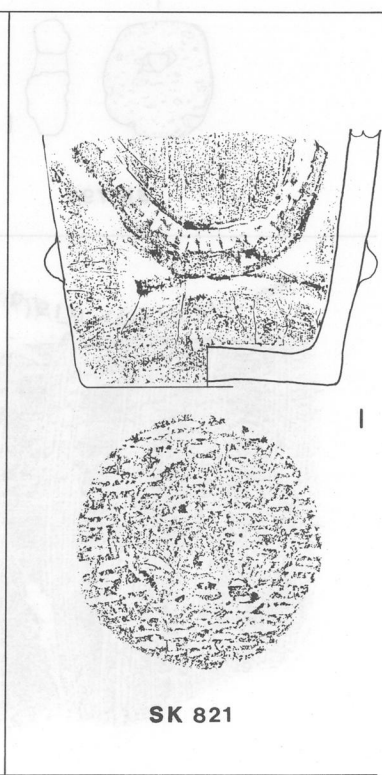
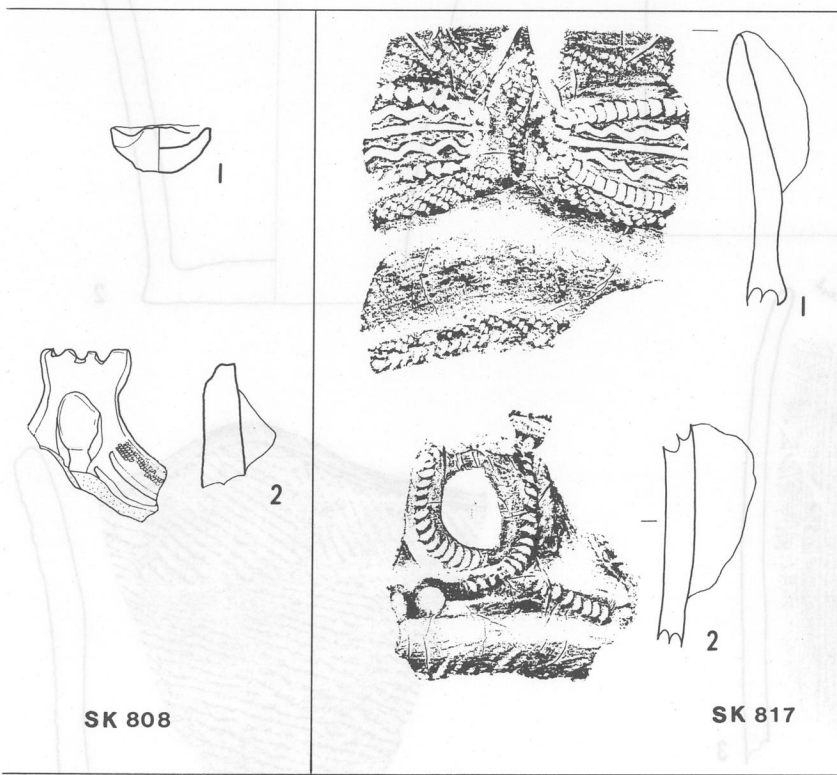
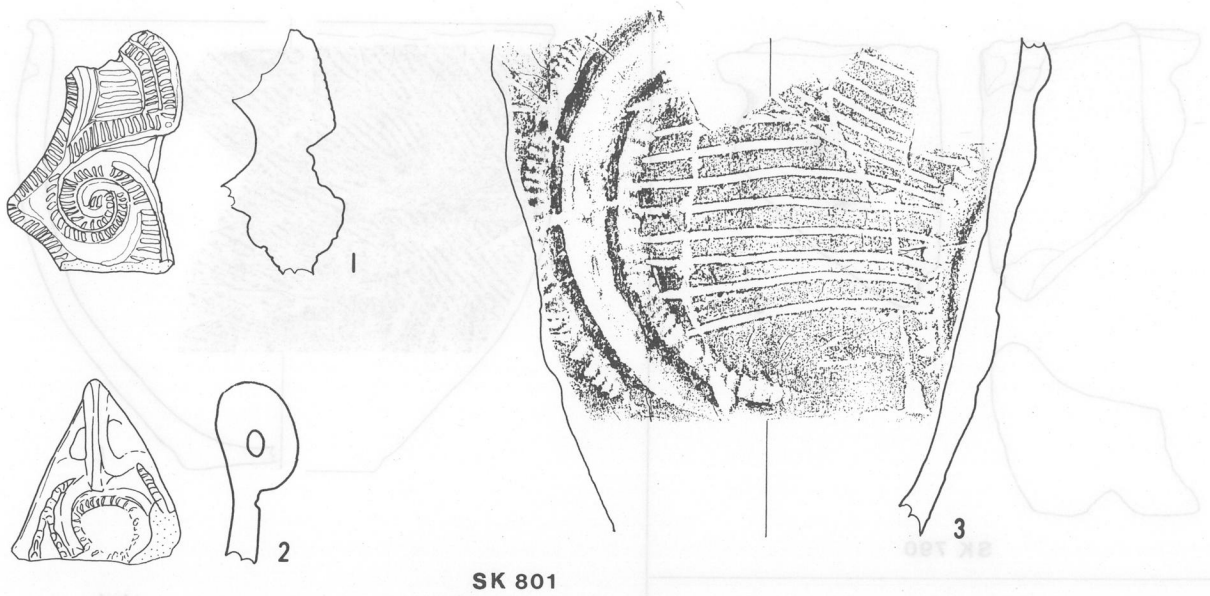


SK 790

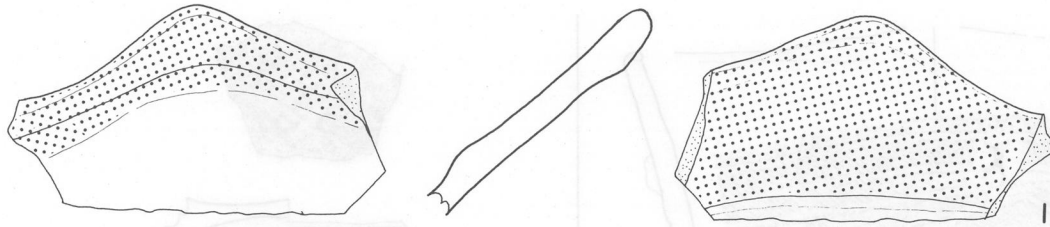
第223图 第788·789·790(1)号土坑出土遺物実測·拓影图



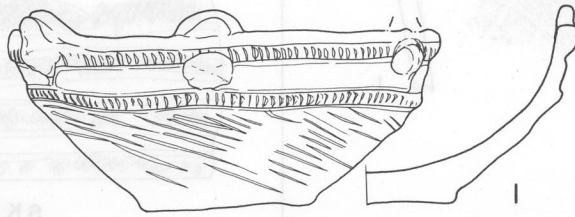
第224图 第790(2)·794·796号土坑出土遗物实测·拓影图



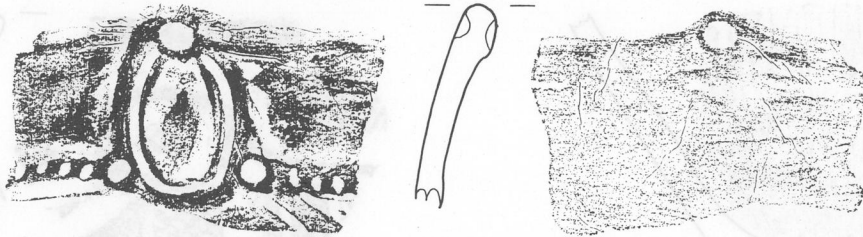
第225图 第801·808·817·821·822号土坑出土遗物实测·拓影图



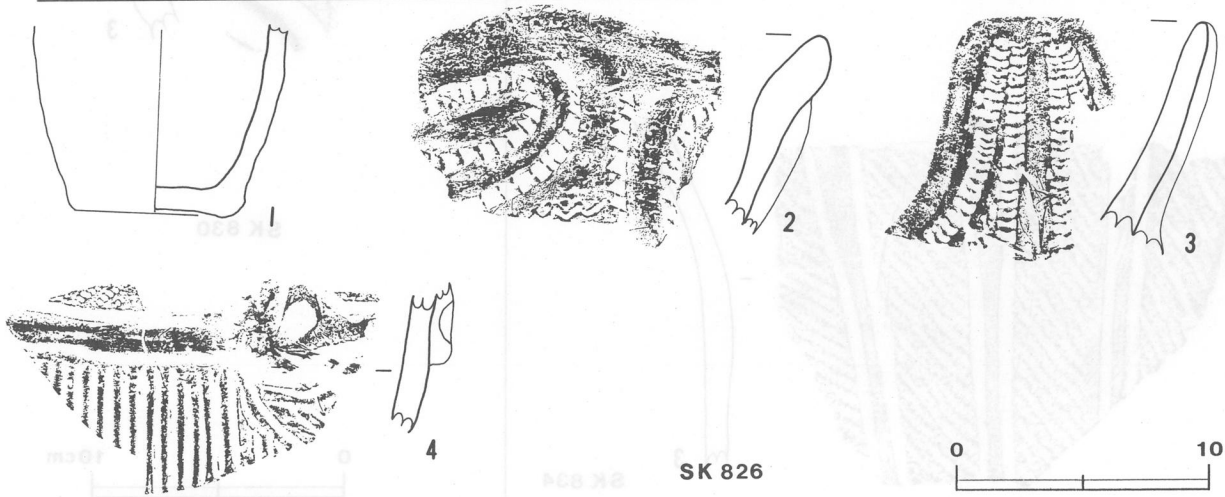
SK 823



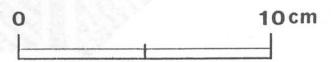
SK 824



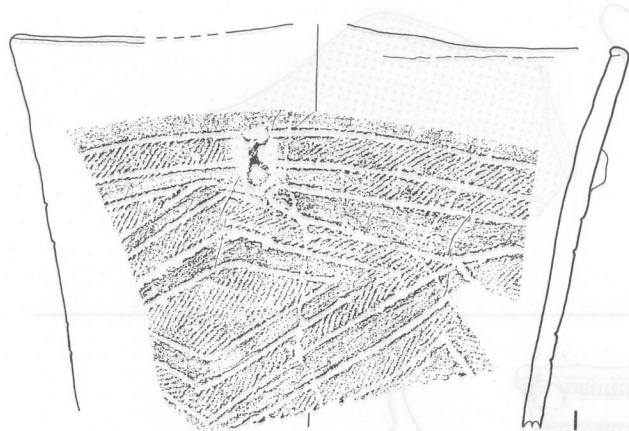
SK 825



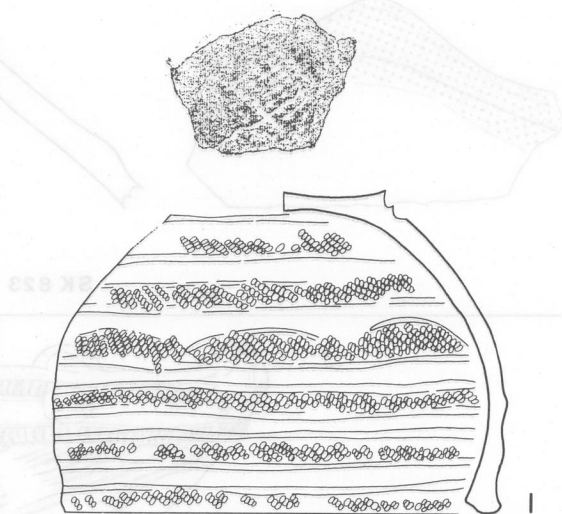
SK 826



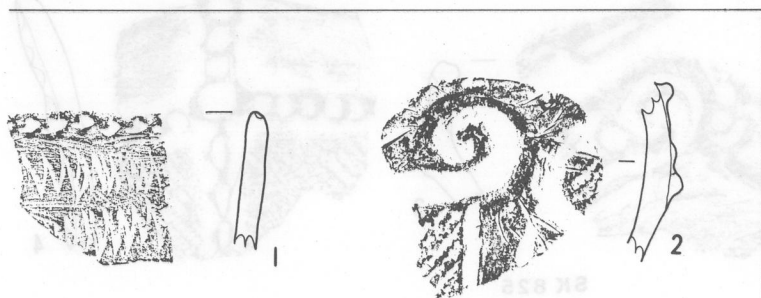
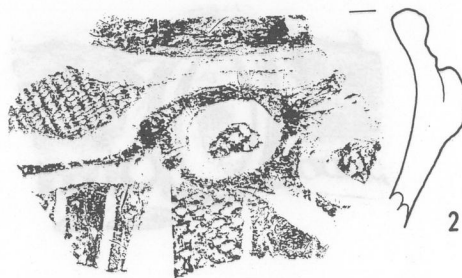
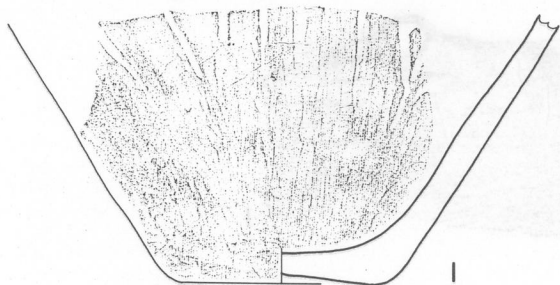
第226图 第823·824·825·826号土坑出土遗物实测·拓影图



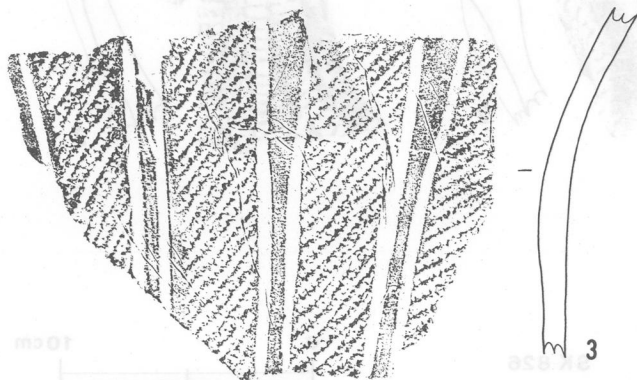
SK 827



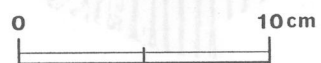
SK 828



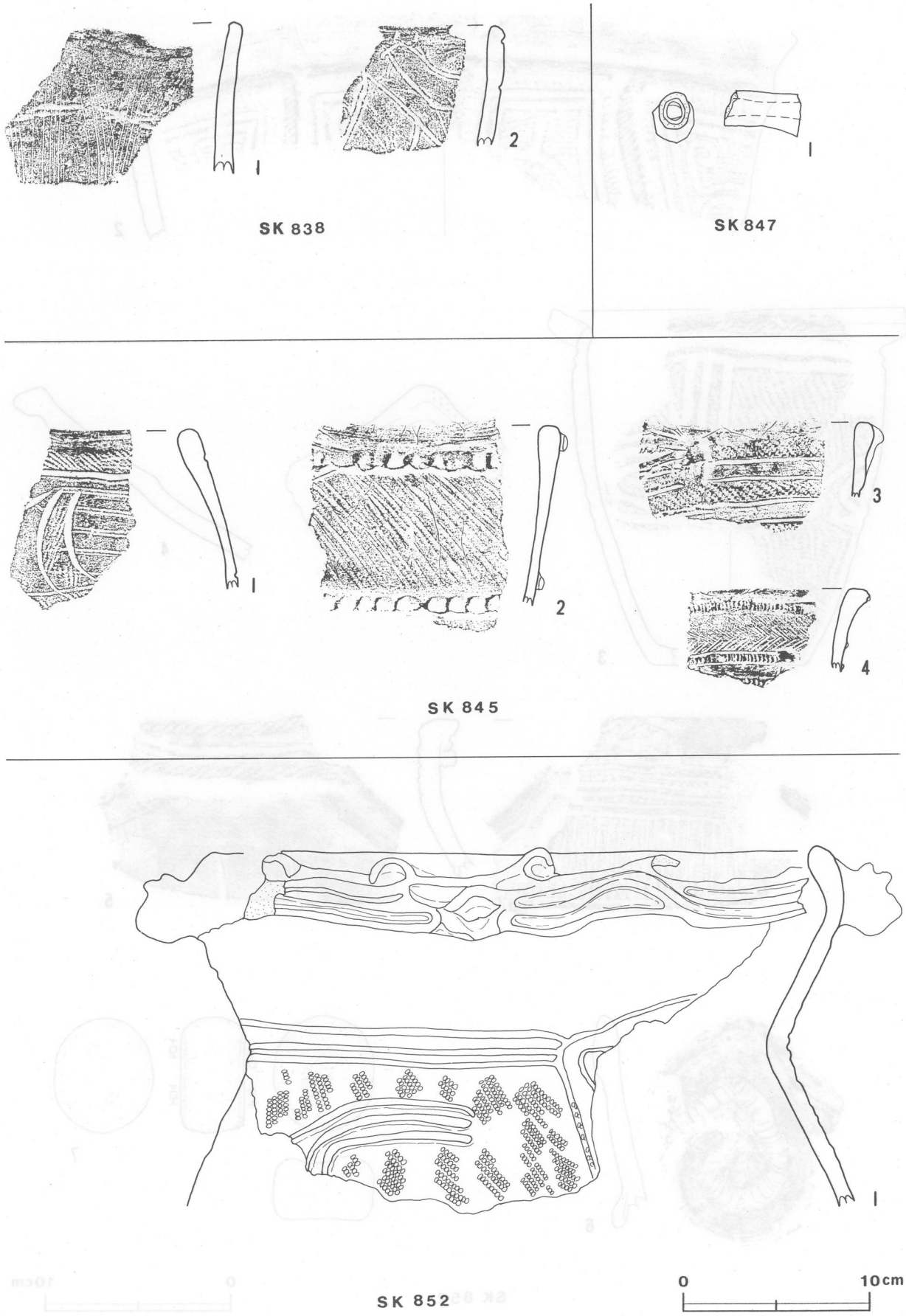
SK 830



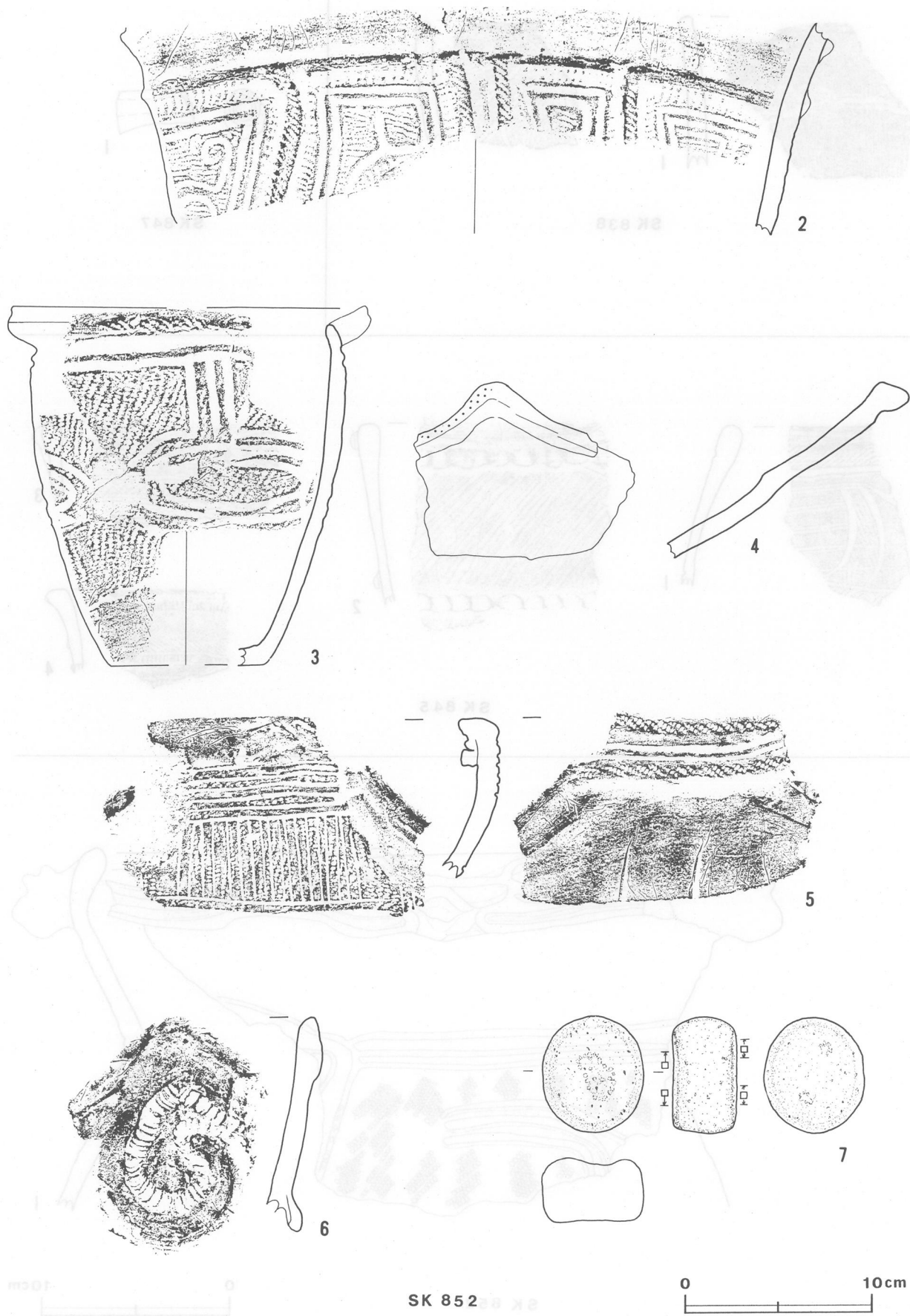
SK 834



第227图 第827·828·830·834号土坑出土遺物実測・拓影图



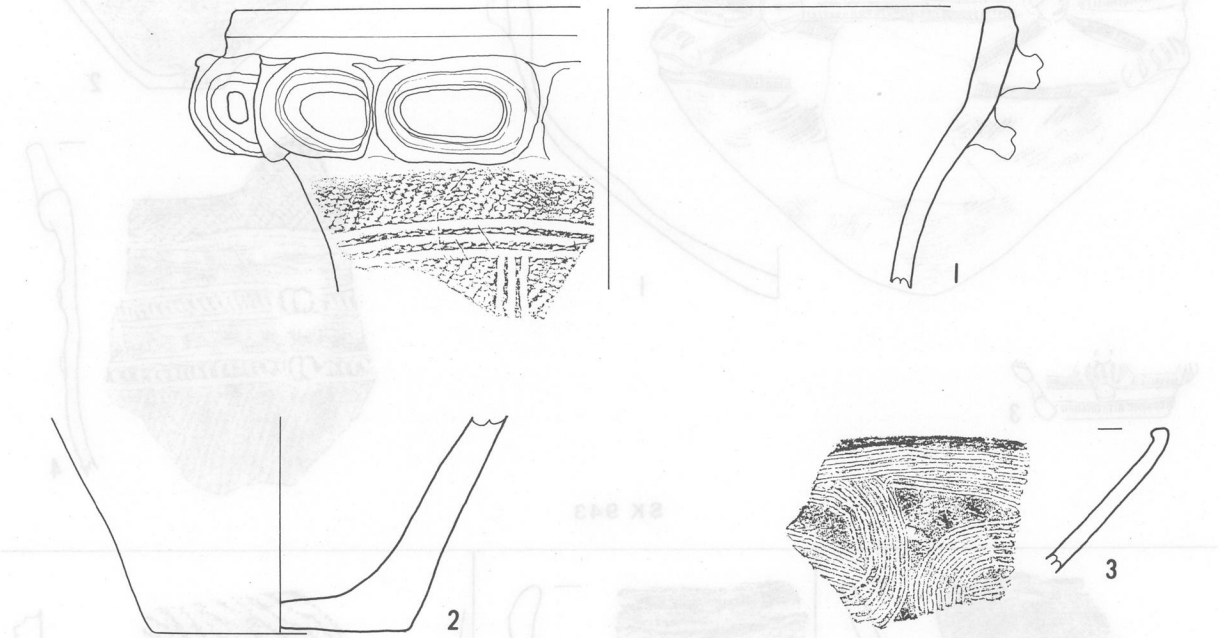
第228图 第838・845・847・852(1)号土坑出土遺物実測・拓影图



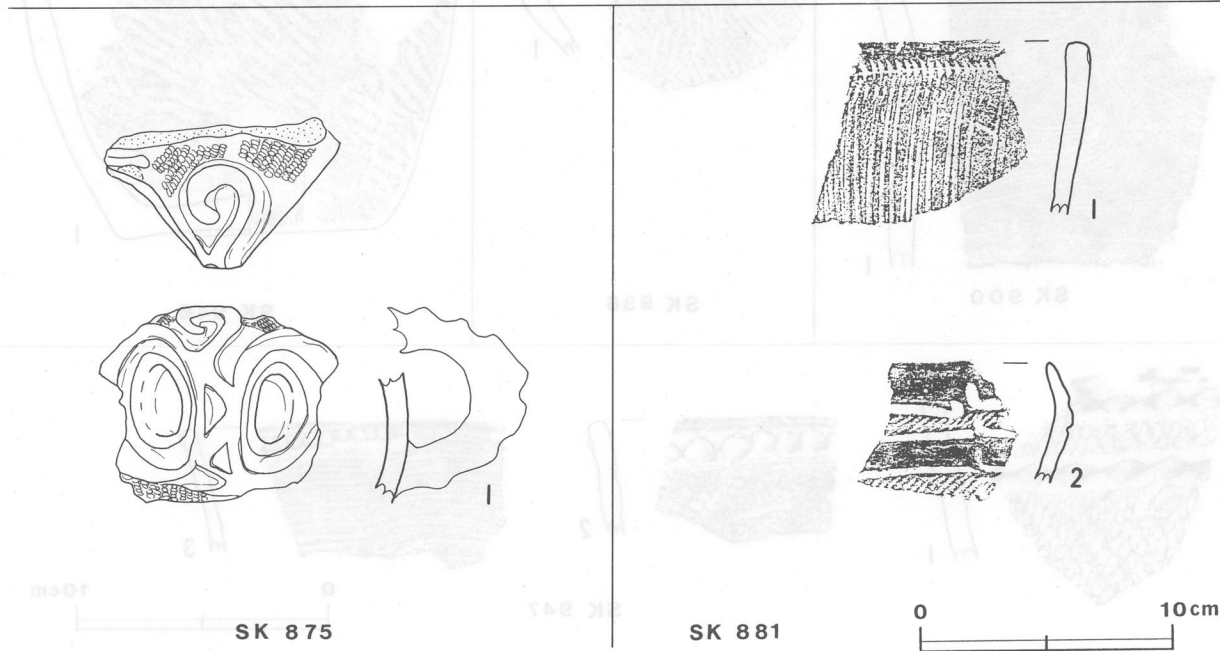
第229图 第852号土坑出土遗物实测·拓影图(2)



SK 854



SK 859

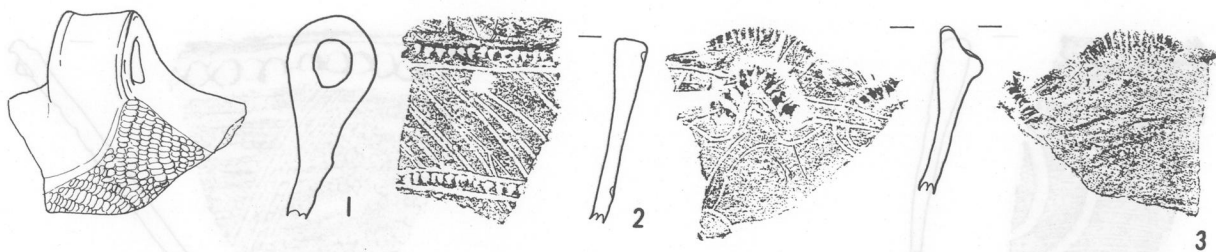


SK 875

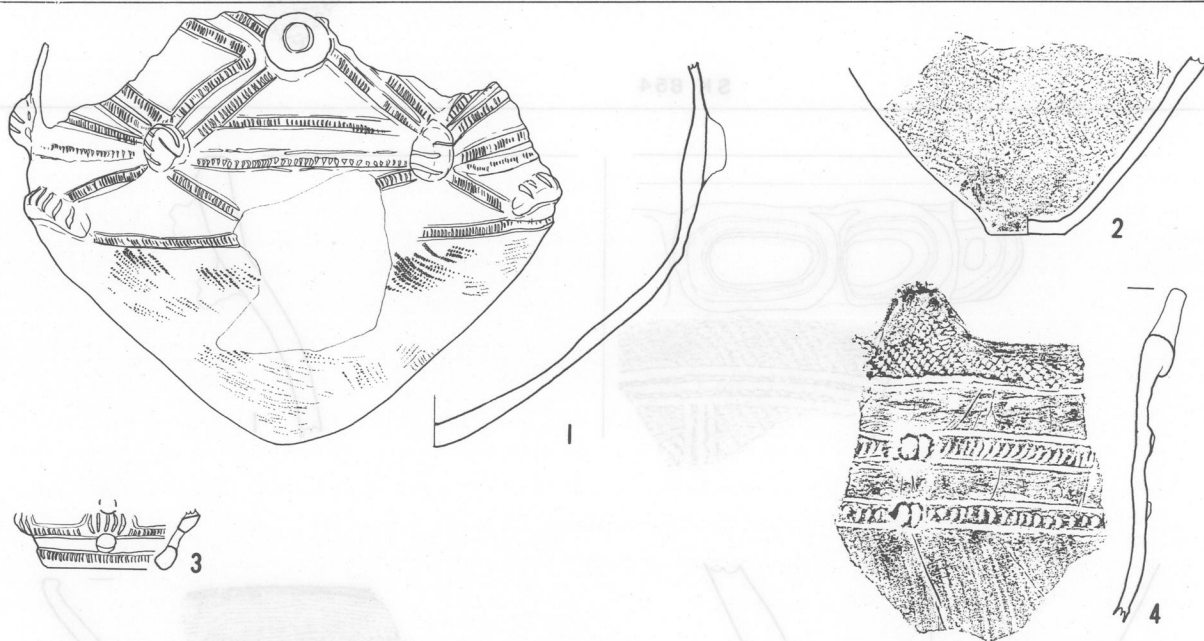
SK 881

0 10cm

第230图 第854・859・875・881号土坑出土遺物実測・拓影图



SK 886



SK 943



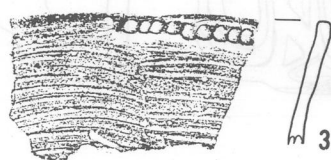
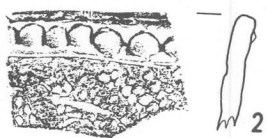
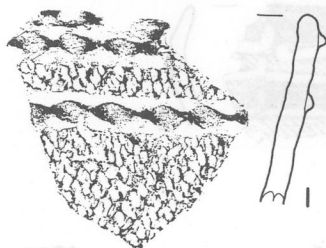
SK 900



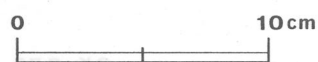
SK 938



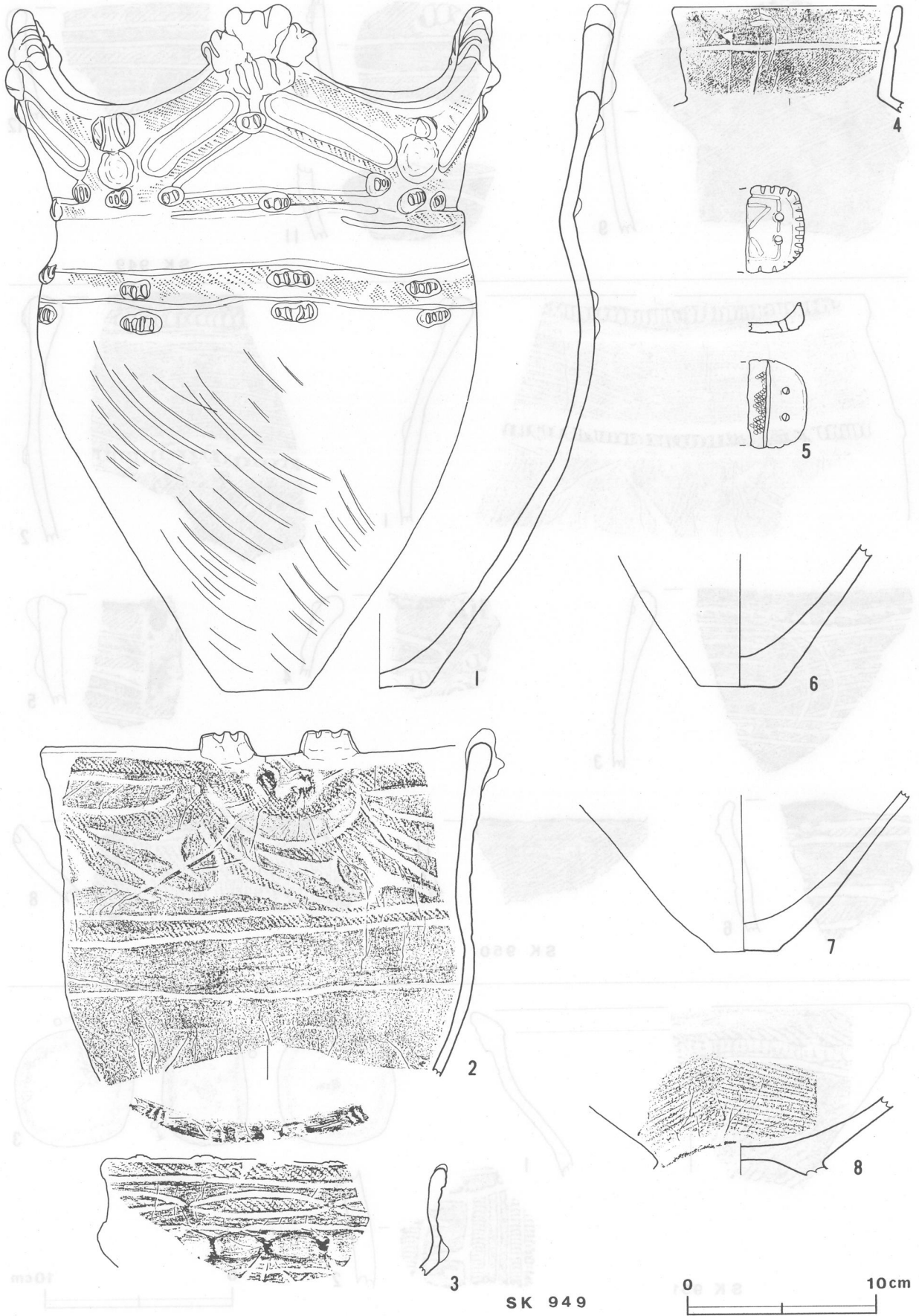
SK 946



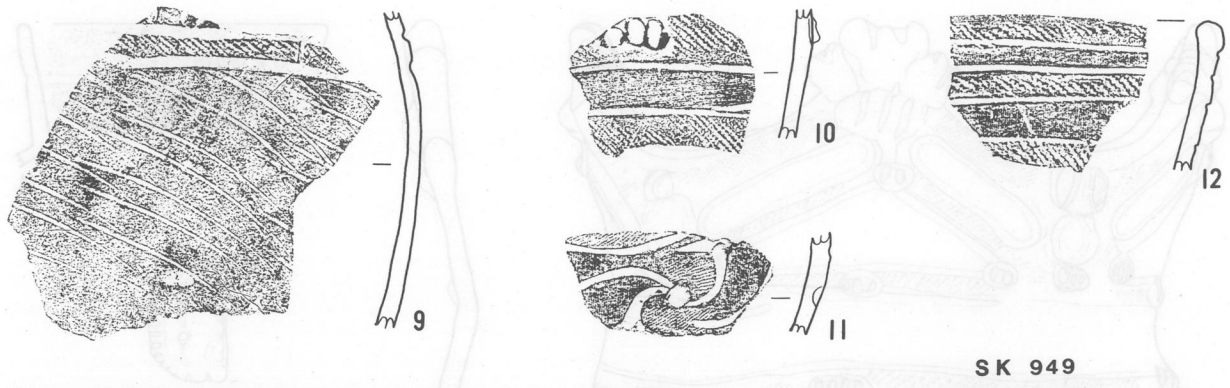
SK 947



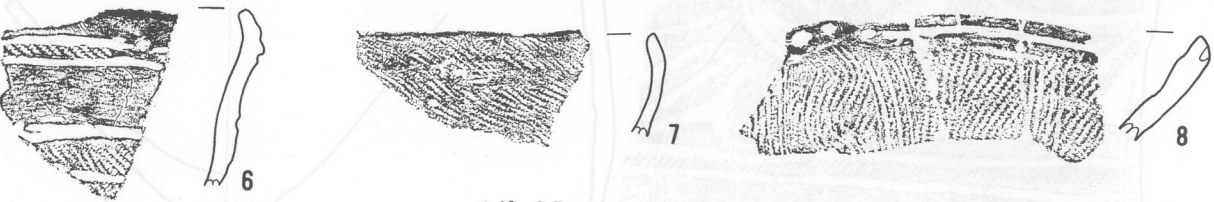
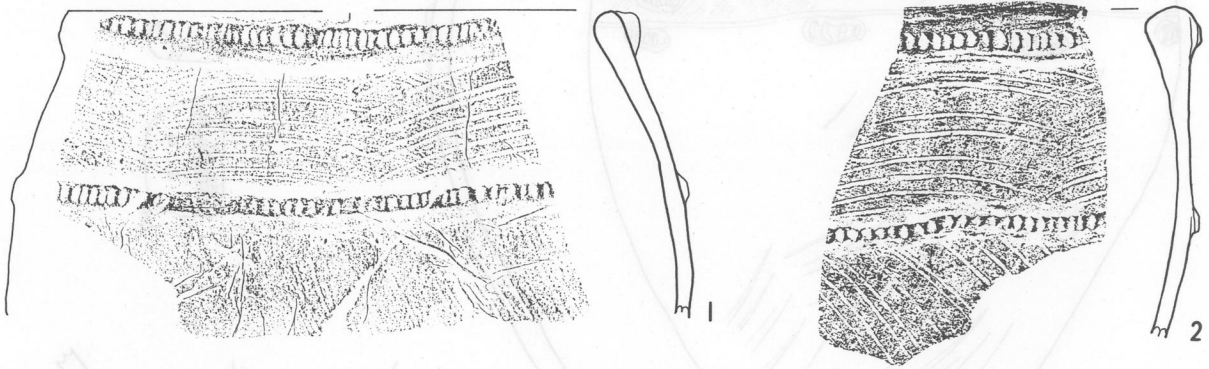
第231图 第886·900·938·943·946·947号土坑出土遗物实测·拓影图



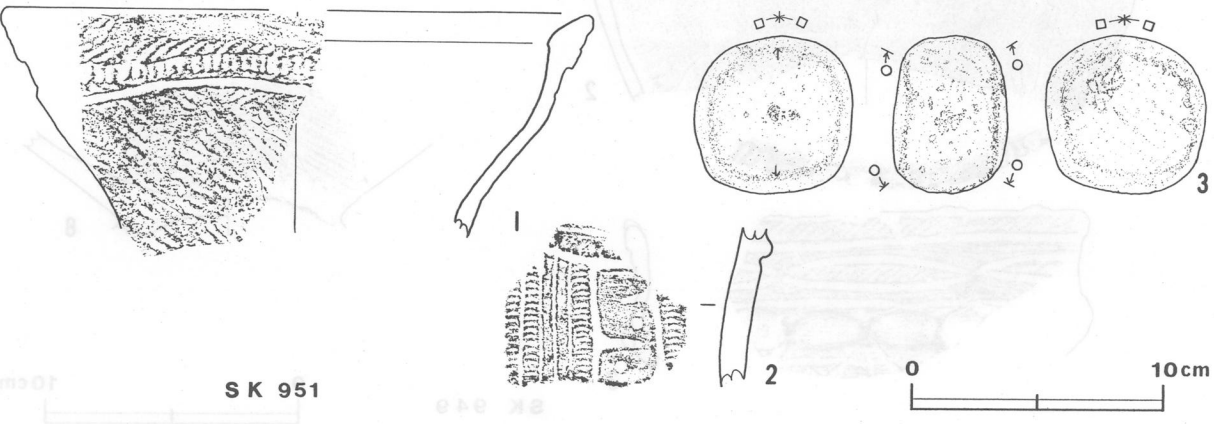
第232图 第949号土坑出土遗物实测·拓影图(1)



SK 949



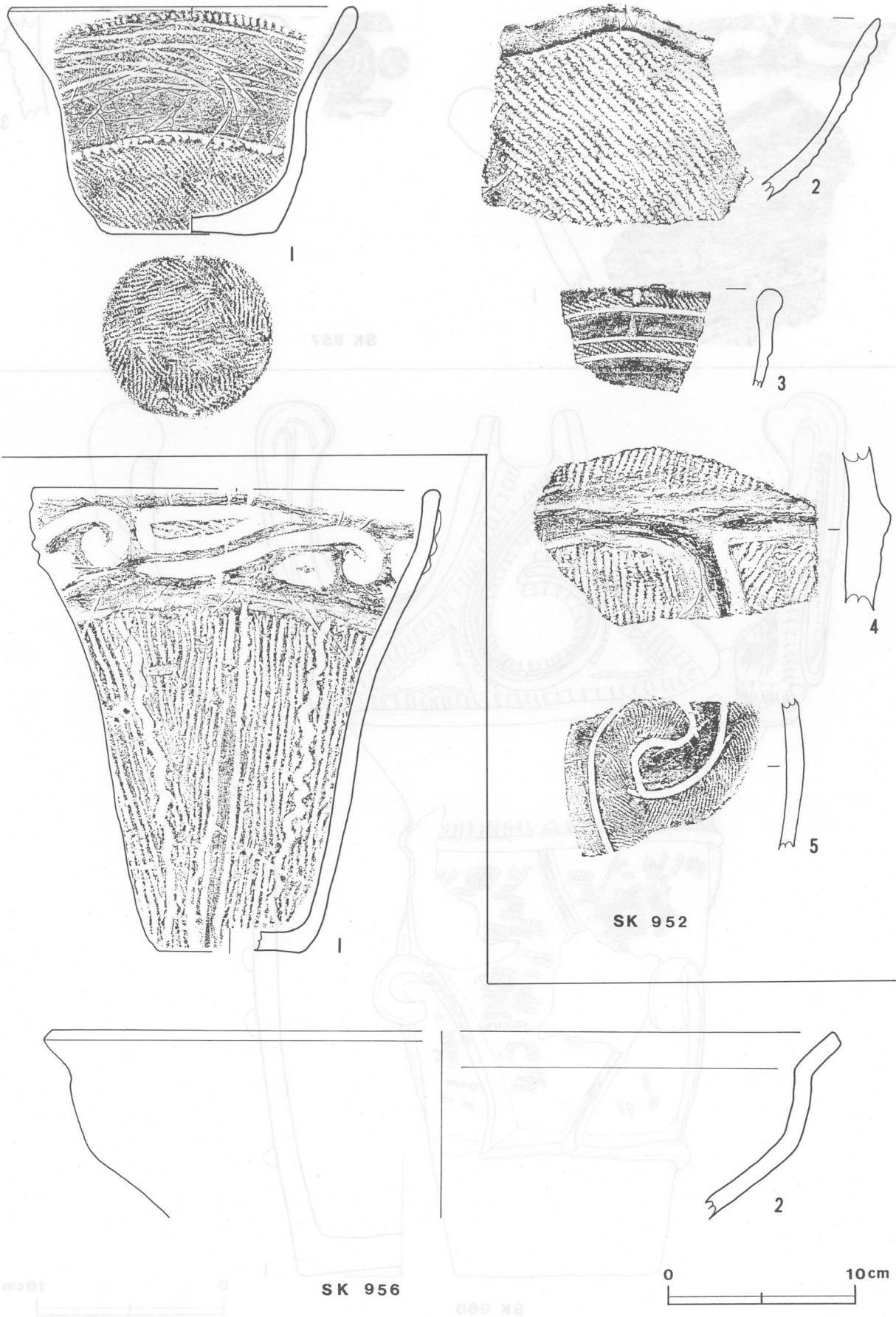
SK 950



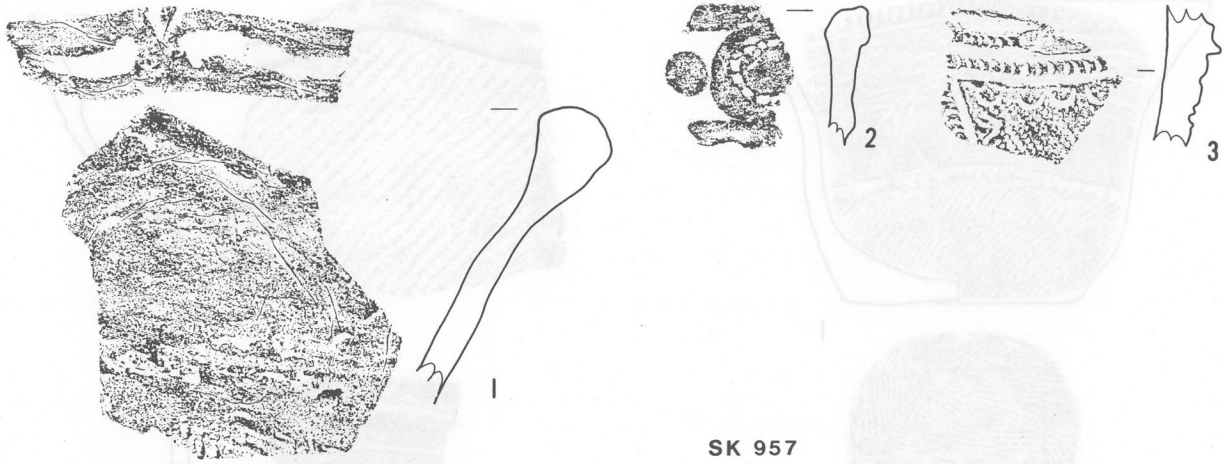
SK 951

0 10cm

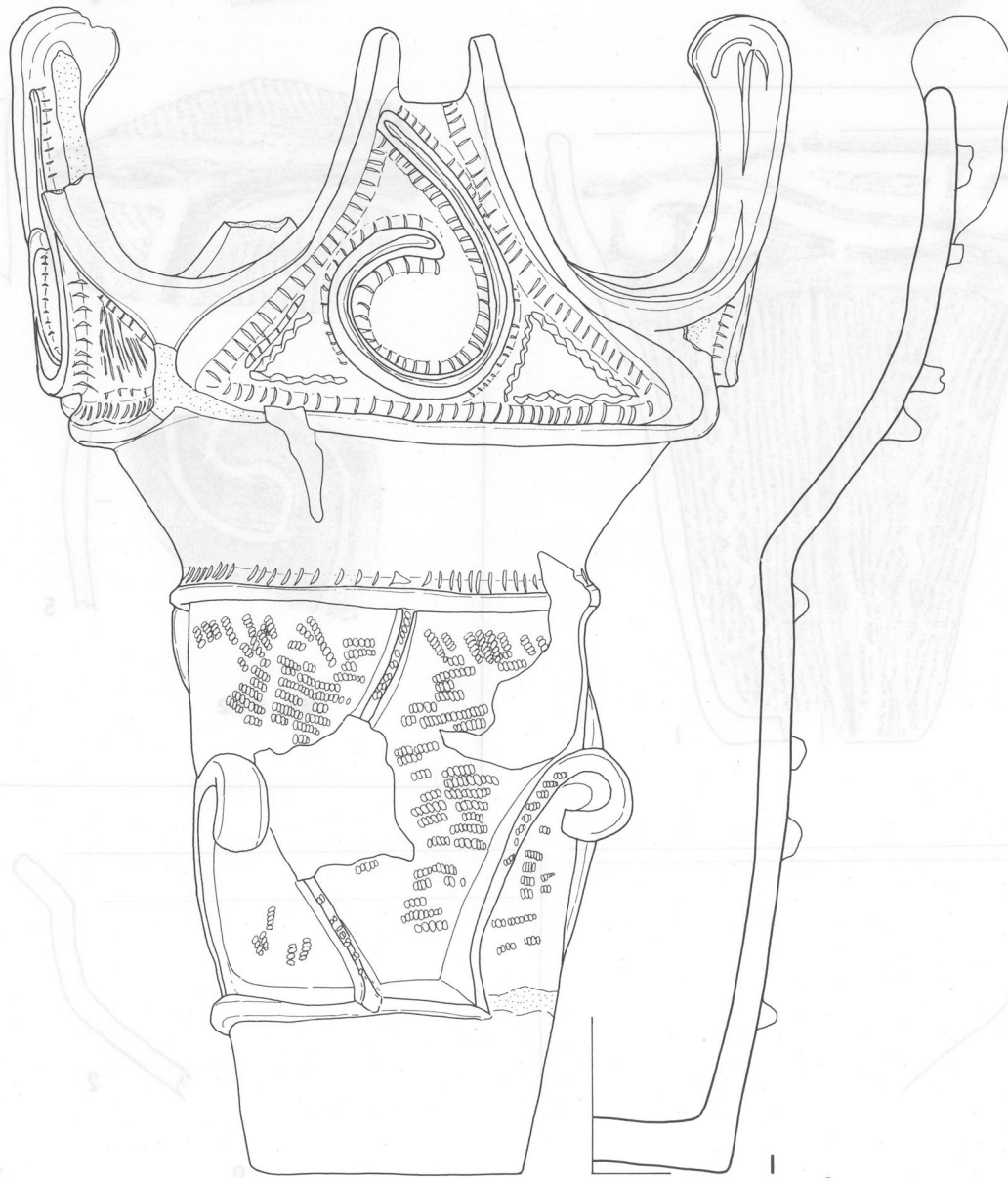
第233图 第949(2)·950·951号土坑出土遗物实测·拓影图



第234图 第952·956号土坑出土遺物実測・拓影图



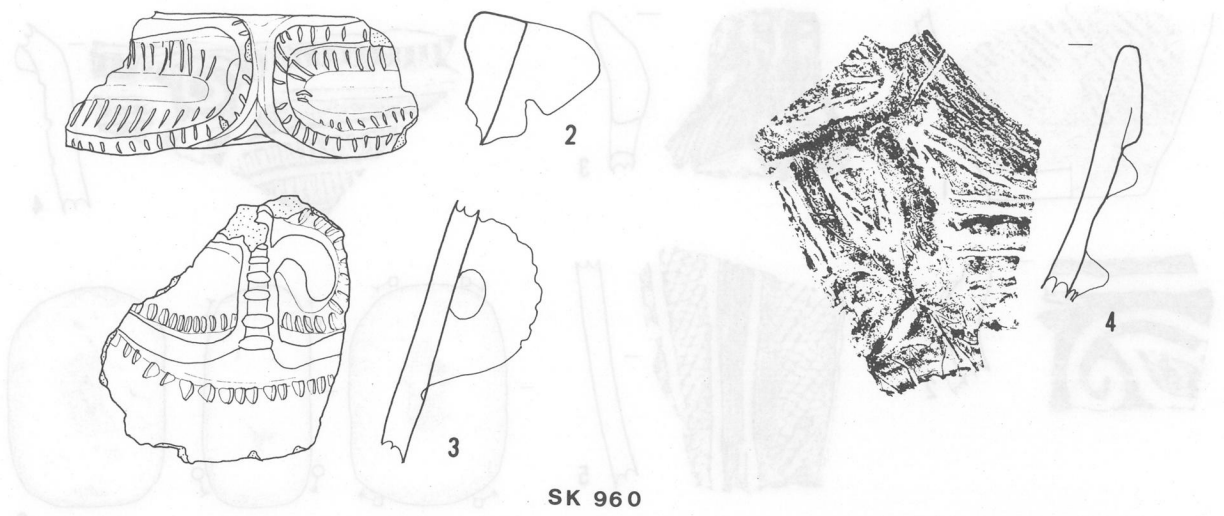
SK 957



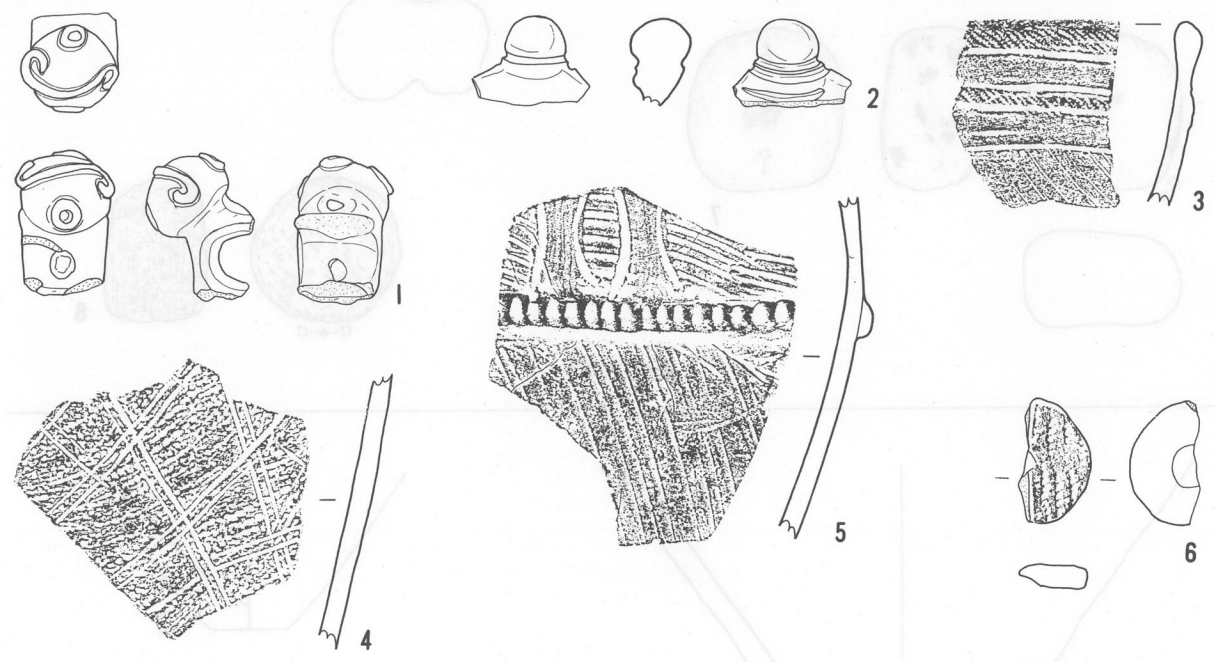
SK 960

0 10cm

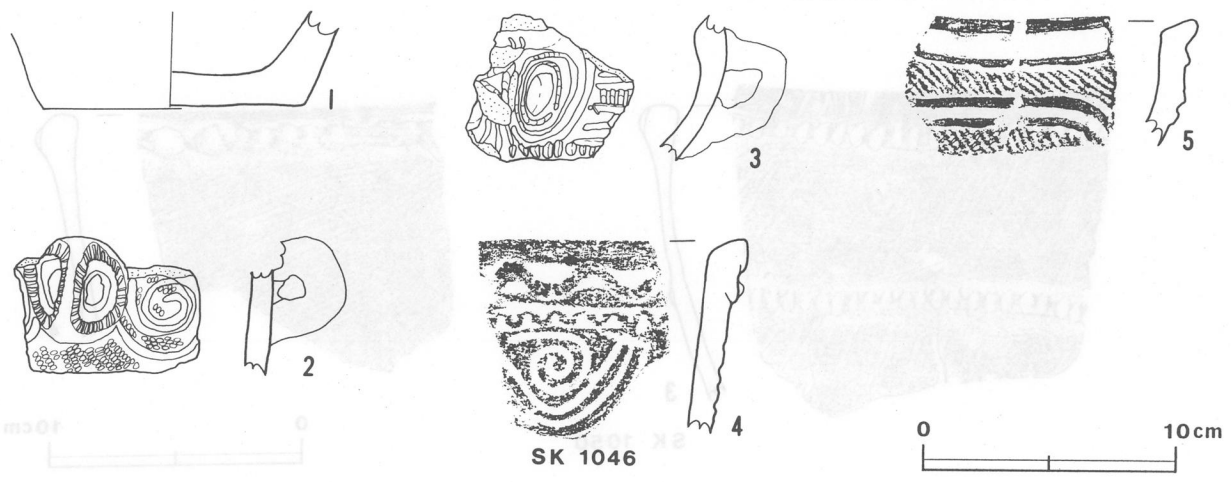
第235图 第957·960(1)号土坑出土遗物实测·拓影图



SK 960

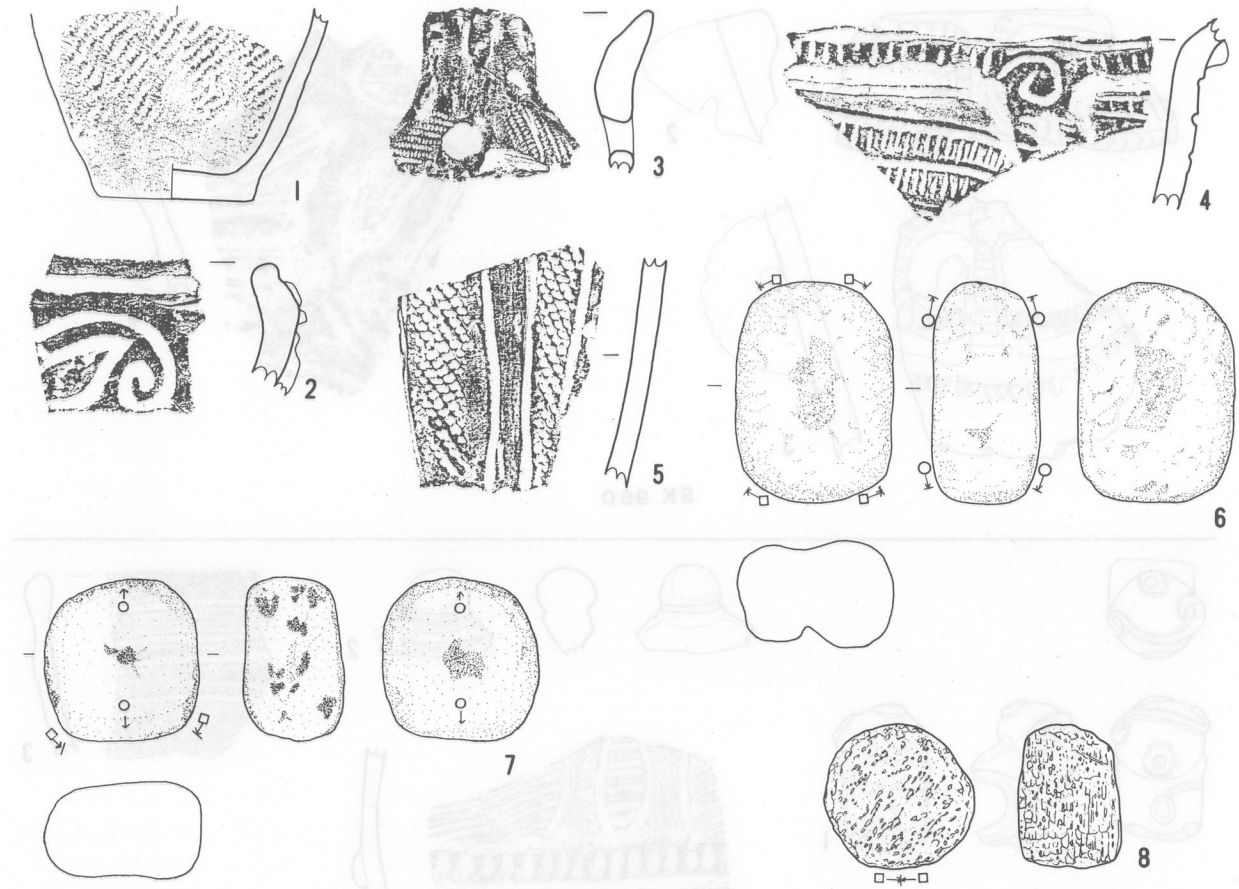


SK 1044

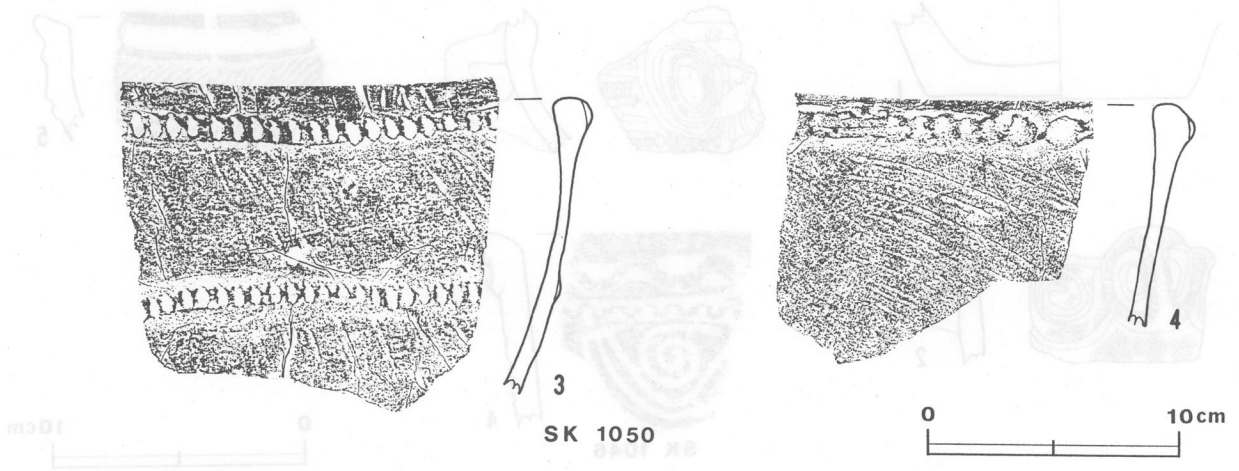
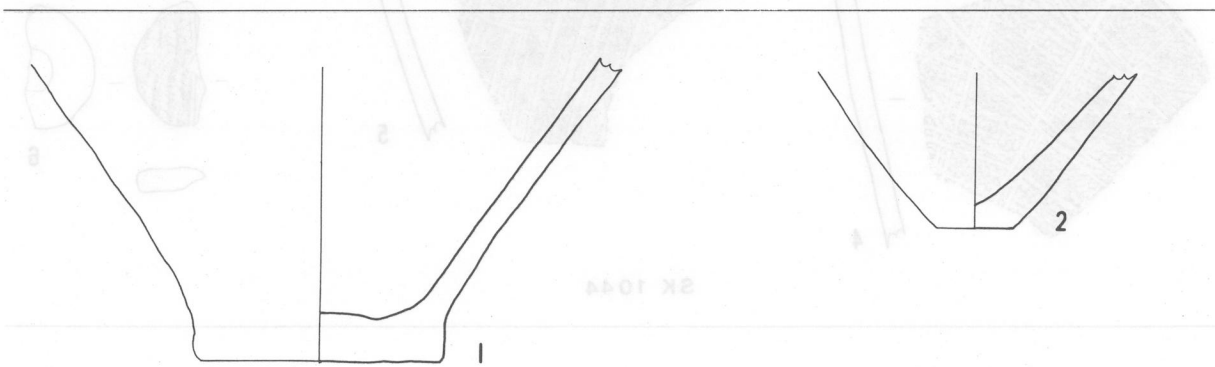


SK 1046

第236图 第960(2)·1044·1046号土坑出土遺物実測・拓影图

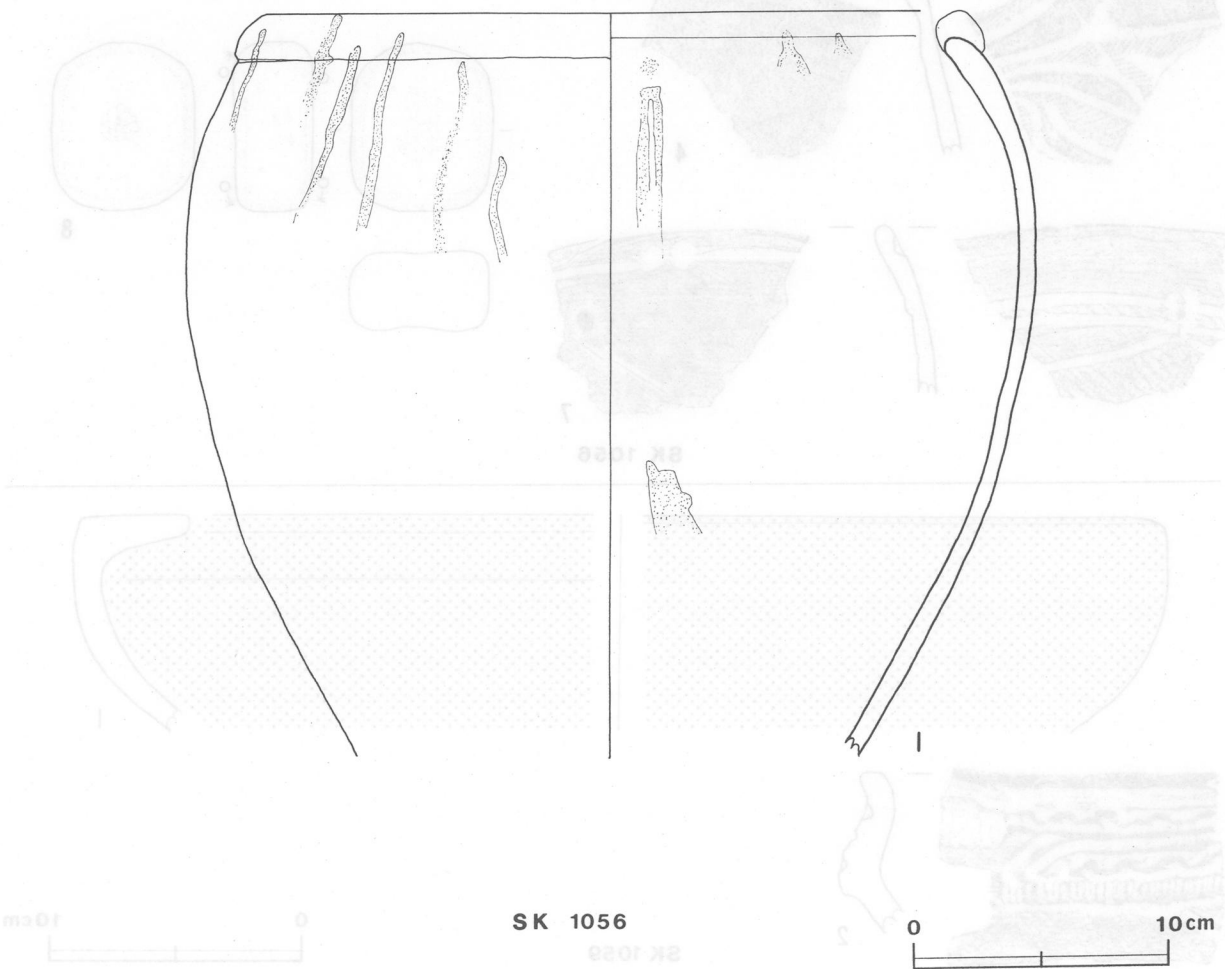
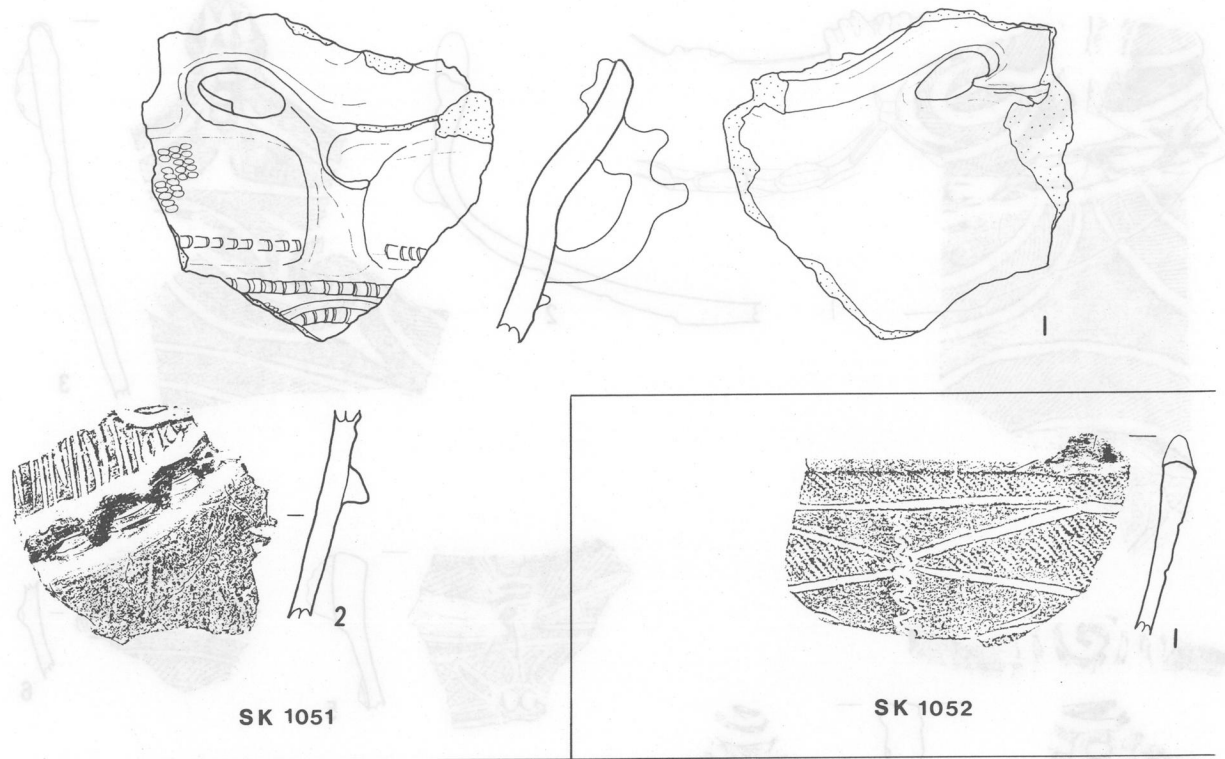


SK 1047

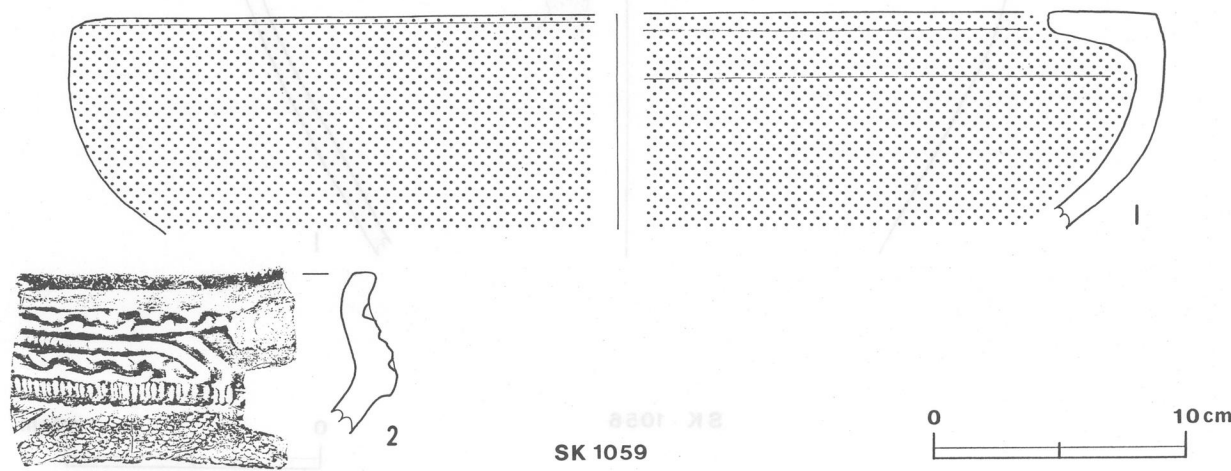
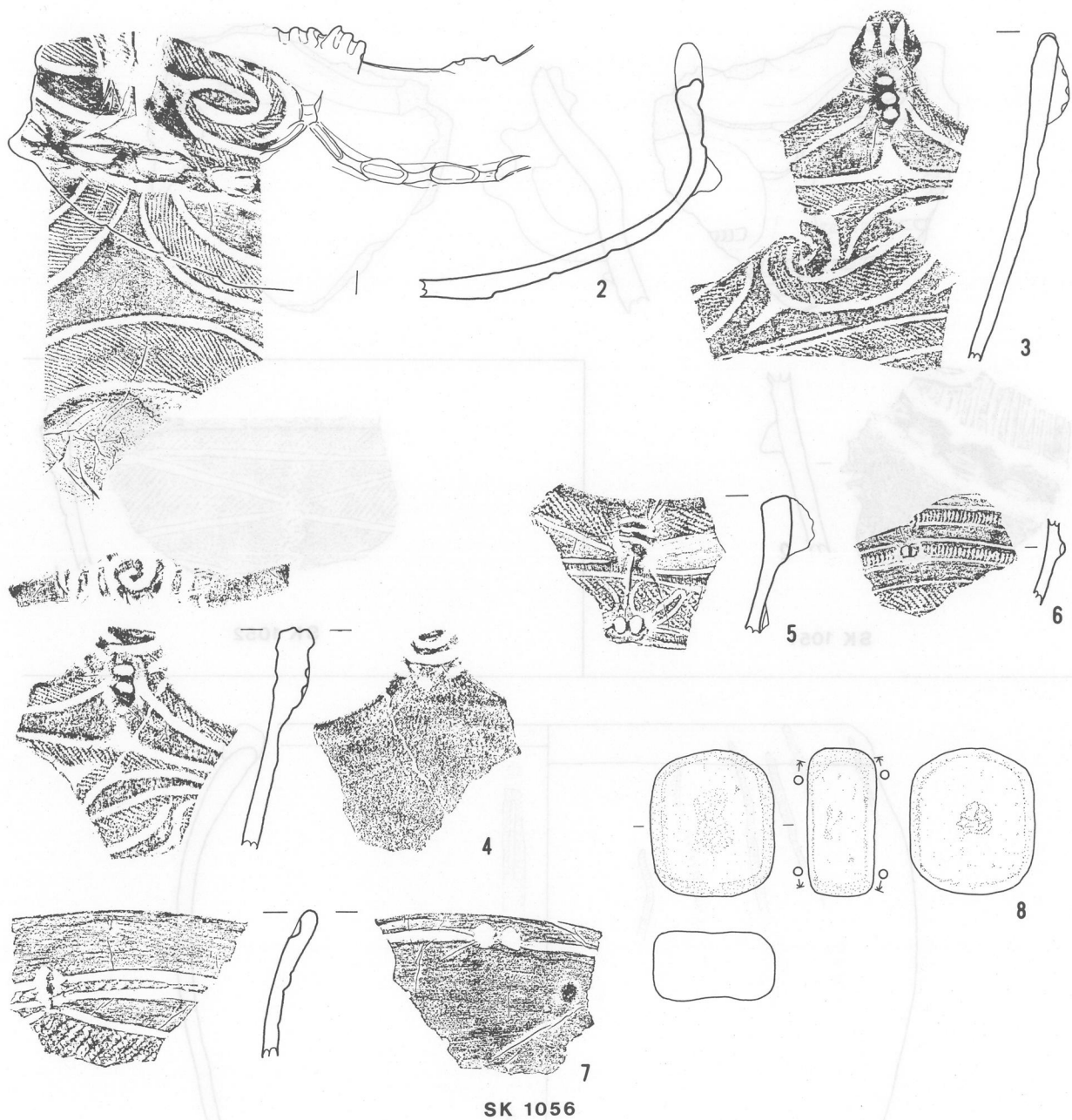


SK 1050

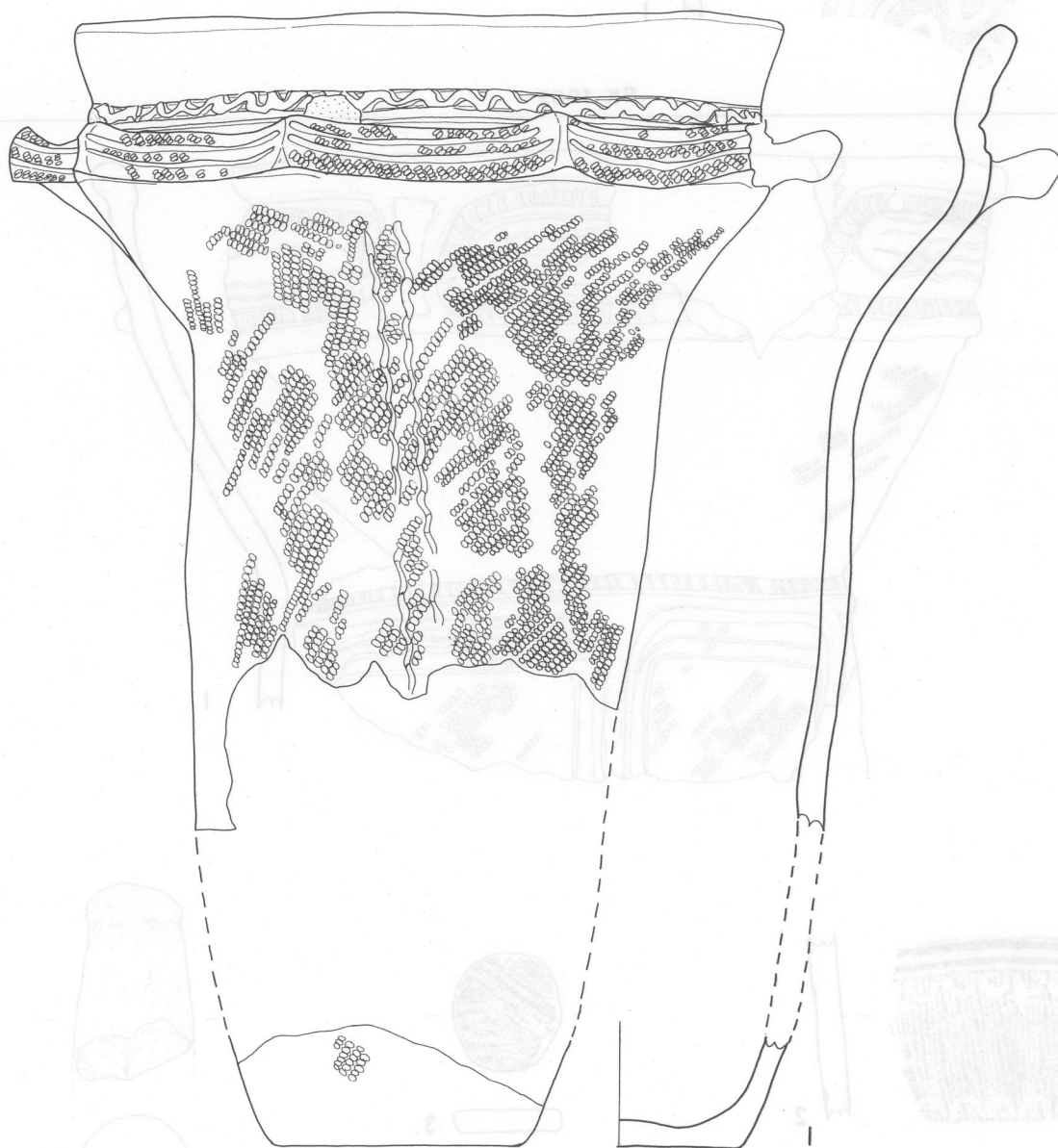
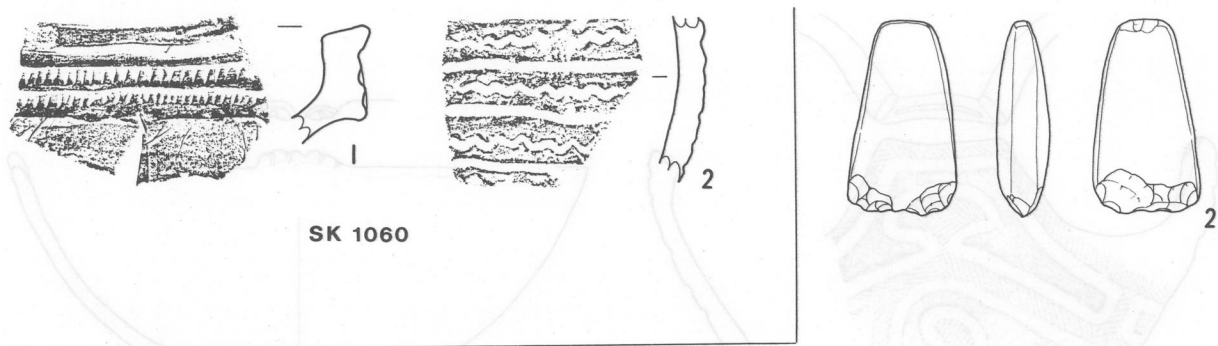
第237图 第1047・1050号土坑出土遺物実測・拓影图



第238図 第1051・1052・1056(1)号土坑出土遺物実測・拓影図



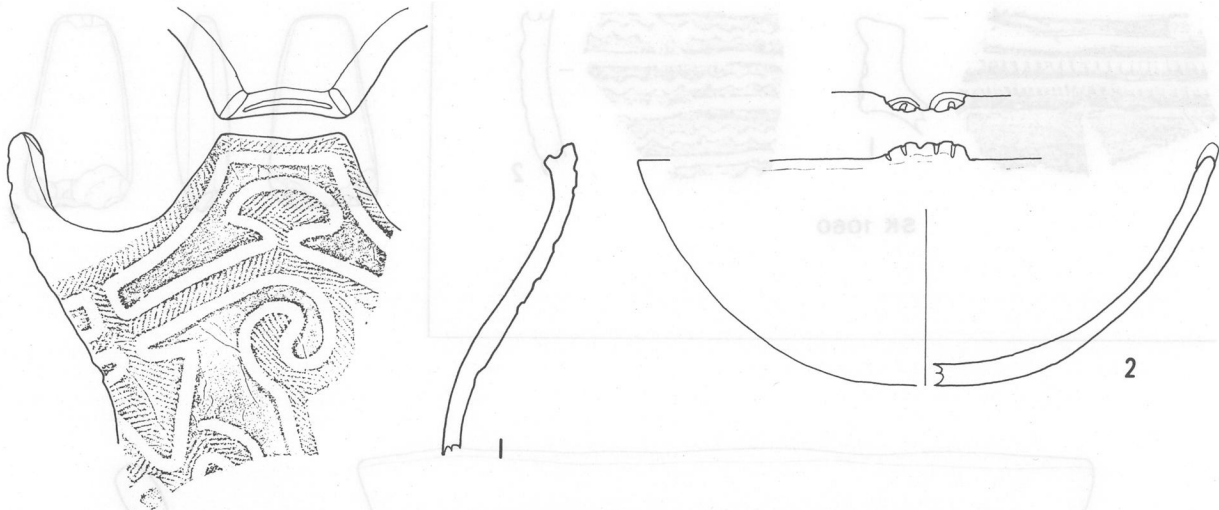
第239图 第1056(2)·1059号土坑出土遗物实测·拓影图



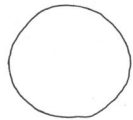
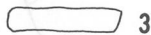
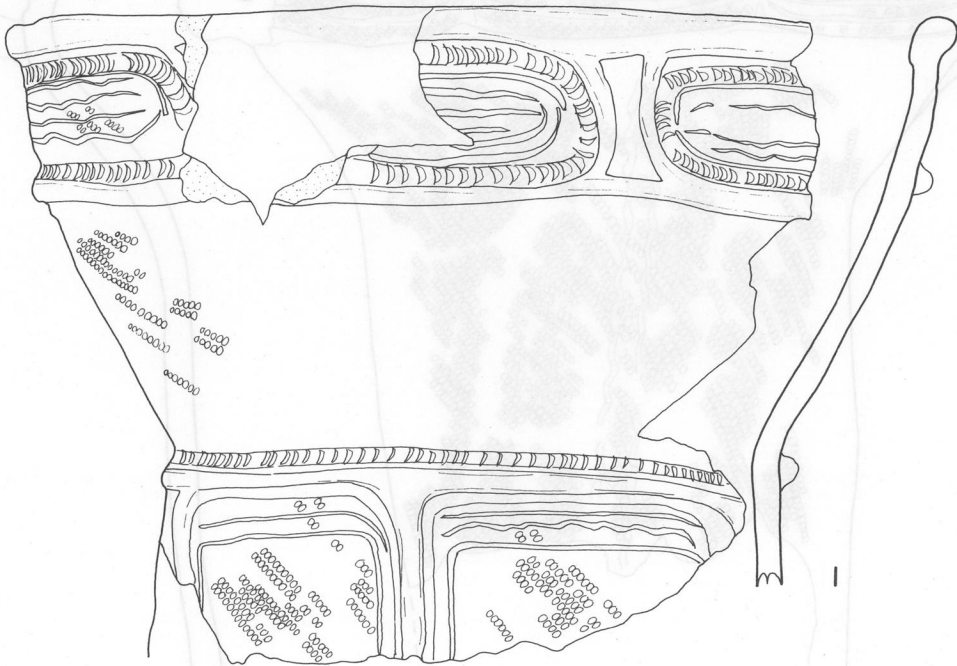
SK 1061



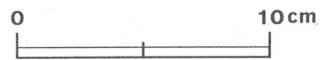
第240图 第1060・1061号土坑出土遗物实测·拓影图



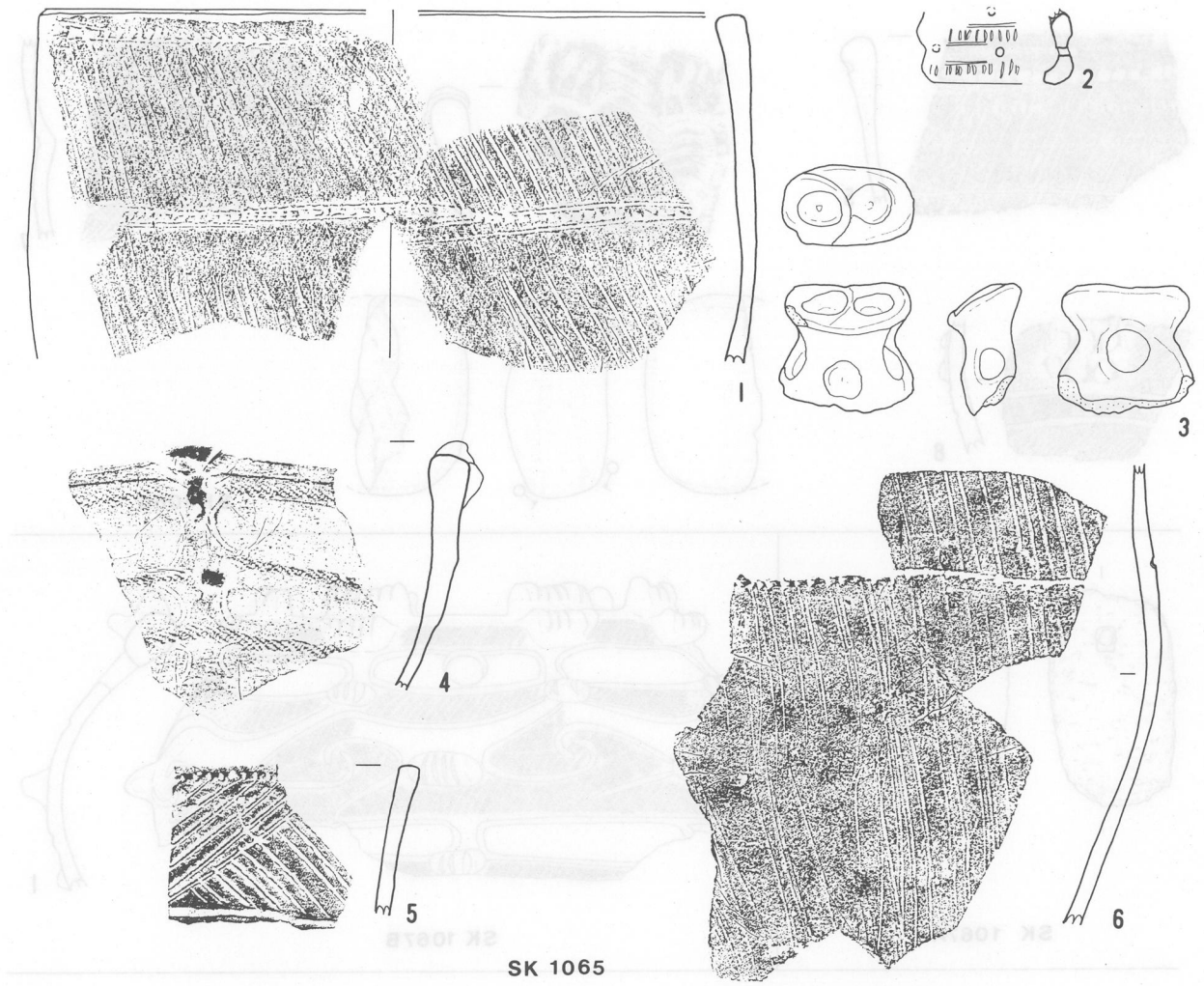
SK 1062



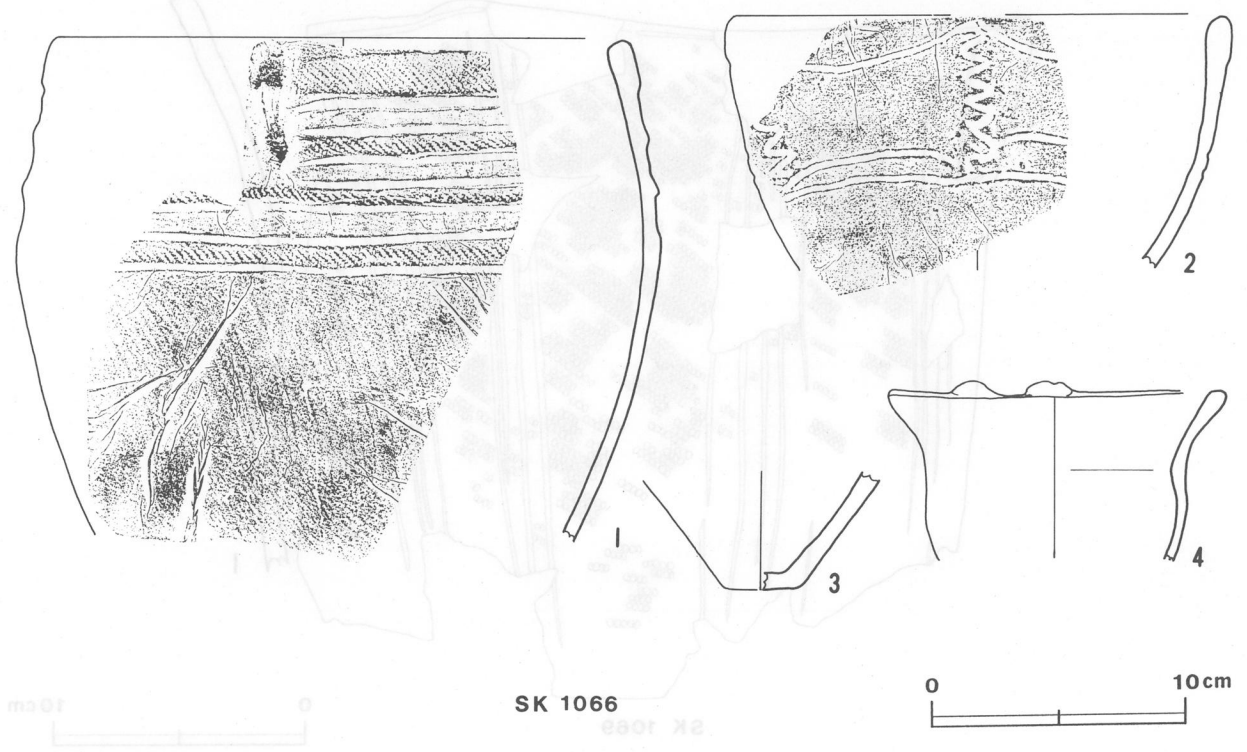
SK 1063



第241图 第1062·1063号土坑出土遗物实测·拓影图

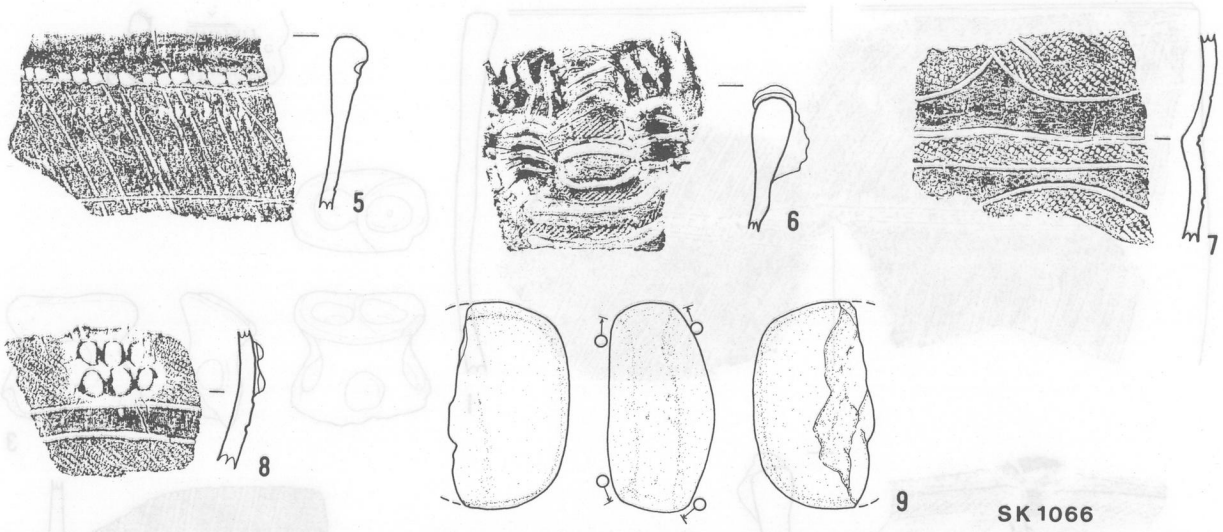


SK 1065

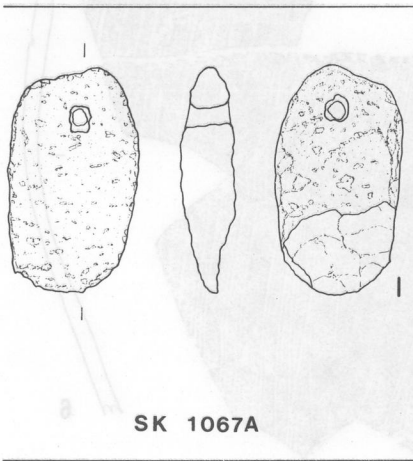


SK 1066

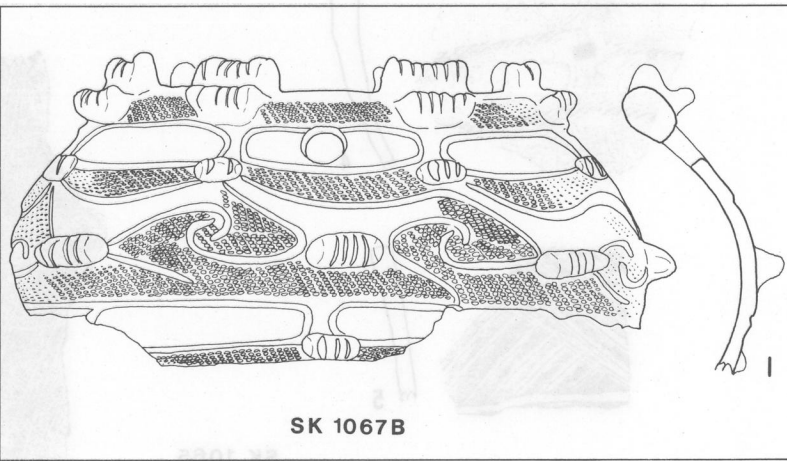
第242図 第1065・1066(1)号土坑出土遺物実測・拓影図



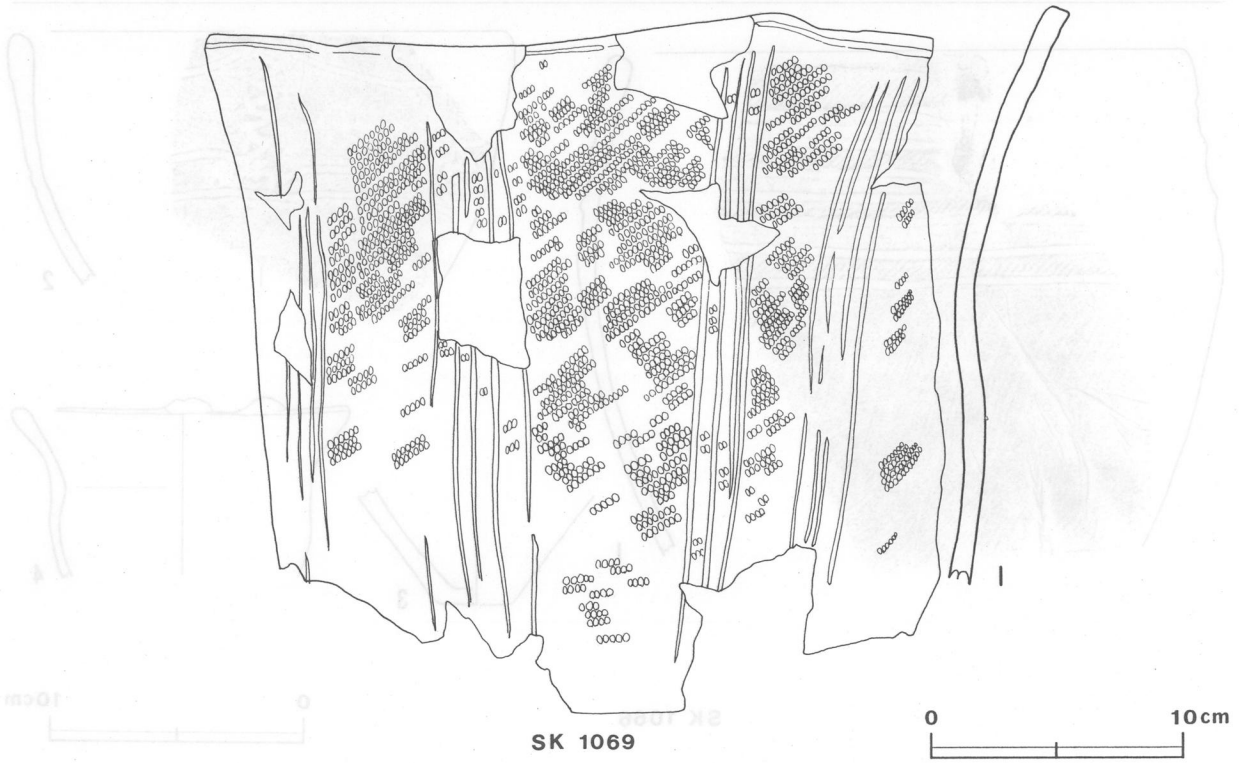
SK 1066



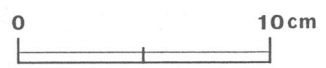
SK 1067A



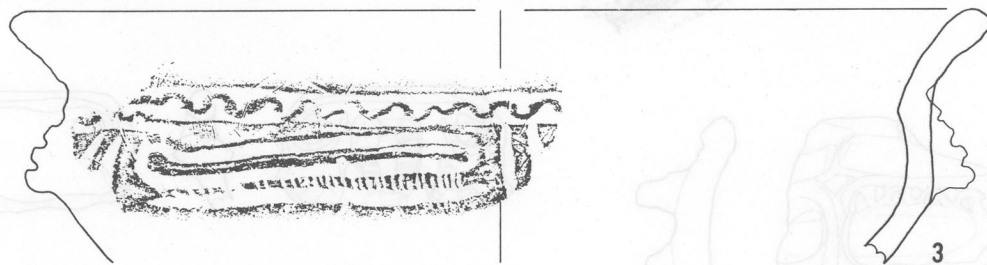
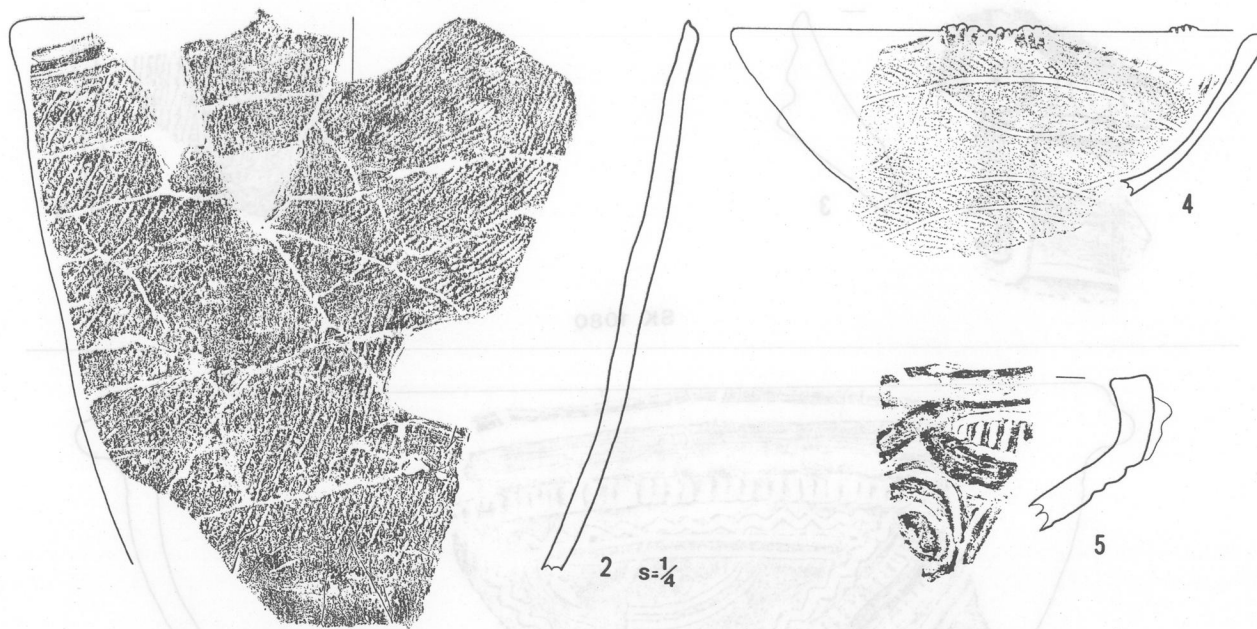
SK 1067B



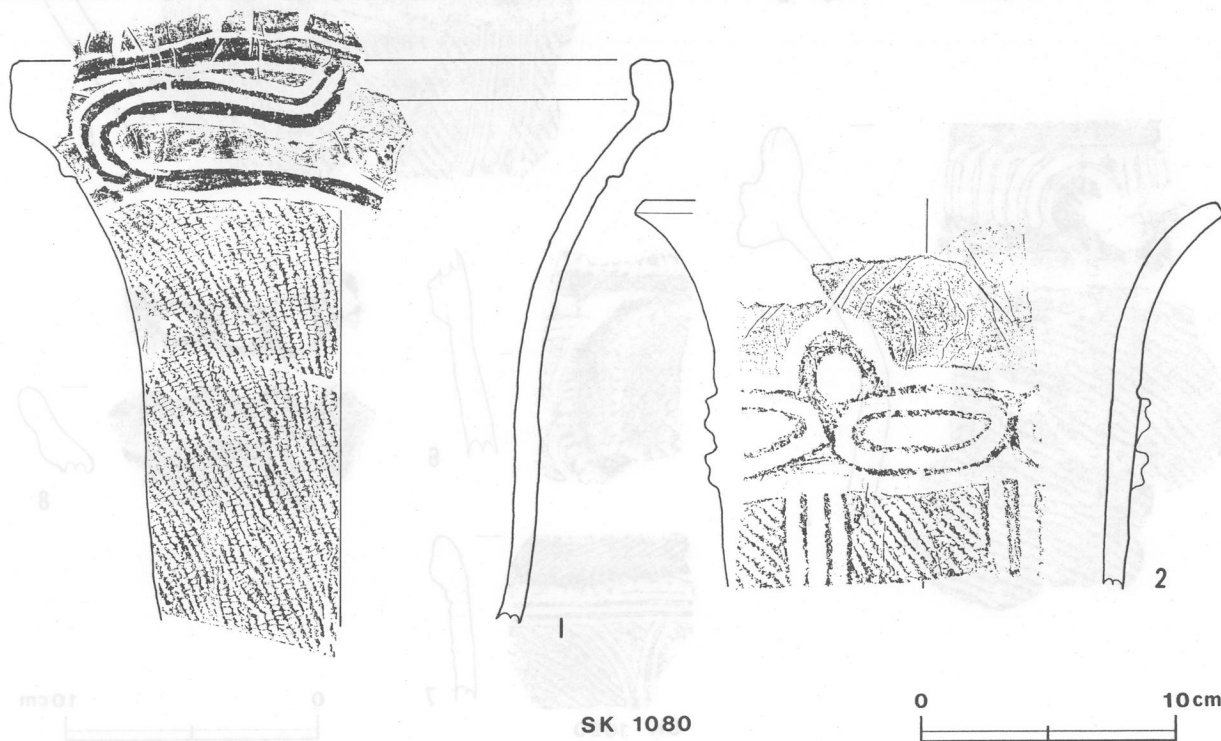
SK 1069



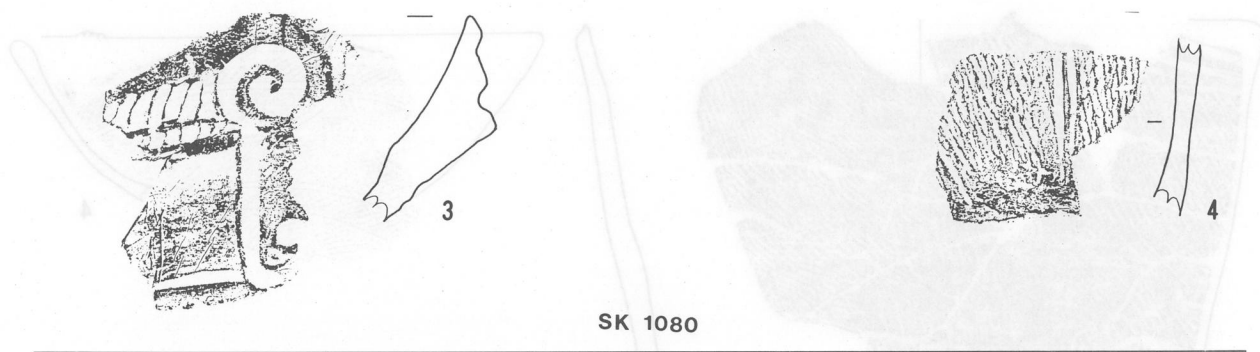
第243图 第1066(2)・1067A・1067B・1069(1)号土坑出土遺物実測・拓影图



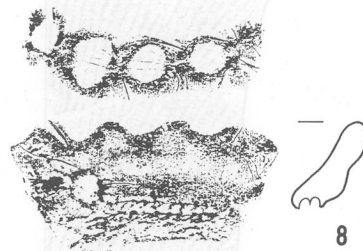
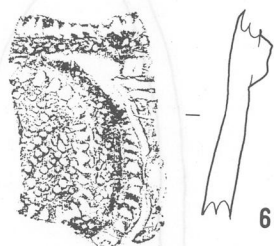
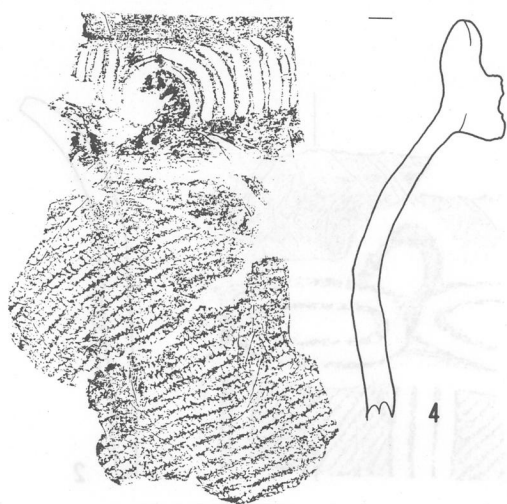
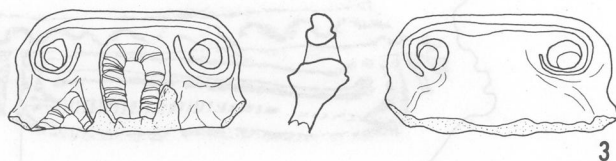
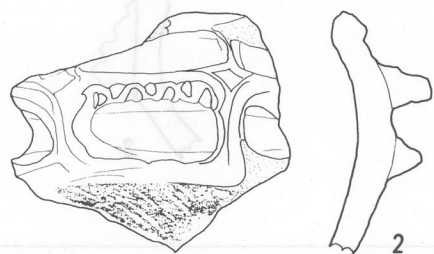
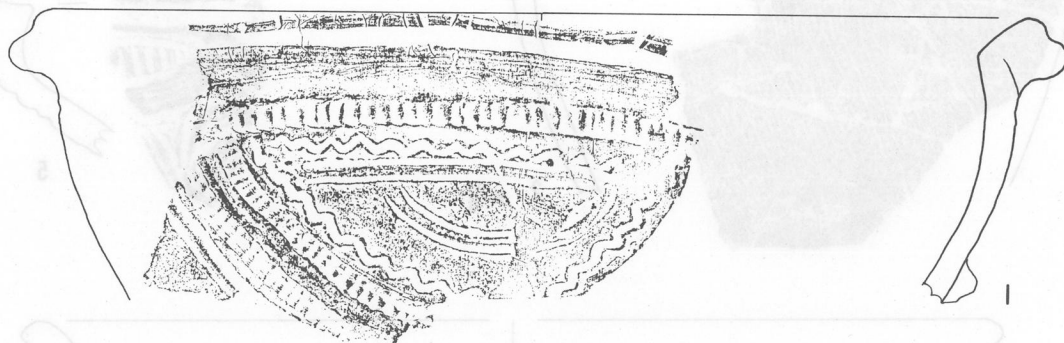
SK 1069



第244图 第1069(2)·1080(1)号土坑出土遗物实测·拓影图



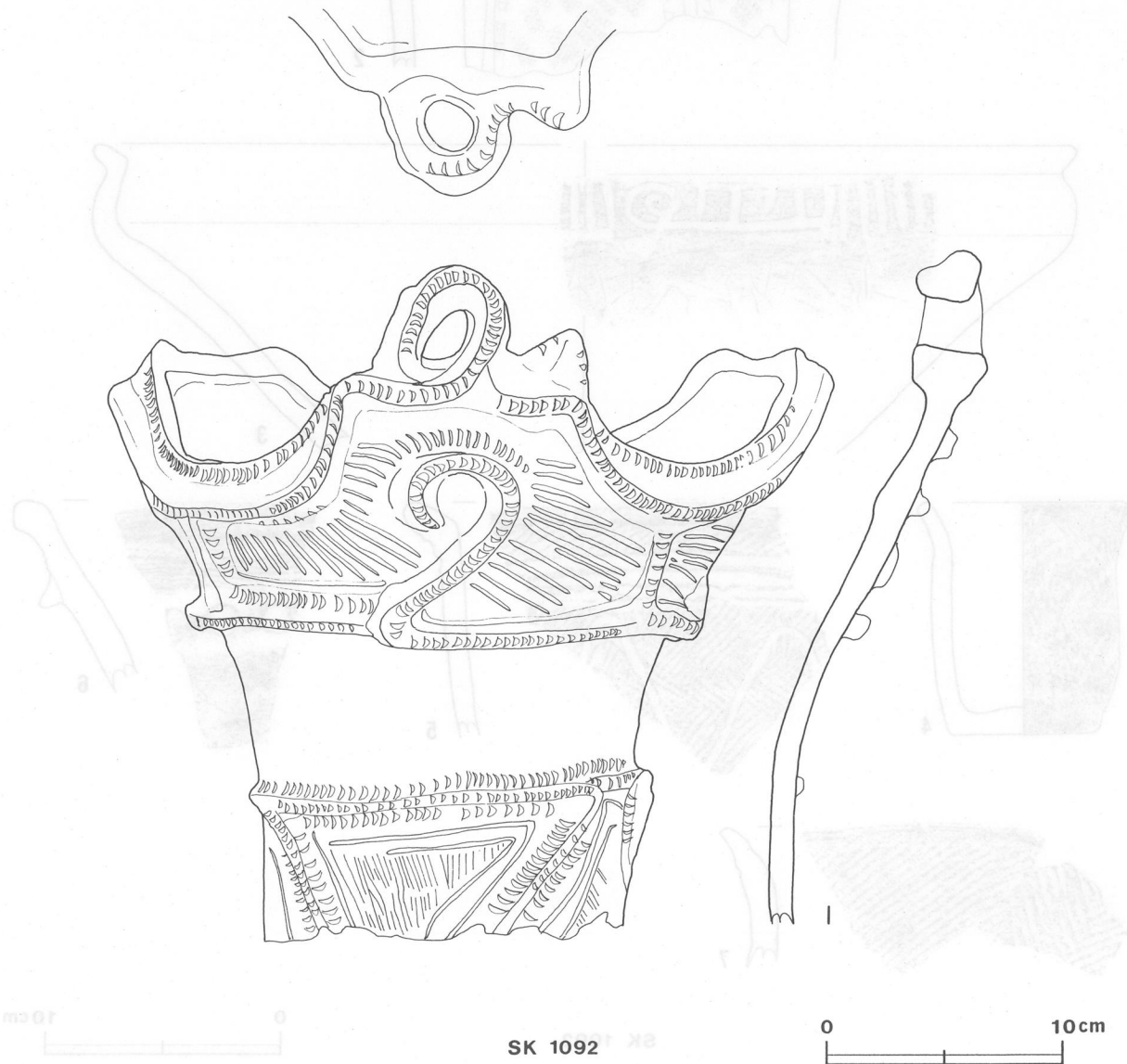
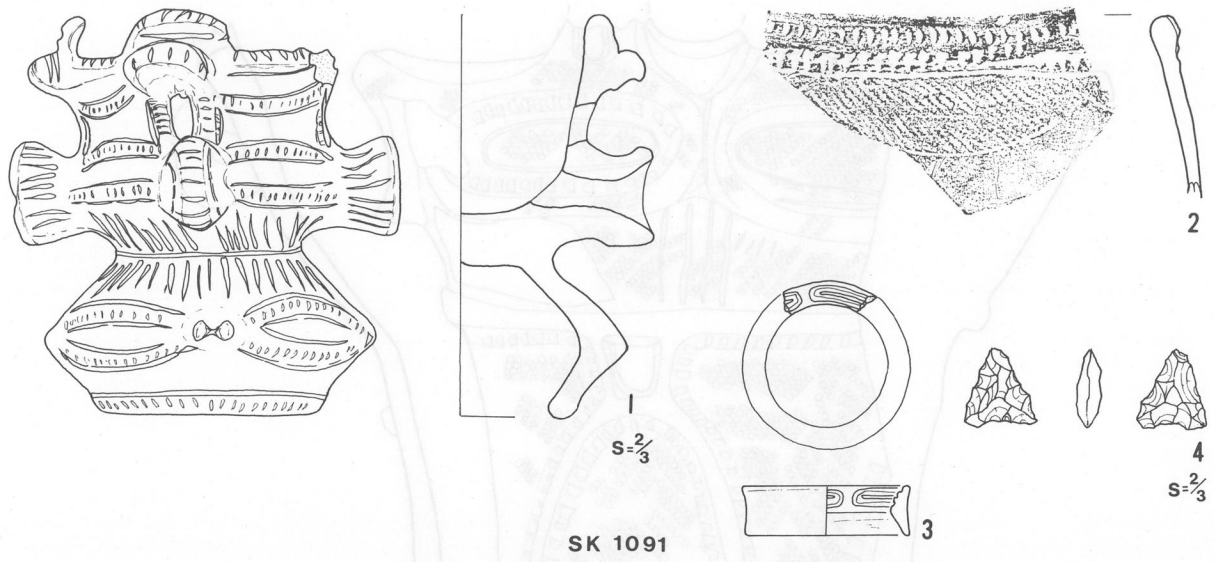
SK 1080



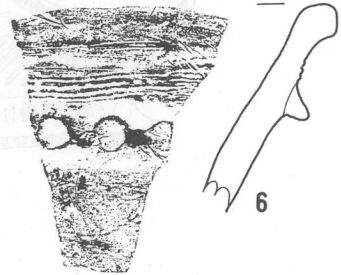
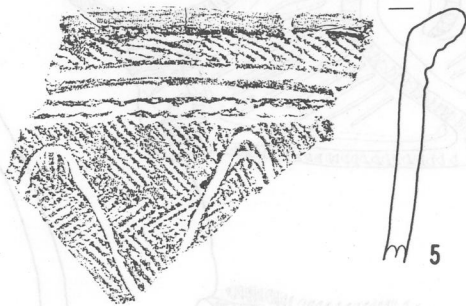
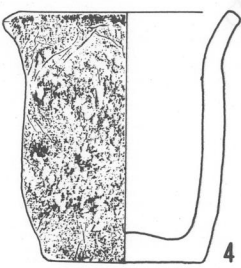
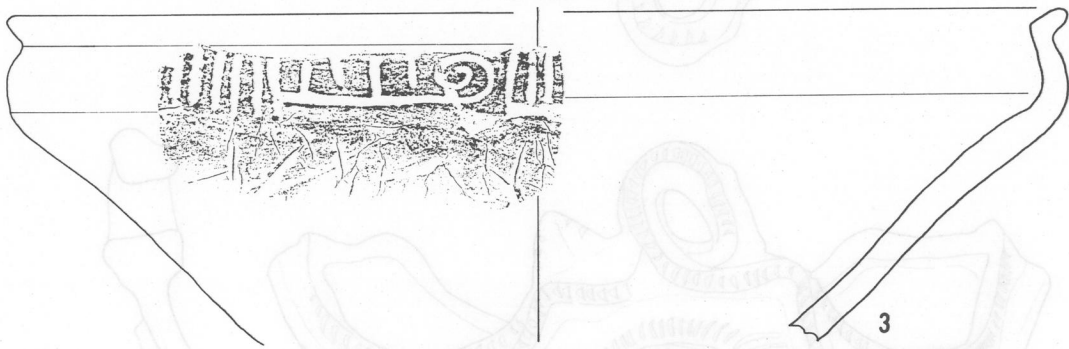
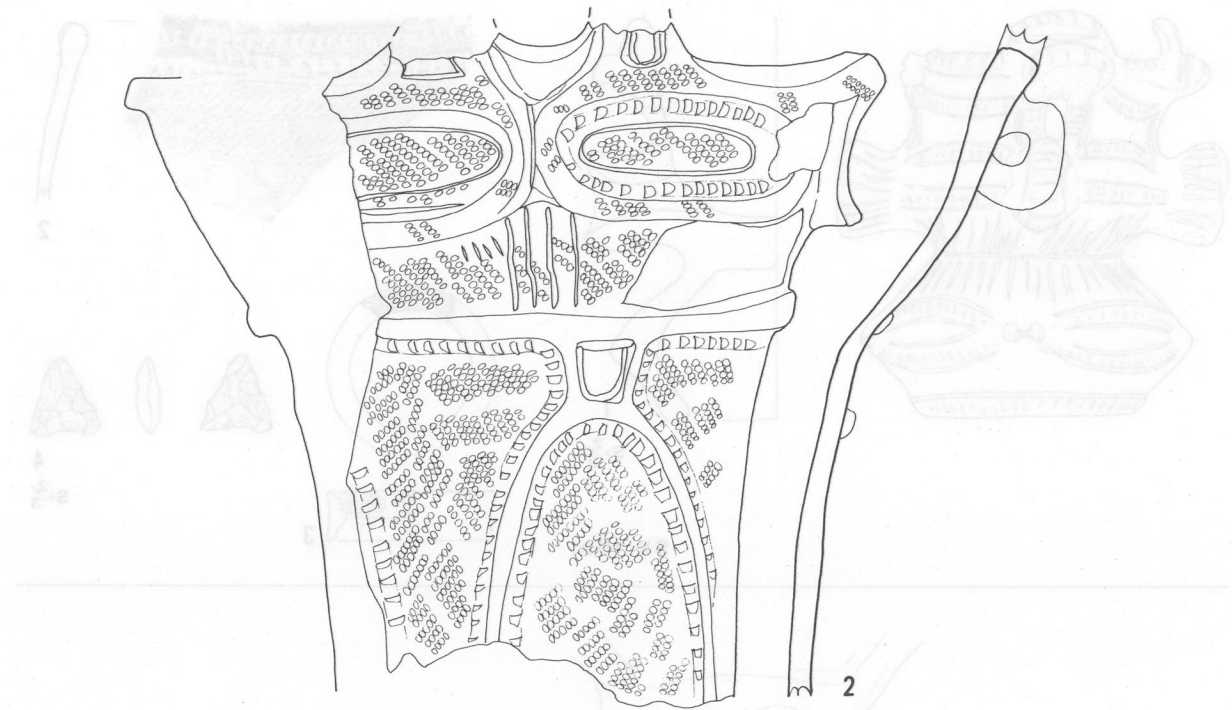
0 10cm

SK 1090

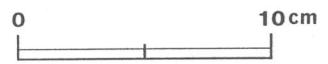
第245图 第1080(2)·1090号土坑出土遗物实测·拓影图



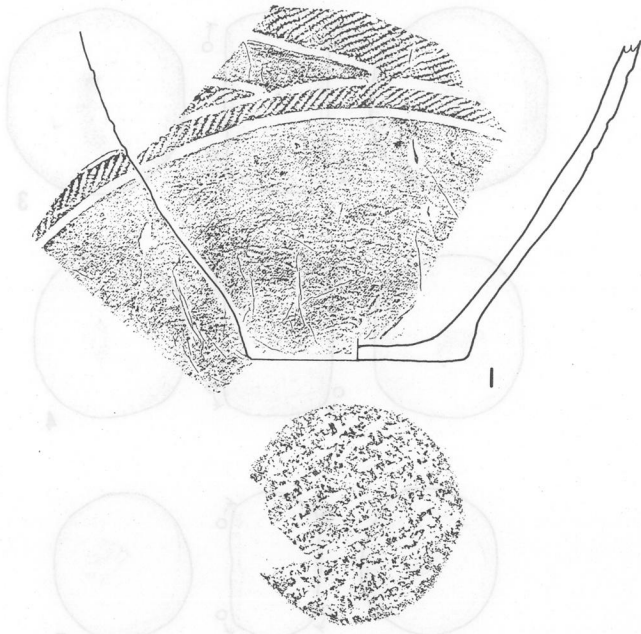
第246图 第1091·1092(1)号土坑出土遗物实测·拓影图



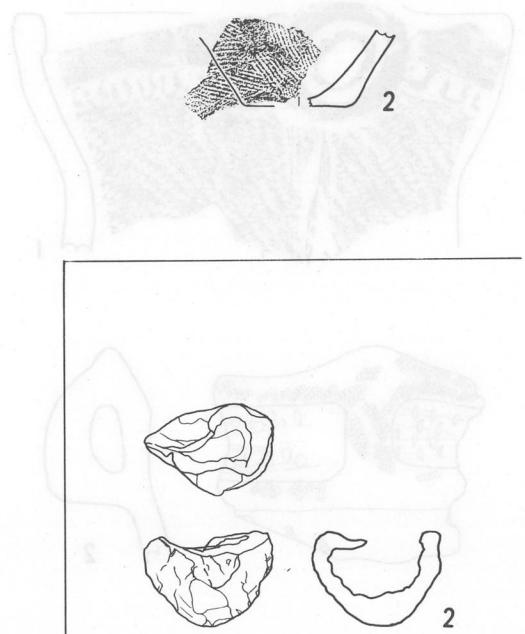
SK 1092



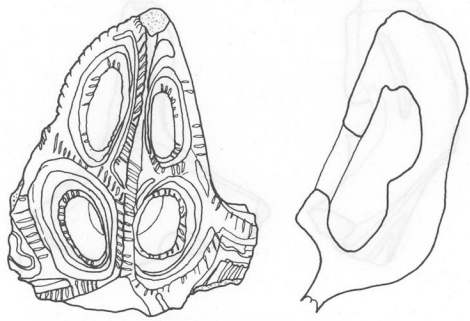
第247图 第1092(2)号土坑出土遗物实测·拓影图



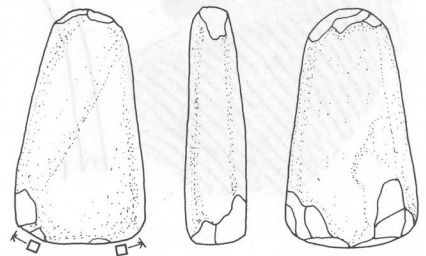
SK 1099



SK 1104



SK 1108



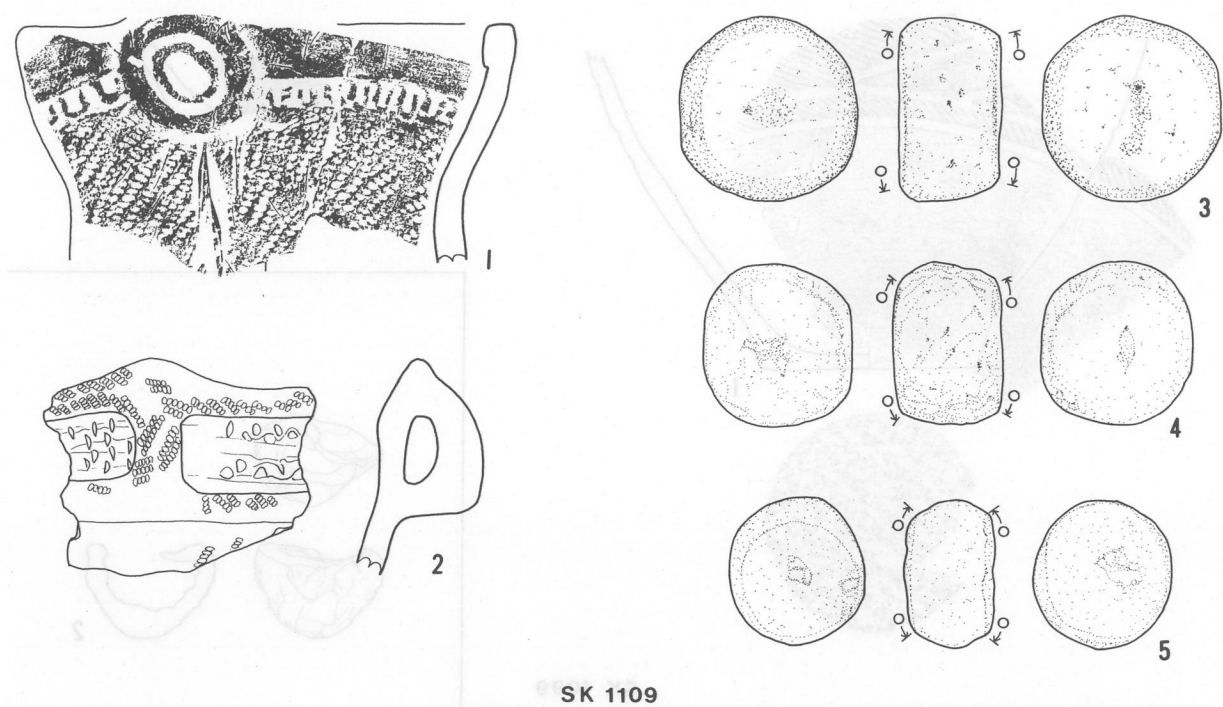
3



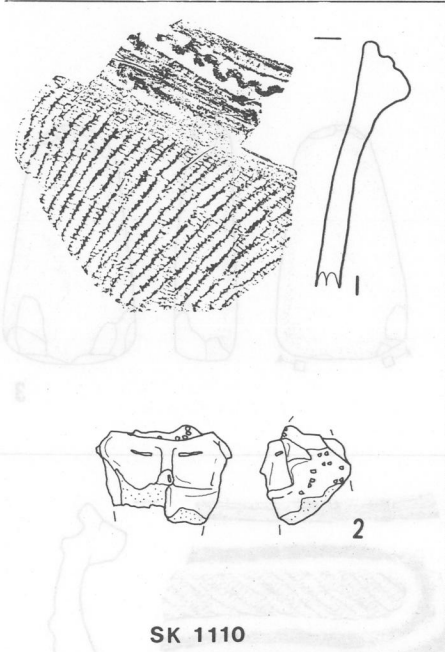
2



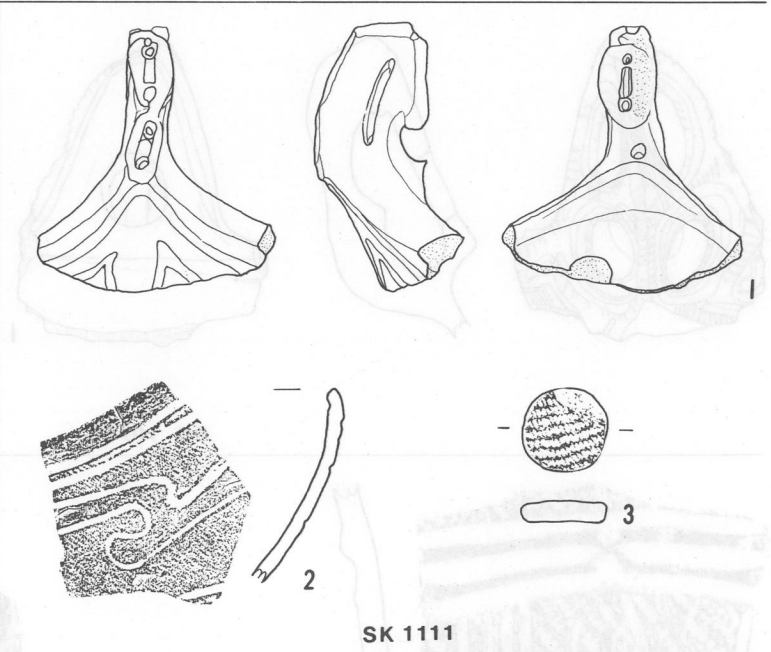
第248図 第1099・1104・1108号土坑出土遺物実測・拓影図



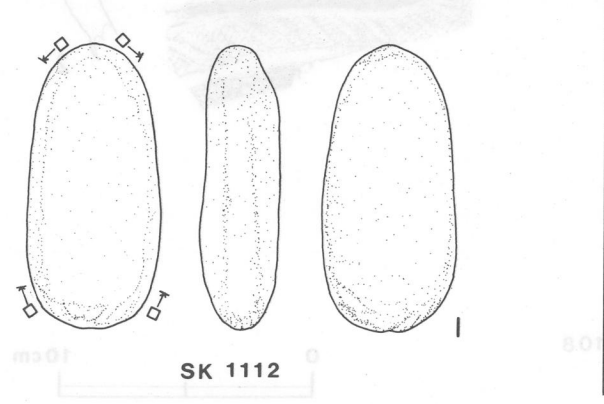
SK 1109



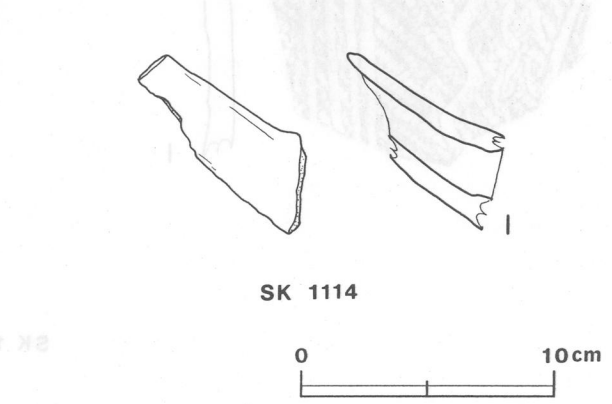
SK 1110



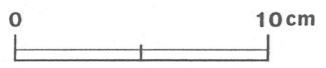
SK 1111



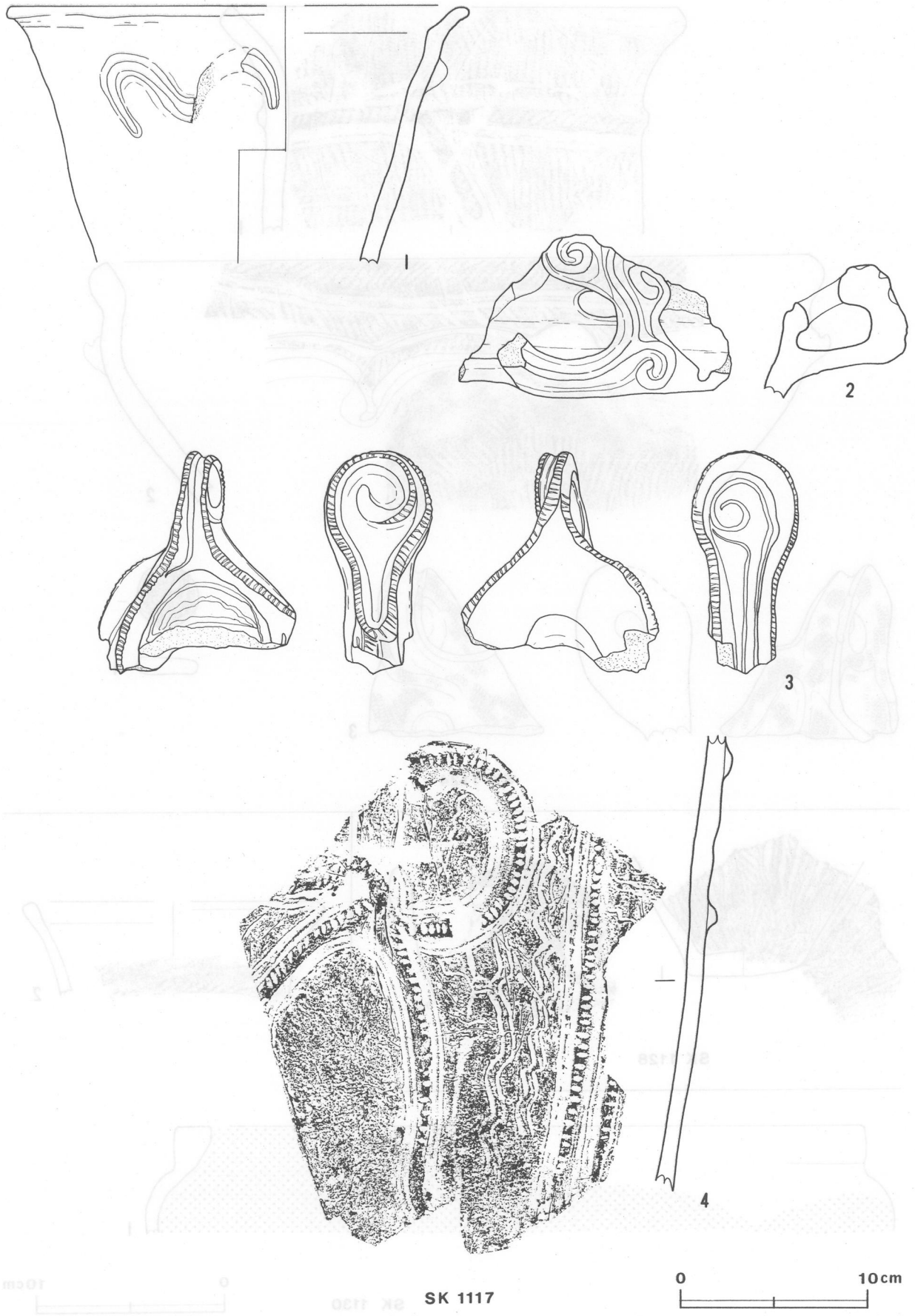
SK 1112



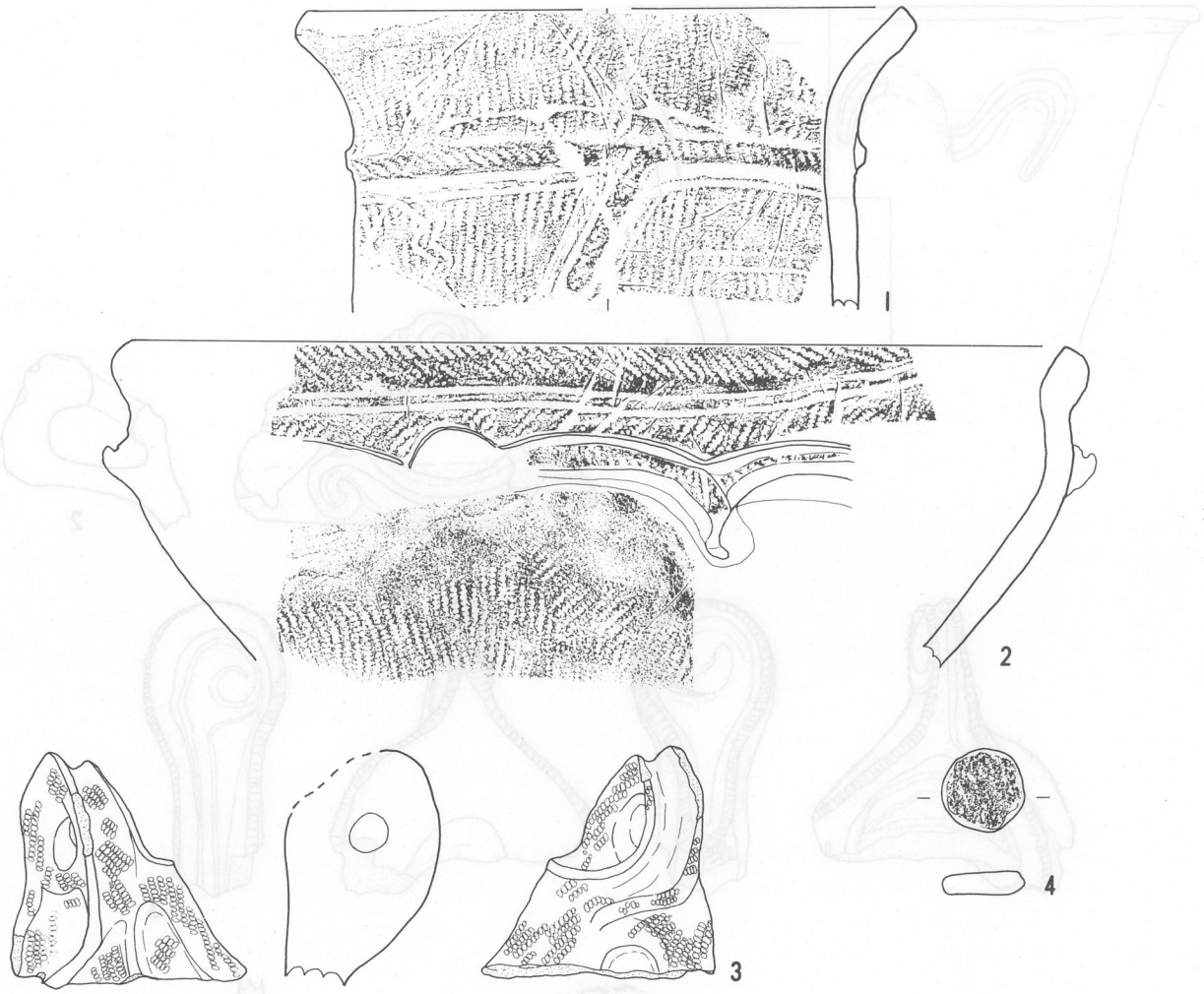
SK 1114



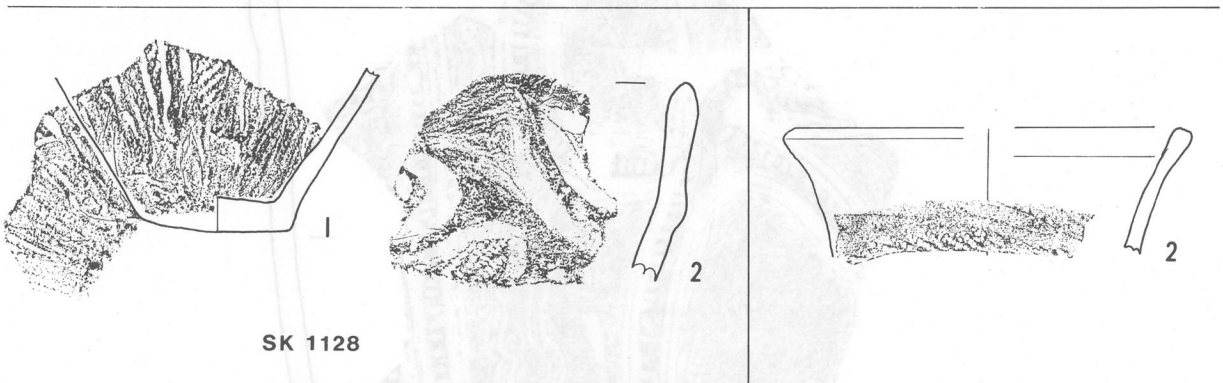
第249图 第1109・1110・1111・1112・1114号土坑出土遺物実測・拓影图



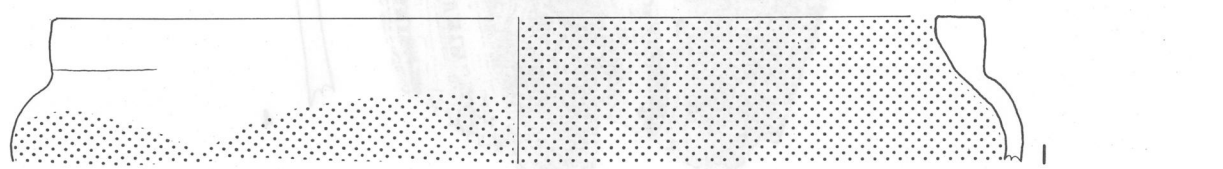
第250图 第1117号土坑出土遗物实测·拓影图



SK 1124



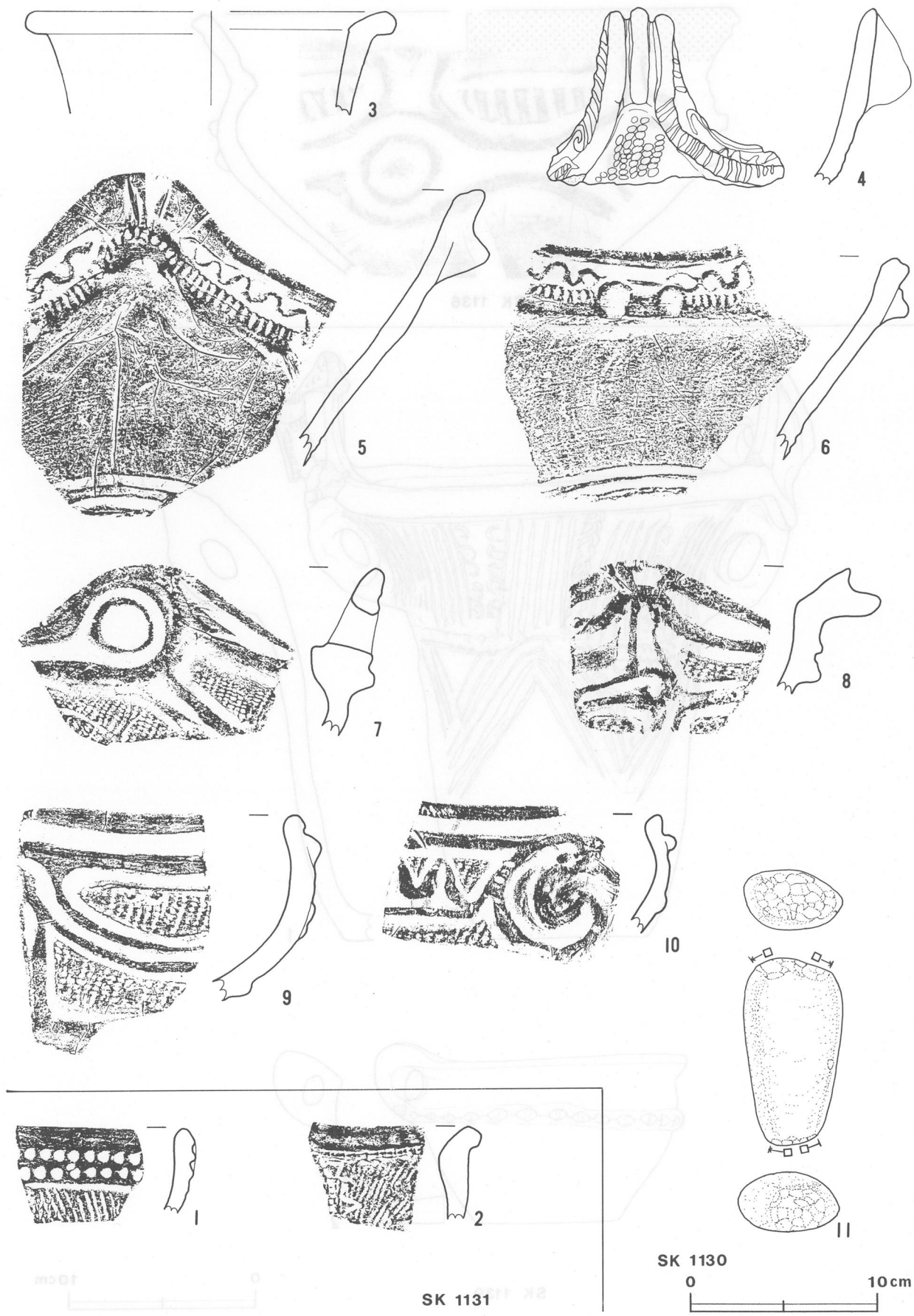
SK 1128



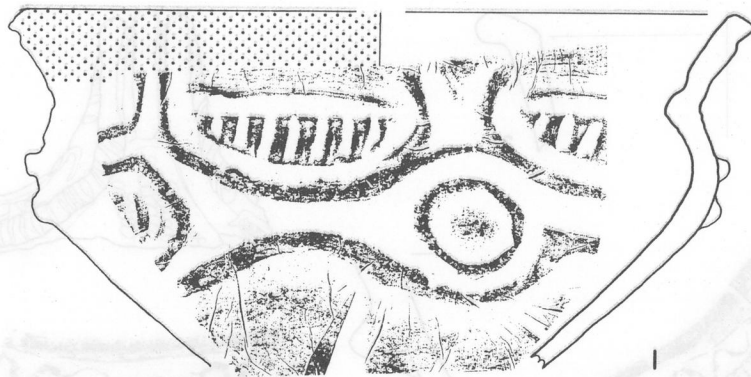
SK 1130



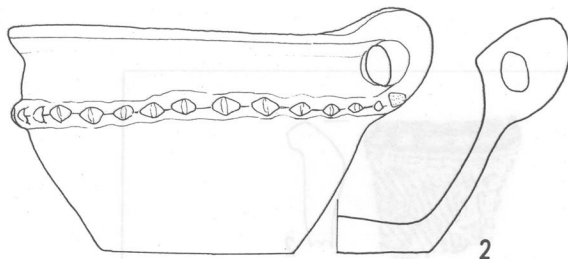
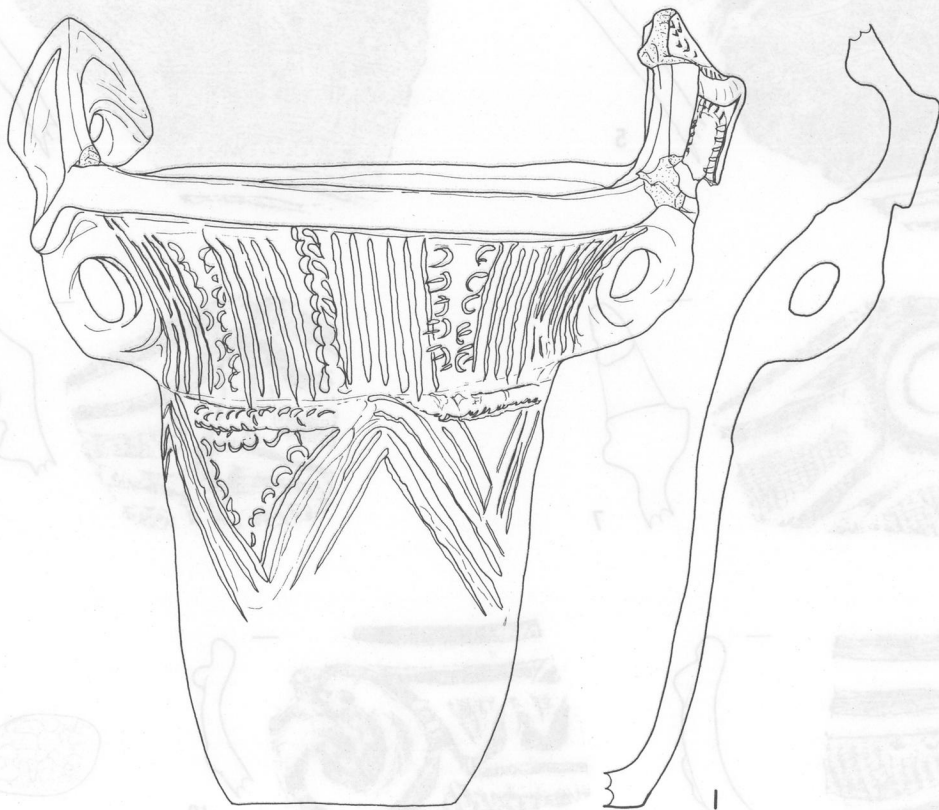
第251图 第1124・1128・1130(1)号土坑出土遺物実測・拓影图



第252图 第1130(2)・1131号土坑出土遺物実測・拓影图



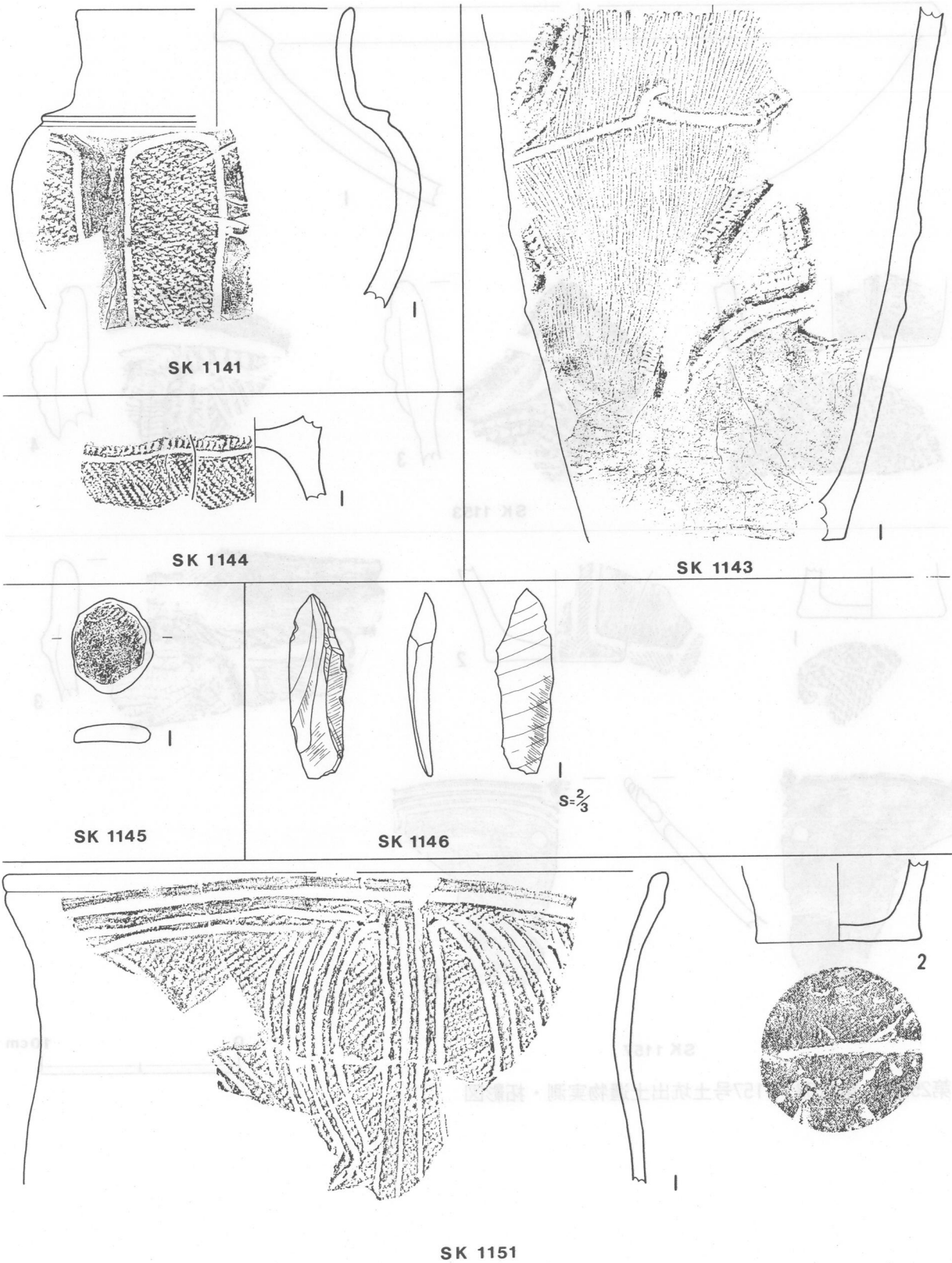
SK 1136



SK 1139

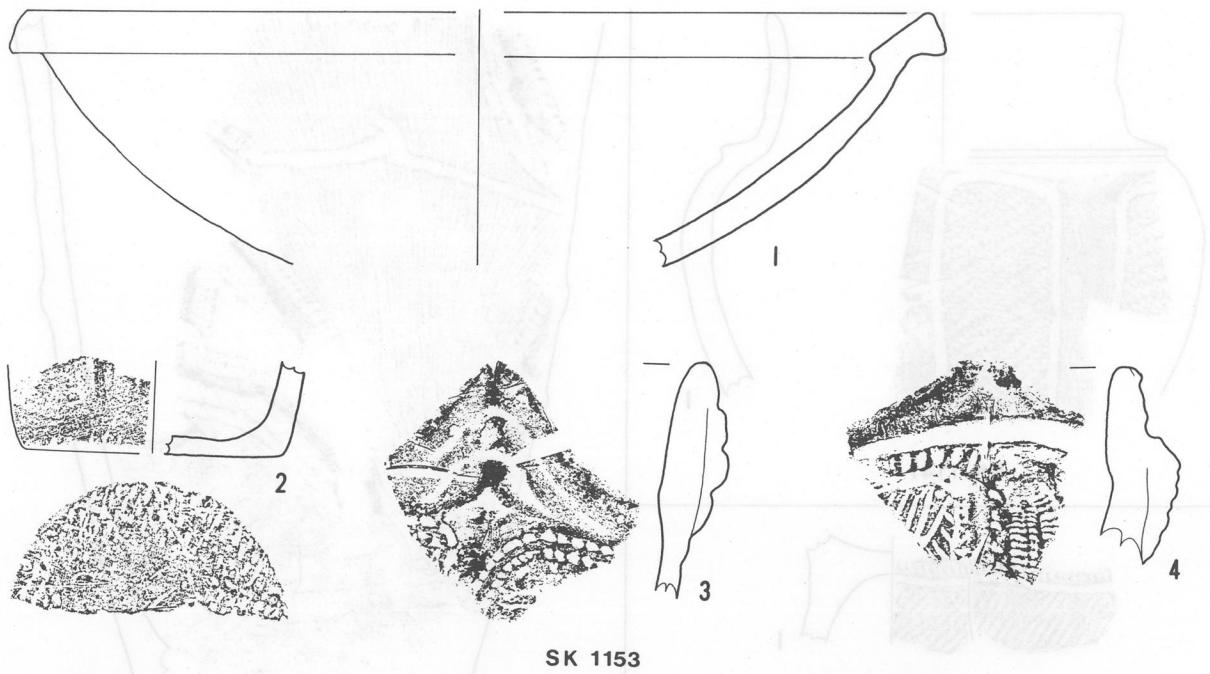


第253图 第1136·1139号土坑出土遗物实测·拓影图

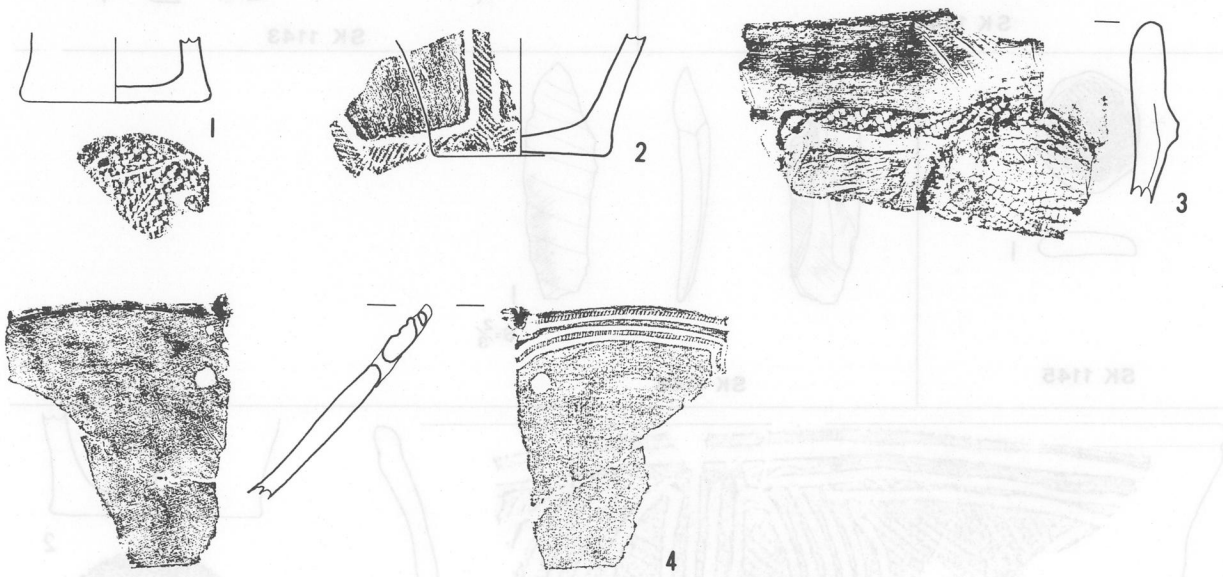


0 10cm

第254图 第1141・1143・1144・1145・1146・1151号土坑出土遺物実測・拓影图



SK 1153



SK 1157



第255图 第1153·1157号土坑出土遗物实测·拓影图



图254图 第1141·1144·1145·1146·1147·1148·1149·1150号土坑出土遗物实测·拓影图

土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第211図 1	把手 縄文土器	長さ(7.4) 幅(5.8)	深鉢形土器の把手片。内部が中空で、外面が隆線で縁取りされた円形あるいは楕円形の孔を3単位以上有し、隆線による区画内には刺突による連続爪形文、沈線による山形文が施されている。	砂粒・バミス にぶい赤褐色 普通	P179 5% SK-257 覆土 (勝坂Ⅱ)
第211図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(24.6) B(27.7)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は緩やかに内彎しながら口縁部に至る。口縁部は肥厚面に隆線を貼り付け、指頭による押捺が加えられている。胴部上位に棒状施工具による刺突を加えた隆線を貼り付け、頸部文様帯と下位の無文帯に分離している。頸部文様帯には下向き弧線状の条線が施され、内部磨り消しのやや幅広の平行沈線によって文様が切断されている。下位無文帯には、縦方向の磨きが施されている。	砂粒・雲母・長石・ 石英 極暗褐色 普通	P181 30% SK-291 覆土 (安行Ⅱ)
2	台付鉢 縄文土器	A 22.8 B(12.6) D(2.6)	台部欠損。胴部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部には粘土貼り付けの偏平な突起が1単位設けられている。横走沈線により、口縁部1文様帯と胴部2文様帯に分けられ、1文様帯には単節縄文R Lが施文されている。胴部2文様帯は上向きの連続弧線文が沈線で連続して描かれ、連結部には円形の刺突を加えた瘤を貼り付け、隙間には縄文が施文されている。台部との接合部には粘土紐の隆線を貼り付け、押圧が加えられている。	砂粒・長石・ スコリア 明赤褐色 普通	P185 65% SK-291 底面 (安行Ⅲb)
3	壺形土器 縄文土器	A(20.5) B(7.8)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁部は無文で、浅い沈線が口縁部下に巡らされている。口縁部内側に粘土貼り付けの突起を有し、突起内側には弧線状の沈線が加えられている。胴部は沈線間縄文帯を2段に巡らせ、下段には縦刻みを施した横長の瘤が貼り付けられている。瘤を頂点として、偏平な三角形を描くように沈線が施され、区画内には縄文が施文されている。	砂粒・雲母・長石・ スコリア にぶい赤褐色 普通	P183 10% SK-291 覆土上層 (安行Ⅲb)
4	手燻形土器か 縄文土器	A(5.4) B(3.5)	口縁部片。口縁部には刻みを施した突起を有し、突起下には2単位の穿孔が施され、上向き、下向きの弧線が胴部に施されている。	砂粒 灰褐色 普通	P184 20% SK-291 覆土 (晩期)
5	台付土器 縄文土器	D(4.6) E(9.8)	台部片。断面「八」字状で、裾部は隆起帯縄文が施されている。	長石・石英 褐灰色 普通	P182 5% SK-291 覆土
第212図 1	把手 縄文土器	長さ(5.0) 幅(5.3)	口縁部把手。頂部には円形の凹みが増えられ、側面には連続の円形刺突が縦方向に施されている。把手内・外面は、指頭ナデによる微隆起線で整形されている。	砂粒・長石・ バミス 灰褐色 普通	P186 5% SK-294 覆土 (加曾利EⅣか)
第213図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(31.6) B(31.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は緩やかに内彎し、頸部でくびれ、口縁部は僅かに外反する。口縁部と頸部に粘土紐貼り付けの隆線が巡らされ、頸部文様帯と胴部文様帯に分離されている。隆線には指頭による押捺が加えられている。頸部文様帯には左下がりの斜行条線、胴部文様帯には縦方向の条線が施文されている。	砂粒・長石・ スコリア 褐色 普通	P187 30% SK-325 覆土 (安行Ⅰ)
2	鉢形土器 縄文土器	A(30.2) B(13.5)	胴部から口縁部にかけての破片。胴下部は外傾し、内彎した後外反して口縁部に至る。口縁部は肥厚し、口縁部及び頸部に連続刻文が施され、頸部文様帯と胴部文様帯に分けられている。頸部文様帯には縦方向の条線、胴部文様帯には横方向の条線が施文されている。	砂粒・雲母 褐色 普通	P188 20% SK-325 覆土 (安行Ⅰ)
3	深鉢形土器 縄文土器	B(9.3) C 4.6	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。外面に縦方向の磨きが施されている。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P189 20% SK-325 覆土 (安行Ⅰ)
4	鉢形土器 縄文土器	A(15.4) B(5.8)	口縁部片。口縁部は内彎し、肥厚する。口縁部以下に隆起帯縄文を数段施し、縄文帯間は磨り消されている。	砂粒・長石・ スコリア 褐色 普通	P190 10% SK-325 底面 (安行Ⅰ)
5	鉢形土器 縄文土器	B(7.8) C 3.9	底部から胴部にかけての破片。平底で、胴部は内彎する。胴部中位に上向き、下向きの入り組み弧線文を施し、区画内には単節縄文R Lが充填されている。胴部下位に沈線を巡らし、以下底部まで単節縄文R Lが充填され、底部側面は磨り消されている。	砂粒・長石・ スコリア 褐色 普通	P191 40% SK-325 覆土 (曾谷か)
6	注口土器 縄文土器	A(13.6) B(14.5)	瓢形で、胴部から口縁部にかけての破片。口縁部は肥厚し、上端が平坦に作出されている。口縁部外面に縄文帯を巡らし、直下に連続刻文帯が施され、数本の刻みを加えた横長貼り瘤が加えられている。注口部は短く丸みを帯び、胴部上位に右斜め上方に向けて付けられ、基部直下に刻みを加えた貼瘤が2単位加えられている。胴部文様帯は沈線を沿わせた細い隆起帯刻文帯で、三角形や花卉を連想させるモチーフを描き、要所に刻みを加えた貼瘤が加飾されている。隙間は丁寧な磨きが施されている。	長石・雲母・ スコリア 褐色 普通	P192 20% SK-325 覆土 (安行Ⅱ)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第214図 1	器台形土器 縄文土器	A [17.1] B 6.4 C [17.1]	台部片。脚部は直立して台部に至る。台部は平坦で、脚部より突出して作出され、脚部中位には楕円形の孔が施されている。裾部は肥厚し、孔及び裾部は面取りされている。内・外面ナデ整形されている。	砂粒・長石・スコリア 浅黄褐色 普通	P194 20% SK-503 覆土 (加曾利E)
	把手 縄文土器	長さ(11.0) 幅(14.1)	口縁部把手片。中央に孔を有する大形の把手で、隆線で内・外面に文様が施され、部分的に隆線上に刻みが施されている。隙間には沈線による楕円形や円形、連続刺突文が施文されている。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P365 5% SK-503 覆土 (中峠)
第215図 1	把手 縄文土器	長さ(10.4) 幅(15.4)	波状口縁波頂部の把手片。波頂部頂部付近に、両側からせり上がり上下に貫通する孔を持つ環状把手が付けられている。孔頭部は刻みを施した隆帯で加飾され、孔から派生する磨消帯を挟むように把手側面から胴部に隆帯が垂下されている。波頂部下位には隆帯間磨消帯を挟んで、外面を隆帯で縁取りした孔が穿たれ、波状の口縁も薄い隆帯が貼り付けられている。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P195 5% SK-716 覆土下層 (加曾利E I)
第215図 1	鉢形土器 縄文土器	B (5.1)	口縁部片。胴部から口縁部は外傾し、胴部と口縁部の境内側に稜が見られる。内面は丁寧な磨きで整形し、内・外面赤彩されている。土器焼成後、孔が穿たれている。	砂粒・長石・スコリア にぶい赤褐色 普通	P196 5% SK-728 覆土
第215図 1	把手 縄文土器	長さ(10.1) 幅(8.2)	口縁部把手片。横「S」字状の扇状把手で、把手頭部は指頭による偏平な太い沈線が施されている。外側を巡る把手の頭部は胴上部から派生する隆帯と環状につながり、立体的な文様が描かれている。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P197 5% SK-729 底面 (大木8a)
第216図 1	浅鉢形土器 縄文土器	B (7.0) C [16.0]	底部から胴下部にかけての破片。削り出しにより底部外側にやや厚み持つ底部で、胴部は外傾して開く。内・外面ナデにより整形されている。	砂粒・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P198 10% SK-732 底面 (阿玉台)
第216図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (14.0) C 14.0	底部から胴部にかけての破片。平底で、胴部は直立気味に立ち上がる。底部から3cm上に隆線が巡り、胴部から垂下する「U」字状の隆線が接続される。胴部隆線の区画内には縦方向の条線を施し、下位で2本の横沈線に切断されている。隆線に沿って角押文が加飾されている。	石英・長石・雲母 明赤褐色 普通	P200 15% SK-734-A 覆土 (阿玉台Ⅲ)
第216図 2	浅鉢形土器 縄文土器	A [31.0] B (11.4)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部はやや内彎しながら外傾し、頸部で僅かにくびれ口縁部に至る。口縁部上端は偏平に作出され、内面には口縁部下および頸部に稜が設けられている。内・外面丁寧な磨きを施し、口縁部上端及び内面口縁部から稜まで赤彩されている。	砂粒・雲母・長石・スコリア 橙色 普通	P201 20% SK-734-A 覆土 (阿玉台Ⅲ)
	把手 縄文土器	長さ 8.2 幅 6.1	中空の把手片。沈線を沿わせた隆帯で縁取られた孔を内面に2単位、外面に1単位有し、隆帯には爪形文が施されている。外面は、頂部から曲線を描いて蛇行する爪形文を施した隆帯が貼り付けられている。隆帯に沿い、半截竹管状の施文具による平行沈線文が加えられている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P203 5% SK-734-A 覆土 (勝坂Ⅱ)
第216図 1	台付土器 縄文土器	D (12.5) E 15.0	球形の台部で、胴部欠損。3文様帯からなり、台部上位に巡る横走沈線で区画された1文様帯には単節縄文RLが施文されている。2文様帯は横走沈線と下向きの弧線を台部中位に描き、区画内には縄文が充填されている。台部下位には裾部を含め3段の沈線を沿わせた隆起帯縄文を施し、3文様帯が構成されている。	砂粒・長石・石英・スコリア 褐灰色 普通	P202 60% SK-734-B 底面 (安行Ⅰ)
第217図 1	鉢形土器 縄文土器	A [21.5] B (16.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎した後、やや外反し口縁部に至る。口縁部と胴部の境に指頭による微隆起線を巡らせ、無文の口縁部と胴部文様帯が分離されている。口縁部下には橋状把手が付けられ、胴部には単節縄文LRが横位回転で施文されている。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P204 20% SK-739 覆土 (加曾利EⅣ)
第217図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (7.2) C [13.2]	底部から胴下部にかけての破片。削り出しによる上げ底の底部で、胴部は外傾して立ち上がる。胴部に単節縄文RLを縦位回転で施文し、幅の狭い垂下する平行沈線によって文様が分断されている。底部から3.5cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P205 15% SK-740 覆土 (加曾利EⅠ)
第217図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A [38.8] B (12.4)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して開き、口縁部下で僅かなくびれを持ち、口縁部は内側に折れ曲がる。口縁部上端は幅広く偏平に作出され、内面に稜が施される。内・外面磨きが施され、口縁部上端及び内面は赤彩されている。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P206 20% SK-755 覆土 (加曾利EⅠ)
第218図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 19.7 B 30.7 C [8.3]	平底で、胴部はやや内彎しながら立ち上がる。4単位の波状口縁で、口縁部下に沈線を沿わせた隆線を貼り付け、口縁部文様帯と胴部文様帯に分離される。波頂部下には「C」字状の粘土紐を貼り付け、上下の刺突文を結ぶように中央に沈線が施されている。胴部文様帯は、1～3本単位の沈線で、「スベード」状、「V」字状のモチーフを描き、沈線間は磨り消し、広い区画内は単節縄文RLが縦位回転で施文されている。胴部下半は磨り消されている。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P207 80% SK-760 覆土 (網取Ⅰ)
第218図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 15.7 B 19.5 C 6.0	平底で、胴部はやや外傾して直線的に立ち上がる。胴部外面に、単節の縄を絡状で縦方向に施文し、「U」状の沈線間磨消帯に文様が分断されている。底部から3cmほどは磨り消しが施されている。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P208 60% SK-764 覆土 (加曾利EⅢ)

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第219図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(18.4) C 8.6	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。胴部外面に、単節縄文RLを縦位回転で施文し、垂下する微隆起線が描かれている。幅広い微隆起線間及び底部から8cm前後が磨り消されている。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P209 20% SK-766 覆土 (加曾利EIV)
2	把 手 縄文土器	長さ(8.6) 幅(5.9)	口縁部の橋状把手片。外面に単節縄文LRが施文されている。	砂粒・長石 浅黄橙色 普通	P210 5% SK-766 覆土 (加曾利EIV)
3	把 手 縄文土器	長さ(10.9) 幅(8.1)	胴上部の橋状把手片。外面に縄文が施文されているが、摩耗が著しい。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P211 5% SK-766 覆土 (加曾利EIV)
4	把 手 か 縄文土器	長さ(5.6) 幅(3.8)	深鉢形土器等に付く把手か。先端が僅かに欠損している。蛇の頭部が連想される。	砂粒 浅黄橙色 普通	P212 5% SK-766 覆土 (加曾利EIVか)
第219図 1	把 手 縄文土器	長さ(5.4) 幅(6.4)	上部は欠損している。下部に最大径を持つ球状で、孔が穿たれている。外面中央にやや大形で深い、側面に小形で浅い押圧が加えられている。内・外面磨きが施されている。	砂粒・長石・スコリア 灰赤色 普通	P213 5% SK-768 覆土 (後期)
第220図 1	台付土器 縄文土器	D(5.6) E 5.6	胴部欠損。裾部は円形で、僅かに内彎しながら立ち上がり、接合部はやや丸みを帯びた方形となる。台上部と裾部の外面に隆線を持ち、上下に付けられた円形刺突文を中央に沈線を伴う隆線で結び、台部外面が4単位に分離されている。それぞれの区画は、中央の穿孔を挟むように上下に2本の沈線が描かれている。	砂粒・スコリア にぶい黄褐色 普通	P214 40% SK-769 覆土 (堀之内)
2	把 手 縄文土器	長さ(5.8) 幅(6.1)	口縁部把手片。薄手で横に丸みを持った把手で、中央上部に山形の突起が付け加えられる。突起にはとぐろ状の沈線が施されている。外面中央に、縦長で鼻状の瘤が加えられ、横には孔が穿たれている。把手内面下部端に刺突、孔周囲に沈線、突起下には沈線による楕円状の文様が描かれている。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P215 5% SK-769 覆土 (堀之内)
第220図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A(47.0) B(15.2)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、外反して口縁部に至る。口縁部は磨り消しの無文帯で、胴上部には浅い沈線を沿わせた隆線で渦巻あるいは長楕円の杵状文を描き、区画内は単節縄文RLが横位回転で施文されている。以下胴部には、同縄文が縦位回転で施文されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P216 10% SK-775 覆土 (加曾利EIII)
第220図 1	有孔鐔付土器 縄文土器	A(11.7) B(4.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。内彎して口縁部に至り、口縁部は肥厚する。口縁部下に孔を穿った鐔状の隆線が巡り、胴部に下りる隆線が接続されている。内・外面とも赤彩されている。	砂粒 暗赤褐色 普通	P217 5% SK-776 覆土 (加曾利EIV)
第221図 1	甕形土器 縄文土器	A(28.2) B(21.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、頸部で屈曲し、外傾して口縁部に至る。頸部に沈線を巡らせ、口縁部文様帯と胴部文様帯に分離し、口縁部に小突起を有し、口縁部外面に単節縄文RLが施文され、口縁部文様帯が構成されている。胴部中位には3本の横走沈線が施され、上区画には縄文施文、幅広の下区画には横長の横「S」字状文を連続して描き、下部に縄文が施文されている。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P218 20% SK-781 覆土 (安行III b)
2	甕形土器 縄文土器	A(33.6) B(27.7)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は直立気味に立ち上がる。頸部に沈線を巡らせ、口縁部文様帯と胴部文様帯に分離し、口唇部に小突起、口縁部外面上下に無文帯を残し、中位に単節縄文RLが施文され、口縁部文様帯が構成されている。胴部中位には、3本の横走沈線が施され、上区画には縄文施文、やや幅広の下区画には沈線でやや形の崩れた月状文を描き、部分的に縄文が施文されている。	砂粒・長石・スコリア・黒雲母 にぶい橙色 普通	P219 25% SK-781 覆土 (安行III b)
3	浅鉢形土器 縄文土器	A(33.6) B(11.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は外傾する。口唇部に数個の粘土粒貼り付けの突起を有し、頸部、胴部に横走沈線が施されている。内・外面とも研磨されている。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P220 20% SK-781 覆土 (安行III b)
第222図 4	甕形土器 縄文土器	A(22.6) B(7.6)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は外傾する。頸部を巡る沈線で、口縁部と胴部に分離される。口縁部上下の無文部に挟まれ、中位に縄文施文、口唇部に形の崩れた小突起が貼り付けられている。胴部外面は磨きが施されている。	砂粒・黒雲母・スコリア 橙色 普通	P221 10% SK-781 覆土 (安行III b)
5	鉢形土器 縄文土器	A(11.2) B(5.0)	胴部から口縁部にかけての破片。肩部で屈曲、内傾した後、頸部で外傾し口縁部に至る。口縁部は無文帯、頸部、肩部に横走沈線を施し、上下の刺突を結ぶ短沈線で区画された内部に下向き弧線が描かれている。区画内上部には、部分的に縄文が施文されている。内・外面横方向の磨きが施されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P222 10% SK-781 覆土 (加曾利B2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	深鉢形土器 縄文土器	B(5.4) C 8.4	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は内彎しながら外傾する。内面ナデ、外面削りで整形されている。	砂粒・雲母・長石・スコリア 橙色 普通	P223 15% SK-781 覆土 (安行)
7	深鉢形土器 縄文土器	B(9.0) C 4.3	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。内面に煤の付着が見られる。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P224 10% SK-781 覆土 (安行)
8	注口土器 縄文土器	A 3.6 B 6.6 C 2.4	注口部欠損。丸底で、胴部は内彎しながら開き、強く屈曲して内傾し、口縁部に至る。口縁部を浅い沈線で縁取りし、以下胴部上半に主文様帯が展開される。文様帯の上下に沈線間縄文帯を施し、間に3段の沈線を横走させている。上2段には、刺突によりレンガ積み状の文様が描かれている。注口基部は、作りは粗雑だが、粘土紐巻き付けによる装飾が施されている。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P225 90% SK-781 覆土 (大洞BC)
第223図 1	小形土器 縄文土器	A 4.5 B 4.7 C 4.3	平底で、胴部は直立気味に立ち上がる。口縁部に山形の把手が1単位付けられ、同形の文様が把手下に隆線で描かれている。口縁部下に沈線を巡らし、胴部には直線、曲線、山形文等のモチーフが沈線で不規則に施文されている。	砂粒・雲母・長石 黒色 普通	P228 100% SK-788 覆土 (中期)
第223図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(10.2) C 7.3	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。胴部外面に単節縄文RLを縦位回転で施文し、垂下する幅の狭い沈線区画の磨消帯に文様が分断されている。底部から3cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P229 10% SK-789 覆土 (加曾利EⅡ)
第224図 1	鉢形土器 縄文土器	A(20.8) B 17.9 C(7.5)	上げ底で、胴部は内彎して口縁部に至る。口縁部外面には指頭による微隆起線が巡らされる。胴上半には単節縄文LRが施文されている。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P230 30% SK-796 底面 (堀之内1)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(12.5) C 10.3	底部から胴下部にかけての破片。中央に厚みを持つ平底で、胴部は僅かに外傾して直線的に立ち上がる。胴下部は縦方向の磨きが施されている。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P232 15% SK-796 覆土 (堀之内1)
3	深鉢形土器 縄文土器	B(18.9)	隅丸のやや方形の深鉢で、胴部はやや内傾して口縁部に至る。口縁部上端は連続の刻みが施され、胴部には4本単位の浅い沈線が縦方向に施文されている。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P231 20% SK-796 底面 (堀之内1)
4	把手か 縄文土器	長さ7.5 幅 5.9	口縁部把手片か。橋状を呈すると思われ、内・外面に沈線で曲線あるいは直線的なモチーフが描かれている。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P233 5% SK-796 覆土
第225図 3	深鉢形土器 縄文土器	B(20.0)	外傾する胴部片。胴部には角押文を沿わせた隆線で曲線的な文様を描き、区画内には横沈線、斜行沈線、連続刺突のベン先文が描かれている。	砂粒・雲母・長石 赤褐色 普通	P234 10% SK-801 底面 (阿玉台Ⅲ)
1	把手 縄文土器	長さ(9.8) 幅(7.0)	口縁部把手片。把手外面を縁取るように連続爪形文を施した隆線を巡らせ、内部には短沈線と爪形文を加飾した渦巻隆線が描かれている。側面には環状部分を縁取るように中央に沈線を伴う隆線を施し、隙間には半截竹管による浮線文が描かれている。	砂粒・長石 黒褐色 普通	P235 5% SK-801 覆土 (阿玉台Ⅳ)
2	把手 縄文土器	長さ(7.4) 幅(6.6)	波状口縁の把手片。頂部に環状の突起が付けられ、把手外面には円形及び口縁部を巡ると思われる隆線が貼り付けられている。隆線に沿って連続刺突のベン先文が描かれている。	砂粒・長石・スコリア・雲母 浅黄褐色 普通	P236 5% SK-801 覆土 (阿玉台Ⅳ)
第225図 1	小形土器 縄文土器	A 4.0 B 1.9 C 1.5	手捏の小形碗形土器。平底で、胴部は内彎しながら立ち上がる。内・外面に指頭による整形痕が残されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P238 100% SK-808 底面
2	把手 縄文土器	長さ(6.8) 幅(5.5)	波状口縁波頂部の突起片。頂部には縦刻みを施した角状突起が付けられ、直下に大形の貼瘤が付されている。弧状の口縁部の肥厚部には頂部から派生する隆起帯縄文が施され、以下に口縁部に沿い弧状を描く沈線が施されている。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P239 5% SK-808 覆土 (安行Ⅲa)
第225図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(10.3) C 10.2	底部から胴部にかけての破片。上げ底気味の底部で、胴部はやや外傾して直線的に立ち上がる。胴部に描かれた「U」状の隆線が胴下部を直線的に巡る隆線と連結し、区画内には隆線に沿って角押し文が施文されている。底部に網代痕が見られる。	砂粒・雲母・長石・スコリア 橙色 普通	P199 20% SK-821 底面 (阿玉台Ⅲ)
第225図 1	壺形土器 縄文土器	A 6.8 B 11.1	小形で丸底。胴部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ外反して口縁部に至る。口縁部直下に浅い沈線を巡らせ、幅広の頸部無文帯を挟んで胴部文様帯が構成されている。胴部文様帯には頸部直下に巡る沈線区画の連続刺突文と底部を巡る沈線の区画内に沈線で曲線的モチーフが描かれている。頸部無文帯及び底部は磨きが施され、胴部は磨きと整形痕を残す区画が交互に配されている。	砂粒・雲母 赤褐色 普通	P241 100% SK-822 底面 (加曾利B3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	台付鉢 縄文土器	A 18.6 B (13.8)	上部欠損。胴部は外傾した後直立的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は肥厚し、外面に沈線を沿わせた隆起帯刻文が施されている。口縁部以下には、磨消帯を挟んで沈線を沿わせた隆起帯刻文が4段施され、幅広の1、2段にはブタ鼻状貼瘤が等間隔で5単位付けられ、瘤を結ぶ縦沈線が1、2段間に充填された矢羽状沈線文を切断している。4段目には1、2段と対応する位置に2個1組のブタ鼻状貼瘤が付けられている。胴部下半はやや上向きに弧線状条線が施文されている。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P242 40% SK-822 底面 (安行Ⅱ)
第226図 1	浅鉢形土器 縄文土器	B (8.3)	口縁部片。波状口縁で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は肥厚し口縁部外面及び頸部内面に稜が施されている。内・外面とも赤彩されている。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P243 5% SK-823 底面 (中期)
第226図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A 17.3 B 6.9 C 6.7	やや突出気味の平底。胴部はやや内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。口縁部上端に山形の突起が6単位貼り付けられ、口縁部外面と胴部上位に隆起帯刻文が2段巡らされている。刻文帯間は沈線で区画された磨消帯で、口縁部上端の突起と対応して口縁部刻文帯と磨消帯の境にも突起が加えられている。胴部中位から底部までは右下がりの斜行条線が施文されている。	雲母・長石・砂粒 灰褐色 普通	P244 90% SK-824 覆土 (安行Ⅰ)
第226図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (7.6) C 6.9	底部から胴部にかけての破片。上げ底で、胴部は僅かに内彎しながら立ち上がる。外面は無文で、輪轡痕及び粗雑な整形痕が残されている。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P245 20% SK-826 底面 (中期)
第227図 1	深鉢形土器 縄文土器	A [24.4] B (16.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部から直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。僅かに波状を呈する口縁で、口唇部内面に指頭による作出痕が見られる。内面及び口縁部外面に磨きが施されている。胴上部に沈線間縄文帯を巡らせ、以下沈線による菱形のモチーフが描かれ、区画内は磨消帯と縄文施文帯が交互に見られる。胴上部には小突起が縦方向に貼り付けられている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P246 20% SK-827 底面 (堀之内2)
第227図 1	台付土器 縄文土器	D 17.0 E 12.9	半球状の上部で、上部欠損。裾部は肥厚する。上部との接合部から裾部まで縄文帯が6段施され、縄文帯間は磨り消されている。上位3段は沈線区画、4段以下は沈線区画の隆起帯で、単節縄文R Lが横位回転で充填されている。3段目の縄文帯だけは横走沈線と下向き連弧文で区画されているが、他は直線的である。上部との接合部に網代痕が残されている。	砂粒・長石・雲母・ スコリア にぶい赤褐色 普通	P247 50% SK-828 底面 (安行Ⅰ)
第227図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (10.8) C 9.0	底部から胴下部にかけての破片。上げ底で、胴部は外傾して開く。胴部外面に沈線が描かれているが、底部から8cmほどまでは磨きが施されている。	砂粒・雲母・長石・ スコリア 浅黄褐色 普通	P248 15% SK-830 覆土 (称名寺2か)
第228図 1	注口土器 縄文土器	長さ(4.2)	注口部片。基部外径2.2cm、内径0.9cm、先端部外径1.9cm、内傾0.9cm、基部からやや反り気味に先端部に至る。外面磨きが施されている。	長石・砂粒 褐色 普通	P251 5% SK-847 覆土 (後期か)
第228図 1	深鉢形土器 縄文土器	A [32.8] B (19.9)	胴部から口縁部にかけての破片。胴上部は内傾し、頸部で屈曲して外傾した後内彎して口縁部に至る。口縁部外面に幅広の隆帯を巡らせ、隆帯上に渦巻あるいは小波状の隆線を貼り付けている。頸部無文帯を挟んで、胴部には横走あるいはクラック条のモチーフが3本1組の隆線で描かれ、隙間に単節縄文R Lが施文されている。	長石・雲母・砂粒 褐色 普通	P252 20% SK-852 覆土 (大木8a)
第229図 2	深鉢形土器 縄文土器	B (11.5)	外傾する胴部片。胴部上位に2本の隆線を巡らせ、隆線間は磨り消されている。隆線以下、横位回転の単節縄文R Lを地文とし、表面に縄文を施した垂下する隆線で胴部を区画し、区画内は隆線に沿ってキャタピラ文、さらに内側に半截竹管による平行沈線が施されている。内部には沈線により直線と曲線を組み合わせたモチーフが描かれている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P253 10% SK-852 覆土 (勝坂Ⅱ)
3	深鉢形土器 縄文土器	A [18.8] B 19.2 C [8.0]	胴部はやや内彎しながら立ち上がり、口縁部は肥厚し、短く外傾する。縦位回転の単節縄文R Lが地文として施されている。口縁部下に沈線を巡らせ、口縁部磨り消し、部分的に縄文が見られる。胴部には3本1組の沈線で、垂下したのち楕円形を描く文様が施されている。胴下部は磨り消されている。	石英・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P254 30% SK-852 覆土 (大木8a)
4	浅鉢形土器 縄文土器	B (9.4)	胴上部から口縁部にかけての破片。頸部で僅かに屈曲し、内面に稜が施される。波状口縁で、口縁部上端は偏平に作出され赤彩が施され、外面には稜が見られる。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P255 5% SK-852 覆土 (中期)
第230図 1	深鉢形土器 縄文土器	A [31.6] B (11.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部上端は偏平に作出され、上下に巡る隆帯からせり上がることで作出された楕円区画の橋状把手が連続し、口縁部文様帯が構成されている。隆帯の表面には沈線が施されている。胴部は縦位回転の単節縄文R Lを地文とし、その上に3本単位の沈線が施文されている。	砂粒・長石 暗赤褐色 普通	P256 10% SK-859 覆土 (大木8a)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	深鉢形土器 縄文土器	B(8.6) C(10.2)	底部から胴下部にかけての破片。僅かに上げ底で、胴部は外傾して開く。無文である。	砂粒・雲母・長石・スコリア にぶい褐色 普通	P257 10% SK-859 覆土 (中期)
第230図 1	把手 縄文土器	長さ(8.0) 幅(9.4)	橋状の把手片。上下の隆帯がせり上がるにより橋状に作出され、円孔は隆帯で縁取りされている。頂部で渦巻を示す隆帯が、蛇行しながら把手下部に垂下されている。把手接合部に縄文施文が見られる。	石英・長石・バミス 褐色 普通	P258 5% SK-875 覆土 (加曾利E I)
第231図 1	把手 縄文土器	長さ(8.1) 幅(9.4)	口縁部把手片。波状を呈する口縁部の環状把手で、指頭による微隆起線が把手接合部から口縁部を巡っている。口縁部は磨り消しの無文帯、胴部には単節縄文R Lが施文されている。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P259 5% SK-886 覆土 (加曾利E IV)
第231図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(17.0)	胴上部から口縁部にかけて欠損。尖底に近い小形丸底で、胴部は外傾して開いた後直立気味に立ち上がる。胴部内面中位に稜を有する。胴部は隆起線刻文帯と磨り消しを主とする上部文様帯と充填縄文を主とする下部文様帯に分離されている。上部文様帯は斜行あるいは横走する沈線区画の隆起帯刻文が上段、中断、下段の貼瘤で連結され、隙間には磨り消しが施されている。瘤は上段が沈線を加えた円形、中段は横刻みを加えた縦長、下段は縦刻みを加えた横長で構成されている。下部文様帯は上部文様帯の下部を巡る刻文帯に接続する上向き連弧文と胴部下位を巡る沈線区画の磨消帯により構成され、単節縄文L Rが充填されている。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P261 60% SK-943 覆土 (安行II)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(7.2) C 3.1	底部から口縁部にかけての破片。やや突出気味の底部で、胴部は外傾して開く。胴部外面に単節縄文R Lが施文され、底部から2~3cmは磨り消されている。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P262 15% SK-943 覆土 (安行II)
3	異形台付土器 縄文土器	D(2.3) E(4.8)	台部片。裾部から沈線を沿わせた隆起帯刻文帯を2段に巡らせ、隆起帯間は磨り消されている。隆起帯を挟んで上下2か所の円孔が4単位配され、孔上部に縦刻みを施した横長の瘤が貼りつけられている。	石英・長石 黒褐色 普通	P263 10% SK-943 覆土 (安行II)
第231図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(12.8) C 10.7	底部から胴下部にかけての破片。中央部に厚みを持つ上げ底で、胴部はやや内彎しながら立ち上がる。胴部外面に単節縄文R Lが縦位回転で施文され、部分的に無節縄文Lの絡状体圧痕文が縦方向に幅3.5cmで垂下されている。底部から1.5~2cmは磨り消されている。	砂粒 橙色 普通	P264 20% SK-946 覆土 (加曾利E I)
第232図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 25.6 B 36.6 C 4.6	平底で、胴部は内彎しながら立ち上がり、上位でくびれやや外傾して直線的に口縁部に至る。4単位の波状口縁で、口縁部外面に隆起帯縄文が施され、波頂部には刻みを加えた突起、波底部には横長の突起が貼り付けられている。胴くびれ部に沈線を沿わせたやや細めの隆起帯縄文を巡らし、波頂部下から派生する隆起帯縄文帯と接続させ、長楕円形及び三角文様が作られ、区画内は磨り消されている。隆起帯縄文帯が接続する要所にはブタ鼻状の瘤が貼り付けられている。くびれ以下の胴部中位には沈線区画の縄文帯が巡り、縦刻みを加えた横長貼瘤が8単位、2段に施されている。胴部中位以下には右下がりの粗い条線が施文されている。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P265 60% SK-949 底面 (安行III a)
2	深鉢形土器 縄文土器	A(24.0) B(17.9)	胴部から口縁部にかけての破片。胴下部は僅かに内彎しながら立ち上がり、その後やや外反しながら口縁部に至る。口縁部上端に縦刻みを施した角状突起を2個1組で有し、直下に横刻みを持つ瘤が貼り付けられている。口縁部と胴上位に沈線を沿わせた縄文帯を巡らせ、間には入り組み三叉文が彫刻され、部分的に縄文が施文されている。胴下半は無文で、最大径部分に横走する沈線が施されている。	砂粒・長石・石英・スコリア 橙色 普通	P266 20% SK-949 覆土 (安行III a)
3	浅鉢形土器 縄文土器	A(18.4) B(6.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎した後屈曲し、直立気味に口縁部に至る。口縁部上端には縦刻みを施した小突起がつけられ、沈線を沿わせた縄文帯が口縁部に巡らされている。屈曲部には上下に沈線を沿わせた突帯が巡り、ヘラ状工具により削り込みの凸凹が付けられている。口縁部縄文帯と突帯の間には、偏平な下向き、上向き弧線を連結させ、区画内には縄文が施文されている。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P267 5% SK-949 覆土 (安行III a)
4	注口土器か 縄文土器	A 12.4 B(5.8)	注口土器の口縁部片か。胴部は内彎すると思われ、屈曲し、外傾して口縁部に至る。口縁部中央及び胴部境に沈線を巡らし、沈線間には緻密な縄文が施文されている。口縁部上端から口縁部中央の沈線までと内面は丁寧な磨きが施されている。	長石・砂粒 灰褐色 良好	P268 5% SK-949 覆土 (大洞Bまたは安行III aか)
6	深鉢形土器 縄文土器	B(7.5) C 4.3	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。内・外面ナデで整形されている。	砂粒・長石・石英 浅黄褐色 普通	P270 10% SK-949 底面 (安行)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徵	胎土・色調・焼成	備考
7	深鉢形土器 縄文土器	B(8.4) C 3.8	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。内・外面ナデで整形されている。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P271 10% SK-949 覆土 (安行)
8	台付鉢 縄文土器	B(4.2)	胴部片。胴下部は外傾して開く。内面ナデが施され、外面には接合部を囲むように多角形状に条線が施文されている。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P272 5% SK-949 覆土 (安行)
5	手燭形土器 縄文土器	長さ(3.1) 幅(4.5)	手燭形土器の柄部片か。表面には長方形の区画文が沈線で施され、内部にも短沈線で直線的な文様が描かれている。柄基部近くに円孔が2か所沈線上に穿たれている。側面には連続の刻文が巡り、基部は直立気味に短く立ち上がっている。裏面は短軸に沈線を施し、縄文が施文されている。	長石・砂粒 橙色 普通	P269 5% SK-949 覆土 (安行Ⅲa)
第233図 1	深鉢形土器 縄文土器	A[22.6] B(12.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は折り返しにより肥厚し、肥厚面に粘土紐を貼り付けた刻文帯が巡らされている。口縁部には下向き弧線状の条線、胴部には斜行する条線が施され、その接点には隆起帯刻文が貼り付けられている。	石英・長石・砂粒 橙色 普通	P273 5% SK-950 覆土 (安行Ⅱ)
第233図 1	鉢形土器 縄文土器	A[23.5] B(8.8)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部は内削ぎ状で肥厚する。無節Lの縄文を地文とし、口縁部文様帯と胴部文様帯との接点には、沈線を下に沿わせた連続爪形文を巡らせている。	砂粒・雲母・長石・石英 黒褐色 普通	P274 5% SK-951 覆土 (阿玉台Ⅳ)
第234図 1	鉢形土器 縄文土器	A 18.8 B 12.3 C 9.2	口縁部一部欠損。平底で、胴部はやや内彎しながら立ち上がり、頭部で僅かにくびれ外傾しながら口縁部に至る。口縁部と頭部に刻文帯を巡らし、文様帯が分離される。口縁部文様帯は僅かに蛇行する数本の横走沈線を上段に、下段には磨り消しを施し、上段には摩耗が進んでいるが縄文施文の痕跡が見られる。胴部から底部までは単節縄文R Lが充填されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P275 80% SK-952 底面 (加曾利B 2~3)
第234図 1	深鉢形土器 縄文土器	A[31.6] B 24.5 C[7.8]	平底で、胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は僅かに内彎する。口縁部と頭部に隆線を巡らせ、口縁部文様帯が構成されている。区画内には沈線を沿わせた隆線で、渦巻文、不整三角形文を描き、隙間には無節の縄文が施文されている。幅の狭い磨消帯の下に、無節Rの絡状体圧痕文を縦位に施し、幅の狭い直線的平行沈線、蛇行単沈線を垂下させ胴部文様帯としている。底部から2cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石・スコリア 褐色 普通	P276 40% SK-956 底面 (加曾利EⅡ)
2	浅鉢形土器 縄文土器	A(42.0) B(10.0)	胴部から口縁部にかけての破片。緩やかな「S」字状を描いて外傾し、口縁部に至る。口縁部上端は偏平で、内・外面に磨きが施されている。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P278 5% SK-956 覆土 (加曾利EⅡ)
第235図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 29.2 B 46.7 C 10.8	上げ底で、胴部は僅かに内彎しながらやや外傾して立ち上がり、頭部で外反し内彎気味に口縁部に至る。中央部が凹む山形の波頂部を4単位有する波状口縁で、波頂部を結ぶ隆帯と口縁部下を巡る隆帯が波底部で連結し、波頂部下にできる三角形内部には区画に沿うキャタピラ文とキャタピラ文を沿わせて中央に沈線が加えられた隆帯が波頂部から派生して渦状に区画中央に描かれている。隙間には小波状文、斜行沈線文が描かれている。頭部無文帯を挟んで、胴部上位と下位に巡る隆帯で胴部文様帯が区画され、上段の隆帯から垂下する1本の隆帯と、下段から上昇する2本の隆帯が、区画中央で渦条に連結する文様が3単位描かれている。上段の隆帯の上にはキャタピラ文が沿い、隆帯及び隆帯の隙間には単節縄文R Lが施文されている。	砂粒・スコリア・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P279 80% SK-960 底面 (阿玉台Ⅲ~Ⅳ)
第236図 2	突起 縄文土器	B(6.0) 幅(14.0)	口縁部突起片。連続の刻みを施した上下の隆帯がせり上がり、眼鏡状の突起が付されている。中央の孔は未貫通、突起下には三叉文が残されている。隆線の内側には幅広の爪形文が連続で刺突されている。	砂粒・長石 橙色 普通	P280 5% SK-960 覆土 (阿玉台Ⅳ)
3	把手 縄文土器	B(10.4) 幅(9.8)	横走る隆線が上方にせり上がり、橋状の把手を形成する。隆線は上方で曲線を描き、把手外面に横刻みが施されている。隆線に沿って連続の刺突文が施されている。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P281 5% SK-960 覆土 (阿玉台Ⅳ)
第236図 1	把手 縄文土器	長さ(5.8) 幅 3.9	球状の突起が付けられた橋状の把手。突起頂部には沈線を沿わせた横長の「S」字状の隆線を施し、側面には沈線を沿わせた隆線で縁取られた刺突が2単位設けられている。把手上部にも刺突、側面には円孔を穿ち、外面丁寧な磨きで仕上げられている。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P282 5% SK-1044 覆土 (加曾利B 1)
2	把手 縄文土器	長さ(3.5) 幅(4.7)	球状の把手。口縁部との接合部には沈線が施されている。	砂粒・長石・雲母・スコリア 褐色 普通	P283 5% SK-1044 覆土 (加曾利B 1)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第236図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(3.8) C(10.3)	底部片。平底で、胴下部は外傾する。内・外面ナデで整形されている。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P283 10% SK-1046 覆土 (中期中葉)
2	把手 縄文土器	長さ(5.4) 幅(7.4)	橋状把手片。2本の隆線を貼り合わせて、接合部は幅広、先端は細く作出されている。把手両側面には沈線を沿わせた連続爪形文が円孔を巡り、胴部は地文の横位回転単節縄文RLの上に渦巻沈線が描かれている。	砂粒 明褐色 普通	P285 5% SK-1046 覆土 (中峠)
3	把手 縄文土器	長さ(6.7) 幅(5.9)	橋状把手片。橋状把手を取り巻くように沈線、沈線状の連続刺突文が施され、胴部にも刻み目状の連続刺突文、沈線が描かれている。	石英・長石・雲母・ スコリア にぶい褐色 普通	P286 5% SK-1046 覆土 (中峠)
第237図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(7.8) C 6.3	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。胴部外面に単節縄文RLを施文し、底部から3cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石・雲母・ スコリア にぶい橙色 普通	P287 10% SK-1047 覆土 (加曾利E I)
第237図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(12.2) C 10.9	底部から胴部にかけての破片。平底で、中央に厚みを持つ。胴部は外傾して開く。内面横ナデ、外面縦方向のナデが施されている。	砂粒・長石・石英・ スコリア 橙色 普通	P288 20% SK-1050 覆土 (後期初頭か)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(6.2) C 2.9	底部から胴下部にかけての破片。小形の平底で、胴部は外傾して開く。内面ナデ、外面縦方向の磨きが施されている。	砂粒・長石・ スコリア 灰赤色 普通	P289 5% SK-1050 覆土 (安行)
第238図 1	把手 縄文土器	長さ(14.1) 幅(13.0)	深鉢形土器口縁部把手片。上・下段の隆線を橋状の把手が連結し、把手上端からは内面横長の「S」字状を描くと思われる隆帯で、孔を有する突起が取り付けられている。下段の隆線及び胴部隆線に沿って連続角押文が施されている。	石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P290 5% SK-1051 覆土 (阿玉台Ⅲ-Ⅳ)
第238図 1	甕形土器 縄文土器	A 29.7 B(29.6)	胴部から口縁部にかけての破片。内彎して口縁部に至る。口縁部は肥厚し、折り返されている。内面ナデ、外面削り後ナデで整形され、口縁部から胴部にかけての内・外面に煮炊きの際の吹きこぼれ痕が付着している。	砂粒・長石・ スコリア にぶい橙色 普通	P292 50% SK-1056 覆土 (安行Ⅲ a)
第239図 2	浅鉢形土器 縄文土器	A(29.7) B 12.3 C(12.0)	平底で、胴部は外傾して開き、頸部で屈曲して口縁部に至る。波状口縁で、波頂部に縦刻みを施した突起、波底部に上端が偏平で入り組み状沈線を施した小突起を有し、口縁部上端に施された沈線で結ばれている。口縁部には縄文帯、頸部には削り出しにより凸凹をつけた突起を連続したような突帯を波状口縁に対応して設け、区画内には入り組み三叉文を描き、部分的に縄文が施文されている。波頂部下には小突起が貼り付けられ、突帯が連結されている。突帯下には弧状上向き沈線間縄文帯、無文帯を挟んで沈線間縄文帯が底部を取り囲むように施文されている。口縁部内面及び外面無文部に磨きが施されている。	砂粒 黒褐色 普通	P293 25% SK-1056 覆土 (安行Ⅲ a)
第239図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A(42.8) B(8.6)	胴上部から口縁部にかけての破片。内彎して立ち上がり、口縁部は内側に屈曲して、上端は幅広で偏平に作出されている。内・外面横方向の磨きが施され、赤彩されている。	砂粒・長石・ スコリア 浅黄橙色 普通	P294 20% SK-1059 覆土 (中期中葉)
第240図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 28.4 B(46.2) C 8.0	胴部下位欠損。平底で、胴部はやや外傾して立ち上がり、頸部で外反した後短く内彎し、口縁部は直線的に僅かに開く。口縁部無文、直下に連続刺突による「コ」の字文が施されている。削り込みによる突起を8単位有する凸凹の突帯を頸部上位に巡らせ、突帯外面には平行沈線が突起部分を結んで施文されている。単節縄文RLが突帯側面は横位回転で、胴部は縦位回転で施文され、胴部には2本1組の綾繰り文が4単位垂下している。	石英・長石・雲母 褐色 普通	P366 60% SK-1061 覆土 (中峠)
第241図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(22.6) B(12.8)	胴部から口縁部にかけての破片。胴上部で緩やかに内彎しながら口縁部に至る。波状口縁で、口縁部は内削ぎ状、波頂部は台形状で、口縁部内側に沈線が施されている。口縁部の形状に沿った沈線が施され、口縁部外面には縄文帯が施文されている。胴部には沈線で「J」字文、スベード状文、銀杏の葉状等の文様が描かれ、区画内は単節縄文LRを充填、区画外は磨り消されている。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P295 20% SK-1062 底面 (称名寺1)
2	鉢形土器 縄文土器	A(23.0) B 9.6 C(5.0)	碗状で、内彎しながら口縁部に至る。口縁部に刻みを有する小突起が付けられ、内面ナデ、外面横方向の削りで整形されている。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P296 25% SK-1062 覆土 (安行Ⅲ a)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第241図 1	深鉢形土器 縄文土器	A〔37.6〕 B〔25.6〕	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は直立気味に立ち上がり、頭部で外傾して口縁部に至る。口唇部外面とその下に巡らされた隆帯で口縁部文様帯を区画し、上下の隆帯は「J」状の曲線で連結され、幅広い楕円形の区画内には隆帯に沿う連続爪形文、内部に蛇行沈線が描かれている。頭部は地文の縄文を磨り消して無文帯としているが、部分的に縄文が残されている。胴部文様帯はキャタピラ文と直下に横走る隆帯で頭部と分離し、直線的に垂下する隆帯が接続している。区画内は隆帯に沿って2～3本の沈線が地文の縄文の上に施文されている。	石英・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P297 20% SK-1063 覆土 (阿玉台Ⅳ)
第242図 1	深鉢形土器 縄文土器	A〔29.0〕 B〔14.3〕	胴上部から口縁部にかけての破片。直立気味に口縁部に至る。口縁部は肥厚し、外面に巡らせた沈線上に連続刻文が施されている。口縁部から胴部には右下がりに斜行する粗い条線が施され、部分的に磨り消されている。頭部には沈線間刻文帯が巡り、文様が分断されている。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P298 10% SK-1065 Ⅰ内 (安行Ⅰ)
2	異形台付土器 縄文土器	D〔5.2〕 E〔3.0〕	台部片。裾部から2段の沈線間刻文帯が巡り、磨消帯には穿孔が施されている。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 褐色 普通	P299 5% SK-1065 覆土 (安行Ⅰ)
3	把手 縄文土器	長さ(5.3) 幅(5.5)	口縁部把手片。丸みを持った器台形の把手で、上位にくびれが見られる。頂部に2か所、側面と内・外面に1か所1対づつの円形凹みが施され、磨きで整形されている。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P300 5% SK-1065 覆土 (加曾利BⅠ)
第242図 1	深鉢形土器 縄文土器	A〔22.0〕 B〔19.9〕	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口縁部は折り返しによる作出で肥厚し、沈線に沿わせた隆起帯縄文帯を口縁部以下4段に巡らされている。1段と2段、2段と3段は縦長貼り瘤により、部分的に連結されている。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P301 10% SK-1066 覆土 (安行Ⅰ)
2	鉢形土器 縄文土器	A〔14.7〕 B〔10.1〕	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は肥厚し、口縁部下に緩やかな上向き弧状の沈線が施文されている。胴中位に横走沈線を施し、直上に口縁部弧状沈線に対応する下向き弧状沈線が描かれ、上下の弧状沈線の連結部は鋸歯状沈線で結ばれている。	砂粒・雲母・ スコリア 黒褐色 普通	P302 20% SK-1066 覆土 (安行Ⅲb)
3	深鉢形土器 縄文土器	A〔4.7〕 B〔3.0〕	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。外面は縦方向の磨きが施されている。	砂粒 褐色 普通	P303 5% SK-1066 覆土 (安行)
4	小形広口壺 縄文土器	A〔13.5〕 B〔7.2〕	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、頭部でくびれ、口縁部は外傾する。口縁部上端に瘤状突起を2個1組で有し、内面横方向の磨き、外面横方向のナデが施されている。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P304 15% SK-1066 覆土 (安行Ⅲa)
第243図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 16.4 B〔12.4〕	胴部中位以下欠損。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は肥厚し、肥厚部に縄文帯が施されている。上と外に突出する縦刻みを施した横長の突起が対で8単位、口縁部上端及び外面に貼り付けられ、口縁部下で対になる位置に孔が2か所穿たれている。口縁部以下沈線区画で楕円形、内部磨り消しの杵状文、その下に沈線区画で上向き弧状の縄文帯が口縁部突起間に対応して8単位施され、縄文帯は3か所の縦刻みを施した貼瘤で連結されている。口縁部と同様の突起が、口縁部突起の中間の位置に対応して胴上位の最大径部に貼り付けられ、突起から派生する入り組み沈線文が突起間を結び、単節縄文が隙間に施文されているが、突起の上は部分的に磨り消されている。以下口縁部下の文様帯と同様、沈線区画の長楕円形の磨消帯、縄文帯と文様帯が展開され、最大径部の貼瘤に対応する位置に貼瘤が加えられている。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P305 30% SK-1067B 覆土 (安行Ⅲa)
第243図 1	深鉢形土器 縄文土器	A〔34.4〕 B〔27.4〕	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は僅かに内彎しながら立ち上がり、頭部でくびれ、外反して口縁部に至る。口縁部は僅かに波状を呈し、口唇部外面に沈線が巡らされている。数本1組の沈線が口縁部から胴部に直線的に施文され、胴部に施された縄文を切断している。沈線の器面への食い込みは浅い。	石英・長石・雲母・ スコリア にぶい橙色 普通	P306 30% SK-1069 覆土 (堀之内Ⅰ)
第244図 2	深鉢形土器 縄文土器	A〔36.0〕 B〔30.2〕	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は外削ぎ状で、直下に半截竹管による沈線が巡らされている。胴部外面には縄文が施文されている部分と幅広い絡状体縄文が施されている部分が見られる。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P307 30% SK-1069 覆土上層 (堀之内Ⅰ)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	浅鉢形土器 縄文土器	A (37.6) B (10.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、頸部で屈曲し、口縁部は外反する。口縁部無文で、頸部には幅広の沈線内に鋸歯状粘土紐貼り付け後、交互刺突による連続「コ」字状文が巡らされている。頸部から肩部の幅で突帯を巡らし、縦の平行短沈線で区画された内部に横長楕円区画の沈線あるいは横沈線を施し、部分的に連続爪形文が施されている。	石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P308 10% SK-1069 覆土上層 (中峠)
4	鉢形土器 縄文土器	A (21.2) B (6.8)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部が内彎する椀状で、口縁部が僅かに肥厚する。口縁部上端に2個1組の小突起を施し、突起及び突起間には刻み加えられている。口縁部下に短沈線、胴下位に平行沈線を巡らせ、短沈線の下に上向き弧線、平行沈線の上に下向き弧線を描き、区画内を磨り消し、他は口縁部から胴部に単節縄文RLが充填されている。	砂粒・雲母・ スコリア 黒褐色 普通	P309 5% SK-1069 覆土 (安行Ⅲb)
第244図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (26.3) B (22.4)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立気味に立ち上がり、頸部で外反し、口縁部は短く直立する。口縁部は断面角状に作出され、内側に稜が施される。沈線を沿わせた隆線を上下に巡らせて口縁部文様帯を区画し、上下の隆線はクランク状の沈線を沿わせた平行隆線で結ばれ、隙間は磨り消されている。胴部は単節縄文LRが施文されている。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P315 30% SK-1080 覆土 (加曾利E I)
2	深鉢形土器 縄文土器	A (23.4) B (15.5)	胴部は直立気味に立ち上がり、口縁部は外反してラッパ状に開く。口縁部外面は磨り消しの無文帯で、頸部には上下に沈線を施した二重隆線による長楕円形を連続して描き、口縁部と胴部の文様帯が分離されている。楕円形の接点には口縁部に突出する半円状の隆線が施されている部分もある。胴部には縦位回転の単節縄文LRを施文し、3本1組の平行沈線が垂下し、文様が分断されている。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P316 10% SK-1080 覆土 (大木8a)
第245図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (42.0) B (11.4)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して口縁部に至り、口縁部内面は内削ぎ状で稜が施されている。口縁部外面に隆帯が巡り、上向き弧状の隆帯が接続した枠内には隆帯に沿うキャタピラ文、鋸歯状沈線、半截竹管による平行沈線文が枠に対応して施文されている。	砂粒 赤褐色 普通	P318 20% SK-1090 覆土 (阿玉台Ⅲ)
2	深鉢形土器 縄文土器	B (9.5)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部下に巡る上下2段の隆帯を、楕円形が連続するように橋状に縦の隆帯で接続している。上段の隆帯には連続刺突が施され、口縁部との間には微隆起線で長方形や菱形のモチーフが描かれている。胴部文様は摩滅が著しく詳細不明である。	砂粒・長石 橙色 普通	P319 5% SK-1090 覆土 (大木8a)
3	把手 縄文土器	長さ(4.8) 幅(9.1)	波状口縁波頂部の台形状把手片。波頂部両側に孔を有し、内・外面沈線を伴う隆線で縁取られ連結されている。頂部より下がる隆線によって表出された枠内には、隆線に沿いキャタピラ文が施されている。	長石・雲母・砂粒 赤褐色 普通	P320 2% SK-1090 覆土 (阿玉台Ⅲ)
第246図 1	異形台付土器 縄文土器	A (5.8) B 8.0 D 4.2 E 3.2	台部は「く」の字状で、胴部はやや外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部上端には連続刻文が巡り、上端及び外面に刻みを施した横長の突起が2個1組で4単位貼り付けられている。胴部中位には刻みを施した中空でラッパ状の突起と横刻みを施した円形の突起が2単位ずつ交互に口縁部突起に対応して貼り付けられている。上下の突起間には縦長の孔が穿たれ、上下左右の突起は僅かに弧状を呈する沈線区画の刻文帯で連結されている。台部と胴部の境には沈線が巡り、沈線から台部、胴部に縦方向の沈線が派生している。台部中位には横長でやや弧状の沈線区画の刻文帯を括弧状に4単位施し、胴部の突起に対応するブタ鼻状突起で連結されている。裾部にも沈線を沿わせた刻文帯が施されている。	砂粒・長石 橙色 普通	P321 90% SK-1091 覆土 (安行Ⅱ)
第246図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 27.5 B (25.8)	胴下部から底部にかけて欠損。胴部は直立気味に立ち上がり、頸部で外傾して口縁部に至る。口縁部は山形の波頂部を3単位有する波状口縁で、1か所のみ外面に連続爪形文を加えた環状の突起が付けられている。口唇部には外削ぎ状の隆帯が巡り、隆帯中央に沈線が加えられ、沈線の両側には連続爪形文が加飾されている。口唇部と口縁部下位に巡る隆帯で口縁部文様帯が区画され、内部に下段の隆帯から派生する曲線が隆帯で、隙間には斜行沈線が施文されている。隆帯上には連続爪形文、部分的に連続爪形文や沈線が隆帯に沿ってそれぞれ描かれている。頸部は無文である。胴部は上位に連続爪形文が施され、以下に連続爪形文を加えた三角形の区画文を描き、区画に沿って連続爪形文、平行沈線を施文し、内部に縦の細沈線が充填されている。区画外も同様の文様が施されている。	石英・長石・雲母・ スコリア 褐色 普通	P322 70% SK-1092 底面 (阿玉台Ⅳ)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第247図 2	深鉢形土器 縄文土器	A(30.0) B(25.5)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立気味に立ち上がり、頸部で外傾した後僅かに内彎しながら口縁部に至る。口径はやや歪み、口唇部上端には3単位の突起を有するものと思われる。突起の形状は欠損のため不明である。口縁部は外側に沈線、内側に幅広の角押文と沈線を沿わせた楕円形の杵状文を2個1組で3単位施文していると思われる。杵状文の連結部分は、両側の隆帯がせり上がることで環状になり、突起直下に位置している。頸部には上に沈線、下に角押文を沿わせた隆帯を巡らせ、以下胴部には角押文を沿わせた隆帯で楕円形状のモチーフが描かれている。口縁部隆帯及び器面全体に単節縄文R Lが施文されている。	石英・長石・雲母 暗褐色 普通	P324 20% SK-1092 覆土 (阿玉台IV)
3	浅鉢形土器 縄文土器	A(42.0) B(13.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して開き、肩部で屈曲し、口縁部は短く外反し、内削ぎ状に作出されている。口縁部下を巡る沈線と肩部の間に縦方向の結節沈線文、縦、横及び渦状の沈線文が描かれている。内・外面磨きで整形されている。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P325 20% SK-1092 覆土 (中期中葉)
4	深鉢形土器 縄文土器	A 8.3 B 10.1 C 6.0	小形の深鉢形土器。平底で中央部に厚みを持ち、胴部は直立気味に立ち上がり、口縁部は短く外反する。単節縄文R Lが横位回転で施文され、底部から2~3cmは無文となっている。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 橙色 普通	P326 100% SK-1092 覆土 (阿玉台III~IV)
第248図 1	鉢形土器 縄文土器	B(13.8) C 8.8	底部から胴部にかけての破片。突出気味の平底で、胴部は僅かに内彎しながら外傾して開く。胴上位は沈線で区画された内部に単節縄文R Lが充填され、胴部内面及び外面区画外は横方向の磨きが施されている。底部に網代痕が残されている。	長石・雲母・ スコリア 明赤褐色 普通	P327 30% SK-1099 覆土 (加曾利B2)
2	鉢形土器 縄文土器	B(3.0) C(4.2)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。胴部外面に単節縄文R Lが施文されている。	砂粒・雲母 橙色 普通	P328 5% SK-1099 覆土 (加曾利B2)
第248図 1	把手 縄文土器	長さ(12.3) 幅(10.3)	口縁部把手片。三角錐状の立体的な中空把手で、把手内面に1か所、側面に上下2か所で1対の孔が穿たれている。側面の孔は隆線上刻文帯、隆線及び隆線上刻文帯の三重の縁取りが施され、外面の稜線上にも連続の刻みが施されている。把手内面には輪郭に沿った沈線が施されている。	雲母・長石 にぶい褐色 普通	P329 5% SK-1104 覆土 (中峠)
2	手捏土器 縄文土器	長さ3.7 幅5.1 厚さ3.6	粗雑な作りの手捏土器で、用途は不明である。	砂粒・雲母・ スコリア 橙色 普通	P330 100% SK-1104 覆土
第249図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(19.6) B(9.6)	胴上部から口縁部にかけての破片。頸部で外反した後口縁部に至る。口縁部内面に粘土を貼り付け、上端を扁平に、内・外面磨り消して作出されている。口縁部磨り消し無文帯の直下に巡らせた幅広の沈線間に小形の「U」字状粘土紐を連続して貼り付け、刺突を加えることで文様が強調されている。口縁部から胴上部には中央に沈線を巡らせたドーナツ状の円形突起を、口縁部上端には円形突起を挟むように突起が加えられている。胴部には縦位回転の単節縄文R Lが施文されている。	砂粒・スコリア 赤色 普通	P331 5% SK-1109 覆土 (中峠)
2	深鉢形土器 縄文土器	長さ(8.5) 幅(10.7)	口縁部片。波状口縁で、口縁部に巡る上下の隆帯を結ぶ橋状把手を有し、隆帯及び把手外面には縄文が施文されている。隆帯間には橋状把手を挟んで隆線上爪形の交互刺突文と円形の交互刺突文が2段施されている。	石英・長石・雲母・ 砂粒 にぶい橙色 普通	P332 5% SK-1109 覆土 (中峠)
第249図 1	把手 縄文土器	長さ(10.6) 幅(9.5)	口縁部把手片。波状口縁波頂部把手片で、側面の最大厚部分は5.0cmである。把手内面及び頂部に1か所ずつ、外面に2か所、刺突間沈線を加えた長楕円形の突起を有し、側面にも刺突間沈線が1か所ずつ加えられている。口縁部波頂部内面には刺突、外面には口縁に対応する山形の沈線が施文されている。	砂粒・長石・ スコリア 浅黄橙色 普通	P333 5% SK-1111 覆土 (称名寺2)
第249図 1	注口土器 縄文土器	長さ(8.7) 幅(3.6)	注口部片。胴部に約30度の角度で上向きに付くものと思われる。基部外径3.8cm、内径1.8cmで、外面ナデが施されている。	砂粒・雲母・ スコリア にぶい褐色 普通	P334 5% SK-1114 覆土 (後期)
第250図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(24.8) B(13.8)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、外反気味に口縁部に至る。口縁部は指頭による作出で突出し、内面は頸部に稜が設けられている。胴部外面は縦方向の磨きが施され、胴部上位に半円形の隆線が2個連続で貼り付けられている。内面に煤が付着している。	砂粒 橙色 普通	P335 10% SK-1117 覆土 (阿玉台IV~ 加曾利E I)
2	深鉢形土器 縄文土器	長さ(7.0) 幅(14.6)	口縁部片。口縁部を巡る上下の隆帯を、橋状の把手で連結している。把手外面には沈線を沿わせた隆線で末端が渦巻のモチーフを描く曲線が施されている。上下の隆帯には楕円形の孔が加えられている。	石英・長石・雲母・ 砂粒 橙色 やや不良	P336 5% SK-1117 底面 (大木8a)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徵	胎土・色調・焼成	備考
3	把手 縄文土器	長さ(11.9) 幅(10.6)	波状口縁の波頂部把手片。波頂部に円形の把手を縦方向に取り付け、連続刻文を施した隆帯が、把手周囲及び口縁部上端両側に施されている。一方の把手側面には隆帯間に末端が渦巻を描く沈線、もう一方には口縁部に流れる刻みを施した渦巻隆帯が施文されている。隆帯で区画された波頂部外面には沈線で下向き半月状のモチーフ、さらに内部に弧を描く山形沈線文が施文されている。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P337 5% SK-1117 底面 (阿玉台Ⅳ)
第251図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(12.3)	胴上部片。胴部は直立し、頸部から外反する。縦位回転の単節縄文R Lが地文として施されている。頸部に巡る隆線と斜行する隆線の区画に沿って半截竹管による平行沈線が描かれ、内部にも縦方向の鋸歯状あるいは直線が平行沈線で描かれている。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P342 15% SK-1124 覆土 (阿玉台Ⅳ)
2	浅鉢形土器 縄文土器	A(37.7) B(12.9)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。口縁部外面は横位回転の単節縄文R Lが施され、直下に半截竹管による平行沈線文が巡らされている。肩部にやや下向きの弧状を描く隆帯を連続して貼り付け、せり上がりにより連結部は突出して表出されている。突帯に沿って直上に平行沈線文が走り、胴部には縦位回転の単節縄文R Lが施文されている。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P341 15% SK-1124 覆土 (阿玉台Ⅳ)
3	把手 縄文土器	長さ(9.5) 幅(9.4)	波状口縁波頂部の把手片。頂部に付く環状の把手で、縄文施文の隆帯が把手から口縁部に派生している。把手中央に指頭による沈線が加えられている。	石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P343 5% SK-1124 覆土 (阿玉台Ⅳ)
第251図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(6.5) C 6.0	底部から胴下部にかけての破片。やや丸みを持つ底部で、胴部は外傾して開く。胴部に単節縄文R Lが縦位回転で施文され、沈線間磨消帯が胴下部まで垂下し、底部から3~4cmは磨り消されている。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P344 5% SK-1128 覆土 (加曾利EⅡ~Ⅲ)
第251図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A(37.0) B(5.7)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴上部は内彎して口縁部に至り、口縁部は短く直立する。口縁部は肥厚し、断面角状で上端は平坦に作出されている。内・外面赤彩されている。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P345 5% SK-1130 覆土 (加曾利EⅠ)
2	深鉢形土器 縄文土器	A(16.3) B(5.1)	胴上部から口縁部にかけての破片。やや反り気味に外傾して口縁部に至る。口縁部折り返し痕が内面に残り、上端は外削ぎ状に作出されている。内面横ナデ、外面口縁部無文で、胴部に単節縄文R Lが横位回転で施文されている。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P346 5% SK-1130 覆土 (加曾利EⅠ)
第252図 3	深鉢形土器 縄文土器	A(20.0) B(5.5)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がり、口縁部は外側に突出する。口縁部指頭によるナデ、胴部内面横ナデ、外面縦方向のナデで整形されている。	砂粒・雲母・長石・ スコリア にぶい赤褐色 普通	P347 5% SK-1130 覆土 (加曾利EⅠ)
4	把手 縄文土器	長さ(9.4) 幅(12.8)	波状口縁の波頂部把手片。山形の把手で、外面に3本の隆帯を貼り付け、両脇の隆帯には口縁部隆帯に続いて、短沈線、渦巻文、連続爪形文等が施文されている。隆帯で区画された三角形内には単節縄文R Lが縦位回転で施文されている。	石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P348 5% SK-1130 覆土 (加曾利EⅠ)
第253図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A(28.0) B(14.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は短く外傾する。口縁部上端は平坦で、外削ぎ状に作出され、内面頸部直上に太く偏平な沈線が巡らされている。肩部には緩やかな波状を描く隆線と上下対称で描き、幅広の区画内に隆線による円形のモチーフが描かれている。上段の隆線は幅広の部分で口縁部下から派生する隆線と接続し、頸部と肩部の間にできた区画内には隆線に沿う沈線、内部に縦の短沈線が施文されている。口縁部外面は赤彩されている。	長石・雲母・ スコリア にぶい赤褐色 普通	P350 20% SK-1136 覆土 (加曾利EⅠ)
第253図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(24.0) B(31.5) C 8.4	平底で、胴部はやや外傾して立ち上がり、頸部から外反気味に口縁部に至る。口唇部は突出して作出され、内面寄りに沈線を巡らせている。形状の異なる把手を2単位有し、両方とも口縁部下は環状、口縁部からは片方は孔を有する立体的な把手、もう一方は外面に隆帯と連続爪形文、「C」字状爪形文で文様を施した把手が付けられている。頸部に段差を有し、上下2つの文様帯に分離される。1文様帯は半截竹管による平行沈線文と縦2列の「C」字状爪形文を交互に施文している。2文様帯は偏平な竹管による沈線状の連続刺突文、半截竹管による平行沈線文を沿わせた隆線、「C」字状爪形文で逆三角形の文様を構成し、4単位配している。2文様帯以下は無文である。	砂粒・長石・ スコリア 明赤褐色 普通	P351 90% SK-1139 覆土 (勝坂Ⅱ)
2	鉢形土器 縄文土器	A 16.0 B 9.8 C 8.0	平底で、胴部は外傾して開いた後内彎し、口縁部は短く外反する。肩部に押捺を加えた隆帯が巡り、口縁部と隆帯がせり上がって上下を結ぶ橋状把手が1単位付けられている。外面は無文で、削りで整形されている。	砂粒・雲母・長石・ スコリア にぶい橙色 普通	P352 100% SK-1139 覆土 (勝坂Ⅱ)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第254図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(14.2) B(15.4)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、頸部から外反気味に直立して口縁部に至る。口縁部から肩部にかけては磨り消しの無文帯で、頸部から肩部にかけて張り出すように作出されている。肩部を巡る沈線以下に胴部文様帯が展開され、沈線で「∩」状のモチーフが描かれ、区画内に複節縄文LRLが施文され、区画外は磨り消されている。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P355 20% SK-1141 覆土 (大木9)
第254図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(27.4) C(13.4)	底部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に外傾して立ち上がる。胴部外面はキャタピラ文を沿わせた隆線で曲線と直線を組み合わせた区画文を描き、区画外には粗い縦方向の条線が施されている。胴部中に条線文を切断する沈線が施されている。底部から8~10cmは磨り消され、文様は施されていない。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P356 20% SK-1143 覆土 (阿玉台Ⅲ)
第254図 1	台付土器 縄文土器	B(4.9) E(3.0)	台部片。断面が台形で、胴部と台部の接合部に沈線間刻文帯を巡らせ、台部外面には単節縄文LRLが充填されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P357 10% SK-1144 覆土 (加曾利B3)
第254図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(33.8) B(15.9)	胴上部から口縁部にかけての破片。頸部でくびれた後、外反して口縁部に至る。口縁部直下に沈線が施され、沈線以下に胴部文様帯が展開される。胴部に単節縄文LRLを地文として施した後、沈線で区画文、弧線文が施されている。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P359 10% SK-1151 覆土 (堀之内1)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(4.1) C 8.4	底部から胴下部にかけての破片。やや突出気味の平底で、胴下部は直立気味に立ち上がる。外面横磨き、底部中央に土器作成時の痕跡と思われる沈線が残されている。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P360 10% SK-1151 覆土 (堀之内か)
第255図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A(36.0) B(10.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部はやや内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部は突出する。口縁部は外削ぎ状で、平坦に作出され、内面口縁部と胴部の境に段差が設けられている。内・外面横ナデで整形されている。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P361 5% SK-1153 覆土 (加曾利EⅠか)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(3.8) C(10.4)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴下部はやや外傾して立ち上がる。底部に網代痕が残されている。	砂粒・長石・雲母・ 石英 明赤褐色 普通	P362 5% SK-1153 覆土 (中期中葉)
第255図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(2.3) C(7.6)	底部から胴下部にかけての破片。底部は平底で突出しており、胴下部は内傾気味に立ち上がる。胴下部外面は磨きが施され、底部に網代痕が残されている。	砂粒・雲母・ スコリア 明赤褐色 普通	P363 5% SK-1157 覆土 (堀之内)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(4.9) C(7.0)	底部から胴下部にかけての破片。底部はやや上げ底で突出気味、胴下部は外傾する。胴下部まで沈線による区画文が描かれ、枠内磨り消し、枠外単節縄文LRLが充填されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P364 5% SK-1157 覆土 (称名寺2)

土坑出土土製品観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第218図2	土製円板	5.8	6.0	0.8	35.4	100	表面に単節縄文R L及び磨消帯施文 裏面に未貫通孔	DP49 SK-760 覆土
第219図7	土製円板	3.8	3.7	1.0	19.1	100	表面に波状条線 裏面磨き	DP51 SK-766 覆土
第220図1	耳飾り	4.4	—	1.8	24.4	100	半滑半環形で、孔径は0.8cm。表面に、孔を取り巻くように縦刻みを施した瘤を4単位貼り付け、外周にも2個1組の突起が6単位貼り付けられている。	DP52 SK-778 覆土 砂粒・長石・スコリア・石英 灰褐色 普通 (後期後葉)
第236図6	土製円板	4.9	(2.8)	0.9	(13.8)	50	表面に単節縄文R L 表・裏面に未貫通孔	DP57 SK-1044 覆土
第241図3	土製円板	4.9	4.5	1.0	27.2	100	表面に単節縄文R L	DP58 SK-1063 覆土
第246図3	耳飾り	(6.6)	(5.8)	2.0	(7.0)	20	有文内環形。表面に沈線による長楕円形の区画内に横位沈線を施した単位文が3~4単位描かれると思われる。表面及び側面は磨きが施されている。	DP60 SK-1091 覆土 砂粒・長石 暗赤灰色 普通 (晩期前葉)
第249図2	土 偶	(4.0)	(5.4)	(3.6)	(46.1)	15	頭部片。眉と鼻は連結し、鼻孔が施され、目は沈線で表現されている。頬下及び頭頂部に段差を有し、眉上から後頭部にかけて刺突文が施されている。	DP61 SK-1110 覆土 砂粒・長石 にぶい橙色 普通 (後期中葉~後葉)
第249図3	土製円板	3.3	3.4	0.9	11.7	100	表面に単節縄文R L	DP62 SK-1111 覆土
第251図4	土製円板	3.4	3.3	0.9	11.7	100	無文	DP63 SK-1124 覆土
第254図1	土製円板	4.8	4.1	1.1	22.1	100	無文	DP64 SK-1145 覆土

土坑出土石器観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第214図12	磨石	6.6	6.0	4.9	(254.2)	安山岩	Q89 一部欠損 SK-325 覆土
13	磨石	5.9	5.2	3.5	149.5	安山岩	Q90 敲石兼用 SK-325 覆土
14	石鏃	3.0	1.6	0.5	0.5	頁岩	Q91 平基有基鏃 SK-325 覆土
第214図4	磨石	7.6	6.6	3.9	315.0	安山岩	Q92 敲石兼用 両面に僅かな凹み SK-503 覆土
第218図1	球状耳飾り	3.5	(2.4)	0.7	(7.2)	粘板岩	Q132 欠損品 SK-762 覆土
第220図5	磨石	5.8	4.9	3.8	182.6	安山岩	Q93 敲石兼用 両面及び側面に凹み SK-768 覆土
第220図1	石錘	4.8	4.0	1.6	47.0	砂岩	Q95 SK-773 覆土
第220図1	磨石	5.6	5.1	4.0	181.0	安山岩	Q96 敲石兼用 SK-777 覆土
第222図15	磨石	6.5	6.2	4.8	279.1	安山岩	Q97 SK-781 覆土
第224図3	石皿	(11.0)	(8.7)	(7.1)	(550.1)	安山岩	Q98 凹石兼用(底面) 内面煤付着 SK-790 覆土
第224図1	浮子	4.6	4.4	1.5	4.3	軽石	Q99 有孔 SK-794 覆土
第224図6	石鏃	1.8	1.5	0.4	0.8	チャート	Q100 凹基無基鏃 SK-796 覆土
第229図7	敲石	6.1	5.5	3.4	146.9	安山岩	Q102 両面に凹み SK-852 覆土
第233図3	磨石	6.3	6.3	4.6	271.1	安山岩	Q106 敲石兼用 SK-951 覆土
第237図6	磨石	8.7	6.2	4.3	366.7	安山岩	Q107 敲石・凹石兼用 SK-1047 覆土
7	磨石	6.5	6.2	3.9	276.3	安山岩	Q108 両面に凹み SK-1047 覆土
8	敲石	5.8	6.0	4.2	127.9	安山岩	Q109 SK-1047 覆土
第239図8	磨石	6.7	5.6	3.2	215.9	安山岩	Q110 敲石兼用 両面に凹み SK-1056 覆土
第240図2	磨製石斧	(7.8)	4.4	5.2	(119.2)	緑泥片岩	Q111 定角式 刃部欠損 SK-1061 覆土
第241図4	石棒	(8.1)	(5.0)	(4.5)	(260.9)	緑泥片岩	Q112 有頭 SK-1063 覆土
第243図9	磨石	8.4	(4.8)	4.2	(198.2)	安山岩	Q113 被熱及び煤付着 2/3欠損 SK-1066 覆土
第243図1	浮子	8.0	5.3	2.2	(23.9)	軽石	Q114 有孔 一部欠損 SK-1067A 覆土
第244図4	石鏃	1.6	1.4	0.5	0.9	チャート	Q121 平基無基鏃 SK-1091 覆土
第248図3	敲石	9.4	5.2	2.3	183.6	泥岩	Q123 磨製石斧の刃部 欠損品の再利用か SK-1104 覆土
第249図3	磨石	7.4	4.2	4.2	364.8	安山岩	Q124 敲石兼用 表・裏面に僅かな凹み SK-1109 覆土
4	磨石	6.5	6.0	4.5	248.4	安山岩	Q125 敲石兼用 表・裏面に僅かな凹み SK-1109 覆土
5	磨石	6.0	5.5	3.5	206.6	安山岩	Q126 表・裏面に凹み SK-1109 覆土
第249図1	敲石	11.4	5.4	3.2	286.3	砂岩	Q127 SK-1112 覆土
第252図11	敲石	10.0	5.3	3.3	280.2	砂岩	Q130 SK-1130 覆土
第254図1	ナイフ形石器	4.7	1.5	0.7	2.8	黒曜石	Q131 SK-1146 覆土上層

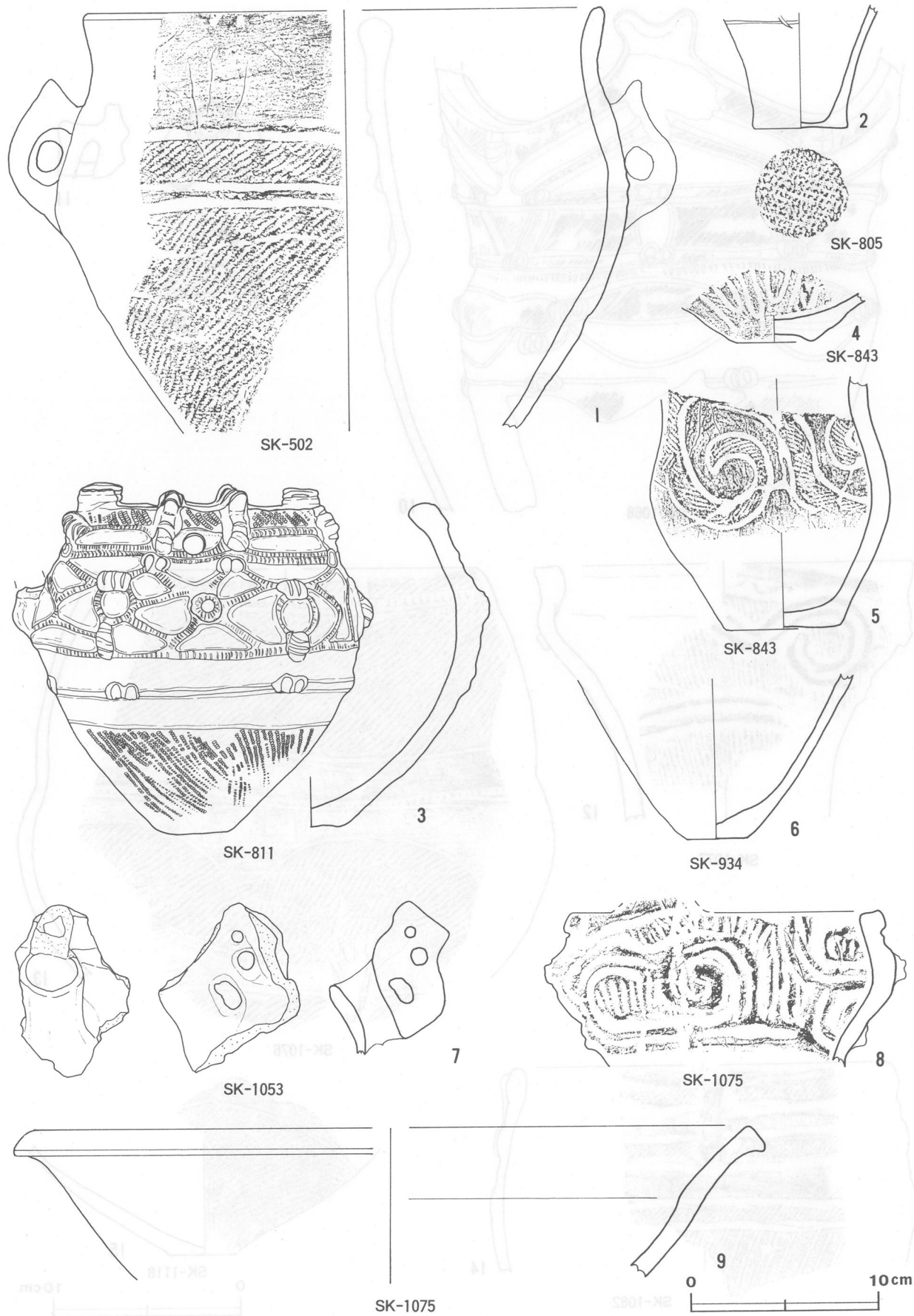
④ その他の土坑

ここでは、遺構平面図を掲載しなかった土坑の出土遺物についての実測図、拓影図の掲載及び解説を記述する。

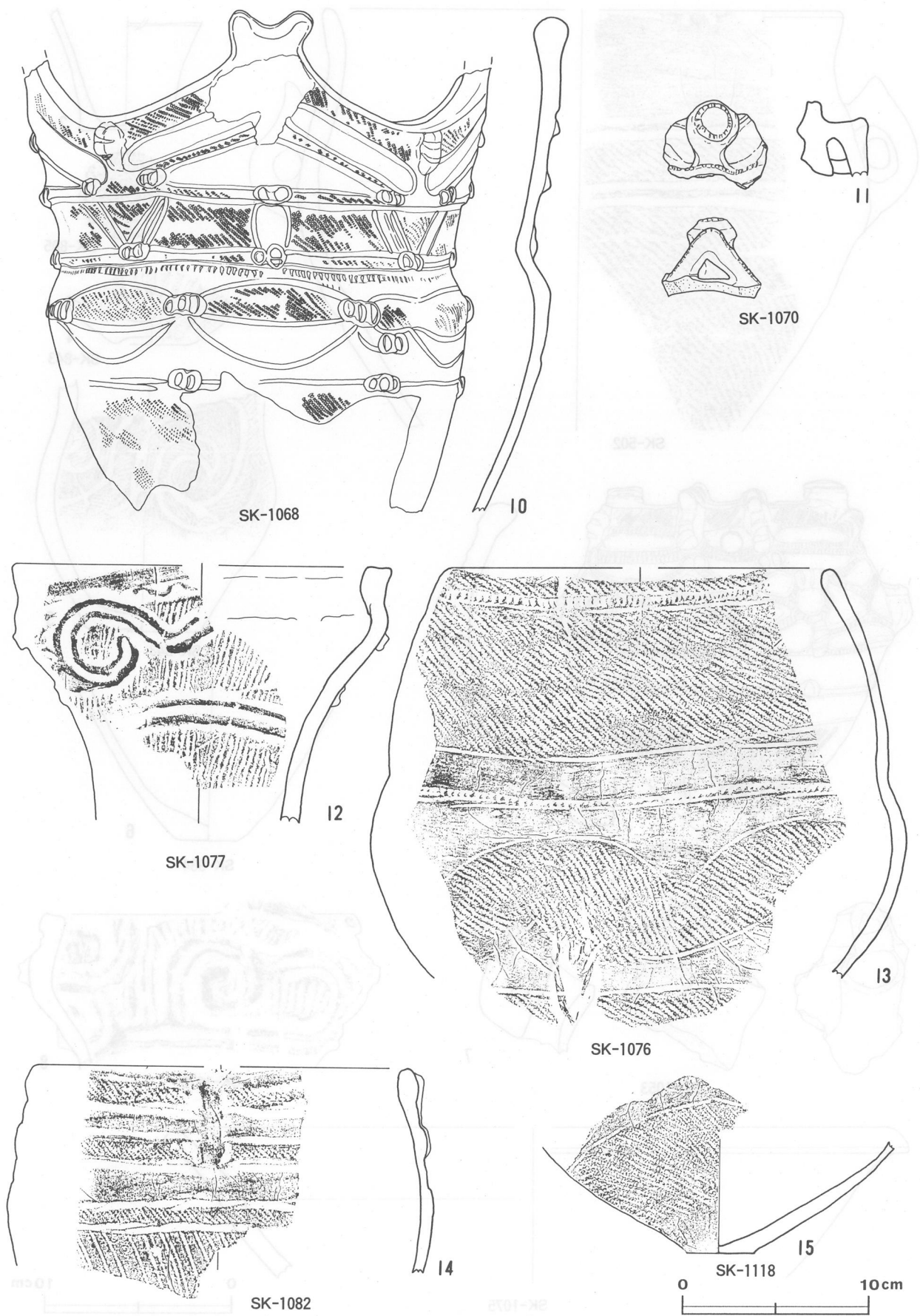
第261～264図1～56は遺構平面図を掲載しなかった土坑から出土した縄文土器片の拓影図である。

17, 20, 21, 26, 56は中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式にかけての土器である。17, 20は浅鉢形土器の口縁部片で、外面無文である。17は口縁部内面に隆帯による区画的文様が見られ、赤彩されている。20は口縁部と胴部の内面境に段が見られる。21は撚糸文、56は単節縄文が施され、26は隆線による区画内に爪形文と鋸歯状沈線が施文されている。55は中期勝坂Ⅱ式の影響が見られる口縁部片で、半截竹管による平行沈線が施され、隆帯上に幅広の爪形文が見られ、円形の小突起が口唇部に付けられている。4, 13, 30, 51, 53は中期加曽利EⅠ式に比定される土器の口縁部片で、4は短沈線、13, 53は渦巻文が口縁部文様帯に描かれ、51には舌状の突起が付けられている。30は口唇部上端に沈線が見られ、沈線を沿わせた隆線で口縁部文様帯が構成されている。34は口縁部区画文の中に渦巻文が見られ、中期加曽利EⅡ式の範疇と思われる。6, 29, 35は撚糸文が地文の胴部片で、6は横方向に施文、35は3本の平行沈線が垂下し、29には斜行する平行沈線と補修孔が見られる。35は中期加曽利EⅡ式、29は中期加曽利EⅡ～Ⅲ式にかけてと思われる。2, 10, 11, 12, 28, 33は中期加曽利EⅢ式に比定される土器で、28は把手、10, 33は口縁部片で、他は胴部片である。2, 10, 11, 12は磨り消しを伴う隆起線により区画文が描かれ、区画内は縄文が施文されている。28は突起頂部に渦巻文、外面に刺突文が見られる。33は胴部に沈線区画の磨消帯が施されている。39は大木8b～9式の影響が見られる胴部片で、地文の縄文の上に渦巻文や縦横に走る沈線が描かれている。14, 18, 19は微隆起線区画の磨消帯が見られ、中期加曽利EⅣ式に比定される土器である。16は口縁部無文帯下に隆起線と舌状突起が見られ、胴部には条線が施文されており、後期初頭の段階と思われる。1は沈線で区画文が描かれているが、外面摩滅が著しく詳細は不明である。後期称名寺式の範疇と思われる。52, 54も後期称名寺式の土器片で、54は沈線区画外に縄文が施文され、52は区画内に列点文が描かれ、前者は1式、後者は2式に比定される。3は胴部に縄文が施文され、22は口縁部に横「8」字状の突起が付され、突起下から沈線が胴部に施文されている。いずれも後期前葉の範疇と思われる。9, 15, 32, 37, 41, 47は後期堀之内式に比定される土器で、9, 32は胴部片、他はすべて口縁部片である。9は地文の縄文上に斜行沈線が直線的に描かれている。32も縄文地文で、半截竹管による平行沈線が橋状把手の下は曲線を描いてから胴部に垂下している。41は口唇部下に横走沈線、胴部は区画文及び区画内も直線的沈線で構成されている。15は口唇部沈線上に刻みを有する突起、胴部は縄文地文が沈線区画の直線的磨消帯に分断されている。37は波状口縁で、波頂部の刺突文以下蛇行沈線が胴部に垂下し、磨消部分と縄文施文部分に分かれている。47は口縁部に横走沈線を分断する刺突文が見られ、胴部は地文の縄文を直線的な区画文が切り、区画間は短沈線が縦に連続で施されている。5, 7, 24, 25, 27, 46は後期加曽利B式に比定される土器で、7は胴部片、他は口縁部片である。7は胴中位にくびれを持ち、くびれ部に沈線区画の刻文帯の上は下向き、下は上向き弧線が描かれ、弧線内は縄文が施文されている。5, 46は口唇部上端に刻文が施され、5は偏平な突起が貼り付けられている。24は平行沈線を切る入り組み状の曲線が見られる。25は波状口縁の鉢形土器で、口縁部刻文帯以下に縄文が施文され、27は口唇部上端に沈線が施され、以下刺突を加えた粘土紐が口縁部から垂下し、横の粘土紐と連結している。隙間には沈線で曲線的な文様が描かれ、区画外に縄文が施文されている。8, 31, 42, 43, 45, 48, 49は後期安行Ⅰ式に比定される土器である。8, 31, 43は粗製土器の口縁部片で、8は刻み状の刻文帯、31は粘土紐貼り付けの刻文帯が2段、43は沈線区画の縄文帯が2段見られる。

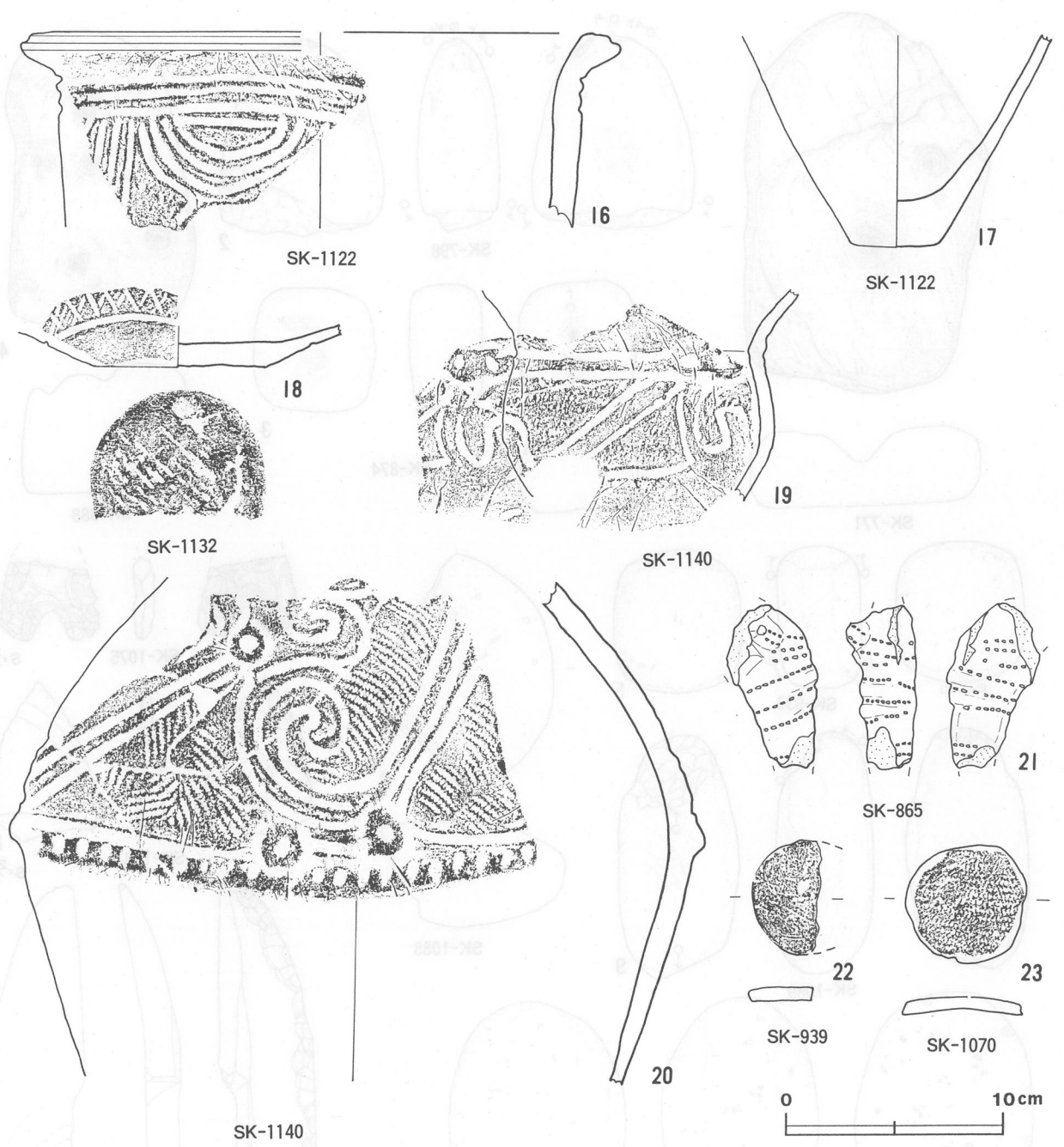
42, 45, 48は口縁部以下に多段の隆起帯縄文が施されている土器で、42は沈線区画で3段、胴部下半は縦の条線が施文されている。45は口縁部が幅広で、波状口縁の下に孔が穿たれ、縄文帯は貼瘤で接続されている。48は縄文帯に沿って刻文が施され、胴部には上向き弧線の区画内に縄文が施文されている。49は口縁部が外反し、口唇部外面に刻文が施され、以下は縦の条線が施文されている。50は後期安行Ⅱ式に比定される土器で、口唇部に縦長貼瘤で、口縁部は縄文帯、胴部は隆起帯刻文が要所でブタ鼻状貼瘤で接続されている。44は後期安行Ⅱ式～晩期安行Ⅲa式にかけての土器と思われ、横の条線を切る蛇行沈線が見られる。38は後期安行Ⅱ式～晩期安行Ⅲa式の範疇の土器で、口縁部に帯縄文が施文され、沈線以下は僅かに斜行すると思われる沈線が施され、上位には縄文が施文されている。23, 38は晩期安行Ⅲb式の範疇と思われる。23は浅鉢形土器で、口唇部に小突起、口縁部文様帯に弧線文、胴部下半に平行沈線が施され、部分的に縄文が施文されている。38は口唇部上端に小突起が付され、以下縦、斜め及び曲線的な文様が沈線で描かれ、縄文施文部分と磨り消し部分が見られる。40は大洞B式の影響が見られる波状を呈する口縁部片で、ほぼ垂直に立ち上がる。縄文帯間の磨り消し部に三叉文が施文されている。



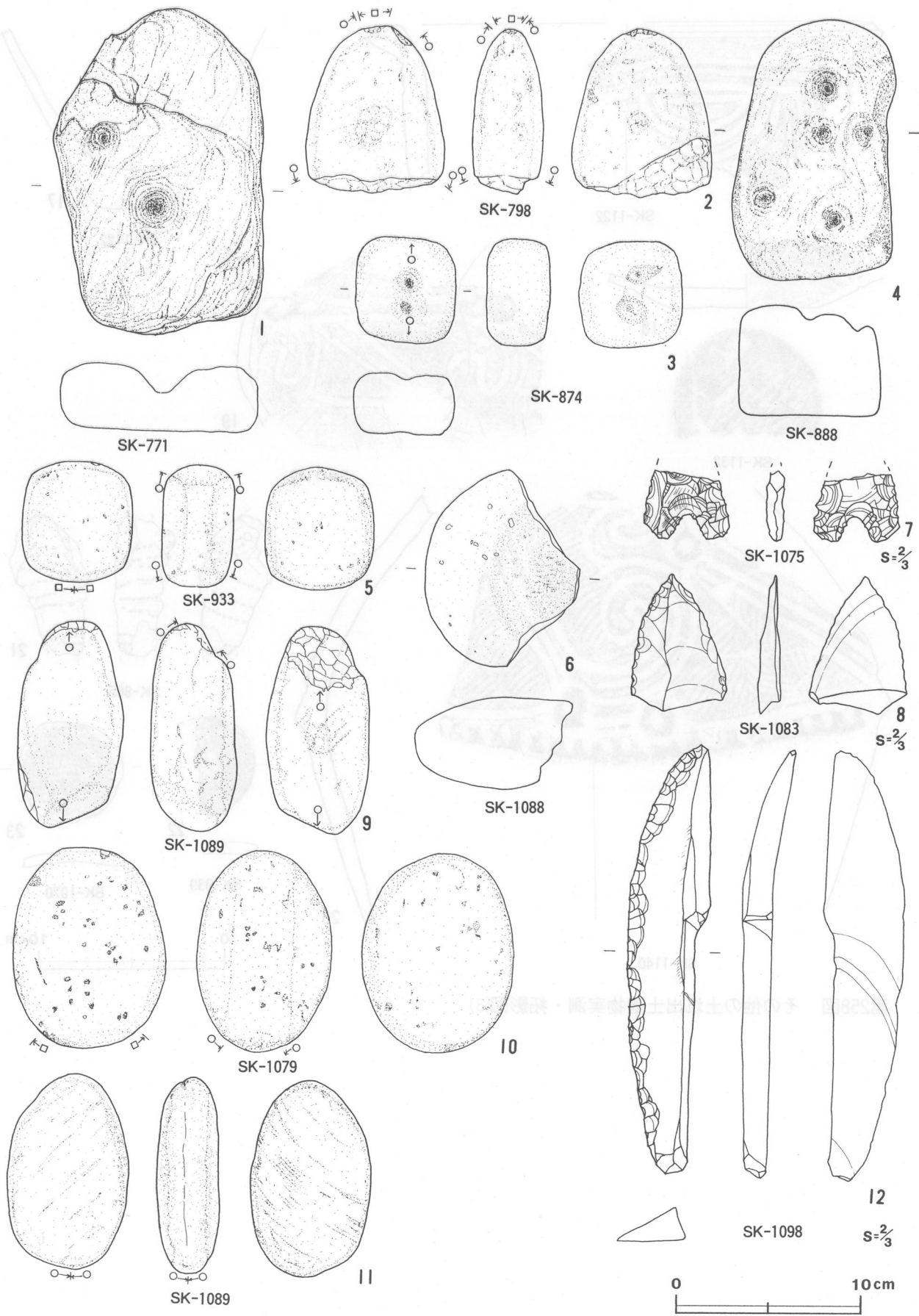
第256図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(1)



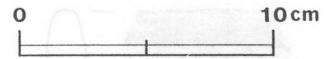
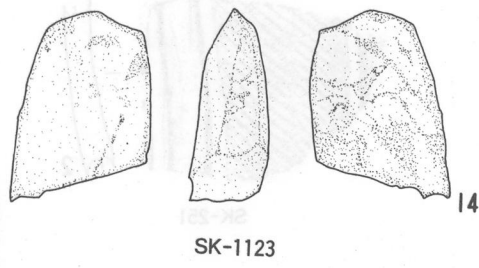
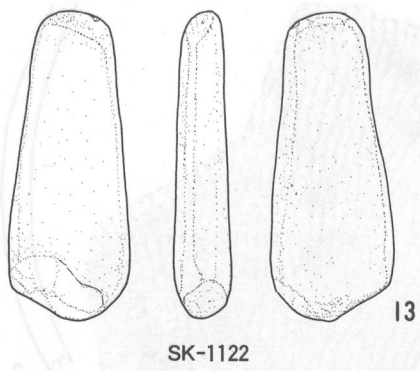
第257図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(2)



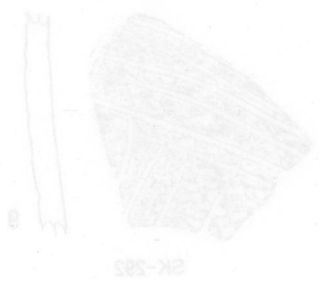
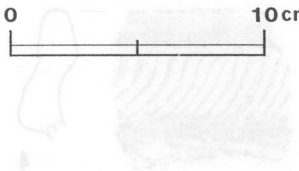
第258図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(3)



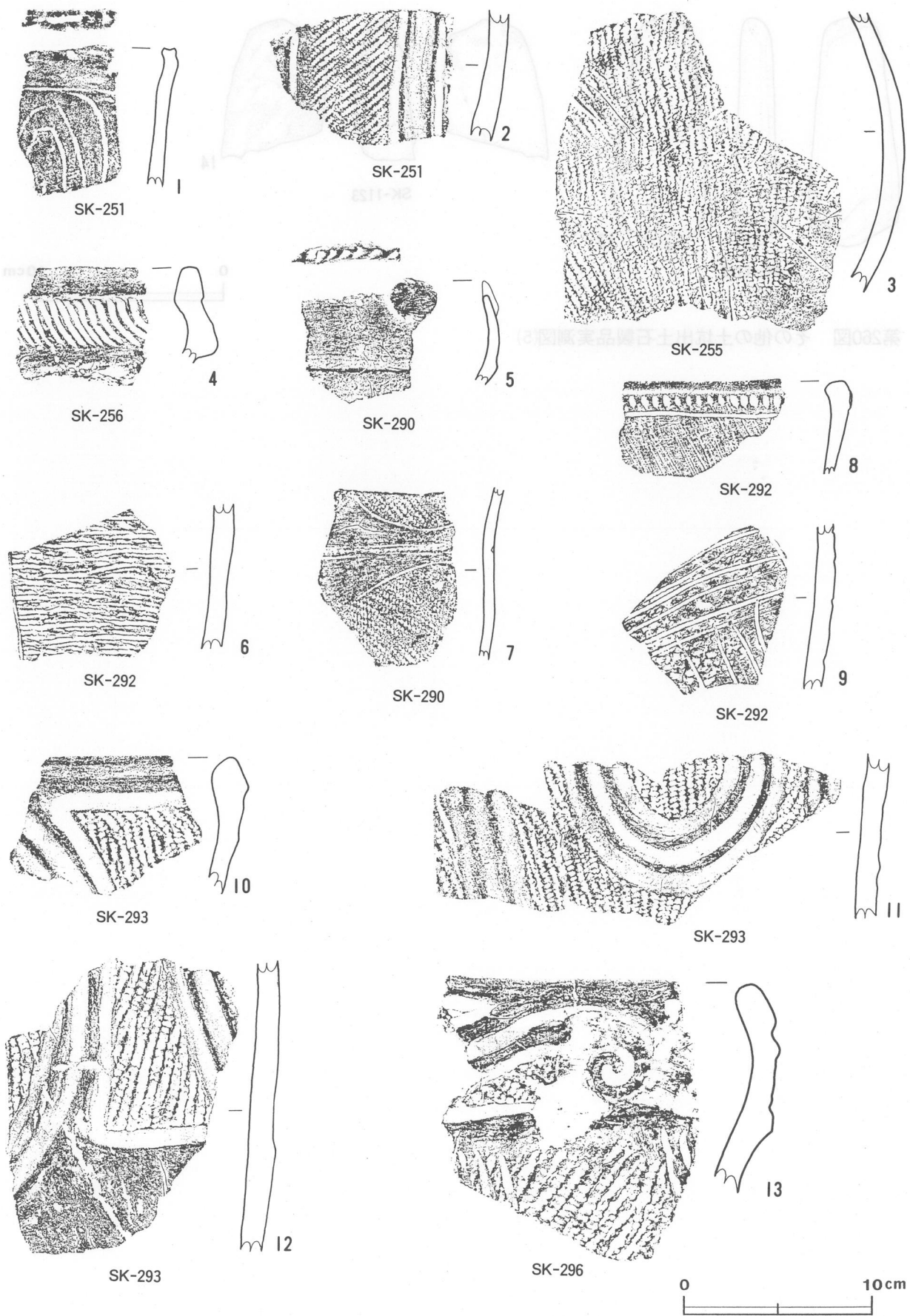
第259図 その他の土坑出土石製品実測図(4)



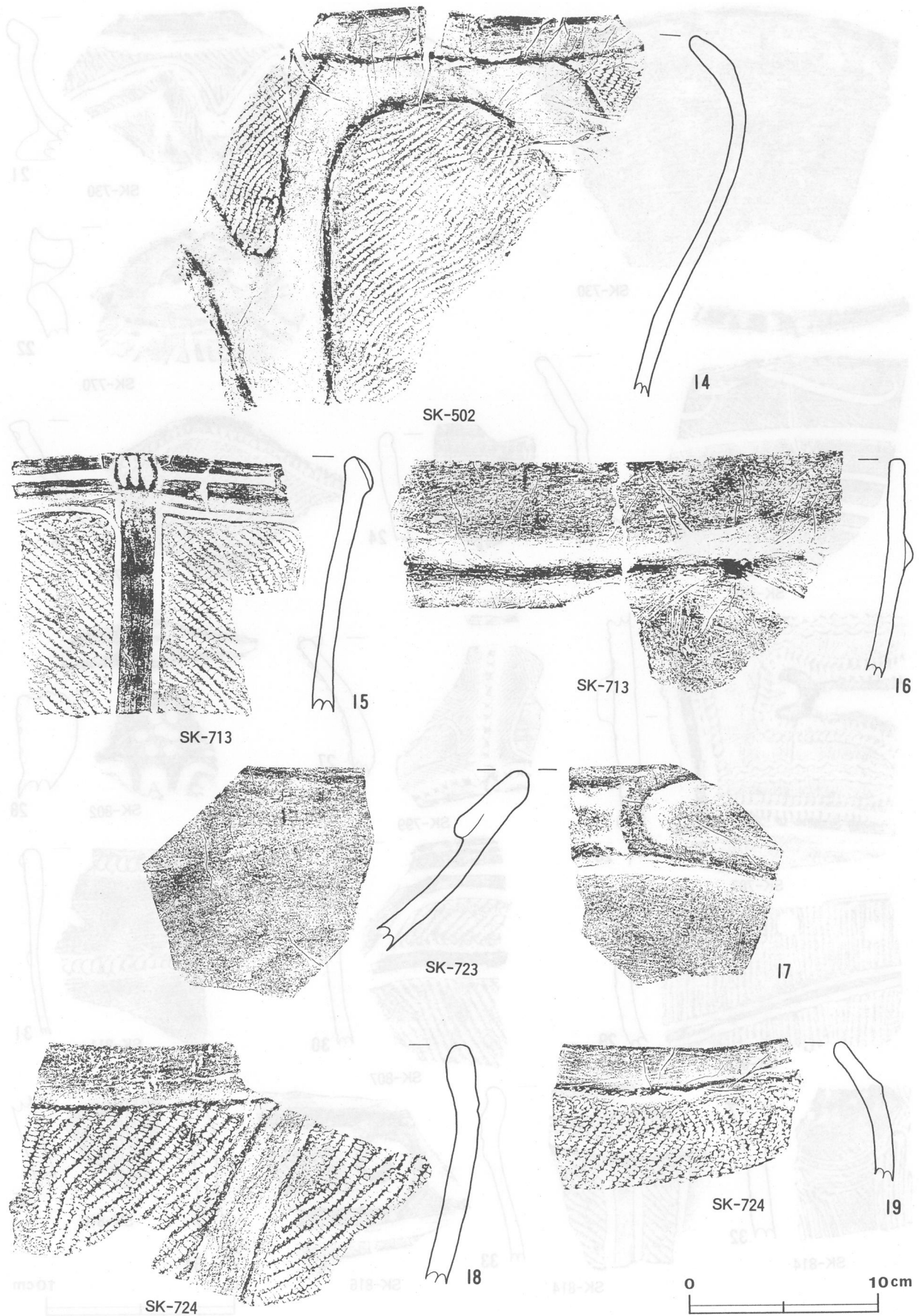
第260図 その他の土坑出土石製品実測図(5)



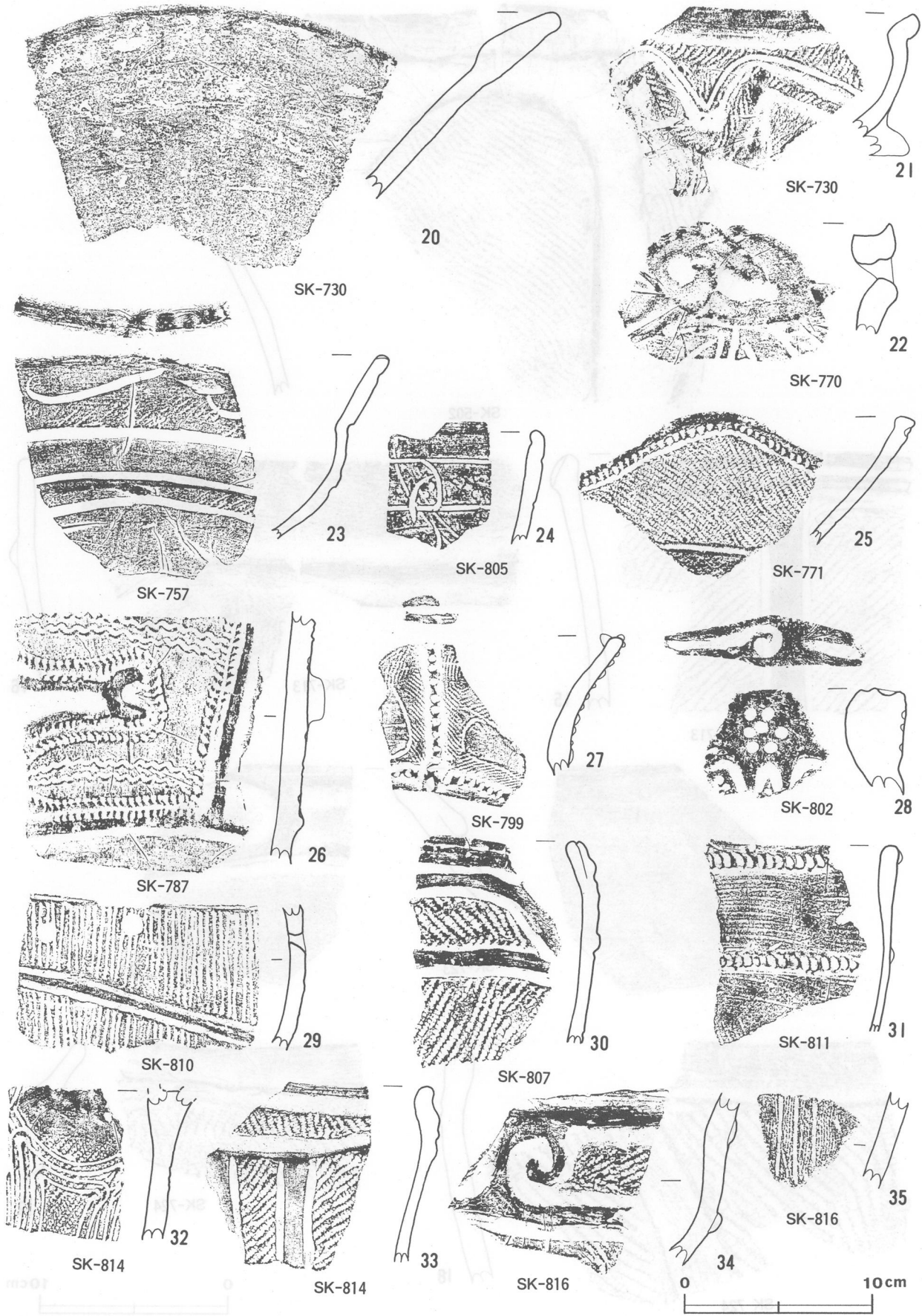
第261図 その他の土坑出土石製品実測図(6)



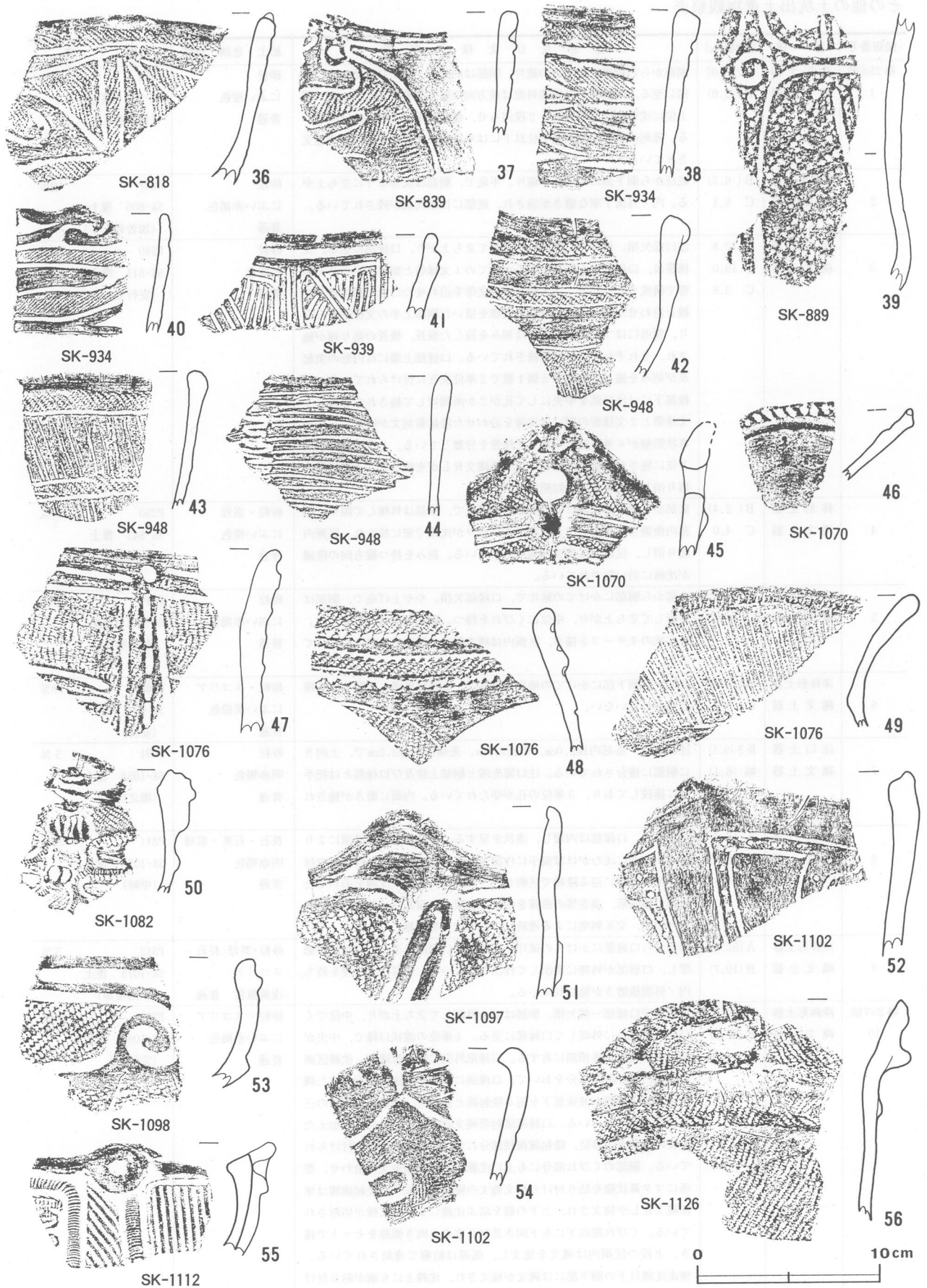
第261図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(6)



第262図 その他の土坑遺物実測・拓影図(7)



第263図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(8)



第264図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(9)

その他の土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第256図 1	鉢形土器 縄文土器	A [28.0] B (22.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、僅かに外反して口縁部に至る。内面及び口縁部外面は横方向の磨きで整形されている。胴上位に沈線を伴う隆起線を2段巡らせ、橋状把手で上下が結ばれている。隆起線区画内及び胴中位以下には単節縄文RLが縦位回転で施文されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P193 30% SK-502 覆土 (加曾利E IV)
2	深鉢形土器 縄文土器	B (6.7) C 5.1	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は反るように立ち上がる。内・外面丁寧な磨きが施され、底部には網代痕が残されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P237 10% SK-805 覆土 (加曾利B 1)
3	注口土器 縄文土器	A 12.8 B 19.0 C 3.8	注口部欠損。鉢形で、胴部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。文様帯は、口縁部から胴部上半にかけての1文様帯と胴部下半の2文様帯で構成されている。1文様帯は刻文帯を沿わせた口縁部縄文帯と沈線を沿わせた細い隆起帯刻文で文様を描いた胴部上半の文様帯からなり、要所にはブタ鼻状あるいは刻みを施した縦長、横長の貼り瘤が施され、それぞれの文様が接続されている。口縁部上端には円形の突起及び刻みを施した突起が2個1組で2単位交互に付けられている。口縁部下には注口部を中央にして孔が2か所相対して施されている。1文様帯と2文様帯の間には沈線を沿わせた隆起帯刻文が横走り、ブタ鼻状貼瘤が6単位加えられ、文様帯を分離している。2文様帯は胴部下位に施された横走沈線以下に単節縄文RLが充填され、1文様帯の磨り消し手法主体とは対照的である。	砂粒 黒褐色 普通	P240 95% SK-811 覆土 (安行II)
4	鉢形土器 縄文土器	B (2.4) C 4.0	底部から胴下部にかけての破片。上げ底で、胴部は外傾して開く。胴部内面磨き、外面「U」字状のモチーフが沈線で密に描かれ、区画内磨り消し、区画外に縄文が施文されている。刻みを持つ縦方向の隆線が沈線に沿って施されている。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P250 5% SK-843 覆土 (後期初頭か)
5	深鉢形土器 縄文土器	B (13.5) C 6.2	底部から胴部にかけての破片で、口縁部欠損。やや上げ底で、胴部は内彎して立ち上がり、中位にくびれを持つ。胴部外面に沈線で「し」の字状のモチーフを描き、区画内は縄文施文、区画外は磨り消されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P249 30% SK-843 覆土 (称名寺1)
6	深鉢形土器 縄文土器	B (8.7) C 3.2	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。文様は施されていない。	砂粒・スコリア にぶい黄褐色 普通	P260 10% SK-934 覆土 (安行)
7	注口土器 縄文土器	長さ(9.1) 幅(6.1)	注口部片。基部内径2.0cm、外径2.7cm、先端部内径2.2cmで、上向きに胴部に接合されている。注口部先端と胴部上位及び口縁部とは把手上に接続しており、3単位の孔が穿たれている。内面に磨きが施されている。	砂粒 明赤褐色 普通	P291 5% SK-1053 覆土 (堀之内1)
8	深鉢形土器 縄文土器	A 16.6 B (8.9)	口縁部片。口縁部は内彎し、波状を呈する。口縁部上端は指頭により中心が僅かに沈むがほぼ偏平に作出されている。口縁部文様帯は口縁部隆帯と頸部に巡る隆線で区画され、区画内に中心に沈線を沿わせた隆線で楕円形、渦巻等の曲線を描き、隙間には縦あるいは横の短沈線、磨り消し、交互衝突による連続「コ」字状文等を施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P311 20% SK-1075 覆土 (中峠)
9	浅鉢形土器 縄文土器	A [52.8] B (10.7)	胴部から口縁部にかけての破片。外傾して口縁部に至る。口縁部は肥厚し、口唇部が外側に突出して作出されている。胴部内面に稜を持ち、内・外面横磨きが施されている。	砂粒・雲母・長石・スコリア 浅黄褐色 普通	P312 5% SK-1075 覆土 (中期中葉)
第257図 10	深鉢形土器 縄文土器	A [25.6] B (27.2)	底部及び口縁部一部欠損。胴部はやや外傾して立ち上がり、中位でくびれた後僅かに外傾して口縁部に至る。4単位の波状口縁で、中央が凹む角状突起を波頂部に有する。口縁部外面に隆起帯縄文、沈線区画の長楕円形の磨消部分において、口縁部に平行する沈線を沿わせた縄文施文の隆起線が波底部下を巡る隆起線と接続し、内部磨り消しの三角文様が作られている。口縁部隆起帯縄文波底部には横刻みを加えた縦長の貼瘤が4単位、隆起線接続部分にはブタ鼻状の貼瘤が付けられている。胴部のくびれ部分にも上に沈線、下に連続刻文を沿わせ、要所にブタ鼻状瘤を貼り付けた縄文施文の隆起線が巡り、隆起線間は単節縄文RLが施文され、上下の瘤を結ぶ沈線によって文様が切断されている。くびれ部以下にも下向き及び2本の上向き弧線をセットで描き、上段の区画内は縄文を施文し、弧線は貼瘤で連結されている。横走沈線以下の胴下部には縄文が施文され、沈線上にも瘤が貼り付けられている。	砂粒・スコリア にぶい赤褐色 普通	P323 50% SK-1068 覆土 (安行II)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
11	把手 縄文土器	長さ(4.8) 幅(5.6)	口縁部把手片。波状口縁で、口縁部下に施された隆線が両側からせり上がり、口縁部と橋状に連結されている。隆線がせり上がる際、三角形の空間が把手下に残され、把手外面上部には刻文を施した円形隆線を貼り付けた突起が付けられている。	砂粒・雲母 赤褐色 普通	P310 5% SK-1070 覆土 (堀之内か)
12	深鉢形土器 縄文土器	A(20.4) B(13.9)	胴部から口縁部にかけての破片。口縁部は内彎する。折り返しにより口縁部は肥厚し、上端が扁平に作出されている。口縁部は交互刺突による連続「コ」字状文、頸部は中心に沈線を加えた隆帯をそれぞれ巡らせ、区画内に曲線的モチーフの隆帯を貼り付け、口縁部文様帯が構成されている。地文として縦方向の無節縄文Rの絡状体圧痕文が施文されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P314 10% SK-1077 覆土 (中峠~加曾利E I)
13	瓢形土器 縄文土器	A(20.6) B(22.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、中位でくびれた後、内傾して口縁部に至る。胴部のくびれ部に沈線間刻文を巡らし、文様帯が分離される。上位の1文様帯は、口縁部に幅の狭い縄文帯と沈線間刻文帯を巡らせ、以下沈線まで縄文が充填される。2文様帯は上向き、下向きの入り組み連続弧線文を描き、区画内に縄文を充填し、磨消帯を挟んで沈線以下は縄文が充填されている。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P313 25% SK-1076 底面 (曾谷)
14	深鉢形土器 縄文土器	A(20.0) B(11.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。内彎して口縁部に至る。口縁部は折り返しにより肥厚し、沈線に沿った隆起帯縄文が口縁部以下に3段巡らされている。口縁部と2段目が縦長貼瘤で結ばれ、縄文帯間は磨り消されている。胴部には右下がりに斜行するやや太めの条線が粗い間隔で施文されている。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P317 10% SK-1082 覆土 (安行 I)
15	深鉢形土器 縄文土器	B(6.1) B 3.6	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。胴部下位に巡る沈線の上には磨消帯を挟んで上向き弧線が描かれ、弧線内に縄文が施文されている。沈線以下には単節縄文R Lが充填され、底部から2~3cmは縦磨きが施されている。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P338 20% SK-1118 覆土 (後期後葉)
第258図 16	深鉢形土器 縄文土器	A(27.8) B(9.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は直立し、口縁部は短く外反する。口縁部外面は隆帯貼り付けで肥厚し、やや扁平な上端には貼り付け部分に沈線が施される。口縁部直下に3本の平行沈線を巡らせ、直線あるいは弧状の平行沈線を連結して胴部文様帯が構成されている。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P339 5% SK-1122 覆土 (加曾利E I)
17	深鉢形土器 縄文土器	B(10.0) C 4.0	底部から胴下部にかけての破片。僅かに丸みを持つ底部で、胴部は外傾して開く。内・外面ナデ整形が施されている。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	P340 20% SK-1122 覆土 (中期中葉)
18	浅鉢形土器 縄文土器	B(1.8) C 7.8	底部片。平底で、胴部は外傾して開く。胴下部の横走沈線の上は斜行沈線、下は磨きが施されている。底部に網代痕が見られる。	長石・雲母 橙色 普通	P349 10% SK-1132 覆土 (加曾利B 2~3)
19	深鉢形土器 縄文土器	B(9.8)	小形の深鉢形土器の胴部片。胴部は内彎して上位でくびれ、外反しながら立ち上がる。くびれ部に沈線に沿った隆線を巡らせ、円形刺突を2か所加えた横長の浮文が要所に貼り付けられている。隆線以下には沈線で直線と曲線を組み合わせて文様を描き、区画内に列点文が施され、他は磨り消されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P354 20% SK-1140 覆土 (称名寺 2)
20	深鉢形土器 縄文土器	B(23.0)	胴部中位の破片。内彎し、胴部が張る器形で、最大径部分に円形刺突を連続させた隆線を貼り付け、胴部上位文様帯と下位無文帯が分離されている。上位の文様帯には複数の平行沈線で直線的あるいは曲線的、渦巻等の文様を描かれ、要所に刺突を加えた円形浮文貼り付け、隙間に単節縄文L Rが施されている。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P353 10% SK-1140 覆土 (網取 1)

その他の土坑出土土製品観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第258図21	土偶	(7.6)	(4.2)	(3.4)	(75.8)	15	土偶の左腕部。内腕中位に隆帯を2本施し、肩部からも胸部中央に向かい隆帯が施されている。腕部の隆帯には連続刺突文が沿い、肩及び背面にも連続刺突文が施されている。	DP55 SK-865 覆土 砂粒・長石・パミス 灰褐色 普通(後期中葉~後葉)
22	土製円板	5.3	(3.2)	0.7	(15.1)	50	表面に整形痕	DP56 SK-939 覆土
23	土製円板	5.4	5.6	0.8	24.4	100	表面に単節縄文裏面丁寧な磨き	DP59 SK-1070 覆土

その他の土坑出土石製品観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第259図1	凹石	(17.6)	(11.5)	(3.5)	(1062.1)	雲母片岩	Q94 欠損品 SK-771 覆土
2	磨石	(9.0)	7.5	3.8	(366.3)	安山岩	Q101 敲石兼用 両面に凹み SK-798 覆土
3	磨石	5.8	5.4	3.2	188.6	安山岩	Q103 両面に凹み SK-874 覆土
4	凹石	14.3	8.6	5.9	1169.0	砂岩	Q104 SK-888 覆土
5	磨石	6.6	6.0	3.8	241.6	安山岩	Q105 敲石兼用 SK-933 覆土
6	石皿	(10.7)	(8.3)	5.0	(415.8)	安山岩	Q118 欠損品 SK-1088 覆土
7	石鏃	(1.8)	2.3	0.5	(2.1)	黒曜石	Q115 凹基無茎鏃 先端部欠損 SK-1075 覆土
8	不定形石器	3.6	2.6	0.6	3.9	チャート	Q117 SK-1083 底面
9	磨石	11.2	5.7	4.8	(436.2)	安山岩	Q119 敲石兼用 一部欠損 SK-1089 覆土
10	磨石	10.8	8.1	7.2	722.5	安山岩	Q116 敲石兼用 SK-1079 覆土
11	磨石	10.6	6.5	3.5	356.7	安山岩	Q120 SK-1089 覆土
12	彫器か	11.6	(2.2)	0.9	(22.6)	頁岩	Q122 欠損品 SK-1098 覆土上層
第260図13	磨製石斧	12.3	4.9	2.5	175.6	凝灰岩	Q128 刃部欠損後二次加工 SK-1122 覆土
14	磨製石斧	(7.5)	5.5	3.1	(183.4)	蛇紋岩	Q129 定角式 欠損品 SK-1123 覆土

前田村遺跡D区土坑一覽表

土坑 番号	位置 方 向	長径(軸) 方 向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	海面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
250	C15b7	N-39°-E	楕円形	1.39 × 1.18	23	緩斜	平坦	自然		BI b1	加曾利E III~IV	縄文土器	SK-251→本跡, SK-256不明
251	C15b9	N-43°-W	不整楕円形	1.50 × 1.33	37	緩斜	平坦			BI b1	加曾利E III~称名寺	縄文土器	本跡→SK-256
253	C15c7	N-20°-E	楕円形	2.12 × 1.85	120	内傾	平坦	自然		BIV b3	[中期]		SI-95→本跡, 袋状, 底径2.87×2.46
254	C15b7	N-42°-E	(楕円形)	[1.26 × 1.05]	44	緩斜	平坦	人為		BI b1	加曾利E I~II	縄文土器	
255	C15b7	N-1°-E	円形	1.02 × 0.97	105	外傾	平坦	自然		AII b3	堀之内か	縄文土器	本跡→SI-96
256	C15b7	N-48°-E	不定形	1.10 × 0.93	10	緩斜	平坦	自然		DI b1	加曾利E I	縄文土器	SK-251→本跡, SK250不明
257	C15b6	N-30°-E	不定形	1.32 × 1.16	86	内傾	平坦			DIV c2	阿玉台II~III	縄文土器	SI-95→本跡, 袋状, 底径1.33×1.22
259	C15b7	N-39°-W	(楕円形)	[2.14 × 1.00]	38	緩斜	平坦			BI c1			本跡→SI-96
290	C15h9	N-83°-W	楕円形	1.21 × 0.69	42	緩斜	平坦			BI a1	後期後葉	縄文土器	本跡→SI-101
291	C15g8	N-45°-W	円形	1.35 × 1.31	197	垂直	平坦	自然		AIII b4	安行III a~III b	縄文土器, 獸骨, 貝	本跡→SI-100, 円筒状
292	C15b7	N-31°-W	不定形	3.55 × 2.02	95	緩斜	平坦	自然		DI c2	堀之内~安行	縄文土器	本跡→SI-95
293	C15a7	N-60°-W	不定形	2.15 × 1.25	38	外傾	凸凹	自然		DII b1	加曾利E IV	縄文土器	本跡→SI-97, SI-96不明
294	D15b4	N-11°-E	楕円形	1.66 × 1.42	193	垂直	平坦	自然		BIII b4	後期後葉~晩期前葉	縄文土器	本跡→SI-104, SK-296, 円筒状
295	D15c4	N-81°-W	楕円形	[0.90] × 0.80	63	垂直	凸凹			BIII a2			本跡→SI-104
296	D15b4	N-18°-E	不整楕円形	1.63 × 1.23	53	垂直	平坦	人為		BIII b2	加曾利E	縄文土器	SK-294→本跡→SI-104
297	C15d6	N-47°-W	(不整楕円形)	[1.70 × 1.30]	55	垂直	凸凹	自然	1	BIII b2	加曾利E IV	縄文土器	SI-98→本跡, SK-749不明
299	C15b6	N-75°-W	楕円形	1.03 × 0.86	38	緩斜	皿状			BI b1			
324	C15a6	N-25°-W	楕円形	1.29 × 1.12	123	外傾	平坦			BII b3			円筒状
325	C16g5	N-46°-E	楕円形	2.95 × 1.90	60	外傾	平坦		5	BII c2	安行I~II	縄文土器, 磨石, 石鏃, 獸骨	SI-107不明
495	C16c6	N-76°-E	不定形	1.89 × 1.25	50	外傾	凸凹	自然		DII b2	中期~後期	縄文土器	
496	C16c6	N-19°-W	楕円形	1.36 × 1.16	190	垂直	平坦	自然		BIII b4	後期前葉	縄文土器, 獸骨	円筒状
502	C16c7	N-76°-W	楕円形	1.84 × 1.65	69	垂直	平坦	自然		BIII b2	加曾利E III~IV	縄文土器	本跡→SI-137
503	C16c7	N-57°-E	楕円形	[1.01] × 0.79	114	内傾	平坦	自然		BIV b3	中期中葉	縄文土器, 磨石	SI-137, SK-504→本跡, 底径1.98×1.76
504	C16c8	N-38°-W	楕円形	1.87 × [1.45]	83	外傾	皿状	自然		BII b2	加曾利E IV前後	縄文土器	本跡→SI-137, SK-503
713	C16f5	N-28°-W	楕円形	1.07 × 0.97	83	垂直	平坦	自然		BIII b2	称名寺~堀之内	縄文土器	本跡→SI-180
714	C15d5	N-50°-W	楕円形	1.16 × 0.97	27	外傾	平坦	自然		BII b1			本跡→SI-168-196
716	C15d2	N-33°-W	円形	1.96 × 1.88	70	内傾	平坦	自然		AIV b2	阿玉台IV~ 加曾利E I	縄文土器	袋状, 底径2.13×2.05
717	C15b4	N-88°-E	楕円形	2.94 × 2.32	56	外傾	平坦	自然	1	BII c2	阿玉台III~IV	縄文土器, 獸骨	SI-169→本跡
720	C15d3	N-16°-W	楕円形	0.68 × [0.50]	156	垂直	平坦			BIII a4	中期	縄文土器	本跡→SK-722, SK-721, 753不明
721	C15d3	N-25°-W	楕円形	2.75 × [2.31]	43	外傾	平坦	自然		BII c1	堀之内1	縄文土器	本跡→SK-722, SK-720, 753不明
722	C15d3	N-30°-W	円形	0.95 × 0.92	71	内傾	平坦	[自然]		AIV a2	中期	縄文土器	SK-720, 721, 753→本跡, 袋状, 底径2.15×1.93
723	C15d4	N-18°-E	楕円形	1.70 × 1.43	103	内傾	平坦	自然		BIV b3	阿玉台IV	縄文土器	SI-169, SK-724→本跡, 袋状, 底径2.47×2.45
724	C15d4	N-19°-E	楕円形	1.70 × 1.51	80	外傾	平坦	自然		BII b2	加曾利E IV	縄文土器	本跡→SI-168, 169, SK-723
725	C15d4	N-0°	円形	1.35 × 1.35	44	外傾	平坦	自然		AII b1	加曾利E III	縄文土器	本跡→SI-168
726	C15d5	N-7°-W	円形	1.23 × 1.14	50	垂直	平坦	自然		AIII b2	加曾利E II~堀之内	縄文土器	本跡→SI-168
727	C15e5	N-7°-W	円形	1.17 × 1.15	41	外傾	平坦	自然		AII b1	中期	縄文土器	本跡→SI-168
728	C15e5	N-52°-E	楕円形	1.22 × 1.02	112	内傾	凸凹	自然	1	BIV b3	阿玉台III~ 加曾利E I	縄文土器	SI-197, SK-729不明, 袋状, 底径2.24×2.02
729	C15e3	N-82°-E	楕円形	[3.18] × 2.40	25	外傾	凸凹	自然	2	BII c1	加曾利E I~II	縄文土器	SI-197, SK-728不明
730	C15e1	N-19°-W	楕円形	2.60 × 2.15	36	外傾	平坦	自然		BII c1	阿玉台IV	縄文土器	本跡→SI-173
732	C15a8	N-72°-W	円形	0.95 × 0.88	120	内傾	凸凹	自然	1	AIV a3	阿玉台III	縄文土器	袋状, 底径2.80×2.58
733	C15f1	N-13°-E	楕円形	2.81 × 2.03	62	垂直	凸凹	自然	2	BIII c2	加曾利E I~II	縄文土器	SK-812→本跡
734A	C15f2	N-32°-E	円形	[2.35 × 2.20]	102	内傾	平坦	自然		AIV c3	阿玉台III	縄文土器, 獸骨	SK-734B→本跡, 袋状, 底径2.14×2.14
734B	C15g2	N-30°-E	(楕円形)	[0.40 × 0.35]	[130]		平坦			B a1	安行I	縄文土器	本跡→SK-734A, ピット状

土坑 番号	位置	長径(軸) 方 向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	海面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
735	C15f3	N-22°-E	不定形	1.62 × 1.37	68	内傾	平坦	自然		DIVb2	[中期]		SI-181→本跡, SK-197不明, 袋状 底径1.61×1.50
736	C15h4	N-12°-E	楕円形	2.40 × 1.87	43	外傾	凸凹	人為	3	BIIIc1		縄文土器, 獣骨	
737	C15g4	N-10°-E	不定形	2.45 × 1.32	23	外傾	凸凹	自然	4	DIIc1	中期～後期	縄文土器	
738	C15i3	N-73°-W	楕円形	2.00 × 1.46	49	外傾	平坦	人為		BIIc1	加曾利EII～ 加曾利BI	縄文土器, 獣骨, 貝, 灰	本跡→SI-178
739	C15i3	N-11°-E	楕円形	1.50 × 1.18	68	外傾	平坦	人為		BIIb2	加曾利EIV	縄文土器	本跡→SI-178
740	C15i2	N-23°-E	楕円形	2.21 × (1.80)	63	外傾	凸凹	人為	3	BIIc1	加曾利EI	縄文土器, 獣骨	本跡→SK-826
741	C15i3	N-41°-E	不定形	1.80 × 1.27	67	外傾	平坦	自然		DIIb2	加曾利E	縄文土器	本跡→SI-178
742	D15a3	N-85°-E	不定形	1.16 × [0.63]	37	外傾	凸凹	自然		DIIb1	称名寺1	縄文土器	本跡→SK-745
743	D15a4	N-18°-W	楕円形	1.29 × 1.17	30	外傾	平坦	自然		BIIb1		縄文土器	SI-105→本跡
744	C15i3	N-73°-E	楕円形	2.17 × 1.49	15	緩斜	凸凹	人為	2	BIIc1	中期	縄文土器	
745	D15a3	N-34°-W	楕円形	1.89 × (1.83)	53	外傾	凸凹	自然	1	BIIb2	後期初頭	縄文土器	SK-742→本跡
746	C15e4	N-70°-E	不定形	1.03 × 0.78	45	外傾	凸凹	自然		DIIb1	加曾利E	縄文土器	
747	C15d7	N-59°-W	楕円形	0.89 × 0.79	22	外傾	平坦	自然		BIIa1			SI-98→本跡
748	C15d6	N-66°-W	楕円形	1.49 × 1.38	17	外傾	平坦	自然		BIIb1	中期	縄文土器	SI-98→本跡
749	C15d6	N-17°-W	楕円形	0.82 × 0.73	16	緩斜	平坦	自然		BIIb1			本跡→SI-182
750	C15d7	N-41°-W	円形	1.52 × 1.42	36	外傾	平坦	自然		AIIb1	阿玉台III～IV	縄文土器	SI-98→本跡
751	C15e7	N-19°-W	円形	1.24 × 1.13	63	外傾	平坦	自然		AIIb1	加曾利E	縄文土器	
752	C15e7	N-42°-W	円形	0.77 × 0.73	17	外傾	平坦	自然		AIIa1	中期	縄文土器	
753	C15d3	N-27°-W	不定形	0.91 × 0.68	[63]	外傾	平坦			DIIa1			本跡→SK-722, SK-711不明
754	C15i5	N-37°-W	楕円形	2.51 × 2.12	29	外傾	平坦	自然		BIIc1	加曾利EIII～後期	縄文土器	SI-103→本跡
755	C15i5	N-42°-W	不整楕円形	2.30 × 1.38	65	垂直	凸凹	人為		BIIIc2		縄文土器	SI-103→本跡
757	C16f3	N-60°-W	不定形	[1.60] × 1.16	43	外傾	平坦			DIIb1	安行IIIa	縄文土器	本跡→SI-207
758	C15e5	N-29°-W	円形	1.18 × 1.13	32	外傾	平坦			AIIb1			本跡→SI-168
759	C15e5	N-26°-W	楕円形	1.40 × 1.07	32	外傾	平坦	自然		BIIb1			本跡→SI-168, 196
760	C16g4	N-0°	円形	0.65 × 0.63	42	外傾	皿状			AIIa1	堀之内1	縄文土器, 土製門板	本跡→SI-207
761	C15h3	N-23°-E	楕円形	1.36 × [1.04]	35	外傾	凸凹	自然		BIIb1	加曾利EIV	縄文土器, 人骨, 獣骨, 貝	本跡→SK-763
762	C15h3	N-61°-W	楕円形	1.48 × [1.11]	24	外傾	平坦			BIIb1	加曾利EIV	縄文土器, 珠状耳飾, 獣骨	本跡→SK-763
763	C15h2	N-23°-W	不定形	2.57 × [2.33]	53	外傾	平坦	自然		DIIc2	中期	縄文土器, 獣骨	SK-761-762-769→本跡
764	C15b9	N-36°-E	円形	[2.93 × 2.73]	56	外傾	凸凹	自然	3	AIIc1	加曾利EIII	縄文土器	
765	C15b8	N-29°-E	楕円形	2.16 × 1.73	49	外傾	平坦	人為		BIIc1	加曾利EIII	縄文土器	
766	C15g9	N-75°-E	楕円形	[1.14 × 0.98]	124	外傾	平坦			BIIb3	加曾利EIV	縄文土器, 土製門板	SI-101, SK-767→本跡
767	C15g8	N-15°-W	楕円形	0.82 × [0.54]	69	外傾	平坦			BIIa2	安行IIIb	縄文土器, 胎児骨, 貝	本跡→SI-101, SK-766, 墓塚
768	C15j7	N-24°-W	楕円形	1.64 × 1.39	72	外傾	平坦	自然		BIIb2	加曾利B2	縄文土器, 磨石, 獣骨	SI-115→本跡
769	C15h2	N-62°-W	楕円形	1.20 × [1.06]	38	外傾	平坦	自然		BIIb1	堀之内	縄文土器, 獣骨	本跡→SK-763
770	D15b9	N-62°-E	楕円形	2.20 × 1.77	38	緩斜	凸凹	自然		BIIc1	堀之内	縄文土器	
771	C15h8	N-30°-E	不定形	(2.86) × 2.06	54	外傾	平坦	自然		DIIc2	堀之内～加曾利B	縄文土器, 凹石	SI-101-102→本跡, SK-772不明
772	C15i4	N-75°-W	不定形	1.22 × 1.06	103	外傾	平坦	自然		DIIb3	中期	縄文土器	
773	C15i9	N-20°-W	楕円形	1.15 × 0.94	104	外傾	平坦	自然		BIIb3	中期	縄文土器, 石錐, 獣骨	SI-102→本跡
774	C15i9	N-22°-E	楕円形	1.03 × 0.94	32	外傾	凸凹	自然		BIIb1		縄文土器	SI-102→本跡
775	C15j4	N-55°-E	不正楕円形	1.96 × 1.52	20	外傾	凸凹	自然	2	BIIb1	加曾利EIII	縄文土器	
776	C15h9	N-88°-W	不定形	2.00 × 1.45	63	外傾	凸凹	自然		DIIc2	加曾利EIV	縄文土器, 獣骨	
777	C15j9	N-79°-W	不定形	[1.97 × 1.59]	40	外傾	平坦	人為		DIIb1	中期～後期	縄文土器, 磨石	本跡→SK-779
778	C15i9	N-73°-E	楕円形	1.24 × 0.81	46	外傾	平坦	人為		BIIb1	中期	縄文土器, 耳飾	
779	C15j9	N-69°-W	不定形	2.50 × 1.74	77	外傾	平坦	自然		DIIc1	中期～後期	縄文土器	SK-776→本跡
780	C15h8	N-12°-W	楕円形	1.50 × 1.25	29	外傾	平坦	自然	1	BIIb1	中期～後期	縄文土器	SI-101→本跡

土坑 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	海面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
781	C15j9	N-0°	円 形	1.64 × 1.64	280	垂直	平坦	自然		AⅢb4	安行Ⅲa	縄文土器、獣骨、貝、魚骨	円筒状
782	C15f9	N-40°-W	楕 円 形	1.70 × 1.42	20	外傾	凸凹	自然	2	BⅡb1	中期～後期	縄文土器	SI-187→本跡
783	C15e8	N-51°-E	円 形	2.89 × 2.85	42	緩斜	平坦	自然	2	AⅠc1	中期	縄文土器	
784	C15h9	N-38°-E	楕 円 形	0.92 × 0.81	55	外傾	皿状	人為		BⅡa2	中期～後期	縄文土器	
785	C15h9	N-75°-E	不整楕円形	0.83 × 0.57	61	外傾	平坦	人為		BⅡa3	中期	縄文土器、人骨	墓塚か
786	C15g9	N-56°-W	楕 円 形	1.81 × 1.59	54	外傾	平坦	自然		BⅡb2	加善利EⅠ～Ⅱ	縄文土器、土製円板、人骨、獣骨	SI-101・187→本跡
787	C15h1	N-37°-E	楕 円 形	1.84 × 1.42	78	内傾	平坦			BⅣb2	中期	縄文土器	袋状、底径2.12×1.62
788	C15h9	N-85°-E	不 定 形	1.34 × 0.98	68	外傾	平坦	自然		DⅡb2	加善利EⅢ～Ⅳ	縄文土器	本跡→SK-790
789	C15i9	N-38°-W	円 形	3.12 × 2.94	70	外傾	平坦	自然	5	AⅡc2	加善利EⅢ	縄文土器	
790	C15h9	N-35°-E	[楕 円 形]	2.80 × [2.06]	70	垂直	平坦	自然	2	BⅢc2	加善利EⅢ～Ⅳ	縄文土器、石皿、獣骨	SK-788→本跡
791	C15g8	N-17°-W	楕 円 形	[1.98] × 1.32	58	外傾	平坦	自然		BⅡb2	加善利EⅢ	縄文土器、獣骨	SI-101、SK-792→本跡
792	C15g8	N-70°-W	不整楕円形	2.42 × [1.58]	59	外傾	平坦	自然		BⅡc2	加善利EⅡ～Ⅲ	縄文土器	SI-101→本跡→SK-792
793	C15h8	N-85°-E	不整楕円形	1.77 × 1.56	40	外傾	平坦	自然	2	BⅡb1	加善利EⅢ～安行	縄文土器、獣骨	
794	C16j1	N-52°-E	不 定 形	2.93 × 2.58	38	緩斜	平坦	自然	2	DⅠc1	加善利EⅡ	縄文土器、浮子	
795	C15i2	N-25°-E	円 形	1.90 × 1.89	45	外傾	平坦	自然		AⅡb1	加善利EⅢ～Ⅳ	縄文土器、獣骨	本跡→SI-178
796	C14j1	N-15°-W	円 形	1.22 × 1.15	36	外傾	平坦	自然		AⅡb1	堀之内	縄文土器、石鏃、獣骨	本跡→SI-179
797	C16c1	N-40°-W	円 形	1.22 × 1.13	22	緩斜	平坦	自然	1	AⅠb1	中期～後期	縄文土器、獣骨	
798	C15f7	N-57°-W	不整楕円形	2.17 × 1.18	32	外傾	平坦			BⅡc1	中期～後期	縄文土器、磨石	
799	C15f7	N-28°-E	円 形	0.78 × 0.74	41	外傾	平坦			AⅡa1	堀之内	縄文土器	
801	C15g7	N-13°-W	不 定 形	2.02 × 1.29	88	内傾	平坦	自然		DⅣc2	阿玉台Ⅲ～Ⅳ	縄文土器、獣骨	SI-100・183、SK-850→本跡、袋状、 底径1.95×1.88
802	C15b6	N-77°-E	不整楕円形	2.30 × [1.12]	36	外傾	平坦	自然		BⅡc1	加善利EⅢ	縄文土器	SI-99→本跡→SI183、SK-803
803	C15f6	N-77°-W	不整楕円形	1.68 × (1.16)	17	垂直	平坦	自然		BⅢb1	中期	縄文土器	SI-99、SK-802→本跡→SI-183
804	D14j1	N-27°-E	楕 円 形	1.50 × 1.13	54	外傾	平坦	自然		BⅡb2	中期～後期	縄文土器	本跡→SI-179
805	C15h7	N-70°-W	不整楕円形	1.98 × 1.36	45	緩斜	平坦	自然		BⅠb1	加善利B2	縄文土器	SI-190→本跡→SI-230A
806	C15d8	N-8°-W	不 定 形	[2.43] × 1.95	38	外傾	平坦	人為		DⅡc2		縄文土器	SI-193→本跡
807	C15j6	N-0°	楕 円 形	2.72 × 2.46	67	外傾	平坦	自然	3	BⅡc2	加善利EⅠ～Ⅱ	縄文土器、獣骨	SI-115→本跡→SI-189
808	C15i5	N-35°-E	楕 円 形	2.81 × 1.48	30	外傾	平坦	自然	1	BⅡc1		縄文土器	SI-115→本跡→SI-189
809	C15j4	N-4°-W	円 形	1.60 × 1.50	94	垂直	平坦	自然		AⅢb2	加善利EⅢ	縄文土器	SI-191→本跡
810	C15i1	N-20°-W	楕 円 形	2.52 × 2.22	52	外傾	平坦	自然	2	BⅡc2	加善利EⅡ	縄文土器、獣骨	本跡→SI-188、一部人為堆積
811	C15f7	N-13°-E	円 形	0.72 × 0.68	32	緩斜	平坦			AⅠa1	安行Ⅰ	縄文土器、獣骨	本跡→SI-183
812	C15f1	N-34°-W	円 形	2.11 × (1.95)	63	外傾	平坦	自然	2	AⅡc2	中期後半	縄文土器	本跡→SK-733
813	C15h2	N-47°-E	楕 円 形	1.00 × 0.82	26	外傾	皿状	自然		BⅡb1	中期後半	縄文土器	
814	C15j2	N-0°	円 形	1.45 × 1.42	64	垂直	平坦	自然		AⅢb2	加善利EⅢ	縄文土器、獣骨	本跡→SI-178
816	C15a0	N-0°	円 形	2.80 × 2.66	42	外傾	平坦	自然	1	AⅡc1	加善利EⅡ	縄文土器	本跡→SI-194
817	C15a0	N-37°-W	不整楕円形	1.49 × [1.38]	98	内傾	平坦	自然	1	AⅣb2	阿玉台Ⅲ～Ⅳ	縄文土器	SI-195→本跡、袋状、底径3.46×2.98
819	C16e8	N-11°-W	楕 円 形	1.90 × 1.61	70	垂直	平坦	自然		BⅢb2			本跡→SI-217
820	C15g2	N-80°-E	不 定 形	[2.83] × 1.82	63	外傾	凸凹	自然		DⅡc2	中期	縄文土器	SI-172→本跡、SK-734A不明
821	C15f2	N-66°-W	不 定 形	1.74 × (0.73)	99	[内傾]	平坦			DⅣb2	阿玉台Ⅲ	縄文土器	SK-734A不明、袋状か
822	C15f4	N-63°-E	楕 円 形	1.02 × 0.66	44	外傾	平坦			BⅡb1	安行Ⅱ	縄文土器	本跡→SI-197
823	C15f4	N-41°-E	不整楕円形	1.16 × 1.01	129	外傾	平坦			BⅡb1	中期	縄文土器	SI-197不明
824	C15e7	N-3°-E	卵 形	0.60 × 0.56	82	垂直	皿状			BⅢa2	安行Ⅰ	縄文土器	本跡→SI-182
825	C16c1	N-0°	円 形	1.15 × 1.14	135	外傾	平坦	自然		AⅡb1	堀之内1	縄文土器、獣骨	本跡→SI-203、やや円筒状
826	C16h1	N-31°-E	楕 円 形	1.13 × (0.85)	127	内傾	平坦			BⅣb3	阿玉台Ⅲ	縄文土器	SK-740→本跡、SI-174不明、袋状、 底径2.25×2.20
827	C16g1	N-2°-E	円 形	1.88 × 1.78	25	外傾	平坦	自然	1	AⅡb1	堀之内2	縄文土器	本跡→SI-186、SK-841・884

土坑 番号	位置	長径(軸) 方 向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	海面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
828	C14i0	N-3'-W	不定形	0.76 × 0.59	84	垂直	皿状			DⅢa2	安行 I	縄文土器	本跡→SI-188
829	C15i2	N-25'-W	楕円形	0.95 × 0.82	45	外傾	平坦	自然		BⅡa1	中期～後期	縄文土器	本跡→SI178
830	C15c8	N-37'-E	楕円形	1.19 × 1.17	42	外傾	皿状	自然	1	BⅡb1	加曾利Ⅲ～称名寺2	縄文土器	SI-192→本跡→SI-193
831	C15c8	N-60'-E	不整楕円形	1.66 × 1.47	102	外傾	凸凹			BⅡb3	中期	縄文土器	SI-192-193→本跡
832	C16d3	N-37'-W	楕円形	2.40 × 1.42	35	外傾	凸凹	自然		BⅡc1	加曾利 E	縄文土器	
833	C16d3	N-36'-W	楕円形	1.80 × 1.30	64	外傾	凸凹	自然		BⅡb2	阿玉台	縄文土器	
834	D15b2	N-7'-W	不定形	3.13 × 2.84	66	緩斜	平坦	自然	4	DⅠc2	加曾利 EⅢ	縄文土器	本跡→SI-185
835	D15c2	N-50'-W	不定形	(2.37) × 1.49	80	外傾	平坦	自然	2	DⅡc2	加曾利 EⅡ	縄文土器	本跡→SI-185
836	C15d8	N-44'-E	楕円形	1.62 × 1.06	15	外傾	緩斜		2	BⅡb1	中期～後期	縄文土器	SI-192-193→本跡
837	C16h2	[N-31W]	隅丸長方形	(1.27) × 1.22	36	外傾	平坦	人為		CⅡb1	加曾利 EⅡ	縄文土器, 粉状骨	SI-202, SK-853→本跡, 墓域か
838	C16c1	N-8'-W	楕円形	1.43 × (0.86)	102	垂直	平坦	自然		BⅢb3	後期前葉	縄文土器	SK-849→本跡→SI-202
839	C15d5	N-74'-W	不定形	[2.10 × 1.60]	40	外傾	平坦	自然		DⅡc1	中期～後期	縄文土器	
840	D15b5	N-42'-W	楕円形	2.27 × 1.63	54	外傾	平坦	自然	1	BⅡc2	加曾利 EⅡ	縄文土器	
841	C16g1	N-41'-W	楕円形	1.97 × 1.24	32	外傾	凸凹	人為		BⅡb1	中期	縄文土器, 人骨	SI-186, SK-827→本跡, 墓域
842	C16g1	N-36'-W	隅丸長方形	(1.46) × 1.05	25	外傾	平坦	人為		CⅡb1	中期	縄文土器, 獣骨	SI-186, SK-858→本跡
845	C16i2	N-0°	円形	1.09 × 1.07	124	外傾	平坦	人為		AⅡb3	安行 I	縄文土器, 獣骨	本跡→SI-202, 本跡
846	D15b4	N-36'-W	不整楕円形	2.15 × 1.41	40	緩斜	平坦	自然	1	BⅠc1	中期～後期	縄文土器	
847	D15a3	N-42'-W	楕円形	0.97 × 0.84	36	外傾	平坦	人為		BⅡa1		縄文土器, 獣骨	
848	D15a3	N-0°	楕円形	2.60 × 2.08	47	垂直	平坦	自然	2	BⅢc1	加曾利 EⅡ	縄文土器	
849	C16c2	N-18'-W	円形	0.97 × 0.94	121	外傾	皿状	自然					本跡→SI-203, SK-838
850	C15g7	N-23'-W	不定形	[0.94 × 0.74]	47		平坦			D a1		獣骨	SI-100→本跡→SI-183, SK-801
851	C15g0	N-54'-W	楕円形	1.61 × 0.86	45	垂直	平坦	人為					
852	C15g1	N-88'-W	円形	2.01 × 1.80	113	内傾	平坦	自然	1	AⅣc3	阿玉台Ⅳ～加曾利Ⅰ	縄文土器, 敲石	SI-175→本跡, 袋状, 底径2.98×2.25
853	C16h2	N-58'-W	[長楕円形]	[2.25] × 1.26	35	外傾	平坦			BⅡc1	中期～後期	縄文土器	
854	C16d1	N-12'-W	楕円形	1.58 × 1.06	110	外傾	平坦	自然		BⅡb3	加曾利Ⅰ～安行Ⅲa	縄文土器, 獣骨	本跡→SI-203
855	D15b3	N-55'-E	楕円形	1.05 × 0.96	90	内傾	平坦	自然		BⅣb2	中期	縄文土器	SK-856不明, 袋状, 底径2.23×1.87
856	D15b3	N-0°	不定形	1.21 × 1.07	91	内傾	平坦	自然		BⅣb2	[中期]		SK-855不明, 袋状, 底径1.73×1.40
857	C15i3	N-32'-E	不定形	1.68 × 0.98	60	外傾	平坦	人為	2	DⅡb2			本跡→SI-189
858	C16e1	N-22'-W	[隅丸長方形]	1.85 × [0.98]	58	外傾	平坦	人為		CⅡb2	加曾利 E	縄文土器	SI-186→本跡→SK-842
859	C16b4	N-55'-E	円形	1.88 × 1.80	135	垂直	平坦	自然		AⅢb3	加曾利 EⅠ	縄文土器	
861	C16b5	N-41'-W	円形	1.35 × 1.30	210	垂直	平坦	自然		AⅢb4		縄文土器	
862	C16b5	N-23'-W	楕円形	1.15 × 0.92	74	垂直	平坦	人為		BⅢb2			
863	C16d2	N-28'-W	楕円形	1.43 × 0.92	16	外傾	平坦	人為		BⅡb1			本跡→SI-203
864	C16h3	N-50'-E	円形	2.75 × 2.65	75	垂直	平坦	人為	3	AⅢc2	加曾利 EⅢ	縄文土器	
865	C16e2	N-9'-E	楕円形	1.71 × 1.24	20	外傾	皿状			DⅡb1	後期中葉～後葉	縄文土器, 土偶, 獣骨	
866	C15g9	N-19'-W	円形	1.35 × 1.28	50	外傾	平坦	自然		AⅡb2	加曾利 EⅢ	縄文土器, 獣骨	SI-187→本跡
867	C16f5	N-88'-W	楕円形	1.75 × 1.46	33	外傾	平坦		1	BⅡb1	加曾利 EⅢ～Ⅳ	縄文土器	本跡→SI-206
868	C16f5	N-87'-W	楕円形	0.88 × 0.73	28	外傾	平坦		1	BⅡa1	中期	縄文土器	本跡→SI-206
869	C16c3	N-44'-W	不整楕円形	1.30 × 0.98	102	内傾	平坦	自然		BⅣb3	阿玉台～加曾利 EⅢ	縄文土器	SK-900→本跡
870	C16g2	N-27'-W	楕円形	1.74 × 1.32	53	外傾	平坦	自然		BⅡb2	中期	縄文土器	SI-110-204→本跡
871	C16h3	N-13'-E	不整楕円形	2.25 × 1.70	28	垂直	凸凹	人為		BⅢb1	加曾利 E	縄文土器, 獣骨	SI-108-110-204→本跡
872	C16c5	N-11'-W	楕円形	(2.24) × 1.47	72	外傾	平坦	自然		BⅡc2			本跡→SK-873
873	C16c4	N-25'-W	不定形	2.40 × 1.26	74	垂直	平坦	人為		DⅢc2			SI-205-SK-872→本跡
874	C15f9	N-16'-W	楕円形	2.12 × 1.77	70	緩斜	平坦	自然	1	BⅠc2	後期	縄文土器, 磨石	本跡→SI-187
875	C16g2	N-29'-W	隅丸長方形	(3.00) × 2.56	70	緩斜	平坦	人為	2	CⅠc2	加曾利 EⅠ～Ⅱ	縄文土器	SI-204→本跡, SK-932不明
876	C16c3	N-18'-W	楕円形	1.92 × 1.10	36	外傾	平坦	自然		BⅡb1			本跡→SI-205

土坑 番号	位置	長径(軸) 方 向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	海面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
877	C16d5	N-3°-W	楕円形	[2.42 × 1.51]	31	垂直	平坦	自然	2	BⅢc1	後期	縄文土器	本跡→SI-205
878	C16h1	N-7°-W	円形	1.43 × 1.38	57	外傾	平坦	人為		AⅡb2			本跡→SI-202
880	C16e3	N-53°-W	楕円形	1.37 × 1.15						B a	後期	縄文土器	本跡→SI-106B
881	C16f3	N-32°-W	円形	0.75 × 0.70	58	外傾	平坦	人為		AⅡa2	後期	縄文土器, 獣骨	本跡→SI-207
882	C16e2	N-7°-W	円形	1.43 × 1.38	22	緩斜	平坦	自然		BⅠb1			本跡→SI-106B
883	C16h1	N-10°-W	不定形	1.08 × 0.85	64	内傾	平坦	人為		DⅣb2	[中期]		SI-202不明, 袋状, 底径1.18×1.05
884	C15g0	N-22°-W	隅丸長方形	[1.95] × 1.14	74	垂直	凸凹			CⅢb2	加曾利E	縄文土器	SI-186, SK-827→本跡, SK-889不明
885	C15e5	N-85°-W	長楕円形	2.63 × 1.04	25	垂直	平坦	人為		BⅢc1	中期末	縄文土器	
886	C15f9	N-0°	円形	(1.85) × 1.80	30	外傾	平坦	自然	1	AⅡb1	中期末～後期	縄文土器, 獣骨	
887	C16b4	N-45°-W	楕円形	1.47 × 1.33	84	緩斜	皿状	人為		BⅠb2			
888	C15f0	N-34°-W	[円形]	1.15 × [1.11]	67	垂直	平坦	自然		AⅢb2	中期	縄文土器, 凹石	本跡→SK-889
889	C15f0			(0.95 × 0.60)	65		凸凹	自然		a2	中期	縄文土器	SI-186, SK-888→本跡, SK-884不明
900	C16d3	N-0°	楕円形	1.25 × (0.95)	22	緩斜	平坦			BⅠb1	堀之内1	縄文土器	本跡→SI-205, SK-869
931	C16e4		不定形	2.98 × [2.74]	48	外傾	平坦	人為	1	DⅡc1	加曾利EⅠ～Ⅱ	縄文土器	SI-206→本跡
932	C16g2	N-29°-W	円形	(1.12) × 1.06	52	外傾	平坦	人為		AⅡb2			SI-204→本跡, SK-875不明
933	C16e2	N-0°	円形	1.24 × 1.23	24	外傾	平坦	自然		AⅡb1	中期～後期	縄文土器, 磨石	本跡→SI-106B
934	C16g6	N-90°	楕円形	1.55 × 1.15	41	外傾	平坦	自然		BⅡb1	称名寺～加曾利B	縄文土器	
935	C16e6	N-90°	楕円形	1.58 × 1.42	70	内傾	平坦	人為		BⅣb2	[中期]		袋状, 底径2.22×2.15
936	C16g7	N-90°-W	楕円形	1.71 × 1.44	58	外傾	平坦	自然		BⅡb2		縄文土器	
937	C16e2	N-30°-W	楕円形	(1.63) × 1.02	35	外傾	平坦	自然		BⅡb1	加曾利E		本跡→SI-211
938	C16f6	N-46°-E	楕円形	2.84 × 2.36	60	外傾	平坦	自然	3	BⅡc2	加曾利EⅣ		SI-107→本跡→SI-212
939A	C15f9	N-14°-W	楕円形	1.78 × 1.53	57	外傾	平坦	自然		BⅡb2	堀之内1	縄文土器, 土製円板	
939B	C15f9	N-20°-W	楕円形	[2.85 × 1.78]	36	外傾	凸凹		2	BⅡc1			SK-939A→本跡
940	C16b8	N-3°-E	楕円形	1.56 × 1.40	66	外傾	平坦	自然		BⅡb2			本跡→SI-210, SK-1161
942	C16g7	N-60°-W	楕円形	2.20 × (1.85)	25	外傾	平坦		3	BⅡc1			SI-199→本跡
943	C16e5	N-27°-E	楕円形	1.58 × 1.25	62	外傾	平坦	人為		BⅡb2	安行Ⅱ	縄文土器	本跡→SI-206
944	C15g0	N-34°-W	楕円形	1.77 × 1.53	43	外傾	凸凹			BⅡb1		獣骨	本跡→SI-187
946	C16h5	N-74°-W	楕円形	2.26 × 1.76	72	外傾	平坦	自然		BⅡc2	加曾利EⅠ～Ⅱ		
947	C16h7	N-60°-W	不整円形	2.90 × 1.76	65	外傾	平坦	人為	4	AⅡc2	後期中葉	縄文土器, 獣骨	SK-949・950→本跡
948	C16g6	N-14°-W	不整楕円形	[1.45] × 1.00	105	垂直	凸凹	自然		BⅢb3	安行Ⅰ～Ⅱ	縄文土器	円筒状
949	C16i8	N-60°-W	楕円形	1.28 × 1.04	237	垂直	平坦	自然		BⅢb4	安行Ⅲa	縄文土器, 獣骨	本跡→SK-947・950
950	C16i7	N-15°-W	円形	0.96 × 0.94	161	ほぼ垂直	平坦	人為		AⅢa3	安行Ⅱ	縄文土器, 獣骨	SK-949→本跡→SK-947
951	C16j7	N-55°-E	楕円形	2.56 × [1.88]	81	外傾	平坦	自然	4	BⅡc2	阿玉台Ⅳ～加曾利EⅠ	縄文土器, 磨石, 獣骨, 貝	SK-1065→本跡
952	C16j8	N-35°-E	円形	0.80 × 0.75	109	垂直	平坦			AⅢa3	後期中葉～後葉	縄文土器	
953	C16h5	N-14°-W	(楕円形)	1.80 × (1.15)	67	垂直	平坦	自然		BⅢb2	加曾利E	縄文土器, 人骨	SI-107→本跡, SK-956不明, 墓壙か
954	C16e9	N-47°-E	楕円形	1.95 × 1.70	88	内傾	平坦	自然	2	BⅣb2	阿玉台Ⅳ～加曾利EⅠ	縄文土器	SI-200, SK-955→本跡, 袋状, 底径1.94×1.80
955	C16e9	N-35°-W	不整長方形	(2.02) × [1.80]	62	外傾	平坦	自然	2	CⅡc2			本跡→SI-200, SK-954
956	C16h6	N-74°-W	不整方形	3.66 × 3.50	62	外傾	平坦	自然	5	CⅡc2	加曾利EⅡ	縄文土器	SI-107→本跡, SK-953・1072不明
957	C16f8	N-43°-E	円形	1.35 × 1.32	164	垂直	平坦	人為		AⅢb4			本跡→SI-199, 円筒状
958	C16f8	N-30°-E	楕円形	2.08 × 1.75	52	垂直	平坦	自然		BⅢc2	中期	縄文土器	
959	C16e2	N-7°-E	円形	1.45 × 1.33	30	外傾	平坦	自然		AⅡb1			SI-211不明
960	C16e8	N-67°-E	楕円形	1.03 × 0.73	72	内傾	平坦	自然		BⅣb2	阿玉台Ⅲ～Ⅳ	縄文土器	SI-199→本跡, 円筒状
1044	C17i1	N-57°-E	不定形	(2.12 × 1.45)	74	外傾	平坦	自然		DⅡc2	加曾利B・安行Ⅰ	縄文土器, 土製円板, 獣骨	本跡→SI-232, SK-1067
1045	C17i1	N-59°-E	不整楕円形	1.90 × 1.23	108	内傾	平坦	人為	1	BⅣb3	阿玉台Ⅳ～加曾利EⅠ	縄文土器	SI-232, SK-1044→本跡, 袋状, 底径2.35×2.16

土坑 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	海面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
1046	C16i ^o	N-29°-E	円 形	1.91 × 1.81	80	外傾	平坦	自然	2	A II b2	中峠~加曾利E I	縄文土器	SI-232→本跡
1047	C16i ^s	N-29°-W	楕 円 形	3.00 × [2.66]	75	外傾	平坦	自然	4	B II c2		縄文土器, 磨石, 敲石	SK-1080不明
1048	D16b ^r	N-3°-E	不整楕円形	1.31 × 1.30	(45)	外傾	平坦	自然		A II b1	中期か	縄文土器	SK-1049不明
1049	D16a ^e	N-80°-W	不整楕円形	2.08 × 1.07	50	外傾	平坦	自然	4	B II c2	中期か	縄文土器, 獸骨	SK-1048不明
1050	C16f ^r	N-42°-E	楕 円 形	1.50 × 1.27	37	垂直	平坦	自然		B III b1	後期安行	縄文土器	本跡→SI-212, SK-1051
1051	C16f ^r	N-13°-W	楕 円 形	1.86 × 1.47	84	内傾	平坦	自然		B IV b2	阿玉台III~IV	縄文土器	SI-212, SK-1050→本跡, 袋状 底径2.05×2.06
1052	C16g ^r	N-9°-E	卵 形	1.02 × 0.88	115	垂直	平坦	人為		B III b1	晩期前葉	縄文土器	本跡→SI-199
1053	C16g ^s	N-69°-W	楕 円 形	1.27 × 1.13	55	外傾	平坦			B II b2	堀之内	縄文土器	SI-204→本跡
1054	C16j ^o	N-71°-W	楕 円 形	2.44 × 1.96	54	外傾	平坦	自然	1	B II c2	加曾利E II	縄文土器	
1055	C16i ^e	N-0°	楕 円 形	1.21 × 1.04	39	外傾	平坦	自然		B II b1	加曾利E II~III	縄文土器	本跡→SI-215
1056	C16i ^r	N-30°-W	楕 円 形	1.58 × 1.22	243	垂直	平坦	一部人為		B III b4	安行III a	縄文土器, 磨石, 獸骨, 魚骨	本跡→SI-215, SK-1117, 円筒状
1057	C16i ^r	N-42°-W	円 形	1.14 × 1.07	81	外傾	平坦	人為		A II b2	加曾利E II~III	縄文土器	本跡→SI-215, SK-1075不明
1058	C16e ^o	N-20°-W	円 形	1.22 × 1.15	175	垂直	平坦	人為		A III b3			本跡→SI-217, 円筒状
1059	C16d ^o	N-78°-E	楕 円 形	1.10 × 0.88	103	内傾	平坦	自然		B IV b3	中期中葉	縄文土器	SI-217→本跡, 袋状, 底径[1.75×1.42]
1060	C16d ^s	N-44°-W	隅 九 方 形	2.30 × 2.15	74	垂直	平坦	自然		C III c2	中期中葉	縄文土器	SI-217→本跡
1061	C16g ^s	N-29°-E	楕 円 形	[1.84] × 1.34	100	内傾	平坦	自然		B IV b3	中峠	縄文土器, 磨製石斧	SI-210, SK-940→本跡, 袋状, 底径2.19×1.56
1062	C16g ^s	N-0°	円 形	[1.08 × 1.01]	23	垂直	平坦			A III b1		縄文土器	本跡→SI-207
1063	C16d ^o	N-4°-E	不整楕円形	1.27 × 0.90	114	内傾	凸凹	自然		B IV b3	阿玉台IV	縄文土器, 土製円板, 石棒	SI219不明, 袋状, 底径2.55×1.21
1064	C16d ^e	N-71°-W	楕 円 形	1.50 × 0.68	37	緩斜	平坦			B I b1			本跡→SI-217
1065	C16j ^r	N-52°-W	不整楕円形	3.90 × 3.30	72	緩斜	平坦	自然	8	B I c2	安行 I	縄文土器, 魚骨	本跡→SK-951
1066	C16j ^s	N-4°-W	円 形	1.50 × 1.36	137	垂直	平坦	自然		A III b3	安行III a	縄文土器, 磨石, 獸骨, 貝	本跡→SI-213, 円筒状
1067A	C17h ⁱ	N-15°-W	楕 円 形	2.50 × 2.23	100	内傾	平坦	自然	3	B IV c3	[中期]	浮子, 貝	SI-232, SK-1044・1067B→本跡, 袋状 底径2.70×2.42
1067B	C17i ^s	N-0°	円 形	0.45 × 0.44	143	外傾	平坦			A II a3	安行III a	縄文土器	本跡→SK-1067A
1068	C16h ^o	N-28°-W	長楕円形	2.45 × 1.28	38	外傾	平坦	人為	2	B II c1	安行 II	縄文土器	本跡→SI-208, SK-1092
1069	C17h ^s	N-0°	楕 円 形	3.04 × 2.50	98	外傾	平坦	自然	4	B II c2	堀之内		
1070	C16f ^o	N-63°-W	楕 円 形	[1.50 × 1.30]	94	垂直	平坦	自然		B III b2	加曾利I・後期安行	縄文土器	本跡→SI-200, SK-1111不明
1071	C16f ^o	N-29°-E	楕 円 形	0.90 × 0.70	70	内傾	平坦	自然		B II b2	[中期]		SI-200→本跡, 袋状, 底径1.22×1.05
1072	C16h ^o	N-73°-E	楕 円 形	2.10 × [1.15]	51	垂直	平坦	自然		B III c2	加曾利E I	縄文土器	SK-956・1117・1136不明
1073	D16a ^s	N-0°	円 形	1.16 × 1.10	78	外傾	平坦	人為		A II b2	加曾利E II~III	縄文土器	本跡→SI-216
1074	C16j ^s	N-0°	円 形	1.26 × 1.23	57	外傾	平坦	人為		A II b2		縄文土器	本跡→SI-216
1075	C16j ^r	N-31°-E	円 形	1.20 × [1.16]	50	垂直	平坦	人為		A III b2	加曾利E	縄文土器, 石鏃	本跡→SI-215, SK-1057不明
1076	C16e ^s	N-19°-E	不 定 形	[1.60] × 1.16	44	外傾	緩斜	人為		D II b1	中期	縄文土器	SI-212→本跡
1077	D16a ^s	N-52°-E	[楕 円 形]	[1.25 × 0.96]	95	緩斜	皿状	自然		B I b2	加曾利E I	縄文土器, 土製円板	本跡→SK-1078
1078	D16a ^s	N-84°-W	楕 円 形	[1.75] × 0.71	54	緩斜	皿状	人為		B I b2		縄文土器	SK-1077→本跡
1079	C16i ^s	N-76°-W	楕 円 形	2.14 × 1.85	91	外傾	平坦	自然	2	B II c2		縄文土器, 磨石	SI-213→本跡
1080	C16j ^s	N-0°	不整楕円形	[3.44] × 2.59	40	外傾	平坦	自然	3	B II c2	加曾利E I	縄文土器	SI-216→本跡, SK-1047不明
1081	C16j ^o	N-77°-W	楕 円 形	1.35 × (0.55)	85	内傾	平坦	自然		B IV b2	[中期]		SK-1082→本跡, 袋状, 底径1.64×(0.95)
1082	C16j ^o	N-53°-E	楕 円 形	1.45 × 1.15	156	垂直	平坦			B III b4	安行 II	縄文土器	本跡→SK-1081, 円筒状
1083	C17g ⁱ	N-55°-E	不整楕円形	2.05 × 1.62	52	外傾	平坦			B II c2	加曾利E I~II	縄文土器, 石器	SI-233不明
1084	C15i ^r	N-62°-W	楕 円 形	1.76 × 1.40	45	外傾	平坦	人為		B II b2	加曾利E	縄文土器	本跡→SI-230A・230B
1085	C15i ^r	N-11°-W	楕 円 形	2.90 × 2.62	60	外傾	平坦	自然	1	B II c2	中期	縄文土器, 獸骨	本跡→SI-230A・230B
1086	C15h ^e	N-15°-W	楕 円 形	[1.27 × 1.06]	68	外傾	凸凹	自然		B II b2			SK-1089・1093→本跡
1089	C15h ^e	N-62°-W	楕 円 形	0.94 × [0.85]	65	外傾	凸凹	人為		B II a2		磨石	SK-1086→本跡→SI-230B

土坑 番号	位置	長径(軸) 方 向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	海面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
1090	C16j9	N-90°	精 円 形	1.86 × [1.39]	115	内傾	平坦	自然		BIVb3	阿玉台Ⅲ～Ⅳ	縄文土器, 獣骨	袋状, 底径2.84×2.45
1091	C16j9	N-21°-W	精 円 形	1.21 × [1.06]	44	外傾	平坦			BIIb1	安行Ⅱ	縄文土器, 耳飾, 石鏃, 獣骨	本跡→SI-213, SK-1109
1092	C16g9	N-31°-E	精 円 形	1.62 × 1.25	142	内傾	平坦	自然		BIVb2	阿玉台Ⅳ	縄文土器	SI-208→本跡, 袋状, 底径2.35×1.95
1093	C15h6	N-24°-E	円 形	1.01 × 0.95	200	垂直	平坦			AIIIb4			本跡→SI-230B, SK-1086, 円筒状
1094	C15h5	N-47°-W	不整楕円形	1.26 × 0.98	52	外傾	凸凹			BIIb2		土偶	SI-117→本跡
1095	C15g5	N-50°-W	不整楕円形	1.04 × 0.80	112	外傾	皿状			BIIb3			SI-117→本跡
1096	C17f2	N-17°-E	精 円 形	1.78 × 1.15	50	外傾	皿状	自然		BIIb2	加曾利E	縄文土器	SI-231→本跡
1097	C17g2	N-25°-W	精 円 形	1.75 × 1.42	52	外傾	平坦	自然		BIIb2	加曾利E—称名寺	縄文土器	SI-231不明
1098	C17g1	N-35°-W	長楕円形	(3.10) × 1.82	75	外傾	平坦	自然		BIIc2	加曾利E I	縄文土器, 旧石器	SI-218→本跡
1099	C16f0	N-7°-W	不整楕円形	[2.67 × 2.40]	94	緩斜	凸凹	自然		BIc2	後期	縄文土器	本跡→SI-200, SK-1100不明
1100	C16e6	N-90°	精 円 形	2.78 × [2.05]	114	垂直	平坦	自然	2	BIIIc3	加曾利E	縄文土器	SK-1099不明
1101	C16i9	N-30°-W	円 形	0.97 × 0.85	115	内傾	平坦			AIVa3	[中期]		SI-239→本跡, 袋状, 底径1.81×1.55
1102	C16i9	N-0°	円 形	0.95 × 0.95	22	緩斜	平坦			AIIa1	称名寺	縄文土器	本跡→SI-239
1103	D16a8	N-80°-W	精 円 形	1.63 × 1.19	94	外傾	凸凹	自然		BIIb2			
1104	D16b7	N-45°-W	精 円 形	[2.63] × 1.75	34	緩斜	凸凹	自然	6	BIc1	中期中葉	縄文土器, 敲石, 獣骨	本跡→SK-1105, SK-1108・1155不明
1105	D16a7	N-82°-W	精 円 形	2.74 × 2.04	35	緩斜	平坦	自然	1	BIc1	加曾利EⅡ～Ⅲ	縄文土器	SK-1104→本跡
1108	D16b7	N-90°	精 円 形	2.30 × 1.94	56	外傾	平坦	自然	1	BIIc2	加曾利E I	縄文土器	SK-1104不明
1109	C16i9	N-70°-E	精 円 形	1.50 × 1.15	115	内傾	平坦	人為		BIVb3	中峠	縄文土器, 磨石	SK-1091→本跡, SI-239不明, 袋状 底径2.64×2.05
1110	D16a0	N-46°-E	円 形	4.02 × 3.86	24	外傾	平坦	自然	3	AIIc1	中峠	縄文土器, 土偶	
1111	C16f0	N-0°	不整楕円形	2.18 × 1.86	101	垂直	皿状	自然	2	BIIIc3	後期	縄文土器, 土製円板, 獣骨	SK-1070不明
1112	C17f3	N-73°-E	精 円 形	1.30 × 0.97	78	外傾	平坦	自然		BIIb2	中期中葉	縄文土器, 敲石	SI-231→本跡
1113	C17h3	N-0°	不整楕円形	1.45 × 1.01	160	垂直	凸凹	人為		BIIIb4	後期	縄文土器	本跡→SK-1114, SK-1151不明, 円筒状
1114	C17h3	N-40°-W	不整楕円形	1.58 × 1.03	63	外傾	凸凹	人為		BIIb2		縄文土器	SK-1113→本跡, SK-1151不明
1115	C17e3	N-50°-W	円 形	1.87 × 1.83	72	外傾	凸凹	自然		AIIb2	加曾利E	縄文土器	
1116	C17i2	N-58°-E	円 形	1.16 × 1.07	37	外傾	平坦	自然		AIIb1			本跡→SI-235A
1117	C16h6	N-60°-W	精 円 形	(1.87 × 1.00)	116	内傾	平坦	自然		BIVb3	中期中葉	縄文土器	SK-1056→本跡, SK-1076・1136不明, 袋状, 底径2.88×1.98
1118	C16h7	N-35°-W	円 形	1.27 × [1.16]	54	垂直	平坦	自然		AIIIb2	加曾利EⅢ	縄文土器	
1119	C17e2	N-42°-W	精 円 形	1.42 × 1.23	62	緩斜	平坦	自然		BIb2	中期	縄文土器	本跡→SI-234
1120	C17g3	N-0°	円 形	1.70 × 1.70	152	外傾	凸凹	自然		AIIb4	中期	縄文土器	
1121	C17h2	N-75°-E	精 円 形	[1.14] × 0.99	28	外傾	平坦	自然		BIIb1			
1122	C17i3	N-18°-W	精 円 形	2.68 × 2.20	35	外傾	平坦	自然		BIIc1	中期	縄文土器, 磨製石斧	SI-235B不明
1123	C16i9	N-0°	精 円 形	2.16 × [1.82]	98	外傾	平坦	人為		BIIc2	中期～後期	縄文土器, 磨製石斧	本跡→SI-237, SK-1109不明
1124	C17h1	N-35°-E	円 形	1.95 × 1.80	96	内傾	平坦			AIVb2	阿玉台Ⅳ	縄文土器, 土製円板, 獣骨	SI-218→本跡, 袋状, 底径2.00×1.80
1125	C17j3	N-22°-E	不整楕円形	3.08 × [2.55]	27	外傾	平坦	自然	1	BIIc1		縄文土器	本跡→SI-235A, SK-1138
1126	C17i2	N-12°-W	円 形	1.62 × 1.48	52	外傾	平坦	自然		AIIb2	阿玉台Ⅳ	縄文土器	SI-235B不明
1127	C16f7	N-34°-E	卵 形	1.30 × 1.21	42	外傾	凸凹	自然		BIIb1	中期	縄文土器	
1128	C17c2	N-3°-W	精 円 形	2.61 × 1.50	95	外傾	平坦	自然		BIIc2	加曾利EⅡ～Ⅲ	縄文土器	本跡→SI-238
1130	C17j1	N-67°-W	精 円 形	2.16 × [1.82]	77	内傾	平坦	自然	1	BIVc2	中峠～加曾利E I	縄文土器, 敲石	SK-1131・1132不明, 袋状, 底径[2.32×1.92]
1131	D17a1	N-25°-E	円 形	[1.11] × 1.07	119	垂直	平坦	自然		AIIIb3	加曾利E	縄文土器	SK-1130・1133不明
1132	D17a1	N-55°-W	精 円 形	(2.31 × 1.83)	42	外傾	凸凹	人為	3	BIIc1	中期中葉	縄文土器	SK-1130・1133不明
1133	D17a1	N-63°-E	精 円 形	3.26 × [2.67]	94	外傾	凸凹	自然	1	BIIc2	加曾利E I	縄文土器	SK-1131・1132・1137不明
1134	C17b1	N-49°-E	不整楕円形	2.23 × 2.08	70	外傾	平坦	人為	3	BIIc2	加曾利EⅢ	縄文土器	本跡→SI-233
1135	C17d2	N-36°-E	精 円 形	1.51 × 1.14	44	外傾	平坦	自然		BIIb1	中期	縄文土器	本跡→SI-234

土坑 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	海面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
1136	C16h6	N-48°-E	楕円形	(1.80)×1.49	86	垂直	凸凹	自然		BⅢb2	加曾利E I	縄文土器	SK-1072・1117不明
1137	D17a1	N-66°-W	楕円形	1.83×1.53	64	外傾	凸凹		2	BⅡb2			SK-1133不明
1138	C17j3	N-34°-E	楕円形	[1.30×0.87]	71	内傾	平坦	自然		BⅣb2			SK-1125→本跡,袋状,底径1.67×1.53
1139	D16a5	N-90°	不整楕円形	[3.60×3.24]	34	緩斜	平坦	自然	2	BⅠb2	中期中葉	縄文土器,獣骨	SK-1143不明
1140	C17e2	N-39°-W	不定形	2.15×1.53	63	外傾	平坦	自然		DⅡc2	加曾利E-称名寺	縄文土器	本跡→SI-234
1141	D16g6	N-0°	円形	1.91×1.88	32	緩斜	平坦	自然		AⅠb1	加曾利EⅡ-Ⅲ	縄文土器	
1142	C17d2	N-48°-E	楕円形	1.70×1.25	105	外傾	平坦	自然		BⅡb3	中期	縄文土器	SI-234→本跡
1143	D16a5	N-14°-W	楕円形	[2.96×1.94]	43	外傾	平坦	自然	4	BⅡc1	中期中葉	縄文土器	SK-1144→本跡,SK-1139不明
1144	D16a5	N-57°-W	不整楕円形	[1.91×1.54]	31	外傾	凸凹	自然	2	BⅣb1	加曾利B	縄文土器	SK-1145→本跡→SK-1143
1145	D16a6	N-7°-W	不整楕円形	2.32×1.46	30	垂直	凸凹	自然	5	BⅢc1	後期安行	縄文土器,土製円板	本跡→SK-1144
1146	C16g9	N-41°-W	不整楕円形	(2.03×1.72)	102	内傾	平坦	自然		BⅣc3	[中期]	ナイフ形石器	SI-218・233→本跡,袋状,底径2.13×1.95
1147	C16g9	N-47°-W	楕円形	1.18×0.82	62	外傾	平坦	人為		BⅡb2			本跡→SI-208
1148	C17d2	N-50°-W	楕円形	1.07×0.84	23	外傾	平坦	人為		BⅡb1	加曾利E I		SI-234→本跡,埋設土器
1149	C17d2	N-49°-W	不定形	2.10×1.38	56	外傾	平坦		1	DⅡc2			本跡→SI-234
1150	D16a6	N-43°-E	楕円形	2.07×[1.66]	34	外傾	平坦	人為	2	BⅡc1	中期	縄文土器	
1151	C17h3	N-80°-W	楕円形	2.80×(2.24)	60	垂直	凸凹		3	BⅢc2	堀之内	縄文土器	SK-1113・1114不明
1152	C17h3	N-40°-W	楕円形	0.80×0.70	103	垂直	平坦			BⅢa3			
1153	C16h0	N-46°-E	楕円形	1.00×[0.80]	74	内傾	平坦	自然	2	BⅣb2	加曾利E I	縄文土器	SK-1157→本跡,袋状,底径1.60×1.43
1154	C16g8	N-63°-W	楕円形	1.61×1.24	75	緩斜	平坦	自然		BⅡb2			本跡→SI-213
1155	D16b7	N-33°-W	楕円形	[3.32×2.70]	21	緩斜	平坦		5	BⅡc1	中期	縄文土器	
1156	D16b6	N-73°-E	楕円形	2.05×[1.84]	17	緩斜	平坦	自然	5	BⅡc1	中期	縄文土器	
1157	C16h0	N-54°-E	円形	1.52×[1.53]	53	緩斜	平坦	自然		AⅡb2	後期前葉	縄文土器	本跡→SK-1157

(5) 遺構外出土遺物

D区からは、直接遺構に伴わない土器、土製品、石器、石製品、鉄器及び古銭が出土している。ここでは、それらについて実測図（第265～285図）及び観察表、一覧表で一括して報告する。

第265～270図1～75は遺構外出土遺物の実測図である。1～38, 69～75については観察表に記述し、観察表に記述しなかった注口土器片、把手、蓋についてここでは簡単に分類しておく。

39～52は注口土器の注口部片である。39は中期加曾利E式並行の注口部片で、複節縄文RLRが一部見られる。40～43は後期堀之内式の注口土器である。40は注口部上に「C」字状文と刺突文、41は注口部先端と口縁部突起を接続する把手、42も注口部先端と口縁部を接続する把手が見られる。43は注口部中位に把手が見られる。44は後期加曾利B式の注口部片と思われ、外面は磨きが施されている。45, 47は後期の注口部と思われる。46, 48～52は後期から晩期安行式の注口土器で、基部下に46は円形文、48, 50, 52は縦刻み加飾の貼瘤が付けられ、50は沈線区画の縄文帯と注口部横を巡る突帯が見られる。49は中央に短沈線を連続させた隆帯貼り付けが基部の周囲に見られ、大洞B式の影響と思われる。51は注口部が僅かに反って先端に至る。

53～66は把手及び突起片である。53, 54は中期加曾利EⅠ式中空把手である。55は後期綱取式の影響が見られ、2単位の孔を有する変形「8」字状把手である。56は側面に2単位、上面に2単位の孔を有する大形突起状の把手で、後期堀之内式の範疇と思われる。57は後期堀之内2式に比定される注口土器の弦状把手で、沈線及び刺突文で文様が構成されている。58～65は後期加曾利B式に比定される突起及び把手である。58, 62, 64はつまみ状の把手、59, 60は孔を有する環状の把手である。61は口縁部内面突起の文様、63は口縁部外面突起の文様で、いずれも円形文が施されている。65は下部に孔を有するスベード状の把手である。66は晩期姥山式の影響が見られる鉢巻き状突起で、突起下に孔が穿たれている。

67, 68は後期堀之内式の蓋で、67が径4cm、68が径5cmで、孔が対で穿たれている。67は中央に小円形文、さらに孔を結ぶように円形の平行沈線が施されている。

第276～285図1～169は縄文土器片の拓影図である。

1～66は中期の土器である。1～7は阿玉台式に比定される土器で、いずれも区画的な文様構成を隆帯で施し、内部には結節沈線文、爪形文及び沈線で文様が施されている。5～7は地文として縄文が施文されている。8～10は勝坂式の影響が見られる土器で、8は浅鉢形土器、10は筒形の土器の口縁部である。14は曾利式の影響が見られる浅鉢形土器で、口縁部内面に粘土紐貼り付けの稜が見られ、外面は半截竹管による縦方向の沈線が充填されている。12, 13, 15, 16は中峠式に比定され、12, 15, 16は口唇部に連続「コ」字状文が見られる。17～31は加曾利EⅠ式に比定される土器で、17～19, 22～26は隆線や沈線で口縁部の文様が構成され、24には三叉文が見られる。20は口唇部上端に部分的な刻み、21は口唇部外面に刻みと沈線効果を出す隆線を上端中央に施している。27～31は胴部片で、27は縄文が、30, 31は条線が胴部を直線的に垂下する平行沈線に切られ、31には蛇行沈線も見られる。28は地文の縄文が回転方向を換えて縦の羽状を取り、29は結節縄文が施文されている。32～39, 41～45は加曾利EⅡ式に比定される土器である。32は口縁部下の横走する平行沈線に胴部を垂下する平行沈線が連結している。33～39, 41は口縁部片で、渦巻文、長方形区画文等が沈線及び隆線で展開されている。42～45は胴部に平行沈線が垂下し、沈線間は磨り消されている。42と44は縄文地文で、42には蛇行沈線も見られ、43, 45は条線が地文で施されている。47は胴部に渦巻文及び剣先文が見られ、大木8b式の影響が見られる。40, 46, 48～61は加曾利EⅢ式に比定される土器で、40, 46, 48, 55は口縁部に列点文と波状あるいは弧状を描く複列の沈線が施文されている。49は口縁部無文で、微隆起線以下は縄文が施文されて

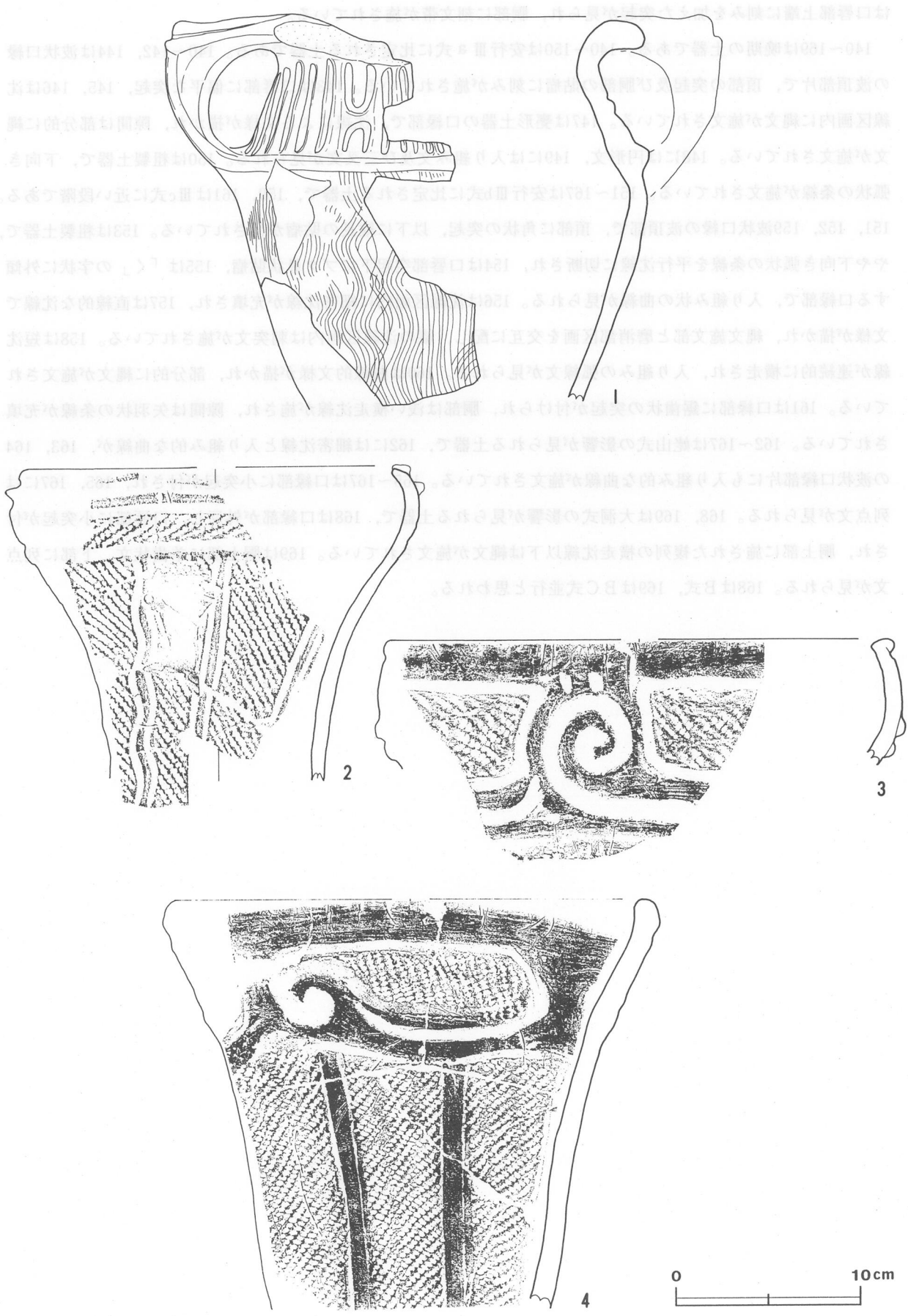
いる。50, 51, 53, 55は沈線で区画文が描かれている。52は外面に縄文が施文され、54は口縁部に施された連続円形文以下は沈線が垂下している。57～61は胴部片で、57, 58, 60, 61は直線的に垂下する沈線区画の磨消帯が施されている。59は胴部隆帯文が見られる。62～66は加曾利EⅣ式に比定される土器で、62は口縁部無文帯下の隆線に舌状の突起が付けられ、以下は縄文が施文されている。後期初頭にかけての土器である。63は口縁部は無文帯で、微隆起線以下は縄文が施文されている。64～66は口縁部及び胴部に微隆起線区画の磨消帯が施され、65には双耳状の突起、66にも突起が付けられている。

67～131, 133, 134は後期の土器である。67～69は網取式の影響が見られ、波状口縁の波頂部に刺突文及び沈線で曲線的あるいは直線的な文様が施されている。70～77は堀之内Ⅰ式に比定される土器で、70, 72～74は穿孔及び刺突文が口縁部に見られる。71も口縁部に孔が穿たれていると思われ、胴部を垂下する隆線に刻みが施されている。75～77は文様が沈線で施され、77は地文に縄文が施文されている。78～84は堀之内Ⅱ式に比定される土器である。78, 79には刺突を加えた隆線が見られる。80～82, 86は地文に縄文を施し、80, 81, 86は直線的な沈線で文様が描かれている。83は口縁部内面に短沈線、上端に小突起及び外面に沈線区画の縄文帯が見られ、84も波頂部に突起、外面に刺突文を施した隆線が施されている。85は口縁部下の隆線に粗い刻みが加えられ、以下は斜行あるいは縦方向の沈線が複列で施されている。89は堀之内Ⅱ式～加曾利BⅠ式にかけての土器で、地文の縄文を複列の横走沈線が切断している。87～96, 98は加曾利BⅠ式に比定される土器である。87は口縁部と胴下部の複列沈線を同様の斜行沈線が結び、区画内に縄文が施文されている。88, 90, 91, 93～95, 98は地文に縄文が施され、押捺を加えた粘土紐が88, 90, 93, 94, 98に、88, 93には斜行沈線が施され、98には横方向の沈線も見られる。95は指頭による微隆起線が口縁部外面に施され、口唇部上端には沈線も見られる。加曾利BⅡ式に近い時期と思われる。91は口唇部上端に押捺を加えた突起と口縁部に横長の連続刻文が施されている。92, 96は沈線区画の縄文帯が施され、92は内面にも縄文帯、94は縄文帯を結ぶやや弧を描く沈線が見られる。97, 99～108は加曾利BⅡ式に比定される土器である。97, 99, 100は外面に粗い縄文が施され、97は口縁部に粘土紐貼り付けの刻文帯と胴部に下向き弧線、100は口縁部に押捺を加えた粘土紐が施されている。101～108は横走沈線を主体として文様が構成され、縄文施文部以外は内・外面とも磨きが施されている。103の口唇部上端には小突起、104, 105の外面には刺突を加えた小突起と文様帯を切る短い区画文が見られる。106には胴部に下向き連弧文が施されている。109～111は加曾利BⅢ式に比定される土器で、109, 110は口縁部に、111は胴部に刻文帯が施され、110には刻文帯を挟んで下向き及び上向きの弧線が施されている。112～115は曾谷式に比定される土器である。112, 114は三角刻文帯、113は帯縄文と上向き弧線文、115には小突起が施されている。116は口縁部に帯縄文が施され、以下3段の刻文帯と縦長貼瘤が見られ、曾谷～安行Ⅰ式にかけての土器と思われる。117～125は安行Ⅰ式に比定される土器である。117～119, 124には隆起帯縄文、120, 122には隆起帯刻文、125には沈線区画の縄文帯が施されている。117～119, 120, 125には貼瘤が付され、125は縄文帯が「」(「)状の沈線に切られている。124は縄文帯に沿って刻文が施され、胴部には上向き弧線が施文されている。121, 123は粗製土器で、器面に条線が施され、121は口縁部と頸部に刻文帯が横走されている。126～131, 133, 134は安行Ⅱ式に比定される土器である。126, 127は縄文帯が口縁部以下多段施され、隙間の沈線区画の磨消部は小突起で接続されている。128は2段の刻文帯を結ぶ区画内縄文施文の斜行平行沈線が見られる。129～131, 133は縄文帯あるいは刻文帯上にブタ鼻状貼瘤が付されている。134は波状口縁の波頂部片で、刻みを施した頂部の突起以下にも刻みを加えた縦長貼瘤とブタ鼻状貼瘤が見られる。

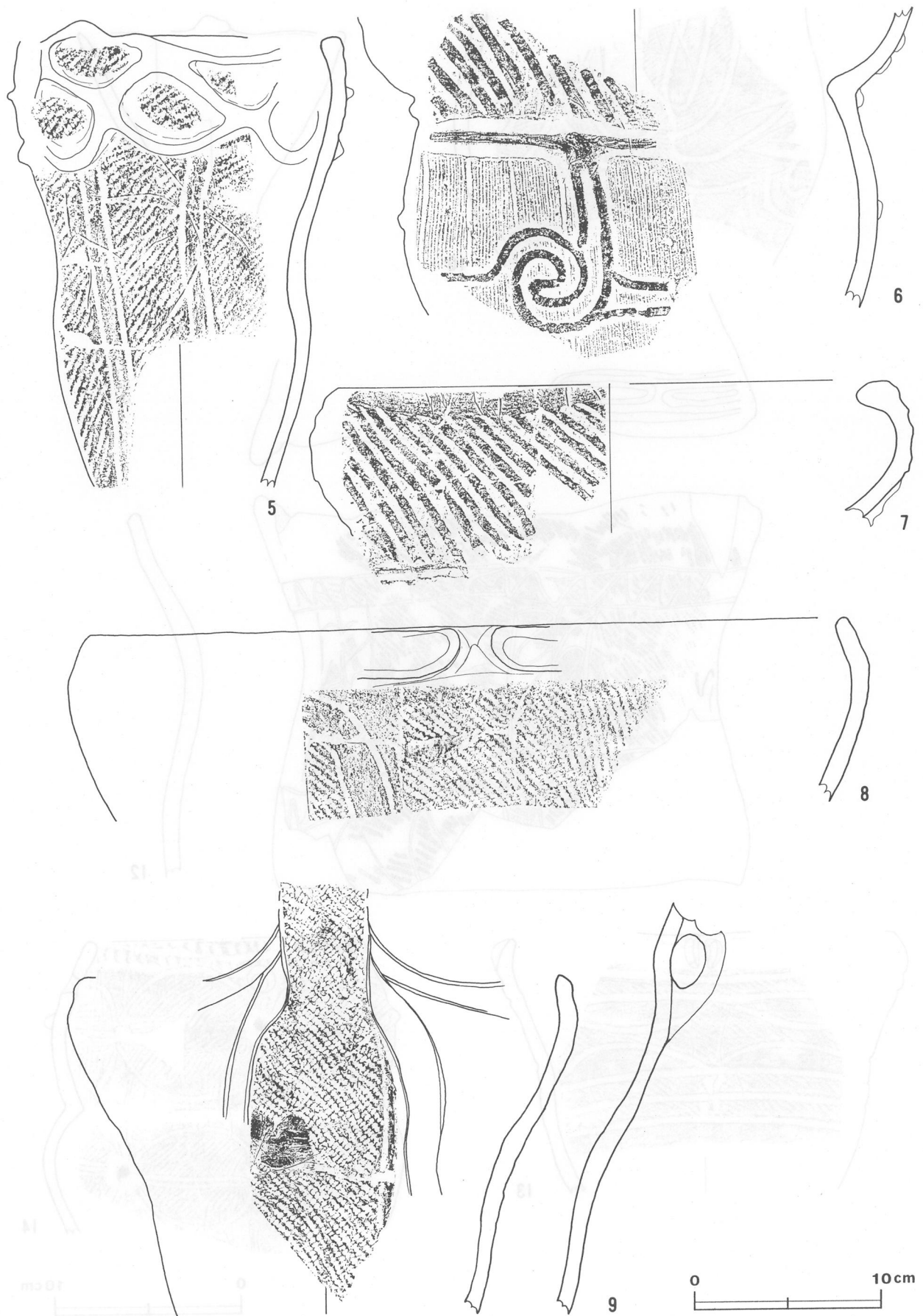
132, 135～139は後期安行Ⅱ式～晩期安行Ⅲa式にかけての土器である。132, 136, 137は粗製土器で、月状文が見られる。135, 138は多段の縄文帯が小突起で結ばれ、小突起間は刺突状の短沈線が施されている。139

は口唇部上端に刻みを加えた突起が見られ、胴部に刻文帯が施されている。

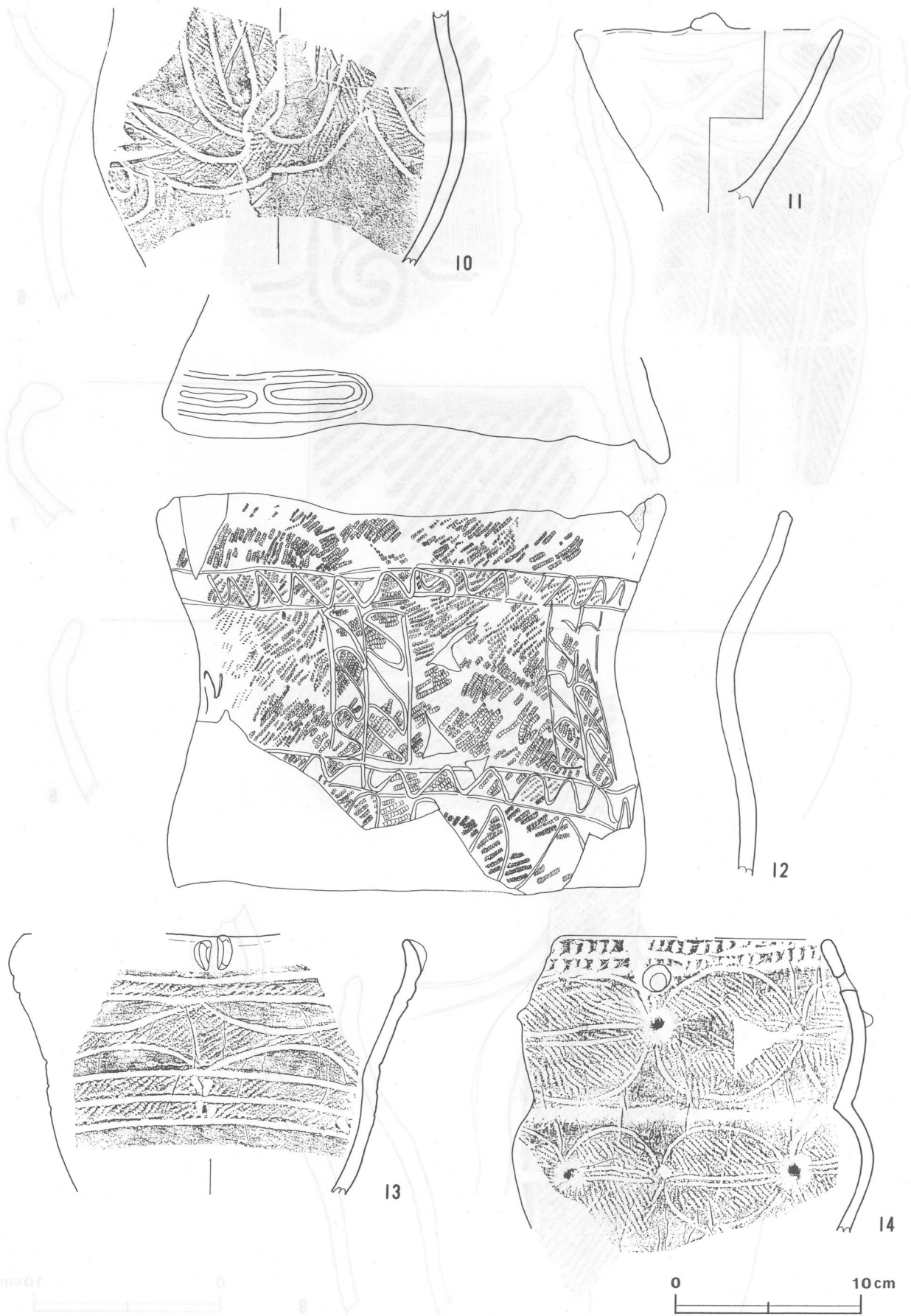
140～169は晩期の土器である。140～150は安行Ⅲ a 式に比定される土器である。140～142, 144は波状口縁の波頂部片で、頂部の突起及び胴部の貼瘤に刻みが施されている。143は口唇部に偏平な突起, 145, 146は沈線区画内に縄文が施文されている。147は甕形土器の口縁部で、沈線による文様が描かれ、隙間は部分的に縄文が施文されている。148には円形文, 149には入り組み文及び三叉文が見られる。150は粗製土器で、下向き弧状の条線が施文されている。151～167は安行Ⅲ b 式に比定される土器で、159, 161はⅢ c 式に近い段階である。151, 152, 159波状口縁の波頂部で、頂部に角状の突起、以下に縦長の貼瘤が付されている。153は粗製土器で、やや下向き弧状の条線を平行沈線に切断され、154は口唇部突起下にブタ鼻状貼瘤、155は「く」の字状に外傾する口縁部で、入り組み状の曲線が見られる。156は沈線区画内に細密沈線が充填され、157は直線的な沈線で文様が描かれ、縄文施文部と磨消部区画を交互に配し、縦の沈線区画内は刺突文が施されている。158は短沈線が連続的に横走され、入り組みの弧線文が見られる。160は曲線的な文様が描かれ、部分的に縄文が施文されている。161は口縁部に鋸歯状の突起が付けられ、胴部は浅い横走沈線が施され、隙間は矢羽状の条線が充填されている。162～167は姥山式の影響が見られる土器で、162には細密沈線と入り組み的な曲線が、163, 164の波状口縁部片にも入り組み的な曲線が施文されている。165～167は口縁部に小突起が付され、165, 167には列点文が見られる。168, 169は大洞式の影響が見られる土器で、168は口縁部が外反し、口唇部に小突起が付され、胴上部に施された複列の横走沈線以下は縄文が施文されている。169は胴上部に羊歯状文、下部に列点文が見られる。168はB式, 169はB C式並行と思われる。



第265図 遺構外出土遺物実測・拓影図(1)

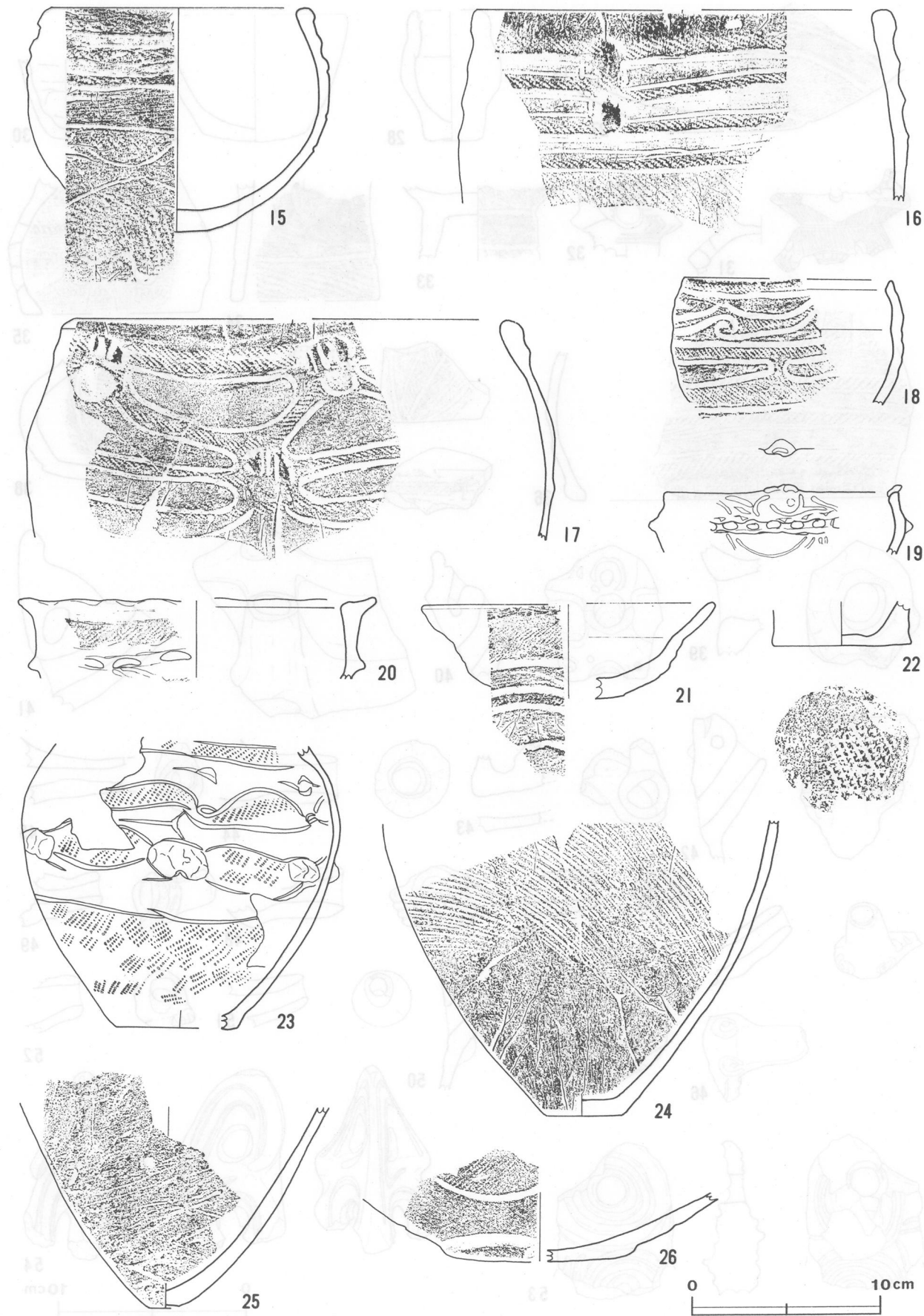


第266図 遺構外出土遺物実測・拓影図(2)

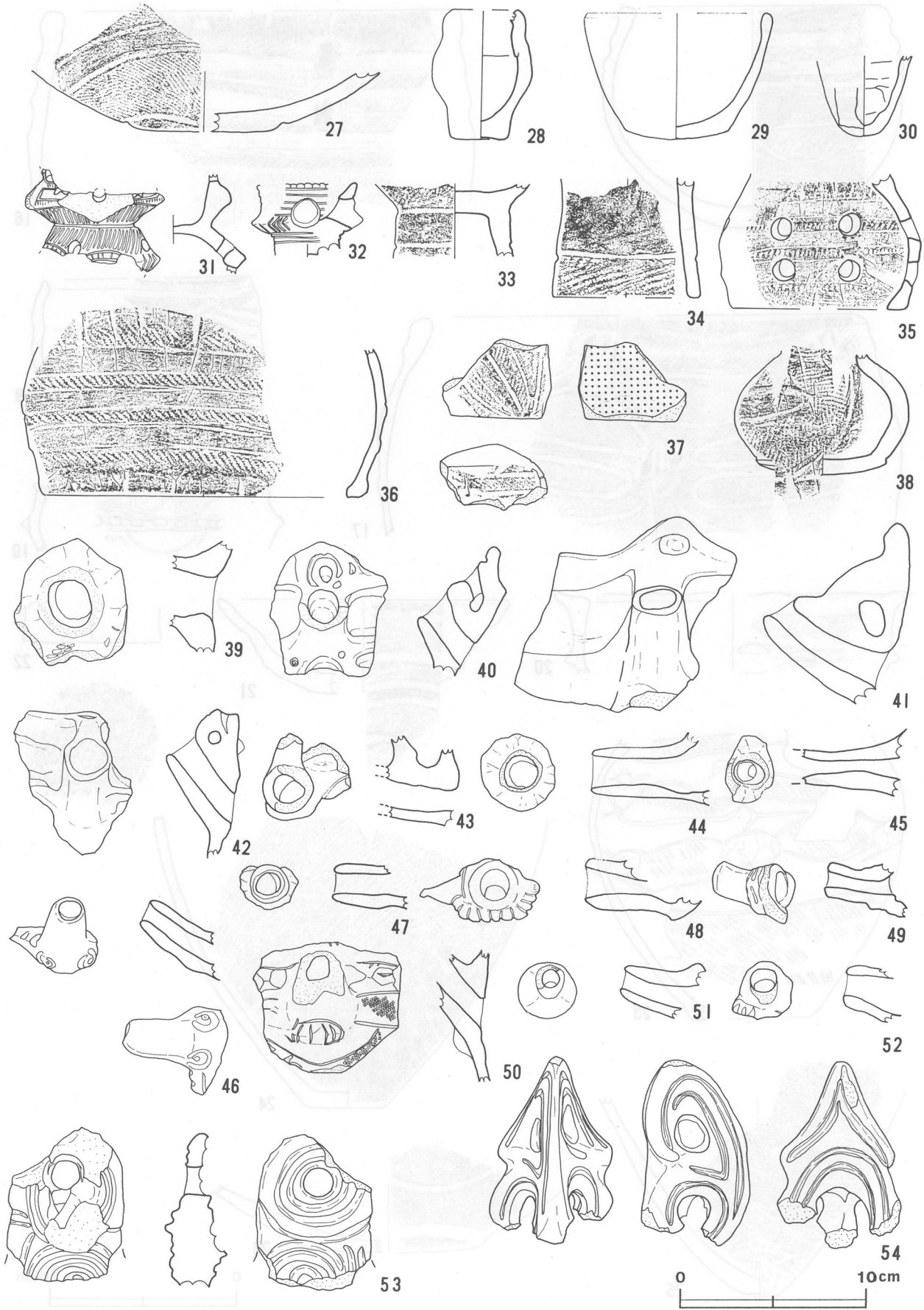


第267図 遺構外出土遺物実測・拓影図(3)

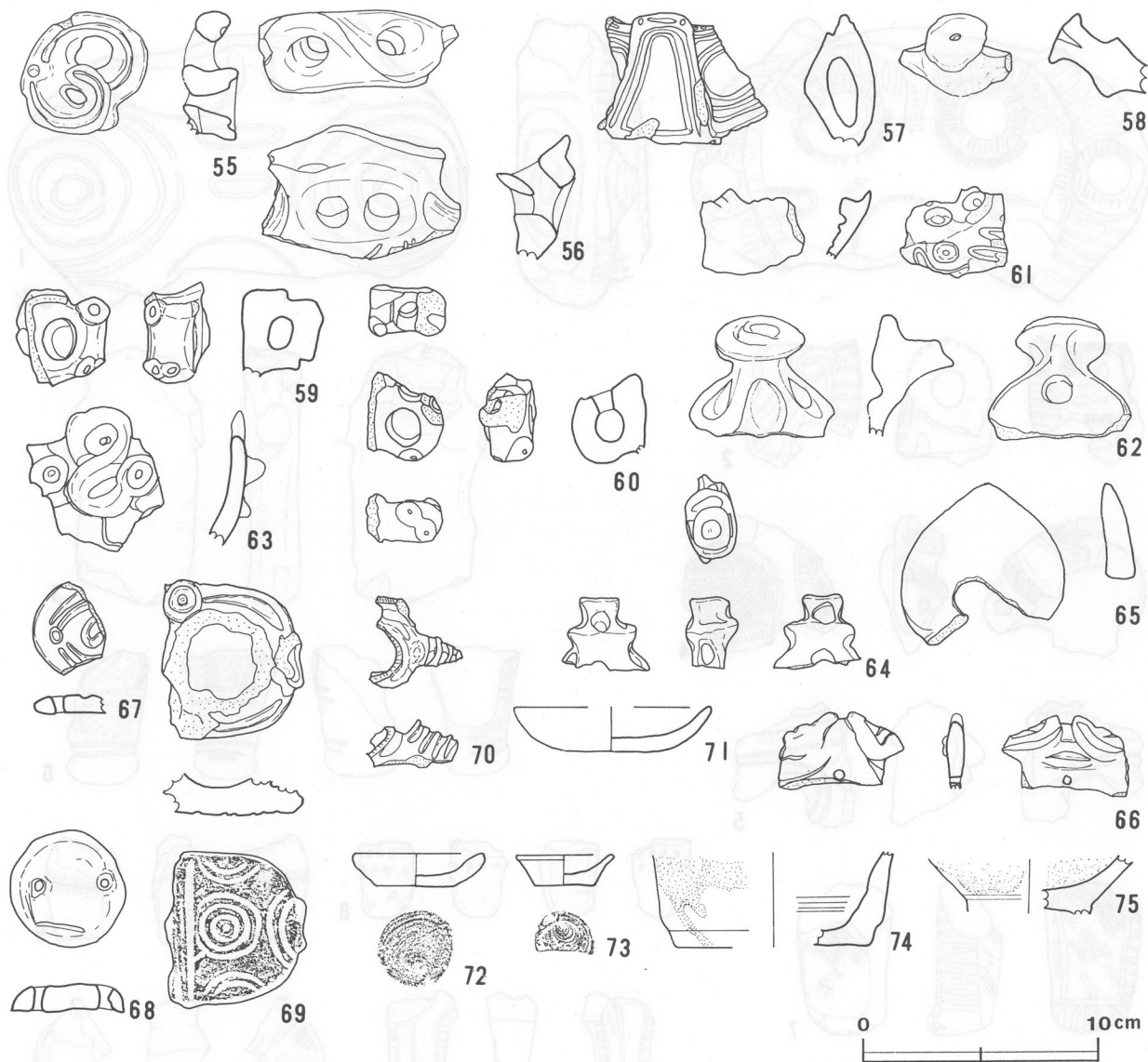
图267 遺構外出土遺物実測・拓影图(3)



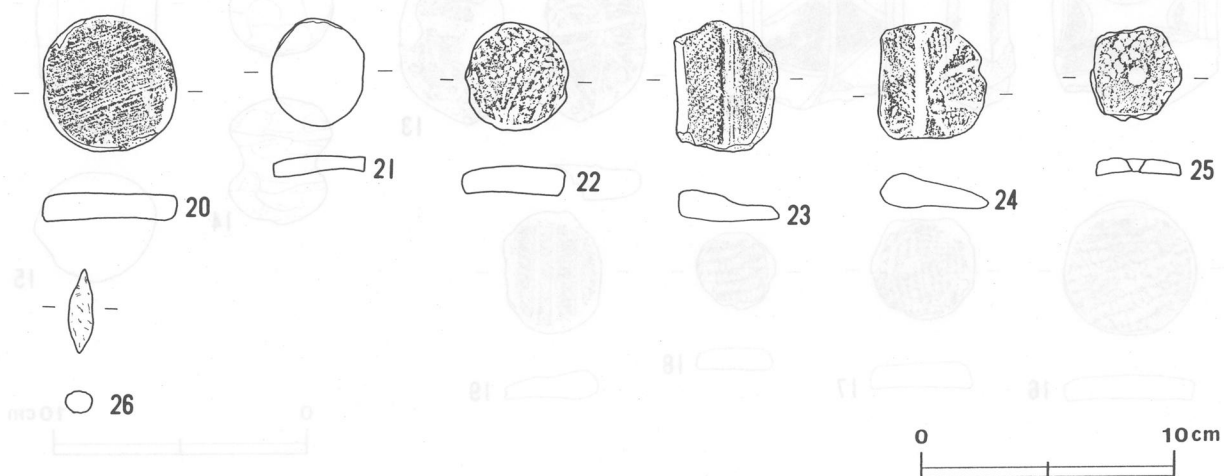
第268図 遺構外出土遺物実測・拓影図(4)



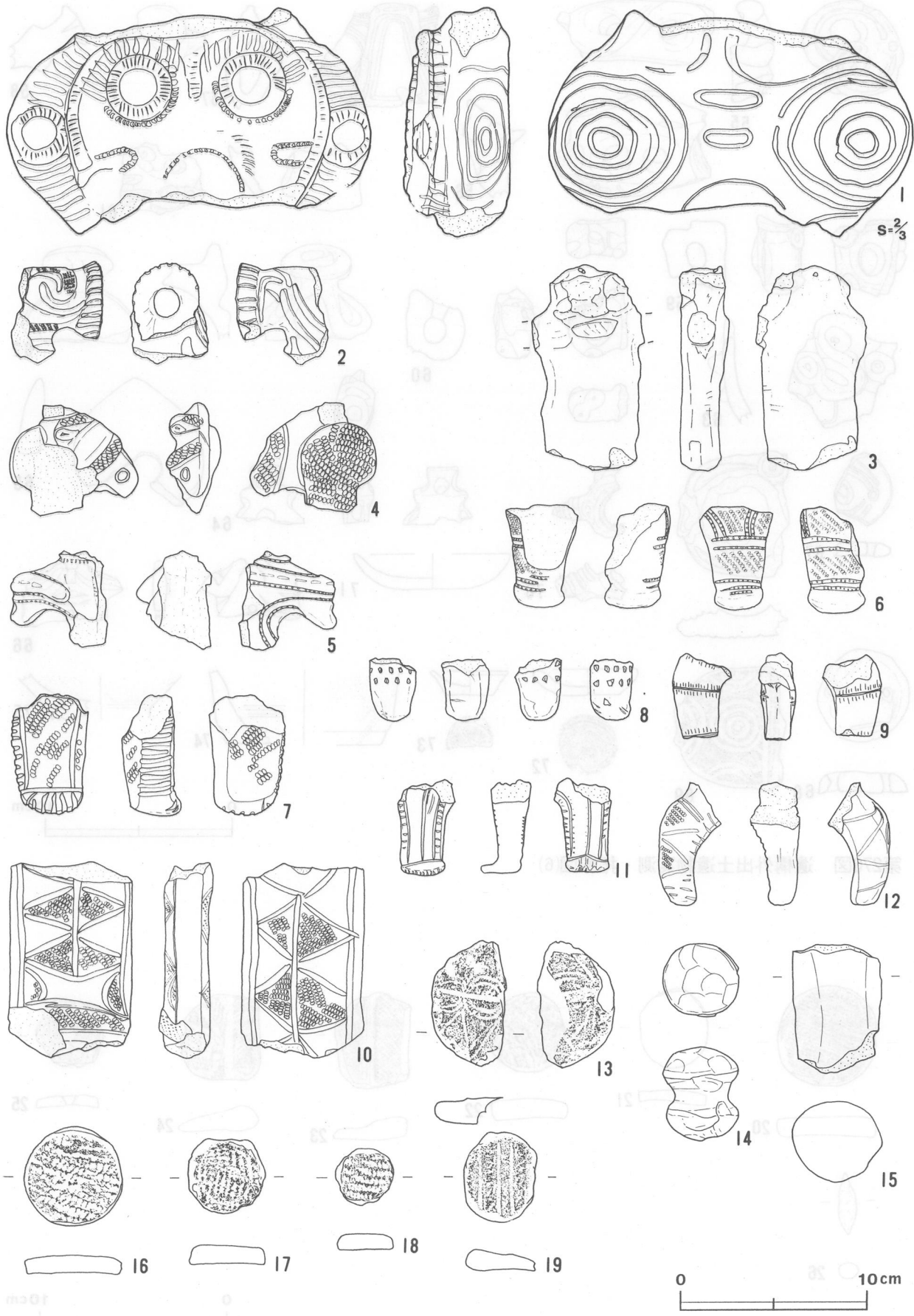
第269図 遺構外出土遺物実測・拓影図(5)



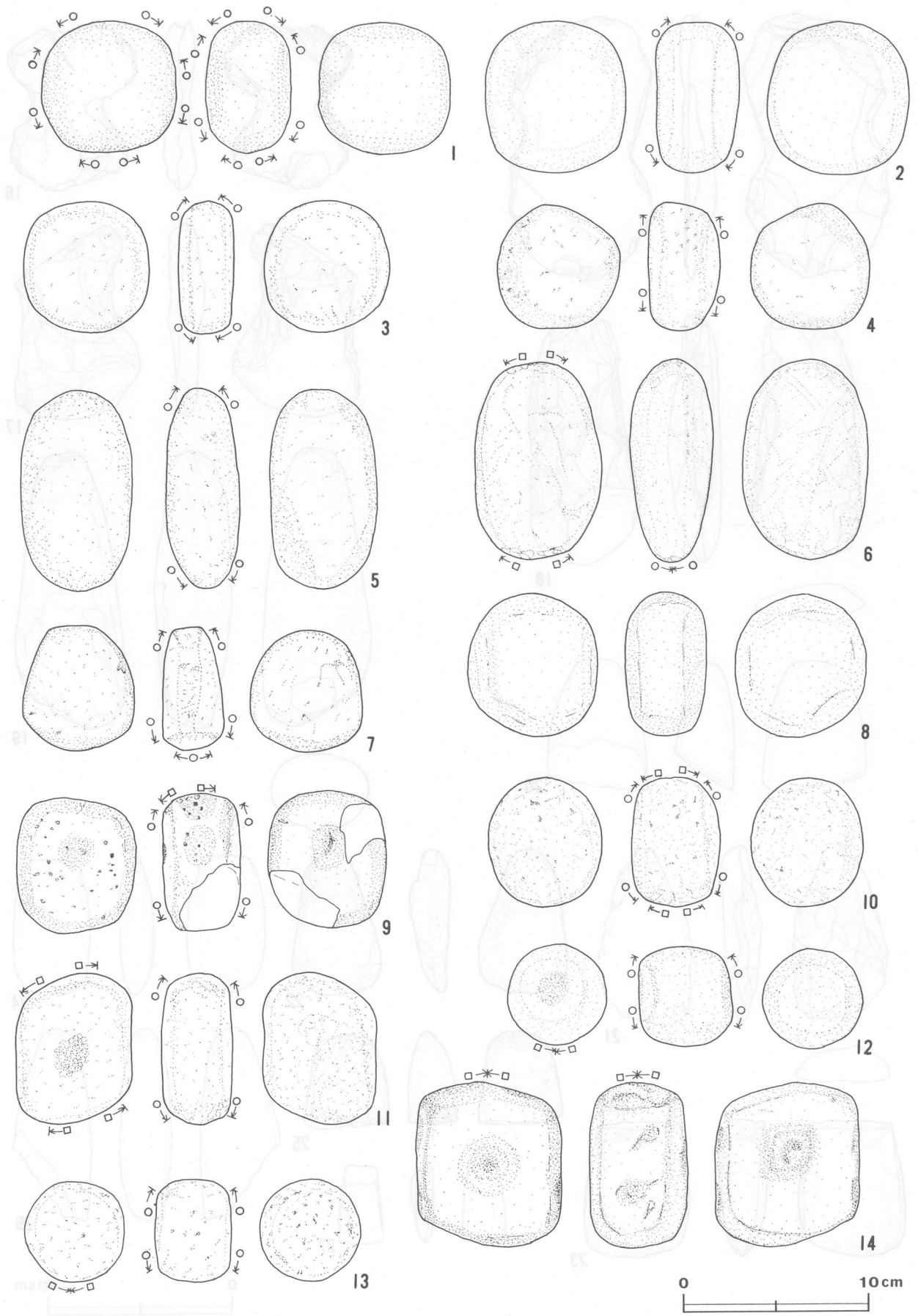
第270図 遺構外出土遺物実測・拓影図(6)



第271図 遺構外出土遺物実測・拓影図(7)

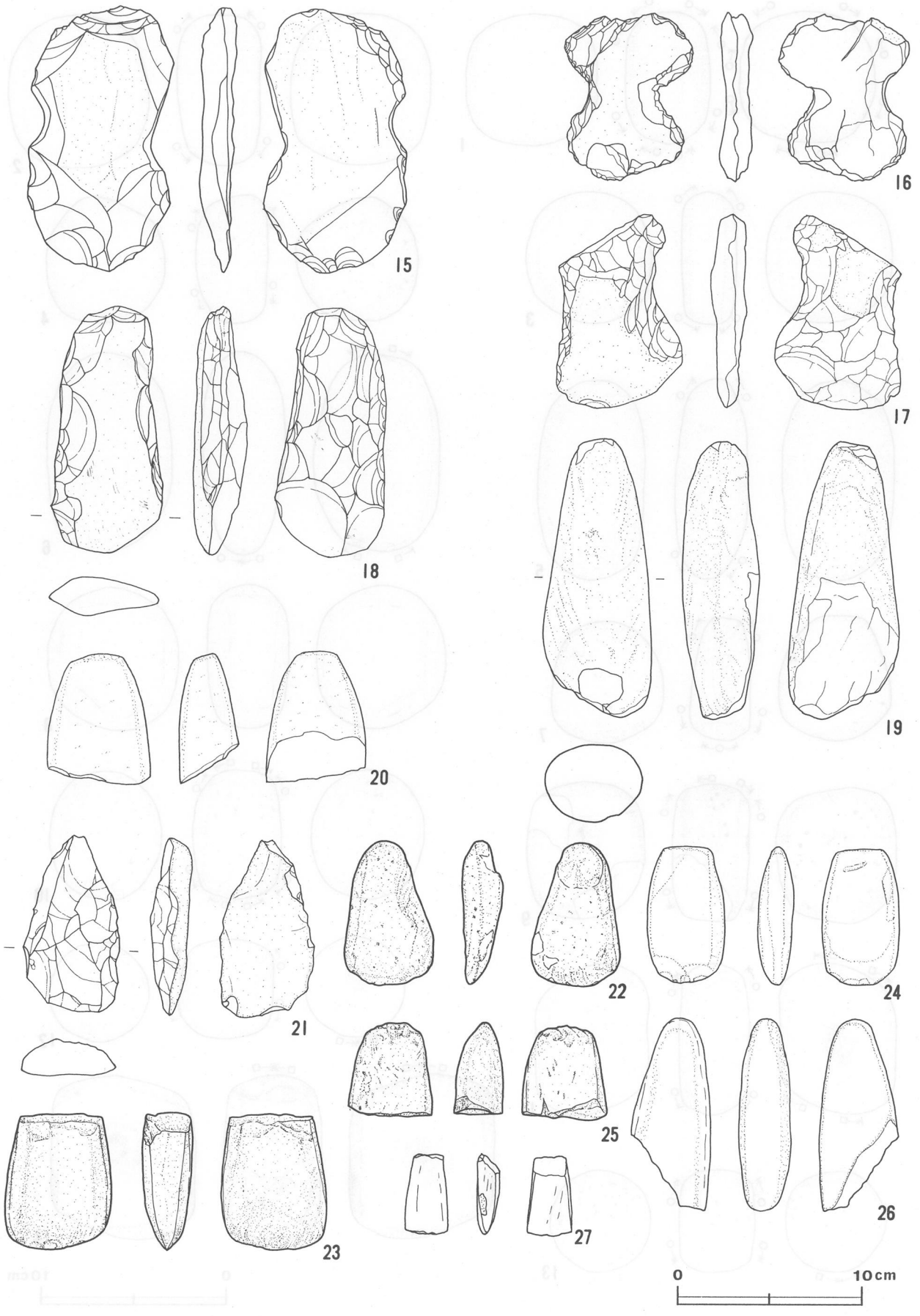


第272図 遺構外出土遺物実測・拓影図(8)

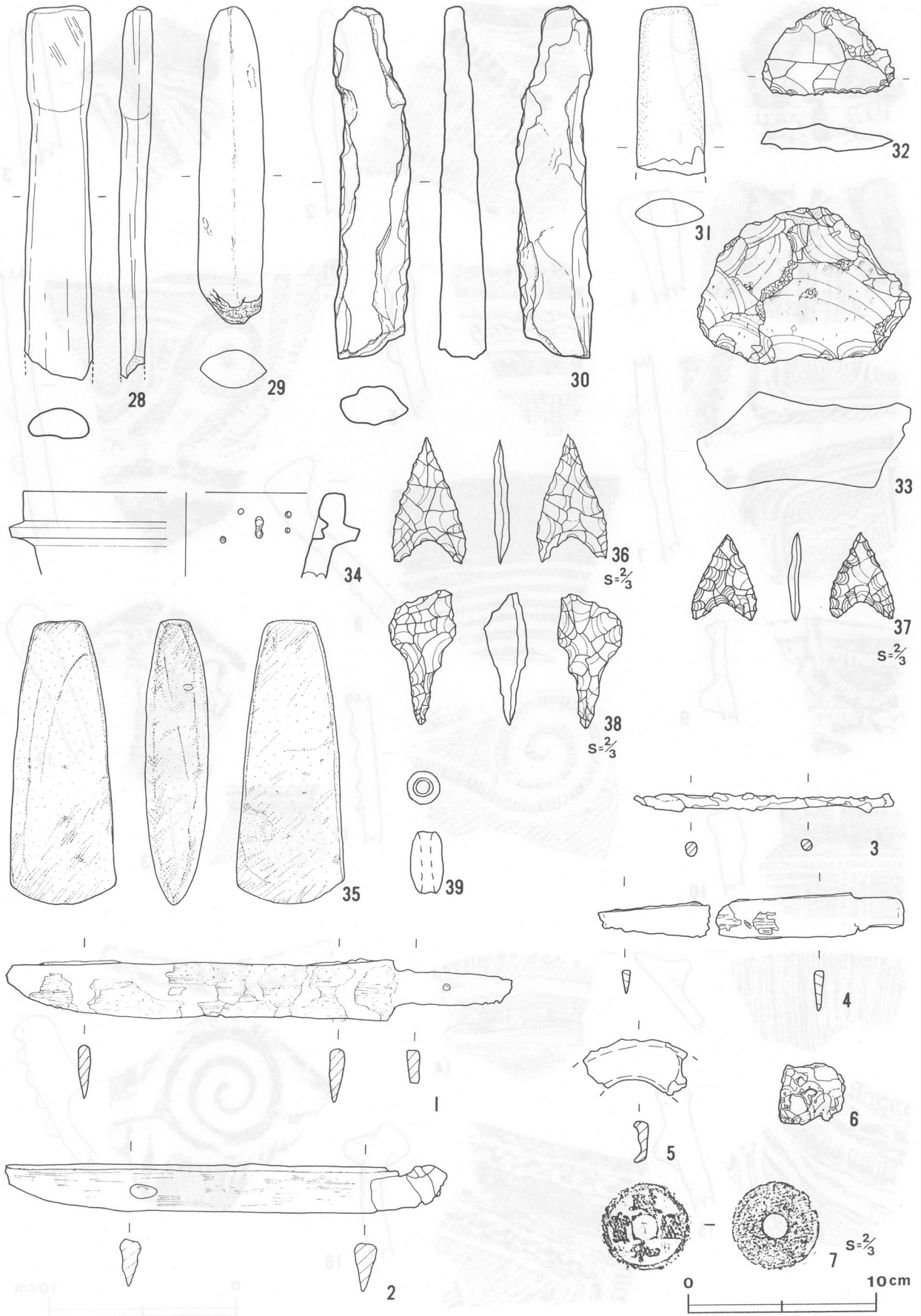


第273図 遺構外出土石製品実測図(9)

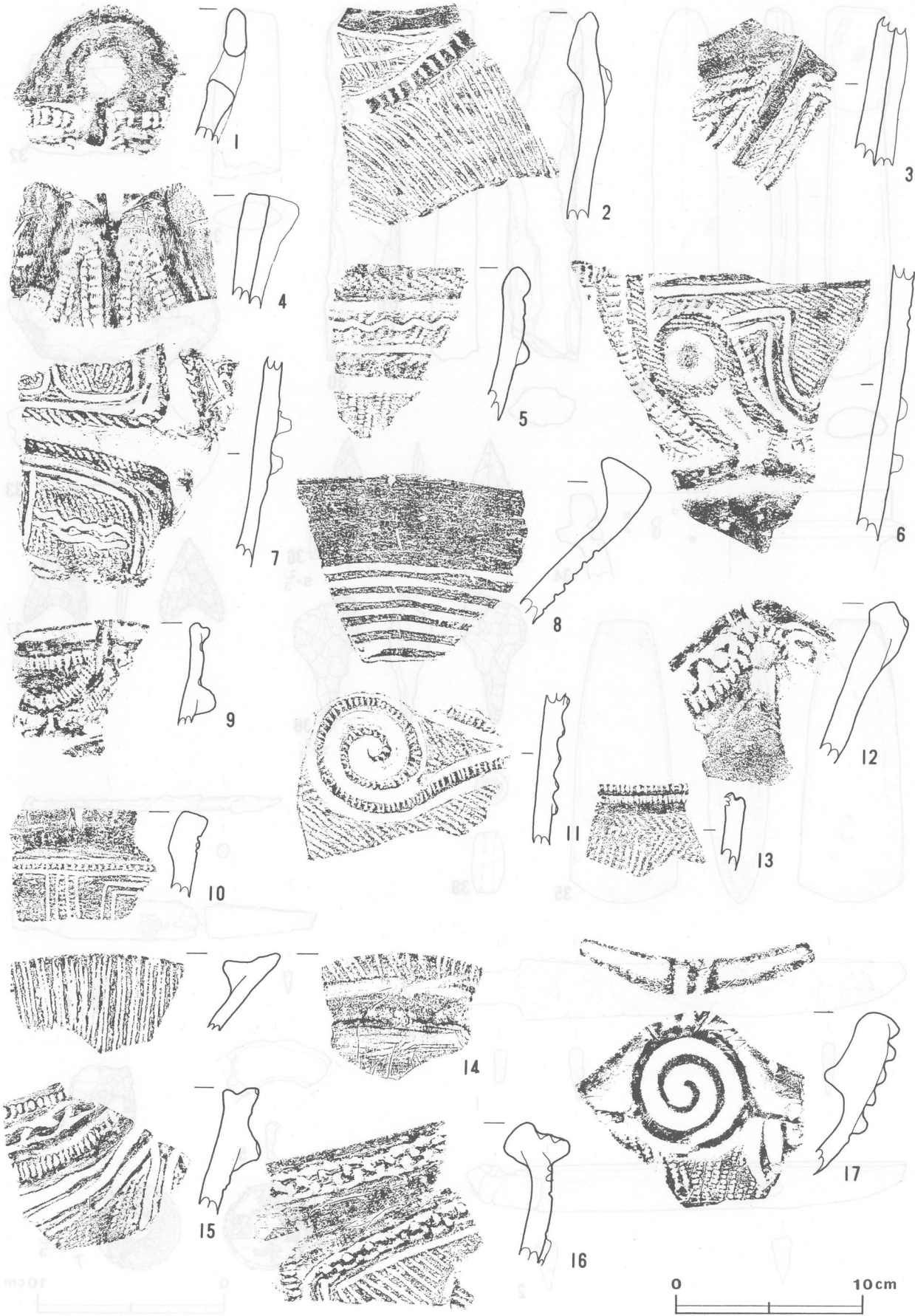
第274図 遺構外出土石製品実測図(10)



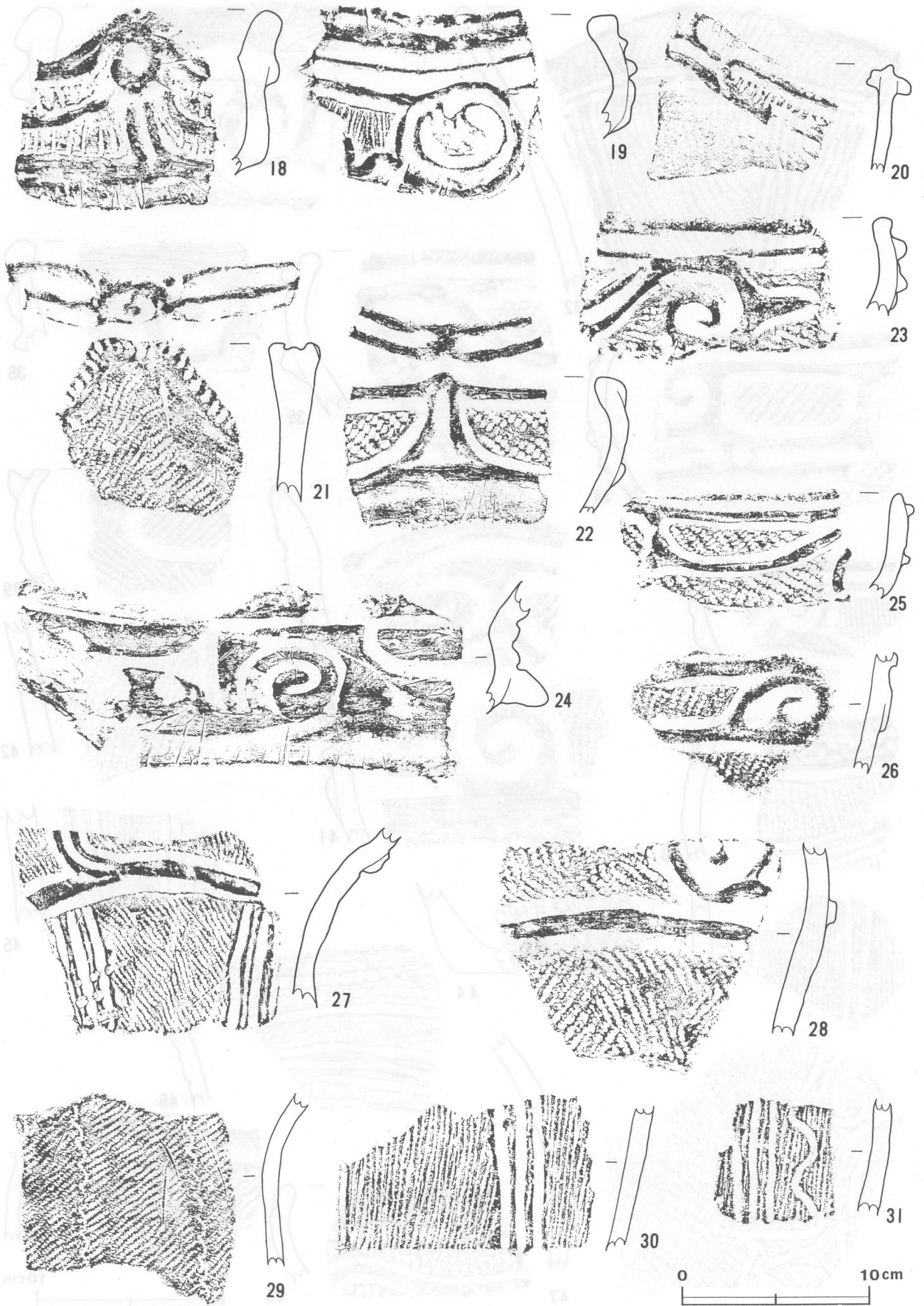
第274図 遺構外出土石製品実測図(10)



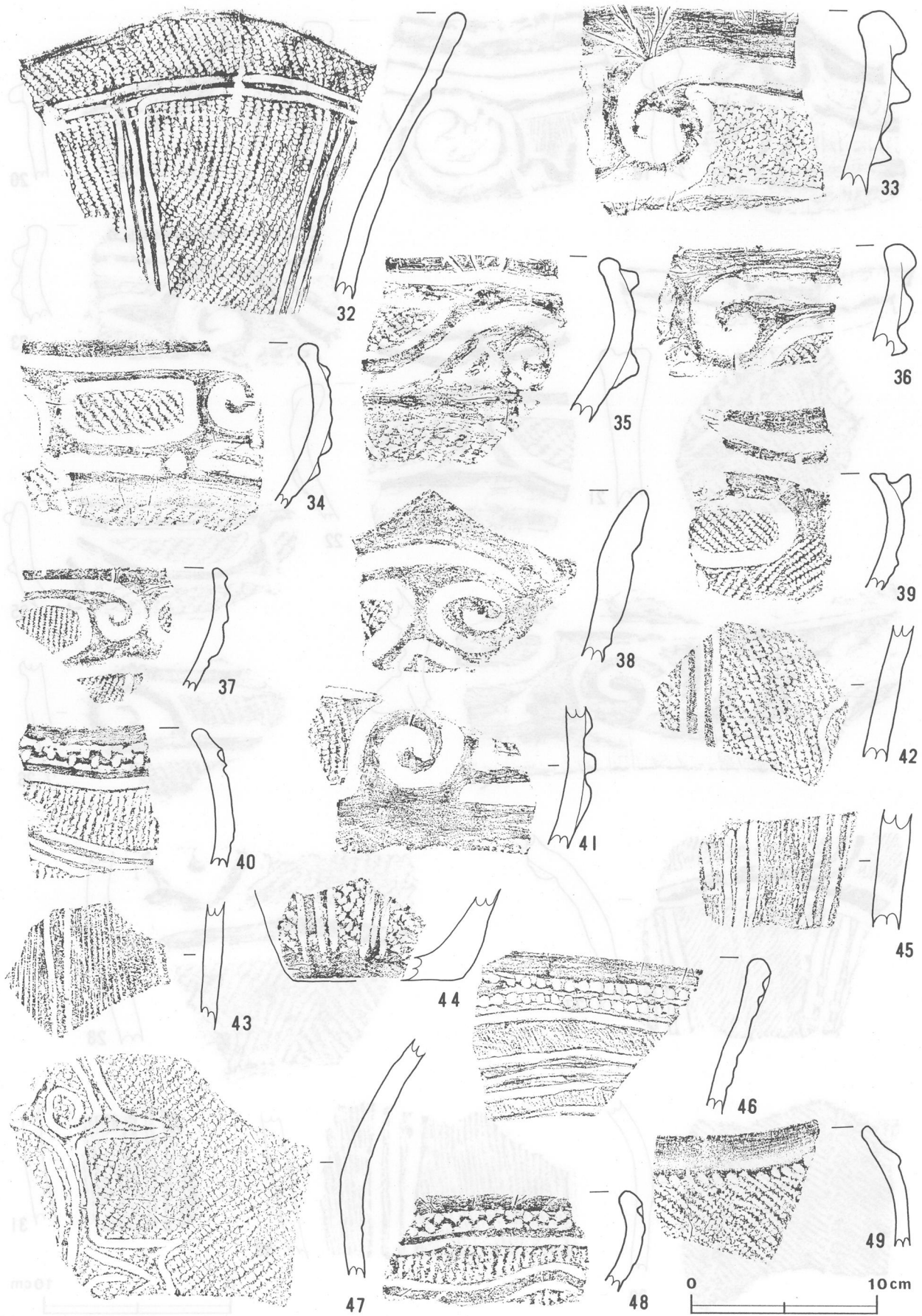
第275図 遺構外出土遺物実測・拓影図(11)



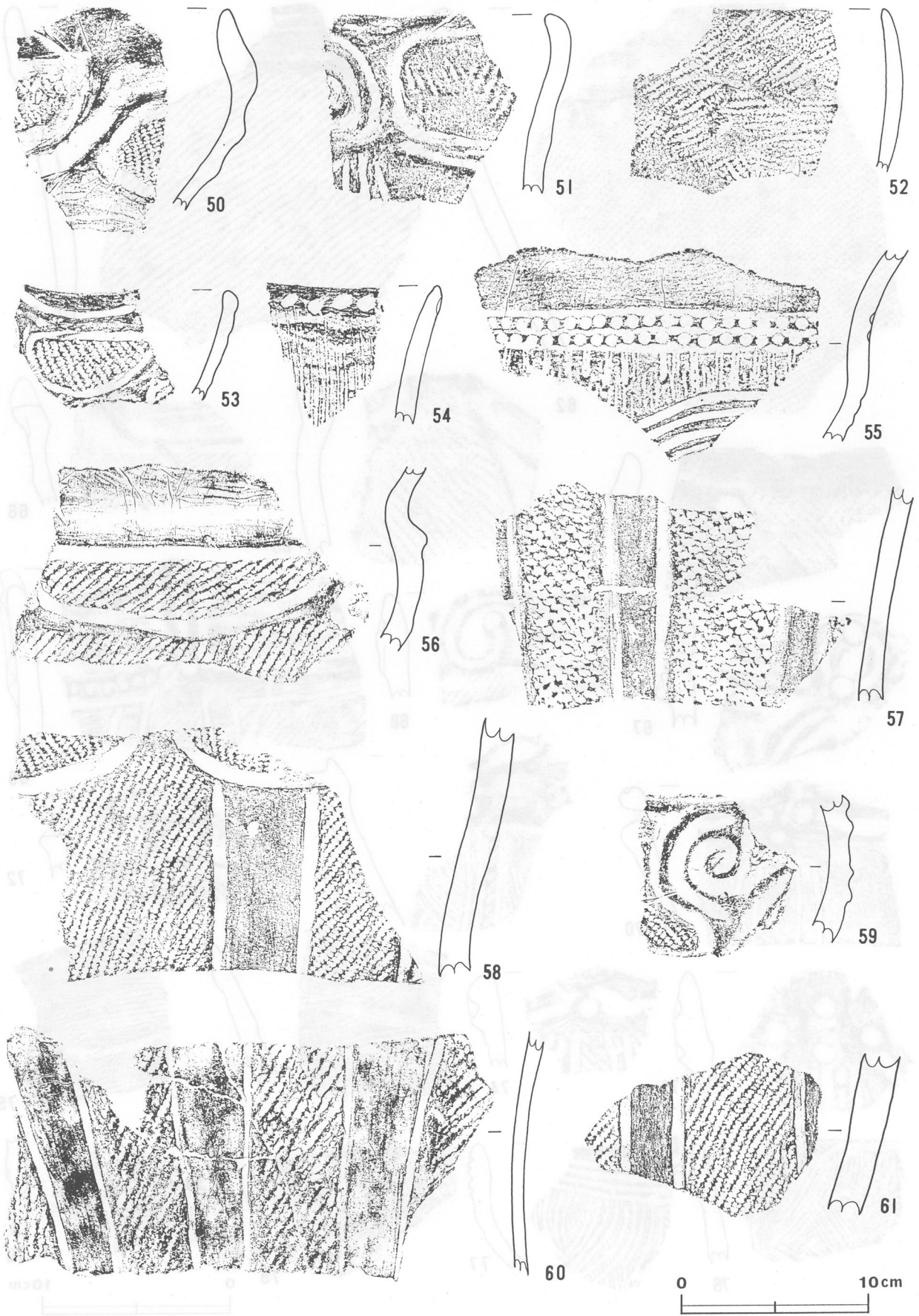
第276図 遺構外出土遺物実測・拓影図(12)



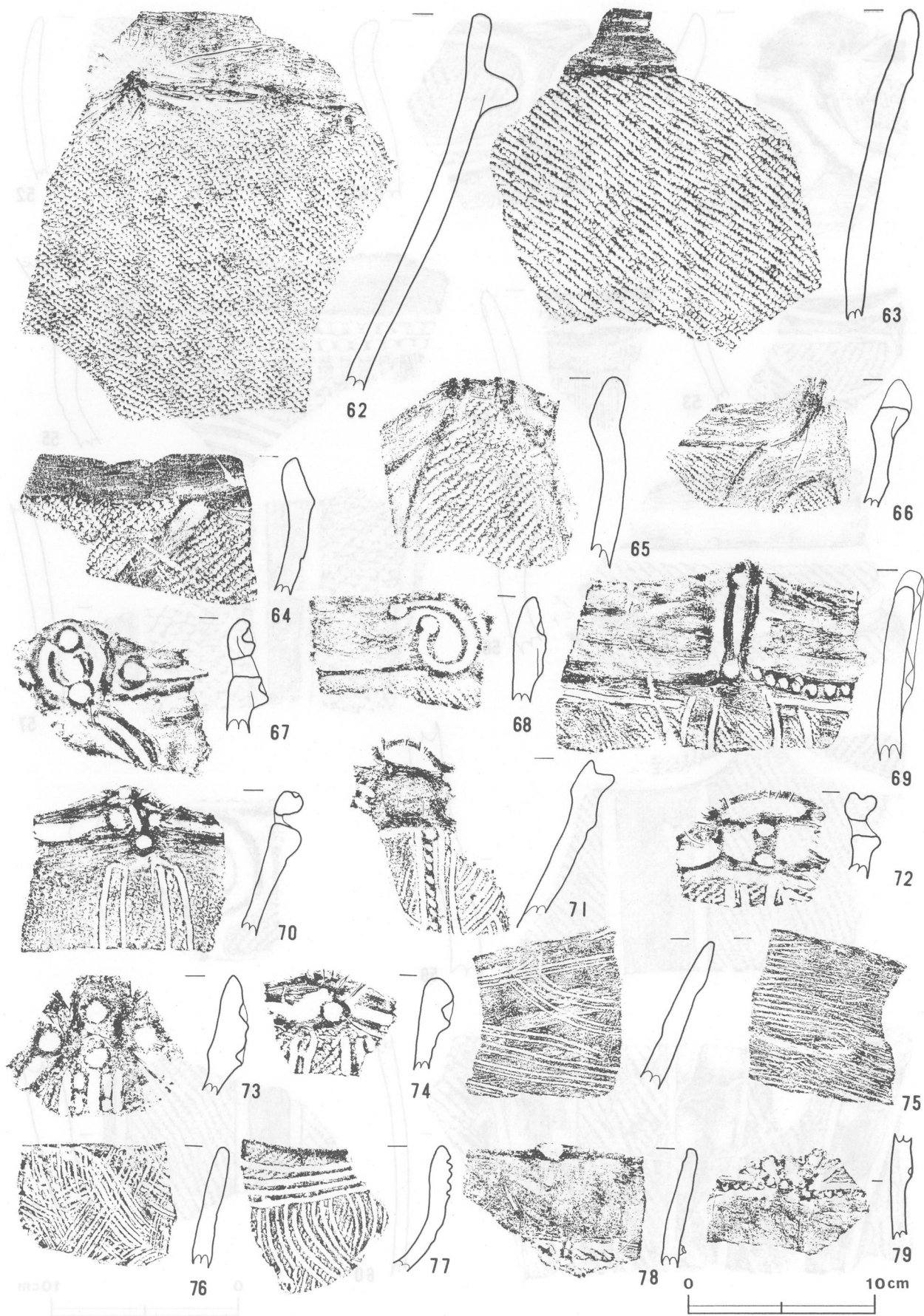
第277图 遺構外出土遺物実測・拓影图(13)



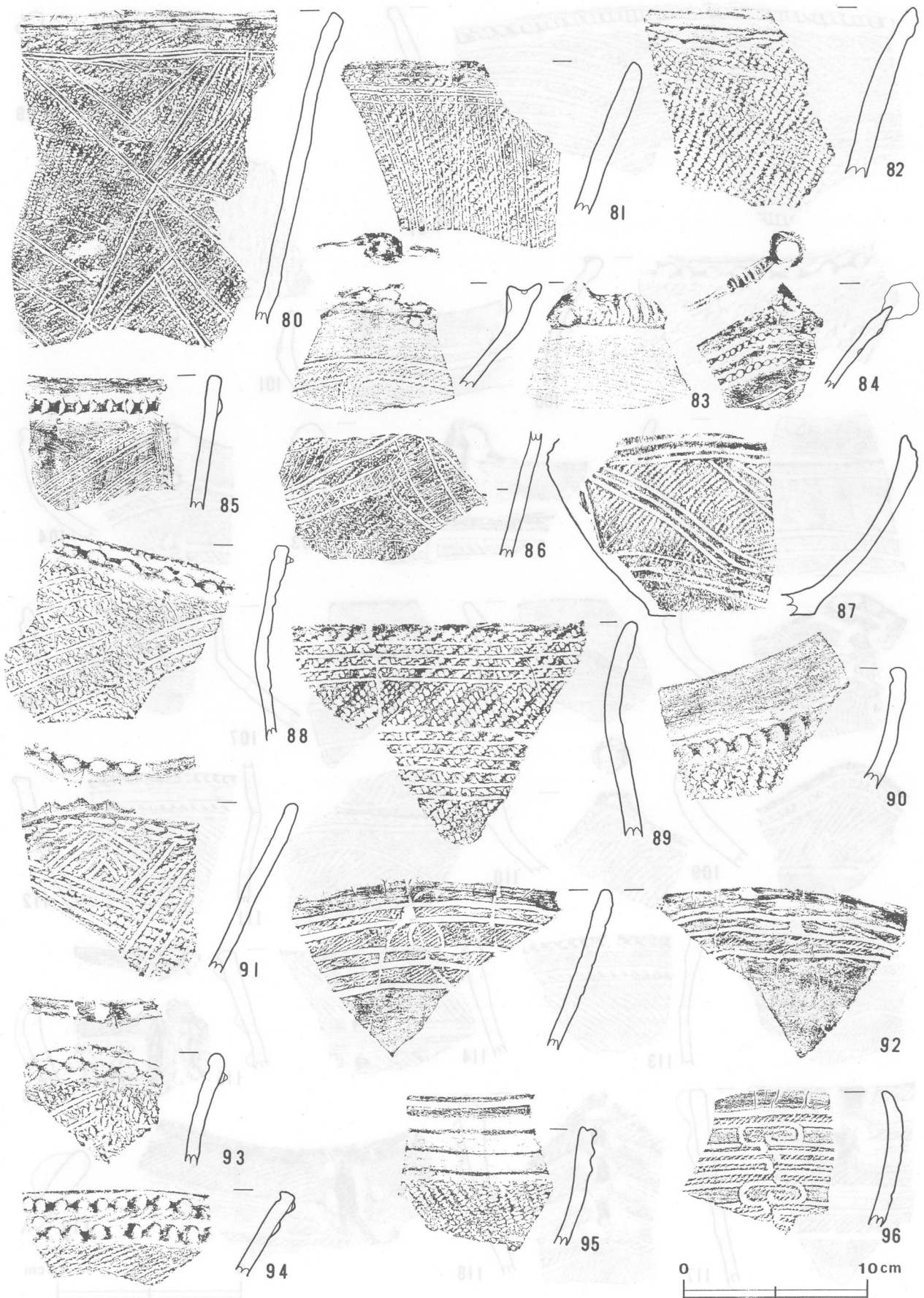
第278图 遺構外出土遺物実測・拓影図(14)



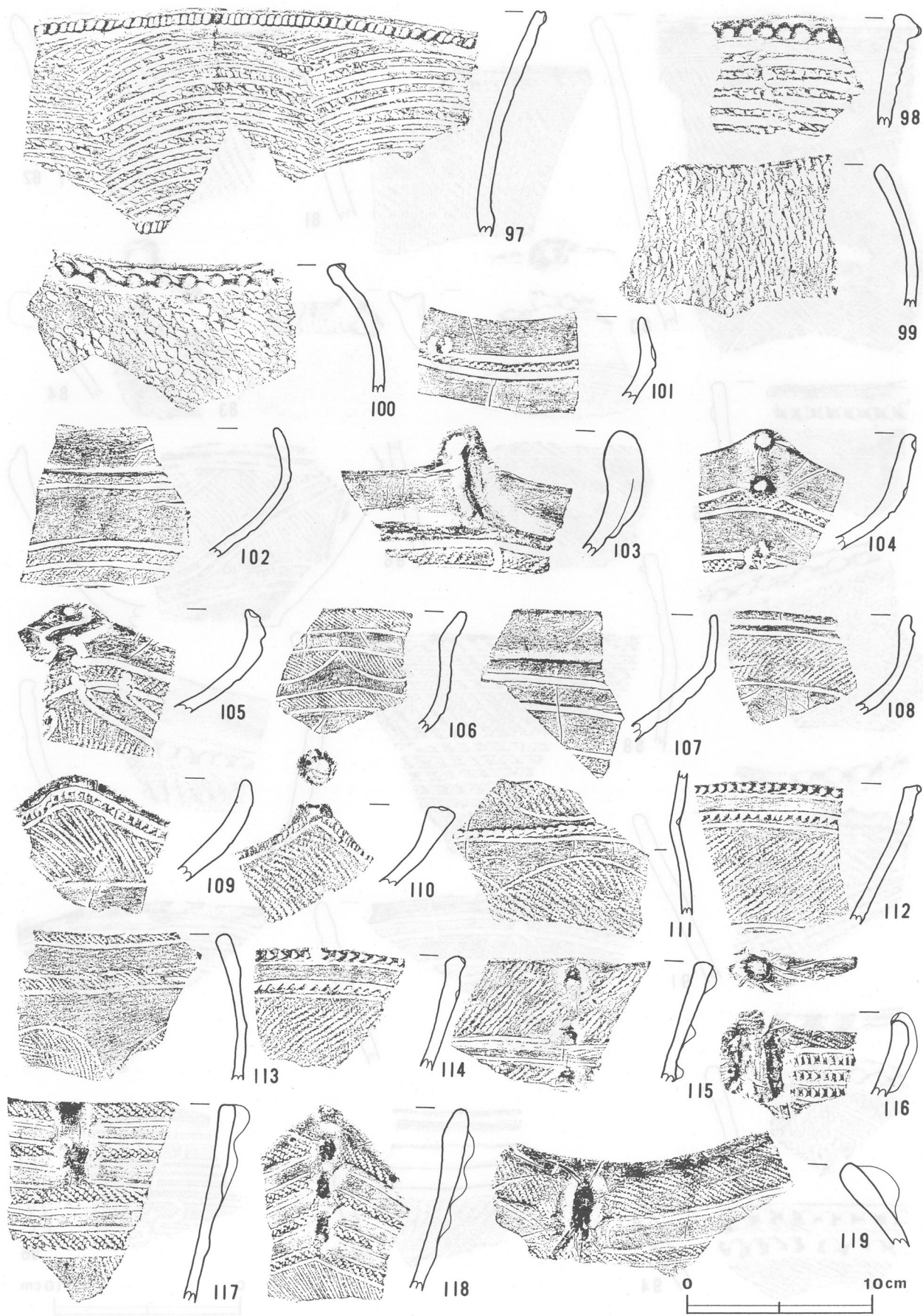
第279図 遺構外出土遺物実測・拓影図(15)



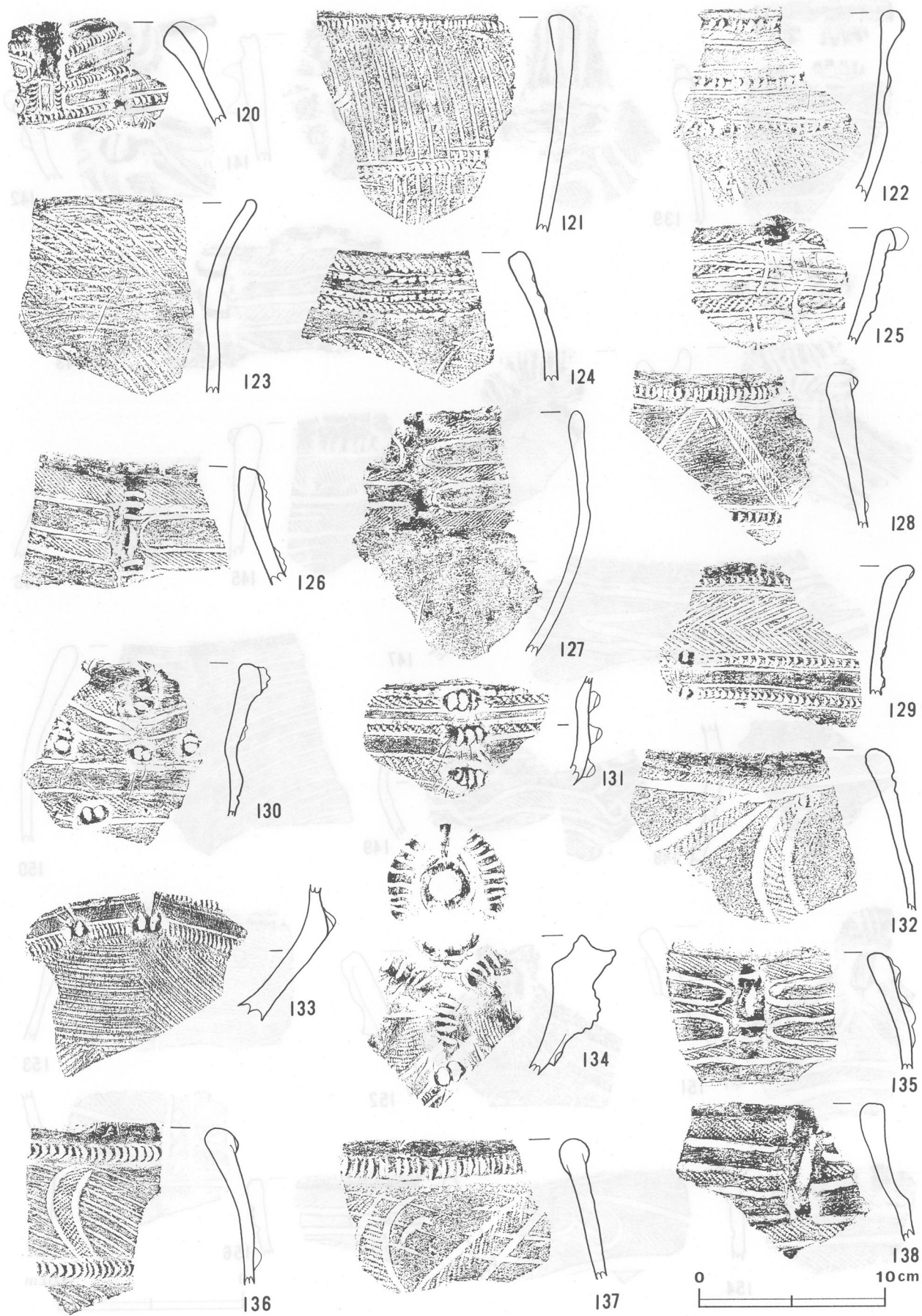
第280图 遺構外出土遺物実測・拓影图(16)



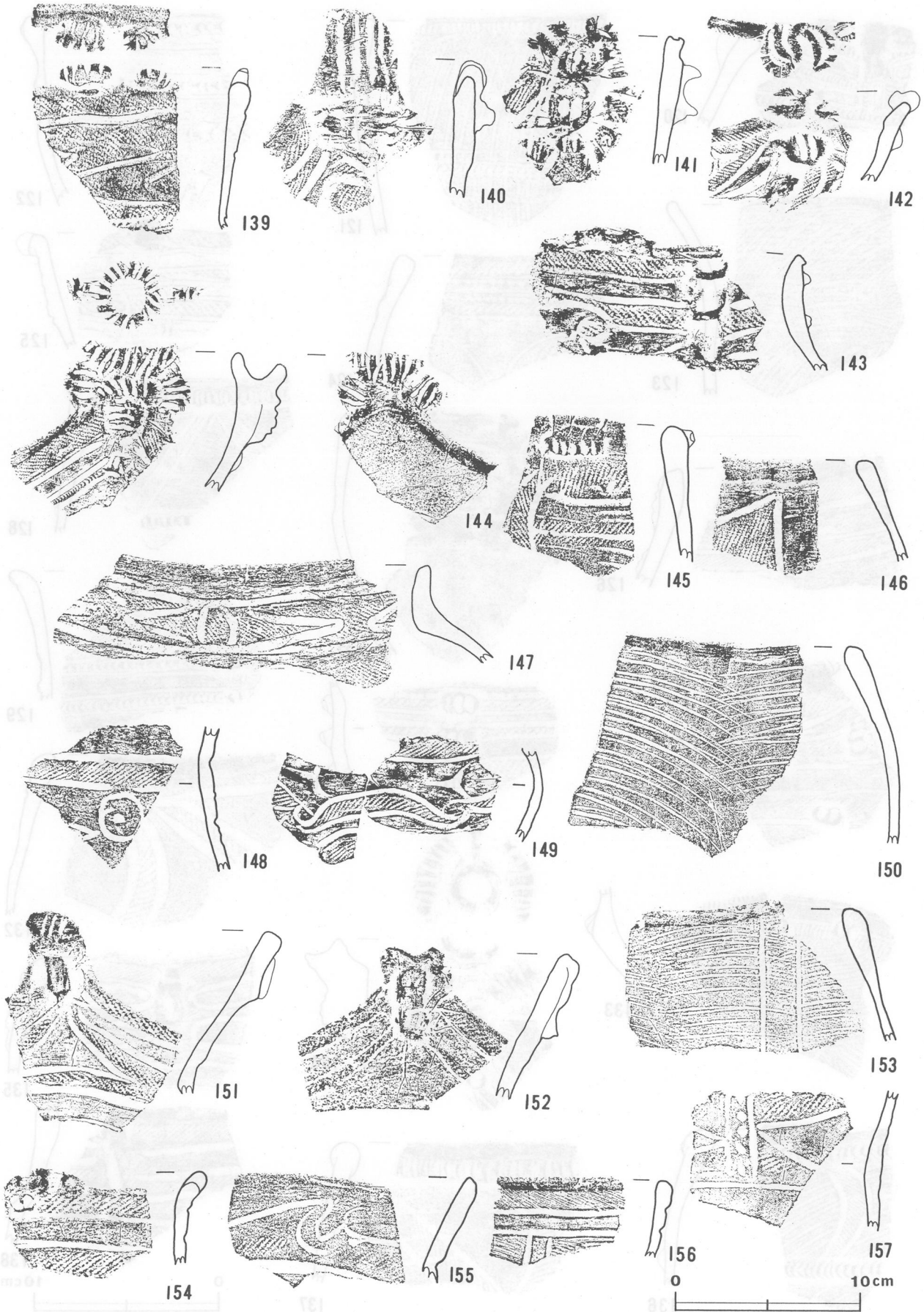
第281図 遺構外出土遺物実測・拓影図(17)



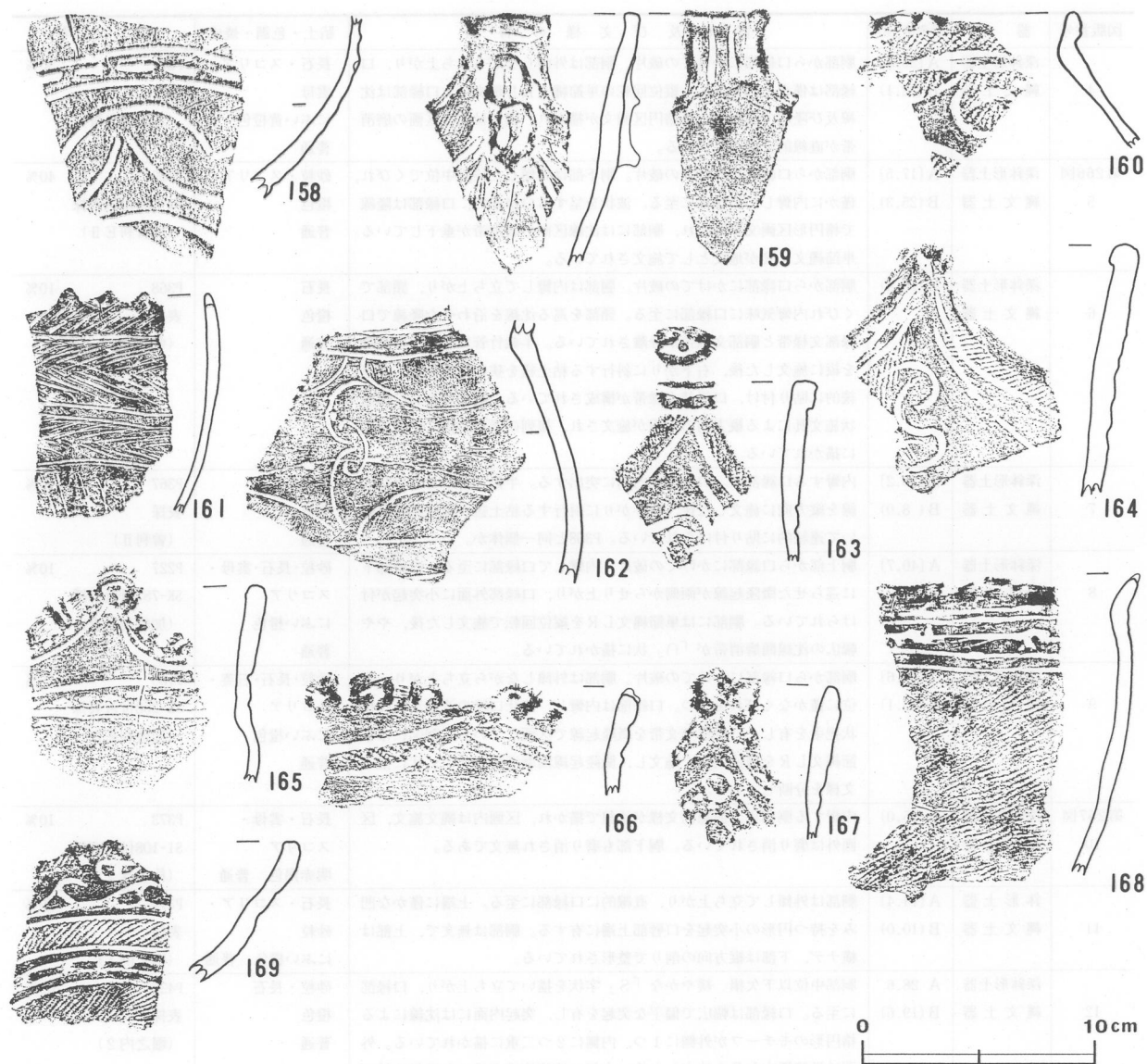
第282図 遺構外出土遺物実測・拓影図(18)



第283图 遺構外出土遺物実測・拓影图(19)



第284図 遺構外出土遺物実測・拓影図(20)



第285図 遺構外出土遺物実測・拓影図(21)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第265図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (22.0) B (21.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、肩部で内傾して口縁部に至る。口唇部と肩部に隆帯が巡り、上面が三角形で平坦に作出された橋状把手が隆帯を結んでいる。隆帯の上面、側面及び外面には隆帯の形状に沿う沈線が施されている。隆帯間の区画には縦の沈線が施文され、部分的に「U」「∩」状の沈線が対で施されている。胴部は波状櫛歯状条線が縦方向に施文されている。	砂粒・長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P427 30% 表採 (加曾利E I)
2	深鉢形土器 縄文土器	A (20.6) B (17.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外反して口縁部に至り、口縁部は内彎する。口縁部は、沈線に沿わせた隆帯で長方形区画文が施され、区画内に複節縄文LRLが横位回転で施文されている。胴部にも縦位回転の複節縄文LRLが地文として施文され、沈線区画の幅の狭い磨消帯が直線あるいは蛇行しながら垂下している。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P370 10% 表採 (加曾利E II)
3	深鉢形土器 縄文土器	A (37.0) B (9.3)	内彎する口縁部片。沈線に沿わせた隆帯で渦巻文及び長方形区画文が描かれ、口縁部文様帯が構成されている。渦巻文の上に刺突が2単位施され、区画内は横位回転の単節縄文RRLが地文として施されている。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P372 10% 表採 (加曾利E II)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	深鉢形土器 縄文土器	A (26.0) B (22.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾しながら立ち上がり、口縁部は僅かに内彎する。縦位回転の単節縄文LR地文で、口縁部は沈線及び隆線で渦巻文や長楕円区画文が描かれ、胴部は沈線区画の磨消帯が直線的に垂下している。	長石・スコリア・雲母 にぶい黄橙色 普通	P371 30% 表採 (加曾利EⅢ)
第266図 5	深鉢形土器 縄文土器	A (17.5) B (25.3)	胴部から口縁部にかけての破片。胴下部は外傾した後胴中位でくびれ、僅かに内彎して口縁部に至る。波状を呈する口縁部で、口縁部は隆線で楕円形区画文が描かれ、胴部には沈線区画の磨消帯が垂下している。単節縄文LRが地文として施文されている。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P369 40% SI-106付近表採 (加曾利EⅡ)
6	深鉢形土器 縄文土器	B (16.4)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ内彎気味に口縁部に至る。頸部を巡る沈線を沿わせた隆線で口縁部文様帯と胴部文様帯が分離されている。半截竹管による平行沈線を縦に施文した後、右下がりに斜行する粘土紐を狭い間隔を置いて連続的に貼り付け、口縁部文様帯が構成されている。胴部は地文に櫛歯状施文具による縦方向の条線が施文され、複列の渦巻隆線が胴中位に描かれている。	長石 橙色 普通	P368 10% 表採 (曾利Ⅱ)
7	深鉢形土器 縄文土器	A (29.2) B (8.0)	内彎する口縁部片。口唇部は内側に突出する。半截竹管による平行沈線を縦方向に施文した後、右下がりに斜行する粘土紐が狭い間隔を置いて連続的に貼り付けられている。P368と同一個体か。	砂粒・長石 橙色 普通	P367 10% 表採 (曾利Ⅱ)
8	深鉢形土器 縄文土器	A (40.7) B (9.9)	胴上部から口縁部にかけての破片。内彎して口縁部に至る。口縁部下に巡らせた微隆起線が両側からせり上がり、口縁部外面に小突起が付けられている。胴部には単節縄文LRを縦位回転で施文した後、やや幅広の沈線間磨消帯が「∩」状に描かれている。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P227 10% SK-787付近表採 (加曾利EⅢ)
9	深鉢形土器 縄文土器	A (25.6) B (22.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾しながら立ち上がり、中位に僅かにくびれを持つ。口縁部は内彎し、波状口縁の波頂部には橋状把手を有し、口縁部無文帯を微隆起線で区画している。胴部には単節縄文LRを横位回転で施文し、微隆起線間磨消帯を「∩」状に描き、文様を分断している。	砂粒・長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P180 15% SK-258付近表採 (加曾利EⅣ)
第267図 10	深鉢形土器 縄文土器	B (15.0)	内彎する胴部片。曲線の文様が沈線で描かれ、区画内は縄文施文、区画外は磨り消されている。胴下部も磨り消され無文である。	長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P373 10% SI-108付近表採 (称名寺1)
11	鉢形土器 縄文土器	A (14.4) B (10.0)	胴部は外傾して立ち上がり、直線的に口縁部に至る。上端に僅かな凹みを持つ円形の突起を口唇部上端に有する。胴部は無文で、上部は横ナデ、下部は縦方向の削りで整形されている。	長石・スコリア・砂粒 にぶい橙色 普通	P374 20% 表採 (堀之内1)
12	深鉢形土器 縄文土器	A 28.6 B (19.6)	胴部中位以下欠損。緩やかな「S」字状を描いて立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は幅広で偏平な突起を有し、突起内面には沈線による楕円形のモチーフが外側に1つ、内側に2つ二重に描かれている。外面は単節縄文LRを施文した後、内部に波状沈線を描いた平行沈線が縦横に描かれている。	砂粒・長石 橙色 普通	P426 60% 表採 (堀之内2)
13	深鉢形土器 縄文土器	A (20.4) B (13.9)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は中位で僅かにくびれた後、外傾して口縁部に至り、口縁部は僅かに内彎する。口縁部は無文で、外面に対になる縦長小突起を有する。口縁部下に沈線区画の縄文帯が施され、口縁部と胴部文様帯が分離されている。胴部文様帯は口縁部下の縄文帯と胴部中位に横走された沈線区画の2段縄文帯間に展開され、下向き、上向き弧状の沈線を対応して施文し、区画内に磨り消し、区画外に縄文が施文されている。下の2段縄文帯には口縁部の突起に対応し、「い」字状の刺突が加えられている。内面及び外面無文帯は丁寧な磨り消しで整形されている。	長石・雲母・スコリア 灰褐色 普通	P376 10% 表採 (加曾利B2)
14	深鉢形土器 縄文土器	A (14.6) B (16.8)	瓢形土器の胴部から口縁部にかけての破片。胴部中位にくびれを有し、くびれの上下とも内彎する。口縁部2段、くびれ部1段の刻文帯が巡らされて、口縁部下に孔が穿たれている。くびれで上下2文様帯に分かれ、2本沈線で上下に切断される円形文を小突起で接続する文様を、1文様帯は大形、2文様帯は小形に描き、円形区画内は縄文が施文されている。	長石・雲母・砂粒 灰黄褐色 普通	P380 20% SI-178付近表採 (曾谷)
第268図 15	鉢形土器 縄文土器	A 13.6 B 12.0 C 4.5	胴部と口縁部一部欠損。平底で、胴部は内彎して口縁部に至る。口縁部以下3段の隆起帯縄文、胴中位の横走沈線には区画内縄文施文の下向き連弧文が接続し、胴下部に施された沈線以下底部まで縄文が施文されている。底部に調整痕が残されている。	長石・スコリア・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P381 50% 表採 (安行Ⅰ)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
16	深鉢形土器 縄文土器	A〔22.0〕 B〔10.5〕	胴上部から口縁部にかけての破片。やや内傾して口縁部に至る。口縁部以下4段の隆起帯縄文が施され、3段までは貼瘤で接続されている。縄文帯間は沈線区画の磨消帯で、4段以下には斜行条線が施されている。	砂粒・長石・ スコリア・雲母 橙色 普通	P382 5% 表採 (安行Ⅰ)
17	深鉢形土器 縄文土器	A〔23.0〕 B〔12.0〕	胴部から口縁部にかけての破片。内傾して口縁部に至る。口縁部肥厚面に縄文帯、以下沈線区画の縄文帯が縦横に施され、縦刻みを有する貼瘤で連結されている。貼瘤の下には円形文が見られる。	砂粒・長石・ スコリア 橙色 普通	P430 10% SI-204付近表採 (安行Ⅲ a)
18	鉢形土器 縄文土器	A〔11.0〕 B〔6.6〕	胴部から口縁部にかけての破片。内彎して立ち上がり、胴上位で僅かにくびれた後口縁部に至る。くびれ部で上下の文様帯が分離され、1文様帯は口縁部縄文帯下の沈線からくびれ部の沈線間に展開され、下向き弧線、入り組み文を沈線で描き、弧線文と入り組み文間は縄文が施文されている。2文様帯は沈線以下縄文施文、内部に横長楕円区画の磨り消し部分が施されている。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P420 10% 表採 (安行Ⅲ b)
19	浅鉢形土器 縄文土器	A〔12.3〕 B〔3.8〕	胴上部から口縁部にかけての破片。内彎して口縁部に至る。口縁部に小突起、胴部中に凸凹の突帯を有し、胴部上半には三叉文、下半には平行弧線文が施されている。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P387 10% 表採 (安行Ⅲ a)
20	浅鉢形土器 縄文土器	A〔19.0〕 B〔4.2〕	口縁部片。僅かに内傾して口縁部に至り、口唇部は外側に突出し、凸凹が付けられている。胴部に凸凹の突帯を有し、胴部上半は部分的に縄文が施文されている。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P388 5% 表採 (安行Ⅲ b)
21	浅鉢形土器 縄文土器	A〔15.8〕 B〔5.1〕 C〔5.7〕	平底で、胴部は内彎気味に外傾して立ち上がり、僅かに屈曲した後外反して直線的に口縁部に至る。屈曲部横走沈線まで口縁部縄文施文、胴下部にも細い沈線区画の縄文帯、底部と胴部の境にも沈線が施されている。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P433 20% SI-115付近表採 (安行Ⅲ b)
22	深鉢形土器 縄文土器	B〔2.4〕 C 7.4	底部片。平底で突出気味、胴部は直立する。胴下部に磨きが施され、底部に網代痕が残されている。	砂粒・石英・長石 にぶい褐色 普通	P123 10% 表採 (後期)
23	深鉢形土器 縄文土器	B〔15.5〕 C 6.4	口縁部欠損。平底で、胴部は内彎しながら立ち上がる。胴部上位に沈線区画の縄文帯。胴部中位には磨消帯が3段、間に弧状沈線区画の縄文帯が2段挟んで施文され、上、中段の磨消帯には三叉文、入り組み三叉文が彫刻されている。また上段の縄文帯は連結部が僅かに入り組み状、下段の連結部には中央を削り込んだ瘤状の突起が貼り付けられている。胴下部は沈線以下縄文が施文され、底部から2～3cmは磨り消されている。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P428 50% 表採 (安行Ⅲ a)
24	深鉢形土器 縄文土器	B〔15.9〕 C 4.3	底部から胴部にかけての破片。平底で、胴部は内彎気味に外傾する。胴部には右下がりに斜行する条線が施文され、下部は縦方向の磨きが施されている。	砂粒・雲母・ スコリア 明赤褐色 普通	P277 40% SK-956付近表採 (安行Ⅱ)
25	深鉢形土器 縄文土器	B〔10.8〕 C 1.6	底部から胴部にかけての破片。小形の平底で、胴部は外傾して立ち上がる。胴部には左下がりに斜行する条線が施文され、下部は無文である。	砂粒・スコリア・ 長石 灰褐色 普通	P432 10% SI-206付近表採 (安行Ⅱ)
26	浅鉢形土器 縄文土器	B〔3.7〕 C〔10.0〕	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。胴下半に下向き弧線が施文され、区画内は縄文が施文されている。最下部には横走沈線が施されている。	長石・砂粒・ スコリア 褐色 普通	P385 5% 表採 (安行Ⅲ b)
第269図 27	浅鉢形土器 縄文土器	B〔3.3〕 C〔7.0〕	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。胴下半に磨消帯を挟んで沈線区画の縄文帯が施されている。	長石・スコリア・ 雲母・砂粒 にぶい褐色 普通	P386 5% 表採 (安行Ⅲ b)
28	小形深鉢形土器 縄文土器	A〔3.5〕 B 7.0 C 3.0	胴部から口縁部一部欠損。平底で、胴部は外傾した後内彎して口縁部に至る。外面は無文で、胴部上位横位ナデ、下位縦位ナデで整形されている。	砂粒・長石・ スコリア・雲母 橙色 普通	P375 60% 表採
29	鉢形土器 縄文土器	A〔10.1〕 B 6.9 C 5.6	胴部一部欠損。僅かに丸底で、胴部はやや内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。内面及び胴上部横ナデで整形されている。内・外面無文である。	砂粒・雲母 褐色 普通	P384 30% 表採
30	小形土器 縄文土器	B〔4.4〕	口縁部欠損。丸底で、胴部は外傾して立ち上がる。内・外面無文で、内面に整形痕が粗く残り、外面は縦位の削りで整形されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P389 40% 表採
31	異形台付土器 縄文土器	B〔5.3〕	裾部及び口縁部欠損。台部は外傾した後屈曲して接合部に至り、胴部は外傾して立ち上がる。胴部中に沈線区画の刻文帯、接合部の上下は縦沈線が充填されている。胴部及び台部の屈曲部に縦刻み突起を貼り付け、要所に孔が穿たれている。	長石・砂粒・ スコリア 明赤褐色 普通	P390 30% 表採 (安行Ⅰ)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
32	異形台付土器 縄文土器	A〔5.4〕 B〔3.9〕	台部欠損。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部上端は連続刻みが施されている。胴部下位に刻み状の縦沈線を施した突帯が巡り、突帯上下は横走沈線が施されている。胴部中位から上位にかけて径1.5cmほどの孔が4単位穿たれていると思われる。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P383 20% 表採 (安行Ⅰ)
33	台付土器 縄文土器	B〔4.0〕 E〔2.4〕	裾部及び胴部欠損。台部はやや内傾して接合部に至る。台部上位の沈線区画の磨消部を挟んで、胴部下位から接合部にかけてと台部下位に縄文が施文されている。	砂粒・スコリア・ 雲母・長石 橙色 普通	P378 10% 表採 (加曾利B2~3)
34	台付土器 縄文土器	D〔8.0〕 E〔6.4〕	台部片。台部は内傾して立ち上がる。台部下位に横走沈線が施され、上位は磨き、下位は裾部まで単節縄文R Lが横位回転で施文されている。	長石 にぶい褐色 普通	P377 5% 表採 (加曾利B2)
35	台付土器 縄文土器	D〔7.3〕 E〔9.3〕	台部片。台部は内彎して立ち上がる。台部上位から裾部まで4段の刻文帯が施され、上下左右4個1組の孔が4単位配されていると思われる。	砂粒・スコリア・ 雲母・長石 にぶい橙色 普通	P391 10% 表採 (安行Ⅰ)
36	台付土器 縄文土器	D〔8.1〕 E〔17.0〕	台部片。台部は内彎して立ち上がる。台部中位に上向き連弧文が施され、区画内縄文施文、以下隆起帯縄文が裾部肥厚面まで3段に構成されている。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P431 10% SI-98付近表採 (安行Ⅰ)
37	鉢形土器 縄文土器	B〔4.2〕 C〔5.8〕	底部から胴部にかけての破片。角底で、胴部はほぼ垂直に立ち上がる。胴部外面及び底面に沈線区画の縄文帯が磨り消し部分と交互に配され、胴部には三叉文が見られる。内・外面赤彩されている。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P429 5% 表採 (安行Ⅲ a)
38	壺形土器 縄文土器	B〔6.4〕 C 6.9	口縁部欠損。僅かに丸みを帯びた底部で、胴部は内彎する。曲線の文様を沈線で描き、縄文施文部分と無文部分を交互に配し、無文部は磨きが施されている。	砂粒・雲母・長石・ 石英 にぶい橙色 普通	P379 70% 表採 (加曾利B2)
第270図 69	手燭形土器 縄文土器	長さ(6.0) 厚さ(1.8)	燭台部破片か。隅丸長方形で、上部燭台部は欠損で形状不明。円形の突起が上部に見られる。底面は中央の同心円文を囲むように複列の半円が三方に描かれている。	砂粒・長石・ スコリア にぶい褐色 普通	P403 20% 表採 (安行Ⅲ b)
70	異形土器 縄文土器	B〔3.9〕	胴部から口縁部にかけての破片と思われる。口唇部に刻みを有し、胴部の孔にも刻みが施されている。孔脇には縦刻みを有する貼瘤が付けられている。	砂粒・長石・雲母 暗赤灰色 普通	P405 5% 表採 (安行Ⅲ a)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第270図 71	皿 土師質土器	A〔8.4〕 B 1.9	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部ヘラ削りによる調整。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P422 40% 表採
72	小皿 土師質土器	A 5.6 B 1.4 C 3.3	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア・ 長石・雲母 にぶい橙色 普通	P421 100% 表採
73	紅皿 陶器	A 4.1 B 1.3 C 2.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石 淡黄色 普通	P424 40% 表採 (近世瀬戸)
74	水注 陶器	B〔4.0〕 C〔8.2〕	底部から体部下位にかけての破片。低い削り出し高台。体部はやや外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。体部外面に灰釉、底部にも一部施釉	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P423 10% 表採 (古瀬戸)
75	碗 陶器	B〔2.5〕	底部片。削り出し高台。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内面鉄釉、外面施釉で、下位無釉。	砂粒 灰黄褐色 普通	P425 5% 表採 (近世)

遺構外出土製品観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第271図1	土偶	(6.2)	(9.8)	(2.9)	(148.4)	30	みみずく土偶の頭部。刻みを施した隆帯で顔の輪郭を表現し、ボタン状貼瘤で目と耳が、刻文で口、頬が、短沈線で頭髪、眉が描かれている。後頭部同心円文が対で施文されている。	DP66 表採 砂粒・スコリア 橙色 普通 (晩期前葉)
2	土偶	(5.5)	(4.9)	(4.1)	(56.1)	5	中空土偶の腕部。上面及び側面に入り組み文、三叉文を施し、部分的に縄文が施文されている。腕端部はラッパ状に開き、刻みが施されている。	DP65 表採 長石・雲母・砂粒 にぶい黄褐色 普通 (晩期前葉)

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徵	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
3	土 偶	(5.8)	(11.1)	(2.7)	(168.3)	70	扁平な板状の土偶で、顔、腕部及び脚部は欠損している。頭頂部が平坦で、頂部から後頭部に小孔が穿たれている。文様は施されていないが、口が横長に削り込まれて表現されている。	DP67 表採 砂粒 にぶい橙色 普通 (晩期)
4	土 偶	(5.9)	(6.9)	(2.9)	(65.2)	20	山形土偶の右肩部分。前面に粘土貼り付けの目、腕に円形刺突文が見られ、肩部に縄文施文の隆帯が見られる。背面は肩部に沈線が施され、腕部は縄文施文、背中也沈線区画の突出部に縄文が施文されている。	DP68 表採 スコリア にぶい褐色 普通 (後期中葉)
5	土 偶	(5.2)	(5.3)	(3.9)	(58.6)	10	山形土偶の左肩部。肩が張り、腕部との境には中央に横刻み状の刺突を施した隆帯が巡り、特に胸部近くは突出する。隆帯あるいは体の線に沿って小刺突を施した沈線が描かれている。	DP69 表採 砂粒・スコリア 灰褐色 普通 (後期中葉)
6	土 偶	(5.5)	(3.9)	(3.5)	(62.5)	10	左脚部。足は突出気味。膝及び足首に小刺突を加えた沈線を複列巡らし、大腿部前面にも彎曲気味の同文様が施され、膝の沈線に連結している。隙間には縄文が施文されているが、脚部内側及び足は無文である。	DP70 表採 砂粒・長石 にぶい褐色 普通 (後期中葉)
7	土 偶	(6.5)	(4.5)	(3.2)	(70.1)	10	みみずく土偶の右脚部。つま先は突出する。沈線による長方形の区画文が前面に描かれ、区画内に縄文施文、外側側面は横方向、つま先から足裏にかけては縦方向の沈線が刻み状に施されている。背面及び内側側面は無文である。	DP71 表採 砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通(晩期後葉)
8	土 偶	(2.5)	(3.2)	(2.6)	(20.2)	5	脚部下位。側面から前面に2段の刺突文が見られるが、背面に文様は施されていない。	DP72 表採 砂粒・長石・スコリア 褐色 普通(後期)
9	土 偶	(4.7)	(3.2)	(1.9)	(22.3)	5	彎曲する脚部。沈線を挟む上下2段の刻文が脚部上位に見られる。欠損のため詳細は不明だが、脚部下位にも同様の文様が施されていたと思われる。	DP73 表採 砂粒 にぶい褐色 普通(晩期)
10	土 偶	(10.4)	(6.6)	(2.8)	(220.0)	60	扁平な板状の土偶胴部。胸部以上及び脚部欠損。前後両面には、3本の垂下する平行沈線を結ぶ沈線がジグザグに施文され、三角形のモチーフが表現されている。区画内は部分的に縄文が施文されている。	DP74 表採 砂粒・長石・雲母 浅黄色 普通 (晩期前葉)
11	土 偶	(5.0)	(3.0)	(2.6)	(26.9)	10	右脚部。つま先は突出する。前面及び背面に垂下する沈線が3本施され、沈線外側には横刻み、つま先にも細かな縦刻みが施されている。	DP75 表採 砂粒・長石 褐色 普通(晩期前葉か)
12	土 偶	(6.6)	(3.4)	(2.6)	(31.2)	10	彎曲する右脚部。つま先は僅かに突出する。前面及び背面にジグザグに垂下する沈線を施文し、前面は無文部分と縄文施文部分を交互に配している。内腿には横刻みが加飾されている。	DP76 表採 砂粒 褐色 普通 (晩期前葉)
13	土 板	(6.8)	(4.0)	(1.5)	(44.3)	30	楕円形を呈すると思われる。直線と曲線を組み合わせた文様を沈線で描いているが、欠損と摩滅のため詳細は不明である。	DP77 表採 砂粒・長石 にぶい橙色 普通(晩期前葉)
14	分銅形土製品	5.0	4.1	3.9	73.3	100	土錘状の土製品 表面に指圧痕	DP78 表採
15	柱状土製品	(6.8)	4.3	4.3	(139.1)	不明	上下 欠損無文で表面の剥離が著しい	DP79 表採
16	土製円板	5.2	5.2	1.2	30.6	100	表面単節縄文LR	DP80 表採
17	土製円板	4.0	4.1	1.1	25.0	100	表面単節縄文LR	DP81 表採
18	土製円板	3.0	3.2	0.9	10.0	100	表面単節縄文RL	DP82 表採
19	土製円板	4.8	4.0	1.2	20.0	100	表面隆起帯縄文間に沈線区画の磨消帯 摩滅が著しい	DP83 表採
第271図20	土製円板	5.4	5.2	1.2	36.6	100	表面条線文	DP84 表採
21	土製円板	4.3	3.7	0.8	13.8	100	表・裏面磨き	DP85 表採
22	土製円板	4.3	4.1	1.1	24.0	100	表面単節縄文を粗く施文	DP86 表採
23	土製円板	5.1	4.1	1.4	25.4	100	表面に口縁部隆起帯縄文と磨消帯	DP87 表採
24	土製円板	4.6	4.3	1.4	27.3	100	表面に口縁部縄文帯と胴部縄文 沈線を結ぶブタ鼻状貼瘤	DP88 表採
25	有孔土器片	(3.6)	(3.6)	1.7	(10.3)	不明	中央に貫通孔 表面単節縄文 円板状だが縁が未調整	DP89 表採
26	不明土製品	3.3	1.0	0.9	2.1	100	基部及び先端が尖る流線形土製品 用途不明	DP90 表採

遺構外出土古銭観察表

図版番号	器種	計測値		初 鑄 年		出土地点	備考
		直径(cm)	重量(g)	時 代	年 号		
第275図7	政和通寶	2.4	2.9	北 宋	1111	E17e区表採	M7

遺構外出土石製品観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第273図1	磨石	2.4	7.2	4.0	413.5	安山岩	Q133 表採
2	磨石	8.3	7.6	4.7	490.5	安山岩	Q134 表採
3	磨石	7.2	7.0	3.1	238.1	安山岩	Q135 表採
4	磨石	6.9	6.5	3.0	276.3	安山岩	Q136 表採
5	磨石	10.8	5.9	3.9	411.1	安山岩	Q137 表採
6	磨石	10.9	6.8	4.6	490.1	安山岩	Q138 敲石兼用 表採
7	磨石	6.1	6.7	3.3	219.3	安山岩	Q139 表採
8	磨石	7.8	6.9	4.5	381.1	安山岩	Q140 表採
9	磨石	7.4	6.4	4.1	(298.9)	安山岩	Q141 敲石兼用 表・裏面に凹み 一部欠損 表採
10	磨石	7.0	5.1	4.9	295.9	安山岩	Q142 敲石兼用 表採
11	磨石	8.3	6.2	3.9	353.4	安山岩	Q143 敲石兼用 表・裏面に凹み 表採
12	敲石	5.5	5.5	5.1	200.9	安山岩	Q144 磨石兼用 表・裏面に凹み 表採
13	敲石	5.6	5.4	4.2	173.4	安山岩	Q145 磨石兼用 表採
14	敲石	8.9	7.8	5.2	380.9	安山岩	Q146 凹石兼用 側面にも2個1対の凹み 表採
第274図15	打製石斧	14.5	7.7	2.0	256.0	泥質片岩か	Q147 分銅形 表面に凝灰岩付着 表採
16	打製石斧	(9.2)	6.9	1.7	(106.4)	砂岩	Q148 分銅形 一部欠損 表採
17	打製石斧	(10.4)	6.7	2.0	(121.2)	砂岩	Q149 分銅形 1/4欠損 表採
18	局部磨製石斧	13.4	5.9	2.9	280.9	砂岩	Q150 表採
19	磨製石斧	15.0	6.0	4.1	519.4	泥岩	Q151 乳棒状 刃部欠損後再利用 表採
20	磨製石斧	(7.0)	(5.5)	(3.4)	(203.1)	緑泥片岩	Q152 定角式 刃部欠損後基部敲石として再利用 表採
21	打製石斧	9.5	5.2	2.2	119.5	砂岩	Q153 撥形 表採
22	磨製石斧	7.7	4.2	2.2	(97.3)	安山岩	Q154 擦切か 一部欠損 表採
23	磨製石斧	(7.4)	5.7	2.8	(198.1)	凝灰岩	Q155 定角式 基部欠損 表採
24	磨製石斧	7.4	4.3	2.0	87.7	流紋岩	Q156 定角式 一部欠損 表採
25	磨製石斧	(10.4)	4.3	2.3	(168.6)	閃緑岩	Q157 定角式 刃部欠損 表採
26	磨製石斧	(5.1)	4.5	2.7	(91.1)	安山岩	Q158 定角式 刃部欠損 表採
27	磨製石斧	(4.3)	2.3	1.5	(18.8)	蛇紋岩	Q159 一部欠損 表採
第275図28	石剣	(20.1)	(3.6)	1.6	(226.6)	緑泥片岩	Q160 有頭 欠損品 表採
29	石剣	(17.0)	3.7	1.9	(192.3)	緑泥片岩	Q161 欠損品 表採
30	石剣か	(19.0)	4.2	2.5	(242.0)	緑泥片岩	Q163 欠損品 表採
31	石剣	(9.2)	3.7	1.4	(98.5)	緑泥片岩	Q162 欠損品 表採
32	原石	4.8	6.9	1.5	58.3	メノウ	Q165 表採
33	原石	8.5	11.3	5.2	464.4	黒曜石	Q164 母岩か 表採
34	石鍋	径(17.2) 高さ(4.5)			(107.8)	滑石	Q166 鋳付き 内面に小孔6か所 欠損品 表採
35	磨製石斧	15.0	5.6	3.3	481.9	凝灰岩	Q168 定角式 表採
36	石鏃	3.4	2.0	0.4	1.7	チャート	Q169 凹基無茎鏃 表採
37	石鏃	2.3	1.7	0.3	0.9	チャート	Q170 凹基無茎鏃 表採
38	石錐	3.6	1.7	1.2	4.6	メノウ	Q171 表採
39	管状石製品	3.3	1.7	—	13.6	滑石	Q32 径0.7cmの通孔 SI-108付近 表採

遺構外出土鉄製品観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第275図1	短刀	(27.0)	3.4	0.8	(160.2)	90	SI-107付近表採	M1 刀身部先端欠損 木質付着 中茎長6.2cm 中茎に径0.3cmの目釘穴
2	短刀	(23.4)	2.8	1.2	(141.6)	80	SI-107付近表採	M2 刀身部先端及び中茎尻欠損 木質付着 中茎(2.5)cm
3	不明鉄製品	13.7	0.8	—	13.9	100	表採	M4
4	刀子	(15.9)	2.4	0.5	(38.9)	30	C16b ₄ 区表採	M3 刀身部先端及び中茎尻欠損 木質一部付着 中茎(2.8)cm
5	不明鉄製品	(5.6)	2.2	0.7	(17.0)	不明	表採	M5
6	鉄滓	3.3	3.5	—	24.9	100	表採	M6

茨城県教育財団文化財調査報告第116集
伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 2
前田村遺跡 C・D・E 区
(上 巻)

平成 9 (1997) 年 3 月 19 日印刷

平成 9 (1997) 年 3 月 25 日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310 水戸市見和 1 丁目 356 番地の 2
T E L 029-225-6587

印刷 株式会社高野高速印刷
〒310 水戸市東原 2-8-1
T E L 029-231-0989